

SETSUNAN UNIVERSITY
SYLLABUS

2017 経済学部 授業計画
経済学科

經 濟 学 部

(学部略号：W)

Faculty of Economics

経済学科

(学科略号：W)

Department of Economics

◎教育研究上の目的

経済学を基礎として幅広い見識と豊かな人間性を有し、現代の経済社会の諸問題に積極的に取り組むことのできる知的・専門的経済人を養成する。

◎ディプロマ・ポリシー(DP:卒業認定・学位授与の方針)

本学科の課程を修め、所定の単位を修得したうえで、次の要件を満たした者に学士（経済学）の学位を授与します。

■知識・理解

[DP1] 人文・社会・自然系などからなる教養および基礎科目を修得し、現代経済学の基礎理論を修得するための基礎知識を身につけている。（専門科目学習の前提となる教養に関する知見）

[DP2] 経済社会が直面している問題の解決に取り組むことができる経済学の知識を有している。（応用問題対応力）

■思考・判断

[DP3] 経済学の専門知識を習得し、経済学的思考に基づき現代の経済社会が抱える課題について、合理的に問題を解決することができる。（応用問題対応力・解決力）

[DP4] 他人の意見に耳を傾け、これらを取り入れることにより、多面的な思考を持った議論を行うことができる。（コミュニケーションおよびディスカッション能力）

■関心・意欲・態度

[DP5] 経済社会で起きている現象に興味を抱き、新聞・書籍などから積極的に情報を得ることができる。（能動性および主体性）

[DP6] 経済学の知識を基に、国内外のフィールド調査に取り組むことができる。（能動性および主体性）

[DP7] 幅広い教養と倫理観、人間性に関して理解し、人々に接することができる。（コミュニケーション能力）

■技能・表現

[DP8] ICT、論理的なコミュニケーションおよびプレゼンテーション力を身につけている。（論理的思考力およびプレゼンテーション能力）

[DP9] 職業人・生活者として自立するとともに、経済活動を通じて社会の発展に貢献できる。（社会に対する観察力・能動性）

◎カリキュラム・ポリシー(CP:教育課程編成・実施の方針)

ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成するため、次のとおり教育課程を編成・実施します。

■知識・理解

①幅広い見識と豊かな人間性を涵養しながら、現代社会の諸問題に積極的に取り組むこと

ができる知的・専門的能力を養うため、専門科目、基礎科目、教養科目およびキャリア形成科目を組み合わせ配置する。

②経済学の基礎理論を学習する際に、ミクロ経済学・マクロ経済学などの経済学を学ぶうえで不可欠な必修科目と、簿記・金融論などの専門分析のための選択科目とを配置する。

③専門領域を重点的に学ぶため、2年次からの「地域経済」「観光経済」「国際経済」の3領域において、それぞれの領域に応じた専門科目を配置する。

■思考・判断

④論理的思考の修得を図るため、講義や演習の授業において、適宜、レポートなどを課す。

⑤少人数授業における報告発表・討論を通じて、人の意見に耳を傾け、これらを取り入れながら議論を深め、適切な判断力を養うために、「基礎演習」に始まり「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」「卒業研究」と続く演習科目を配置する。

■関心・意欲・態度

⑥経済社会で起きている現象を研究テーマに選び、その研究に必要な情報収集方法を身につけるため、「基礎演習」「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」「卒業研究」を全員必修の科目として配置する。

⑦フィールド調査やインターンシップを通して主体的に行動できる力を養うため、「基礎演習」「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」「卒業研究」の必修科目およびコースごとに設けている「実践演習」という選択科目を配置する。

⑧経済社会に関心を持ち、ゼミ内でその諸問題について他者に配慮しながら双方向の議論を行うことができるようにするため、少人数制の「基礎演習」「専門演習Ⅰ」「専門演習Ⅱ」「卒業研究」を配置する。

■技能・表現

⑨議論の経験を通してコミュニケーション能力を高め、また報告・発表を通してプレゼンテーション能力を高めるため、演習系科目を配置する。

⑩語学力・情報リテラシーの基礎を学ぶため、これらの基礎科目を配置し、それらをより高度な次元に昇華させるため、演習系科目を配置する。

◎アドミッション・ポリシー(AP:入学者受入れの方針)

本学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを理解し、次に掲げる知識・技能・意欲などを備え、入学後は学修・課外活動に主体的に取り組む人を求めます。

■知識・理解

①経済学部で学ぶ諸科目の前提となる、「国語」、「英語」、「地理歴史」、「公民」、「数学」など、高等学校の教育課程を幅広く修得し、基礎的素養を有している。

■思考・判断

②資料や文章を読解し自分の考えを適切に表現するための論理的な思考力を身につけている。

③資料を数理的に捉えて理解し分析するための基礎的な思考力を身につけている。

■関心・意欲・態度

- ④経済や社会のニュースに関心があり、これらに対する探究心を持っている。
- ⑤人と議論を交わし、他人の意見を尊重し、価値観や文化の多様性を受け入れることができる。
- ⑥課外活動やボランティア活動に、他者と協働して、主体的に取り組んだ経験がある。

■技能・表現

- ⑦聞く・話す・読む・書くという基礎的なコミュニケーション能力を身につけている。

入学者選抜の実施にあたっては、学力試験、適性検査をはじめとして、大学入試センター試験、面接、学修計画書、小論文、高等学校調査書、英語ほかの資格検定試験の結果などを入試毎に組み合わせて評価します。

授 業 計 画

科目名	担当者	ページ
ア		
アジア経済史	牧野 邦 昭	11
アメリカ経済・文化論	朝田 康 禎	12
イ		
EU経済論	久保 廣 正	13
インターンシップ I	石井 三 恵	493
インターンシップ II	石井 三 恵	494
エ		
英語 I a	岩永 道 子	205
英語 I a	藪井 恵美子	206
英語 I a	近藤 未 奈	207
英語 I a	中野 華 子	209
英語 I a	松木園 久 子	210
英語 I a	近藤 未 奈	212
英語 I a	俣野 裕 美	213
英語 I a	山本 尚 子	215
英語 I a	山本 尚 子	351
英語 I b	岩永 道 子	216
英語 I b	藪井 恵美子	217
英語 I b	近藤 未 奈	218
英語 I b	中野 華 子	220
英語 I b	松木園 久 子	221
英語 I b	近藤 未 奈	223
英語 I b	俣野 裕 美	225
英語 I b	山本 尚 子	227
英語 I b	山本 尚 子	352
英語 II a	谷脇 康 子	228
英語 II a	俣野 裕 美	229
英語 II a	高橋 章 夫	232
英語 II a	ダンカン ホワイト	233
英語 II a	東野 厚 子	235
英語 II a	中本 明 子	237
英語 II a	クリスティー ジョンソン	239
英語 II b	谷脇 康 子	241
英語 II b	俣野 裕 美	242
英語 II b	高橋 章 夫	245
英語 II b	ダンカン ホワイト	246
英語 II b	東野 厚 子	248
英語 II b	中本 明 子	250
英語 II b	クリスティー ジョンソン	252
英語 II b	金原 真由美	353
英語 II c	谷脇 康 子	355
英語 II c	俣野 裕 美	356
英語 II c	高橋 章 夫	359
英語 II c	ダンカン ホワイト	360
英語 II c	東野 厚 子	362
英語 II c	中本 明 子	364
英語 II c	クリスティー ジョンソン	366
英語 II d	金原 真由美	368

科目名	担当者	ページ
英語基礎会話 a	ジョン カール	254
英語基礎会話 a	ブライアン スレーター	255
英語基礎会話 a	スコット ライリー	256
英語基礎会話 a	ジョセフ シウンシ	258
英語基礎会話 a	アイビス ウィリアム	260
英語基礎会話 a	アレン ニール	261
英語基礎会話 a	スコット ライリー	263
英語基礎会話 a	アレン ニール	265
英語基礎会話 a	アイビス ウィリアム	267
英語基礎会話 a	ダニエル マリンズ	268
英語基礎会話 a	ブルース ライリー	271
英語基礎会話 a	ジョセフ シウンシ	272
英語基礎会話 a	ジョン カール	274
英語基礎会話 a	ブライアン スレーター	275
英語基礎会話 b	ジョン カール	276
英語基礎会話 b	ブライアン スレーター	277
英語基礎会話 b	スコット ライリー	278
英語基礎会話 b	ジョセフ シウンシ	280
英語基礎会話 b	アイビス ウィリアム	282
英語基礎会話 b	アレン ニール	284
英語基礎会話 b	スコット ライリー	285
英語基礎会話 b	アレン ニール	287
英語基礎会話 b	アイビス ウィリアム	289
英語基礎会話 b	ダニエル マリンズ	290
英語基礎会話 b	ブルース ライリー	293
英語基礎会話 b	ジョセフ シウンシ	294
英語基礎会話 b	ジョン カール	296
英語基礎会話 b	ブライアン スレーター	297
エンプロイメントデザイン I	石井 三 恵	496
エンプロイメントデザイン II	石井 三 恵	498
カ		
海外語学研修	齋藤 安以子	298
海外ビジネスインターンシップ	佐井 英 子	370
会計学入門	朴 景 淑	14
会社法	高田 尚 彦	15
開発経済学	内田 勝 巳	16
科学技術教養 A 1	宮本 征 一	371
科学技術教養 C 1	片桐 信	372
科学技術教養 E 1	片田 喜 章	374
科学技術教養 M 1	諏訪 晴 彦	375
科学技術教養 R 1	森山 正 和	377
科学技術教養 T 1	東 武 大	379
科学技術教養 V 1	西村 仁	381
観光学入門	持永 政 人	17
観光学入門	野村 佳 子	18
観光経済実践演習	持永 政 人	19
	野村 佳 子	
観光経済実践演習	朝田 康 禎	20
観光経済論	西川 浩 平	21
観光交通論	牧野 邦 昭	22
観光産業政策論	西川 浩 平	23

科目名	担当者	ページ
観光産業における経営分析	西川 浩平	24
観光産業における経営分析論	西川 浩平	25
観光資源論	牧野 邦昭	26
観光人材論	持永 政人	27
観光ビジネス英語	野村 佳子	28
観光マーケティング論	持永 政人	29
関西経済論	野長瀬 裕二	30
管理会計	朴 景淑	31

キ

基礎演習	久保 廣正	33
基礎演習	平野 泰朗	34
基礎演習	植杉 大	35
基礎演習	内田 勝巳	36
基礎演習	後藤 和子	37
基礎演習	野長瀬 裕二	38
基礎演習	朴 景淑	39
基礎演習	蛭川 雅之	40
基礎演習	持永 政人	41
基礎演習	朝田 康禎	42
基礎演習	郭 進	43
基礎演習	岸田 未来	44
基礎演習	田井 義人	45
基礎演習	名方 佳寿子	46
基礎演習	西川 浩平	47
基礎演習	野口 義直	48
基礎演習	野村 佳子	49
基礎演習	原田 裕治	50
基礎演習	牧野 邦昭	51
基礎演習	田中 鉄二	52
北河内を知る	荻田 喜代一	383
キャリアデザイン	水野 武	500
キャリア特別講義	郭 進	501
キャリアプラン	水野 武	502
教育課程論	大野 順子	515
教育経営論	朝日 素明	517
教育原理	小山 裕樹	519
教育実習Ⅰ	朝日 素明	521
教育実習Ⅱ	朝日 素明	522
教育実習Ⅲ	朝日 素明	523
教育社会学	大野 順子	524
教育心理学	吉田 佐治子	526
教育相談	吉田 佐治子	527
教育方法論	林 茂樹	528
教職実践演習(中・高)	吉田 佐治子	530
教師論	朝日 素明	532
行政法	金谷 重樹	53
金融論	植杉 大	54

ク

グローバルな視点から異文化共生を考える	糟谷 英之	384
---------------------	-------	-----

科目名	担当者	ページ
経営学	岸田 未来	55
経済学入門(エコノミックリテラシー)	後藤 和子	56
経済学入門(エコノミックリテラシー)	植杉 大	57
経済キャリア入門	野村 佳子	503
経済キャリア入門	田井 義人	504
経済思想史	牧野 邦昭	58
経済情報論	岸田 未来	300
経済情報論	牧野 邦昭	301
経済情報論	郭 進	302
経済地理	野口 義直	59
計量経済学	蛭川 雅之	60
ゲーム理論	植杉 大	61
現代ビジネス論	牧 美喜男	385
現代ファイナンス論	蛭川 雅之	62

コ

公益会計論	田井 義人	63
公共経済学	平野 泰朗	65
公共政策論	名方 佳寿子	67
航空産業論	野村 佳子	68
公衆衛生学	小堀 栄子	387
交通経済論	牧野 邦昭	69
国際協力論	内田 勝巳	70
国際金融論	久保 廣正	71
国際経済学入門	野口 義直	72
国際経済学入門	田中 鉄二	74
国際経済実践演習	久保 廣正	75
	内田 勝巳	
	田中 鉄二	
国際経済実践演習	野口 義直	76
国際経済の新動向	田中 鉄二	77
国際経済論	野口 義直	78
国際経済論	田中 鉄二	80
国際投資論	田中 鉄二	81
国際マーケティング論	岸田 未来	82

サ

サービス産業論	西川 浩平	83
財政学	名方 佳寿子	84
産業組織論	蛭川 雅之	85

シ

自然地理学	手代木 功基	388
社会科・公民科教育法Ⅰ	大野 順子	534
社会科・公民科教育法Ⅱ	大野 順子	536
社会科・地歴科教育法Ⅰ	井上 正英	538
社会科・地歴科教育法Ⅱ	井上 正英	540
社会学	武田 祐佳	390
社会経済学Ⅰ	平野 泰朗	86
社会経済学Ⅰ	原田 裕治	88

科目名	担当者	ページ
社会経済学Ⅱ	原 田 裕 治	90
社会保障論	西 川 浩 平	91
就職実践基礎	亀 田 峻 宣	391
就職実践基礎	亀 田 峻 宣	392
就職実践基礎	山 岡 亮 太	393
宿泊産業論	持 永 政 人	92
商法	高 田 尚 彦	93
人文地理学	柴 田 陽 一	394
心理学Ⅰ	山 本 雅 代	395
心理学Ⅱ	山 本 雅 代	396

ス

数学基礎Ⅰ	高 尾 尚 武	303
数学基礎Ⅰ	早 味 俊 夫	304
数学基礎Ⅰ	高 尾 尚 武	305
数学基礎Ⅰ	陽 煜	306
数学基礎Ⅱ	西 脇 純 一	307
数学基礎Ⅱ	早 味 俊 夫	308
数学基礎Ⅱ	早 味 俊 夫	309
数学基礎Ⅱ	陽 煜	310
数的能力開発	永 見 誠 二	506
数的能力開発	山 岡 亮 太	507
スポーツ科学実習Ⅰ	河 瀬 泰 治	311
スポーツ科学実習Ⅱ	河 瀬 泰 治	312

セ

政治学	増 田 知 也	398
政治学概論Ⅰ	増 田 知 也	399
政治学概論Ⅱ	森 康 一	400
青少年育成ファシリテーター養成講座	浅 野 英 一	401
生徒指導論	朝 日 素 明	541
生物学	尾 崎 清 和	402
生命科学入門	大 塚 正 人	403
西洋経済史	岸 田 未 来	94
世界観光事情	朝 田 康 禎	95
世界の政治	森 康 一	405
世界の歴史	村 上 司 樹	406
摂南経済ゲストレクチャー	後 藤 和 子	96
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	一 色 美 博	407
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	荻 田 喜 代 一	408
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	栢 木 紀 哉	409
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	久 保 貞 也	410
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	居 場 嘉 教	411
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	橋 本 正 治	412
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	水 野 武	413
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	西 之 坊 穂	414
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石 井 信 輝	415
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	石 田 裕 子	416
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	浅 野 英 一	417
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	大 田 住 吉	418
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	鶴 坂 貴 恵	420
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	田 中 賢 太 郎	422

科目名	担当者	ページ
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	藤 林 真 美	423
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	内 部 昭 彦	424
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	尾 山 廣	425
摂南大学PBLプロジェクトⅠ	林 茂 樹	426
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	一 色 美 博	427
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	荻 田 喜 代 一	428
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	栢 木 紀 哉	429
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	久 保 貞 也	430
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	居 場 嘉 教	431
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	橋 本 正 治	432
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	水 野 武	433
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	西 之 坊 穂	434
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	石 井 信 輝	435
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	石 田 裕 子	436
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	浅 野 英 一	437
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	大 田 住 吉	438
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	鶴 坂 貴 恵	440
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	田 中 賢 太 郎	442
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	藤 林 真 美	443
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	内 部 昭 彦	444
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	尾 山 廣	445
摂南大学PBLプロジェクトⅡ	林 茂 樹	446
専門演習Ⅰ	郭 進	97
専門演習Ⅰ	岸 田 未 来	98
専門演習Ⅰ	久 保 廣 正	99
専門演習Ⅰ	原 田 裕 治	100
専門演習Ⅰ	後 藤 和 子	101
専門演習Ⅰ	持 永 政 人	102
専門演習Ⅰ	植 杉 大	103
専門演習Ⅰ	西 川 浩 平	104
専門演習Ⅰ	朝 田 康 禎	105
専門演習Ⅰ	田 井 義 人	106
専門演習Ⅰ	田 中 鉄 二	107
専門演習Ⅰ	内 田 勝 巳	108
専門演習Ⅰ	蛭 川 雅 之	109
専門演習Ⅰ	平 野 泰 朗	110
専門演習Ⅰ	朴 景 淑	111
専門演習Ⅰ	牧 野 邦 昭	112
専門演習Ⅰ	名 方 佳 寿 子	113
専門演習Ⅰ	野 口 義 直	114
専門演習Ⅰ	野 村 佳 子	115
専門演習Ⅰ	野 長 瀬 裕 二	116
専門演習Ⅱ	郭 進	117
専門演習Ⅱ	岸 田 未 来	118
専門演習Ⅱ	久 保 廣 正	119
専門演習Ⅱ	原 田 裕 治	120
専門演習Ⅱ	後 藤 和 子	121
専門演習Ⅱ	持 永 政 人	122
専門演習Ⅱ	植 杉 大	123
専門演習Ⅱ	西 川 浩 平	124
専門演習Ⅱ	朝 田 康 禎	125
専門演習Ⅱ	田 井 義 人	126

科目名	担当者	ページ
専門演習Ⅱ	田中鉄二	127
専門演習Ⅱ	内田勝巳	128
専門演習Ⅱ	蛭川雅之	129
専門演習Ⅱ	平野泰朗	130
専門演習Ⅱ	朴景淑	131
専門演習Ⅱ	牧野邦昭	132
専門演習Ⅱ	名方佳寿子	133
専門演習Ⅱ	野口義直	134
専門演習Ⅱ	野村佳子	135
専門演習Ⅱ	野長瀬裕二	136
専門演習Ⅱ（上級ゼミ）	平野泰朗	137
専門日本語FⅠ	中岡樹里	313
専門日本語FⅡ	中岡樹里	314
専門日本語R	中岡樹里	315

ソ

ソーシャル・イノベーション実務総論	石井三恵	447
卒業研究	郭進	138
卒業研究	岸田未来	139
卒業研究	久保廣正	140
卒業研究	原田裕治	141
卒業研究	後藤和子	142
卒業研究	持永政人	143
卒業研究	植杉大	144
卒業研究	西川浩平	145
卒業研究	朝田康禎	146
卒業研究	田井義人	147
卒業研究	田中鉄二	148
卒業研究	内田勝巳	149
卒業研究	蛭川雅之	150
卒業研究	平野泰朗	151
卒業研究	朴景淑	152
卒業研究	牧野邦昭	153
卒業研究	名方佳寿子	154
卒業研究	野口義直	155
卒業研究	野村佳子	156
卒業研究	野長瀬裕二	157

タ

ダイバーシティとコミュニケーション	石井三恵	449
-------------------	------	-----

チ

地域金融論	植杉大	158
地域経済実践演習	岸田未来	159
地域経済実践演習	後藤和子	160
	平野泰朗	
地域経済実践演習	植杉大	161
地域経済実践演習	田井義人	162
地域経済実践演習	野長瀬裕二	163
地域経済入門	郭進	164
地域経済入門	後藤和子	165
地域産業論	後藤和子	166

科目名	担当者	ページ
地域統合論	原田裕治	167
地域と私	鶴坂貴恵	451
地域の持続的発展	田井義人	168
地域保健医療	田井義人	169
地域連携教育活動Ⅰ	吉田佐治子	453
	朝日素明	
	小山裕樹	
	林茂樹	
地域連携教育活動Ⅱ	吉田佐治子	454
	朝日素明	
	小山裕樹	
	林茂樹	
チームビルディング	水野武	455
地球環境経済	野口義直	171
地誌学	中山穂孝	457
地方財政論	後藤和子	173
地方自治論	田井義人	174
中小企業論	野長瀬裕二	175
地理学Ⅰ	手代木功基	458
地理学Ⅱ	柴田陽一	460

テ

哲学Ⅰ	濱良祐	461
哲学Ⅱ	池田清	463

ト

統計学	田中鉄二	176
統計学	蛭川雅之	177
道德教育の研究	小山裕樹	542
特別活動の理論と方法	林茂樹	544

ニ

日本経済史	野長瀬裕二	178
日本経済論	平野泰朗	180
日本語会話FⅠ	藤原京佳	316
日本語会話FⅡ	藤原京佳	317
日本語会話R	藤原京佳	318
日本国憲法	大仲淳介	464
日本語総合FⅠ	古川由理子	319
日本語総合FⅡ	古川由理子	320
日本語総合R	古川由理子	321
日本語読解FⅠ	中岡樹里	322
日本語読解FⅡ	中岡樹里	323
日本語読解R	中岡樹里	324
日本語表現Ⅰ	丹下暖子	325
日本語表現Ⅰ	松繁弘之	326
日本語表現Ⅰ	丹下暖子	327
日本語表現Ⅰ	松繁弘之	328
日本語表現Ⅱ	久田行雄	329
日本語表現Ⅱ	松繁弘之	330
日本語表現Ⅱ	久田行雄	331
日本語表現Ⅱ	松繁弘之	332

科目名	担当者	ページ
日本語表現作文 F I	中岡樹里	333
日本語表現作文 F II	中岡樹里	334
日本語表現作文 R	中岡樹里	335
日本語文法 F I	中岡樹里	336
日本語文法 F II	中岡樹里	337
日本語文法 R	中岡樹里	338
日本産業史	野長瀬 裕二	182
日本事情 F I	門脇 薫	339
日本事情 F II	梅野将之	340
日本事情 R I	門脇 薫	342
日本事情 R II	梅野将之	343
日本の歴史	赤澤春彦	466

ノ

農業・資源経済学	野口義直	183
----------	------	-----

ハ

犯罪被害者の支援と法的救済	小野晃正	467
---------------	------	-----

ヒ

ビジネスイングリッシュ I	グラント パーミンハム	345
ビジネスイングリッシュ I	マーティン オイクル	346
ビジネスイングリッシュ II	グラント パーミンハム	347
ビジネスイングリッシュ II	マーティン オイクル	348
ビジネスマナー	奥田和子	469
ビジネスマナー I	奥田和子	508
ビジネスマナー II	奥田和子	510

フ

ファイナンシャル・プランニング	植杉 大	185
武道論	横山 喬之	471
プレゼンテーション論	石井三恵	472
プロポーザル・デザイン	北村 浩	474
文化政策論	後藤和子	186

ホ

貿易論	田中鉄二	187
法学入門	大仲淳介	476
簿記原理 I	朴景淑	188
簿記原理 II	朴景淑	190

マ

マーケティングと歴史	武居奈緒子	478
マクロ経済学 I	蛭川雅之	191
マクロ経済学 I	郭 進	192
マクロ経済学 II	郭 進	193

ミ

ミクロ経済学 I	名方佳寿子	194
ミクロ経済学 II	名方佳寿子	195
身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	中沼丈晃	479
民法	大川謙蔵	196

科目名	担当者	ページ
モ		
ものづくりインターンシップ基礎	奥野竜平	481
ものづくりインターンシップ基礎	諏訪晴彦	483
ものづくりインターンシップ実践	奥野竜平	484
ものづくり海外インターンシップ	諏訪晴彦	486

ヤ

役立つ金融知力	陸川富盛	487
---------	------	-----

ラ

ライフサイエンスの基礎	西矢芳昭	489
	青笹 治	
	井尻 貴之	
	居場 嘉教	
	尾山 廣	
	川崎 勝己	
	木村 朋紀	
	中嶋 義隆	
	長田 武	
	西村 仁	
	船越 英資	
	松尾 康光	
	松川 通	
	村田 幸作	

レ

歴史学 II	村上司樹	490
レジャー産業論	持永政人	197

ロ

労働経済学	平野泰朗	198
労働法	前田剛志	200

專 門 科 目

科目名	アジア経済史	科目名(英文)	Asian Economic History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野 邦昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	日本との間で密接な関係を持つアジア各国の経済史に関する基礎的な知識を学ぶ。
到達目標	日本と密接な関係を持つアジアの多様な歴史を学び、異文化を理解すると共にアジアの中で日本がどのように行動すべきかを考えられるようになる。
授業方法と留意点	スライドと配布するプリントを中心に講義を行う一方、各国に関する映像を流すなどして理解の手助けにする。また地図を用いて各国の地理を学ぶ。
科目学習の効果(資格)	観光産業、貿易関係の仕事に必要な知識を身につけられるほか、公務員試験対策にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	イントロダクション	アジアの経済史を学ぶ意味とは、政治と経済との関係	事前：中学や高校で習った地理の知識を復習しておく	事後：授業の復習
2	アジア経済史概説	大まかに現代までのアジアの経済史を解説する	事前：教科書該当箇所の予習	事後：授業の復習
3	韓国	韓国の経済史	事前：教科書該当箇所の予習	事後：授業の復習
4	中国	中国の経済史	事前：教科書該当箇所の予習	事後：授業の復習
5	台湾	台湾の経済史	事前：教科書該当箇所の予習	事後：授業の復習
6	フィリピン	フィリピンの経済史	事前：教科書該当箇所の予習	事後：授業の復習
7	ベトナム	ベトナムの経済史	事前：教科書該当箇所の予習	事後：授業の復習
8	タイ	タイの経済史	事前：教科書該当箇所の予習	事後：授業の復習
9	マレーシア	マレーシアの経済史	事前：教科書該当箇所の予習	事後：授業の復習
10	シンガポール	シンガポールの経済史	事前：教科書該当箇所の予習	事後：授業の復習
11	インドネシア	インドネシアの経済史	事前：教科書該当箇所の予習	事後：授業の復習
12	アジアの経済統合	ASEANの歴史と課題	事前：教科書該当箇所の予習	事後：授業の復習
13	インド	インドの経済史	事前：教科書該当箇所の予習	事後：授業の復習
14	中東	中東の経済史	事前：教科書該当箇所の予習	事後：授業の復習
15	日本とアジア、まとめ	日本とアジアとの経済関係の歴史、全体のまとめ、質問への対応	事後：授業の復習	

関連科目	国際経済論、国際投資論、国際マーケティング論、アメリカ経済・文化論
------	-----------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験 70%、中間レポート 30%
----------	---------------------

学生へのメッセージ	普段から新聞やテレビ等を通じて、日本国内だけでなく外国にも関心を持つようにしてください。また表面的な現象だけに目を奪われず、なぜそうなっているのかを考えるようにしてください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	1号館7階 牧野准教授室(経済学部)
------------	--------------------

科目名	アメリカ経済・文化論	科目名(英文)	Economy and Culture of the U.S.
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	アメリカは世界一の経済大国であるとともに、世界文化の中心地でもあります。そんなアメリカを目指して世界中の観光客がアメリカを訪れており、今やフランスやスペインとともに観光大国と呼ばれるようになったアメリカの状況を、観光客数や観光収支に焦点をあてて説明します。この授業では、アメリカ文化が世界的に魅力を持ち続けている背景を理解し、アメリカ経済をさまざまなデータで客観的に眺め、アメリカ文化と経済について理解を深めます。																																																																		
到達目標	アメリカ文化の概要とそれを支えるアメリカ経済を客観的なデータで把握し、経済と文化の関係を理解できるようになります。																																																																		
授業方法と留意点	レジュメを用いながら講義を行います。																																																																		
科目学習の効果(資格)	アメリカ文化と経済の状況について客観的なデータで説明することができるようになります。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>イントロダクション</td><td>授業概要の紹介</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>2</td><td>アメリカの国土</td><td>国土と州ごとの特徴</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>3</td><td>フロンティア</td><td>アメリカ開拓の歴史と精神</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>4</td><td>ビックビジネス</td><td>ビックビジネスの歴史</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>5</td><td>イノベーション</td><td>イノベーションの土壌と役割</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>6</td><td>IT企業</td><td>IT企業の歴史と発展</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>7</td><td>政治思想(1)</td><td>自由主義と民主主義の考え方</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>政治思想(2)</td><td>共和党と民主党の歴史と考え方</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>9</td><td>政治思想(3)</td><td>現代アメリカの政治と選挙</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>10</td><td>社会経済の特徴(1)</td><td>州と独立精神</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>11</td><td>社会経済の特徴(2)</td><td>リーダーシップとグローバリズム</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>12</td><td>社会経済の特徴(3)</td><td>金融自由化と金融企業</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>13</td><td>アメリカ映画</td><td>アメリカ映画の歴史と発展</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>新しい世代</td><td>ミレニウム世代の特徴</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>授業のまとめ</td><td>ここまでの授業内容の要点</td><td>配布レジュメの復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	授業概要の紹介	配布レジュメの復習	2	アメリカの国土	国土と州ごとの特徴	配布レジュメの復習	3	フロンティア	アメリカ開拓の歴史と精神	配布レジュメの復習	4	ビックビジネス	ビックビジネスの歴史	配布レジュメの復習	5	イノベーション	イノベーションの土壌と役割	配布レジュメの復習	6	IT企業	IT企業の歴史と発展	配布レジュメの復習	7	政治思想(1)	自由主義と民主主義の考え方	配布レジュメの復習	8	政治思想(2)	共和党と民主党の歴史と考え方	配布レジュメの復習	9	政治思想(3)	現代アメリカの政治と選挙	配布レジュメの復習	10	社会経済の特徴(1)	州と独立精神	配布レジュメの復習	11	社会経済の特徴(2)	リーダーシップとグローバリズム	配布レジュメの復習	12	社会経済の特徴(3)	金融自由化と金融企業	配布レジュメの復習	13	アメリカ映画	アメリカ映画の歴史と発展	配布レジュメの復習	14	新しい世代	ミレニウム世代の特徴	配布レジュメの復習	15	授業のまとめ	ここまでの授業内容の要点	配布レジュメの復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	授業概要の紹介	配布レジュメの復習																																																																
2	アメリカの国土	国土と州ごとの特徴	配布レジュメの復習																																																																
3	フロンティア	アメリカ開拓の歴史と精神	配布レジュメの復習																																																																
4	ビックビジネス	ビックビジネスの歴史	配布レジュメの復習																																																																
5	イノベーション	イノベーションの土壌と役割	配布レジュメの復習																																																																
6	IT企業	IT企業の歴史と発展	配布レジュメの復習																																																																
7	政治思想(1)	自由主義と民主主義の考え方	配布レジュメの復習																																																																
8	政治思想(2)	共和党と民主党の歴史と考え方	配布レジュメの復習																																																																
9	政治思想(3)	現代アメリカの政治と選挙	配布レジュメの復習																																																																
10	社会経済の特徴(1)	州と独立精神	配布レジュメの復習																																																																
11	社会経済の特徴(2)	リーダーシップとグローバリズム	配布レジュメの復習																																																																
12	社会経済の特徴(3)	金融自由化と金融企業	配布レジュメの復習																																																																
13	アメリカ映画	アメリカ映画の歴史と発展	配布レジュメの復習																																																																
14	新しい世代	ミレニウム世代の特徴	配布レジュメの復習																																																																
15	授業のまとめ	ここまでの授業内容の要点	配布レジュメの復習																																																																
関連科目	観光学入門、アジア経済・文化論、ヨーロッパ経済・文化論、観光経済論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	2回のレポート(50%)と期末試(50%)による総合評価																																																																		
学生へのメッセージ	勉強はただ講義を聞くことだけではありません。授業に関して自分の調べたことを発表することで、より理解が深まります。授業の中で受講生による発表の機会を設けますので、積極的に参加してください。																																																																		
担当者の研究室等	1号館7階 朝田准教授室(経済学部)																																																																		
備考																																																																			

科目名	EU経済論	科目名(英文)	EU Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保 廣正
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	1950年代に始まったEU(欧州連合)統合は、1999年に共通通貨ユーロを導入した。また、21世紀に入ると中東欧を中心とする諸国が加盟を果たし、EUは28ヶ国からなる体制を形成した。こうした「深化」と「拡大」を続けた結果、EUは国際経済・国際金融、さらには国際政治面で一段とその重要性を高めてきた。このように順調に進展してきたかにみえたEU経済であるが、2008年夏以降、ユーロ危機、経済金融危機に見舞われている。また、至近時点では、中東諸国からの難民が流入するようになっている。本講義では、こうしたEUの動きを解説し、分析することを目的とする。
到達目標	本講義の目標は、上記のようなEUの動きを分析することにより、それらの内容を理解し、EUの諸政策が国際経済、あるいは日本経済に及ぼす影響を理解することにある。
授業方法と留意点	ダイナミックに変化しつつあるEU経済について分析するため、日頃から新聞・雑誌などの国際経済欄を丁寧に読んでおくことが望ましい
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	EU経済概観	EU経済の特徴について概説する。	授業の復習
2	EU統合の歴史	欧州石炭鉄鋼共同体の形成から現代のEUまで、その歴史を振り返る。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習	
3	EU諸機関の役割と意思決定プロセス	欧州委員会、欧州議会、欧州理事会、EU理事会及び欧州司法裁判所の役割について紹介する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習	
4	通貨統合Ⅰ	欧州通貨制度(EMS)など、為替レート安定化への試みを紹介する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習	
5	通貨統合Ⅱ	ユーロ導入と欧州中央銀行の役割を論じる。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習	
6	通貨統合Ⅲ	ギリシャ危機、ユーロ危機について論じる。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習	
7	産業競争力政策	EUの産業競争力政策について紹介する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習	
8	EUの高等教育政策	EUによる大学教育政策について紹介する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習	
9	共通通商政策	EUの貿易・通商政策及びその効果・影響について論じる。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習	
10	社会労働政策	EUがどのような社会を目指しているのかについて紹介する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習	
11	地球温暖化対策	EUが環境に影響を及ぼす温室効果ガスなどをいかに抑制しようとしているかを論じる。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習	
12	EU拡大とEUの改革	EUがどこまで拡大するのか、そのためにはどのような改革が必要かを論じる。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習	
13	EU経済の将来	EUが目指そうとしている方向性を論じる。また、併せ、イギリスのEU脱退論についても紹介する。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習	
14	EUと日本	日・EU関係を振り返り、至近時点での動きを紹介する。日・EU経済連携協定についても触れる。	事前：教材の当該箇所の予習 事後：授業の復習	
15	まとめ	まとめをし、質問があれば答える。	事前：教材全体の復習 事後：全体の講義を参考に繰り返し復習する。	

関連科目	地域統合論、国際金融論
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	中間試験(20%)と定期試験(80%)で評価する。
学生へのメッセージ	EUのみならず、国際経済の動きが実感できる講義としたい。
担当者の研究室等	1号館7階 久保教授室
備考	

科目名	会計学入門	科目名(英文)	Introduction to Accounting
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2○, DP3◎, DP4◎, DP5○, DP6△, DP7△, DP8△, DP9△		

授業概要・目的	企業には、株主、投資家、銀行などの債権者、取引先、従業員等、多様な利害関係者がある。この利害関係者に「経営活動結果」を報告するためのプロセスが会計である。この一連のプロセスは法的規制を受けながら、社会的制度として行われている。このような会計制度の基盤となる会計理論が会計学である。会計学入門では、会計とは何か、会計と企業との係わり、会計の種類などを初心者向けに概説する。会計学の基礎理論を修得することによって、【簿記原理Ⅰ・Ⅱ】「管理会計」など経営関連科目の基礎を構築することを目標とする。
到達目標	会計学の意義および会計(簿記)の基本的な用語を理解すること。また、簿記全体のプロセスがわかり、基本的な会計帳簿の作成が可能となることを本授業の到達目標とする。
授業方法と留意点	授業はパワー・ポイントと板書を並行する。必ず筆記の用意をすること。
科目学習の効果(資格)	本授業は経営分野すべての基礎である会計学の基礎知識の習得が可能な内容である。また、日商簿記・税理士・会計士・中小企業診断士、FP、SA等経営会計関連資格の基礎科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、講義概要	授業の進め方、15回の授業概要の説明	学期中の授業の流れを把握できること
2	会計学とは	会計学のフレームワークを説明、会計の分類および会計学における簿記の位置づけ等を述べる	レポート・演習・Quizテスト
3	簿記とは、複式簿記の意義	簿記の意義、複式簿記、簿記を学ぶメリット	レポート・演習・Quizテスト
4	決算書(財務諸表)	重要な財務諸表である貸借対照表と損益計算書の形式と読み方などについて学習する	レポート・演習・Quizテスト
5	簿記の5要素	資産・負債・資本(純資産)と費用・収益	レポート・演習・Quizテスト
6	簿記の全体的流れ	取引の記録から決算までの全体的な流れをみる(仕訳・転記・決算書(財務諸表)の作成までのプロセス)	レポート・演習・Quizテスト
7	資産・負債・資本Ⅰ	「貸借対照表(財務状態を示す決算書)」の構成要素である「資産」「負債」「資本」の意義および、各グループには、どんな勘定科目があるのかについて学習する	レポート・演習・Quizテスト
8	資産・負債・資本Ⅱ	「貸借対照表(財務状態を示す決算書)」の構成要素である「資産」「負債」「資本」の意義および、各グループには、どんな勘定科目があるのかについて学習する	レポート・演習・Quizテスト
9	資産・負債・資本Ⅲ	「貸借対照表(財務状態を示す決算書)」の構成要素である「資産」「負債」「資本」の意義および、各グループには、どんな勘定科目があるのかについて学習する	レポート・演習・Quizテスト
10	収益・費用Ⅰ	「損益計算書(経営成績を表す決算書)」の構成要素である「収益」と「費用」の勘定科目について学習する	レポート・演習・Quizテスト
11	収益・費用Ⅱ	「損益計算書(経営成績を表す決算書)」の構成要素である「収益」と「費用」の勘定科目について学習する	レポート・演習・Quizテスト
12	仕訳のルールⅠ	仕訳とは、仕訳のルール、仕訳の手続き(資産・負債・資本項目)	レポート・演習・Quizテスト
13	仕訳のルールⅡ	仕訳の手続き(収益・費用項目)	レポート・演習・Quizテスト
14	転記のルール	仕訳の結果を、各勘定科目元帳へ転記する手続きを学習する	レポート・演習・Quizテスト
15	まとめ	14回の授業のまとめと質疑応答	レポート

関連科目	「財務管理Ⅱ」「原価管理Ⅰ・Ⅱ」の基礎となる科目である。
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	平常点40%(授業中行うQuiz test、レポート、授業への参与度などを総合的に評価)、定期試験60%
----------	--

学生へのメッセージ	本授業は内容が続いているので、授業内容の理解のためには欠席せず授業に参加することが大事。 ※「簿記原理Ⅰ・Ⅱ」、「管理会計」を履修予定の場合は、本科目を履修しておくことを勧める。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館7階 朴教授室(経済学部)
------------	------------------

科目名	会社法	科目名(英文)	Corporate Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高田 尚彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	会社法では、各種会社のうち株式会社を中心に会社法の講義を行います。株式会社の設立、株式、株式会社の機関について、その基本的な制度および概念を理解することに主眼を置き、理解しやすいように具体例を示しながら解説します。もちろん、法律科目であるから、条文についても適宜参照し、理解を深めることができるように説明を行います。
到達目標	会社法における各種会社の概念を理解し、その構成員たる社員の責任について異同点を理解する。 そのうえで、株式会社における株主の権利や会社の機関とその役割について理解する。 その際には、必ず条文を確認して、理解するように努めること。
授業方法と留意点	会社法の教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果(資格)	会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験(法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など)の対策となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	株式会社の設立	株式会社の設立総論、設立手続、設立の無効。	教科書 p. 20～p. 36 を読んでおくこと。
3	株式(1)	株式総論、株主名簿、株式の譲渡。	教科書 p. 37～p. 47 を読んでおくこと。
4	株式(2)	自己株式、株式の併合・分割・無償割当て、単元株式数、募集株式の発行、株券。	教科書 p. 47～p. 60 を読んでおくこと。
5	新株予約権	新株予約権の意義、新株予約権原簿、新株予約権の譲渡。	教科書 p. 60～p. 66 を読んでおくこと。
6	株式会社の機関(1)	株式会社の機関総論、株主総会、種類株主総会。	教科書 p. 66～p. 83 を読んでおくこと。
7	株式会社の機関(2)	役員等の選任および終任、取締役、取締役会、会計参与、監査役・監査役会、会計監査人。	教科書 p. 83～p. 114 を読んでおくこと。
8	株式会社の機関(3)	指名委員会等設置会社、監査等委員会設置会社、役員等の責任、株主の差止請求権、株主代表訴訟、多重代表訴訟。	教科書 p. 114～p. 146 を読んでおくこと。
9	計算、定款の変更、解散、清算	会計帳簿、計算書類、資本金と準備金、剰余金の配当、定款の変更、解散原因、解散の効果、通常清算、特別清算。	教科書 p. 147～p. 164 を読んでおくこと。
10	持分会社	持分会社の設立、社員、計算等。	教科書 p. 165～p. 183 を読んでおくこと。
11	社債	社債の種類、社債の発行、社債権者の権利、社債権者集会。	教科書 p. 184～p. 194 を読んでおくこと。
12	組織再編(1)	組織再編総論、合併の手続き、簡易合併、合併無効の訴え、合併対価の柔軟化、会社分割の意義、吸収分割と新設分割、分割手続、会社分割無効の訴え。	教科書 p. 195～p. 213 を読んでおくこと。
13	組織再編(2)	株式交換の意義、手続、株式交換の無効の訴え、株式移転の意義、手続、株式移転の無効の訴え、事業譲渡、事業の譲受け。	教科書 p. 213～p. 221 を読んでおくこと。
14	外国会社・雑則	外国会社、会社の解散命令、公告。	教科書 p. 222～p. 230 を読んでおくこと。
15	会社法まとめ	会社法総括。	会社法で学習したことを見直しておくこと。

関連科目	民法、商法。
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新会社法の基礎(第3版)	加藤徹・相原隆・伊勢田道仁編	法律文化社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	原則として、定期試験の結果によって評価する。 その他講義中の発言も加味する。
----------	---

学生へのメッセージ	会社法は、条文が多く複雑な印象を受けますが、理解が進むにつれて経済に深く関わる新聞記事も理解できるようになってきます。積極的に授業に参加し、基本的知識を習得してください。最新版六法を必携のこと。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館6階 法学部事務室
----------	---------------

備考	授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.iij4u.or.jp まで、件名に科目名を入れて送信すること。
----	---

科目名	開発経済学	科目名(英文)	Development Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	内田 勝巳
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○, DP9○		

授業概要・目的	本授業は、世界の大多数を占める開発途上国の実態を理解し、経済開発理論を学ぶことにより、途上国問題を解決するための処方箋を考えることを目的とする。
到達目標	途上国の開発に関する経済理論・実態・政策を有機的に捉え考察する力を身につけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	基本的に教科書に沿って、開発の課題、開発理論、課題への処方箋を紹介し、開発問題への取り組みについて考察を行う。
科目学習の効果(資格)	国際開発関係の仕事に従事する上での経済学的基礎知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	貧困と不平等	途上国の貧困をどのように捉えるかについて解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
2	二重構造と労働移動	途上国の労働市場の二重経済論と労働移動について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
3	経済成長	経済成長を説明するモデルについて解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
4	人的資本	人口の規模や質(1人当たりの能力)と経済発展の関係について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
5	貿易	国際貿易と途上国の経済発展の関係について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
6	海外直接投資	外国資本の流入と途上国の経済発展との関係について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
7	技術	途上国への技術移転と経済成長の関係について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
8	産業連関	経済成長に伴う産業構造の変化と生産波及効果について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
9	制度	植民地支配による途上国の制度の形成と経済発展経路について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
10	貧困削減戦略	戦後の開発経済理論と途上国の貧困削減戦略について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
11	政府開発援助	政府開発援助の必要性・援助協調について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
12	農村金融	途上国の農業・農村の組織・制度と金融取引の特徴について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
13	マクロ経済安定化	途上国のマクロ不均衡と安定化政策について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
14	経済統合	経済統合と産業立地について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習
15	環境・障害	環境制約の下での開発、障害と開発のあり方について解説する	前回の復習と課題の提出 教科書による事前・事後学習

関連科目	国際協力論
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	テキストブック開発経済学(第3版)	黒岩郁雄・高橋和志・山形辰史	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	ストーリーで学ぶ開発経済学	黒崎卓・栗田匡相	有斐閣
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験70%、授業での課題提出及び授業態度30%の割合で総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	今、私たちが生きている世界には様々な問題が山積しています。開発経済学は、これらの問題を理解し解決策を見出すための糸口を与えてくれます。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 内田教授室(経済学部)
----------	-------------------

備考	事前学習・事後学習各時間程度
----	----------------

科目名	観光学入門	科目名(英文)	Basics to Tourism Studies
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ABCDEFGHIJ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	少子高齢化の時代を迎え、交流人口の増加を期待される観光は日本の重要政策に位置づけられ、今後ますますその必要性が高まってくると考えられます。この授業では観光経済を学ぶうえでの観光の基礎知識を習得することを目的とします。
到達目標	観光振興の意義を理解し、観光現象について書かれた記事や文献を理解できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。
科目学習の効果(資格)	観光経済を学ぶ上での基礎知識の習得

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	観光の歴史Ⅰ	観光の世界史・日本史を講義する。(古代～近世)	事後：配布資料の復習
3	観光の歴史Ⅱ	観光の世界史・日本史を講義する。(近代～現代)	事後：配布資料の復習
4	観光と行動	観光行動の形と仕組みについて考える。	事後：配布資料の復習
5	観光と経済Ⅰ	観光の持つ経済的なインパクトを理解する。	事後：配布資料の復習
6	観光と経済Ⅱ	経済の一般理論と観光市場の関係について理解する。	事後：配布資料の復習
7	観光と観光情報	観光における情報の重要性を理解する。	事後：配布資料の復習
8	観光と交通	交通が観光に果たす役割を考える。	事後：配布資料の復習
9	観光と観光資源	観光資源の特徴と要件を理解する。	事後：配布資料の復習
10	観光と観光施設	観光施設の区分とそれぞれの役割について理解する。	事後：配布資料の復習
11	観光産業Ⅰ	旅行業の役割とこれからのあり方を講義する。	事後：配布資料の復習
12	観光産業Ⅱ	航空産業の特徴と役割について講義する。	事後：配布資料の復習
13	観光産業Ⅲ	宿泊産業の特徴と役割について講義する。	事後：配布資料の復習
14	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする。	事後：配布資料の復習
15	新しい観光と観光政策	新しい観光のあり方と課題は何か、また観光立国を推進する国の観光政策について講義する。	事後：配布資料の復習

関連科目	経済キャリア入門、観光人材論、観光マーケティング論
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験50%、小テスト30%(2回)、その他(課題提出等)を総合的に評価します。
----------	---

学生へのメッセージ	観光はさまざまな形でニュースや記事にとりあげられています。普段から時事問題にも注意をしておいてください。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室(経済学部)
備考	

科目名	観光学入門	科目名(英文)	Basics to Tourism Studies
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	I J K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	少子高齢化の時代において、交流人口増加による地域の活性化が期待できるのが観光です。国を挙げて訪日外国人観光客誘致に取り組むなど、観光は日本にとって重要な政策と位置づけられており、今後さらに重要性を増していくものと考えられます。この授業では観光経済を学ぶうえでの観光の基礎知識を習得することを目的とします。
到達目標	観光振興の意義を理解し、観光現象について書かれた文献や記事の内容を理解できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。
科目学習の効果(資格)	観光経済を学ぶ上での基礎的な知識の習得。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要と進め方および観光がなぜ注目されているのかについて講義する	事後：配布資料の復習
2	観光と観光学	観光の定義、観光の意義を講義する	事後：配布資料の復習
3	観光の歴史	観光の世界史・日本史を講義する	事後：配布資料の復習
4	観光と情報	観光と情報のかかわりについて講義する	事後：配布資料の復習
5	観光と環境	観光が自然や環境といかに関わっていくべきかについて講義する	事後：配布資料の復習
6	観光と観光対象 (1)	観光の対象について講義する	事後：配布資料の復習
7	観光と観光対象 (2)	観光の対象について講義する	事後：配布資料の復習
8	観光と経済	観光の持つ経済的なインパクトを理解し、経済の理論で観光の市場を考える	事後：配布資料の復習
9	観光と地域社会	観光と地域社会のつながりについて講義する	事後：配布資料の復習
10	観光と旅行業	旅行業の役割とこれからのあり方について講義する	事後：配布資料の復習
11	観光と交通	観光における交通の特徴と役割について講義する	事後：配布資料の復習
12	観光と宿泊業	宿泊産業の特徴と役割について講義する	事後：配布資料の復習
13	観光地事例研究	著名な観光地を取り上げて講義する	事後：配布資料の復習
14	新しい観光の形	最近注目されている新しい観光について講義する	事後：配布資料の復習
15	現代観光の課題と観光政策 まとめと補足	日本の観光が持つ課題と観光政策について講義する 講義全体を通してのまとめと補足をを行う	事後：配布資料の復習

関連科目	経済キャリア入門
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(50%)と課題・小テスト・参加態度等の平常点(50%)を総合的に評価します。
----------	---

学生へのメッセージ	観光に関するトピックスは頻繁にニュースや記事に取り上げられています。普段から時事問題にも注意をしておいてください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 野村准教授室 (経済学部)
----------	---------------------

備考	
----	--

科目名	観光経済実践演習	科目名 (英文)	Practical Seminar on Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	持永 政人・野村 佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本演習では観光関連事業を実際に行っている企業や自治体でのインターンシップ（就業体験）を行うことによって、観光経済に関わる産業・企業等の活動を実践的に研究することを目的とする。																
到達目標	インターンシップをとおして観光関連産業・企業等の実際の活動内容や仕組みを把握、理解する。また同時に就職活動に必要な社会人基礎力を身に付ける。																
授業方法と留意点	インターンシップ派遣に必要な最低限の一般常識とビジネスマナーを身に付けた上で、企業の実務担当者からのレクチャーや広報資料、文献等により派遣先業界、企業の研究を行う。その後4週間程度のインターンシップをとおして実地調査を行い、当該産業、企業についての研究課題報告を作成する。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前授業】 「一般常識」「ビジネスマナー」「観光関連産業研究」「派遣先企業研究」等をインターンシップ派遣の事前授業として行う。</p> <p>【実習先と実習時期（予定）】（いずれも8月～9月に実施） 観光施設：箱根小涌園、アジュール竹芝、帝国ホテル、太閤園、鳥羽小涌園等 地域観光：知床ネイチャーオフィス、奄美大島マングローブ公社等</p> <p>【事後授業】 研究課題報告とプレゼンテーションを行う。</p>																
関連科目	「経済キャリア入門」「観光学入門」「観光マーケティング論」「観光人材論」等																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	「授業への参加態度」「インターンシップ先での評価」「課題報告内容」等を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	事前授業の受講態度によっては派遣を見送ることもある。 夏期休暇中にインターンシップを行うため、その間に他の予定を入れないこと。																
担当者の研究室等	1号館7階 持永・野村研究室																
備考	4月に説明会を実施予定																

科目名	観光経済実践演習	科目名 (英文)	Practical Seminar on Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	この演習では地域における観光経済の実態について観光に関連する企業へのヒアリング調査に参加し、そこで提供される課題に自ら取り組むことで理解を深めることを目的としています。事前学習として調査前に文献・資料講読を行い、事後学習として調査結果の取りまとめを行います。調査企業は2社を予定しています。																		
到達目標	事前・事後学習によって地域の観光経済の動向を理解します。ヒアリング調査によって観光経済の実態を理解し、自ら課題に取り組み、その方法論や姿勢を身につけます。																		
授業方法と留意点	以下の過程で行います。 (1)観光経済に関する事前授業 (2)ヒアリング調査参加 (3)ヒアリング調査結果の整理を行い、レポートにまとめる (4)報告会でのプレゼンテーション																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前授業】 近年の日本の観光経済と関西の観光の動向について講義を行う。次に、グループ分けを行い、訪問先に関する事前調査を行う。</p> <p>【実習先と実習時期】 (5月～11月に予定) 自治体またはアミューズメント施設運営企業を訪問し、そこでの実態や課題についてヒアリング調査を行う。</p> <p>【事後授業】 グループごとに調査結果をまとめ、報告会に向けてプレゼンテーションの準備を行う。</p>																		
関連科目	「観光学入門」「観光マーケティング論」「観光人材論」「世界観光事情」等																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	「事前学習での理解度」「ヒアリング調査結果レポート」「報告会でのプレゼンテーション」を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	この授業は事前学習、ヒアリング調査、事後学習 (報告会) の全てへの積極的な参加が必要となります。																		
担当者の研究室等	1号館7階 朝田准教授室																		
備考	4月に説明会を開きます。																		

科目名	観光経済論	科目名(英文)	Tourism Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西川 浩平
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	観光産業は世界のGDPの11%程度、総雇用の10%程度を担う重要な経済部門となっており、わが国においても、その重要性は高まってきている。本講義では、こうした現状を踏まえ、観光分野における需要、供給、制度について、ミクロ経済理論に基づきながら講義を進める。
到達目標	経済学的思考に基づき、観光分野の動向を理解する能力を養う。
授業方法と留意点	授業は基本的に講義形式で行うが、随時講義中に確認および応用の問題を出す。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	観光経済論を学ぶ意義、講義の進め方、評価について説明する。	講義内容・配布資料の復習。
2	観光とは?	観光の定義、観光産業に含まれる産業の範囲について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
3	観光産業における供給について(1)	観光産業における供給側の重要性を説明する。	講義内容・配布資料の復習。
4	観光産業における供給について(2)	日本の旅行産業を対象に、当該市場の市場構造等について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
5	観光産業における供給について(3)	日本の交通産業を対象に、当該市場の市場構造等について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
6	観光産業における供給について(4)	日本の宿泊産業を対象に、当該市場の市場構造等について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
7	観光産業における供給について(5)	日本の飲食産業を対象に、当該市場の市場構造等について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
8	前半の復習および中間試験	これまでの講義内容を復習し、簡単な試験を実施する。	特になし。
9	観光産業における需要(1)	需要の価格弾力性を用いて、価格と観光客数の関係を学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
10	観光産業における需要(2)	需要の価格弾力性を踏まえたうえで、観光産業における価格差別化について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
11	観光産業における需要(3)	為替レートに着目し、為替レートの変動が観光客数に及ぼす影響について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
12	観光産業における需要(4)	需要の所得弾力性を用いて、所得と観光客数の関係を学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
13	観光産業における需要(5)	観光産業を通じて、製品・サービス差別化について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
14	観光と政策(1)	経済学的にみた観光分野における政府の役割について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。
15	観光と政策(2)	観光産業における規制の効果について学ぶ。	講義内容・配布資料の復習。

関連科目	観光学入門、ミクロ経済学
------	--------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(70%)、中間試験(30%)の得点で評価する。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ	経済に関する情報はテレビや新聞等あらゆるメディアで提供されています。常にアンテナを張って興味・関心のあるテーマを見つけて下さい。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館7階 西川講師室(経済学部)
------------	-------------------

科目名	観光交通論	科目名(英文)	Tourism and Transportation
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野 邦昭
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	観光経済・地域経済・国際経済に欠かせない交通を経済学を用いて分析できるようになることを目標とする。			
到達目標	交通の経営、交通政策に理解を深める。			
授業方法と留意点	教科書に基づきスライドにより講義を行う。			
科目学習の効果(資格)	関係する業界・公務員等の仕事に関心を持つことができる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション、経済学の復習	授業にあたって必要となる経済学の復習	事前：教科書に一通り目を通しておくこと 事後：授業の復習
	2	交通とは何か	交通サービスの特殊性	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	3	交通データの分析	交通のデータの種類、データの見方	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	4	交通の費用	交通の費用の分類とそれによる交通企業の行動の違い	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	5	交通運賃の理論1	どのように交通運賃は決まるのか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	6	交通運賃の理論2	混雑をなくすにはどのような運賃が望ましいか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	7	交通運賃の理論3	ピーク・ロード・プライシングとラムゼイ運賃形成	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	8	交通運賃の政策1	どのように公共交通の運賃は規制されているか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	9	交通運賃の政策2	交通機関における二部料金制度の意味	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	10	規制政策1	交通規制はなぜ存在するのか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	11	規制政策2	規制緩和の経済理論	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	12	交通投資	交通機関を整備した結果はどのように評価されるか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	13	外部補助と内部補助	交通機関の赤字はどのように埋められるべきか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	14	交通ネットワーク1	ネットワークとしての交通を考慮に入れた場合、これまでの議論はどのように修正されるか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	15	交通ネットワーク2、まとめ	ネットワークの重要性と、総合的な交通政策の必要性	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
関連科目	観光経済論、観光資源論、航空産業論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	交通経済学入門	竹内健蔵	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	定期試験70%、レポート30%で評価する。			
学生へのメッセージ	日頃よく使う交通について、経済学を用いて考えられるようにしましょう。			
担当者の研究室等	1号館7階 牧野准教授室(経済学部)			
備考				

科目名	観光産業政策論	科目名(英文)	Policies for Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 浩平
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	我が国を訪れる外国人観光客は2,000万人を超えたが、2020年の東京五輪に向け、さらなる増大が重要な政策課題となっている。ただし、政府が市場に関与するには、それなりの理由が存在し、理由に応じて関与の仕方も変わってくる。本講義では、経済理論に基づき産業政策が必要とされる根拠を説明し、その上で、どのように関与するのが適切かを講義する。なお、必要に応じて観光産業の事例を紹介する。																																																																		
到達目標	経済学的思考に基づき、我が国および諸外国で行われている産業政策を理解する能力を養う。																																																																		
授業方法と留意点	授業は基本的に講義形式で行うが、随時講義中に確認および応用の問題を出す。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション</td> <td>産業政策を学ぶ意義、講義の進め方、評価について説明する。</td> <td>配布資料の復習をする。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ミクロ経済学の復習</td> <td>需要曲線、供給曲線、消費者余剰、生産者余剰について復習する。</td> <td>講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>政府の市場への介入</td> <td>政府が市場に介入する各種手段について説明する。</td> <td>講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>自然独占(1)</td> <td>完全競争市場と独占市場における企業行動の違いを説明する。</td> <td>講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>自然独占(2)</td> <td>自然独占が生じる理由およびその弊害を説明する。</td> <td>講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>公共財(1)</td> <td>公共財の特性を説明し、公共財の供給において生じるフリーライダー問題について学ぶ。</td> <td>講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>公共財(2)</td> <td>フリーライダーが存在することで、総余剰がどのように変化するかを学ぶ。</td> <td>講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>前半の講義の復習および中間試験</td> <td>これまでの講義の内容を復習し、簡単な試験を実施する。</td> <td>特になし。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>外部性のある経済活動(1)</td> <td>私的限界費用と社会的限界費用の概念を用いて、外部性が生じる理由および、その影響について学ぶ。</td> <td>講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>外部性のある経済活動(2)</td> <td>外部性への対応策であるビグー税と数量規制について学ぶ。</td> <td>講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>情報の不完全性(1)</td> <td>情報が不完全な市場において、市場取引がどうなるかを学ぶ。</td> <td>講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>情報の不完全性(2)</td> <td>情報が不完全な市場におけるシグナリング、逆選択といった現象について学ぶ。</td> <td>講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>市場支配力(1)</td> <td>独占禁止法の内容を理解し、カルテル・談合が引き起こす経済的損失および企業がカルテル・談合を維持するインセンティブについて学ぶ。</td> <td>講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>市場支配力(2)</td> <td>再販売価格維持において言及される二重の限界かについて学ぶ。</td> <td>講義内容を復習する。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>観光分野に対する政策</td> <td>これまで学んできた産業政策が、観光分野に対して有効かを検討する。</td> <td>講義した内容について復習する。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション	産業政策を学ぶ意義、講義の進め方、評価について説明する。	配布資料の復習をする。	2	ミクロ経済学の復習	需要曲線、供給曲線、消費者余剰、生産者余剰について復習する。	講義内容を復習する。	3	政府の市場への介入	政府が市場に介入する各種手段について説明する。	講義内容を復習する。	4	自然独占(1)	完全競争市場と独占市場における企業行動の違いを説明する。	講義内容を復習する。	5	自然独占(2)	自然独占が生じる理由およびその弊害を説明する。	講義内容を復習する。	6	公共財(1)	公共財の特性を説明し、公共財の供給において生じるフリーライダー問題について学ぶ。	講義内容を復習する。	7	公共財(2)	フリーライダーが存在することで、総余剰がどのように変化するかを学ぶ。	講義内容を復習する。	8	前半の講義の復習および中間試験	これまでの講義の内容を復習し、簡単な試験を実施する。	特になし。	9	外部性のある経済活動(1)	私的限界費用と社会的限界費用の概念を用いて、外部性が生じる理由および、その影響について学ぶ。	講義内容を復習する。	10	外部性のある経済活動(2)	外部性への対応策であるビグー税と数量規制について学ぶ。	講義内容を復習する。	11	情報の不完全性(1)	情報が不完全な市場において、市場取引がどうなるかを学ぶ。	講義内容を復習する。	12	情報の不完全性(2)	情報が不完全な市場におけるシグナリング、逆選択といった現象について学ぶ。	講義内容を復習する。	13	市場支配力(1)	独占禁止法の内容を理解し、カルテル・談合が引き起こす経済的損失および企業がカルテル・談合を維持するインセンティブについて学ぶ。	講義内容を復習する。	14	市場支配力(2)	再販売価格維持において言及される二重の限界かについて学ぶ。	講義内容を復習する。	15	観光分野に対する政策	これまで学んできた産業政策が、観光分野に対して有効かを検討する。	講義した内容について復習する。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション	産業政策を学ぶ意義、講義の進め方、評価について説明する。	配布資料の復習をする。																																																																
2	ミクロ経済学の復習	需要曲線、供給曲線、消費者余剰、生産者余剰について復習する。	講義内容を復習する。																																																																
3	政府の市場への介入	政府が市場に介入する各種手段について説明する。	講義内容を復習する。																																																																
4	自然独占(1)	完全競争市場と独占市場における企業行動の違いを説明する。	講義内容を復習する。																																																																
5	自然独占(2)	自然独占が生じる理由およびその弊害を説明する。	講義内容を復習する。																																																																
6	公共財(1)	公共財の特性を説明し、公共財の供給において生じるフリーライダー問題について学ぶ。	講義内容を復習する。																																																																
7	公共財(2)	フリーライダーが存在することで、総余剰がどのように変化するかを学ぶ。	講義内容を復習する。																																																																
8	前半の講義の復習および中間試験	これまでの講義の内容を復習し、簡単な試験を実施する。	特になし。																																																																
9	外部性のある経済活動(1)	私的限界費用と社会的限界費用の概念を用いて、外部性が生じる理由および、その影響について学ぶ。	講義内容を復習する。																																																																
10	外部性のある経済活動(2)	外部性への対応策であるビグー税と数量規制について学ぶ。	講義内容を復習する。																																																																
11	情報の不完全性(1)	情報が不完全な市場において、市場取引がどうなるかを学ぶ。	講義内容を復習する。																																																																
12	情報の不完全性(2)	情報が不完全な市場におけるシグナリング、逆選択といった現象について学ぶ。	講義内容を復習する。																																																																
13	市場支配力(1)	独占禁止法の内容を理解し、カルテル・談合が引き起こす経済的損失および企業がカルテル・談合を維持するインセンティブについて学ぶ。	講義内容を復習する。																																																																
14	市場支配力(2)	再販売価格維持において言及される二重の限界かについて学ぶ。	講義内容を復習する。																																																																
15	観光分野に対する政策	これまで学んできた産業政策が、観光分野に対して有効かを検討する。	講義した内容について復習する。																																																																
関連科目	観光学入門、観光経済学、公共政策論、産業組織論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ミクロ経済学 I</td> <td>八田達夫</td> <td>東洋経済新報社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>競争政策論</td> <td>小田切宏之</td> <td>日本評論社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ミクロ経済学 I	八田達夫	東洋経済新報社	2	競争政策論	小田切宏之	日本評論社	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	ミクロ経済学 I	八田達夫	東洋経済新報社																																																																
2	競争政策論	小田切宏之	日本評論社																																																																
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験(70%)および中間テスト(30%)の得点で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	経済に関する情報はテレビや新聞等あらゆるメディアで提供されています。常にアンテナを張って興味・関心のあるテーマを見つけて下さい。																																																																		
担当者の研究室等	1号館7階 西川講師室(経済学部)																																																																		
備考																																																																			

科目名	観光産業における経営分析	科目名(英文)	Buisness Analysis in Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西川 浩平
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	有価証券報告書などの財務資料を通じた業績の把握は、産業・企業の動向を理解していく上で不可欠である。本講義では、経営学・産業組織論の諸手法を利用し、主に観光産業に含まれる企業を事例として紹介しつつ、産業・企業の動向等を理解・検討する各種指標を学ぶことを目的とする。
到達目標	有価証券報告書等の資料を用いて企業業績および産業の動向を理解する能力を養う。

授業方法と留意点	授業は基本的に講義形式で行うが、随時講義中に確認および応用の問題を出す。
----------	--------------------------------------

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	財務諸表の仕組み(1)	経営分析で使用する貸借対照表と損益計算書の構造を学ぶ。	講義した内容について復習する。
3	財務諸表の仕組み(2)	企業活動の継続において重要な利益について、その計算方法、経済学的意義などを学ぶ。	講義した内容について復習する。
4	成長性の分析	企業の成長の度合いを示す指標を学ぶ。	講義した内容について復習する。
5	収益性の分析(1)	企業の収益を判断する際に用いる ROA について学ぶ。	講義した内容について復習する。
6	収益性の分析(2)	企業の収益を判断する際に用いる ROE について学ぶ。	講義した内容について復習する。
7	収益性の分析(3)	損益分析点分析を説明する。	講義した内容について復習する。
8	前半の復習および中間試験	これまでの講義内容を復習し、簡単な試験を実施する。	特になし。
9	安全性の分析(1)	企業における利益とキャッシュの関係を生部。	講義した内容について復習する。
10	安全性の分析(2)	短期的な企業経営の安全性を測定する各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
11	安全性の分析(3)	長期的な企業経営の安全性を測定する各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
12	生産性の分析(1)	企業の生産性を判断する各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
13	生産性の分析(2)	企業内の各種資源が有効に利用されているかを示す各種指標を学ぶ。	講義した内容について復習する。
14	総合評価(1)	各種指標を用いて、企業経営を総合的に評価するレーダーチャートを学ぶ。	講義した内容について復習する。
15	総合指標(2)	指数法を用いて各種指標にウェイトを付け、企業経営を総合的に評価する。	講義した内容について復習する。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(70%)および中間試験(30%)の得点で評価する。
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	経済に関する情報はテレビや新聞等あらゆるメディアで提供されています。常にアンテナを張って興味・関心のあるテーマを見つけて下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 西川講師室(経済学部)
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	観光産業における経営分析論	科目名(英文)	Buisness Analysis in Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	西川 浩平
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	有価証券報告書などの財務資料を通じた業績の把握は、産業・企業の動向を理解していく上で不可欠である。本講義では、経営学・産業組織論の諸手法を利用し、主に観光産業に含まれる企業を事例として紹介しつつ、産業・企業の動向等を理解・検討する各種指標を学ぶことを目的とする。
到達目標	有価証券報告書等の資料を用いて企業業績および産業の動向を理解する能力を養う。

授業方法と留意点	授業は基本的に講義形式で行うが、随時講義中に確認および応用の問題を出す。
----------	--------------------------------------

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	財務諸表の仕組み(1)	経営分析で使用する貸借対照表と損益計算書の構造を学ぶ。	講義した内容について復習する。
3	財務諸表の仕組み(2)	企業活動の継続において重要な利益について、その計算方法、経済学的意義などを学ぶ。	講義した内容について復習する。
4	成長性の分析	企業の成長の度合いを示す指標を学ぶ。	講義した内容について復習する。
5	収益性の分析(1)	企業の収益を判断する際に用いる ROA について学ぶ。	講義した内容について復習する。
6	収益性の分析(2)	企業の収益を判断する際に用いる ROE について学ぶ。	講義した内容について復習する。
7	収益性の分析(3)	損益分析点分析を説明する。	講義した内容について復習する。
8	前半の復習および中間試験	これまでの講義内容を復習し、簡単な試験を実施する。	特になし。
9	安全性の分析(1)	企業における利益とキャッシュの関係を生部。	講義した内容について復習する。
10	安全性の分析(2)	短期的な企業経営の安全性を測定する各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
11	安全性の分析(3)	長期的な企業経営の安全性を測定する各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
12	生産性の分析(1)	企業の生産性を判断する各種指標について学ぶ。	講義した内容について復習する。
13	生産性の分析(2)	企業内の各種資源が有効に利用されているかを示す各種指標を学ぶ。	講義した内容について復習する。
14	総合評価(1)	各種指標を用いて、企業経営を総合的に評価するレーダーチャートを学ぶ。	講義した内容について復習する。
15	総合指標(2)	指数法を用いて各種指標にウェイトを付け、企業経営を総合的に評価する。	講義した内容について復習する。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(70%)および中間試験(30%)の得点で評価する。
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	経済に関する情報はテレビや新聞等あらゆるメディアで提供されています。常にアンテナを張って興味・関心のあるテーマを見つけて下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 西川講師室(経済学部)
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	観光資源論	科目名(英文)	Resources for Tourism
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	牧野 邦昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2◎, DP3○, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	観光の対象や観光行動の目的となる観光資源に関して、経済学や文化人類学等を利用した学際的な視点から講義を行い、観光の対象となる資源を意識的に作り出していくことの重要性和、資源とされる側(地域の人々の生活、環境、文化など)への配慮を常に持つことの重要性を共に考えてもらうことを目的とする。
到達目標	観光資源となりうるものには様々なものがあることを理解する。また「観光する側」「観光を企画する側」だけでなく、「観光の対象とされる側」にも配慮した行動をとることができるようになる。
授業方法と留意点	毎回プリントを配布し講義を行う。
科目学習の効果(資格)	観光や地域に関係する業界、自治体などで業務を行う際に役立てることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション、資源とは何か	なぜ観光における資源が問題になるのかを考える。	事後：授業の復習
2	自然	観光資源として自然を扱う場合の注意点、エコツーリズムの課題について考える。	事後：授業の復習
3	農業	グリーンツーリズムの問題点について考える。	事後：授業の復習
4	食べ物	特産品やB級グルメを利用した観光開発の課題を考える。	事後：授業の復習
5	民俗芸能	エスニックツーリズムの問題点、地域の民俗芸能・伝統が観光化されることよって生じる課題について考える。	事後：授業の復習
6	歴史	歴史を観光資源とする際の注意点・問題点について考える。	事後：授業の復習
7	世界遺産	世界遺産の概要について理解を深めるとともに、世界遺産に指定されることによる諸問題について考える。	事後：授業の復習
8	工業	近年注目を浴びている産業観光についての理解を深める。	事後：授業の復習
9	スポーツ	スポーツをすることやスポーツイベントと観光との関係について認識する。	事後：授業の復習
10	教育・学習	修学旅行や留学と観光との関係を考える。	事後：授業の復習
11	コンテンツ	コンテンツ(小説、映画、TVドラマ、アニメ等)の舞台を巡る観光の現状について認識を深めるとともに、抱える課題について考える。	事後：授業の復習
12	スピリチュアルなもの	最近流行しているパワースポット巡りなどについて課題を考える。	事後：授業の復習
13	医療	メディカルツーリズムの課題を理解する。	事後：授業の復習
14	交通	本来は移動の手段である交通が観光資源となる例を知るとともに、交通を観光資源とする場合の課題を考える。	事後：授業の復習
15	不愉快なもの、まとめ	近年注目を集めているダークツーリズムについて理解を深め、まとめとして観光資源を利用した災害からの復興について考える。	事後：授業の復習

関連科目 観光交通論(交通経済論)、観光経済論、観光産業政策論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	観光人類学の挑戦	山下晋司	講談社
2	観光経験の人類学	橋本和也	世界思想社	
3				

評価方法(基準) 定期試験70%、中間レポート30%で評価する。

学生へのメッセージ 観光について批判的に見る視点も身に付けた上で「どのような観光のあり方が望ましいのか」を考えてください。

担当者の研究室等 1号館7階 牧野准教授室(経済学部)

備考

科目名	観光人材論	科目名(英文)	Human Resources Management for Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2○, DP3△, DP4○, DP5◎, DP6△, DP7○, DP8△, DP9◎		

授業概要・目的	観光業を支える重要な要素は人材である。この授業では観光業に雇用されるという「働き方」の基本的な特徴と、それを規定する制度についての知識を深めることを通して、観光における人材活用の意義と重要性を理解することを目的とします。
到達目標	企業における人材管理の仕組みと観光産業における人材管理の特徴について理解できる。
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。
科目学習の効果(資格)	観光における人材管理の特徴と重要性の理解

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	観光の意義と仕事	何故観光があるのか、そこにはどんな仕事があるのかを理解する。	事後：配布資料の復習
3	観光業における人材管理	観光業の多様性とそこでの人材の特徴について理解する。	課題作成
4	人材管理の仕組みⅠ	人材を生かす仕組みの重要性と取り巻く環境について講義する。	事後：配布資料の復習
5	人材管理の仕組みⅡ	企業の人材区分や格付けの仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習
6	人材管理の仕組みⅢ	採用・配置・異動等の雇用管理の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習
7	人材管理の仕組みⅣ	人事評価・昇進・賃金管理の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習
8	人材管理の仕組みⅤ	労働時間管理・教育訓練等の仕組みについて講義する。	事後：配布資料の復習
9	人材管理の仕組み(まとめ)	第4回～第8回のまとめ	事後：配布資料の復習
10	「サービス」と観光人材	観光業の主な商品「サービス」について理解する。	事後：配布資料の復習 小テスト
11	「ホスピタリティ」と観光人材	観光人材に求められる「ホスピタリティ」とは何かを理解する。	事後：配布資料の復習
12	「顧客満足」と観光人材	「顧客満足」と観光人材の関わりについて考える。	事後：配布資料の復習
13	観光と人材育成Ⅰ	観光人材の育成政策について理解する。	事後：配布資料の復習
14	観光と人材育成Ⅱ	観光業界における人材育成の課題について考える。	課題作成
15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする。	事後：配布資料の復習

関連科目	観光学入門、経済キャリア入門
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験50%、小テスト30%、その他(課題作成等)を総合的に評価する。
----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	経済が成熟するにつれ、サービスを担う人材の重要性が高まります。特にサービスの比重の高い観光業での人材のあり方について一緒に考えましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室(経済学部)
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	観光ビジネス英語	科目名(英文)	Business English for Tourism Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2○, DP3○, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	観光立国を目指す日本にとって、観光関連産業における人材育成は重要な課題です。英語でコミュニケーションができるということは人材要件の一部に過ぎませんが、今後増え続けることが予想される外国人観光客に対応するため、サービスの現場では必須の要素となっています。この授業では、旅行会社・航空会社・ホテルの現場での業務について理解を深めながら、実践的な英語を身につけることを目指します。
到達目標	観光関連産業で必要とされる英語表現を身につけることを目的とします。各回に関連した実務知識も学びます。
授業方法と留意点	実務で使われているナチュラルな英語を教材として使用します。サービスの現場で使われる英語は、通常の場合決まったパターンがあります。それらを覚えて応用することで実務に対応することができるようになりますので、授業には出席し、事後は必ずCDとテキストで復習をするようにしてください。
科目学習の効果(資格)	観光産業で実際に使われている英語表現が身につきます。また、空港やホテル、旅行先などはTOEICの場面設定としても使用されることが多いので、TOEIC対策にもなります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション 旅行会社の英語と業務(1)	授業の進め方について ゲストに情報を提供する	事後:テキストの復習
	2	旅行会社の英語と業務(2)	旅行の予約を受ける	事後:テキストの復習
	3	旅行会社の英語と業務(3)	グループに添乗する	事後:テキストの復習
	4	旅行会社の英語と業務(4)	ゲストをガイドする	事後:テキストの復習
	5	航空会社の英語と業務(1)	航空機の座席予約を受ける	事後:テキストの復習
	6	航空会社の英語と業務(2)	フライトの変更をする	事後:テキストの復習
	7	航空会社の英語と業務(3)	カウンターでチェックインする	事後:テキストの復習
	8	航空会社の英語と業務(4)	ゲートで情報提供する	事後:テキストの復習
	9	航空会社の英語と業務(5)	機内で客室乗務員が案内する	事後:テキストの復習
	10	CIQの英語と業務	CIQに必要な情報を提供する	事後:テキストの復習
	11	ホテルの英語と業務(1)	ホテルへの問合せに答える	事後:テキストの復習
	12	ホテルの英語と業務(2)	ゲストをチェックインする	事後:テキストの復習
	13	ホテルの英語と業務(3)	コンシェルジュが情報提供する	事後:テキストの復習
	14	ホテルの英語と業務(4)	ゲストの苦情を処理する	事後:テキストの復習
	15	ホテルの英語と業務(5)	ゲストをチェックアウトする 授業のまとめ	事後:テキストの復習

関連科目	観光学入門、経済キャリア入門
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	TRAVEL ENGLISH For Tourism Industry Professionals	Reiko Fujita	MACMILLAN LANGUAGEHOUSE
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(50%)と小テスト・受講態度等の平常点(50%)を総合的に評価します。
----------	--

学生へのメッセージ	授業の難易度はそれほど高くありませんが、実務の英語を学ぶことが目的であるため、TOEIC400点以上の基礎力があることを前提に授業を進めていきます。英語は授業に出ているだけでは身につけません。授業で学んだことを必ず復習して自分のものにしてください。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 野村准教授室(経済学部)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	観光マーケティング論	科目名(英文)	Tourism Marketing
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2◎, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	観光におけるマーケティングは主に生産と消費が同時進行する「サービス」を商品とするゆえ、物財のマーケティングとは異なるアプローチが必要である。本授業では観光業のマーケティングの本質と特殊性をさまざまなマーケティング事例に触れながら理解することを目的とします。																																																																		
到達目標	マーケティングの基礎理論を習得し観光分野での応用事例が理解できる。																																																																		
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。																																																																		
科目学習の効果(資格)	観光業におけるマーケティングの基礎的な知識の習得																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>講義概要、授業のすすめ方、評価方法等の説明</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>マーケティングとは何か</td> <td>マーケティングの基礎的な概念を理解する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>商品とマーケティング</td> <td>売れる商品の特徴を理解する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>価格とマーケティング</td> <td>価格設定の考え方を理解する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>流通チャネルとマーケティング</td> <td>流通チャネルの役割について理解する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>プロモーションとマーケティング</td> <td>プロモーションの役割について理解する。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>マーケティング・ミックス(まとめ) I</td> <td>第2回～第6回のまとめ I</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>マーケティング・ミックス(まとめ) II</td> <td>第2回～第6回のまとめ II</td> <td>レポート作成 事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>観光とマーケティング I</td> <td>観光におけるマーケティングの特殊性を考える。</td> <td>小テスト 事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>観光とマーケティング II</td> <td>観光マーケティングの主体と対象を考える。</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>観光のマーケティング・ミックス</td> <td>観光におけるマーケティング・ミックスについて考える。</td> <td>レポート作成 事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>観光マーケティング事例 I</td> <td>観光地のマーケティングを考える(1)</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>観光マーケティング事例 II</td> <td>観光地のマーケティングを考える(2)</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>観光マーケティング事例 III</td> <td>観光産業のマーケティングを考える</td> <td>小テスト 事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	講義概要、授業のすすめ方、評価方法等の説明	事後：配布資料の復習	2	マーケティングとは何か	マーケティングの基礎的な概念を理解する。	事後：配布資料の復習	3	商品とマーケティング	売れる商品の特徴を理解する。	事後：配布資料の復習	4	価格とマーケティング	価格設定の考え方を理解する。	事後：配布資料の復習	5	流通チャネルとマーケティング	流通チャネルの役割について理解する。	事後：配布資料の復習	6	プロモーションとマーケティング	プロモーションの役割について理解する。	事後：配布資料の復習	7	マーケティング・ミックス(まとめ) I	第2回～第6回のまとめ I	事後：配布資料の復習	8	マーケティング・ミックス(まとめ) II	第2回～第6回のまとめ II	レポート作成 事後：配布資料の復習	9	観光とマーケティング I	観光におけるマーケティングの特殊性を考える。	小テスト 事後：配布資料の復習	10	観光とマーケティング II	観光マーケティングの主体と対象を考える。	事後：配布資料の復習	11	観光のマーケティング・ミックス	観光におけるマーケティング・ミックスについて考える。	レポート作成 事後：配布資料の復習	12	観光マーケティング事例 I	観光地のマーケティングを考える(1)	事後：配布資料の復習	13	観光マーケティング事例 II	観光地のマーケティングを考える(2)	事後：配布資料の復習	14	観光マーケティング事例 III	観光産業のマーケティングを考える	小テスト 事後：配布資料の復習	15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする	事後：配布資料の復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	講義概要、授業のすすめ方、評価方法等の説明	事後：配布資料の復習																																																																
2	マーケティングとは何か	マーケティングの基礎的な概念を理解する。	事後：配布資料の復習																																																																
3	商品とマーケティング	売れる商品の特徴を理解する。	事後：配布資料の復習																																																																
4	価格とマーケティング	価格設定の考え方を理解する。	事後：配布資料の復習																																																																
5	流通チャネルとマーケティング	流通チャネルの役割について理解する。	事後：配布資料の復習																																																																
6	プロモーションとマーケティング	プロモーションの役割について理解する。	事後：配布資料の復習																																																																
7	マーケティング・ミックス(まとめ) I	第2回～第6回のまとめ I	事後：配布資料の復習																																																																
8	マーケティング・ミックス(まとめ) II	第2回～第6回のまとめ II	レポート作成 事後：配布資料の復習																																																																
9	観光とマーケティング I	観光におけるマーケティングの特殊性を考える。	小テスト 事後：配布資料の復習																																																																
10	観光とマーケティング II	観光マーケティングの主体と対象を考える。	事後：配布資料の復習																																																																
11	観光のマーケティング・ミックス	観光におけるマーケティング・ミックスについて考える。	レポート作成 事後：配布資料の復習																																																																
12	観光マーケティング事例 I	観光地のマーケティングを考える(1)	事後：配布資料の復習																																																																
13	観光マーケティング事例 II	観光地のマーケティングを考える(2)	事後：配布資料の復習																																																																
14	観光マーケティング事例 III	観光産業のマーケティングを考える	小テスト 事後：配布資料の復習																																																																
15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答をする	事後：配布資料の復習																																																																
関連科目	観光学入門、レジャー産業論、宿泊産業論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験50%、小テスト30%(2回)、その他(レポート等)を総合的に評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	観光の分野でも日々「顧客と市場の創造」が行われています。普段から経済関連のニュースを意識していると観光マーケティングも理解しやすいと思います。																																																																		
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室(経済学部)																																																																		
備考																																																																			

科目名	関西経済論	科目名(英文)	Local Economy in KANSAI
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2◎, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7△, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	大阪府を中心とした関西経済の諸特徴と問題点を理解する。周辺の他府県(京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県、滋賀県)も含め、関西経済の優位点と課題を把握するとともに、今後の展望を考えることのできる素地をつくることを目的とする。大阪・関西経済の産業構造、地域産業政策のありようなどを講義する。
到達目標	①関西経済の特徴を理解すること。 ②関西の産業に着目して、今後の展開を展望できるようになること。
授業方法及び留意点	データを紹介しながら地域経済の状況を説明し、基礎用語の理解を深めることが出来るよう授業を進める。
科目学習の効果(資格)	関西経済の諸特徴を把握し、地域と自分のキャリアについて考える基礎を得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	日本のなかの関西経済	関西経済の現在の諸特徴を日本国内の他地域経済圏との比較などから理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
2	大阪府の産業①	大阪府の産業構造を理解する。基礎的なキーワードについても理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
3	大阪府の産業②	大阪府の産業構造を理解する。基礎的なキーワードについても理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
4	大阪府の主要企業①	大阪府の主要企業について、事例を挙げ、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
5	大阪府の主要企業②	大阪府の主要企業について、事例を挙げ、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
6	大阪府の中小企業、ベンチャー企業	大阪府の中小企業、ベンチャー企業について、事例を挙げ、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
7	京都府の産業と企業	京都府の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
8	兵庫県の産業と企業	兵庫県の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
9	奈良県の産業と企業	奈良県の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
10	和歌山県の産業と企業	和歌山県の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
11	滋賀県の産業と企業	滋賀県の産業構造を理解し、主要企業について、その概要を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
12	関西自治体の産業政策①	関西の主要自治体の産業政策を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
13	関西自治体の産業政策②	関西の主要自治体の産業政策を理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
14	国の政策と自治体の政策	地域経済の発展に関する国の政策と自治体の政策について理解する。	講義中に示した課題を検討してください。
15	まとめ	グローバル化、少子高齢化の流れにおいて地域経済の在り方を考える。	講義中に示した課題を検討してください。

関連科目	日本経済史、日本経済論、日本産業史、地域産業論
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地域産業の活性化戦略	野長瀬裕二	学文社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験 100%で評価する。
----------	-----------------

学生へのメッセージ	関西経済の今後の展開を創造するためには、正確な現状・課題認識が必要です。これらを養ってください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館7階 野長瀬教授室(経済学部)
------------	--------------------

科目名	管理会計	科目名(英文)	Management Control
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△, DP6△, DP7△, DP8△, DP9△		

授業概要・目的	管理会計とは、経営管理者の多様な意思決定や組織活動の統合等の経営管理活動に対して有用な原価情報を提供するプロセスである。本講義では、財務・原価情報を利用した戦略的管理ツールの基礎知識を概説し、そのプロセスを習得することを目的とする。講義では理論を理解し実践力を身につけるため、演習・事例研究・グループスタディを行う。
到達目標	戦略経営に用いられる管理ツールの理論を理解し、実務でどのように活用されるかを身につけることを本講義の到達目標とする
授業方法と留意点	本授業は一方的な講義ではなく、①基礎理論の講義、②理論の理解のための演習、③理論を用いたグループスタディの3段階で行われる学生参加型授業であるため、積極的な授業参加が求められる。
科目学習の効果(資格)	日商簿記、SA、公認会計士、税理士試験の受験のための基礎となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義全体の概要および講義の進め方などの紹介	レポート
2	管理会計のフレームワーク	管理会計学習の意義、管理会計と財務会計、管理会計と資源配分、管理会計と人間・組織	レポート・quizテスト
3	管理会計の発展史	管理会計の発展過程、管理会計手法(tool)の変遷過程管理会計モデルなど	レポート・quizテスト
4	簿記の要約	管理会計論の基礎知識として、会計の基本的な仕組みを理解する。 会計期間、簿記の5要素、利益計算、貸借対照表・損益計算書	演習問題
5	投資計画のための管理会計①	複数の投資案の中で、どのように投資案を選択するかについて学習する。 投資案の分析ツールとして、NPV法・回収期間法・ROI法を用いる	演習問題
6	投資計画のための管理会計②	複数の投資案の中で、どのように投資案を選択するかについて学習する。 投資案の分析ツールとして、NPV法・回収期間法・ROI法を用いる	演習問題
7	ROIを用いた企業評価：グループ・スタディ	実際の企業の財務諸表を利用し、企業評価を行ってみる。この授業は3人1グループとして演習を行う	演習・レポート
8	短期利益計画とCVP分析①	損益分岐点(BEP)分析を学習し、実際の企業の利益計画の演習を行う。 短期利益計画の意義、CVP分析(損益分岐点分析)、限界利益・貢献利益	演習問題
9	短期利益計画とCVP分析②	損益分岐点(BEP)分析を学習し、実際の企業の利益計画の演習を行う。 短期利益計画の意義、CVP分析(損益分岐点分析)、限界利益・貢献利益	演習問題
10	短期利益計画とCVP分析③	損益分岐点(BEP)分析を学習し、実際の企業の利益計画の演習を行う。 短期利益計画の意義、CVP分析(損益分岐点分析)、限界利益・貢献利益	演習問題
11	価格決定と原価企画①	販売価格の決定のための基本的な方法論を理解する コスト・プラス法・原価企画による法	演習問題
12	価格決定と原価企画①	販売価格の決定のための基本的な方法論を理解する コスト・プラス法・原価企画による法	価格決定の事例演習
13	セールス・ミックス(Sales Mix)	複数の製品がある場合、利益最大化のためには、どのようなセールス・ミックスをするのかについて学習する。	演習問題
14	事業部組織における業績評価	事業部制組織の業績評価にはどのような経営指標を用いばいいのか、また、その業績評価結果は事業部長のボーナスなどにどのようにリンクさせるべきであるかについてケースをもって学習する。	事例研究
15	BSC・ABCなどの管理ツール・まとめ	BSCおよびABCのような最近の管理ツールについて考察する。また最後には、講義のまとめおよび質疑応答を行う	レポート

関連科目 会計学入門・簿記原理Ⅰ・Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	平常点 100% →平常点は授業中行う演習およびグループ・スタディへの参与度、レポートなどを総合的に評価する		
学生への メッセージ	授業中は計算演習を行うため、必ず電卓を持参すること		
担当者の 研究室等	1号館7階 朴教授室 (経済学部)		
備考			

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	久保 廣正
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。またある程度の英語の活用力を身につける。																
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前半は、1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 後半は、英和対訳の『Japan as it is 日本タテヨコ』を用いて、各自が興味を持つ分野について国際的な視野でもって自主的に調査し、その結果を説明できるようにする。																
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																
担当者の研究室等	1号館7階																
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平野 泰朗
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前半は、以下のことを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて、研究倫理教育を行う。 <p>後半は、グループ学習、ふる里（または地域）研究、見学演習等を行う。</p>		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組み姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。		
担当者の研究室等	1号館7階 平野教授室（経済学部）		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階植杉研究室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	内田 勝巳
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それをレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論および第1年次後期の専門基礎科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組み姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。		
担当者の研究室等備考	1号館7階 内田教授室（経済学部）		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。また、グローバル化が一段と進行するという環境の下、日本の産業は積極的に海外展開を図るようになっている。その際、日本の産業はどのような課題に直面し、どのように克服しようとしているのか、というテーマに関して研究することも本演習の目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。また、上記の目的を達成するための基礎学力を養うことも到達目標とする。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要なとされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。さらに、国際経済学に関する基礎的な文献を輪読する。また、論文・新聞・雑誌、さらには各種の統計を収集し、分析を行う。その際、常に経済社会の動きに興味を持ち、その背景・要因について自分で考えることに留意してもらいたい。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 <p>なお、演習中に事前事後学習課題を指示する。</p>																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>FIRST YEAR STUDY GUIDE</td> <td>摂南大学</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	FIRST YEAR STUDY GUIDE	摂南大学		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	FIRST YEAR STUDY GUIDE	摂南大学																	
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大学4年間の経済学が10時間で学べる</td> <td>井堀利宏</td> <td>KADOKAWA</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学4年間の経済学が10時間で学べる	井堀利宏	KADOKAWA	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	大学4年間の経済学が10時間で学べる	井堀利宏	KADOKAWA																
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 久保教授室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得し、後続学年における学習に備えることを目的とする。		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて導入教育および研究倫理教育を行う。 2) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 3) 大学で研究したい事項、興味ある職業について発表を行う。 4) 事業創造についてグループディスカッション、発表を行う。 5) 経済領域の時事用語について学ぶ。 		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	『FIRST YEAR STUDY GUIDE』	
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	ディスカッション参加と発表 (50%)、レポート (50%) により評価を行う。		
学生へのメッセージ	自分のやりたいことを見つけるための相談をお待ちしています。		
担当者の研究室等	1号館7階		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	G
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 朴教授室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	H
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	蛭川 雅之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とします。		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習を行い、第2年次から履修を開始するコース専攻科目の準備とすることを目標とします。		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要なとされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分を行います。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論の仕方、プレゼンテーションの仕方を学びます。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起きている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションを行います。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認します。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめます。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行います。		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論および第1年次後期の専門基礎科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組み姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価します。		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。		
担当者の研究室等	1号館7階 蛭川教授室（経済学部）		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合があります。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	I
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ・内容・方法・事前事後学習課題】</p> <p>1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</p> <p>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起きている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。</p> <p>3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。</p> <p>4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。</p> <p>5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</p>																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組み姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室（経済学部）																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	J
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 朝田准教授室（経済学部）																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	K
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 45%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 15%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 45%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 15%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 郭准教授室																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	L
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岸田 未来
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学で学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分を行う。 次に、経済学の基礎的な科目の学習及び1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識をえるための入門的な学習を行う。 <p>【後期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済学の基本的な2つの流れである近代経済学とマルクス経済学の考え方を習得する。 教科書を基本に大学で学ぶ経済学関連科目への興味を喚起させ具体的な履修計画作成の一助とする。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 																		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組み姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 岸田准教授室（経済学部）																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	M
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 6) 後期は、教科書の輪読を行い、経済学の基礎を学ぶ。 7) 共通課題として「社会人基礎力」試験等を実施することもある。 		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	アメリカの高校生が読んでいる経済の教科書	山岡道男 浅野忠克
	2	知識ゼロからの経済学入門	的場昭弘
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	何でも気軽に相談して下さい。		
担当者の研究室等	1号館7階 田井准教授室（経済学部）		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	N
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎能力を習得させるとともに、経済学の学習を通じて後続学年での専門的な選択の備えさせることを目的とする。																		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。																		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションのしかたを学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 																		
関連科目	経済学入門（エコノミック・リテラシー）、経済情報論																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組み姿勢、受講態度（私語・遅刻・出欠を含む）を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	勉強面において質問・不安がありましたら積極的に相談して下さい。																		
担当者の研究室等	1号館7階 名方研究室（経済学部）																		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	○
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	西川 浩平
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。																
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習を行うことで、第2年次から学びはじめるコース専攻科目に備えることができる。																
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要なとされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 																
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論および第1年次後期の専門基礎科目																
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者になんでも相談してください。																
担当者の研究室等	1号館7階 西川講師室（経済学部）																
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	P
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習開始の基礎を確保させることと、後続学年での専門的な選択に備えさせるという2つの役割を有している。			
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。 ①学生が自分で経済問題を考え、分析する能力を身につける。②学生のプレゼンテーションの能力を高める。			
授業方法と留意点	ゼミ形式は少人数の授業である。課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポートの作成・発表、討論・総括という学習スタイル。割り当てられた担当教員の指導のもとに修得させる。 まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分を行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を確認するとともに、第1年次後期から学びはじめる専門基礎科目の学習を補完する。 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	学習面にしても、生活面にしても、基礎演習の担当者になんでも相談してください。			
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室			
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。			

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	Q
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。		
到達目標	大学で学び基本を習得すること。 大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それをレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論および第1年次後期の専門基礎科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。		
担当者の研究室等	1号館7階野村准教授室		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	R
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。			
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。			
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。</p> <p>2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。</p> <p>3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。</p> <p>4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。</p> <p>5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。</p> <p>後半は、グループ学習や学外学習を通じて、前半に学んだレポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方についてさらに実践的に学ぶ。</p>			
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組み姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。			
担当者の研究室等				
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。			

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	S
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野 邦昭
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本演習は、大学での学習に必要な基礎的能力を習得させるとともに、経済学の学習を通して後続学年での専門的な選択に備えさせることを目的とする。		
到達目標	大学での学習を開始するにあたって必要な基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を用いて自主的学習ができる。		
授業方法と留意点	上記の目的達成のため、まず、大学から配布される『FIRST YEAR STUDY GUIDE』をもとに、大学での学習に必要とされる知識・技法を習得すると同時に、1回10分程度の数理能力向上テストを15回分行う。次に、経済学の基礎的な科目の学習および1年次の末に行わなければならないコース選択に備えて、それに必要な知識を得るための入門的な学習を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の聴き方、ノートの取り方、情報収集のしかた、レポートの書き方、討論のしかた、プレゼンテーションの仕方を学ぶ。 2) 地域経済・観光経済・国際経済等の様々な分野で起こっている問題を取り上げ、自分（たち）でテーマを発見し、それを学期末にレポートにまとめ、プレゼンテーションをする。 3) 随時、「経済学入門」や「経済情報論」で教えられる基礎知識（エコノミック・リテラシーとITリテラシー）を少人数教育の場で確認する。 4) 環境問題を学習し、学習成果をレポートにまとめる。 5) 『FIRST YEAR STUDY GUIDE』を用いて研究倫理教育を行う。 		
関連科目	経済学入門（エコノミックリテラシー）、経済情報論		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢、受講態度（私語・遅刻を含む）を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	学習面にせよ、生活面にせよ、基礎演習の担当者に何でも相談して下さい。		
担当者の研究室等	1号館7階 牧野准教授室（経済学部）		
備考	出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。		

科目名	基礎演習	科目名 (英文)	Basic Seminar
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	T
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本演習は2年次以降の専門的な知識を学ぶための基礎的な知識・技術を獲得することを目的とする。			
到達目標	経済の幅広い知識と経済学的思考を身につける。また、情報発信するためのレポートの書き方や発表の方法を習得する。			
授業方法と留意点	First Study Guide を用いて、学習方法などを学ぶ。また、各学生が興味のある社会経済的な問題の簡単な調査・発表を行い、レポートを提出する。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1、レポートの書き方、口頭発表の仕方を学ぶ。 2、各自の興味に応じて、調査分析をして口頭発表を行う。 3、その発表に基づいてレポートを完成させ、提出する。 4、First Study Year Guide を用いて研究倫理教育を行う。 5、環境問題を学習し、成果をレポートにまとめる。 			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	発表・レポートの完成度、ディスカッションへの参加、受講姿勢、出席を考慮して評価する。			
学生へのメッセージ	1年生なので、卒業後を見据えて目標をつくるよう努力してください。			
担当者の研究室等	1号館7階 田中研究室			
備考				

科目名	行政法	科目名(英文)	Administrative Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金谷 重樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	私人の活動がいわゆる「私的自治の原則」を基盤にしており、一定の法の柵の中であればその活動は個々人の自由な判断と責任に委ねられているのに対し、国や自治体による行政活動は必ず法に基づき、従って行われなければならないという「法治主義」ないし「法の支配」の下に置かれている。そこで、この授業では私人の活動と行政活動とが法的にどのように異なる扱いを受けているかについて、身近で具体的な事例を挙げながら、平易に解説する。
到達目標	行政法に関する基本的知識を習得し、公務員試験や各種資格試験に合格できる力の基礎を培う。
授業方法と留意点	プリントを配付します。プリントは教材フォルダにあります。毎回、必ず、持参して下さい。 行政法という題名の法律は存在しません。そこで、授業は理論的な内容が多くなりますが、諸君においても、講義には必ず出席し、講義の内容を理解するように努力して下さい。
科目学習の効果(資格)	公務員を志望する諸君にとっては行政法は必須であり、また多くの国家試験においても行政法は必須です。また、民間企業にあっても、その営業活動が許可制の下に置かれるなど、行政法と密接な関連にあります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	はじめに	行政の意味と様々な身近な行政活動	身近な行政について具体的に思い浮かべておくこと。
	2	法治主義・法の支配	私人の活動と行政主体の活動	事前にプリントを読んでおくこと。
	3	行政法の姿と形	成文法	事前にプリントを読んでおくこと。
	4	行政法の姿と形	不文法	事前にプリントを読んでおくこと。
	5	行政指導・行政上の契約	私人と同様の手法	事前にプリントを読んでおくこと。
	6	処分の意味と種類	契約との相違	事前にプリントを読んでおくこと。
	7	処分の効力	公定力、不可争力など	事前にプリントを読んでおくこと。
	8	拘束的計画、即時強制、強制調査	処分以外の公権力を行使して目的を実現する手法	事前にプリントを読んでおくこと。
	9	行政裁量	適正な行政裁量の確保	事前にプリントを読んでおくこと。
	10	行政上の義務違反に対する制裁	免許の取消処分などの説明	事前にプリントを読んでおくこと。
	11	行政上の強制執行	行政上の義務の履行を強制的に実現する手法	事前にプリントを読んでおくこと。
	12	国家賠償	行政上の損害賠償制度	事前にプリントを読んでおくこと。
	13	行政上の不服申立て	処分の取消しなどを行政機関に求める制度	事前にプリントを読んでおくこと。
	14	行政事件訴訟	処分の取消しなどを裁判所に求める制度	事前にプリントを読んでおくこと。
	15	まとめ	これまでの講義内容をまとめる	これまでの講義内容を復習しておくこと。

関連科目 憲法と民法総則は、履修するだけでなく、充分に理解しておくことが望ましいです。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 学期末の定期試験の結果によって評価します。試験内容は原則として、穴埋め又は○×方式です。

学生へのメッセージ とにかく私語をしないこと。私語は授業の進行と他学生の受講を妨害する悪質な行為であるから、私語を止めない学生は退室させます。

担当者の研究室等 11号館9階 金谷研究室

備考

科目名	金融論	科目名(英文)	Money and Banking
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8△, DP9○		

授業概要・目的	「金融論」は、経済学の応用分野の一つです。景気、金利や物価などがどのように金融システムの中で決定されているのか(マクロ的な金融論)、個人や企業、銀行や日本銀行などの各経済主体がどのように行動するのか(ミクロ的な金融論)を中心に、基礎的な部分を解説をしていきます。
到達目標	マクロ金融論・ミクロ金融論の理解を通じて、金融政策及びファイナンス理論に関する知識を深め、新聞の経済記事等の理解がスムーズに行えるようになる。
授業方法と留意点	基本的に講義形式をとります。第8回にマクロ的な金融論にかかわる範囲、第15回にミクロ的な金融論にかかわる範囲についての理解を問う試験を授業内で行います。
科目学習の効果(資格)	マクロ経済学・ミクロ経済学の理解補助 ERE(経済学検定試験)やFP(ファイナンシャルプランナー)をはじめとして、各種資格試験問題にも対応

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	45度線分析②	消費関数 相対所得仮説 ライフサイクル仮説 恒常所得仮説	消費関数に関する議論の理解・復習
3	金利とマクロ経済 IS-LM分析①	利子率 投資の限界効率 投資関数 資産価格の決定式 トービンのq	資産価格の決定式をはじめとする各項目に関する理解・復習
4	金利とマクロ経済 IS-LM分析②	IS-LMモデル 金融・財政政策 流動性のわな	IS-LMモデルの理解・復習
5	物価とマクロ経済 AD-AS分析①	物価指数 AS曲線	AS曲線の導出方法の理解復習
6	物価とマクロ経済 AD-AS分析②	AD曲線 AD-ASモデル	AD曲線の導出方法及びAD-ASモデルの概略の理解・復習
7	為替レート	為替レートの決定理論 購買力平価説 裁定取引	為替レートの決定理論についての概略を理解・復習
8	まとめとテスト	7回までのまとめとテスト(試験範囲は第1~7回)	-----
9	ポートフォリオ理論	期待効用仮説 平均・分散アプローチ 効率性フロンティア 分離定理	統計学の基礎知識とポートフォリオ理論の概略を確認・復習
10	CAPM(資本資産評価モデル)	マーケットリスク・プレミアム リスクフリー・レート ベータ スワップレシオ	統計学の基礎知識とCAPMの概略の理解・復習
11	投資決定理論	NPV(ネット・プレゼント・ヴァリュー) B/S P/L キャッシュフロー 資本コスト	NPVの理解・復習
12	MM理論と企業財務政策	MM理論の第1命題 最適資本構成	MM理論の概略についての理解・復習
13	民間銀行の役割と行動	マネーサプライ 信用創造	信用創造のメカニズムについて理解・復習
14	日本銀行の役割と行動	ハイパワード・マネー 金融政策	各種金融政策とその波及効果について理解・復習
15	まとめとテスト	14回までのまとめとテスト(試験範囲は第9回~14回)	-----

関連科目	マクロ経済学・ミクロ経済学など。
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(60%) + 第8回・第15回に行われる試験(20%+20%)で評価します。
----------	---

学生へのメッセージ	経済を知るうえで金融の役割を理解するのは必須です。応用的な経済学の分野ですので、受講生は、極力マクロ経済学やミクロ経済学、統計学や経済数学(基礎的範囲)をすでに履修していることを強く望みます。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 植杉教授室(経済学部)
----------	-------------------

備考	授業の第8回・第15回に行われる試験は必ず受験するようにしましょう。
----	------------------------------------

科目名	経営学	科目名(英文)	Business Administration
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岸田 未来
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8△, DP9◎		

授業概要・目的	資本主義社会における企業の役割を踏まえて、現代企業の経営活動を理解することを目標とする。具体的な企業の事例を取り上げながら、複雑に展開している企業の経営活動の仕組みと、そこに貫かれる法則性を理解する。
到達目標	経営学にかかわる用語の意味内容および企業活動の基本を理解できる。また経済事象として表れる様々な企業活動のあり方を説明できる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。現実の企業経営をイメージしてもらうために、資料等を多用する。毎回プリントを配布する。
科目学習の効果(資格)	日本経済新聞の企業経営に関する記事の意味内容やその背景を、より深く理解することができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	現代社会と企業の役割、企業を取り巻く経営環境	企業活動の原理および現代に特徴的な企業活動のあり方、市場と企業との関係について	配布プリントでの復習
3	市場における企業間の関係	企業同士が取り結ぶ関係、大企業間および大企業と中小企業との関係	配布プリントでの復習
4	経営戦略とは何か	経営戦略策定の流れ、事業戦略と経営戦略との関係	配布プリントでの復習
5	経営戦略と経営者の役割	経営者に求められる役割とは何か	配布プリントでの復習
6	株式会社の仕組み	企業の諸形態の中での株式会社の特徴について	配布プリントでの復習
7	株式会社制度と企業経営①	株式会社を成り立たせる諸制度および株式市場の機能について	配布プリントでの復習
8	株式会社制度と企業経営②	株式市場の変化が企業経営に及ぼす影響、コーポレート・ガバナンスについて	配布プリントでの復習
9	企業組織のデザイン①	企業経営と企業組織との関係	配布プリントでの復習
10	企業組織のデザイン②	事業環境の変化と企業組織の変遷	配布プリントでの復習
11	近代企業と経営管理①	現代の大企業はどのように成立したのか	配布プリントでの復習
12	近代企業と経営管理②	大企業の成立によって、経営管理のあり方はどのように変化したのか	配布プリントでの復習
13	経営管理の諸理論	企業経営に関する様々な理論の説明	配布プリントでの復習
14	日本的経営とは何か①	日本企業に特徴的な経営のあり方、日本的経営について	配布プリントでの復習
15	日本的経営とは何か②	近年における日本的経営の変化について、講義全体のまとめ	配布プリントでの復習

関連科目	中小企業論、国際マーケティング論
------	------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験 75%、ミニレポート、授業参加度(質問、感想等) 25%の割合で総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	ニュースや新聞などを通じて、日常的に企業経営に関する知識を得る努力をしてもらうと、より授業が身近に理解できると思います。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館7階 岸田准教授室(経済学部)
------------	--------------------

科目名	経済学入門 (エコノミックリテラシー)	科目名 (英文)	Economic Literacy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ABCDEFGHIJ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的 経済学の導入教育として、専門科目に入るために不可欠な基礎的・基本的な知識と考え方に焦点を当てた「エコノミックリテラシー」を、現実の身近な経済事情や仕組みを事例として参照しながら、経済社会のつながりの中で理解することを目的とする。

到達目標 経済学の基本的な考え方や用語を理解する。新聞の経済記事が読めるようになる。

授業方法と留意点 基本的には講義形式で進めるが、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを解説する。また、これらと並行して課題を課す。適宜、レジュメを配布する。

科目学習の効果 (資格) 経済的思考と基礎知識を修得し、専門科目のための基礎力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	何故経済学を勉強するのか？経済学の対象と経済学的考え方	経済学とは何か、授業の進め方、成績評価について説明する	講義内容の復習
2	大きな社会問題、身近な経済問題 (1)	アベノミクスとは何かなど、身近な経済問題について考える	テキストの復習
3	大きな社会問題、身近な経済問題 (2)	グローバル化が経済にどのような影響を与えているのか考える：TPP交渉とミッキーマウスなど	テキストの復習
4	大きな社会問題、身近な経済問題 (3)	日本財政の現状：世界一の財政赤字	テキストの復習
5	経済学的な発想とは (1)	効率とは？格差とは？均衡とは？	講義内容の復習、小テスト
6	経済学的な発想とは (2)	需要と供給の世界：ミクロ経済学 (1)	講義内容の復習
7	経済学的な発想とは (3)	需要と供給の世界：ミクロ経済学 (2)	講義内容の復習
8	経済学的な発想とは (4)	経済全体を丸ごとつかむ：マクロ経済学	講義内容の復習
9	財政について考える (1)	現代財政の3つの機能	講義内容の復習
10	まとめと中間テスト	中間テスト	講義内容の復習、中間テスト
11	財政について考える (2)	増税と公債	講義内容の復習
12	協力の科学としての経済学	ゲーム理論とは	講義内容の復習
13	為替レートの決まり方	為替で確実に儲ける方法？	講義内容の復習
14	成長戦略	イノベーションをどのように促進するか？	講義内容の復習
15	まとめ	全体の総括	講義内容の復習

関連科目 マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	教養としての経済学	一橋大学経済学部	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	スティグリッツ入門経済学第4版	ジョセフ・スティグリッツ	東洋経済新報社
2			
3			

評価方法 (基準) 定期試験 (70%)、レポート (20%)、授業への参加や発表 (10%) に基づく総合評価による。授業への積極的参加 (私語は減点) を高く評価します。

学生へのメッセージ 経済学的考え方の基礎を習得し、経済新聞も読めるようになります。疑問点・わからない点があれば授業中であまいませんので聞いてください。

担当者の研究室等 1号館7階 後藤教授室 (経済学部)

備考 受講生の理解度によって、講義の内容と進行に変更がありうる。小テストや中間テストの時期も、学生の理解度に応じて変更がありうる。授業中に発表 (プレゼンテーション) を求めることもあります。

科目名	経済学入門 (エコノミックリテラシー)	科目名 (英文)	Economic Literacy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	KLMNOPQRST
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	経済学の導入教育として、専門科目に入るために不可欠な基礎的・基本的な知識と考え方に焦点を当てた「エコノミックリテラシー」を、現実の身近な経済事情や仕組みを事例として参照しながら、経済社会のつながりの中で理解することを目的とする。
到達目標	2年次配当科目である、マクロ経済学・ミクロ経済学で用いられる基礎的な概念や必要な知識を習得し、次学年への準備をおこなう。
授業方法と留意点	基本的にはテキストを中心とした講義形式で進めるが、時事問題や時の話題等について、経済学ではどのような考えでどのような分析が出来るのかを、配付資料を参照しながら解説する。また、これらと並行して小テストや課題を課す予定である。
科目学習の効果 (資格)	経済学的思考と基礎知識を修得し、専門科目のための基礎力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	経済学の対象と考え方、学び方	授業の進め方、小テストと課題提出について、成績評価方法、経済記事の読み方、経済指標の探し方、主要経済統計の概説	インターネット活用法、日経新聞活用法、経済データ活用法
2	経済学とは何か	「経世済民」、経済学の歴史概説、生産要素、希少性、一物一価の法則、代替品について	—————
3	需要と供給	市場の仕組みと役割、需要曲線と供給曲線、市場価格、価格弾力性	各種の市場はどこに在るか?
4	経済学の生いたち	「見えざる手」、分業と労働生産性、交換価値、貨幣経済、比較優位	—————
5	失敗する市場	「冷静な頭脳と温かい心情」、効用、セーの法則、限界効用逓減の法則	小テスト
6	進化する経済学	経済学と科学的手法、経済学の「制度化」、専門化・職業化と有用性 様々な経済主体の最大化問題	—————
7	GDP、豊かさと幸せについて	ケインズの経済学、名目と実質の GDP (国内総生産)、GDP だけでない豊かさ	—————
8	まとめと中間テスト	第7回までの復習、中間テスト	中間テスト
9	効率性について	官から民へ、市場主義の 1980 年代、効率性と民営化	大きな政府と小さな政府
10	構造改革と効率性	構造改革と規制緩和、パレート効率性、民営化企業	民営化企業の現状と課題
11	市場と政府の役割と限界 (1)	市場主義改革、財政金融政策による景気対策、公共投資と雇用政策、乗数効果	経済政策の有効性
12	市場と政府の役割と限界 (2)	直接税と間接税、消費税、購買力平価、国税と地方税、不況対策としての減税	小テスト 減税の経済効果
13	戦後日本経済史	戦後復興、高度経済成長、技術革新、変動為替相場制移行と石油危機、バブル経済とその崩壊	—————
14	教育問題	制度改革と教育の再生、教育問題の経済的側面	—————
15	持続可能な社会	持続可能な仕組みへの模索、少子高齢化と福祉、地球温暖化と CO2 排出規制、気候異変と気候安全保障、食料自給の国際経済	持続的発展への枠組み

関連科目	マクロ経済学 I・II、ミクロ経済学 I・II
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験 (60%)、小テスト・中間テスト等 (40%) に基づく総合評価による。
-----------	---

学生へのメッセージ	質問があれば気軽に来て下さい。
-----------	-----------------

担当者の研究室等備考	1号館7階 植杉教授室 (経済学部)
------------	--------------------

科目名	経済思想史	科目名(英文)	History of Economic Ideas
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	牧野 邦昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2○, DP3○, DP4◎, DP5○, DP6△, DP7◎, DP8○, DP9○		

授業概要・目的	古代・中世の経済思想にも触れた上で、近代から現代にいたる経済思想の歴史を概説し、最後に日本の現実にもどって、経済思想と経済理論の意義について考える。経済学を学習するために必要な経済思想・経済学説・経済学者についての基礎知識を与えることを目的とする。
到達目標	抽象的に思われる思想や理論を社会・歴史の現実と結びつけて考える習慣が身につくこと。
授業方法と留意点	教科書に基本的に従いつつ、スライドを用いた講義を主とする。
科目学習の効果(資格)	ミクロ経済学・マクロ経済学・社会経済学の基礎となる知識の習得と経済史、経済思想史への入門

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	経済思想史への招待	経済思想とは何か、それをなぜ学ぶ必要があるのか	事前：教科書に一通り目を通しておくこと	事後：授業の復習
2	古代・中世の経済思想	古代・中世の人びとは経済をどのように考えていたか	事前：教科書該当箇所の予習	事後：授業の復習
3	近代の経済思想(アダム・スミス)	「経済学の父」スミスはどのようなことを主張したか	事前：教科書該当箇所の予習	事後：授業の復習
4	近代の経済思想(リカード)	なぜ貿易が行われるのか	事前：教科書該当箇所の予習	事後：授業の復習
5	近代の経済思想(マルサス)	人口と経済はどのように関係するのか	事前：教科書該当箇所の予習	事後：授業の復習
6	近代の経済思想(ユートピア社会主義)	貧困や格差をどう解決すべきか	事前：教科書該当箇所の予習	事後：授業の復習
7	近代の経済思想(マルクス)	資本主義の矛盾とは何か	事前：教科書該当箇所の予習	事後：授業の復習
8	近代の経済思想(19世紀の経済学)	現代のミクロ経済学はどのように作られたか	事前：教科書該当箇所の予習	事後：授業の復習
9	近代の経済思想(ヴェブレン)	資本主義の特徴は何か	事前：教科書該当箇所の予習	事後：授業の復習
10	現代の経済思想(ケインズ)	不況にどう対処すべきか	事前：教科書該当箇所の予習	事後：授業の復習
11	現代の経済思想(シュンペーター)	新結合(イノベーション)とは何か	事前：教科書該当箇所の予習	事後：授業の復習
12	現代の経済思想(現代経済学)	現代の経済学で「思想」はどのような役割を果たしているか	事前：教科書該当箇所の予習	事後：授業の復習
13	日本の経済思想(近世)	江戸時代の日本の経済思想はどのようなものだったのか	事後：授業の復習	
14	日本の経済思想(近現代)	明治から現代までの日本ではどのような経済思想があり、どのように時代と関係してきたのか	事後：授業の復習	
15	まとめ	経済学(者)は思想から無縁でいられるか	事後：授業の復習	

関連科目 経済学入門(エコノミックリテラシー)、西洋経済史、日本経済史、ミクロ経済学、マクロ経済学、社会経済学

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験(100%)で評価する。なお、授業中配布する質問シートに良い質問をした場合は加点する場合がある。

学生へのメッセージ 経済学は多くの人たちの努力によって作られてきました。その歴史を知ることで今の経済学や経済についても理解が深まります。

担当者の研究室等 1号館7階 牧野准教授室(経済学部)

備考

科目名	経済地理	科目名(英文)	Economic Geography
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	経済のグローバル化は、日本経済および地域経済に様々な影響をもたらしている。円高が進むもとの、日本の輸出製造業の大企業が海外へと生産拠点を展開して多国籍化をすすめ、経済の空洞化が危惧されている。高度な技術力で日本のものづくりを支え、地域経済の担い手となってきた中小企業は、大企業の多国籍化のもとで、再編と淘汰を余儀なくされている。国際競争力の強化を求める日本企業は、賃金コストの圧縮のため、非正規雇用の拡大を進めたが、労働者の収入の低下をもたらして国内消費を制限し、日本経済の成長を制約する要因となっている。国内消費が停滞し、デフレが長期化するもとの、国内流通業の再編が進行し、大手小売業への集約化が進行する一方で、各地の駅前商店街が衰退した。日米間の農産物貿易の自由化交渉はTPP交渉に引き継がれ、零細農家の淘汰と農村地域経済の衰弱をもたらしている。経済のグローバル化が進行するもとの、これからの日本の国民経済と地域経済をどう立て直すのか。このような問題意識のもとに、この授業では経済のグローバル化とその日本社会への影響について、多様な側面から講義する。
---------	---

到達目標	経済グローバル化と日本経済の関わりについて、歴史的・具体的に分析する方法について学ぶ。
------	---

授業方法と留意点	教科書にしたがった講義形式で行う。
----------	-------------------

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス	講義概要、教科書紹介	—
2	日本の大企業のグローバル化と中小企業	教科書 第1章	事前・教科書予習
3	自動車産業のグローバル化とトヨタ生産システム	教科書 第2章	事前・教科書予習
4	アメリカIT企業のサービス化と国際分業体制	教科書 第3章	事前・教科書予習
5	アメリカ企業・政府によるグローバル化	教科書 第4章	事前・教科書予習
6	日本の流通の再編と寡占化	教科書 第5章	事前・教科書予習
7	地球環境問題	教科書 第7章	事前・教科書予習
8	グローバル化のもとの日本の労働者の状態	教科書 第8章	事前・教科書予習
9	日本における外国人労働者	教科書 第9章	事前・教科書予習
10	労使関係の日本-スウェーデン比較	教科書 第13章	事前・教科書予習
11	不安定化する世界農産物市場と日本の農業・食料	教科書 第10章	事前・教科書予習
12	地域間格差の拡大と日本財政	教科書 第11章	事前・教科書予習
13	グローバル化と税制改革	教科書 第12章	事前・教科書予習
14	現代資本主義の特徴と日本社会	教科書 序章	事前・教科書予習
15	まとめ		

関連科目	国際経済学入門、日本経済論
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	資本主義の現在-資本蓄積の変容とその社会的影響	豊福裕二編	文理閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	期末レポート(100%)で評価する。
----------	--------------------

学生へのメッセージ	普段から新聞やテレビなどで、現実の経済の動きについて関心を持ってください。積極的に質問をしてください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室(経済学部)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	計量経済学	科目名(英文)	Econometrics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	蛭川 雅之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	計量経済学とは、実際の経済データを使用して経済モデルを推定し評価することを研究対象とする経済学の一分野です。本講義の目的は、計量経済学的手法を政策上の諸問題および様々な意思決定等に活用する能力を養うことです。具体的には、横断面データ・時系列データを用いた線形回帰モデルの推定・検定を中心に解説しますが、一部非線形モデルの解説を行う場合もあります。さらに、適宜計算機実習を実施し、標準的な統計ソフトウェアの操作にも慣れるよう配慮します。
到達目標	横断面データ・時系列データ双方を用いた線形回帰モデルの推定・検定、および推定結果の解釈の方法を習得し、これらを卒業研究等に活用できるようにすることを到達目標とします。
授業方法と留意点	計量経済学を理解するためには、その学問的な性質上、個々の計量手法に関する数学・統計的背景を理解する必要があります。その一方、データとコンピュータを用いてモデルを推定し、得られた結果に解釈を加えるという手順でデータ分析を実際に行うことも不可欠です。そこで、可能な限り、これら二つの側面を同時並行で解説するよう留意します。
科目学習の効果(資格)	回帰分析の基礎知識と標準的な統計ソフトウェアの操作法が身に付きます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義内容の説明、イントロダクション		教科書第1章(事前)
2	確率統計の復習	相関、条件付き期待値	基礎科目「統計学」の復習(事前)
3	単回帰モデルⅠ	最小二乗法	教科書第2・5章(事前)
4	単回帰モデルⅡ	最小二乗推定量の特性、決定係数	教科書第2・5章(事前)
5	重回帰モデル	ガウス＝マルコフの定理	教科書第2・3・5章(事前)
6	仮説検定Ⅰ	単純仮説の検定	教科書第2章(事前)
7	仮説検定Ⅱ	複合仮説の検定	教科書第2・4章(事前)
8	不均一分散	一般化最小二乗法	教科書第6章(事前)
9	第8週までのまとめ、中間試験	前半・総括；後半・中間試験	第8週までの復習(事前)
10	関数形の選択	両対数モデル、多項式モデル、ダミー変数	教科書第3章(事前)
11	制限従属変数モデルⅠ	線形確率モデル、ロジット・モデル、プロビット・モデル	教科書第7章(事前)
12	制限従属変数モデルⅡ	トービット・モデル	教科書第9章(事前)
13	時系列データを用いた回帰分析Ⅰ	時系列データ、系列相関、定常性	講義ノートの点検(事後)
14	時系列データを用いた回帰分析Ⅱ	自己回帰モデル、ベクトル自己回帰モデル、グラujanジャー因果性検定	講義ノートの点検(事後)
15	時系列データを用いた回帰分析Ⅲ	非定常時系列、共和分	講義ノートの点検(事後)

関連科目	統計学で学んだ内容を事前に復習しておいてください。
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		実証分析のための計量経済学：正しい手法と結果の読み方	山本勲
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	宿題(4回、20%)、中間試験(30%)、定期試験(50%)を総合的に評価します。
----------	---

学生へのメッセージ	疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。疑問点を未解決のまま放置して得になることはありません。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館7階 蛭川教授室(経済学部)
------------	-------------------

科目名	ゲーム理論	科目名(英文)	Game Theory
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4△, DP5○, DP6△, DP7○, DP8△, DP9○		

授業概要・目的	ゲーム理論は、経済学のみならずあらゆる分野で応用されており、いまや、ものごとを戦略的・論理的に考える基本的な技術といってよいでしょう。ただし、その基本的な方法を習得し、これらに応用するには一定の練習が必要です。本講義では、経済学でも頻繁に適用される非協力ゲームに絞って、基本的な概念の理解と、応用力を身につけるための問題演習に重点を置きます。
到達目標	最終的には、ゲーム理論を利用して戦略的思考を身につけることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は、ほぼ隔週で小テストを実施します。小テストの得点は、成績評価に依りますので、必ず受けるようにしてください。
科目学習の効果(資格)	他の経済学等の科目(特に「ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」)の学習・理解に資する内容です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ゲーム理論とは何か	イントロダクションとしてミクロ経済学的発想の解説、及びゲーム理論のミクロ経済学への応用例を示します。	授業内容の確認・復習
2	非協力ゲーム1-1 戦略の支配とナッシュ均衡	標準型ゲーム、純粋戦略、囚人のジレンマ、被支配戦略の逐次消去	授業内容の確認・復習
3	非協力ゲーム1-2 混合戦略(1)	ナッシュ均衡、混合戦略	確認テスト1(1~2回までの範囲)
4	非協力ゲーム1-3 混合戦略(2)	混合戦略に関する具体例による演習(復習及び解説) クールノー・モデルなど	授業内容の確認・復習
5	非協力ゲーム1-4 ゼロ和ゲーム(1)	定和ゲーム、ゼロ和ゲーム、マクスマニ戦略、ミニマクス定理	確認テスト2(3~4回までの範囲)
6	非協力ゲーム1-5 ゼロ和ゲーム(2)	ゼロ和ゲームに関する具体例による演習(復習及び解説)	授業内容の確認・復習
7	非協力ゲーム2-1 展開型ゲーム(1)	展開型ゲーム、ゲームの木、展開型ゲームの戦略型表現	確認テスト3(5~6回までの範囲)
8	非協力ゲーム2-2 展開型ゲーム(2)	部分ゲーム完全均衡、局所戦略	授業内容の確認・復習
9	非協力ゲーム2-3 展開型ゲーム(3)	展開型ゲームに関する具体例による演習(復習及び解説) チェーンストア・パラドクスなど	授業内容の確認・復習
10	非協力ゲーム2-4 展開型ゲーム(4)	繰り返しゲーム(有限回)	確認テスト4(7~9回までの範囲)
11	非協力ゲーム2-5 展開型ゲーム(5)	繰り返しゲーム(無限回)、トリガー戦略	授業内容の確認・復習
12	非協力ゲーム3-1 情報不完備なゲーム(1)	ベイジアンゲーム、ベイジアンナッシュ均衡	確認テスト5(10~11回までの範囲)
13	非協力ゲーム3-2 情報不完備なゲーム(2)	完全ベイジアン均衡 自然 信念 一括均衡 分離均衡	授業内容の確認・復習
14	非協力ゲーム3-3 情報不完備なゲーム(3)	公共財、逆選択	確認テスト6(12~13回までの範囲)
15	講義のまとめと今後の学習に関するガイダンス	講義のまとめとして基本的な概念の確認と、講義内で扱えなかったさらなるトピックスについて概説します。	期末テストの学習

関連科目 特に「ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ」その他多数

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	各授業での小テスト約40%、定期試験約60%で総合評価します。
学生へのメッセージ	継続的な演習を促すために、小テストを重視します。数学的な式に不安な場合でも、適宜解説を行いながらゆっくり進めます。
担当者の研究室等	1号館7階 植杉教授室(経済学部)
備考	

科目名	現代ファイナンス論	科目名(英文)	Modern Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	蛭川 雅之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	ファイナンスの基礎的な考え方を解説します。ファイナンス理論は数学・統計学が頻出することもあり、文系学生には一般に馴染みにくい分野です。ファイナンスの数量分析的側面を少しでも実用レベルに近づけるため、エクセルを利用した具体的な数値計算法にも時間を割いて解説する予定です。
到達目標	本講義では、ファイナンスの基礎的な概念の理解すること、およびエクセルを利用してファイナンスに関する数値計算を実行する技術を習得することの2点を目標とします。
授業方法と留意点	毎回の講義は事前に配布される講義ノートに沿って行われます。ノートを担当教員の個人ホームページからダウンロードし、一度目を通したうえで講義時に持参してください。また、エクセル・ファイル等を保存するため、各自USBメモリを用意するとよいでしょう。なお、個々の問題に関するエクセルの操作法は講義で一通り解説する予定ですが、時間に限りがあるため、詳細については教科書を参照することを強くお勧めします。
科目学習の効果(資格)	ファイナンスの基礎知識と(やや高度な)エクセル操作法が身に付きます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義内容の説明、イントロダクション	ファイナンスの概観	教科書序章、講義ノート1(事前)
2	ファイナンスの基礎概念の計算	将来価値と現在価値、年金原価、均等返済	教科書第1章1～3節、講義ノート2(事前)
3	投資判断	正味現在価値(NPV)、内部収益率(IRR)	教科書第1章4～6節、講義ノート3(事前)
4	ポートフォリオ計算の基礎	収益率、期待値、分散、標準偏差	教科書第2章1～2節、講義ノート4(事前)
5	ポートフォリオ計算の基礎(続き)	共分散、相関係数、ポートフォリオ収益率の期待値・分散・標準偏差	教科書第2章3～4節、講義ノート4(事前)
6	効率的フロンティアと資本市場線(CML)	効率的フロンティア、無リスク資産、マーケット・ポートフォリオ、資本市場線(CML)	教科書第2章4節、講義ノート5(事前)
7	資本資産評価モデル(CAPM)	ベータ、資本資産評価モデル(CAPM)、証券市場線(SML)、効率的市場仮説	教科書第2章4～5節、講義ノート6(事前)
8	企業価値評価	加重平均資本コスト(WACC)、フリー・キャッシュ・フロー	教科書第3章1～4節、講義ノート7(事前)
9	企業価値評価(続き)	DCF法、APV法、類似企業比較法	教科書第3章5～6節・第5章6節、講義ノート7(事前)
10	最適資本構成と配当政策	MM(モジリアーニ=ミラー)理論、資金調達の方法	教科書第4章1～3節、講義ノート8(事前)
11	債券投資	債券の種類、利回り、格付、金利の期間構造	教科書第5章1～4節、講義ノート9(事前)
12	株式投資	株式の種類、株価モデル	教科書第5章5節、講義ノート10(事前)
13	デリバティブの理論	先物取引、スワップ取引、通貨スワップ債	教科書第6章1～3節、講義ノート11(事前)
14	オプション取引	オプションの価値、プット・コール・パリティ、ブラック＝ショールズ・モデル、インプライド・ボラティリティ	教科書第6章4～5節・第7章1節、講義ノート12(事前)
15	リアル・オプション	リアル・オプションによるプロジェクト評価	教科書第7章3節、講義ノート13(事前)

関連科目: ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、統計学で学んだ内容を事前に復習しておいてください。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	道具としてのファイナンス	石野雄一	日本実業出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準): 宿題(3回、45%)、期末持ち帰り試験(55%)を総合的に評価します。宿題に関しては、タイプ打ちされたもののみ受け付けます(=手書きは不可とします)のでご注意ください。なお、宿題・試験の書式等詳細については講義中に説明します。

学生へのメッセージ: 疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。疑問点を未解決のまま放置して得になることはありません。

担当者の研究室等: 1号館7階 蛭川教授室(経済学部)

備考:

科目名	公益会計論	科目名(英文)	Accounting of Public Utilities
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 企業の財政状態や経営成績を把握するための財務会計と同様にバランスシート等を導入して、長期的な収支や事業実績を把握するため、発生主義や複式簿記を採用する自治体が増加している。 その意義について講義する。民間企業同様、自治体も経営責任が問われる時代であり、その情報提供手法である公(益)会計処理について理解する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 企業会計は、発生主義、複式簿記を採用している。 国や多くの地方自治体は、現金主義、単式簿記を採用している。 両者の違いを理解し、東京都や大阪市が導入している複式簿記方式の会計の意義について理解する。 今後の国や地方自治体業務の説明責任を達成するための公益会計の果たす役割を理解する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 公益を目的とした公会計は、国及び地方公共団体で行われている会計であり、地方自治法に基づき、詳細については条例・規則に規定され、一般会計、特別会計は、会計年度独立の原則を採用し、単年度会計、現金主義、単式簿記の処理を行っている。 地方自治体も経営責任が重視される。そこで新しい公会計では、民間企業と同様に発生主義、複式簿記の処理を求められつつある新しい公会計処理について講義する。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> 地方自治体における予算・決算処理や会計処理体系など基本的な公会計知識を習得する。 複式簿記、発生主義会計処理を前提とする簿記、会計学等の受験科目がある資格試験における会計処理の理解の一助となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			配布資料	「読む」
1	公益会計(公会計)とは簿記の常識	公会計とは何か、簿記とは何かについて講義する。	配布資料	「作る」-簿記の常識
2	会計の意義	会計の前提、基本ルール及び作成する財務諸表について講義する。	配布資料	「読む」-会計の常識
3	公会計の意義	公会計の対象、法及び現状と基準について講義する。	教科書	第1章 公会計の基礎
4	財務報告	財務報告、発生主義及び財務諸表の焦点、現金主義との比較等について講義する。	教科書	第2章 財務報告
5	財務諸表の構成要素-資産と負債	財務諸表の構成要素の定義、特徴及び資産、負債について講義する。	教科書	第3章 財務諸表の構成要素(1)-資産と負債
6	財務諸表の構成要素-収益と費用	(収入、歳入)と(支出、歳出)について講義する。	教科書	第4章 財務諸表の構成要素(2)-収益と費用
7	公的部門の業績評価	公的部門の評価について講義する。	教科書	第5章 公的部門の業績評価
8	中央政府会計-我が国の中央政府会計制度	中央政府における予算制度について講義する。	教科書	第6章 中央政府会計(1)-我が国の中央政府会計制度
9	中央政府会計-会計の姿とNPMによる予算編成改革の概要	予算制度の問題点と予算編成改革について講義する。	教科書	第7章 中央政府会計(2)-会計の姿とNPMによる予算編成改革の概要
10	地方政府会計-我が国の地方自治体会計の概要	地方自治体の会計制度の概要、予算・決算及び収入・支出等について講義する。	教科書	第8章 地方政府会計(1)-我が国の地方自治体会計の概要
11	地方政府会計-新公会計改革と財政健全化法	新地方公会計改革による財務諸表関係について講義する。	教科書	第9章 地方政府会計(2)-新公会計改革と財政健全化法
12	これまでのまとめ(習熟度等の検証)	これまでの一般会計についての理解と習熟度について試験またはレポート作成によって評価する。		第11回までの資料等
13	公営企業会計	公営企業会計について講義する。	教科書	第10章 公営企業会計
14	各国の政府会計-アメリカ	アメリカの公会計について講義する。GPRA(政府業績評価法)について講義する。	教科書	第11章 各国の政府会計(1)-アメリカ
15	各国の政府会計-イギリス	イギリスの公会計について講義する。ブレア政権での予算会計改革について講義する。	教科書	第12章 各国の政府会計(2)-イギリス

関連科目 地方自治法、財政法等の行政法関連の科目および簿記、会計学関係の科目

番号	書籍名	著者名	出版社名	
			1	2
1	公会計	稲沢克?	同分館出版	
2				
3				

番号	書籍名	著者名	出版社名	
			1	2
1	公会計改革 ディスクロージャが『見える行政』をつくる	公会計改革研究会議	日本経済新聞社	
2				
3				

評価方法(基準) 定期試験(50%)、習熟度試験またはレポート(20%)、受講態度(30%)で総合評価する。

学生へのメッセージ

- 公務員を目指す場合、地方公共団体等が実施している基本的な会計処理や予算積算制度を理解するための講義である。
- 民間企業の会計処理との比較も行う。
- 税金がどのように会計処理されるのか、経済学部学生として公会計への関心を持って頂きたい。
- 簿記や会計学の講義を修得していることが望ましい。
- 勘定科目、仕訳、財務諸表の知識が必要です。

担当者の研究室等 1号館7階 田井准教授室(経済学部)

備考	
----	--

科目名	公共経済学	科目名(英文)	Public Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	平野 泰朗
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8◎, DP9○		

授業概要・目的	社会には市場経済の展開だけでは実現できない社会全体の利益が存在する。それを実現するためには、公的部門の活動が不可欠であることを理解した上で、それを実現するさまざまな手段を学習する。
到達目標	経済政策のニュース、とくに、公共事業、環境対策、医療・福祉・教育サービスに関する政策のニュースを理解でき、それに対して自分なりの評価ができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で行う。 毎回レジュメを配布して、それをもとに、説明を行う。
科目学習の効果(資格)	経済政策に関するニュースが分かるようになる。 教員免許状の「教科に関する科目」の1つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	社会全体の利益と市場の失敗：公共財・外部性・所得分配	市場経済に任せていては実現できない社会全体の利益(公益)が存在する。その代表的例として、公共財(一般道路、治安、国防等)、外部性(環境問題等)、所得分配(生活保護、医療・福祉等)がある。本講義では主としてこれらの問題を取り上げ、公益を実現する方法を考える。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
2	税と公債	公益を実現する最も強力な機関が、政府である。その政府の収入源の主なもの、税と公債である。ここでは、課税の基本原則、その種類、民間経済への影響を考察するとともに、公債の特徴、税との相違を考察する。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
3	公共財とは何か：純粋な公共財と純粋でない公共財	公共財は、私的財と比べてどのような特徴を有するのかを、さまざまな例を通して検討する。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
4	市場と外部不経済ー内部組織と内部化による解決ー	私的活動が他の人々に、市場を通さずにマイナス効果を与える場合がある。それを外部不経済という。この問題は、市場経済のルールだけでは制御しきれない。その場合、どういふ対策があり得るか。まず、内部化による解決策を検討する。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
5	環境政策(1)擬似市場メカニズムによる解決	外部不経済の代表的な例として環境問題がある。その対策として環境政策がある。それに関して、まず、擬似的市場メカニズムを利用する方法(罰金・税金、補助金、取引許可書)について学修する。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
6	環境政策(2)規制と国際条約	環境政策において一国政府の取る各種の規制と規制の国際条約について考察する。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
7	所得再分配と政府の役割：平等と生存権	市場メカニズムが所得の不平等を解決できない理由を理解し、次に、それが、平等や正義とどう関わるかという政治哲学的問題を、経済学の視点から考察する。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
8	社会保険と財政	所得再分配を実現する2つの方法、社会保険と財政のそれぞれの特徴を明らかにする。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
9	公的年金	老後の所得保障等を公的に行う理由と、その多様な方式を明らかにする。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
10	公的に供給される私的財(1)医療	医療は、人の生存権に関わる財・サービスである。それゆえ、それは、しばしば公的に供給される。ここでは、その方法と課題を考察する。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
11	公的に供給される私的財(2)福祉と教育	福祉サービスや教育は、人の生存権・社会権に関わる財・サービスである。それゆえ、それは、しばしば公的に供給される。ここでは、その方法と課題を考察する。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
12	失業問題と社会政策：失業保険・職業紹介・職業訓練	失業対策は、一方で、労働者の生存権を保障するものとして、他方で、経済的・社会的秩序の安定化策として用いられるようになった。その手段としての、失業保険・職業紹介・職業訓練の方法と課題を学ぶ。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
13	地域振興と地方分権	ここまで、主として公共空間を一国と想定してきたが、ここでは地域を公共空間としてみた場合の公益確保策について考察する。	ノート、配布資料を読み返して復習する。
14	民間の役割：社会的企業とCSR	現代では、公的利益を実現する主体として、政府ばかりでなくNPOや企業も参加するようになってきた。その主体や活動の例として、社会的企業とCSR(企業の	ノート、配布資料を読み返して復習する。

			社会的責任)を取り上げ、その具体的方法を学ぶ。	
	15	まとめ	これまでの授業内容の総括と補足を行う。	これまでのノートと配布資料、参考文献などを読み、自らの理解を深める。
関連科目	財政学、公共政策論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	2回あるいは3回、中間レポートを課します。レポート40%、定期試験60%で評価します。 なお、出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。			
学生への メッセージ	政策がわれわれの生活に影響する度合いは、われわれが意識するよりも大きいものです。 その影響を及ぼす経路が分かると、政策関連のニュースもよく分かるようになります。年配者と話をするネタにも使えます。 なお、定期試験問題の一部には、レポート課題に関する問題が必ず出ます。レポート提出後に解説を行います。それをノートに取っておくことが重要です。			
担当者の 研究室等	1号館7階 平野教授室(経済学部)			
備考				

科目名	公共政策論	科目名(英文)	Public Policy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	現実の経済において完全競争市場が成り立たない場合があります。授業ではその原因、それに伴う弊害を解決するための政府の役割と政府の具体的な財政支出、税金等の政策がどのように決定され住民の厚生に影響を与えるかを勉強していきます。
到達目標	市場では解決されない「公共財」「外部性」「所得格差」等の問題を理解し、政府の役割の意義と大切さを理解してもらう。
授業方法と留意点	授業はスライドと板書の両方を用いて行います。公共政策論では政府の役割を理論的に学ぶのに対し、財政学ではデータなどを用いて財政の現状を学びます。
科目学習の効果(資格)	ミクロ経済学で学んだ完全でない競争市場が何故生じるのか、またそのときの政府の役割について詳しく学ぶことができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	政府の役割	財政における政府の役割について説明する。	講義ノートの復習
2	選挙と投票	選挙システムと投票制度について説明する。	講義ノートの復習
3	政党と政策	政党の行動や経済政策と政党との関連について説明する。	講義ノートの復習
4	外部性	市場がうまくいかない原因のひとつである外部性の問題について説明する。	講義ノートの復習
5	公共財	市場がうまくいかない原因のひとつである公共財の問題について説明する。	講義ノートの復習
6	政府支出の問題	政府支出のあり方や支出が拡大するメカニズムについて説明する。	講義ノートの復習
7	税金 I	税金の転嫁と帰着、最適課税論について説明する。	講義ノートの復習
8	税金 II	所得税・消費税について説明する。	講義ノートの復習
9	公債	公債について説明する。	講義ノートの復習
10	再分配政策 I	違う世代間の再分配政策について説明する。	講義ノートの復習
11	再分配政策 II	同じ世代間の再分配政策について説明する。	講義ノートの復習
12	地方分権化	地域経済の活性化のための政策について説明する。	講義ノートの復習
13	地域間再分配政策	国から地方への補助金(国庫支出金、地方交付税)について説明する。	講義ノートの復習
14	1~13回目の授業に関する練習問題	1~13回目の授業に関する練習問題を解説する。	講義ノートの復習
15	総括	14回の講義で学んだことを復習する。	講義ノートの復習

関連科目: ミクロ経済学 I・II、公共経済学、財政学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験(100%)で評価します。 私語をする学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。また授業態度が著しく悪い学生には定期試験の受験資格を認めません。
学生へのメッセージ	疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。
担当者の研究室等	1号館7階 名方准教授室(経済学部)
備考	

科目名	航空産業論	科目名(英文)	Airline Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	航空産業の発展は航空会社の戦略によるものだけでなく、国家の政策や国内外の情勢に大きく影響されます。航空は観光にとって重要な要素であり、運賃や路線開設・撤退、便数計画などは観光客の動向に影響を及ぼします。本授業では航空産業を概観し、全体像を理解することを目的とします。																																																																		
到達目標	航空産業の全体像を理解し、航空関連についての記事や文献の内容を理解できるようになることを目標とします。																																																																		
授業方法と留意点	毎回のテーマに沿った講義を中心に進めます。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション 航空輸送の歴史</td> <td>授業の概要と進め方および航空輸送の歴史について講義を行う</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国際航空輸送の制度的枠組み</td> <td>航空航空輸送にかかわる規範および枠組みについて講義する</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>国際航空における規制緩和の流れ</td> <td>アメリカ、ヨーロッパ、日本での航空政策の変遷について講義する</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>低コスト航空会社(LCC)</td> <td>台頭著しいLCCについて講義する</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>航空会社間の連携(アライアンス)</td> <td>航空会社間の連携について講義する</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>空港</td> <td>日本の空港の現状と課題について講義する</td> <td>事後：配布資料の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>航空安全</td> <td>航空輸送の安全はどのように守られているのかについて講義する</td> <td>事後：配布資料復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>地球環境</td> <td>航空と地球環境の関わりについて講義する</td> <td>事後：配布資料復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>航空事業の構造</td> <td>航空事業の特性・基本構造について講義する</td> <td>事後：配布資料復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>航空運賃とレベニュー・マネジメント</td> <td>国内線・国際線の運賃の特性と収益の最大化について講義する</td> <td>事後：配布資料復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>CSとブランド戦略</td> <td>航空会社が重視するCS戦略とブランド戦略について講義する</td> <td>事後：配布資料復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>CRSとIT戦略</td> <td>航空会社IT戦略とインターネットの影響について講義する</td> <td>事後：配布資料復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>マイレージとデータベースマーケティング</td> <td>航空会社にとってのFFPの役割を講義する</td> <td>事後：配布資料復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>航空貨物</td> <td>物流を支える航空貨物輸送について講義する</td> <td>事後：配布資料復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>これからの航空産業 まとめと補足</td> <td>これからの航空産業のあり方について講義する</td> <td>事後：配布資料復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション 航空輸送の歴史	授業の概要と進め方および航空輸送の歴史について講義を行う	事後：配布資料の復習	2	国際航空輸送の制度的枠組み	航空航空輸送にかかわる規範および枠組みについて講義する	事後：配布資料の復習	3	国際航空における規制緩和の流れ	アメリカ、ヨーロッパ、日本での航空政策の変遷について講義する	事後：配布資料の復習	4	低コスト航空会社(LCC)	台頭著しいLCCについて講義する	事後：配布資料の復習	5	航空会社間の連携(アライアンス)	航空会社間の連携について講義する	事後：配布資料の復習	6	空港	日本の空港の現状と課題について講義する	事後：配布資料の復習	7	航空安全	航空輸送の安全はどのように守られているのかについて講義する	事後：配布資料復習	8	地球環境	航空と地球環境の関わりについて講義する	事後：配布資料復習	9	航空事業の構造	航空事業の特性・基本構造について講義する	事後：配布資料復習	10	航空運賃とレベニュー・マネジメント	国内線・国際線の運賃の特性と収益の最大化について講義する	事後：配布資料復習	11	CSとブランド戦略	航空会社が重視するCS戦略とブランド戦略について講義する	事後：配布資料復習	12	CRSとIT戦略	航空会社IT戦略とインターネットの影響について講義する	事後：配布資料復習	13	マイレージとデータベースマーケティング	航空会社にとってのFFPの役割を講義する	事後：配布資料復習	14	航空貨物	物流を支える航空貨物輸送について講義する	事後：配布資料復習	15	これからの航空産業 まとめと補足	これからの航空産業のあり方について講義する	事後：配布資料復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	イントロダクション 航空輸送の歴史	授業の概要と進め方および航空輸送の歴史について講義を行う	事後：配布資料の復習																																																																
2	国際航空輸送の制度的枠組み	航空航空輸送にかかわる規範および枠組みについて講義する	事後：配布資料の復習																																																																
3	国際航空における規制緩和の流れ	アメリカ、ヨーロッパ、日本での航空政策の変遷について講義する	事後：配布資料の復習																																																																
4	低コスト航空会社(LCC)	台頭著しいLCCについて講義する	事後：配布資料の復習																																																																
5	航空会社間の連携(アライアンス)	航空会社間の連携について講義する	事後：配布資料の復習																																																																
6	空港	日本の空港の現状と課題について講義する	事後：配布資料の復習																																																																
7	航空安全	航空輸送の安全はどのように守られているのかについて講義する	事後：配布資料復習																																																																
8	地球環境	航空と地球環境の関わりについて講義する	事後：配布資料復習																																																																
9	航空事業の構造	航空事業の特性・基本構造について講義する	事後：配布資料復習																																																																
10	航空運賃とレベニュー・マネジメント	国内線・国際線の運賃の特性と収益の最大化について講義する	事後：配布資料復習																																																																
11	CSとブランド戦略	航空会社が重視するCS戦略とブランド戦略について講義する	事後：配布資料復習																																																																
12	CRSとIT戦略	航空会社IT戦略とインターネットの影響について講義する	事後：配布資料復習																																																																
13	マイレージとデータベースマーケティング	航空会社にとってのFFPの役割を講義する	事後：配布資料復習																																																																
14	航空貨物	物流を支える航空貨物輸送について講義する	事後：配布資料復習																																																																
15	これからの航空産業 まとめと補足	これからの航空産業のあり方について講義する	事後：配布資料復習																																																																
関連科目	観光学入門																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	定期試験(50%)と課題提出・小テスト・受講態度等による平常点(50%)を総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	LCCの躍進が話題にのぼることが多い現在、航空産業の動向に興味を持っている人は多いのではないのでしょうか。変化の著しい航空産業について理解を深め、今後のあるべき姿を考えていきましょう。																																																																		
担当者の研究室等	1号館7階 野村准教授室(経済学部)																																																																		
備考																																																																			

科目名	交通経済論	科目名(英文)	Economic Analysis of Transportation
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧野 邦昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	観光経済・地域経済・国際経済に欠かせない交通を経済学を用いて分析できるようになることを目標とする。			
到達目標	交通の経営、交通政策に理解を深める。			
授業方法と留意点	教科書に基づきスライドにより講義を行う。			
科目学習の効果(資格)	関係する業界・公務員等の仕事に関心を持つことができる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション、経済学の復習	授業にあたって必要となる経済学の復習	事前：教科書に一通り目を通しておくこと 事後：授業の復習
	2	交通とは何か	交通サービスの特殊性	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	3	交通データの分析	交通のデータの種類、データの見方	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	4	交通の費用	交通の費用の分類とそれによる交通企業の行動の違い	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	5	交通運賃の理論 1	どのように交通運賃は決まるのか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	6	交通運賃の理論 2	混雑をなくすにはどのような運賃が望ましいか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	7	交通運賃の理論 3	ピーク・ロード・プライシングとラムゼイ運賃形成	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	8	交通運賃の政策 1	どのように公共交通の運賃は規制されているか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	9	交通運賃の政策 2	交通機関における二部料金制度の意味	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	10	規制政策 1	交通規制はなぜ存在するのか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	11	規制政策 2	規制緩和の経済理論	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	12	交通投資	交通機関を整備した結果はどのように評価されるか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	13	外部補助と内部補助	交通機関の赤字はどのように埋められるべきか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	14	交通ネットワーク 1	ネットワークとしての交通を考慮に入れた場合、これまでの議論はどのように修正されるか	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
	15	交通ネットワーク 2、まとめ	ネットワークの重要性と、総合的な交通政策の必要性	事前：教科書該当箇所の予習 事後：授業の復習
関連科目	観光経済論、観光資源論、航空産業論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	交通経済学入門	竹内健蔵	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	定期試験 70%、レポート 30%で評価する。			
学生へのメッセージ	日頃よく使う交通について、経済学を用いて考えられるようにしましょう。			
担当者の研究室等	1号館 7階 牧野准教授室(経済学部)			
備考				

科目名	国際協力論	科目名(英文)	International Co-operation
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	内田 勝巳
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2◎, DP3△, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	国際開発協力の歴史、異なる開発協力主体（国際機関、先進国、NGOや社会的企業等の民間組織）による開発協力の特徴、地球規模の課題等、様々な切り口から国際協力の実態について学ぶことにより、国際協力に関する総合的な知識を身に付けることを目的とする。
到達目標	さまざまな国際協力のあり方を知ることにより、国際社会の課題を理解できるようになることを到達目標とする。
授業方法と留意点	講義を中心に行うが、課題の提出を通じて、講義内容について十分に理解し、国際協力に関する関心をより深めることを期待する。
科目学習の効果(資格)	国際協力の実務者になるために必要な基礎知識を身に付けることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	IMFと世界銀行の金融支援:国際経済の安定と貧困削減戦略	ブレトンウッズ体制の下でIMFと世界銀行が途上国の開発に果たしてきた役割について解説する	前回の復習と課題の提出
3	国連開発機関と持続可能な開発目標(SDGs)	様々な国連開発機関の活動と持続可能な開発目標(SDGs)について解説する	前回の復習と課題の提出
4	DAC加盟国と新興国ドナー	先進国による開発援助委員会(DAC)の役割とDACに加盟していない中国等の新興国ドナーの途上国支援の特徴を解説する	前回の復習と課題の提出
5	日本の政府開発援助(ODA):歴史と理念	日本のODAの歴史と理念について解説する	前回の復習と課題の提出
6	市民社会とNGO	国際協力における市民社会の役割と非政府組織(NGO)の活動について解説する	前回の復習と課題の提出
7	自然災害と緊急人道支援	予測できない自然災害に対して国際社会はどのように対応しているのか解説する	前回の復習と課題の提出
8	平和構築:脆弱国家のガバナンス	政府の統治能力が弱く、国内で紛争等が起こっている国の復興支援や平和構築支援について解説する	前回の復習と課題の提出
9	包括的社会開発:貧困と社会的弱者	子供の権利、ジェンダー平等、障害とユニバーサルデザイン等、包括的な社会開発支援について解説する	前回の復習と課題の提出
10	地域統合:メコン流域開発	地域地統合が進展するASEANのなかで経済開発の遅れたCLMV諸国への広域協力について解説する	前回の復習と課題の提出
11	地球環境問題と持続可能な開発	地球環境問題を中心に持続可能な社会に向けての国際協力のありかたについて解説する	前回の復習と課題の提出
12	民間企業の社会的責任(CSR)とBOPビジネス	世界で活動する多国籍企業の社会的責任(CSR)と途上国でのBOPビジネスについて解説する	前回の復習と課題の提出
13	世界を変える社会起業家:マイクロファイナンス	バングラデシュのグラミン銀行を創設したユヌス教授等、途上国開発に影響を与えた社会起業家について解説する	前回の復習と課題の提出
14	国際協力の管理と評価	多くの国際協力はプロジェクトの形で実施されるが、事業管理や事業評価はどのようになされているのか解説する	前回の復習と課題の提出
15	大学の知的貢献と開発教育	大学は国際協力にどのような貢献ができるのかについて考察する	前回の復習と課題の提出

関連科目	開発経済学
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際協力(第3版)	下村恭民・辻一人・稲田十一・深川由起子	有斐閣
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末試験70%、授業での課題提出及び授業態度30%の割合で総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	私たちは世界中の人々とのつながりの中で生きています。世界の国々や地域は多様性に富んでいます。受講生には、広く世界の出来事に関心を持ち、それぞれの国や人々の異なる文化や価値観を理解し、世界を多面的に見る力を養ってもらいたいと考えています。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館7階 内田教授室(経済学部)
------------	-------------------

科目名	国際金融論	科目名(英文)	International Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久保 廣正
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	国際金融に関する制度および理論を解説し、国際金融現象に対する理解力と洞察力を高めることを目的とする。
到達目標	激変する国際金融市場について、自ら判断できる能力を身に付ける。
授業方法と留意点	指定した教科書を中心に講義する。授業に積極的に参加することを希望する。
科目学習の効果(資格)	国際金融に関する記事やニュースを理解し、それに関して自分自身の意見を述べるができるようにする。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	国際収支の見方	国際収支の作成方法と見方を解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
3	国際資本移動はなぜ生じるか	国際資本移動が生じる経済学的理由を説明する。	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
4	外国為替の仕組み	外国為替市場の仕組みを説明する。	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
5	為替レートをみる	さまざまな為替レートについて説明する。	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
6	円高・円安と貿易収支	円高・円安が貿易収支におよぼす影響について説明する。	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
7	世界の通貨制度	さまざまな世界の通貨制度を解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
8	購買力平価	為替レート決定理論の一つである購買力平価説を解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
9	購買力平価は本当に成立するか。	購買力平価が現実の世界で成立するかどうかを検討する	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
10	金利平価	為替レートの決定理論の一つである金利平価説を解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
11	為替レート決定理論のフローからストックへ	なぜ為替レート決定理論がフローからストックへと転換したかを理論的に説明する。	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
12	為替リスク	為替レート変動にともなう為替リスクについて解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
13	為替レートの予想とニュース	為替レートの予想に関してニュースがどのような役割を果たすかを解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
14	為替介入	外国為替市場に政府が介入する意味と限界について解説する。	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習
15	まとめと総括	まとめをし、質問があれば答える。	事前:教材全体の復習 事後:全体の講義を参考に繰り返し復習する。

関連科目	国際経済論
------	-------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	中間試験(20%)、定期試験(80%)を総合的に判定する。
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	国際金融現象に関心をもつようにし、疑問点や不明点については、積極的に質問することを歓迎する。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 久保教授室(経済学部)
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	国際経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to International Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ABCDEFGHIJ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	初めて経済学を学ぶ初学者が、経済のグローバル化が進展する 21 世紀の世界経済と日本経済について、おおよそのイメージを獲得することが、この授業の目的である。この授業では、経済のグローバル化について、商品の生産と流通に関わる実体経済分野と、貨幣の貸し借りや投資に関わる金融分野とに分けて、グローバル化の推進主体や諸制度、グローバル化によって発生した諸問題について講義する。さらに、経済のグローバル化が日本経済（国民経済）にどのような影響を及ぼしているか講義する。
到達目標	この授業に参加する学生の目標は、第一に、現代のグローバル経済と日本経済の関係について学び、これから大学で経済学を学ぶモチベーションを高めることである。第二に、大学の講義でのノートの取り方について学び、基礎的な学習方法を身につけることである。
授業方法と留意点	教科書の内容解説を主とする講義形式で行う。しっかりと教科書を予習し、疑問点を明確にしながら授業に臨んでもらいたい。ノートを評価対象とするので、ノートのとり方を身につけること。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス	講義概要、教科書の紹介	-
2	経済活動のグローバリゼーション	グローバリゼーションの推進主体 貿易・投資を支える諸制度 グローバルな生産ネットワークの統治構造	教科書 (p.10-21) の予習
3	経済活動のグローバリゼーション	小売業のグローバルな活動 金融グローバル化の二面性 巨額の外国為替取引の謎	教科書 (p.22-33) の予習
4	経済活動のグローバリゼーション	中小企業の役割 グローバリゼーション下の基盤技術産業 グローバル化と税の公平性	教科書 (p.34-45) の予習
5	経済活動のグローバリゼーション	BRICs と NEXT11 BOP ビジネスと貧困 開発援助を通して見る世界 グローバリゼーションと食料・農業問題	教科書 (pp.46-63) の予習
6	「金融化」する現代資本主義	経済の金融化とは何か 国際金融市場の不安定化と世界金融恐慌 金融の証券化は万能薬か？	教科書 (p.65-77) の予習
7	「金融化」する現代資本主義	デリバティブとは 投機としてのデリバティブ 金融自由化の原動力 規制の民営化	教科書 (p.78-95) の予習
8	「金融化」する現代資本主義	銀行のビジネスモデルの変容 影の銀行システム 機関投資家の台頭	教科書 (p.96-107) の予習
9	「金融化」する現代資本主義	中小企業の資金繰りはなぜ厳しいのか 家計の債務増大 異次元緩和が増幅する国際市場のリスク	教科書 (p.108-121) の予習
10	新自由主義と日本経済	日本経済の構造変化 日本経済の“成長戦略” 株主価値重視の経営	教科書 (p.122-135) の予習
11	新自由主義と日本経済	不安定雇用の増大 正規雇用の長時間労働 女性の労働	教科書 (p.136-147) の予習
12	新自由主義と日本経済	なぜ賃金が下がり続けるのか 所得格差の拡大 労働組合とは何か	教科書 (p.148-159) の予習
13	新自由主義と日本経済	アベノミクスと異例の金融政策 貯蓄から投資へ 公共経済と日本経済	教科書 (pp.160-171) の予習
14	新自由主義と日本経済	エネルギー問題のゆくえ	教科書 (pp.172-177) の予習
15	まとめ	講義のまとめ	

関連科目	経済地理、西洋経済史、アジア経済史、日本経済史、地球環境経済、農業経済論、社会経済学 I、II、アメリカ経済・文化論、アジア経済・文化論、ヨーロッパ経済・文化論
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	ノート提出(20%)、定期試験(80%)の結果をふまえて、総合的に評価する。
------	--

(基準)	なお出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。
学生へのメッセージ	経済学は、現実の経済活動について生き生きとしたイメージを得るところから始まります。学生は経済生活を実際に経験しないので、経済についてイメージをもちにくく、経済学はとっつきにくいものです。しかし、君たちが将来経験する就職活動は、自分を労働力市場に投げ出し、販売するという経済活動です。そして、君たちの個人的な人生に大きな意味を持つ就職活動は、世界経済に連動した日本企業の動向に大きく影響を受けます。就職活動を開始するまでに、自分の個人的人生に影響を与える世の中の経済的な動きについて、ある程度の見通しをもつことを目指して、これから経済学を学ぶモチベーションを高めてほしい、と思います。
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室(経済学部)
備考	

科目名	国際経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to International Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	KLMNOPQRST
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	日本を含む世界の経済問題を広く扱う。世界の実物市場と金融市場で近年みられる顕著な動きを学び、アベノミクスと呼ばれるような日本の経済政策についても議論する。
到達目標	国際経済の事情をひとつずつ把握し、その中で日本経済がどのような位置にあるのかを理解すること。

授業方法と留意点	教科書に沿って講義を行う。その中でトピックに応じた映像を紹介する。
----------	-----------------------------------

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	経済活動のグローバル化	グローバル化の推進主体 貿易・投資を支える諸制度 グローバルな生産ネットワークの統治構造	教科書 P10-21 の予習
3	経済活動のグローバル化	小売業のグローバルな活動 金融グローバル化の二面性 巨額の外国為替取引の謎	教科書 P22-33 の予習
4	経済活動のグローバル化	中小企業の役割 グローバル化下の基盤技術産業 グローバル化と税の公平性	教科書 P34-45 の予習
5	経済活動のグローバル化	BRICs と NEXT11 BOP ビジネスと貧困 開発援助を通して世界	教科書 P46-63 の予習
6	「金融化」する現代資本主義	経済の金融化とは何か 国際金融市場の不安定化と世界金融恐慌 金融の証券化は万能薬か?	教科書 P65-77 の予習
7	「金融化」する現代資本主義	デリバティブとは 投機としてのデリバティブ 金融自由化の原動力 規制の民営化	教科書 P78-95 の予習
8	「金融化」する現代資本主義	銀行のビジネスモデルの変容 影の銀行システム 機関投資家の台頭	教科書 P96-107 の予習
9	「金融化」する現代資本主義	中小企業の資金繰りはなぜ厳しいのか 家計の債務増大 異次元緩和が増幅する国際市場のリスク	教科書 P108-121 の予習
10	新自由主義と日本経済	日本経済の構造変化 日本経済の?成長戦略? 株主価値重視の経営	教科書 P122-135 の予習
11	新自由主義と日本経済	不安定雇用の増大 正規雇用の長時間労働 女性の労働	教科書 P136-147 の予習
12	新自由主義と日本経済	なぜ賃金が下がり続けるのか 所得格差の拡大 労働組合とは何か	教科書 P148-159 の予習
13	新自由主義と日本経済	アベノミクスと異例の金融政策 貯蓄から投資へ 公共経済と日本経済	教科書 P160-171 の予習
14	新自由主義と日本経済	エネルギー問題のゆくえ	教科書 P172-177 の予習
15	まとめ		

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図説 経済の論点	柴田努、新井大輔、森原康仁編	旬報社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法 (基準)	小テスト 30%、定期試験 70% で評価するが、出席率や態度が非常に悪い場合は減点の可能性はある。
-----------	--

学生へのメッセージ	疑問があれば、講義の最中でも積極的に質問をしてください。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等	1号館 7階 田中研究室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	国際経済実践演習	科目名 (英文)	Practical Seminar on International Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 廣正, 内田 勝巳, 田中 鉄二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	8月下旬から9月初旬まで約2週間、豪州に滞在し、英語による講義受講、豪州企業あるいは農家訪問などを通じ、国際経済の動きに触れること、生きた英語を学ぶことにより、経済学部生として必要な知識・英語能力を向上させる。			
到達目標	経済動向に関する自らの考え方を明確に英語で表現し、意思疎通を図ることができるようになる。			
授業方法と留意点	8月下旬から9月初旬まで約2週間、豪州 University of New England 周辺の一般家庭宅に滞在し、同大学における講義を受講する。また、企業・農家訪問なども予定している。そのための費用は合計で約25万円（航空券+現地滞在費）。なお、滞在期間中、教員が引率を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	わが国国際収支動向、日豪経済関係、自由貿易協定など国際経済に関する基礎的知識を事前に学んでおくこと。また、帰国した後、報告会に出席し、学んだ内容についてレポートすること。			
関連科目	地域統合論、貿易論、国際投資論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	現地での学習態度、さらには事前事後の学習態度を総合評価する。			
学生へのメッセージ	海外に出て、生きた英語を通して国際経済の動きを実感しましょう。			
担当者の研究室等	1号館7階 久保教授室, 内田教授室			
備考	5月に説明会を実施する。また、参加費用については、学部からの援助がある。			

科目名	国際経済実践演習	科目名 (英文)	Practical Seminar on International Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	この実践演習では、夏休み期間中(8月下旬)に一週間程度、中国・上海にてフィールドワークを行う。履修学生は、他大学の学生とともに、「上海グローバルキャリアプログラム」に参加する。また、フィールドワークの前後に集中講義を行う。		
到達目標	上海で活動する日本企業を見学し、日本人駐在員や中国大学生との交流を通じて、海外で働くことの喜びや苦勞を学び、海外で働くための資質について考える機会をもつことで、自分の進路にむけて主体的に準備ができるようになる。		
授業方法と留意点	海外でのフィールドワーク「上海グローバルキャリアプログラム」と、その前後に実施する講義からなる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前授業】上海でのフィールドワークの準備として、外部講師を招いて、中国の歴史、政治、経済および上海進出日本企業の活動の概要について学ぶ。グループワークや課題研究発表などを行う。</p> <p>【事後授業】上海でのフィールドワークを振り返る報告発表を行う。</p> <p>【実習先と実習時期 (予定)】8月後半に一週間程度の上海フィールドワークを行い、上海市内の視察、中国の大学生との交流、日本企業数社の訪問、若手日本人ビジネスマンとの交流などを計画している。詳細な日時とプログラム内容については、別途掲示する。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	上海でのフィールドワークに出席することが必須である。前後に行う講義の出席状況と、授業への参加態度などを考慮に入れて、総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	上海で活動する日本企業の訪問、ビジネスマンや中国大学生との交流など、他では得がたい貴重な体験がもてる機会なので、積極的に挑戦してほしい。		
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室		
備考	15名を定員とする。定員を超えて申込者があった場合は、面接等によって選抜する。参加費用については、学部からの援助がある。		

科目名	国際経済の新動向	科目名 (英文)	New Trends in International Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	本講義では最新の世界の経済問題や潮流を幅広く学習する。		
到達目標	各地域の経済を把握することで世界経済の動きを俯瞰できるようになること。		
授業方法と留意点	スライドによる講義だけでなく、映像も使い講義を進める。		
科目学習の効果 (資格)			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等
	1	講義のガイダンス、イントロダクション	
	2	米国経済 (1)	米国の金融政策 株式市場 シェール革命
	3	米国経済 (2)	長期停滞論 労働市場
	4	欧州経済 (1)	欧州の金融政策 株式市場
	5	欧州経済 (2)	移民問題 Brexit ショック EU 財政問題
	6	中国経済	中国の株式市場 過剰債務問題
	7	アジア経済	アジア経済 フィリピン経済
	8	その他の新興国経済	ロシア経済 中南米経済 ブラジル経済
	9	日本経済 (1)	金融政策
	10	日本経済 (2)	財政
	11	日本経済 (3)	少子高齢化 不動産市場
	12	日本経済 (4)	農政 TPP
	13	その他の動向 (1)	Fintech からの金融イノベーション
	14	その他の動向 (2)	気候変動 原油相場
	15	まとめ	
事前・事後学習課題			
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	経済がわかる論点 50 2017	みずほ総合研究所
	2	この一冊でわかる世界経済の新常識 2017	大和総研編著
	3		
出版社名			
1	東洋経済新報社		
2	日経 BP 社		
3			
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
出版社名			
1			
2			
3			
評価方法 (基準)	平常点 50% (中間テスト等)、定期試験 50% の割合で評価する。		
学生へのメッセージ	疑問があれば、講義の最中でも積極的に質問をしてください。		
担当者の研究室等	1 号館 7 階 田中研究室		
備考			

科目名	国際経済論	科目名(英文)	International Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ABCDEFGHIJ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	初めて経済学を学ぶ初学者が、経済のグローバル化が進展する21世紀の世界経済と日本経済について、おおよそのイメージを獲得することが、この授業の目的である。この授業では、経済のグローバル化について、商品の生産と流通に関わる実体経済分野と、貨幣の貸し借りや投資に関わる金融分野とに分けて、グローバル化の推進主体や諸制度、グローバル化によって発生した諸問題について講義する。さらに、経済のグローバル化が日本経済(国民経済)にどのような影響を及ぼしているか講義する。
到達目標	この授業に参加する学生の目標は、第一に、現代のグローバル経済と日本経済の関係について学び、これから大学で経済学を学ぶモチベーションを高めることである。第二に、大学の講義でのノートの取り方について学び、基礎的な学習方法を身につけることである。
授業方法と留意点	教科書の内容解説を主とする講義形式で行う。しっかりと教科書を予習し、疑問点を明確にしながら授業に臨んでもらいたい。ノートを評価対象とするので、ノートのとり方を身につけること。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス	講義概要、教科書の紹介	-
2	経済活動のグローバル化	グローバル化の推進主体 貿易・投資を支える諸制度 グローバルな生産ネットワークの統治構造	教科書(p.10-21)の予習
3	経済活動のグローバル化	小売業のグローバルな活動 金融グローバル化の二面性 巨額の外国為替取引の謎	教科書(p.22-33)の予習
4	経済活動のグローバル化	中小企業の役割 グローバル化下の基盤技術産業 グローバル化と税の公平性	教科書(p.34-45)の予習
5	経済活動のグローバル化	BRICsとNEXT11 BOPビジネスと貧困 開発援助を通して世界 グローバル化と食料・農業問題	教科書(pp.46-63)の予習
6	「金融化」する現代資本主義	経済の金融化とは何か 国際金融市場の不安定化と世界金融恐慌 金融の証券化は万能薬か?	教科書(p.65-77)の予習
7	「金融化」する現代資本主義	デリバティブとは 投機としてのデリバティブ 金融自由化の原動力 規制の民営化	教科書(p.78-95)の予習
8	「金融化」する現代資本主義	銀行のビジネスモデルの変容 影の銀行システム 機関投資家の台頭	教科書(p.96-107)の予習
9	「金融化」する現代資本主義	中小企業の資金繰りはなぜ厳しいのか 家計の債務増大 異次元緩和が増幅する国際市場のリスク	教科書(p.108-121)の予習
10	新自由主義と日本経済	日本経済の構造変化 日本経済の“成長戦略” 株主価値重視の経営	教科書(p.122-135)の予習
11	新自由主義と日本経済	不安定雇用の増大 正規雇用の長時間労働 女性の労働	教科書(p.136-147)の予習
12	新自由主義と日本経済	なぜ賃金が下がり続けるのか 所得格差の拡大 労働組合とは何か	教科書(p.148-159)の予習
13	新自由主義と日本経済	アベノミクスと異例の金融政策 貯蓄から投資へ 公共経済と日本経済	教科書(pp.160-171)の予習
14	新自由主義と日本経済	エネルギー問題のゆくえ	教科書(pp.172-177)の予習
15	まとめ	講義のまとめ	

関連科目	経済地理、西洋経済史、アジア経済史、日本経済史、地球環境経済、農業経済論、社会経済学I、II、アメリカ経済・文化論、アジア経済・文化論、ヨーロッパ経済・文化論
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法	ノート提出(20%)、定期試験(80%)の結果をふまえて、総合的に評価する。
------	--

(基準)	なお出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。
学生への メッセージ	経済学は、現実の経済活動について生き生きとしたイメージを得るところから始まります。学生は経済生活を実際に経験しないので、経済についてイメージをもちにくく、経済学はとっつきにくいものです。しかし、君たちが将来経験する就職活動は、自分を労働力市場に投げ出し、販売するという経済活動です。そして、君たちの個人的な人生に大きな意味を持つ就職活動は、世界経済に連動した日本企業の動向に大きく影響を受けます。就職活動を開始するまでに、自分の個人的人生に影響を与える世の中の経済的な動きについて、ある程度の見通しをもつことを目指して、これから経済学を学ぶモチベーションを高めてほしい、と思います。
担当者の 研究室等	1号館7階 野口准教授室(経済学部)
備考	

科目名	国際経済論	科目名(英文)	International Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	KLMNOPQRST
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	日本を含む世界の経済問題を広く扱う。世界の実物市場と金融市場で近年みられる顕著な動きを学び、アベノミクスと呼ばれるような日本の経済政策についても議論する。
到達目標	国際経済の事情をひとつずつ把握し、その中で日本経済がどのような位置にあるのかを理解すること。

授業方法と留意点	教科書に沿って講義を行う。その中でトピックに応じた映像を紹介する。
----------	-----------------------------------

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	経済活動のグローバル化	グローバル化の推進主体 貿易・投資を支える諸制度 グローバルな生産ネットワークの統治構造	教科書 P10-21 の予習
3	経済活動のグローバル化	小売業のグローバルな活動 金融グローバル化の二面性 巨額の外国為替取引の謎	教科書 P22-33 の予習
4	経済活動のグローバル化	中小企業の役割 グローバル化下の基盤技術産業 グローバル化と税の公平性	教科書 P34-45 の予習
5	経済活動のグローバル化	BRICs と NEXT11 BOP ビジネスと貧困 開発援助を通して世界	教科書 P46-63 の予習
6	「金融化」する現代資本主義	経済の金融化とは何か 国際金融市場の不安定化と世界金融恐慌 金融の証券化は万能薬か?	教科書 P65-77 の予習
7	「金融化」する現代資本主義	デリバティブとは 投機としてのデリバティブ 金融自由化の原動力 規制の民営化	教科書 P78-95 の予習
8	「金融化」する現代資本主義	銀行のビジネスモデルの変容 影の銀行システム 機関投資家の台頭	教科書 P96-107 の予習
9	「金融化」する現代資本主義	中小企業の資金繰りはなぜ厳しいのか 家計の債務増大 異次元緩和が増幅する国際市場のリスク	教科書 P108-121 の予習
10	新自由主義と日本経済	日本経済の構造変化 日本経済の?成長戦略? 株主価値重視の経営	教科書 P122-135 の予習
11	新自由主義と日本経済	不安定雇用の増大 正規雇用の長時間労働 女性の労働	教科書 P136-147 の予習
12	新自由主義と日本経済	なぜ賃金が下がり続けるのか 所得格差の拡大 労働組合とは何か	教科書 P148-159 の予習
13	新自由主義と日本経済	アベノミクスと異例の金融政策 貯蓄から投資へ 公共経済と日本経済	教科書 P160-171 の予習
14	新自由主義と日本経済	エネルギー問題のゆくえ	教科書 P172-177 の予習
15	まとめ		

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図説 経済の論点	柴田努、新井大輔、森原康仁編	旬報社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	小テスト 30%、定期試験 70%で評価するが、出席率や態度が非常に悪い場合は減点の可能性はある。
----------	---

学生へのメッセージ	疑問があれば、講義の最中でも積極的に質問をしてください。
-----------	------------------------------

担当者の研究室等備考	1号館7階 田中研究室
------------	-------------

科目名	国際投資論	科目名(英文)	International Investment
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	本講義では前半では企業の直接投資や為替レート、通貨危機などのマクロ的な視点で、後半では実際の決算書などから企業の評価の方法というミクロ的な視点で講義する。
到達目標	マクロ・ミクロから見た国際投資の全体を幅広く理解すること。
授業方法と留意点	講義形式で行う。前半は教科書を用い、後半は講義ノートに基づいて行う。
科目学習の効果(資格)	決算書からある程度企業評価ができるようになるので金融機関へ就職を考えている学生のみならず、どの学生にも就職活動の際、役立つだろう。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	基本的視点の設定	金融取引の意味と効果 国際的視点:国境を越えた経済取引を考える	教科書第1章の復習
3	国民経済計算と国際収支会計	国民経済計算 GDPの構成要素 国際収支会計	教科書第2章の復習
4	貨幣とマクロ経済	貨幣とその役割 資産としての貨幣とその特徴 貨幣需要、貨幣供給 貨幣と物価:経済分析における短期と長期	教科書第3章の復習
5	為替レートと外国為替市場	貨幣と名目為替レート 相対価格と実質為替レート 実効為替レート 外国為替市場:直物と先渡レート デリバティブ	教科書第4章の復習
6	通貨危機と金融危機	債務危機 通貨危機とそのメカニズム	教科書第10章の復習
7	直接投資と企業のグローバル展開	拡大する直接投資 直接投資の理論 直接投資のインパクト	講義ノートの復習
8	金融自由化と銀行業の変化 中間テスト	金融自由化の原動力 ビジネスモデルの変化 影の銀行システム	講義ノートの復習
9	ファンダメンタル分析(1)	会社四季報の読み方1	講義ノートの復習
10	ファンダメンタル分析(2)	会社四季報の読み方2	講義ノートの復習
11	ファンダメンタル分析(3)	代表的バリュエーション指標1	講義ノートの復習
12	ファンダメンタル分析(4)	代表的バリュエーション指標2	講義ノートの復習
13	ファンダメンタル分析(5)	決算書の理解応用編1	講義ノートの復習
14	ファンダメンタル分析(6)	決算書の理解応用編2	講義ノートの復習
15	テクニカル分析	ローソク足 移動平均線 出来高	講義ノートの復習

関連科目 国際経済学入門、国際金融論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際金融論	藤井英次	新世社
2	ファンダメンタル投資の教科書	足立武志	ダイヤモンド社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際経済入門	伊藤元重	日本経済新聞出版社
2				
3				

評価方法(基準)	平常点50%(中間テスト等)、定期試験50%の割合で評価する。
学生へのメッセージ	疑問があれば、講義の最中でも積極的に質問をしてください。
担当者の研究室等	1号館7階 田中研究室
備考	

科目名	国際マーケティング論	科目名(英文)	International Marketing
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岸田 未来
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△, DP3○, DP4○, DP5○, DP6△, DP7○, DP8△, DP9○		

授業概要・目的	企業活動の目的の一つは、新規市場を開拓し、既存の市場においては他社に対する支配的な地位を確立することである。本講義の目的は、そのような市場を対象とした活動の一つとして、生成・発展してきた宣伝・広告、ブランド戦略、市場調査などの多様なマーケティング活動の役割を、企業の国際的な経営活動の観点から明らかにすることである。講義では、企業による国際的なマーケティング活動を、市場環境の変化と関連付けながら体系的に理解することを目標とする。
到達目標	国際マーケティングにかかわる用語を理解し、グローバルな企業活動においてマーケティング活動の果たす重要性について説明できる。
授業方法と留意点	講義形式で行う。必要に応じて資料や映像などを使用する。
科目学習の効果(資格)	現代企業のグローバルな経営活動を理解し、国際マーケティングに関連する諸問題について分析できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	現代マーケティングの基本概念	現代マーケティングにおける STP とマーケティング・ミックス	配布プリントでの復習
3	企業活動のグローバル化と国際マーケティング	多国籍企業の成長とマーケティング活動、国際マーケティングの特徴	配布プリントでの復習
4	グローバル・マーケットと STP	世界の市場におけるセグメンテーションと、当該国市場でのターゲティング・ポジショニング	配布プリントでの復習
5	グローバルな市場参入戦略	参入方法の決定基準と参入方法の選択	配布プリントでの復習
6	国際マーケティングと製品政策①	複数国市場に対応した製品開発戦略	配布プリントでの復習
7	国際マーケティングと製品政策②	製品政策における世界同一商品戦略と現地適応化戦略	配布プリントでの復習
8	国際マーケティングと価格政策①	生産の多国籍化と国際価格設定	配布プリントでの復習
9	国際マーケティングと価格政策②	グローバルな価格設定の諸要因と価格政策のマネジメント	配布プリントでの復習
10	国際マーケティングと流通政策①	流通の国際化とグローバル・サプライチェーン	配布プリントでの復習
11	国際マーケティングと流通政策②	各国における流通チャネルの開拓とグローバル小売の役割	配布プリントでの復習
12	国際マーケティングとプロモーション政策①	国際プロモーション戦略の多様性	配布プリントでの復習
13	国際マーケティングとプロモーション政策②	プロモーション政策における文化問題と各国の広告規制	配布プリントでの復習
14	企業の国際ブランド戦略	国境を越えるブランドを作り出す企業戦略とマーケティング活動	配布プリントでの復習
15	新規市場の創出とマーケティング活動	途上国市場におけるマーケティング活動	配布プリントでの復習

関連科目	経営学
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験 75%、授業中に行うミニレポートや授業参加態度(質問、感想等)(25%)を総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	企業経営に関連するニュースや記事を、普段から意識的にフォローしておくことをお勧めします。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館7階 岸田准教授室(経済学部)
------------	--------------------

科目名	サービス産業論	科目名(英文)	Service Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西川 浩平
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	経済学の理解において価格は重要な役割を担っている。製造業については、メーカー、卸売業者、小売業者等との取引を通じて、ある程度定型的に価格は決定しているが、サービス産業については定型に当てはまらない分野が多々ある。本講義では、この定型に当てはまらない産業に着目し、当該産業の現状を概観した上で、価格決定プロセスおよび、当該プロセスが採用された経済的根拠について学習する。
到達目標	経済学的思考と知識に基づき、我が国におけるサービス産業の価格決定プロセスを通じて、当該産業の現状と課題を理解する能力を養う。
授業方法と留意点	授業は基本的に講義形式で行うが、随時講義中に確認および応用の問題を出す。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	サービスの定義	サービスの用語と系譜について学習する。	講義した内容について復習する。
3	ミクロ経済学の復習(1)	完全競争市場、独占市場における価格の決定方法について復習する。	講義した内容について復習する。
4	ミクロ経済学の復習(2)	寡占市場における価格の決定方法について復習する。	講義した内容について復習する。
5	タクシー産業(1)	タクシー市場の現状および課題について学習する。	講義した内容について復習する。
6	タクシー産業(2)	タクシー市場における価格規制の変遷を学習する。	講義した内容について復習する。
7	タクシー産業(3)	タクシー市場の価格規制の緩和が及ぼした影響について学習する。	講義した内容について復習する。
8	前半の講義の復習および中間試験	これまでの講義の内容を復習し、簡単な試験を実施する。	特になし。
9	電力市場(1)	電力市場の現状および課題について学習する。	講義した内容について復習する。
10	電力市場(2)	電力市場で採用されている総括原価方式について学習する。	講義した内容について復習する。
11	電力市場(3)	インセンティブ規制であるヤードスティック規制、プライスキップ規制について学習する。	講義した内容について復習する。
12	電力市場(4)	電力市場における発送電分離について学習する。	講義した内容について復習する。
13	医療市場(1)	医療市場の現状および課題について学習する。	講義した内容について復習する。
14	医療市場(2)	医療の価格を決定する診療報酬制度について学習する。	講義した内容について復習する。
15	医療市場(3)	医療における価格規制が医師や患者の行動に及ぼす影響を学習する。	講義した内容について復習する。

関連科目	ミクロ経済学、産業組織論。
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(70%)およびレポート(30%)の点数で評価する。
----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	経済に関する情報はテレビや新聞等あらゆるメディアで提供されています。常にアンテナを張って興味・関心のあるテーマを見つけて下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 西川講師室(経済学部)
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	財政学	科目名(英文)	Public Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9○		

授業概要・目的	日本における予算制度、歳出と歳入、税金のあり方、公債の特徴、地方財政制度について説明し、現在の日本が直面している財政の状況、財政赤字、高齢化に伴う社会保障、地方分権等の問題についての理解を深めます。
到達目標	現在の日本の財政が直面している財政赤字、社会保障、所得税・消費税・法人税などの税金の問題を具体的な数字を見ることによって理解し、一国民として今後の日本の将来を考えてもらう。
授業方法と留意点	授業はスライドと板書の両方を用いて行います。財政学ではデータなどを用いて財政の現状を学ぶのに対し、公共政策論では政府の役割を理論的に学びます。
科目学習の効果(資格)	私達の身近な問題である、財政赤字、税金、社会保障の問題が詳しくわかります。また公務員試験の勉強にも役立ちます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	財政論とは？	財政学の考え方と財政の役割について説明する。	講義ノートの復習
2	予算原則と予算制度	日本の予算制度について説明する。	講義ノートの復習
3	歳出と歳入	我が国の財政事情について説明する。	講義ノートの復習
4	社会保障制度 I	年金・医療保険・生活保護等について説明する。	講義ノートの復習
5	社会保障制度 II	年金・医療保険・生活保護等について説明する。	講義ノートの復習
6	各国の財政事情	先進国の財政事情について説明する。	講義ノートの復習
7	税金	直接税・間接税の特徴について説明する。	講義ノートの復習
8	租税原則と財政投融资制度	租税制度のあるべき姿と財政投融资改革について説明する。	講義ノートの復習
9	我が国の租税制度 I	所得税、支出税、法人税について説明する。	講義ノートの復習
10	我が国の租税制度 II	消費税、贈与税、最近の税制改革について説明する。	講義ノートの復習
11	公債	我が国の公債について説明する。	講義ノートの復習
12	公債の理論	公債による経済的な影響について説明する。	講義ノートの復習
13	地方財政 I	国と地方の役割分担について説明する。	講義ノートの復習
14	地方財政 II	地方税と補助金(国庫支出金、地方交付税)について説明する。	講義ノートの復習
15	総括	14回の講義で学んだことを復習する。	講義ノートの復習

関連科目	公共政策論、公共経済学
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(100%)で総合的に評価します。座席指定を行います。私語をする学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。また授業態度が著しく悪い学生には定期試験の受験資格を認めません。
----------	---

学生へのメッセージ	疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 名方准教授室(経済学部)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	産業組織論	科目名(英文)	Industrial Organization
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	蛭川 雅之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	産業組織論は、産業のパフォーマンスの決定要因を企業の行動、市場の構造、企業組織、政府の政策の影響など主として供給サイドから分析することを目的とします。本講義では産業組織の理論および応用をバランスよく解説します。
到達目標	ミクロ経済学を応用して、企業の機能、市場の構造、企業が利潤最大化・成長を達成するための戦略的行動に関する理解を深めます。また、経済厚生を損なう企業行動を抑制するための政府の役割についても考察します。
授業方法と留意点	毎回の講義は事前に配布される講義ノートに沿って行われます。ノートを担当教員の個人ホームページからダウンロードし、一度目を通したうえで講義時に持参してください。また、科目の性格上、ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱの話題と重なる部分が多いので、企業の意味決定に関する箇所を復習しておくとういでしょう。
科目学習の効果(資格)	企業の機能、市場の構造、利潤拡大化・成長のための企業戦略、政府の役割等を理論的に理解することができます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	企業の機能と構造	企業の構造、資金調達、利潤最大化行動	教科書第2章、講義ノート2(事前)
3	コーポレート・ガバナンス	所有と経営の分離、エージェンシー理論	講義ノート3(事前)
4	産業分析の基礎概念	完全競争市場、消費者余剰、生産者余剰	教科書第1章、講義ノート4(事前)
5	独占企業の行動とその経済的帰結Ⅰ	独占企業の行動、独占の非効率性	教科書第3章、講義ノート5(事前)
6	独占企業の行動とその経済的帰結Ⅱ	価格差別、買い手独占、反独占政策	(同上)
7	競争の形態とその経済効果Ⅰ	寡占市場、数量競争	教科書第5章、講義ノート6(事前)
8	競争の形態とその経済効果Ⅱ	価格競争、市場支配力と市場集中度	(同上)
9	カルテル、合併・買収及び事業提携	カルテル、囚人のジレンマ、繰り返しゲーム、合併・買収	教科書第7章、講義ノート7(事前)
10	第8週までのまとめ、中間試験	前半・総括; 後半・中間試験	第8週までの復習(事前)
11	垂直統合と垂直的制限	垂直統合、垂直的制限	教科書第4章、講義ノート8(事前)
12	参入の経済効果	参入の経済厚生への影響、コンテストブル市場、独占的競争	教科書第6章、講義ノート9(事前)
13	情報の非対称性と企業行動Ⅰ	逆選択、シグナリング、製品保証	教科書第8章、講義ノート10(事前)
14	情報の非対称性と企業行動Ⅱ	広告と情報、プリンシパル=エージェンツ問題	(同上)
15	規制とその改革	公的規制、料金体系の理論	教科書第13章、講義ノート11(事前)

関連科目	ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ
------	-----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準)	宿題(4回、20%)、中間試験(30%)、定期試験(50%)を総合的に評価します。
学生へのメッセージ	疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。疑問点を未解決のまま放置して得になることはありません。
担当者の研究室等	1号館7階 蛭川教室(経済学部)
備考	

科目名	社会経済学 I	科目名 (英文)	Social Economics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	ABCDEFGHI
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	平野 泰朗
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8◎, DP9○		

授業概要・目的	「資本主義」とよばれる現在の経済システムの基本要素とその現状について基礎的な理解を習得する。
到達目標	経済関連のニュースを理解し、自分の判断を持てるようになる。
授業方法と留意点	教科書を用いた講義。 教科書を、第1回から必ず持参すること。
科目学習の効果 (資格)	経済関連のニュースが分かる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	経済学者の資本主義に対する見方	アダム・スミス、マルクス、ウェーバーなどの資本主義の見方を学び、資本主義をみるポイントがいくつかあることを学ぶ。	教科書第1章後半を予習・復習する。
3	資本主義の基本要素	市場による調整と雇用関係という資本主義の基本要素を、「所有」や「社会的分業」という視点から見直す。	教科書第2章前半を予習・復習する。
4	資本主義の社会的機構	資本主義における社会的制度(株式会社、流通機構、銀行、国家など)がどのようなものであるかを学ぶ。	教科書第2章後半を予習・復習する。
5	生産・価値・利潤	まず、社会の人々が生存し続けるには、経済的にどのような条件が満たされねばならないかを考察する。これを、社会的再生産の視点という。それを理解した上で、個々の商品の価値(価格)とそこから生まれる利潤がどういうものかを考える。	教科書第3章前半を予習・復習する。
6	市場経済と競争	様々な市場(財市場、労働市場、金融市場)における競争のあり方とその結果を学習する。	教科書第3章後半を予習・復習する。
7	資本主義の成立	資本主義の成立過程を、歴史的に理解する。	教科書第4章前半を予習・復習する。
8	19世紀の資本主義	19世紀の資本主義と20世紀以降の資本主義は、同じ資本主義でも異なる。19世紀の資本主義の特質を、企業間関係、労働・雇用、貨幣・金融、国家および国際関係の観点から学ぶ。	教科書第4章後半を予習・復習する。
9	20世紀資本主義	20世紀資本主義の成長局面の特徴を、企業間関係、労働・雇用、貨幣・金融、国家および国際関係の観点から学ぶ。	教科書第5章前半を予習・復習する。
10	21世紀に入る資本主義	グローバル化の進展、金融資本の肥大化とバブルの形成、国家政策の効力低下、環境問題の深刻化などによって20世紀資本主義は、新しい局面に入りつつある。これらの諸問題を概観する。	教科書第5章後半を予習・復習する。
11	資本主義の多様性	資本主義は、国により異なる特質をもつ。そのような違いが生じる様々な要因を、検討する。	教科書第6章前半を予習・復習する。
12	米国・日本・欧州・中国	米国、日本、欧州、中国の社会・経済制度の違いを学ぶ。	教科書第6章後半を予習・復習する。
13	新しい技術・労働・企業・市場	新しい技術(情報通信技術など)が労働様式、雇用関係、企業のあり方、取引関係などに与える影響を考える。	教科書第7章前半を予習・復習する。
14	資本主義にとっての難問	先進国における少子高齢化、新興国台頭による食料・資源問題、地球規模の環境問題、金融資本の肥大化による実体経済の混乱など、資本主義にとっての新たな難問を考察し、あり得べき解決策を考える。	教科書第7章後半を予習・復習する。
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、重要点を確認し、足りなかった部分を補足する。	教科書をひととおり読み、自分の理解度をチェックする。

関連科目	経済思想史、社会経済学 II
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎、宇仁宏幸	ナツメ社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>何回か授業の終わり頃に、簡単な確認テストを行います。このとき、教科書・配付資料等を参照しても構いません。これも、評価対象とします。概ね、確認テスト40%、定期試験60%で評価します。 なお、出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合があります。</p>			
学生への メッセージ	<p>毎回、講義で教科書を参照しますので、教科書は、必ず買ってください。 この本では、一流の研究者が経済的事柄について分かりやすく書いています。したがって、まず、この本の図を見ながら、本文を読み返してください。くれぐれも、ウェブサイトだけを見るのはやめましょう。そこでは、ときどき、きわめて偏った説明がされています。</p>			
担当者の 研究室等	1号館7階 平野教授室(経済学部)			
備考				

科目名	社会経済学 I	科目名 (英文)	Social Economics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	I J K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8◎, DP9○		

授業概要・目的	「資本主義」とよばれる経済システムが、どのような要素で成り立っており、それが歴史的にどのように変化してきたのかを示した上で、現在の資本主義システムの特徴を明らかにした上で、今後どのように変わっていくかについて議論する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 資本主義経済の基本的な仕組みを説明することができる。 資本主義経済の歴史的な変化について説明することができる。 現代の資本主義経済が、国ごとに多様であることを説明することができる。 上記のような知識を踏まえて、現在見られる経済関連のニュースを理解し、自分の判断を持てるようになる。
授業方法と留意点	教科書を用いた講義。 教科書を、第1回から必ず持参すること。
科目学習の効果 (資格)	経済関連のニュースに関心を持ち、それを理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	資本主義は神か悪魔か	資本主義では当たり前と思われていることを、国際比較や歴史を参考に、もう一度考えてみる。	教科書第1章前半を予習・復習する。
2	経済学者の資本主義に対する見方	アダム・スミス、マルクス、ウェーバーなどの資本主義の見方を学び、資本主義をみるポイントがいくつかあることを学ぶ。	教科書第1章後半を予習・復習する。
3	資本主義の基本要素	市場による調整と雇用関係という資本主義の基本要素を、「所有」や「社会的分業」という視点から見直す。	教科書第2章前半を予習・復習する。
4	資本主義の社会的機構	資本主義における社会的制度 (株式会社、流通機構、銀行、国家など) がどのようなものであるかを学ぶ。	教科書第2章後半を予習・復習する。
5	生産・価値・利潤	まず、社会の人々が生存し続けるには、経済的にどのような条件が満たされねばならないかを考察する。これを、社会的再生産の観点という。それを理解した上で、個々の商品の価値 (価格) とそこから生まれる利潤がどのようなものかを考える。	教科書第3章前半を予習・復習する。
6	市場経済と競争	様々な市場 (財市場、労働市場、金融市場) における競争のあり方とその結果を学習する。	教科書第3章後半を予習・復習する。
7	資本主義の成立	資本主義の成立過程を、歴史的に理解する。	教科書第4章前半を予習・復習する。
8	19世紀の資本主義	19世紀の資本主義と20世紀以降の資本主義は、同じ資本主義でも異なる。19世紀の資本主義の特質を、企業間関係、労働・雇用、貨幣・金融、国家および国際関係の観点から学ぶ。	教科書第4章後半を予習・復習する。
9	20世紀資本主義	20世紀資本主義の成長局面の特徴を、企業間関係、労働・雇用、貨幣・金融、国家および国際関係の観点から学ぶ。	教科書第5章前半を予習・復習する。
10	21世紀に入る資本主義	グローバル化の進展、金融資本の肥大化とバブルの形成、国家政策の効力低下、環境問題の深刻化などによって20世紀資本主義は、新しい局面に入りつつある。これらの諸問題を概観する。	教科書第5章後半を予習・復習する。
11	資本主義の多様性	資本主義は、国により異なる特質をもつ。そのような違いが生じる様々な要因を、検討する。	教科書第6章前半を予習・復習する。
12	米国・日本・欧州・中国	米国、日本、欧州、中国の社会・経済制度の違いを学ぶ。	教科書第6章後半を予習・復習する。
13	新しい技術・労働・企業・市場	新しい技術 (情報通信技術など) が労働様式、雇用関係、企業のあり方、取引関係などに与える影響を考える。	教科書第7章前半を予習・復習する。
14	資本主義にとっての難問	先進国における少子高齢化、新興国台頭による食料・資源問題、地球規模の環境問題、金融資本の肥大化による実体経済の混乱など、資本主義にとっての新たな難問を考察し、あり得べき解決策を考える。	教科書第7章後半を予習・復習する。
15	まとめ	これまでの授業を振り返り、重要点を確認し、足りなかった部分を補足する。	教科書をひととおり読み、自分の理解度をチェックする。

関連科目	社会経済学 II, 経済思想史			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図解雑学 資本主義のしくみ	八木紀一郎・宇仁宏幸	ナツメ社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>何回か授業の終わり頃に、簡単な確認テストを行います。このとき、教科書・配付資料等を参照しても構いません。これも、評価対象とします。概ね、確認テスト40%、定期試験60%で評価します。 なお、出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合があります。</p>			
学生への メッセージ	<p>毎回、講義で教科書を参照しますので、教科書は、必ず買ってください。 この本では、一流の研究者が経済的事柄について分かりやすく書いています。したがって、まず、この本の図を見ながら、本文を読み返してください。くれぐれも、ウェブサイトだけを見るのはやめましょう。そこでは、ときどき、きわめて偏った説明がされています。</p>			
担当者の 研究室等	1号館7階 原田准教授室			
備考				

科目名	社会経済学Ⅱ	科目名(英文)	Social Economics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8○, DP9△		

授業概要・目的	資本主義経済の基本的な仕組みについて、政治経済学の観点から解説する。第1に、資本主義経済は市場取引をベースとするが、その取引において需要と供給がどのように調整されるかについて、さまざまな理論と実態を比較することで、市場取引に対する理解を深める。第2に、資本主義経済において生産が果たす役割を考慮に入れて、簡単な数値モデルを用いて、経済システムの持続可能性を保証する再生産の条件について検討する。またこのモデルを拡張して、経済規模が拡大する再生産、すなわち経済成長についても考察を行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会経済学で使われる基礎的な概念を理解し、その意味を説明することができる。 ・市場における売買過程を、数値例を用いて説明することができる。 ・資本主義経済が再生産される条件、あるいは経済成長が生じる条件について、簡単なモデルを使って表現することができる。 ・資本主義経済の動態にかんする理解にもとづいて、現実が生じている経済の諸問題について考察することができる。
授業方法と留意点	適宜資料を配布しつつ、講義形式による授業を行う。演習問題を行うなどして、授業の理解を促進する。
科目学習の効果(資格)	社会経済学が経済の動きをどのように説明するかを理解することで、標準的な経済学との比較が可能になり、現実の経済社会で起きている問題を理解する上で、多様なものの見方を行うことができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	この講義で扱う社会経済学とはどのような経済学であるかを説明する	復習問題の解答
2	経済とは	社会経済学で重視される社会的再生産について解説する	事前学習課題の読み込み 復習問題の解答
3	市場の諸機能	資本主義経済の基礎となる市場取引が果たしている機能について確認する	事前学習課題の読み込み 復習問題の解答
4	市場取引の理論と実態(1):新古典派経済学	新古典派経済学による市場の基本的な捉え方(最大化原理)を解説する	事前学習課題の読み込み 復習問題の解答
5	市場取引の理論と実態(2):一般均衡理論	一般均衡理論の基本的な考え方について議論する	事前学習課題の読み込み 復習問題の解答
6	市場取引の理論と実態(3):板寄せとザラ場取引	現実の市場における取引方法である板寄せとザラ場取引について解説する	事前学習課題の読み込み 復習問題の解答
7	抗争の交換	市場取引に潜む政治的力(権力関係)について明らかにする	事前学習課題の読み込み 復習問題の解答
8	資本と剰余	資本主義経済における生産過程の重要性とそこにおける剰余の創出について議論する	事前学習課題の読み込み 復習問題の解答
9	資本主義経済の再生産構造	資本主義経済における産業連関構造とそれを明らかにする産業連関表について解説する	事前学習課題の読み込み 復習問題の解答
10	再生産と生産価格	資本主義経済の再生産を可能にする価格体系(生産価格)の決まり方について解説する	事前学習課題の読み込み 復習問題の解答
11	再生産と所得分配	資本主義経済の再生産における所得分配(社会関係)の重要性について明らかにする	事前学習課題の読み込み 復習問題の解答
12	賃金と利潤	資本主義経済における所得のカテゴリーである賃金と利潤の関係について解説する	事前学習課題の読み込み 復習問題の解答
13	資本蓄積と所得分配	資本蓄積(経済成長)と所得分配の関係について解説する	事前学習課題の読み込み 復習問題の解答
14	資本蓄積の過程とその軌道	資本蓄積(経済成長)がどのような過程で進むかについて数値計算で考えてみる	事前学習課題の読み込み 復習問題の解答
15	まとめ	これまでの議論を振り返って、資本主義経済の動態について改めて考える	期末試験の準備 復習問題の解答

関連科目	社会経済学Ⅰ
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業時間内外の課題(50%) + 定期試験(50%)。欠席が多い場合は成績評価の対象としないことがあるので気をつけること。
----------	---

学生へのメッセージ	経済学は、抽象的な概念やモデルを用いて議論を行います。したがって、その考え方を理解するには、それなりの労力が必要です。授業では、社会経済学の基礎的な概念を少しずつ説明していきますが、解説を聞いているだけで身に付けるのは困難でしょう。受講生の皆さんには問題演習などを通じて、積極的に学修に取り組んでもらいたいと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 原田准教授室
----------	--------------

備考	
----	--

科目名	社会保障論	科目名(英文)	Social Security
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西川 浩平
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7○, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	少子高齢化の進展もあり、年金、医療といった社会保障制度への関心は高まっている。本講義では、社会保障制度全般を対象に、その制度および現状を学ぶ。その上で、医療分野に着目し、患者、医師等の医療供給者の行動をミクロ経済学に基づき説明し、最終的に経済学視点から制度上の課題を把握できることを目標とする。			
到達目標	経済学的思考に基づき、我が国における社会保障制度、特に医療分野の現状と課題を理解する能力を養う。			
授業方法と留意点	授業は基本的に講義形式で行うが、随時講義中に確認および応用の問題を出す。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	社会保障学が意義および基礎となる概念について説明する。	講義した内容について復習する。
	2	社会保障の財政	社会保障制度財政方式および運営主体を説明する。	講義した内容について復習する。
	3	社会保障に関する指標	世代間不平等の程度を測る各種指標を説明する。	講義した内容について復習する。
	4	年金保険	老後の生活において不可欠な年金制度の制度を学ぶ。	講義した内容について復習する。
	5	雇用保険・労災保険	現代社会において不可避な現象ともいえる失業に関連する雇用保険の制度・現状を説明する。	講義した内容について復習する。
	6	生活保護	近年受給世帯の増加が指摘される生活保護制度の制度と現状を説明する。	講義した内容について復習する。
	7	医療保険(1)	医療サービス需要の決定要因について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	8	医療保険(2)	医療サービス需要の弾力性について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	9	医療保険(3)	医療サービスの効率的な供給について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	10	医療保険(4)	医療サービスの費用について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	11	医療保険(5)	医療サービスの需要と供給の関係について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	12	医療保険(6)	医療サービスにおける供給者誘発需要について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	13	医療保険(7)	医療サービスにおける政府の役割の重要性について学ぶ。	講義した内容について復習する。
	14	介護保険(1)	介護保険制度の誕生を歴史的に視点より学ぶ。	講義した内容について復習する。
	15	介護保険(2)	介護保険制度における現状の課題を抽出し、その対応策について学ぶ。	講義した内容について復習する。
関連科目	特になし。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	定期試験(60%)およびレポート(40%)の得点で評価する。			
学生へのメッセージ	経済に関する情報はテレビや新聞等あらゆるメディアで提供されています。常にアンテナを張って興味・関心のあるテーマを見つけて下さい。			
担当者の研究室等	1号館7階 西川講師室(経済学部)			
備考				

科目名	宿泊産業論	科目名(英文)	Lodging Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2○, DP3○, DP4◎, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	観光産業の中核を構成する宿泊産業の今日的な動向と問題点を学ぶことを通して、観光立国日本における宿泊産業の経済的、社会的意義を理解する。
到達目標	宿泊産業における経営システムを理解し、宿泊施設の基礎的な経営分析ができる。
授業方法と留意点	授業はホテルの事例を多用しながら、毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。
科目学習の効果(資格)	宿泊関連産業動向の理解

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	宿泊産業とは何か	宿泊産業の産業領域について理解する。	事後：配布資料の復習
3	宿泊産業の歴史Ⅰ	海外(欧州、米国)における宿泊産業の発展を振り返る。	事後：配布資料の復習
4	宿泊産業の歴史Ⅱ	日本における宿泊産業の発展を振り返る。	事後：配布資料の復習
5	観光と宿泊産業	観光における宿泊産業の位置づけと重要性について考える。	事後：配布資料の復習
6	宿泊産業の種類	宿泊産業を形成する多様な各種業態について理解する。	事後：配布資料の復習
7	宿泊産業に関わる法律	旅館業法、国際観光ホテル整備法等関連法令について学ぶ。	事後：配布資料の復習
8	宿泊施設Ⅰ	国際的なホテル分類とその役割・特徴について学ぶ。	事後：配布資料の復習
9	宿泊施設Ⅱ	国内におけるホテル分類とその役割・特徴について学ぶ。	事後：配布資料の復習
10	宿泊施設の運営管理Ⅰ	主にホテルを例に宿泊産業の運営について学ぶ。	事後：配布資料の復習
11	宿泊施設の運営管理Ⅱ	主にホテルの経営指標について学ぶ。	事後：配布資料の復習、演習問題提出
12	宿泊施設の運営管理Ⅲ	宿泊施設の収益性分析について学ぶ。	事後：配布資料の復習、演習問題提出
13	事例研究Ⅰ	宿泊関連企業の事例研究(1)	事後：配布資料の復習、演習問題提出
14	事例研究Ⅱ	宿泊関連企業の事例研究(2)	小テスト 事後：配布資料の復習
15	宿泊産業の将来展望とまとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答	事後：配布資料の復習

関連科目	観光学入門、観光マーケティング論、観光人材論
------	------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験50%、小テスト30%、その他(演習問題提出等)を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	宿泊産業は観光において重要な役割を果たすだけではなく、地域経済にも大きなインパクトを持ちます。地域経済専攻の方にも興味深いと思います。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室(経済学部)
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	商法	科目名(英文)	Commercial Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高田 尚彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	商法は、一般法である民法の特別法であり、企業関係に特有な法規の総体とし、企業を商法の中心概念と考えています。企業とは、一定の計画に従い継続的意図をもって営利行為を実現する独立の経済単位のことであり、会社形態をとっていなくても、この要件を満たせば企業といえます。授業では、企業活動に関与する者にとり必要とされる商法の基本的知識を習得できるように講義を行います。
到達目標	商法の基本概念である商人概念および商行為概念について理解する。 そのうえで、様々な商行為について理解する。 その際には、基本法である民法を意識しつつ理解を深めること。
授業方法と留意点	教科書に合わせて授業を進行します。必要に応じて補足資料を配布します。
科目学習の効果(資格)	会社就職後に必要な知識を習得できるとともに、各種試験(法学検定、法科大学院、公務員、公認会計士など)の対策となる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション、商法の意義	授業内容、授業の進め方、評価方法についての説明。 商法の意義、商法の法源、隣接法との関係。	教科書第1部第1章(p.1~p.12)を読んでおくこと。
2	商法の適用範囲を画する基本概念	商法の基本概念、商人の意義、商行為、商人資格。	教科書第1部第2章(p.13~p.25)を読んでおくこと。
3	商号	商号の意義、商号の選定、商号の登記、商号権の保護、商号の譲渡、名板貸。	教科書第1部第3章(p.27~p.38)を読んでおくこと。
4	商業登記	商業登記の意義・手続・効力、会社の登記および公告。	教科書第1部第4章(p.39~p.48)を読んでおくこと。
5	商業帳簿	商業帳簿の意義・種類・保存義務。	教科書第1部第5章(p.49~p.54)を読んでおくこと。
6	商業使用人と代理商	商業使用人の意義、支配人・その他の商業使用人、代理商。	教科書第1部第6章(p.55~p.65)を読んでおくこと。
7	営業・事業の譲渡・賃貸借・経営委任	営業の意義、営業所、営業の譲渡、営業の賃貸借・経営委任。	教科書第1部第7章(p.67~p.76)を読んでおくこと。
8	商行為に関する通則	商行為通則の意義、商行為の営利性、商事契約の成立、商事債権。	教科書第2部第1章(p.77~p.86)を読んでおくこと。
9	商事売買取引	商事売買契約の成立、受領商品保管義務、商品の引き渡し、商品の受領と支払い。	教科書第2部第2章(p.87~p.91)を読んでおくこと。
10	リース・フランチャイズ	リース取引、特約店・フランチャイズシステム。	教科書第2部第3章(p.93~p.96)を読んでおくこと。
11	仲立ちと取次ぎ	仲立人、問屋、準問屋、運送取扱人。	教科書第2部第4章(p.97~p.106)を読んでおくこと。
12	運送取引	物品運送、旅客運送。	教科書第2部第5章(p.107~p.118)を読んでおくこと。
13	倉庫取引	倉庫業の意義、倉庫寄託契約、倉庫業者の権利・義務。	教科書第2部第6章(p.119~p.123)を読んでおくこと。
14	場屋取引	場屋取引の意義、場屋営業者の責任。	教科書第2部第7章(p.125~p.128)を読んでおくこと。
15	金融取引と決済	匿名組合、交互計算。	教科書第2部第8章(p.129~p.133)を読んでおくこと。

関連科目 民法、会社法。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい商法総則・商行為法(第三版補訂版)	山下眞弘	法学書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	原則として、定期試験の結果によって評価する。 その他講義中の発言も加味する。
学生へのメッセージ	商法は、商法総則と商行為法に大別されます。授業では、民法に関する知識にも触れながら分かりやすく説明します。積極的に授業に参加し、基本的知識を習得してください。
担当者の研究室等	11号館6階 法学部事務室
備考	授業時間外の質問はメールにて受け付けて、後日回答する。 n-takada@pp.ij4u.or.jp まで、件名に科目名を入れて送信すること。

科目名	西洋経済史	科目名(英文)	Western Economic History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岸田 未来
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2○, DP3◎, DP4○, DP5○, DP6△, DP7◎, DP8△, DP9○		

授業概要・目的	資本主義はヨーロッパの封建社会の中から誕生し、その後世界へと広まっていった。資本主義のシステムを理解するため、なぜヨーロッパのイギリスにおいて最初に資本主義が発展したのか、またその後の世界的な資本主義システムの展開において、イギリスからアメリカへの覇権の交代が、なぜ、いかにして生じたのかを明らかにする。 本講義では、中世末期から20世紀にかけての、西欧およびアメリカにおける資本主義経済の長期的な発展プロセスを、体系的に理解することを目標とする。
到達目標	西洋経済史にかかわる用語の意味内容を理解し、西欧およびアメリカを事例に、資本主義の長期的な発展プロセスの主要なモメントを説明することができる。
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。毎回プリントを配布する。
科目学習の効果(資格)	西欧に端を発する資本主義の世界的な発展史を理解し、よって日本およびアジア地域の経済発展の歴史的位相への理解を深めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	中世ヨーロッパの社会と経済	レーン制と荘園制を基礎におく封建社会	配布プリントでの復習
3	中世末期のヨーロッパを取り巻く世界	ヨーロッパの拡大と植民地、市場経済の広まり	配布プリントでの復習
4	イギリス産業革命前夜の経済と社会	商業革命と生活スタイルの変化	配布プリントでの復習
5	イギリス産業革命	綿業を中心とした工業化の進展	配布プリントでの復習
6	ヨーロッパ大陸における後発国の工業化	ドイツにおける工業化の進展	配布プリントでの復習
7	ボックス・ブリタニカ	イギリス帝国の世界的な支配体制	配布プリントでの復習
8	アメリカ資本主義の発達	イギリス植民地経済からの発展と国民国家形成	配布プリントでの復習
9	新産業の登場と19世紀後半の「大不況」	19世紀後半の世界的な大恐慌が資本主義各国にもたらした影響、独占体制の成立	配布プリントでの復習
10	20世紀「福祉国家」と社会政策の源流	「労働者」の台頭と社会政策の展開	配布プリントでの復習
11	第一次世界大戦とヨーロッパ経済	アメリカとヨーロッパの新たな結びつき	配布プリントでの復習
12	1920年代のアメリカ経済の繁栄	大衆消費社会の出現	配布プリントでの復習
13	1930年代の大不況と西欧諸国	世界大恐慌とナチズムの台頭	配布プリントでの復習
14	第二次世界大戦とアメリカ資本主義の台頭	東西冷戦とアメリカによる戦後資本主義体制の再編と強化	配布プリントでの復習
15	ボックス・アメリカーナの20世紀	第二次大戦後のアメリカを中心とする資本主義体制の発展と現状	配布プリントでの復習

関連科目	日本経済史
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験75%、ミニレポート・授業参加度(質問・感想等)25%の割合で総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	短期的な視野のみではなく長期的に資本主義の生成・発展を考えたい、また日本と西欧との比較に関心があるという人の受講を、特に歓迎します。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 岸田准教授室(経済学部)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	世界観光事情	科目名(英文)	International Tourism
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	近年、日本への外国人観光客が急速に増加していますが、これは日本だけの現象ではなく、世界的に国際観光は盛んになっています。一方で、急激な変化であるため、日本での観光に対する研究や認識は十分に進んでいません。この授業では、日本と世界の観光の現状について、さまざまなデータで客観的に眺め、世界の観光事情について理解を深めます。
到達目標	日本と世界の観光の現状について客観的なデータで把握し、経済における観光の役割を理解することを目標とします。
授業方法と留意点	レジュメを用いながら講義を行います。また、数回にわたってパソコン室で観光に関するデータ分析の講義も行います。
科目学習の効果(資格)	日本と世界の観光の状況について客観的なデータで説明することができるようになります。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	講義概要の紹介	配布レジュメの復習
	2	世界の観光の動向(1)	国際観光客の動向	配布レジュメの復習
	3	世界の観光の動向(2)	国際観光客増加の要因	配布レジュメの復習
	4	日本の観光の動向(1)	近年の訪日外国人旅行者の動向	配布レジュメの復習
	5	日本の観光の動向(2)	訪日外国人旅行者増加の要因	配布レジュメの復習
	6	観光産業	産業としての観光の捉え方	配布レジュメの復習
	7	観光政策	観光行政の変遷と観光政策	配布レジュメの復習
	8	ツーリズム	体験型旅行としてのツーリズムの形態	配布レジュメの復習
	9	MICE	MICEの4つの形態と今後の可能性	配布レジュメの復習
	10	観光のデータ分析(1)	世界各国の観光客の動向についてデータ分析	配布レジュメの復習
	11	観光のデータ分析(2)	訪日外国人旅行者の地域分布についてデータ分析	配布レジュメの復習
	12	観光のデータ分析(3)	RESASによる都道府県観光客の動向の分析	配布レジュメの復習
	13	観光のデータ分析(4)	RESASによる市町村観光客の動向の分析	配布レジュメの復習
	14	観光のデータ分析(5)	データ分析結果のレポートへの反映	配布レジュメの復習
	15	授業のまとめ	ここまでの授業内容の重要点	配布レジュメの復習

関連科目 観光経済論 観光産業政策論 観光資源論 レジャー産業論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 2回のレポート(50%)と期末試験(50%)による総合評価

学生へのメッセージ 勉強はただ講義を聞くことではありません。授業に関して自分の調べてきたことを発表することで、より理解が深まります。授業の中で受講生による発表の機会を設けますので、積極的に参加してください。

担当者の研究室等 1号館7階 朝田准教授室(経済学部)

備考

科目名	摂南経済ゲストレクチャー	科目名(英文)	Setsunan Guest Lectures
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	グローバル化とインターネットの発達により、労働者に求められるスキルが高度化しています。グローバル化した世界で働くには何が必要なのか？関西の企業は、どのようなイノベーションでグローバル化した市場に対応しようとしているのか、企業と地域の関わりはどのような展開を見せているのかなど、国際経済、地域経済、観光経済、などのトピックにかかわって、担当教員のガイドのもとに、ゲスト講師を招いて授業を行います。 2017年度も、横浜や京都・大阪から魅力的なゲストをお招きして、お話を伺います。
到達目標	社会人講師のレクチャーを聴いて、現実の社会や経済の動向を知るとともに、在学中及び卒業後の自分のキャリア形成のイメージが持てるようにする。とりあつかわれたトピックについて自分で調べて、自分の意見を含むレポートが書けるようにする。
授業方法と留意点	それぞれのゲストレクチャーの前に、担当教員が事前レクチャーを行い、受講者に予習をさせます。⇒ゲストによるレクチャーを受講⇒翌週、ゲストのレクチャーを聴いて考えたこと調べたことをもとに討論し、発表してもらいます。⇒最後に全体を通したノートとレポートを提出してもらいます。(発表、ノート、レポートが試験のかわりになります。必ず提出してください。)
科目学習の効果(資格)	視野を広げ、現場における課題を知って実践的態度を身につけることができます。簡単なレポートを書く訓練にもなります。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	4月12日(水) 3時限 この授業についての全体的説明	1. この授業の運営の仕方を説明する	
2	4月19日(水) 3時限 事前レクチャー1	熊本県の地域創生とくまモンについて	熊本県の震災復興について調べる
3	4月26日(水) 3時限 ゲスト: 熊本県大阪事務所・島添大輔氏	くまモンと地域創生・震災復興(仮題)	
4	5月3日(水) 3時限 ゲスト: 平野泰朗教授	研究者の仕事	大学の社会的役割について調べる
5	5月10日(水) 3時限 事後討論1	島添氏と平野教授の話について発表する	
6	5月17日(水) 3時限 事前レクチャー2	不動産会社の役割について事前レクチャーを行う	千島土地と三菱地所について調べる
7	5月24日(水) 3時限 ゲスト: 芝川能一氏(おおさか創造千島財団理事長・千島土地株式会社代表取締役社長)	不動産業から地域の未来を考える～アートを切り口とする地域活性化の試み	
8	5月31日(水) 3時限 ゲスト: 恵良隆二氏(横浜市芸術文化振興財団・常務理事)	まちづくりとディベロッパーの役割～東京丸の内と横浜みなとみらいを中心に	
9	6月7日(水) 3時限 事後討論2	芝川氏と恵良氏の講演について発表する	
10	6月14日(水) 3時限 事前レクチャー3	大阪経済の歴史について事前レクチャーを行う	大阪経済の歴史と都市形成について調べる
11	6月21日(水) 3時限 ゲスト: 岡 絵理子氏(関西大学環境都市工学部・教授)	大都市大阪の知られざる魅力	
12	6月28日(水) 3時限 事前レクチャー4	京都市の文化政策について事前レクチャーを行う	京都市の観光政策について調べる
13	7月5日(水) 3時限 ゲスト: 平竹耕三氏(京都市文化政策監・ロームシアター京都館長)	東京五輪と京都市の文化観光	アイルランドについて調べる
14	7月12日(水) 3時限 ゲスト: アイルランド大使・Anne Barrington氏	Study in Ireland(アイルランドで学ぶ)	
15	7月19日(水) 3時限 最終討論	ゲスト・レクチャー全体から学んだことを発表し、レポートを書く。	ノートとレポートを提出する。期末テストはありません。

関連科目	地域経済入門、観光学入門、国際経済入門			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
評価方法(基準)	討論への参加度 20%、レポート(ノート) 80%で総合評価します。			
学生へのメッセージ	広く世界に目を向け、経済や社会の現実を学びます。そのなかから、自分たちに何が求められているのか考え、在学中及び卒業後のキャリア形成のイメージを持てるようにしましょう。			
担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室(経済学部)			
備考				

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本演習はプロ野球・オリックス野球クラブとの教育協定に基づく授業が行われる。今年度は『オリックス・バファローズから見た日本のプロ野球』という研究課題に取り組んでいる。			
到達目標	①学生が自分で経済問題を考え、分析する能力を身につける。②学生のプレゼンテーションの能力を高める。			
授業方法と留意点	パソコン室で基本的な統計手法を学びながら、フィールド調査やヒアリング調査も行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本演習では、オリックス・バファローズの球団職員を講師に招き、実体験を交えた野球ビジネスを解説いただくとともに、球団へのヒアリング調査を実施。そして、今後京セラドームでの球場調査も実施するなどして、プロ野球に関する情報の収集と分析を行う予定です。これらを通じて、プロ野球の問題点を経済学の視点から分析する能力を高めていきたい。さらに、研究成果を球団側の方にプレゼンテーションを実施する。併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	フィールド調査に積極的に参加してほしい。			
担当者の研究室等	一号館 7 階 郭准教授室			
備考				

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岸田 未来
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	世界的な競争のグローバル化のもとで、日本では、いまだ世界トップ水準の国際競争力を維持する自動車産業が存在する一方で、かつて日本の経済成長を支えた電機産業では衰退が進んでいるなど、グローバル競争への対応力に大きな違いがみられる。このようなその違いを生み出す要因とは何であろうか。この点を、いくつかの産業分野を取り上げ、主にこれまでの競争条件および競争力のあり方とその変化という点から検討する。																		
到達目標	基本的な文献を読解し、また自分で関連するテーマについての十分な情報収集を行うことができる。得られた知識を理論的な認識へと発展させる分析力を身に付け、それらを他人へと伝える効果的なプレゼンテーションやレポート作成を行うことができる。他人の意見を理解し、また自らの見解を説得力を持って展開させ、有効な議論を行うことができる。																		
授業方法と留意点	文献や資料の輪読・検討を行う。工場見学や企業訪問の計画を立て、現場の実態を調査する。後期の終りに一年間の学習内容をレポートもしくはプレゼンテーションとしてまとめる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業経営のイメージを得るための基礎的な学習を行う。 2. 自分で選んだ対象企業について、資料を収集し、さまざまな角度から分析を行う。 3. 各自の学習成果を報告・検討する。 4. 研究倫理教育を行う。 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への参加状況 (発表、発言、調査への取り組みなど) で評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1号館7階 岸田准教授室																		
備考																			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	久保 廣正
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	まず、国際経済学の基礎的文献を輪読する。その後、わが国産業がどのように国際展開を図ろうとしているのか、国際社会にどのように日本をアピールしようとしているのかについて情報収集する。		
到達目標	わが国産業の未来を考えるうえで基礎的な学力を養成することを到達目標とする。		
授業方法と留意点	基礎的な文献を輪読した後、最近のわが国産業に関する論文、雑誌、さらには各企業のHPなどにより情報収集を行う。また、こうした情報に基づき、経済学・経営学の手法を用いて、わが国産業の将来について考える。常に、産業界の動向について興味を持ち、情報収集に心がけてもらいたい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	わが国産業の将来をテーマとする。本演習中には、国際経済学・経営学の基礎理論を学び、得られた情報について分析を行い、わが国産業の将来を考える分析力を養成する。演習中に事前事後の学習課題を指示する。併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	本演習に取り組む姿勢、さらには分析結果について評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階 久保教授室		
備考			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	現在、私たちが暮らす日本経済については実にさまざまな問題が指摘されている。そうした問題の原因をいかに分析し、どのような解決策が考えられるのかについて、社会経済学あるいは制度経済学の観点から考察する。具体的には、日本の経済システムが、労使関係、企業間関係、金融システム、国家体制、国際関係などさまざまな制度の領域から構成され、それらが相互に関係しあって構成されていると考える。このような考え方に立って、制度の役割を踏まえて日本経済の諸問題を分析する。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会経済学・制度経済学の基礎的な知識を身につけて、現実の経済問題を分析できるようになる。 2. ゼミでの集団学習を通じて、聴く力、まとめる力、書く力、伝える力をつける。 3. 課題研究を通じて、論文作成に必要な、課題発見力、情報収集力、データ分析力、論理的思考力をつける。 																		
授業方法と留意点	演習授業の主役は、受講者のみなさんです。それぞれが互いに教えあい、刺激しあって授業を進めます。グループ学習では、グループ内で協力しあって課題研究に取り組んでもらいます。またグループ間の競争と協力も授業を盛り上げる重要な要素になります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な文献を受講者で分担して読むことで、基本的な知識を身につける。また、主要な統計データを用いて経済の現状を量的に把握することも行っていく。 2. その後に数人ずつのグループに分かれて、一定のテーマの下でグループごとに課題を設定してグループ研究を行う。 3. 適宜グループごとの発表を行い、互いに疑問や意見をぶつけ合うことで、研究内容の質を高めていく。 4. 最終的には、小論文形式で研究をまとめて、報告会を行う。 5. 併せて、研究倫理教育を行う。 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	事前学習の度合い、個人学習の成果 (プレゼンテーション、レジュメのまとめ方など)、集団学習への貢献度 (質問、提案、議論のまとめなど) をもとに総合的に評価する。 なお、欠席が多い場合は、単位取得の資格を失う場合がある。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考																			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	テーマは、文化経済をキーワードとして地域や観光への理解を深めることである。初年度は、文化経済学の基礎理論や、文化産業・クリエイティブ産業の理論と現実を学び、文化と地域経済との関わりについて、探求することを目指す。		
到達目標	基礎的な理論を理解するとともに、文献や論文の検索、現地調査の準備ができるようになる。経済学部のプレゼンテーション大会に参加する。		
授業方法と留意点	前期は、文献を読み、今年度の調査テーマを考える。また、土曜日に関西圏のフィールドワークを行う。前期終了時に、今年度のフィールドワークの計画を完成し、後期に、1泊2日のフィールドワークを行う。1月には、グループに分かれてプレゼンテーション大会の準備をする。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1、文化経済や文化市場の基礎的な理論を学ぶ 2、文化産業やクリエイティブ産業の理論と実態を学ぶ 3、文化産業の集積と地域、文化による都市や地域の再生、文化による観光振興など、文化と地域の関わりや可能性を学生自らが探求するアクティブ・ラーニングを目指す。 4、併せて、研究倫理教育を行う。 		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	演習への出席状況、演習での分担レポートや学習成果、フィールドワークへの参加、ゼミ論文とプレゼンテーションを総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室		
備考	演習の主体は学生です。積極的な参加を求めます。また、演習を通して将来の仕事への展望が持て、社会人としての基本的なスキルを身につけられるように頑張らしましょう。他のゼミとの合同ゼミや、現地調査等も行予定で。		

科目名	専門演習Ⅰ	科目名(英文)	SeminarⅠ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	文献購読、学外視察、業界関係者のレクチャー等により地域・観光産業の概要を理解する。同時に社会人としての一般常識を習得する。			
到達目標	学外活動等から得た地域・観光に関する情報を活用し、主体的にプランを作成、実践できる。			
授業方法と留意点	授業の一環として、学外の施設を訪問したり、学外の方を招いたりすることが多いので、摂大生として節度ある行動と変則的なゼミ運営に留意すること。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期：文献（教科書）購読及び内容発表、レクチャー等、 後期：学外視察、学外活動を行い、3年次専門演習Ⅱで行う観光実践演習に必要な基礎的な知識や素養を習得する。 併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	サビスマジック入門（第3版）	近藤 隆雄	生産性出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	課題の発見・資料収集・分析、レジュメおよびレポート・発表の内容、ゼミ活動・課題解決への取り組み姿勢等を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	活動への主体的な参加を期待しています。			
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室（経済学部）			
備考				

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	地域経済を円滑に運営するために地域金融機関に求められる役割とは何か、地域の利便性・収益性等が地域不動産価格にどのように反映されるかなど、地域の発展にはこれらを総合的に勘案する思考が必要である。本専門演習では、これらを分析するために必要な知識について、グループ学習及びフィールド調査等を通じて学習する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域経済の問題点について基本的な認識を持つ。 2. 地域経済における地域金融機関の取り組みについて事例研究する。 3. 次年度に向けて自分の関心を確立する。 			
授業方法と留意点	グループ学習を中心とする。テーマの設定、必要となる資料・参考文献の収集、学習した内容及びその考察に関する報告、プレゼンテーションといった一連の作業を経験することを通じて、基礎的な知識と方法論を身につける。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	グループ学習を行うに当たり、随時指示する。併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席、ゼミ参加の積極性、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に勘案して決定する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等備考	1号館7階植杉研究室			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	西川 浩平
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	市場にはヒットする商品が存在する一方、全く売れない商品も存在する。この売れる商品と売れない商品の違いを分析するに当たり、経済学は貴重な知見を提供する。当ゼミの目的は、これまで蓄積されてきた経済学の知見を用いて、商品ヒットにつながった要因を分析することにある。		
到達目標	商品ヒットにつながった要因を分析するに当たり必要とされる、マイクロ経済学、計量経済学の能力を身につける。		
授業方法と留意点	ゼミ形式の少人数教育によって、課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポートの作成・発表、討論・総括という学習スタイルを割り当てられた担当教員の指導のもとに修得する。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期では、主に経済学、経営学で蓄積されてきた、新商品普及に関する文献を学習する。 後期は特定の市場データを用いて、売れる商品と売れない商品で何が異なっているのかを分析するため、エクセル等の表計算ソフトを用いたデータ処理の手法を学ぶ。 最終的に分析結果をまとめ、プレゼンテーションを行う。 併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目	マイクロ経済学、産業組織論、統計学		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階 西川講師室		
備考			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	近年、大阪を中心として関西には多くの外国人観光客が訪れていますが、これは大阪、関西のもつ文化の魅力によるものといえます。この演習では、観光を題材に大阪、関西の経済の現状と文化の魅力について、さまざまな資料やデータに基づいて理解していきます。																		
到達目標	大阪、関西における観光、経済、文化の状況について客観的なデータに基づいて理解できるようになります。																		
授業方法と留意点	ゼミ形式で、各人が自らの課題を設定し、資料・データ収集、分析、考察を行い、その成果を発表します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期に行うことは以下の通りです。</p> <p>(1)身近な大阪、関西の経済について関心を持ち、その現状を調べます。</p> <p>(2)身近な経済状況を客観的なデータで示せるよう、データ分析の基礎を学びます。</p> <p>(3)自分の調べたことを資料と客観的なデータで効果的に示せるようプレゼンテーションの練習をします。</p> <p>後期に行うことは以下の通りです。</p> <p>(1)自らの関心に応じて、研究テーマを設定します。</p> <p>(2)その研究テーマについて、前期で学んだ資料収集、データ分析の方法で分析を進めます。</p> <p>(3)自らの研究テーマについてゼミ論文としてまとめいきます。</p> <p>(4)ゼミ論文を効果的に説明できるよう、最終報告会に向けてプレゼンテーションの練習をします。</p> <p>これらの内容に併せて研究倫理教育を行います。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	課題設定、資料・データ収集、分析、考察をゼミ論文としてまとめ上げ、その課程を総合的に評価します。																		
学生へのメッセージ	自ら設定した研究テーマをゼミ論文のまとめ上げる課程で、大きな能力向上をはかれます。																		
担当者の研究室等備考	1号館7階 朝田准教授室 (経済学部)																		

科目名	専門演習Ⅰ	科目名(英文)	SeminarⅠ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習内容を踏まえて地域経済分析の理解を深める。 ・地域における経済活性化の取り組みとして情報化、地域コミュニティ醸成の必要性及び地域保健医療の環境整備の必要性について考察する。 ・また、地域の特色を活かした地域振興や地域資源、施設の活用について視察や訪問によって学ぶ。 ・少子高齢化や社会保障の社会情勢への対応の視点から保健福祉医療関係等の施設見学や地域振興の視点から現地調査等についてもゼミ生が主体的に実施することを奨励する。 																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業概要・目的に述べた施設見学や現地調査の情報から専門演習Ⅱで研究する内容への理解を深めることを到達目標とする。 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習で理解を深めた近代経済学とマルクス経済学の考え方を踏まえ地域経済活性化の手段としての保健福祉医療関係や地域振興の役割について習得する。 ・また、これらの事業について視察や配布資料によって議論を行う。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域経済活性化への保健福祉医療と地域振興等の重要性を考える。 ・中央集権的な経済構造によって高度成長期を経て、現在は地域を中心に経済が沈静化しつつある。 ・地域は地域振興の活性化や保健福祉医療事業の活性化によって事業展開がローカルからグローバル化することが可能であることを配布資料の輪読や議論によって学ぶ。 ・フィールドワークや日経ビジネス等の雑誌から現状の課題への対応策について、検証し、まとめ、プレゼンテーション等の手法により報告・議論する。 ・併せて、研究倫理教育を行う。 																		
関連科目	基礎演習 専門演習Ⅱ 卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>なし 適宜資料を配布する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	なし 適宜資料を配布する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	なし 適宜資料を配布する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメ及びレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミへの参加は、議論によって自らの考えをまとめ話す力を醸成します。醸成された知識を学生間で交換することでコミュニケーション能力が修得出来ます。 ・従ってゼミへの参加は、自らの成長と共に「就活力」の向上が望めます。 ・出席を重視します。 																		
担当者の研究室等	1号館7階 田井准教授室(経済学部)																		
備考	地域の経済活動を支える保健福祉医療事業だけでなく地域振興の事業への関心を持ち、ゼミ生自ら地域の事業への調査を通じての研究・発表を期待する。																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	経済に関するテーマで各自が疑問を設定し、分析する。その分析結果を発表し、レポートを作成する。		
到達目標	各自の研究を通じて、経済学的思考を身につけること。また、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方を学ぶこと。ゼミを通じてディスカッションを含めたコミュニケーション能力を高めること。		
授業方法と留意点	最初に社会的問題や疑問を広く情報収集する。そして特に関心のある分野を決め、どのような分析手法が望ましいかを検討する。その分析結果をゼミの中で発表し、皆でディスカッションを行う。それを簡潔にレポートとしてまとめる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは各自で決めるが、テーマを決めるための話し合いを教員や学生間で行う。 基本的には個別で研究を進めるが、場合によってはグループで行うこともある。 併せて研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	プレゼンテーションやレポートの完成度、そして議論への参加を重視する。出席率が低い場合は単位が取得できない可能性がある。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階 田中研究室		
備考			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	内田 勝巳
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	「国際協力」というグローバルな視点から、開発途上国や日本の地域開発のあり方を探求する。その際、経済開発理論と現場での実践に注目する。		
到達目標	論文の作成に必要な形式や論理的思考に関する基礎的知識を身につけて、次年度以降のフィールド調査および卒業論文作成の準備が円滑に行えるようになることを到達目標とする。		
授業方法と留意点	前期のおわり（7月）にゼミ論の作成計画書を提出し、後期のおわり（1月）にゼミ論を提出しプレゼンテーションを行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1) 各自が関心のある日本の地域問題、開発途上国や地球規模の問題について、どのような研究が行われているか文献調査を行い参考文献一覧表を作成する（授業時間外に自身で行う）。 2) 各自が関心のあるテーマの特定地域・特定分野の具体的な研究計画を立て、当該地域・分野に関連したゼミ論を作成する。 3) 可能な限り受講生の希望に沿って課外活動を実施する。 4) 併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目	開発経済学、国際協力論、地域経済入門		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法（基準）	文献を調査し理解する力、討議への参加、ゼミ論作成能力、プレゼンテーション能力等で総合的に評価する。ゼミ対抗プレゼン大会への参加者は高く評価する。		
学生へのメッセージ	演習を通じて自ら関心のあるテーマの学習を深めていってください。		
担当者の研究室等	1号館7階 内田教授室（経済学部）		
備考			

科目名	専門演習Ⅰ	科目名(英文)	SeminarⅠ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	蛭川 雅之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	「興味のある話題や疑問に関してデータを収集し、統計学・計量経済学的手法を応用してその疑問に自分なりの答えを出す」ことをテーマにしています。疑問は広く経済学・ファイナンスに関連のあることであれば何でも構いません（地域・観光・国際経済に直接関連するものであればなお結構です）。			
到達目標	専門演習Ⅱで学ぶ回帰分析を理解するのに必要となる統計学の基礎を身につけることを目標とします。			
授業方法と留意点	レジュメおよびレポートの作成・発表、討論・総括という学習スタイルをとります。授業中は積極的に発言するよう心がけてください。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	計量経済学の基礎となる統計学を学習します。具体的には、基礎科目「統計学」で使用されるものより少々高度な教科書の輪読を行います。また、卒業研究のテーマ選びやコンピュータを使ったデータ解析も開始したいと思います。併せて、研究倫理教育を行います。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価します。			
学生へのメッセージ	何事にも前向きな姿勢を持ち続けてください。			
担当者の研究室等備考	1号館7階 蛭川教授室(経済学部)			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平野 泰朗
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	これまで日本経済がどのように成長していったか、そして、これからはどのように発展してゆくのか。こうした疑問を解き明かすため、労使関係、企業間関係、金融、国際関係における様々な制度の役割を踏まえて現状を分析し、答えを見つけてゆく。																
到達目標	1. ゼミでの集団学習を通じて、聴く力、伝える力、まとめる力をつける。 2. 課題研究を通じて、課題発見力、情報収集力、論理的思考力をつける。																
授業方法と留意点	1. まず、直接付き合い合っている人間関係以外の世界で何が起きているかを知ることから学習を始めます。そのために、共通の入門的な教材（小説、新聞・雑誌記事、大学生のレポート等）を使い、様々な分野（経営、仕事、就職活動、IT技術の社会・経済への影響、海外事情等）での課題が何かを学びます。 2. 次に、以下の学習をします。まず、経済ニュースから各自が興味深いと思う話題を取り上げ、それについての経済学的解説を加えます。次に、ふる里や関心のある地域を選び、その地域の特徴を調べ、地域が抱える課題を調べます。最後に、2～3人のグループに分かれ、グループ独自の研究課題を設定し、それを調べます。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. テーマ・内容は、課題発見力をつけるため、基本的には自分で決めます。 しかし、初期の段階では、経済・社会問題への関心度が低いので、教員が多数のテーマを列挙し、その中から選ぶという方法も併せて行います。 2. 方法については、個人別学習とグループ学習を併用して行います。 3. 一度の発表で終わりというわけではないので、討論中に受けた質問や指摘を次回発表で答えられるように事後学習をします。 4. 併せて、研究倫理教育を行います。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	事前学習の度合い、個人学習の成果（プレゼンテーション、レジュメのまとめ方など）、集団学習への貢献度（質問、提案、議論のまとめなど）をもとに総合的に評価します。 なお、出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等備考	1号館7階 平野教授室																

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	3年・4年時の上級研究のための基礎知識と研究レポートの作成・ディスカッション・プレゼンのための基礎を習得させる。		
到達目標	①会計学の基礎の演習 ②研究レポートの書き方、ディスカッションによる研究の調整・発展テクニックの習得 ③プレゼンのスキルを身につける		
授業方法と留意点	①必ず授業へ参加し、またディスカッションに参加すること ②本授業は講義タイプではなく、学生参加型のゼミですので積極的に参加すること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	毎週のテーマに合わせて、レポート・演習・発表準備などを告知する併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	テストは無し 毎回のゼミ参加・演習・レポート・発表等を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階 朴教授室		
備考	積極さが必要		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野 邦昭
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	3年次以降のゼミでの学習・研究に必要な「読解力」「要約力」「プレゼンテーション能力」「ディスカッション能力」を身につける。また知識としては交通問題を経済学的に分析する。			
到達目標	交通問題を経済学的に分析できるようになる。			
授業方法と留意点	前期では個人で、後期ではゼミ全体で一つのテーマについてまとめる。 また、必要に応じて時事問題について議論したりする。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	授業全体を通じて3年次以降で必要となる技術と知識を習得していく。輪読を中心とするが適宜見学に行くことも考慮している。併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	なぜタクシーは動かなくてもメーターが上がるのか	竹内健蔵	NTT 出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	発表内容及びそれを基にした質問や意見の表明の内容、議論への参加の態度などを総合的に評価する。無断欠席が多い場合単位が与えられない場合があるので注意すること。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 牧野准教授室 (経済学部)			
備考				

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	この授業では4つのことを目標とする。第1に学生に関心のある経済記事を選んでもらい、Power Point で発表してもらい、文章をまとめる能力とプレゼン能力をつけてもらう。第2に、SPI 対策として練習問題を行う。第3に、3分間スピーチを行い、自分の意見を上手く伝える能力をつけてもらう。第4に、データの分析の仕方、グラフの作成の仕方について学ぶ。																		
到達目標	Powerpoint を使ったプレゼン能力、ディスカッション能力、パソコンを使ったデータ分析の能力を身につけてもらう。																		
授業方法と留意点	基本的には学生によるプレゼン、ディスカッション、データ分析をメインに行います。学生同士での結束を高めるために、できるだけグループでの活動を行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<p>前期</p> <p>1. 新聞記事や本を読んで日本でおきている経済に関する問題点を調べてもらいます。学生にはグループでPowerPoint を使って発表してもらい、プレゼン能力を身につけてもらいます。</p> <p>2. また身近でおきているテーマを取り上げグループでディスカッションをします。これによって社会人に必要な考える能力・Discussion 能力を身につけてもらいます。</p> <p>後期：データ分析の仕方を学びます。具体的にはパソコン室でExcel を使い、データの分布やデータ間の関係性について学習します。これによりデータ分析能力と Excel のスキルを身につけてもらいます。</p> <p>併せて、研究倫理教育を行います。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	プレゼン (30%)、ディスカッション (20%)、データ分析 (50%) で総合評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	1号館7階 名方研究室																		

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	ゼミのテーマ：環境問題と現代社会 21世紀は環境の世紀であり、企業の活動も資源・環境の制約や諸制度からは逃れられない。本ゼミでは、政府の環境政策、企業の環境戦略、産業再編の相互関係について分析し、日本経済についての認識を深める。			
到達目標	ゼミ活動を通じた自発的な学び、大学らしい学びがスタートする。 大学のゼミ活動、最終的には卒論執筆に必要となる、研究を遂行するための基礎的能力について学び、これが学士力、社会人基礎力と共通することを理解する。 「ビブリオ・バトル」(書評会)を適宜開催し、プレゼン能力の向上をはかる。			
授業方法と留意点	学生自身がテーマを決め、調査・研究・発表を行い、学士力を身につける。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期には、入門的なテキストを輪読して、レジュメ作成と発表の基本的な技術を習得する。 後期には、各自が興味のある研究テーマを決定し、情報収集とレポート発表をおこなう。 併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	演習への参加状況(出席、レポート提出、発表など)			
学生へのメッセージ	大学時代はあっという間です。目標をもって努力し、自分の力を高めて下さい。			
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室(経済学部)			
備考	ゼミ参加者は「地球環境経済」の講義に出席すること。			

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本演習では観光関連産業とさまざまな観光について研究を進めていくための基礎力を身につけることを目的とします。具体的には文献研究と学外研修や視察なども行います。また、実務で必要とされる英語についても基礎力が身に付くよう工夫をしていきます。			
到達目標	次年度以降の研究の基礎として、観光関連産業とさまざまな観光の形についての理解を深めることを目標とします。			
授業方法と留意点	文献研究の他、ゲストによるレクチャーや学外研修なども行いますので、マナーを守り、大学生としての自覚を持って授業に臨んでください。ゼミの運営においても、各自責任感を持って積極的に協力すること。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	観光関連産業とさまざまな観光の形について研究を進めます。文献研究の他、理解を深めるために学外研修や視察等も行います。併せて、研究倫理教育を行います。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	1からの観光	高橋一夫他編著	中央経済社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レポート・課題提出、発表内容、参加態度等を総合的に評価します。			
学生へのメッセージ	さまざまなことに積極的に挑戦してください。失敗してもそこから学ぶことは多くあります。			
担当者の研究室等	1号館7階 野村准教授室 (経済学部)			
備考				

科目名	専門演習 I	科目名 (英文)	Seminar I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	<p>地域産業、ベンチャー企業、既存の中小企業や大手企業について、基礎から学んでいきます。 特定自治体の産業の分析、特定企業の分析を学んでいきます。 分析を通じて地域の行政、金融機関の産業活性化における役割を学んでいきます。 卒業研究に向けて、テーマ候補の選定、参考文献の選定などを徐々に行っていきます。 キャリアプランのブラッシュアップを行います。 環境マネジメントについて基礎を学びます。 研究倫理教育を行う。 グループワークによるゼミプロジェクトの企画を希望があった場合に行います。</p>																
到達目標	<p>卒業研究の基礎を固める。 キャリアプランの基礎を固める。</p>																
授業方法と留意点	<p>卒業研究について学生がたたき台の案を提示し、それをブラッシュアップしていく。 事例を提示し、それに対して分析し、ディスカッションしていく。 地域経済実践演習の履修を推奨する。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<p>1 はじめに 今後の進め方、ゼミのガイダンスを行う。研究倫理について学ぶ。 研究テーマ候補とキャリアプランについて次回までにレポート作成 2 研究テーマ候補の列挙 キャリアプランのアイデア、分析する企業、自治体の選定 ゼミ生の発表、ディスカッション、発表に対する指摘事項への対応を考える 3 企業分析の基礎 企業分析の基礎的用語、基礎的手法を学ぶ。用語について次回までにレポート作成 4～6 企業分析の演習①～③ 選定された事例企業を実際に分析する。復習し理解を深める 7 企業分析の演習④ 選定された事例企業を実際に分析する。研究テーマ候補とキャリアプランについて次回までにレポート作成 8 研究テーマ候補、キャリアプランについての中間報告 ゼミ生の発表、ディスカッション 発表に対する指摘事項への対応を考える 9～10 企業分析の演習⑤⑥ 選定された事例企業を実際に分析する。復習し理解を深める 11 自治体分析の基礎 企業分析の基礎的用語、基礎的手法を学ぶ。用語について次回までにレポート作成 12～14 自治体分析の基礎①～③ 選定された事例自治体を実際に分析する。復習し理解を深める 15 研究テーマ候補、キャリアプランについての暫定報告 ゼミ生の発表、ディスカッション、興味を持った企業か自治体について分析のレポートを提出</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>ディスカッションへの参加と発表 (50%)、レポート (50%) による評価を行う。</p>																
学生へのメッセージ	<p>どのようなゼミにしていくかは、ゼミ生の皆さん次第です。 楽しいゼミを作っていきましょう。</p>																
担当者の研究室等	1号館7階																
備考																	

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭進
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本演習は、計量経済学的手法を用いて、実際の経済現象を観察し分析する力を養うことを目的とする。		
到達目標	演習では、経済理論(マクロ・ミクロ)の基礎知識を学習すると同時に、経済データの収集方法や処理方法などについても勉強する。さらに、地域経済や観光経済の実証分析を挑戦する。		
授業方法と留意点	統計学のテキストを定めて、統計学の理論を勉強すると同時に、コンピュータによる経済データの収集方法と処理方法についても学習する。さらに、ゼミ生が自ら興味を持つ課題を選び、プレゼンテーションを行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	2年次で学んだマクロ経済学とミクロ経済学の基礎理論をより深く理解するために、現実のデータを用いた実証分析を行う。そのために、統計学や計量経済学の基礎を学んだ上で、コンピュータによる実習を行う。特に、産業連関分析や回帰分析などの分析手法を用いて地域経済・観光経済における経済現象を計量化して分析する。併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	欠席せずに頑張ってください。		
担当者の研究室等備考	1号館7階 郭准教授室		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岸田 未来
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	<p>テーマ：日本企業および日本の産業のグローバル化</p> <p>世界的な競争のグローバル化のもとで、日本では、いまだ世界トップ水準の国際競争力を維持する自動車産業が存在する一方で、かつて日本の経済成長を支えた電機産業では衰退が進んでいるなど、グローバル競争への対応力に大きな違いがみられる。このようなその違いを生み出す要因とは何であろうか。この点を、いくつかの産業分野を取り上げ、主にこれまでの競争条件および競争力のあり方とその変化という点から検討する。</p>																
到達目標	<p>基本的な文献を読解し、また自分で関連するテーマについての十分な情報収集を行うことができる。フィールドワークを行うに当たっての企画や準備、またインタビュー調査などを自らおこなうことができる。得られた知識を理論的な認識へと発展させる分析力を身につけ、それらを他人へと伝える効果的なプレゼンテーションやレポート作成を行うことができる。他人の意見を理解し、また自らの見解を説得力を持って展開させ、有効な議論を行うことができる。</p>																
授業方法と留意点	<p>自分の関心がある特定の産業分野を取り上げるか、特定企業の経営分析を行い、レポートを作成する。可能な形でフィールド調査を行う。個人あるいは集団で、作成したレポートを発表・報告する。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産業研究および企業経営分析に関する文献を検討する。 2. フィールド調査の計画・準備・実行・事後調査を行う。 3. 各自の学習成果を報告・検討する。 <p>併せて、研究倫理教育を行う。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>授業への参加状況(発表、発言、調査への取り組みなど)で評価する。</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等備考	<p>1号館7階 岸田准教授室</p>																

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	久保 廣正
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	国際経済学に関する文献を輪読する。そのうえで、わが国の産業がどのように国際展開を図ろうとしているのか、国際社会にどのように日本をアピールしようとしているのかについて情報収集し、分析を行う。			
到達目標	わが国産業の未来を考える上で必要な学力を身に付けることを到達目標とする。			
授業方法と留意点	文献を輪読した後、最近のわが国産業に関する論文、雑誌、さらには主要企業のHPなどにより情報収集を行う。また、こうした情報に基づき、経済学・経営学の手法を用いて、わが国産業の将来について考える。常に、業界の動向について興味を持ち、情報収集に心がけてもらいたい。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	わが国産業の将来をテーマとする。本演習中には、国際経済学・経営学の基礎理論を学び、得られた情報について分析を行い、わが国産業の将来を考える。演習中に事前事後の学習課題を提示する。併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	本演習に取り組む姿勢、さらには分析結果について評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考				

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	現在、私たちが暮らす日本経済については実にさまざまな問題が指摘されている。そうした問題の原因をいかに分析し、どのような解決策が考えられるのかについて、社会経済学あるいは制度経済学の観点から考察する。具体的には、日本の経済システムが、労使関係、企業間関係、金融システム、国家体制、国際関係などさまざまな制度の領域から構成され、それらが相互に関係しあって構成されていると考える。このような考え方に立って、制度の役割を踏まえて日本経済の諸問題を分析する。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会経済学・制度経済学の基礎的な知識を身につけて、現実の経済問題を分析できるようになる。 2. ゼミでの集団学習を通じて、聴く力、まとめる力、書く力、伝える力をつける。 3. 課題研究を通じて、論文作成に必要な、課題発見力、情報収集力、データ分析力、論理的思考力をつける。 																		
授業方法と留意点	演習授業の主役は、受講者のみなさんです。それぞれが互いに教えあい、刺激しあって授業を進めます。グループ学習では、グループ内で協力しあって課題研究に取り組んでもらいます。またグループ間の競争と協力も授業を盛り上げる重要な要素になります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な文献を受講者で分担して読むことで、基本的な知識を身につける。また、主要な統計データを用いて経済の現状を量的に把握することも行っていく。 2. その後に数人ずつのグループに分かれて、一定のテーマの下でグループごとに課題を設定してグループ研究を行う。 3. 適宜グループごとの発表を行い、互いに疑問や意見をぶつけ合うことで、研究内容の質を高めていく。 4. 最終的には、小論文形式で研究をまとめて、報告会を行う。 5. 併せて、研究倫理教育を行う。 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	事前学習の度合い、個人学習の成果(プレゼンテーション、レジュメのまとめ方など)、集団学習への貢献度(質問、提案、議論のまとめなど)をもとに総合的に評価する。 なお、欠席が多い場合は、単位取得の資格を失う場合がある。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考																			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	適切な文献を探し、輪読する。フィールド調査を実施し報告書を完成させる。フィールド調査を通じて卒業論文の執筆に必要なデータや情報収集を行い卒業論文の執筆準備を行うことを目的とする。		
到達目標	文献購読や現地調査ができるようになる。自ら設定したテーマの調査分析及び論文執筆作法を身につけることを到達目標とする。		
授業方法と留意点	文献サーベイ及びフィールド調査によるファインディングをフィールド調査報告書(卒業論文ドラフト)として取りまとめ、プレゼンテーションと討論を行う。討論に参加しない学生及び調査報告書が完成しなかった学生の評価は低くなるので留意する必要がある。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	4月：基本的な文献の購読 5-7月：各自の卒論テーマの設定と、文献サーベイ及びフィールド予備調査 8-9月：フィールド調査の実施 10-11月：フィールド調査結果に基づきフィールド調査報告書の執筆開始 12-1月：フィールド調査報告書の提出とプレゼンテーション併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	受講態度(30%)、フィールド調査報告書(50%)、プレゼンテーション(20%) ゼミ対抗プレゼン大会出席者を高く評価する		
学生へのメッセージ	フィールド調査等、必要に応じて、ゼミ以外の時間帯にも個別/グループ指導を行います。 シラバスの内容は、学生の理解度やニーズに応じて変更することがあります。		
担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室(経済学部)		
備考	必要な文献は、適宜指示します。		

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	観光企業、自治体、観光地等の実地調査や文献研究により観光事業の諸課題やその多様なあり方を実践的に理解する。		
到達目標	観光事業に関する実地調査とそれに基づいたレポート作成と発表が出来る。		
授業方法と留意点	前期：様々な観光事業に関する文献購読、関連資料調査等によって観光事業に対する理解を深め各自研究課題を設定する。 後期：前期で得た知識を踏まえ、研究課題に関する観光企業、自治体、観光地等への実地調査等（視察、ヒヤリング等）を実施し、調査レポートにまとめ提出、プレゼンテーションする。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	事前学習として観光の様々なテーマ（環境保護、文化振興、地域・産業振興、健康増進等）に関して事業主体（企業、自治体、NPO、観光地等）がどのような活動を行っているか、事例研究を行う。更に必要に応じ観光地・企業等の実務担当者からのレクチャー等を実施する。併せて、研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	提出レポートの内容、プレゼンテーション内容、ゼミ活動への参加態度、等を総合的に評価する。		
学生へのメッセージ	活動への主体的な参加を期待しています。		
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室（経済学部）		
備考			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	地域経済を円滑に運営するために地域金融機関に求められる役割とは何か、地域の利便性・収益性等が地域不動産価格にどのように反映されるかなど、地域の発展にはこれらを総合的に勘案する思考が必要である。本専門演習では、これらを分析するために必要な知識について、グループ学習及びフィールド調査等を通じて学習する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前年度に確立された自分の研究テーマを深化させる。 2. フィールド調査を通じて、地域経済の問題点を考察し、自分なりの認識を持つ。 3. 次年度の卒業研究論文作成に向けて、必要な分析の方法を学習する。 			
授業方法と留意点	グループ学習を中心とする。テーマの設定、必要となる資料・参考文献の収集、学習した内容及びその考察に関する報告、それらに基づいたフィールド調査の企画・実行、グループ内での議論、プレゼンテーション作成といった一連の作業を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	グループ学習を行うに当たり、随時指示する。併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	出席、ゼミ参加の積極性、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に勘案して決定する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等備考	1号館7階植杉研究室			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	西川 浩平
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	観光産業は近年注目を集めている分野であるが、その制度・政策の妥当性・有効性について、経済学的な観点から十分に検討されているとはいえない。本ゼミの目的は、観光産業を含む経済政策全般を対象に、各産業における制度・政策を評価する手法を学び、その効果を定量的に示す能力を養うことにある。			
到達目標	産業における政策の効果を分析するに当たり必要とされる、ミクロ経済学、計量経済学の能力を身につける。			
授業方法と留意点	ゼミ形式の少人数教育によって、課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポートの作成・発表、討論・総括という学習スタイルを割り当てられた担当教員の指導のもとに修得する。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	観光政策を含む経済政策全般について、関心のある対象を各自が選定し、その産業特性等を調査する。この調査を踏まえ、仮説を立て、費用対効果分析や計量経済学の基本的な手法を用いて、仮説の妥当性を検証し、その成果を個人単位で発表する。仮説の提示、分析データの収集の過程で、必要に応じて企業へのインタビュー、アンケート調査等を実施する。 併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	課題の発見、資料収集、分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考				

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	近年、大阪を中心として関西には多くの外国人観光客が訪れていますが、これは大阪、関西のもつ文化の魅力によるものといえます。この演習では、観光を題材に大阪、関西の経済の現状と文化の魅力について、さまざまな資料やデータに基づいて理解していきます。																		
到達目標	大阪、関西における観光、経済、文化の状況について客観的なデータに基づいて理解できるようになります。																		
授業方法と留意点	ゼミ形式で、各人が自らの課題を設定し、資料・データ収集、分析、考察を行い、その成果を発表します。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期に行うことは以下の通りです。</p> <p>(1)身近な大阪、関西の経済について関心を持ち、その現状を調べます。</p> <p>(2)身近な経済状況を客観的なデータで示せるよう、データ分析の基礎を学びます。</p> <p>(3)自分の調べたことを資料と客観的なデータで効果的に示せるようプレゼンテーションの練習をします。</p> <p>後期に行うことは以下の通りです。</p> <p>(1)自らの関心に応じて、研究テーマを設定します。</p> <p>(2)その研究テーマについて、前期で学んだ資料収集、データ分析の方法で分析を進めます。</p> <p>(3)自らの研究テーマについてゼミ論文としてまとめいきます。</p> <p>(4)ゼミ論文を効果的に説明できるよう、最終報告会に向けてプレゼンテーションの練習をします。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題設定、資料・データ収集、分析、考察をゼミ論文としてまとめ上げ、その課程を総合的に評価します。																		
学生へのメッセージ	自ら設定した研究テーマをゼミ論文のまとめ上げる課程で、大きな能力向上をはかれます。																		
担当者の研究室等	1号館7階 朝田准教授室(経済学部)																		
備考																			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・専門演習Ⅰの内容を踏まえて地域経済分析の理解を深める。 ・地域経済における地域保健福祉医療だけでなく地域振興の活性化についても考察する。 ・それらを通じて、卒業論文をまとめるための文章力の養成を行う。 ・また教科書及び資料によってアイデア創出のスキルを醸成する。 																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・長期化する就職活動にも対応するコミュニケーション力向上と学生相互が議論できる課題と環境を構築して学生が、自立した意見表明が出来ること及び卒業研究に繋げる表現力・文章作成力の修得を到達目標とする。 																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・専門演習Ⅰで理解を深めた経済学的視点を踏まえ地域経済活性化の手段としての施策について考察する。 ・教科書・参考資料の輪読を行う。さらに課題認識と課題対策の具体化を支援するフィールドワークからの考察、演習・発表を中心に行う。 ・前半は学生が選択した冊子を輪読し、分担した内容について意見表明による議論を行い、自立した意見発表の演習を行う。 ・演習後半には、4年次に本格化する就職活動に向けて、学生個々の進路に合わせた課題演習も実施していきたい。 																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>地域経済活性化策について考察する。フィールドワークを実施する目的と課題に対して事前に学習し、レジメ作成またはプレゼンテーション資料を作成し、まとめ方を演習する。卒業論文のテーマに関わるフィールドワークをゼミ生に提案させ実施する。併せて、研究倫理教育を行う。</p>																
関連科目	基礎演習 専門演習Ⅰ 卒業研究																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジメ及びレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組み姿勢を総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミへの参加によって議論に慣れ、社会に役立つ知識と知恵を修得することができる。 ・大学生時代しかこのような体験はできないので、時間を有意義に活用する習慣を修得して欲しい。 ・出席、議論参加を重視します。 																
担当者の研究室等	1号館7階 田井准教授室(経済学部)																
備考	学生の積極的な参加意欲によるゼミ参加を奨励する。無断欠席は、厳重に対処する。																

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	経済に関するテーマで各自が疑問を設定し、分析する。その分析結果を発表し、レポートを作成する。卒業研究を意識したテーマ選びを行い、研究を進める。		
到達目標	各自の研究を通じて、経済学的思考を身につけること。また、レポートの書き方、プレゼンテーションの仕方を学ぶこと。ゼミを通じてディスカッションを含めたコミュニケーション能力を高めること。		
授業方法と留意点	最初に社会的問題や疑問を広く情報収集する。そして特に関心のある分野を決め、どのような分析手法が望ましいかを検討する。その分析結果をゼミの中で発表し、皆でディスカッションを行う。それを簡潔にレポートとしてまとめる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	テーマは各自で決めるが、テーマを決めるための話し合いを教員や学生間で行う。 基本的には個別で研究を進めるが、場合によってはグループで行うこともある。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	プレゼンテーションやレポートの完成度、そして議論への参加を重視する。出席率が低い場合は単位が取得できない可能性がある。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階 田中研究室		
備考			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	内田 勝巳
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	適切な文献を探し、輪読する。フィールド調査を実施し報告書を完成させる。フィールド調査を通じて卒業論文の執筆に必要なデータや情報収集を行い卒業論文の執筆準備を行うことを目的とする。			
到達目標	文献購読や現地調査ができるようになる。自ら設定したテーマの調査分析及び論文執筆作法を身につけることを到達目標とする。			
授業方法と留意点	文献サーベイ及びフィールド調査によるファインディングをフィールド調査報告書(卒業論文ドラフト)として取りまとめ、プレゼンテーションと討論を行う。討論に参加しない学生及び調査報告書が完成しなかった学生の評価は低くなるので留意する必要がある。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	社会調査・アンケート調査・データ解析につき学習しつつ、基本的には専門演習Ⅰで作成したゼミ論テーマに沿って、各自でフィールド調査計画をたて、質問票等を作成し、フィールド調査を実施する。フィールド調査は夏季休暇期間中を目途に実施することが望ましい。フィールド調査結果をとりまとめ、11月から12月にかけて、順次、フィールド調査のプレゼンテーションを実施する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	受講態度(20%)、フィールド調査の実施(40%)、フィールド調査報告書(30%)、プレゼンテーション(10%) ゼミ対抗プレゼン大会出席者は高く評価する。			
学生へのメッセージ	フィールド調査等、必要に応じて、ゼミ以外の時間帯にも個別/グループ指導を行います。 シラバスの内容は、学生の理解度やニーズに応じて変更することがあります。			
担当者の研究室等	1号館7階 内田勝巳教授室(経済学部)			
備考				

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	蛭川 雅之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	「興味のある話題や疑問に関してデータを収集し、統計学・計量経済学的手法を応用してその疑問に自分なりの答えを出す」ことをテーマにしています。疑問は広く経済学・ファイナンスに関連のあることであれば何でも構いません（地域・観光・国際経済に直接関連するものであればなお結構です）。			
到達目標	専門演習Ⅰで学んだ知識を回帰分析および実際のデータを用いた実証分析に応用できる水準に高めることを目標とします。			
授業方法と留意点	レジュメおよびレポートの作成・発表、討論・総括という学習スタイルをとります。授業中は積極的に発言するよう心がけてください。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	計量経済学の初歩として回帰分析を中心に学習します。また、様々な分野での実証分析をテーマとする論文を討議し、計量分析の手法が実際のデータ分析にどのように応用されているのかを理解します。さらに、卒業研究のテーマ選びを本格化させ、必要なデータの入手方法など研究方法の詳細をつめるよう指導していく予定です。併せて、研究倫理教育を行います。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	課題の発見・分担、資料収集・分析、レジュメおよびレポート作成・発表の達成度、討論・総括内容、課題へ取り組む姿勢を総合的に評価します。			
学生へのメッセージ	何事にも前向きな姿勢を持ち続けてください。			
担当者の研究室等備考	1号館7階 蛭川教授室(経済学部)			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平野 泰朗
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	これまで日本経済がどのように成長していったか、そして、これからはどのように発展してゆくのか。こうした疑問を解き明かすため、労使関係、企業間関係、金融、国際関係における様々な制度の役割を踏まえて現状を分析し、答えを見つけてゆく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ゼミでの集団学習を通じて、聴く力、伝える力、まとめる力をつける。 課題研究を通じて、課題発見力、情報収集力、論理的思考力をつける。 4年次の卒業研究に向けての準備をする。 		
授業方法と留意点	前半は、比較的広いテーマをいくつかのグループに分かれて、多面的に調査・研究する。その間、中間報告を何度か行い、最終的にレポートにまとめます。後半は、前半期の学習をもとに、各自の研究テーマを暫定的であっても確定し、それに関する個人または個別グループごとの中間報告を定期的に行います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 前半の研究テーマは、原則的には、教員が用意したもの（例えば、スポーツビジネスの課題とその解決策、和食の産業的展開、日本のコンテンツ産業の特徴、観光産業振興の方策など）の中から選びます。特に、自発的に取り組みたいテーマがあれば、教員との話し合いにより、そのテーマの選択も可とします。 後半は、各人が卒業研究につながるテーマを選び、それを調べ、その成果を報告・討論しながら、研究を進めていきます。これとは別に、関心のある者は、学外での聞き取り調査に参加する。 併せて研究倫理教育を行います。 		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	事前学習の度合い、個人学習の成果（プレゼンテーション、レジユメのまとめ方など）、集団学習への貢献度（質問、提案、議論のまとめなど）をもとに総合的に評価します。 なお、出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等備考			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	上級研究のための基礎知識と研究レポートの作成・ディスカッション・プレゼンのための基礎を習得させる。 また、卒業研究のための文献サーベイ、アンケート調査法、実地調査、データの収集・分析などの演習をする。			
到達目標	卒研作成のための調査方法および調査スキルを理解し、3年生の最後までは「卒業研究計画書」が作成できること			
授業方法と留意点	①必ず授業へ参加し、またディスカッションに参加すること ②本授業は講義タイプではなく、学生参加方のゼミですので積極的に参加すること			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	毎週のテーマに合わせて、レポート・演習・発表準備などを告知する併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	テストは無し 毎回のゼミ参加・演習・レポート・発表等を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 岸田准教授室			
備考	必ず出席要			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野 邦昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	専門的な知識を身につけるとともに、時事問題への関心、社会人として必要な基礎的能力を身に付けてもらう。			
到達目標	今年は特に交通問題について歴史・経済学の両面から理解を深める。			
授業方法と留意点	グループによる発表・議論に慣れてもらう。また時事問題に触れることで就職への対策も行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	交通問題を経済学および歴史の面からテキストや論文の輪読・見学によって学ぶ。グループ発表およびレポート提出をしてもらう。発表者以外の人にも必ず何か質問してもらう。併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	発表内容及びそれを基にした質問や意見の表明の内容、議論への参加の態度などを総合的に評価する。無断欠席が多い場合単位が与えられない場合がある。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 牧野准教授室(経済学部)			
備考				

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	この授業では2つのことを目標とする。第1に前期においては学生をテーマごとにグループに分け論文を書いてもらう。後期にはそれを参考に自分の卒業論文のテーマを選び準備をしてもらう。第2に就職活動の準備をおこない、3年の後期から始まる就職活動に備えてもらう。			
到達目標	前期はグループで論文を作成する能力を身につけてもらう。後期には就職活動の万全な準備と卒業テーマの決定を目標とする。			
授業方法と留意点	学生同士での結束を高めるために、できるだけグループでの活動を行います。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	授業は2つの内容から構成される。前期においてはまず学生をテーマごとにグループに分け、各グループで論文を書いてもらう。後期においては、前期の論文作成をもとに卒業論文のテーマを選び、大まかな流れ、筋道をみつけ4年の卒業論文の作成につなげてもらう。併せて、研究倫理教育を行う。就職活動に関しては自己分析・面接の練習を授業の中で行い、論理的な思考・発表能力を身につけてもらう。その他に学生によるスピーチ、グループディスカッションも行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	前期のグループでの論文の内容(50%)と後期の卒業論文への準備(50%)で総合評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考				

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	<p>テーマ 環境問題と産業・企業 さまざまな環境問題への対応を迫られる産業・企業の実態について研究する。</p>		
到達目標	<p>研究・調査・発表についての基礎的な能力を高める。</p>		
授業方法と留意点	<p>関心がある環境問題と産業・企業の関わりについてテーマ設定し、調査レポートを作成する。 個人あるいは集団で、作成したレポートを発表・報告する。</p>		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	<p>各自の問題意識による調査・研究を軸とする。 前期は、グループごとにテーマを設定し、調査・研究を行う。 後期は、卒業論文を意識し、個人ごとにテーマを設定して、調査・研究を行う。 併せて、研究倫理教育を行う。</p>		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	<p>授業への参加状況(発表、発言、調査への取り組みなど)で評価する。</p>		
学生へのメッセージ	<p>卒業論文の作成を意識し、テーマを選択するために、アンテナをはっておきましょう。</p>		
担当者の研究室等	<p>1号館7階 野口准教授室(経済学部)</p>		
備考			

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	価値観が多様化し、情報のあり方が変わるなか、観光においても新しい様々な事象が発生しています。また、訪日外国人観光客の増加やリピーターに対応するため、観光関連産業においても高品質なサービスを提供することのできる人材が求められています。本演習では観光関連産業と新しい観光をテーマとして、これからの観光関連産業のあり方と地域を活性化する新しい観光の形について研究を進めていきます。			
到達目標	観光関連産業と様々な観光事象について理解を深めることを目標とします。			
授業方法と留意点	学生が選んだテーマにつき、グループで文献と学外研修により研究を進めていきます。学生が主体となって研究を進めていきますので、積極的に参加すること。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	専門演習Ⅰで学んだ観光関連産業と様々な観光事象についてさらに理解を深め、その中から学生が主体的にテーマを設定し、グループで研究を進めていきます。文献や資料については授業内で適宜指示します。			
関連科目	観光学入門、専門演習Ⅰ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	レポート・課題提出、発表内容、参加態度等を総合的に評価します。			
学生へのメッセージ	取り組む姿勢の違いによって、身に着くことが違ってきます。一つでも多くのことを学ぶ、という貪欲な姿勢で、積極的に授業に参加してください。			
担当者の研究室等	1号館7階 野村准教授室(経済学部)			
備考				

科目名	専門演習Ⅱ	科目名(英文)	Seminar II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	卒研の基礎を固める。 キャリアプランの基礎を固める。																		
到達目標	卒研の研究テーマ、テーマ選定理由、研究目的、研究方法を明らかにする。 キャリアプラン立案に必要とされる知識の基礎を身につける。																		
授業方法と留意点	毎回、卒研の研究計画のブラッシュアップを行います。 課題提出が不足している学生は不合格とすることがあるので、毎回出席と課題提出に努力すること。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1. 卒研の研究計画書完成</p> <p>(1) 研究テーマの決定</p> <p>(2) テーマ選定理由の決定</p> <p>(3) 研究目的の決定</p> <p>(4) 研究方法の決定</p> <p>毎回、指摘事項を直し、研究計画書をブラッシュアップ。 参考文献リスト、分析方法まで考えることとします。</p> <p>2. キャリアプラン立案に必要とされる基礎知識</p> <p>(1) 業界知識</p> <p>(2) 業務知識</p> <p>(3) キャリアプラン作成</p> <p>未確定部分はあろうと、ビジョン、ロードマップを示すこととします。</p> <p>3. 面接に必要な基礎知識</p> <p>(1) 企業等の選定</p> <p>(2) 想定される質問事項の選定</p> <p>(3) 質問への回答案の作成</p> <p>(4) 面接演習</p> <p>仮定した企業や自治体等への面接を模擬的に体験します。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題の提出、ブラッシュアップの進捗、ディスカッションへの参加により評価します。 十分ブラッシュアップされた研究計画書、キャリアプランが提示されているかどうかを重視します。																		
学生へのメッセージ	4年になると就活に入ります。その前に卒研やキャリアプランの基礎を固めることを重視します。																		
担当者の研究室等	1号館7?																		
備考																			

科目名	専門演習Ⅱ（上級ゼミ）	科目名（英文）	Seminar II (Advanced Course)
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	平野 泰朗
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	これまで日本経済がどのように成長していったか、そして、これからはどのように発展してゆくのか。こうした疑問を解き明かすため、労使関係、企業間関係、金融、国際関係における様々な制度の役割を踏まえて現状を分析し、答えを見つけてゆく。																
到達目標	1. ゼミでの集団学習を通じて、聴く力、伝える力、まとめる力をつける。 2. 課題研究を通じて、課題発見力、情報収集力、論理的思考力をつける。 3. 4年次の卒業研究に向けての準備をする。																
授業方法と留意点	前半は、比較的広いテーマをいくつかのグループに分かれて、多面的に調査・研究する。その間、中間報告を何度か行い、最終的にレポートにまとめます。 後半は、前半期の学習をもとに、各自の研究テーマを暫定的であっても確定し、それに関する個人または個別グループごとの中間報告を定期的に行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 前半の研究テーマは、原則的には、教員が用意したもの（例えば、スポーツビジネスの課題とその解決策、和食の産業的展開、日本のコンテンツ産業の特徴、観光産業振興の方策など）の中から選びます。特に、自発的に取り組みたいテーマがあれば、教員との話し合いにより、そのテーマの選択も可とします。 2. 後半は、各人が卒業研究につながるテーマを選び、それを調べ、その成果を報告・討論しながら、研究を進めていきます。これとは別に、関心のある者は、学外での聞き取り調査に参加する。 3. 併せて研究倫理教育を行います。																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	事前学習の度合い、個人学習の成果（プレゼンテーション、レジユメのまとめ方など）、集団学習への貢献度（質問、提案、議論のまとめなど）をもとに総合的に評価します。 なお、出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等備考																	

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	4年間の勉強の集大成としてこれまで学んだ経済理論、経済データの処理方法、実証分析の方法などをもとに、卒業論文を作成する。			
到達目標	ゼミ生が選んだ卒論テーマに沿って、問題設定、論理展開（実証分析を含む）、結論からなる論文を書き上げることを到達目標とする。			
授業方法と留意点	毎回の演習で、数名のゼミ生による論文作成の進度に関する報告を行い、論文の内容についてゼミ内で討論する。各人ごとの研究テーマが異なるので、テーマに応じた個別指導を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期では各自の卒業論文のテーマを選定し、それに沿って調査や研究を行い、卒業論文を作成する準備を行う。後期では4年間の勉強の集大成としてこれまで学んだ経済理論、経済データの処理方法、実証分析の方法などをもとに、卒業論文を作成する。併せて研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習への授業態度、発表状況、論文の完成度等を考慮して評価する。			
学生へのメッセージ	実証分析の能力を養ってください。			
担当者の研究室等	1号館7階 郭准教授室			
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	岸田 未来
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	<p>テーマ：日本企業および日本の産業のグローバル化</p> <p>世界的な競争のグローバル化のもとで、日本では、いまだ世界トップ水準の国際競争力を維持する自動車産業が存在する一方で、かつて日本の経済成長を支えた電機産業では衰退が進んでいるなど、グローバル競争への対応力に大きな違いがみられる。このようなその違いを生み出す要因とは何であろうか。この点を、いくつかの産業分野を取り上げ、主にこれまでの競争条件および競争力のあり方とその変化という点から検討する。</p>																		
到達目標	<p>卒業論文のテーマとして有効な研究課題を設定できる。卒業論文作成に必要な文献を読解し、また自分で関連するテーマについての十分な情報収集を行うことができる。得られた知識を理論的な認識へと発展させる分析力を身につけ、それらを卒業論文としてまとめることができる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>これまでのフィールド調査を踏まえて、卒業論文作成に向けて各自でテーマを設定し、資料収集や文献調査を行う。必要に応じて補足的なフィールド調査を行う。</p> <p>個人あるいは集団で卒業論文を作成し、発表する。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業論文に関連する文献を検討する。 2. 補足的なフィールド調査を行う。 3. 各自の卒業論文の内容を報告・検討する。 4. 併せて研究倫理教育を行う。 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	授業への参加状況 (発表、発言、調査への取り組みなど) で評価する																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等備考	1号館7階 岸田准教授室																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	久保 廣正
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	各自が選択した卒業研究テーマについて、逐次、その内容を報告し、所定の期間内に卒業研究を完成するように指導する。		
到達目標	所定の期間内に卒業研究論文を仕上げる。		
授業方法と留意点	自らが興味を抱いた内容を選択し、自らの分析により卒業論文を仕上げるように指導・助言する。卒業研究に関連する情報を常に入手するように心がけてもらいたい。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	逐次、卒業研究の内容を発表してもらいが、発表に当たっては十分な事前学習を心がけてもらいたい。また、発表の際に指摘したポイントは、必ず発表後にも学習してもらいたい。 併せて研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	卒業研究の内容について、論理的一貫性、分析力、表現力などを総合的に評価する。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	<p>経済 (学) 的な関心にもとづいて選んだテーマにしたがって調査・研究を行い、それをゼミで繰り返し報告・討論する中で、問題をより明確にし、分析内容をより質の高いものにできるように指導を行う。</p> <p>また、卒業研究の質を向上させるだけでなく、自らの研究をまわりにわかるように伝える一方で、他の人の意見や質問を的確に理解し、それにもとづいて研究の内容を改善できるように指導を行う。</p>																		
到達目標	<p>自ら選んだテーマに沿って明確な問題設定を行い、それに対してきちんとした根拠を伴う結論を論理的に導き出し、それを他人が明確にわかる形で論文にまとめることを到達目標とする。</p>																		
授業方法と留意点	<p>受講者全員が参加して、各自の研究内容を報告してもらい、それをめぐって討論を行う授業と、個別指導を行う授業とを、状況に合わせて組み合わせつつ授業を進める。</p> <p>全員参加の場合は、各人が中間報告を何度も行い、プレゼンテーションや質疑応答の技術を学びながら、継続的に研究を行う態度を身につけてもらう。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>各人が自ら選んだ研究テーマをもとに、学生と教員が相談・検討しながら授業計画を立てる。</p> <p>併せて、研究倫理教育を行う。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>演習への参加姿勢、準備状況、報告論文の完成度等を勘案して総合的に評価する。</p> <p>なお、欠席が多い場合は、単位取得の資格を失う場合がある。</p>																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等																			
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	各自の研究テーマに沿って、調査を進め卒業論文を完成させる。		
到達目標	十分に調査し分析して、卒業論文を完成させる。		
授業方法と留意点	卒論発表をゼミ内で行い、自分の論文ばかりでなく、他のゼミ生からも学びながら論文作成を進めていく。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月に卒業論文の進捗状況を確認する。</p> <p>毎月一度、進捗状況を発表しながら、各自の調査や分析を進める。</p> <p>9月に再度進捗状況を確認し、12月完成を目指して論文を書き進める。</p> <p>12月初めにゼミの教員に論文を提出し、修正点を話し合う。</p> <p>1月に卒業論文を提出する。</p> <p>併せて研究倫理教育を行う。</p>		
関連科目	演習Ⅰ 演習Ⅱ		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	卒業論文のテーマ設定、卒業論文に取り組む姿勢、調査や分析の仕方、論文の完成度等で評価する。		
学生へのメッセージ	大学でしかできない経験です。自分で考え、資料を集め分析しましょう。		
担当者の研究室等	後藤研究室 (1号館7階)		
備考			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	これまでの大学生活で学んだ知識や経験（インターンシップ等を含む）を生かし、卒業研究を行い、卒業研究レポートを作成する。			
到達目標	卒業研究レポートの完成			
授業方法と留意点	適宜、研究の進捗に応じた個別指導を行う。またゼミでの中間報告や全員参加の議論により研究内容の充実を図ること。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自の興味と問題意識に応じて、主に地域または観光に関わるテーマを設定し、各自調査・研究を進める。またゼミでの議論を通して研究の質の向上を図る。 併せて研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	卒業研究レポートの内容及びゼミ活動への参加態度等を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室（経済学部）			
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	地域経済を円滑に運営するために地域金融機関に求められる役割とは何か、地域の利便性・収益性等が地域不動産価格にどのように反映されるかなど、地域の発展にはこれらを総合的に勘案する思考が必要である。本専門演習では、これらを分析するために必要な知識について、グループ学習及びフィールド調査等を通じて学習し、最終的に卒業研究論文をまとめる。																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前年度までに確立された自分の研究テーマをさらに深化させる。 2. フィールド調査を実施し、さらなる地域経済への考察を行うことで、認識を確立する。 3. 卒業研究論文の作成および卒業研究発表会への参加。 																		
授業方法と留意点	グループ学習を中心とする。テーマの設定、必要となる資料・参考文献の収集、学習した内容及びその考察に関する報告、それらに基づいたフィールド調査の企画・実行、グループ内での議論、プレゼンテーション作成といった一連の作業を行う。併せて研究倫理教育を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	グループ学習を行うに当たり、随時指示する。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	出席、ゼミ参加の積極性、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に勘案して決定する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	1号館7階植杉研究室																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	西川 浩平
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	専門演習Ⅰ・Ⅱの学習を通じて関心をもったテーマについて、自身の見解を客観的に評価することを目的に、統計的手法を用いた卒業研究を執筆する。			
到達目標	自身が関心をもったテーマについて、経済理論、経験則に基づき仮説を立て、統計的手法を用いて仮説の妥当性を判断する能力を身につける。			
授業方法と留意点	ゼミ形式の少人数教育によって、課題の発見、資料収集・分析、卒業研究の作成・発表を割り当てられた担当教員の指導のもとに修得する。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	観光政策を含む経済政策全般について、関心のある対象を各自が選定し、その産業特性等を調査し、調査結果を踏まえた仮説を立てる。この仮説の妥当性を統計的手法を用いて定量的に評価し、その成果を卒業研究としてまとめる。併せて研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	執筆した卒業研究の内容で評価する。評価は、テーマの面白さ、データの特異性、用いた手法の妥当性、結果の解釈の4つの視点から行う。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等				
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朝田 康禎
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	近年、大阪を中心として関西には多くの外国人観光客が訪れていますが、これは大阪、関西のもつ文化の魅力によるものといえます。この演習では、観光を題材に大阪、関西の経済の現状と文化の魅力について、さまざまな資料やデータに基づいて理解していきます。																		
到達目標	大阪、関西における観光、経済、文化の状況について客観的なデータに基づいて理解し、それらを卒業論文としてまとめます。																		
授業方法と留意点	ゼミ形式で、各人が自らの課題を設定し、資料・データ収集、分析、考察を行い、その成果を発表します。併せて研究倫理教育を行います。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期に行うことは以下の通りです。</p> <p>(1)身近な大阪、関西の経済について関心を持ち、その現状を調べます。</p> <p>(2)身近な経済状況を客観的なデータで示せるよう、データ分析の基礎を学びます。</p> <p>(3)自分の調べたことを資料と客観的なデータで効果的に示せるようプレゼンテーションの練習をします。</p> <p>後期に行うことは以下の通りです。</p> <p>(1)自らの関心に応じて、研究テーマを設定します。</p> <p>(2)その研究テーマについて、前期で学んだ資料収集、データ分析の方法で分析を進めます。</p> <p>(3)自らの研究テーマについて卒業論文としてまとめていきます。</p> <p>(4)卒業論文を効果的に説明できるよう、最終報告会に向けてプレゼンテーションの練習をします。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	課題設定、資料・データ収集、分析、考察を卒業論文としてまとめ上げ、その課程を総合的に評価します。																		
学生へのメッセージ	自ら設定した研究テーマを卒業論文のまとめ上げる課程で、大きな能力向上をはかれます。																		
担当者の研究室等	1号館7階 朝田准教授室 (経済学部)																		
備考																			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門演習Ⅱの内容を踏まえてフィールドワークによって得た知識や自ら選択した専門書籍からの知見及びインターンシップ等での体験、実地調査等によって卒業研究をまとめる。 ・ その作成支援を行う。 																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎演習、専門演習Ⅰ、Ⅱで修得した内容に基づき卒業研究をまとめ上げることを到達目標とする。 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 週2回の卒業研究作成支援を行う。そのうち1回は、全員参加のゼミとし、ゼミ生相互の意見交換を行う。他の1回は、ゼミ生個別に卒業研究の作成指導を行う。 ・ 全員参加ゼミでは、教科書の輪読、意見交換を通じて卒業研究作成の共通スキルを養成する。個別ゼミでは、学生毎のテーマに沿った卒業研究作成指導を行う。 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域経済活性化策について考察する。フィールドワークを実施する目的と課題に対して事前に学習し、レジュメ作成またはプレゼンテーション資料を作成し、まとめ方を演習する。 ・ 卒業論文のテーマに関わるフィールドワークをゼミ生に提案させ実施する。 ・ 併せて研究倫理教育を行う。 																		
関連科目	基礎演習 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ゼミ開始時及び適宜指定する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ゼミ開始時及び適宜指定する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	ゼミ開始時及び適宜指定する。																		
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ゼミ開始時及び適宜指定する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ゼミ開始時及び適宜指定する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	ゼミ開始時及び適宜指定する。																		
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゼミへの参加状況、卒業研究作成内容等によって総合的に評価する。 ・ 就職活動と大学での勉学の学生生活を両立する姿勢を評価する。 ・ 課題提出、発表の活動の評価を重視する。 																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業研究は大学での集大成である。単独での卒業研究をまとめるに際して学生間相互の議論によって進めることが重要である。 ・ 学生相互の議論による課題発見、必要な調査内容などを通じて卒業研究作成を奨励する。 ・ 論文作成スケジュールと就活の両立が必須である。卒業単位不足にならないよう講義受講計画を立て修学する必要がある。 																		
担当者の研究室等	1号館7階 田井准教授室 (経済学部)																		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職活動対策と勉学を両立させ、大学生生活の成果としての卒業研究をまとめることが社会人になるための第1段階であることを認識させる。 ・ 真摯に研究に取り組む姿勢を評価する。 																		

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	専門演習 II で選んだテーマに沿って、研究を行い、発表する。最後に卒業論文を完成させる。			
到達目標	各自が選んだテーマで卒業研究を完成させる。その中で、論理展開や検証能力、ディスカッションの方法を学ぶ。			
授業方法と留意点	週一回、全員参加での研究発表で、質疑応答を行う。また個別指導も行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	テーマは各学生で異なるため、個別指導により、研究の方向性を確認していく。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	プレゼンテーションや卒業研究の完成度、そして議論への参加を重視する。出席率が低い場合は単位が取得できない可能性がある。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 田中研究室			
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	内田 勝巳
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	3年次に作成したフィールド調査報告書を下敷きに卒業論文を作成することが目的である。		
到達目標	卒業論文の作成及びプレゼンテーションを通じて、問題発見力、論理的思考力、文章作成力、説明・発表力を養い、高等教育履修者に対し社会が求める基礎能力を身に着けること。		
授業方法と留意点	卒業論文のテーマに応じ個別指導を行う。 必要な形式を満たしていない論文及び剽窃等の不正行為が認められる論文に対しては単位を与えないので留意すること。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各自の卒業論文のテーマに沿った論文指導を行う。 前期をめぐり卒業論文のドラフトが完成できるよう、授業の事前及び事後での自主的な卒業論文作成作業が求められる。 定められた授業時間帯以外でも柔軟に論文作成指導を行う。 11月から12月にかけて完成した卒業論文のプレゼンテーションを実施しプレゼンテーション力を評価する。 併せて研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	新版 大学生のためのレポート・論文術	小笠原喜康
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	卒業論文の内容 (形式への準拠、独創性、論理展開・論文構成力、文章力、データ分析力、等) 及びプレゼンテーション力に基づき評価する。卒業論文発表会への参加者は高く評価する。		
学生へのメッセージ	卒業研究は大学で学んだ専門知識に関連した自らの思索を記 (しめ) すことのできる貴重な機会です。多くの学生にとって、このような機会は人生に一度しかありません。卒業研究を通じて思考力を鍛錬してください。		
担当者の研究室等	1号館7階 内田教授室 (経済学部)		
備考			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	蛭川 雅之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	専門演習Ⅰ・Ⅱ等で得た知識を活用して卒業研究を行い、成果を論文の形にまとめます。研究テーマは広く経済学・ファイナンスに関連のあることであれば何でも構いません（地域・観光・国際経済に直接関連するのであればなお結構です）。研究の進度に応じて、プロポーザル発表、中間発表などを随時実施する予定です。			
到達目標	専門演習Ⅰ・Ⅱでの学修成果を踏まえ、各自が設定した課題について調査・研究を進め、卒業論文として完成させることを最終目標とします。			
授業方法と留意点	授業の中で指示します。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	教員の指示に従ってください。この指示には研究倫理教育も含まれます。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	調査・研究へ取り組む態度、卒業論文の内容等を総合的に評価します。			
学生へのメッセージ	数字を使って物事を説明し、文章を書く訓練は社会に出てからきつと役に立つはずですが、わからないことは遠慮なく聞いてください。			
担当者の研究室等	1号館7階 蛭川教授室 (経済学部)			
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	平野 泰朗
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	各人が選んだ研究テーマにしたがって調査・研究を行い、それをゼミで報告・討論する。また、そのことを通して、聴く力、伝える力、まとめる力をつけると同時に、課題発見力、情報収集力、論理的思考力をつけることを目的とする。			
到達目標	各人が選んだテーマに沿って、問題設定、論理展開（仮説、検証を含む）、結論からなる論文を書き上げることを到達目標とする。			
授業方法と留意点	週2回の授業の内、1回を全員参加の報告・質疑応答を中心に行い、他の1回を、個別指導に当てる。全員参加の場合、各人あるいは各グループの中間報告を何度も行い、プレゼンテーションや質疑応答の技術を学びながら、継続的な研究態度を身につける。また、各人ごとの研究テーマが異なるので、テーマに応じた個別指導を行う。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各人が自ら選んだ研究テーマをもとに、学生と教員が相談・検討しながら授業計画を立てる。併せて、研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	演習への参加姿勢、準備状況、報告論文の完成度等を勘案して評価する。なお、出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	<p>専門演習で習得した基礎知識と分析方法に基づき、上級ゼミで決めてきたゼミ生各自の卒業研究テーマについて、より深く調査・分析・考察を行いながら、ゼミでプレゼン・ディスカッションすることで研究を深めて卒業研究論文を作成する。</p> <p>到達目標：ゼミ生各自のテーマに関する研究結果を卒業研究論文としてまとめて発表する。</p>			
到達目標	卒業研究論文の作成ができること			
授業方法と留意点	<p>まず、ゼミは15回必ず参加し、ディスカッションに参加することで、自分の卒業研究テーマのみではなく、ゼミ生全員のテーマについても一緒に勉強できるようにする。授業は講義タイプではなく、学生参加方のゼミであるため積極的に参加すること。併せて研究倫理教育を行う。</p>			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	毎週のテーマに合わせて、レポート・演習・発表準備などを告知する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>テストは無し</p> <p>毎回のゼミ参加・演習・レポート・発表等を総合的に評価する。</p>			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 朴教授室			
備考	必ず出席要			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	牧野 邦昭
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	これまで大学で学んできたことを基に個々の関心のある事柄について研究を行い、それを論文としてまとめる。			
到達目標	卒業研究論文を完成・提出する。			
授業方法と留意点	卒業研究論文を仕上げるための個別指導を中心とする。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期終了までに研究計画を策定し、後期に実際の論文の執筆を指導する。併せて研究倫理教育を行う。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	卒業研究論文の水準により可否を判定する。			
学生へのメッセージ				
担当者の研究室等	1号館7階 牧野准教授室 (経済学部)			
備考				

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	前期においては卒業論文の先行研究の読解、問題意識、現状分析についてプレゼン・文章の作成をしてもらいます。後期にはデータを集めて回帰分析をしてもらい、卒業研究を作成してもらいます。		
到達目標	現実の問題からテーマを見つける能力、情報収集能力、情報から仮説を構築し、データ分析で検証する能力を身につけてもらう。		
授業方法と留意点	就職活動で忙しいと思いますが、学生への出欠管理はきちんと行い、学生に事前の欠席連絡・事後のフォローアップを徹底させたいと思います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	前期においては卒業論文の先行研究を数本読んでもらい、学生にPowerpointを用いて発表してもらう。その先行研究をもとに自分が具体的にどのような内容について研究するのかも発表してもらう。後期には自分の選んだテーマについて必要なデータを探してもらい回帰分析を行ってもらう。その分析結果をもとに卒業論文を書いてもらう。また随時学生同士就職活動の状態について相談し、いいフィードバックをお互い得られるように取り計らう。併せて研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	普段の授業態度 (出席、発言)、プレゼンの内容、回帰分析、卒業論文の内容から総合的に評価します。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等			
備考			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	各人が選んだテーマに沿って、問題設定、論理展開（仮説、検証を含む）、結論からなる論文を書き上げることを到達目標とする。		
到達目標	卒論執筆を通して、課題発見、課題解決能力を高めることを目的とする。		
授業方法と留意点	各人あるいは各グループの中間報告を何度も行い、継続的な研究態度を身につける。 各人ごとの研究テーマが異なるので、テーマに応じた個別指導を行う。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	各人が自ら選んだ研究テーマをもとに、学生と教員が相談・検討しながら授業計画を立てる。 併せて研究倫理教育を行う。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	演習への参加姿勢、準備状況、報告論文の完成度等を勘案して評価する。		
学生へのメッセージ	卒業論文は学生時代の自分の作品です。自分が真剣に取り組めるテーマを発見し、意欲的に取り組んで下さい。		
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室（経済学部）		
備考			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	大学での学びの集大成として、各人が選んだテーマに沿って、課題を設定、論理展開して、結論に至る卒業研究論文を作成します。		
到達目標	期限内に卒業研究論文を完成し、提出することを目標とします。		
授業方法と留意点	経過報告を何度も行い、ゼミ生全員で討議します。執筆段階に応じて個別指導も行います。併せて研究倫理教育を行います。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後 学習課題	各人の問題意識に基づき、観光または地域に関わるテーマを設定して研究を進めていきます。経過報告での学生間の議論や教員からのアドバイスを重視し、それを研究の質の向上につなげていくこと。		
関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	経過報告の内容および参加姿勢と卒業研究論文の内容により評価します。		
学生へのメッセージ			
担当者の研究室等	1号館7階 野村准教授室 (経済学部)		
備考			

科目名	卒業研究	科目名 (英文)	Graduation Research
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	卒研の分析・研究を進める。 就活の報告・相談を行う。																		
到達目標	提出期限までに、一定水準以上の卒研を完成させ提出する。																		
授業方法と留意点	卒研をブラッシュアップし、卒業に必要な水準を超えるよう指導する。 就活の報告・相談にたいする指導を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒研の研究方法の確認 2. 分析結果の確認と研究方法のブラッシュアップ 3. 分析結果のまとめ。 4. 必要な参考文献、分析手法の指導 5. 卒研の体裁の確認 6. 就活状況に基づくキャリアプランのブラッシュアップ 																		
関連科目																			
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	期限内に提出された卒研の内容による評価を行う。																		
学生へのメッセージ	残された時間を有意義に使いましょう。																		
担当者の研究室等備考	1号館7F																		

科目名	地域金融論	科目名(英文)	Regional Banking
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8△, DP9○		

授業概要・目的	地域金融機関とは何か、地域経済と地域金融とのつながり、地域金融機関の現状における課題や問題点、地域経済を円滑に運営するために求められる役割は何かなど、地域金融機関に対する認識を深め、ひいては地域経済に対するより広い視野と洞察を持てるようになることが目的です。
到達目標	地域金融機関が地域経済において果たすべき役割を十分理解し、それら知識を応用して、自分の係わる地域におけるアイデアを形成することができるようになること。
授業方法と留意点	原則的に講義形式をとります。第8回と第14回にまとめテストを行います。
科目学習の効果(資格)	地域経済に対する、金融面からの理解を得ることができます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション/地域金融論とは	地域金融に関する概論	-----
2	地域金融機関の制度的側面	地域金融を担う金融機関にはどのようなものがあるか、制度的な分類を行う。	授業の復習
3	地域金融機関のこれまで	地域金融機関の発展の経緯について概観すると同時に、地域金融機関のパフォーマンスについて説明を行う。	授業の復習
4	地域金融機関の抱える諸問題	現在、地域的、国内的、国際的に地域金融機関を取り巻く環境下で、どのような活動を行っているのかを理解する。	授業の復習
5	中小企業金融の役割・特徴	日本における中小企業金融の役割や特徴について概観する。	授業の復習
6	中小企業金融システムと銀行融資①	中小企業金融システムの外観と銀行融資に関する諸問題についての概略を説明する。	授業の復習
7	中小企業金融システムと銀行融資②	中小企業金融システムと銀行融資について、特に理論的側面に着目し、説明を行う。	授業の復習
8	まとめテスト・解説	テスト範囲は第2回から第7回まで	-----
9	リレーションシップ・バンキング①	リレーションシップ・バンキングとは何かを理解する。	授業の復習
10	リレーションシップ・バンキング②	リレーションシップ・バンキングは機能しているのか、強化されているのかを、事例に基づき検討する。	授業の復習
11	リレーションシップ・バンキング③	リレーションシップ・バンキングに関する様々な評価を比較検討し、現状の問題点等を認識する。	授業の復習
12	地域金融機関の新しい潮流①	国内的な問題を中心に、リレーションシップ・バンキングの可能性とその限界、地方銀行の合併の動向、地域活性化への取り組みなどを紹介する。	授業の復習
13	地域金融機関の新しい潮流②	第12回の続き、および地方銀行の海外展開の動向などを紹介する。	授業の復習
14	まとめテスト・解説	試験範囲は第9回から第13回まで	-----
15	講義のまとめと今後の学習について	講義のまとめを行うとともに、今後地域金融機関に関する認識を深めるための学習方法の紹介を行う。	-----

関連科目	地域経済論 金融論など
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験(60%) + まとめテスト 2回分(20% + 20%) で評価します。
----------	---

学生へのメッセージ	気軽に質問に来てください。
-----------	---------------

担当者の研究室等	1号館7階 植杉教授室(経済学部)
----------	-------------------

備考	ゲスト講師を招待しての特別授業を数回実施する予定です(詳細未定)。
----	-----------------------------------

科目名	地域経済実践演習	科目名 (英文)	Practical Seminar on Regional Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	岸田 未来
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	この講義では、本学が立地する寝屋川市を対象に、地域経済のあり方やそれらが抱える課題を理解し、その実践的な対応策を考えることを目的とする。授業では、地域経済と地域社会のあり方、課題設定の方法や文献講読、統計資料の活用方法など調査の技術を習得したうえで、テーマを設定して調査を行う。これら調査した内容および学習の成果として、最終的には9月に「寝屋川市ベンチャービジネスコンテスト」への応募を行う。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な市町村を例に地域経済や地域社会のあり方を理解する ・現地調査の手法を身につける ・地域経済の抱える課題を発見し、それらに対する実践的な解決方法を考える ・学習内容を対外的に発表できる水準にまとめる 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容は、現地調査の事前準備、調査、事後のまとめ（ベンチャービジネスコンテストへの応募）、の3つの部分から構成される ・グループ単位での作業が主となる ・調査の対象や時期については、先方の事情により変更されることがありうる 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前授業】事前準備では、教室にて授業を行い、講義や文献購読を通じて調査に必要な技術を習得する。また同時に調査にあたってのテーマを設定し、その準備をすすめる。事後には、ベンチャービジネスコンテストへの応募用紙作成を行う。</p> <p>【実習先と実習時期（予定）】主には前期の平日に、複数回のインタビューやヒアリング調査を行う。対象は公的機関や市内企業、諸団体を予定している。</p>																		
関連科目	地域経済入門、経営学																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法（基準）	・事前準備、現地調査、事後のまとめの、いずれに不参加の場合も単位は認定されない。																		
学生へのメッセージ	この授業では、自らが主体的に調査に関わることが求められます。また調査では自らアポイントを取ったり、日程調整を行ったりと、調査を主体的に企画することが求められます。身近な地域が抱える問題を具体的に調査し、かつ、その解決策を「起業」という手法を通じて考える（授業内では実際の起業には至りませんが）、ということに関心のある人の受講を希望します。																		
担当者の研究室等	岸田研究室																		
備考	4月に合同説明会を実施する。																		

科目名	地域経済実践演習	科目名 (英文)	Practical Seminar on Regional Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	後藤 和子, 平野 泰朗
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	この講義では、主にヨーロッパを対象に、地域経済の多様なあり方やそれらが抱える課題を理解することを目的とする。また、できれば、日本との比較を行う。授業では、調査地域の経済と文化、課題設定の方法や文献講読、統計資料の活用方法など調査の技術を習得したうえで、テーマを設定して現地調査を行う。また調査した内容を、レポートまたはプレゼンテーションを通じて発表する。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 欧州の経済や文化を理解する ・ 海外現地調査の手法を身につける ・ 地域経済の多様性を、比較研究の視点を通じて理解する ・ 調査内容を対外的に発表できる水準にまとめる 																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内容は、海外調査の事前準備、海外調査、事後のまとめ、の3つの部分から構成される ・ グループ単位での作業が主となる ・ 海外調査の対象や時期については、先方の事情により変更されることがありうる 																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前授業】事前準備では、教室にて授業を行い、講義や文献講読を通じて調査に必要な技術を習得する。また同時に調査にあたってのテーマを設定し、海外調査の準備をすすめる。海外調査は、往復時間を含めて1週間程度の予定で行い、現地での視察およびヒアリングを行う。事後には、レポートまたはプレゼンテーションによる発表を行う。</p> <p>【実習先と実習時期 (予定)】2018年2月にイタリア調査を行う。摂南大学と協定校である IULM 大学を訪問するとともに、イタリアの文化産業企業 (ファッション企業、デザイン企業など)、企業博物館や美術館、都市のクリエイティブな場所、観光で成功している場所等を視察する。</p>																		
関連科目	地域経済入門																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	・ 事前準備、現地調査、事後のまとめの、いずれに不参加の場合も単位は認定されない。また、単位認定は受講年の翌年となる。																		
学生へのメッセージ	この授業では、自らが主体的に調査に関わることが求められます。また海外調査では一定の語学力も必要となります。少々難易度が高いかもしれませんが、日本のみならず世界の地域経済を知ることは、経済がグローバル化している現代では必須といえます。海外企業等を視察した経験は、グローバル人材を求める就職活動にもプラスになるはずです。																		
担当者の研究室等	後藤研究室、平野研究室																		
備考	4月に合同説明会を実施する。また、参加費用については、学部からの援助がある。																		

科目名	地域経済実践演習	科目名 (英文)	Practical Seminar on Regional Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	本授業において地域経済を学ぶ対象は、和歌山県日高郡由良町である。地域の基幹産業である農林水産業や製造業、さらに今後発展が期待される観光業の現状を、実地体験、フィールド調査を通じて考察する。可能であればオリジナルな施策の提案を行い、プレゼンテーションを行うことを目的としている。		
到達目標	フィールド調査、グループディスカッション、プレゼンテーションの方法を体得する。		
授業方法と留意点	グループ単位で行動する。フィールドワークへの参加はもちろん、積極的なグループディスカッションを行ってもらい、プレゼンテーションを完成させる。		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【事前授業】 関連文献の輪読を通じて、問題発見に重点を置く。</p> <p>【実習先と実習時期 (予定)】 和歌山県日高郡由良町 (9月上旬)</p>		
関連科目	特になし。		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	積極的参加の程度に応じて評価する。		
学生へのメッセージ	事前・事後学習やプレゼンテーション作成の基礎的条件として、グループディスカッションがしっかりできるかがポイントとなります。他のメンバーと協力・協調し、しっかりしたグループワークができるかどうかをよく判断して受講して下さい。		
担当者の研究室等	1号館7階 植杉教授室(経済学部)		
備考	受講者数(上限) : 8名 (上限を超えた場合の選抜方法 : 教員による面接) 諸費用: 交通費及び宿泊費(おおよそ3万円程度を予定) 説明会を5月中に実施予定です。		

科目名	地域経済実践演習	科目名 (英文)	Practical Seminar on Regional Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	この演習では、年間を通して地域の抱える課題について、地域での活動に実際に参加することによる体験的学習によって理解し対策を考察することを目的とする。 そのための課題設定から地域選択の方法、文献購読、資料の活用方法など予備調査の方法を取得し、その後、実際に調査地域において学外調査を行う。調査地域は3つの地域を予定しているが、学生自身が選択した地域活動についても考慮する。3つの地域での考察内容は「授業テーマ」の欄を参照すること。																
到達目標	自ら積極的に行動し、課題を発見し対策を検討する姿勢から卒業論文作成や就活あるいは就業に向けての姿勢の涵養を図ることを目的とする。 大学時代に自立的な活動を行う習慣と直面する課題に対して自ら取り組む積極性の修得を目指す。																
授業方法と留意点	以下のプロセスによって行う。 (1) 事前授業 (2) フィールドワーク参加 報告書用画像や活動報告の記載 10日以上への参画 10日に満たない場合は、(3)(4)への参加あるいは別のボランティアやインターンシップ等のフィールドワークへの参加で不足日数を充当すれば単位認定を考慮する。 (3) 演習での報告と整理 フィールドワークで得た知見による別の課題対応事例研究 (4) プレゼンテーションでの報告																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	【事前授業】 下記フィールドワーク参加に当たって、担当教員がこれまで取り組んできた「ボランティア活動支援講義」の手法により活動についての注意事項と報告書様式の説明を行う。 【実習先と実習時期 (予定)】 【①徳島県上勝町コース (冬期を除く時期)】 限界集落である町が「葉っぱビジネス」により高齢者の地域振興への貢献によって社会保障依存から貢献に転換した希有な事例である。さらに自然環境保護や自然を生かした新たな地域創生 (振興) 施策を実施している。インターンシップ方法による地域住民宅での共同生活から学生自身が設定した課題設定と具体的な対策を実践演習する。 (1) 授業テーマ: 地域振興による高齢者主体のまちおこし (2) 方法: 上勝町のホームページによるインターンシップ参加募集による。 (3) 事前、事後、学習課題: 上勝町設定のインターンシップ項目に沿って学生自身で課題設定し、事前、事後学習を行う。課題設定に対しては教員が事前にチェックを行う。 【②広島県尾道市 空き家再生プロジェクト (夏季から秋期前期)】 少子高齢化と共に「空き家」の課題が顕在化している。固定資産税制の課題だけでなく、地域の発展には「空き家」対策が必要となっている。尾道市では、NPOを中心に地域住民が他地域の学生等とともに1軒ずつ木造の空き家を再生し地域活性化を図っている。自主上演映画館、「しまなみ街道」あるいは「尾道ラーメン」などの観光資源開発にも尽力されている。 (1) 授業テーマ: 木造建築再生を中心とする地域再生とまちづくり (2) 方法: NPO主催の尾道空き家再生プロジェクトに参画する。 (3) 事前、事後、学習課題: 事前に尾道市空き家再生プロジェクトとの打ち合わせと輪読冊子による学習を行い、プロジェクト参加についての意義を学習する。自治体の空き家対策との違いを比較分析する必要がある。 【③都市内地域再生 かもよんプロジェクト (年間)】 大阪市城東区蒲生4丁目地域では、地主と借り主との効果的なコラボレーションにより住民のニーズに対応した「食」による地域創生 (振興) に成功している。米倉を改造したフランス料理店や長屋を生かした韓国料理店や創作衣料販売などを行っている。 以上3つの地域住民との企画に学生が参画することによって地域創生 (振興) のプロセスを考察する。 (1) 授業テーマ: 住民ニーズを調査し、都市における地主と借り主との利害関係の調整によって地域再生に取り組んでいる。そのプロセスを学ぶ。 (2) 方法: 教員が推薦する「かもよんプロジェクト」主催者と学生との直接打ち合わせにより活動内容及場所を設定する。 (3) 事前、事後、学習課題: 上記方法によって学生自ら設定する課題について教員と主催者、学生との間で学生が事前に学習すべき内容を考察する。コラボレーション手法、活動内容及地域再生の課題検討等についての内容を検討する。その課題分析から仮説を設定し現地でのフィールドワークを実践する。																
関連科目	教養特別講義「ボランティア活動」 経済キャリア入門																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>地域ブランドを引き出す力</td> <td>金丸弘美</td> <td>合同出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>RESASの教科書</td> <td>日経ビッグデータ</td> <td>日経 BP 社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	地域ブランドを引き出す力	金丸弘美	合同出版	2	RESASの教科書	日経ビッグデータ	日経 BP 社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	地域ブランドを引き出す力	金丸弘美	合同出版														
2	RESASの教科書	日経ビッグデータ	日経 BP 社														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	①10日以上学外活動 (複数以上の課外活動での10日以上に達すれば評価する) ②事前事後学習への参加及び学習内容 (特に現状分析と対策としての課外活動内容) ③研究成果のプレゼンテーションによる発表の3つの項目による総合的評価を行う。特に③での研究成果に重点を置く。																
学生へのメッセージ	本演習の成果は、学生の積極性に依存する。また実際活動中の社会人や地域に居住する住民との触れあいの中から研究成果を模索するため、コミュニケーション能力が必須であるとともに社会人に対する礼儀も必要となる。そのため経済キャリア入門でのコミュニケーション力の演習経験履修済みであることやボランティア活動への関心から相手への思いやる気持ちが本演習には不可欠となる。またグループで活動する場合は、他のメンバーとの協調・協力する姿勢が必要である。活動前に教科書を熟読することが望ましい。																
担当者の研究室等	1号館7階 田井准教授室 (経済学部)																
備考	実習先については、調整ができ次第追加周知する。また、変更もあるので、演習を希望する学生に適宜周知する。																

科目名	地域経済実践演習	科目名 (英文)	Practical Seminar on Regional Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	地域経済の実態を理解するための実践演習を行う。 地域経済を支える企業家活動の一環として、地域における商品企画を、事例研究を通じて理解する。																
到達目標	商品の事業構想を立案する。 マーケティングの4Pについて体系的に理解する。 商品開発の地域経済への波及について考えることができるようになる。																
授業方法と留意点	基本的に、調査、グループディスカッション、発表を中心に進めます。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 事例商品の選定 2. 基礎理論の習得 3. フィールド調査の計画 4. アンケート、ヒアリング調査の計画 5.-12. 調査実施と商品コンセプト確立 13-14. 事業構想と商品企画のブラッシュアップ 15. まとめ																
関連科目	専門演習、中小企業論、関西経済論																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	プロジェクトへの貢献度合、アイデア提示・調査への関与の度合、提出物、発表の内容により評価																
学生へのメッセージ	企業における商品企画の経験から実践的な内容とします。 「自分で調べて自分で考える」を基本とします。 やる気のある皆様の参加を待っています。																
担当者の研究室等	1号館7階																
備考																	

科目名	地域経済入門	科目名(英文)	Introduction to Regional and Urban Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ABCDEFGHIJ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	郭進
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	グローバル経済が進む中で地域経済は大きく変動しており、さまざまな観点から注目されている。地域経済学の入門として、この講義では地域経済学の基礎知識を修得する。とりわけ、産業連関表の応用として、最近注目されている経済波及効果の分析を学習する。
到達目標	この授業を履修することによって、①地域経済学の基礎知識を身につける。②産業連関表のしくみおよび経済波及効果の分析を理解できる。③グローバル経済の中で地域経済の活性化の重要性を実感する。
授業方法と留意点	授業は基本的に、Review(前回の復習と練習問題の解説)、本日のポイント、内容(ポイントについて解説)、練習問題(内容に対応する課題)の形式で進めていく。
科目学習の効果(資格)	地域経済を理論と実証の両面から学び、実際の地域経済データを用いての数値分析の能力を身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	地域経済学の課題と地域経済の学び方について説明する。	授業後、アンケートの実施。
2	地域の概念と基本地域メッシュ	地域の概念と地域メッシュについて説明する。	授業後、課題の提出
3	日本の地域構造と人口動態	日本の地域構造と人口動態について説明する。	授業後、練習問題の提出
4	地域経済計算とその概念	地域経済計算とその概念について説明する。	授業後、練習問題の提出
5	地域所得の決定	地域所得の決定について説明する。	授業後、練習問題の提出
6	産業分類と産業連関表	日本の産業分類と産業連関表の基本取引表について紹介する。	授業後、練習問題の提出
7	産業連関分析(1)	経済波及効果の算出方法について説明する。	授業後、課題の提出
8	産業連関分析(2)	経済波及効果の分析実例を紹介する。	
9	まとめ、中間テスト	1回から8回までの内容のまとめと中間テスト。	1回から8回までの内容を復習すること。
10	地域間取引の理論	比較優位と地域間取引について説明する。	授業後、練習問題の提出
11	地域経済成長の理論(1)	移出基盤モデルについて説明する。	
12	地域経済成長の理論(2)	特化係数法と基盤比率について説明する。	授業後、課題の提出
13	地域間格差と人口移動	統計分析の手法を用いて地域間格差を考察し、地域間格差と人口移動の関係について説明する。	授業後、練習問題の提出
14	地域政策について	地域政策の目的と地域開発戦略について説明する。	
15	総まとめ	講義の総まとめ及び期末試験の対策を説明する。	

関連科目	特になし
------	------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地域経済学入門[新版]	山田浩之 徳岡一幸	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	授業での提出課題 20%、小テスト 30%、定期試験 50%の割合で総合的に評価する。授業態度などによる平常点も考慮する。
----------	---

学生へのメッセージ	地域経済学は幅広い学問領域であるが、授業中、学生諸君がイメージしやすい面白い題材を選択し、講義を行っていくと思う。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 郭准教授室(経済学部)
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	地域経済入門	科目名(英文)	Introduction to Regional and Urban Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	KLMNOPQRST
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	グローバル経済が進む中で地域経済は大きく変動しており、さまざまな観点から注目されている。地域経済学の入門として、この講義では地域経済学の基礎知識を修得する。この授業を履修することによって、グローバル化の中で地域経済をどのように活性化すべきか、観光にも応用できる地域経済学の基礎的素養を身につける。
到達目標	地域経済とは何か、基本的な理論や考え方が理解できるようになる。
授業方法と留意点	授業は、基本的に、前回の復習、本日の授業テーマの講義や学生による発表、授業内容に対応する課題の提示の順序で進めていく。
科目学習の効果(資格)	地域経済を理論と実証の両面から学び、地域経済の現状や政策を理解する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	地域経済学の課題と地域経済の学び方について説明する。	授業後、アンケートを実施する。
2	地域経済学の課題	地域の概念、グローバル化と地域経済について学習する。	課題の提出
3	日本の地域構造	産業構造の変化や情報化と地域構造の変化について学習する。	課題の提出
4	地域経済と所得形成	地域経済計算とその概念、地域所得の決定、地域の産業連関表について学習する。	課題の提出
5	産業連関分析	経済波及効果の算出方法を学習する。	課題の提出
6	地域成長の経済分析	需要主導型モデルと供給主導型モデルについて学習する。	課題の提出
7	地域間取引の理論	比較優位と地域間取引について学習する。	課題の提出
8	地域間格差と人口移動	地域間格差が存続する理由と地域間の人口移動について学習する。	課題の提出
9	産業の立地	工業立地論、空間的集積、外部経済について学習する。	課題の提出
10	小テストを行う都市システム	商圏分析、中心地理論について学習する。	小テストの内容の復習
11	商店街の活性化	日本の商業の課題、特に商店街空洞化の現状や問題点を知り、商店街活性化の成功事例について学習する。	課題の提出
12	都市の成立・発展	都市の形成・発展の要因について学習する。	課題の提出
13	地域政策	地域政策の目的と地域開発戦略、日本の地域・都市政策について学習する。	課題の提出
14	クリエイティブ・シティ	新しい都市戦略として、クリエイティブ・シティをとりあげ、地域活性化政策について学習する。	課題の提出
15	まとめ	授業全体のまとめを行う。	課題の提出

関連科目 経済学入門(エコノミックリテラシー)

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	地域経済入門新版	山田浩之・徳岡一幸編	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際化時代の地域経済学第4版	岡田知弘ほか著	有斐閣
2			
3			

評価方法(基準)	定期試験(70%)、レポート(20%)、授業への参加や発表(10%)を総合的に評価する。授業への積極的な参加(私語は減点)を高く評価します。
学生へのメッセージ	地域経済学は幅広い学問領域です。授業では教科書に沿って、地域経済学の主要な項目をひとつひとつ履修することにより、地域経済学の体系的な知識を身につけることを目指します。また、実際の地域や政策に関する新しい動向も紹介します。観光や国際にも応用できるような力を身につけましょう。
担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室(経済学部)
備考	授業内容や小テストの時期は、学生の理解度に応じて変更することがあります。授業内で発表(プレゼンテーション)を求めることもあります。

科目名	地域産業論	科目名(英文)	Regional Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	経済学の理論と結びつけながら、基礎的な財政の仕組みと考え方を理解する。国と地方の財政関係及び、地方財政の経費と税収の仕組みと考え方、地方財政の現状と課題等を理解する。
到達目標	財政の機能、経費と税制、国と地方の財政関係の理論と課題等、基本的なことが理解できるようになる。 地方財政の基本的仕組みや現状、課題が理解できるようになる。 国や地方自治体の歳入の多くを占める税制についても、基本的な理論や仕組みを理解できるようになる。
授業方法及び留意点	テキストとレジュメを使って授業を行うが、適宜課題も出し、実際の地方財政を分析して発表してもらう。
科目学習の効果(資格)	地方の経済にとって、地方財政は大きなウェイトを占めている。地方政府の歳入と歳出を通して、地域の現状や課題を読み解くことができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
1	ガイダンス	地方財政とは何か、何を学ぶのか説明する		
2	政府の役割と地方政府の役割 (1) パレート効率性	パレート効率性等の概念を使って、政府の役割や地方政府の役割を学ぶ	復習	
3	政府の役割と地方政府の役割 (2) 公共財とパレート効率性、地方公共財	公共財の概念を使って政府や地方政府の役割を学ぶ	復習	
4	政府の役割と地方政府の役割 (3) 政府の機能配分論	国と地方政府の役割分担について学ぶ	復習	
5	地方財政の予算と収入(1)	地方予算の意義と課題、地方財政収入の構造と実態について学ぶ	復習	
6	地方財政の予算と収入(2)	地方税の体系について学ぶ	復習	
7	地方税と補助金の理論(1)	国と地方の財政関係について、地方交付税制度、地方譲与税、国庫支出金、地方債の仕組みを学ぶ	復習	
8	地方税と補助金の理論(2)	補助金の役割について、理論的に学ぶ。特に補助金の経済効果等について学ぶ	復習	
9	地方財政の経費(1)	地方経費の種類と構造について学ぶ	復習	
10	地方財政の経費(2)	教育費や、少子高齢化に関連した経費について学ぶ	中間テスト	
11	公共投資と地方財政	公共投資の現状、国と地方の役割、公共投資と地域活性化等について学ぶ	復習	
12	地方財政の現状	地方財政に関する改革の歴史及び現状について学ぶ	復習	
13	地方財政の健全化	地方財政の現状と、その健全化について学ぶ	復習	
14	地域づくりと地方財政	地域づくりと地方財政の関係、地域政策の転換等について学ぶ	復習	
15	まとめ	講義全体のまとめを行う	復習	

関連科目	財政学
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい地方財政論	中井英雄ほか著	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	財政のしくみがわかる本	神野直彦	岩波ジュニア新書
	2			
	3			

評価方法(基準)	レポート、授業中の発表、課題、期末テスト等で評価する
----------	----------------------------

学生へのメッセージ	地方財政は、地域経済の大きな割合を占めています。地方財政を通して、地方の現状や課題をしっかりと理解しましょう。また、地方活性化の政策立案等にも、地方財政の知識は不可欠です。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室
----------	-------------

備考	講義内容や中間テスト時期は、受講生の理解度に応じて、変更することがある
----	-------------------------------------

科目名	地域統合論	科目名(英文)	Regional Integration
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	原田 裕治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	世界各所で見られる地域経済統合の展開を、歴史的・制度的・理論的な観点から解説し、こうした展開が日本経済および世界経済にどのような影響を与えるかについて考える。とりわけ、地域統合で先行している欧州連合(EU)と東アジアにおける経済統合を比較することで、地域経済統合への理解を深める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自由貿易と保護貿易の考え方を比較してそれぞれの特徴を明らかにすることができる。 第2次世界大戦後における世界の貿易体制の変遷について説明することができる。 欧州経済統合の過程とその特徴について、歴史・制度・理論の観点から説明することができる。 東アジアにおける経済統合について、歴史・制度・理論の観点から説明することができる。 欧州と東アジアにおける経済統合について比較分析することができる。 現在進行している、または今後生じうる地域経済統合に関わる動きについて、批判的に評価することができる。
授業方法と留意点	毎回配布する資料にもとづいて講義形式で授業を行う。授業時間の内外において、適宜課題を課すので、授業を聞くだけでなく積極的に課題に取り組んで理解を深めること。
科目学習の効果(資格)	授業を通して基本的な知識を身に付けることで、新聞などで報じられる経済統合に関するニュースを理解し、それを批判的に評価することができるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	貿易の現状	日本および世界における貿易の現状について説明する	授業の復習
	2	自由貿易と保護貿易	貿易の自由化と産業の保護をめぐって示される各々の論理を比較する	事前:教材の当該箇所の予習 事後:授業の復習,授業時間外の課題への取組み
	3	世界貿易体制の展開	第2次世界大戦後の展開を中心に、世界的な貿易体制の展開(とりわけGATTからWTOへの流れ)を整理する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習
	4	経済統合の効果と類型	経済統合の経済効果を様々な形態について解説する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習,授業時間外の課題への取組み
	5	欧州連合(EU)(1)	EU統合の歴史を説明する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習
	6	欧州連合(EU)(2)	EUの制度的側面、とりわけ主要機関と意思決定プロセスを説明する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習,授業時間外の課題への取組み
	7	欧州連合(EU)(3)	EUの通貨統合と金融システムを説明する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習
	8	欧州連合(EU)(4)	ユーロ危機と欧州統合の限界について説明する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習,授業時間外の課題への取組み
	9	東アジアの経済発展	東アジアにおける経済発展と交易関係の展開にかんする特徴を説明する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習,授業時間外の課題への取組み
	10	東アジアにおける事実上の経済統合(1)	日本企業の行動に焦点を当てつつ、海外直接投資(企業の海外進出)の拡大について説明する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習
	11	東アジアにおける事実上の経済統合(2)	東アジアにおけるグローバルな価値連鎖(GVC)の展開について解説する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習,授業時間外の課題への取組み
	12	東アジアにおける制度的な経済統合:ASEAN	東アジアにおける制度的な統合の一例として、ASEANの形成と現状について解説する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習
	13	経済統合の比較分析:ヨーロッパと東アジア	ヨーロッパにおける経済統合と東アジアにおける経済統合を比較検討する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習,授業時間外の課題への取組み
	14	日本の通商戦略	今後日本が取るべき通商戦略を考察する	事前:当該箇所の予習 事後:授業の復習
	15	まとめ	授業全体を振り返り、まとめを行う	事後:授業の復習,期末試験への準備

関連科目	国際経済論
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業時間内外の課題(50%)、定期試験(50%)で総合的に評価する。欠席が多い場合には、成績評価の対象から外すことがあるので注意すること。
----------	---

学生へのメッセージ	地域経済統合の問題は、多くの要素が複雑に絡みあって生じています。それを理解するのは容易なことではありませんが、基本的な事項を1つずつ押さえながら授業を進めるつもりなので、辛抱強く取り組んでください。また話を聞くだけでは理解が進まないことがありますので、授業時間の内外で行う課題演習にも積極的に取り組むことをお勧めします。さらに日頃から、現在起こっている経済問題に関心をもつことも理解をすすめる助けになります。
-----------	--

担当者の研究室等備考	
------------	--

科目名	地域の持続的発展	科目名 (英文)	Sustainable Regional Development
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー (DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4○, DP5○, DP6○, DP7○, DP8○, DP9○		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部等への依存型社会から自律した住民での地域活動の重要性について講義する。 ・地方公務員が現在取り組んでいる行政と市民活動との協働について詳細に分析する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域経済発展の契機となる地域活動について求められる考え方を修得する。 ・授業で得られた情報から地域の持続的発展に貢献する対策を考察できる知識を修得する。 ・地域創生 (活性化) の事例から自己での分析力および文章作成力を習得する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を土地の境界によって規定される範囲だけでなく、住民活動や行政との協働活動等に必要エリアとして考察する。 ・住民にとって、安心・安全で住みやすい環境を構築する公共空間を地域と考へ、地域での住民の取り組みが持続的に継続あるいは発展している事例に焦点をあて、それらを支える自助、公助そして共助へと展開するプロセスについて事例等に基づき講義する。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・大都市の発展過程を踏まえ、今後の地域の持続的発展には何が具体的に必要であるのかについて、自ら考える姿勢を養う効果を目的とする。 ・今後、議論が本格化されていく「副首都構想」等広域行政圏に基づくまちづくりについての見識を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	日本経済と地方自治体 (デフレ、インフレ社会)	ポストデフレ社会について講義する。	配布資料 第1回
2	日本経済と地方自治体 (財政赤字と地域再生) (ミレニアムプロジェクトの行方と電子自治体)	<ul style="list-style-type: none"> ・財政赤字の現状と電子自治体について考察する。 ・情報化の推進としての電子自治体構想について講義する。 	配布資料 第2回
3	日本経済と地方自治体 (地域再生の必要性)	「地域再生とは」について「地域経済」の視点から講義する。	配布資料 第3回
4	地域再生とは (観光づくりの視点)	地域再生、地域経済活性化としての観光の概略を講義する。	配布資料 第4回
5	地域再生とは (地域産業の活性化)	地域産業、地域振興の視点で講義する。	配布資料 第5回
6	地域再生とは (地域雇用と人材活用)	地域での雇用及び人材活用について講義する。	配布資料 第6回
7	地域再生とは (行政のかかわり)	地域再生を支える行政サービスについて講義する。	配布資料 第7回
8	地域再生とは (まちづくりの視点)	地域再生に求められるまちづくりについて講義する。	配布資料 第8回
9	IT の活用 (情報アクセシビリティ)	地方自治体における IT 設計・活用について講義する。(情報活用一アクセシビリティ)	配布資料 第9回
10	IT の活用 (IT 人材教育)	地方自治体における IT 設計・活用について講義する。(IT の進展と地域における人材教育)	配布資料 第10回
11	IT の活用 (個人情報保護)	地方自治体における IT 設計・活用について講義する。(個人情報保護)	配布資料 第11回
12	IT の活用 (情報セキュリティ)	地方自治体における IT 設計・活用について講義する。(情報システムへの脅威への対応)	配布資料 第12回
13	まちづくりの議論 (PPP Public Private Partnership とは)	PPP についての考え方を講義する。	配布資料 第13回
14	PPP 推進の条件 (自治体経営における PPP の活用)	自治体経営における PPP の活用について講義する。	配布資料 第14回
15	自治体と企業 (事例研究) ・新たな「公益と営利」「官と民」の定義	PPP の事例研究から PPP の視点について講義する。	配布資料 第15回

関連科目	「都市経済論」および地域関連科目
------	------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、習熟度試験またはレポート (20%)、受講態度 (30%) で総合評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・中央集権的な経済発展構造から地域経済活性化への社会構造の変化についての理解を深める。 ・特に地域社会における ICT の利活用や地域振興について考察する。 ・少子高齢化社会の到来に向け、地域の発展を考える。 ・官民の役割分担、地域振興の有効性など主体的に考える習慣を修得して欲しい。
-----------	---

担当者の研究室等備考	1号館7階 田井准教授室 (経済学部)
------------	---------------------

科目名	地域保健医療	科目名(英文)	Regional Health Service
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治体を中心に保健・医療・福祉は相互に連携し計画を策定しながら住民サービスの向上に努めている。 ・緊急性の視点から医療が優先され医療計画が、昭和60年12月の第1次医療法改正により制度化され、救急医療や感染症医療等への対応を明確化するため国、都道府県あるいは、市町村に対応すべき医療圏が割り当てられている。 ・これら地域医療に関する最新の取り組みおよび現状の課題等について説明する。 ・地域経済を支える地域医療について、課題認識と自ら考える姿勢を喚起することを目的とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療を理解するため、その基礎となる保健医療計画について大阪府を例にして理解する。 ・少子高齢化社会において、自ら判断し行動するための地域での保健医療に関する知識・教養を修得する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・福祉・医療における総合的なサービス提供の根幹となる保健と医療の連携の必要性と意義について考察する。 ・大阪府保健医療計画に基づき、その必要性と意義について講義する。 ・さらに後半では現状の地域医療が直面する課題について考察する。 ・2013年度に改訂した大阪府保健医療計画講義に沿って講義する。現在の計画は、2013年(平成25)~2017年(平成29)の計画である。
科目学習の効果(資格)	広域行政の視点も含め、地域経済を支える保健医療がどのように計画・実施されているかについて現状を把握するとともに今後の課題について考察する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	大阪府保健医療計画について	医療計画策定の意義とその必要性および運用方針について講義する。	大阪府保健医療計画	第1章
2	保健医療提供体制の基本的な状況	大阪府における保健医療の提供体制の現状についてデータから考察する。	大阪府保健福祉計画	第2章 第1節
3	保健医療従事者の確保と資質の向上	医療へのニーズの拡大に伴いこれを支える医療従事者の確保と資質の向上が必要となる。専門職種別に、その現状と取り組みについて講義する。	大阪府保健医療計画	第2章 第2節
4	医療圏及び基準病床数	保健医療サービスを効率的に提供するにふさわしい地理的広がりとしての医療圏の設定とその範囲内での病床数の設定について考察する。	大阪府保健医療計画	第2章 第3節
5	大阪府における保健医療体制	大阪府下の医療体制の情報提供方法と病院の機能分担および連携について講義する。	大阪府保健医療計画	第3章 第1節 第2節
6	主要な事業ごとの保健医療体制(4疾病)	平成18年の改正医療法に基づく医療における4疾病5事業のうち4疾病への現状と医療体制について講義する。	大阪府保健医療計画	第3章 第3節
7	主要な事業ごとの保健医療体制(5事業)	平成18年の改正医療法に基づく医療における4疾病5事業のうち5事業への現状と医療体制について講義する。	大阪府保健医療計画	第3章 第3節
8	在宅医療の推進とその他の対策	4疾病5事業以外の重要な保健医療について講義する。	大阪府保健医療計画	第3章 第3節
9	保健医療提供体制と保健医療計画の評価および見直し	現状の保健医療提供体制の充実と評価および見直しについて講義する。	大阪府保健医療計画	第4章
10	保健・医療・福祉の総合的な取組	保健、医療、福祉は相互に連携することにより安心安全なまちづくりに貢献することが可能となる。その取り組みとして、それぞれの計画について講義する。	大阪府保健医療計画	第5章
11	健康危機管理体制の構築	地域防災計画と保健医療計画との関連について講義する。	大阪府保健医療計画	第6章
12	これまでのまとめ	大阪府保健医療計画の意義と今後について、まとめ及び習熟度について考察する。	大阪府保健医療計画	全章
13	自治体病院・地域医療に何が起きているのか。医師はなぜ病院から立ち去るのか。	地域医療を担う中核病院としての自治体病院の運営の視点から地域医療を考察する。	まちの病院がなくなる！？	第1章 第2章
14	自治体病院の経営はなぜ限界を抑えているのか。自治体病院の経営をどのように変革するのか。	自治体病院の現状の課題について講義する。	まちの病院がなくなる！？	第3章 第4章
15	地域医療再生への処方箋。病院PFIを考える。	地域医療再生の基幹となる自治体病院とその運営手段としてのPFIについて考察する。	まちの病院がなくなる！？	第5章 第6章

関連科目 地域医療、地域経済関係科目
メディカルツーリズムを検討するにあたり観光関係科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大阪府保健医療計画(平成25年~平成29年)	大阪府のホームページから取得	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	まちの病院がなくなる！？地域医療の崩壊と再生	伊関友伸	時事通信社
2	日本の医療制度がめざすもの	辻 哲夫	時事通信社	
3				

評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、習熟度試験またはレポート (20%)、受講態度 (30%) で総合評価する。
学生への メッセージ	実際の保健医療に関する行政施策についての基礎知識の修得を目指す。さらに今日、地域経済を支える地域医療が直面している課題について考察する。
担当者の 研究室等	1号館7階 田井准教授室 (経済学部)
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療の制度、仕組みについて知る必要性を修得してほしい。 ・医療は、事故や病気の際だけでなく安心・安全な経済活動や地域経済を支える仕組みであることの気づきを期待する。 ・現在の大阪府保健医療計画は平成年～29年である。今年度の改訂内容を資料に反映させていく予定。

科目名	地球環境経済	科目名(英文)	Global Environmental Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	長い人類の歴史を通じて局地的な環境破壊はあったが、地球温暖化をはじめとする地球規模での環境問題が出現し、問題化したのは20世紀後半のことである。地球環境問題は、18世紀の産業革命より資本主義経済がもたらした巨大な生産力の発展(大量生産)と人類の消費能力の増大(大量消費)、自然界の処理能力を越える大量の廃棄物の発生(大量廃棄)に発生の根拠がある。20世紀後半より、人類は地球環境問題の存在を認識しはじめ、「持続可能な発展」(Sustainable Development)などの新たな概念も提起され、政府や国際機関による環境政策の展開、企業や研究機関による環境技術の革新が進められている。地球環境問題を克服し、持続可能な従来の資本主義経済の生産力構造と人々の生活様式をグローバルな規模で変革させることが、21世紀の大きな課題となっている。本講義では、以上のような地球環境問題と人類の経済活動との関係について講義する。
到達目標	環境問題と人間の経済活動の関わりについての理解を深める。
授業方法と留意点	配付資料にしたがった講義形式で行う。必要に応じてレジュメや資料を配布するので、配布物をファイリングし、板書や講義のノートをとる習慣をつけること。講義後、講義内容を自分の言葉で要約し、書きとどめておく力がつく。
科目学習の効果(資格)	環境社会検定試験(eco検定)(http://www.kentei.org/eco/index.html)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス	講義の紹介。環境問題とは何か。環境問題と経済(採取-生産-消費-廃棄)との関係。環境経済学の諸潮流。	事後・質問提出
2	地球温暖化問題とその対策	地球温暖化問題とその対策。化石燃料の大量消費、低炭素社会、エネルギー技術革命、地球温暖化防止条約。視聴覚教材: NHK『未来への提言 ラジエンドラ・パチャウリー地球温暖化IPCCからの警告』。	事後・質問提出
3	原子力発電と放射性廃棄物問題	科学技術と人類社会。巨大テクノロジーの恩恵とリスク。視聴覚教材: NHK BS ドキュメンタリー『地下深く 永遠(とわ)に ~100,000年後の安全~』(2010年、デンマーク)。	事後・質問提出
4	環境問題と人類の経済活動	人類の経済活動(採取-生産-消費-廃棄)と自然環境の関係を考察する。人類史的な生産力発展の負の側面、環境破壊の可能性の増大。資本主義のもとでの生産力の飛躍的発展。	事後・質問提出
5	資本主義と環境問題(1) 大量生産の原因-なぜ資本主義のもとで生産力が飛躍的に発展するのか	営利企業が主体となる資本主義的生産活動の特殊性。営利=貨幣増殖を目的とする生産の無限性。生産性向上をめぐる個別企業間の不断の競争。	事後・質問提出
6	資本主義と環境問題(2) 科学技術の飛躍的発展-なぜ資本主義のもとで生産力が飛躍的に発展するのか	生産力の契機としての科学技術。科学技術の発展と利用の担い手としての資本主義的営利企業。未熟な科学技術を営利的利用することによる環境問題の深刻化と予防原則の提唱。環境に関する科学技術の発展は環境問題の発見と解決のための技術的条件もつくりだす。	事後・質問提出
7	資本主義と環境問題(3) 大量消費の原因-なぜ資本主義のもとで消費が飛躍的に拡大するのか	資本主義以前: 自給自足的な狭い農民的消費→資本主義以後: 賃金収入で生活手段を購入する賃金労働者による個人的消費の発展。仏レギュラシオン学派のフォーディズム概念。営利企業によるマーケティング活動と個人的消費の拡大、計画的陳腐化。	事後・質問提出
8	環境問題への対応を迫られる資本主義(1) 20世紀後半の環境保護運動・NGOの発展と環境政策の国際的展開	1960年代の公害や環境問題への自然科学者の警鐘、レイチェル・カーソン『沈黙の春』(1962年)のインパクト。ローマクラブ「成長の限界」(1972年)から、国連ブルントラント報告「持続可能な発展」(1987年)へ。国連の環境保護会議、環境保護条約。欧米各国の環境政策の展開。	事後・質問提出
9	環境問題への対応を迫られる資本主義(2) 自動車産業のエコカー開発競争	政府の環境政策が企業の環境技術革新(イノベーション)を促進する。アメリカの大気浄化政策と排ガス低減技術、低燃費技術の革新。電気自動車革命。	事後・質問提出
10	環境問題への対応を迫られる資本主義(3) エネルギー産業の構造変化	21世紀初頭、国際的な地球温暖化対策がエネルギー産業の構造転換を促進する。石炭、石油から天然ガスへ、様々な再生可能エネルギー(風力発電、太陽光発電、バイオ燃料等)の発展。	事後・質問提出

			ET 革命(エネルギー技術革命)をリードする IT 産業。																	
	11	環境問題への対応を迫られる資本主義(4) アメリカの鉛公害と環境政策に対する自動車、石油、農業関連産業の対応	環境問題の発生、環境政策の展開、諸産業の対応を、アメリカにおけるガソリン無鉛化を例として、具体的、歴史的に分析する。	事後・質問提出																
	12	持続可能性と経済学(1)	セーデルバウムの「持続可能性の経済学」。 持続可能性の概念は、貨幣価値に還元できない多様な価値基準を包含する。 経済人(homo economicus)への批判。	事後・質問提出																
	13	持続可能性と経済学(2)	「持続可能な発展」をめぐる多様なイデオロギー的立場と解釈。 市場主義的資本主義、エコロジック近代化、持続可能性。	事後・質問提出																
	14	持続可能性と経済学(3)	持続可能性(=人類社会と自然の安定的再生産を求める倫理)と資本主義(=自己目的永続の経済成長を要求する経済システム)の関係。 人類社会の持続的発展と資本主義経済の持続的成長は両立するか、矛盾するか。資本主義のもとでの生産力発展は、環境問題を激化するか、解決するか。資本主義のもとで大量生産=大量消費=大量廃棄を克服することは可能か、不可能か。	事後・質問提出																
	15	講義のまとめ																		
関連科目	国際経済論、経済地理、農業経済論、社会経済学 I、II																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>資本主義の現在 資本蓄積の変容とその社会的影響</td> <td>豊福裕二</td> <td>文理閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	資本主義の現在 資本蓄積の変容とその社会的影響	豊福裕二	文理閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	資本主義の現在 資本蓄積の変容とその社会的影響	豊福裕二	文理閣																	
2																				
3																				
評価方法(基準)	期末レポート(100%)で評価する。 なお出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。																			
学生へのメッセージ	地球環境問題に関心をもって自ら学んで下さい。積極的な質問、授業への参加を期待します。																			
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室(経済学部)																			
備考																				

科目名	地方財政論	科目名(英文)	Local Public Finance
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	経済学の理論と結びつけながら、基礎的な財政の仕組みと考え方を理解する。国と地方の財政関係及び、地方財政の経費と税収の仕組みと考え方、地方財政の現状と課題等を理解する。
到達目標	財政の機能、経費と税制、国と地方の財政関係の理論と課題等、基本的なことが理解できるようになる。 地方財政の基本的仕組みや現状、課題が理解できるようになる。 国や地方自治体の歳入の多くを占める税制についても、基本的な理論や仕組みを理解できるようになる。
授業方法及び留意点	テキストとレジュメを使って授業を行うが、適宜課題も出し、実際の地方財政を分析して発表してもらう。
科目学習の効果(資格)	地方の経済にとって、地方財政は大きなウェイトを占めている。地方政府の歳入と歳出を通して、地域の現状や課題を読み解くことができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
1	ガイダンス	地方財政とは何か、何を学ぶのか説明する		
2	政府の役割と地方政府の役割 (1) パレート効率性	パレート効率性等の概念を使って、政府の役割や地方政府の役割を学ぶ	復習	
3	政府の役割と地方政府の役割 (2) 公共財とパレート効率性、地方公共財	公共財の概念を使って政府や地方政府の役割を学ぶ	復習	
4	政府の役割と地方政府の役割 (3) 政府の機能配分論	国と地方政府の役割分担について学ぶ	復習	
5	地方財政の予算と収入(1)	地方予算の意義と課題、地方財政収入の構造と実態について学ぶ	復習	
6	地方財政の予算と収入(2)	地方税の体系について学ぶ	復習	
7	地方税と補助金の理論(1)	国と地方の財政関係について、地方交付税制度、地方譲与税、国庫支出金、地方債の仕組みを学ぶ	復習	
8	地方税と補助金の理論(2)	補助金の役割について、理論的に学ぶ。特に補助金の経済効果等について学ぶ	復習	
9	地方財政の経費(1)	地方経費の種類と構造について学ぶ	復習	
10	地方財政の経費(2)	教育費や、少子高齢化に関連した経費について学ぶ	中間テスト	
11	公共投資と地方財政	公共投資の現状、国と地方の役割、公共投資と地域活性化等について学ぶ	復習	
12	地方財政の現状	地方財政に関する改革の歴史及び現状について学ぶ	復習	
13	地方財政の健全化	地方財政の現状と、その健全化について学ぶ	復習	
14	地域づくりと地方財政	地域づくりと地方財政の関係、地域政策の転換等について学ぶ	復習	
15	まとめ	講義全体のまとめを行う	復習	

関連科目	財政学
------	-----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい地方財政論	中井英雄ほか著	有斐閣
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	財政のしくみがわかる本	神野直彦	岩波ジュニア新書
	2			
	3			

評価方法(基準)	レポート、授業中の発表、課題、期末テスト等で評価する
----------	----------------------------

学生へのメッセージ	地方財政は、地域経済の大きな割合を占めています。地方財政を通して、地方の現状や課題をしっかりと理解しましょう。また、地方活性化の政策立案等にも、地方財政の知識は不可欠です。
-----------	--

担当者の研究室等	1号館7階 後藤教授室
----------	-------------

備考	講義内容や中間テスト時期は、受講生の理解度に応じて、変更することがある
----	-------------------------------------

科目名	地方自治論	科目名(英文)	Local Autonomy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・国と地方は相互協力であって依存関係はないということの認識が必要である。 ・そのため、住民自治と地方公共団体との関係を中心に考察するとともに中央集権と分権という視点から地方自治の現代的意義を考える。 ・組織や制度を講義するとともに法との関連も講義したい。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治の現状の制度を理解する。 ・地方公共団体の組織及び地方公務員の役割を理解する。 ・変化する社会状況において、自ら判断し行動するための地方自治に関する知識・教養を修得する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・地方自治の根拠となる地方自治制度について考察する。 ・地方自治の地方とは地方公共団体の区域とは限らず、ある一定の地域を意味することもある。国の出先機関としての地方公共団体から、地方自治は、国からの関与によらず、そこに住む住民の意思に基づき運営することとなった変遷について理解を深める。 ・2010年に総務省が取りまとめた「地方自治法抜本改正の考え方」を講義内容に加え、未改正項目等、その現代的意義についても考察する。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・公務員試験の対象となる。 ・地方自治体の職員を目指す場合の組織体系や歴史など基本的な知識を習得する。経済学における政府の役割、地方政府である地方自治体の役割を規定する基本法を中心に地方公務員の役割の理解を深める。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	地方自治の意義と法体系	地方自治の意義と法体系について概論を講義する。	教科書または参考書の目次を読んで概略をつかんでおく。 第一章
2	わが国の地方自治制度の変遷	地方自治制度の変遷について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第二章
3	地方自治体の種類	地方公共団体の種類と性格について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第三章
4	地方公共団体の区域	地方公共団体の区域について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第四章
5	地方公共団体の住民と住民自治	住民と地方自治について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第五章
6	地方公共団体の事務	地方公共団体の事務について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第六章
7	地方公共団体の立法	地方公共団体の立法権について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第七章
8	地方公共団体の議会	地方議会の本質、組織、権限、運営について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第八章
9	地方公共団体の執行機関1	地方公共団体の内部組織である執行機関について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第九章第一、二節
10	地方公共団体の執行機関2	地方公共団体の機関、長及び他の機関(議会と行政委員会)について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第九章第三、四節
11	地方公共団体の財務1	地方公共団体の財務(収支関係項目)について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第十章第一、二、三、四節
12	地方公共団体の財務2	地方公共団体の財務(資本的収支関係項目)について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第十章第五、六、七節
13	地方公共団体と他の主体との関係1	地方公共団体と国との関係について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第十一章第一節
14	地方公共団体と他の主体との関係2	地方公共団体の相互の関係について講義する。	教科書及び参考書を読んでおく。 第十一章第二節
15	地方公共団体の課題と展望	これまでの講義を踏まえ、地方自治の意義、さらに道州制の現代的意義について考察する。	教科書及び参考書を読んでおく。

関連科目 「地方自治と法(法学部)」等の行政法関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準) 定期試験(50%)、習熟度試験またはレポート(20%)、受講態度(30%)で総合評価する。

学生へのメッセージ

- ・一般行政職だけでなく司書や議員などの地方公務員を目指す場合の基本的な制度や組織を理解するための講義です。
- ・経済学部学生・経営学部学生として地方行政事務の基本的な考え方への関心を持って頂きたい。
- ・国家、地方とも公務員になるには、計画的な勉強が一定期間必要です。

担当者の研究室等 1号館7階 田井准教授室(経済学部)

備考

科目名	中小企業論	科目名(英文)	Small and Medium-sized Enterprises
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2◎, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7△, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	現代日本の中小企業が抱えている諸問題・課題を学び、これからの中小企業のあり方、事業発展の可能性・展望を考えていく。ベンチャー企業、地域経済、政策との関連についても理解する。
到達目標	①日本経済・社会のなかで果たしている中小企業の役割を理解すること。 ②中小企業の可能性と諸課題を理解すること。 ③中小ベンチャー企業の実情について理解すること。
授業方法と留意点	データ、事例を挙げながら授業を進める。 ノートをしっかりとること。
科目学習の効果(資格)	中小企業経営、ベンチャー企業経営、関連諸政策について理解することができる。 キャリア形成の基礎とすることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	中小企業政策①	高度成長期の中小企業政策について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
3	中小企業政策②	新しい中小企業政策について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
4	下請中小企業	下請中小企業の存在、その生き残り戦略について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
5	ベンチャー企業	ベンチャー企業概念、海外の諸状況について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
6	ベンチャー企業政策	新規開業状況について述べ、ベンチャー企業を創出、育成していく政策について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
7	ベンチャー企業から大手企業に成長した事例①	新規創業後に急成長し大手企業へと転じた事例を概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
8	ベンチャー企業から大手企業に成長した事例②	新規創業後に急成長し大手企業へと転じた事例を概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
9	産業集積と中小ベンチャー企業	産業集積における中小ベンチャー企業の重要性について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
10	産業クラスター政策	国内外の産業クラスター、我が国の産業クラスター政策について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
11	新事業創造とビジネスプラン	新事業創造の際にはビジネスプランが不可欠である。そのフレームワークについて概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
12	新事業創造とファイナンス	中小ベンチャー企業による新事業創造とファイナンス、金融機関の支援について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
13	新事業創造事例①	中小ベンチャー企業による新事業創造事例について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
14	新事業創造事例②	中小ベンチャー企業による新事業創造事例について概説する。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。
15	総括と展望	これまでの講義内容を整理し、まとめを行う。	授業で紹介されたキーワード等の復習をしておくこと。

関連科目	日本産業史、関西経済論
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	地域産業の活性化戦略	野長瀬裕二	学文社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験 100%により評価します。
----------	--------------------

学生へのメッセージ	具体的な中小ベンチャー企業の事例を多数紹介していきますので、興味を持ってください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階
----------	-------

備考	
----	--

科目名	統計学	科目名(英文)	Statistics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	ABCDEFGHIJ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	本講義では統計学の基礎を学ぶ。																																																																		
到達目標	統計学の基礎をしっかりと理解し、金融分野への応用も理解できること。																																																																		
授業方法と留意点	基本的には講義形式で行い、計算機(いわゆる計算機やパソコン)を用いて、分析する。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>講義のガイダンス</td><td></td><td>教科書第0講</td></tr> <tr><td>2</td><td>記述統計(1)</td><td>度数分布表、ヒストグラム</td><td>教科書第1講</td></tr> <tr><td>3</td><td>記述統計(2)</td><td>平均値、分散、標準偏差</td><td>教科書第2講、第3講</td></tr> <tr><td>4</td><td>統計学の応用(1)</td><td>金融分野への応用</td><td>教科書第4講、第5講、第6講</td></tr> <tr><td>5</td><td>正規分布(1)</td><td>正規分布</td><td>教科書第7講、第8講</td></tr> <tr><td>6</td><td>正規分布(2)</td><td>統計的推定、仮設検定、信頼区間</td><td>教科書第9講、第10講</td></tr> <tr><td>7</td><td>統計学の応用(2)</td><td>ポートフォリオ</td><td>講義の復習</td></tr> <tr><td>8</td><td>試験</td><td>第7回講義までのまとめ、中間試験</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>母集団</td><td>統計的推定</td><td>教科書第11講、第12講</td></tr> <tr><td>10</td><td>標本平均</td><td>母平均、母分散、母標準偏差</td><td>教科書第13講、第14講、第15講</td></tr> <tr><td>11</td><td>カイ二乗分布(1)</td><td>カイ二乗分布と区間推定</td><td>教科書第16講、第17講</td></tr> <tr><td>12</td><td>カイ二乗分布(2)</td><td>カイ二乗分布と標本分散</td><td>教科書第18講、第19講</td></tr> <tr><td>13</td><td>t分布</td><td>t分布の性質、統計量の計算</td><td>教科書第20講、第21講</td></tr> <tr><td>14</td><td>中心極限定理</td><td>中心極限定理、大数の法則</td><td>講義の復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ</td><td>講義全体のまとめ</td><td>講義の復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	講義のガイダンス		教科書第0講	2	記述統計(1)	度数分布表、ヒストグラム	教科書第1講	3	記述統計(2)	平均値、分散、標準偏差	教科書第2講、第3講	4	統計学の応用(1)	金融分野への応用	教科書第4講、第5講、第6講	5	正規分布(1)	正規分布	教科書第7講、第8講	6	正規分布(2)	統計的推定、仮設検定、信頼区間	教科書第9講、第10講	7	統計学の応用(2)	ポートフォリオ	講義の復習	8	試験	第7回講義までのまとめ、中間試験		9	母集団	統計的推定	教科書第11講、第12講	10	標本平均	母平均、母分散、母標準偏差	教科書第13講、第14講、第15講	11	カイ二乗分布(1)	カイ二乗分布と区間推定	教科書第16講、第17講	12	カイ二乗分布(2)	カイ二乗分布と標本分散	教科書第18講、第19講	13	t分布	t分布の性質、統計量の計算	教科書第20講、第21講	14	中心極限定理	中心極限定理、大数の法則	講義の復習	15	まとめ	講義全体のまとめ	講義の復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	講義のガイダンス		教科書第0講																																																																
2	記述統計(1)	度数分布表、ヒストグラム	教科書第1講																																																																
3	記述統計(2)	平均値、分散、標準偏差	教科書第2講、第3講																																																																
4	統計学の応用(1)	金融分野への応用	教科書第4講、第5講、第6講																																																																
5	正規分布(1)	正規分布	教科書第7講、第8講																																																																
6	正規分布(2)	統計的推定、仮設検定、信頼区間	教科書第9講、第10講																																																																
7	統計学の応用(2)	ポートフォリオ	講義の復習																																																																
8	試験	第7回講義までのまとめ、中間試験																																																																	
9	母集団	統計的推定	教科書第11講、第12講																																																																
10	標本平均	母平均、母分散、母標準偏差	教科書第13講、第14講、第15講																																																																
11	カイ二乗分布(1)	カイ二乗分布と区間推定	教科書第16講、第17講																																																																
12	カイ二乗分布(2)	カイ二乗分布と標本分散	教科書第18講、第19講																																																																
13	t分布	t分布の性質、統計量の計算	教科書第20講、第21講																																																																
14	中心極限定理	中心極限定理、大数の法則	講義の復習																																																																
15	まとめ	講義全体のまとめ	講義の復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>統計学入門</td> <td>小島寛之</td> <td>ダイヤモンド社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	統計学入門	小島寛之	ダイヤモンド社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	統計学入門	小島寛之	ダイヤモンド社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	中間テスト40%、定期試験60%で評価するが、出席率や態度が非常に悪い場合は減点の可能性はある。																																																																		
学生へのメッセージ	なるべく数学を使わずに授業を行いますので、中身の理解を心がけてください。																																																																		
担当者の研究室等	1号館7階 田中研究室																																																																		
備考																																																																			

科目名	統計学	科目名(英文)	Statistics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	I J K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	蛭川 雅之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	統計学の知識は、企業活動の把握・改善、あるいは政策の立案・評価などに欠かすことができません。本講義では、まず記述統計を解説した後、経済現象を数量的に分析したり仮説を検定したりするのに必要な統計的推論の考え方を概説します。
到達目標	記述統計および基礎的な数理統計の考え方を理解することを目標とします。なお、これらができる限り直感的に理解できるよう、数学の使用を必要最小限に抑える方向で解説します。
授業方法と留意点	毎回の講義は事前に配布される講義ノートに沿って行われます。ノートを担当教員の個人ホームページからダウンロードし、一度目を通したうえで講義時に持参してください。また、電卓および講義で配布する分布表も忘れずに持参してください。さらに、必要に応じてエクセルを使ったデータ分析についても解説する予定です。
科目学習の効果(資格)	本講義で取り扱う統計学の考え方は、計量経済学やファイナンスを学ぶ上での基礎となります。また、統計検定など資格試験を準備するうえでの基礎知識も身に付きます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義内容の説明、イントロダクション	統計学とは何か、統計学の歴史	教科書第0講、講義ノート1(事前)
2	記述統計Ⅰ	度数分布、ヒストグラム	教科書第1講、講義ノート2(事前)
3	記述統計Ⅱ	平均、分散、標準偏差	教科書第2・3講、講義ノート3(事前)
4	記述統計Ⅲ	標準偏差のファイナンスへの応用	教科書第4・5・6講、講義ノート4(事前)
5	正規分布Ⅰ	正規分布の特性、正規分布表の読み方	教科書第7・8講、講義ノート5(事前)
6	正規分布Ⅱ	区間推定・仮説検定の考え方	教科書第9・10講、講義ノート6(事前)
7	自然界のデータは常に正規分布に従うか?	第6～7回の講義内容の補足	講義ノート7(事前)
8	第7週までのまとめ、中間試験	前半・総括; 後半・中間試験	第7週までの復習(事前)
9	母集団	母平均、母分散、母標準偏差	教科書第11・12講、講義ノート8(事前)
10	標本平均の考え方	大数の法則、母分散既知の場合の正規母集団の母平均に関する区間推定	教科書第13・14・15講、講義ノート9(事前)
11	カイ二乗分布Ⅰ	カイ二乗分布の特性、カイ二乗分布表の読み方、母平均既知の場合の正規母集団の母分散に関する区間推定	教科書第16・17講、講義ノート10(事前)
12	カイ二乗分布Ⅱ	標本分散とカイ二乗分布との関係、母平均未知の場合の正規母集団の母分散に関する区間推定	教科書第18・19講、講義ノート11(事前)
13	t分布	t分布の特性、t分布表の読み方、母分散未知の場合の正規母集団の母平均に関する区間推定	教科書第20・21講、講義ノート12(事前)
14	中心極限定理と正規近似Ⅰ	大数の法則、中心極限定理	講義ノート13(事前)
15	中心極限定理と正規近似Ⅱ	区間推定・仮説検定への応用	(同上)

関連科目	計量経済学、現代ファイナンス論など
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	完全独習 統計学入門	小島寛之	ダイヤモンド社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	宿題(4回、20%)、中間試験(30%)、定期試験(50%)を総合的に評価します。
----------	---

学生へのメッセージ	疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。疑問点を未解決のまま放置して得になることはありません。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館7階 蛭川教授室(経済学部)
------------	-------------------

科目名	日本経済史	科目名(英文)	Japanese Economic History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2△, DP3○, DP4△, DP5○, DP6△, DP7△, DP8△, DP9○		

授業概要・目的	今日の日本経済システムを理解するために、近代化以降の日本の経済史を、産業化の発展段階、政治・経済・社会の諸制度の変化および国際環境の変化との関連で学習する。
到達目標	現代の日本経済を理解するために、歴史的な流れを把握できるようになることを到達目標とする。
授業方法と留意点	講義形式。必要に応じて、演習を実施する。
科目学習の効果(資格)	外国人に日本経済をわかりやすく説明ができる。現在の日本の社会システムがなぜこのようになったのかを理解できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	幕末期以前の流れ	イントロダクション、なぜ歴史を学ぶか、幕末期以前の政治経済の流れを学ぶ。	教科書を通覧しておくこと
2	幕末期、明治維新	幕末期の政治経済、維新政府の誕生とその初期の政策(版籍奉還、廃藩置県、地租改正、秩禄処分等)を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
3	殖産興業と松方財政	殖産興業の実態を理解した後、大隈財政と比較しながら松方財政の内容とそれが日本経済に与えた影響を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
4	日清・日露戦争と日本経済	1890年代から1910年代の国際情勢と日本の政治経済との関係を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
5	日本の産業革命(1)	日本の産業革命の実態を軽工業(綿業、絹業)を中心に学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
6	日本の産業革命(2)	日本の産業革命の実態を重工業(エネルギー・素材産業、機械工業、運輸業等)を中心に学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
7	第一次世界大戦と日本経済	第一次世界大戦前の日本の政治経済制度の特徴を理解し、大戦後に日本がどのように変化したかを学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
8	両大戦間期	第一次世界大戦と第二次世界大戦の間の時期に、日本経済は、本格的な経済成長を開始した。この時期の日本経済の概略を、国際的変化(機軸国アメリカの登場)と国内的変化(日本の労使関係の形成等)の視点から考察する。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
9	昭和恐慌	1929年から始まった世界恐慌の影響が、日本経済を直撃した。これを昭和恐慌という。この昭和恐慌の中身を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
10	高橋財政	昭和恐慌を沈静化しようとした高橋是清の経済政策の手法を学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
11	戦時経済	軍備拡張の政治方針に沿って、軍需主導による重化学工業化の道を進んでいった日本経済を、その当時の国際環境(世界経済のブロック化)の中で理解する。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
12	戦時経済(つづき)	戦時統制経済が戦後の日本経済システムの源流を形成した側面を、企業体制、労使関係、金融制度と企業間関係、政府企業間関係の4点にわたって学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
13	戦後経済改革(占領軍の対日政策)	日本の戦争行動を防ぐために、占領軍は、各種の対日政策をとった。ここでは、それを、内政・財政制度改革、財閥解体、労働改革、農地改革の4点にわたって学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
14	経済復興	第二次世界大戦後成立した冷戦体制のもとで、日本は、戦前の「富国強兵」から「強兵なき富国」へと国家の進むべき方向を転換した。ここでは、その端緒となった経済復興政策とその効果について学ぶ。	ノートおよびレジュメを読み返し、同時に、教科書の当該箇所を読んで、当時の政治経済状況を知る。
15	経済成長への出発	高度経済成長の基盤形成期(1952年から1960年)の特徴を学ぶ。	講義中に指示した教科書、配布物の当該箇所を読み直しておくこと

関連科目	日本経済論
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	概説日本経済史	三和良一	東京大学出版会
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	授業の内容に基づき作成された定期試験 100%で評価します。
学生への メッセージ	日本経済の歴史がイメージできるようになれば、現在の日本経済の理解がより一層進むのがんばってください。日本産業史と合わせて履修することで、歴史的な流れをさらに俯瞰できるようになりますので、履修時に留意してください。
担当者の 研究室等	1号館7階 野長瀬教授室
備考	

科目名	日本経済論	科目名(英文)	Contemporary Japanese Economy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	平野 泰朗
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	現代日本経済の特徴を、企業システム、市場構造、金融システム、国際関係の諸側面において理解した上で、国民経済システムの全体像を理解する。受講生は、日常目にしやすい部門(小売、飲食業、旅行など)ばかりでなく、目につきにくい部門(製造、建設、卸売、事業所向けサービスなど)にも関心をもてるよう、視野を広げてほしい。
到達目標	日本経済に関するニュース(新聞、雑誌、インターネット・ニュース)に興味を持ち、それに関する情報を収集し、分析できるようになる。
授業方法と留意点	講義形式。毎回、レジュメを配布し、それに基づいて講義する。必要に応じて、参考資料を配布する。また、場合によって、視聴覚教材も使用する。
科目学習の効果(資格)	マスメディアにおける経済関係のニュースが、理解できるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	日本的企業システム1: 契約の束と能力の蔵	この授業の目標・効果・全体構成を概観した上で、以下の点から学習を始める。企業を所有者・経営者・労働者の三者間の関係の集合と捉え、同時に、生産のノウハウを蓄積している集団と捉え、日本の企業の特徴を学ぶ。	日本経済新聞に目を通してみましょう。今回のレジュメとノート、授業後確認する。
2	日本的企業システム2: 労働編成様式	企業の労働編成様式のあり方次第で、生産のノウハウの中身が異なる。そこで、代表的な労働編成様式であるフォードシステムとフレキシブルな生産システムを取り上げ、両者の特徴を明らかにした上で、日本企業が後者に属することを学ぶ。	今回のレジュメとノート、授業後確認する。	
3	日本的企業システム3: 労働者の技能形成システム	企業を生産のノウハウを蓄積した集団ととらえると、そこでの労働者の技能形成が重要な意味をもつことが分かる。その技能形成システムの日本の特徴を学ぶ。	仕事の上達とスポーツ・芸術の上達との共通点を考えてみましょう。	
4	日本的企業システム4: 労使関係	企業を構成する三者(所有者・経営者・労働者)のうち、経営者と労働者の関係のあり方とその日本の特徴(終身雇用・年功賃金・企業別組合)について学ぶ。	会社で働く場合と自営業で働く場合の違いを考えてみましょう。	
5	日本的企業システム5: 企業統治とメインバンク	企業を構成する三者(所有者・経営者・労働者)のうち、経営者と所有者(株主・投資家)との関係のあり方の日本の特徴を、株式相互持ち合いとメインバンク制を中心に学ぶ。	かつてのライブドア事件を調べてみましょう。また、同じ企業グループにいることは、どこで分かるか、考えてみましょう。	
6	企業間関係: 系列と下請	企業対企業の取引関係(B to B)のあり方の日本の特徴を、長期的・継続的取引関係と捉え、その特徴を学ぶ。	「下請け」は外国にもあるか、調べてみましょう。	
7	現代日本の流通: 供給主導から需要主導へ	戦後の日本の生産と流通の関係を、供給主導から需要主導への移行として捉え、流通に見られる日本経済の特徴を学ぶ。	卸売企業は、どういうことをする企業なのか、調べてみましょう。また、コンビニの仕組みを調べてみましょう。	
8	日本の金融1: 間接金融とメインバンク制	金融とは何かを実例に即して理解した上で、日本の金融システムが銀行中心の間接金融であったことと、その中でメインバンクと言われる銀行の役割について学ぶ。	利子は最終的に誰が支払うのか、考えてみましょう。	
9	日本の金融2: 資金調達の変化と証券市場	間接金融中心であった日本の金融システムが、証券市場から資金を調達する直接金融に比重を移したこと、それが産業に与える影響について学ぶ。	株を買う目的には、どのようなものがあるか、数え上げてみましょう。	
10	日本の成長体制と調整様式	高度経済成長期の特徴(投資主導型成長、キャッチアップ型成長、所得上昇と均等的所得分配)を理解した上で、それを可能にした様々な制度について学ぶ。	日本の高度経済成長と現在のアジア諸国の経済成長とを比較してみましょう。	
11	国際貿易と輸出主導型成長	貿易と外国為替の関係を学んだ後、1970年代後半からの成長体制の特徴が輸出主導型成長に変化したことを、労働生産性上昇、賃金変化、為替レートの特徴から学ぶ。	日本の貿易収支を調べてみましょう。	
12	海外直接投資と所得収支: マネーの台頭	多国籍企業化する日本企業の動向を確認しつつ、海外直接投資が日本の産業と国際収支に与える影響について学ぶ。	日本の貿易収支と所得収支を比べてみましょう。	
13	グローバリゼーションと世界同時不況	1990年代から起こり始めた金融のグローバル化およびその後の金融危機の発生メカニズム、金融経済と実体経済の関連について学ぶ。	「リーマン・ショック」がどうして起きたのかを調べてみましょう。	
14	日本型成長の転換	金融と生産活動のグローバル化とともに、日本経済が克服すべき課題も変化した。そのことを、輸出主導型成長の変容、アベノミクス、多国籍企業対国内企業、食料・資源・インフラストラクチャー、	「リーマン・ショック」後の日本経済の動向を調べてみましょう。	

	15	まとめ	新輸出産業の創世の5点から理解する。 これまでの講義のまとめと補足を行う。	授業で、新しく知ったことを文章で書いてみましょう。
関連科目	日本経済史			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>授業中に見る視聴覚教材に関する感想文および定期試験により評価する。 感想文は、課題発見力の程度を見るために行われる。 概ね、感想文 20%、定期試験 80%で評価する。 なお、出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。</p>			
学生への メッセージ	経済関係のニュースが分かるようになります。そうすれば、世の中を見る目が広がるし、将来、職を探すのにも役に立つはずです。			
担当者の 研究室等	1号館7階 平野教授室(経済学部)			
備考				

科目名	日本産業史	科目名(英文)	Japanese Industrial History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	野長瀬 裕二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2○, DP3○, DP4△, DP5○, DP6△, DP7△, DP8○, DP9○		

授業概要・目的	日本の産業の発展の経緯、現状と今後の展望について理解する。
到達目標	①日本産業の発展の経緯と現状を理解する。 ②日本産業の今後の展望について理解する。 ③日本産業のイノベーションについて理解する。
授業方法と留意点	事例、データを示しつつ、授業を進める。
科目学習の効果(資格)	①日本の産業の流れについて把握できる。 ②産業界の最近の動向について把握できる。 ③自らのキャリア形成を考える上での基礎が得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	日本産業史の概観	日本の産業発展について概説する。基礎的なキーワードについても説明を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
2	産業発展モデルと日本の主要産業	産業発展モデル、日本における主要産業について概説する。長期間存在した企業群についても概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
3	繊維産業史	繊維産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
4	化学産業史	化学産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
5	造船産業史	造船産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。航空産業についても論じる。	講義中に示した課題を検討してください。
6	電機産業史	電機産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
7	機械産業史	機械産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
8	自動車産業史	自動車産業の過去の流れと現状について概観する。事例企業の例示と解説を行う。	講義中に示した課題を検討してください。
9	自動車産業の競争力とイノベーション①	日本の自動車産業の競争力を象徴するトヨタ生産方式他のイノベーションについて概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
10	自動車産業の競争力とイノベーション②	日本の自動車産業の競争力を象徴するトヨタ生産方式他のイノベーションについて概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
11	第三次産業とサービスイノベーション①	サービス経済化の流れと流通サービス業のイノベーションを概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
12	第三次産業とサービスイノベーション②	サービス経済化の流れと流通サービス業のイノベーションを概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
13	第三次産業とサービスイノベーション③	サービス経済化の流れと流通サービス業のイノベーションを概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
14	ベンチャー企業と技術イノベーション	次世代の経済を担うベンチャー企業の成長と技術イノベーションを概説する。	講義中に示した課題を検討してください。
15	まとめ	日本の産業発展の過程を踏まえたうえで、今後の日本の産業を展望する。	講義中に示した課題を検討してください。

関連科目	日本経済史、日本経済論、関西経済論
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験 100%で評価する。
----------	-----------------

学生へのメッセージ	日本の産業史を踏まえて、今後の産業発展の方向性を検討してください。ノートをしっかりとり、復習を行ってください。日本経済史と併せて学ぶことで経済の歴史的俯瞰がより可能となりますので履修時に留意してください。
-----------	--

担当者の研究室等備考	1号館7階
------------	-------

科目名	農業・資源経済学	科目名(英文)	Economics of Agriculture and Resources
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野口 義直
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的

本講義では、人間の生活を支える食料生産を担う農業とエネルギー産業について経済的に考察する。食糧生産を担う農業は、私たちの生活を支える基本的な産業である。伝統的に農業は地域共同体の再生産と一体の自給自足的な形態で営まれてきたが、現代の農業は商品作物の販売を目的とする商業的農業である。多国籍アグリビジネスによる途上国の農業支配は、途上国の伝統的な農村構造を解体し、単一の商品作物の生産に特化させて途上国農業を変容させた(モノカルチャー)。さらに、近年の日本農業は経済のグローバル化の影響を受けて国際競争にさらされている。また、農薬、遺伝子組み換え作物、バイオ燃料などの科学技術の発展は、農業そのもののあり方も大きく変容させるとともに、環境問題の懸念も引き起こしている。本講義では、第一に、このような現代の農業に関わる変化について概観する。産業革命以来、石炭、石油、天然ガスなどの化石エネルギーは、生産力を飛躍的に発展させることに貢献し、人間の生活を豊かにしてきた。しかし、化石エネルギーの大量消費は大気中の温室効果ガス濃度を上昇させて温暖化の原因となっている。また化石エネルギーは将来的に資源の枯渇が予測されている。さらに、化石エネルギーは地球に偏在しており、地下資源の豊富な地域の領有権をめぐって、たびたび戦争や紛争が起きてきた。また、化石エネルギーに代替するものとして、原子力発電などの核エネルギーの利用が進められてきたが、高レベル放射性廃棄物の処分問題や過酷事故による放射性物質汚染の問題など、困難な課題が残されている。1990年代以後、世界的に見て技術革新と普及が著しいのが自然エネルギー(再生可能エネルギー)である。本講義では、第二に、産業革命以来、人類が依拠してきたエネルギーの過去、現在、未来について概観する。

到達目標

食料と農業、エネルギーと資源産業に関する諸問題と経済構造について、認識を深める。まずは、良質の海外ドキュメンタリーを視聴し、現実の経済関係についてイメージを豊かにすることを目指す。

授業方法と留意点

視聴覚教材を活用した講義形式で行う。

科目学習の効果(資格)

特になし

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション		
2	グローバリゼーションと世界の農業(1) コーヒー豆から見えるグローバル経済	農産物価格の低迷と農業国の貧困、フェア・トレード運動。 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「エチオピア コーヒー生産国の悲劇」(原題「Black Gold」, Fulcrum Productions, イギリス, 2005年)	事後・レポート提出
3	グローバリゼーションと世界の農業(2) プランテーションと現代の奴隷労働	アメリカ企業が所有するドミニカ共和国のサトウキビ畑で働くハイチ人不法移民労働者 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「世界を動かす砂糖産業～前編 さとうきび農場の奴隷たち」(原題「Big Sugar」, Galafilm, カナダ, 2005年)	事後・レポート提出
4	先進国の「豊かな」食生活とその問題(1) 砂糖の大量消費と生活習慣病	砂糖産業、清涼飲料水産業のマーケティング 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「世界を動かす砂糖産業～後編 肥満を招く甘い誘い」(原題「Big Sugar」, Galafilm, カナダ, 2005年)	事後・レポート提出
5	先進国の「豊かな」食生活とその問題(2) 食品廃棄物	先進国における大量の食品廃棄と途上国の貧困、飢え 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「食品廃棄物を減らせるか」(原題「Taste the Waste」, Schnittstelle Film Koln & Thurn Film, ドイツ, 2010年)	事後・レポート提出
6	農業の工業化 アメリカのトウモロコシ農業の工業化	遺伝子組み換え作物。トウモロコシの工業利用。バイオプラスチック、バイオ燃料。 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「キング・コーン～トウモロコシの国を行く」(原題「King Corn」, Mosaic Films / itvs, アメリカ, 2008年)	事後・レポート提出
7	持続可能な農業を目指して工業化された農業への批判	持続可能な農業を目指すアメリカの取り組み 視聴覚教材: BS 世界のドキュメンタリー「食料増産へのチャレンジ 変わる企業型農業～アメリカ～」(原題「Jimmy's Global Harvest Ep3」, BBC Scotland, イギリス, 2010年)	事後・レポート提出
8	石油の世紀	19世紀～21世紀の石油の世界史、欧米石油メジャーによる石油採掘競争と協調、列強による植民地分割と世界大戦、資源ナショナリズムと OPEC、オイルショック、石油生産国対消費国 視聴覚教材: 「石油の世紀」など	事後・レポート提出
9	戦後日本の石油開発	戦後の日本の石油戦略、欧米石油資本と民族資本 視聴覚教材: NHK「プロジェクト X 挑戦者たち 夢遙か、決戦への秘策 炎のアラビア/巨大油田に挑んだ技術者たち」など	事後・レポート提出
10	日本の原子力政策	戦後日本の原子力政策、国策民営路線の破綻	事後・レポート提出

			視聴覚教材：NHK 教育「原発事故への道程（前篇）置き去りにされた慎重論」2011年。	
	11	バイオ燃料とその問題	アメリカ、トウモロコシのバイオ燃料利用急増による穀物価格高騰 視聴覚教材：NHK スペシャル「ファンドマネーが食を操る～穀物高騰の裏で」2007年。 ブラジル。サトウキビ原料のバイオ燃料産業育成による貧困対策。 視聴覚教材：NHK スペシャル「ラテンアメリカの挑戦」2006年。 インドネシアとマレーシア。パームオイル（椰子油）の生産拡大と熱帯雨林破壊、温暖化促進。 視聴覚教材：NHK クローズアップ現代「地球温暖化 森林破壊を食い止める」2007年。	事後・レポート提出
	12	シェールガス アメリカのブームと環境問題	未曾有の埋蔵量を誇るアメリカのシェールガスの引き起こす新たな環境問題、水質汚染、地震 視聴覚教材：BS 世界のドキュメンタリー「ガスランド」（原題“Gasland”，Gasland Prodections, アメリカ、2010年）	事後・レポート提出
	13	自然エネルギー(1) 太陽光発電	太陽光発電。日本企業の先進性と海外企業のキャッチアップ	事後・レポート提出
	14	自然エネルギー(2) 風力発電	風力発電。デンマーク、ドイツ企業の先進性、日本企業の追撃	事後・レポート提出
	15	講義のまとめ	――	事後・レポート提出
関連科目	経済地理、地球環境経済、国際経済論			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	期末レポート（100%）で評価する。			
学生へのメッセージ	農業と資源産業は、私たちの生活の基礎となる食糧、エネルギーの供給や自然環境保全に関わる重要な産業分野です。関心の高い学生の参加を求めます。			
担当者の研究室等	1号館7階 野口准教授室（経済学部）			
備考	テーマや視聴覚教材は、現実の情勢に応じて更新される場合がある。			

科目名	ファイナンシャル・プランニング	科目名(英文)	Financial Planning
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	植杉 大
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4△, DP5◎, DP6○, DP7○, DP8△, DP9○		

授業概要・目的	FP3級取得レベルの知識の習得			
到達目標	FP技能士の資格試験は毎年5月・9月・1月に実施されますが、夏期休暇中の授業の復習を通じて、9月試験の合格を目指します。			
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・原則的に講義形式です。 ・講義内で頻繁に問題演習を行います。 ・おおよそ講義2回に1回は確認テストを行います。成績評価にも関連しますので、確認テストは必ず受けるようにしてください。 			
科目学習の効果(資格)	FP3級の取得、FP2級の学習への予備的学習			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ファイナンシャル・プランニングとは何か	ファイナンシャルプランニングおよびファイナンシャルプランナー(以下FP)に関する概要	特になし
	2	ライフプランニングと資金計画(1)	ライフプランニングの考え方・手法	第2回の復習
	3	ライフプランニングと資金計画(2)	公的年金制度	第3回の復習
	4	ライフプランニングと資金計画(3)	ライフプラン策定上の資金計画	第2回から第4回までの復習(第5回に確認テスト①)
	5	確認テスト① + リスク管理(1)	生命保険	第5回の復習
	6	リスク管理(2)	損害保険 第三の保険	第5回から第6回までの復習(第7回に確認テスト②)
	7	確認テスト② + 金融資産運用(1)	各種経済指標 マーケット環境の理解 投資信託	第7回の復習
	8	金融資産運用(2)	債券・株式 その他金融商品 金融資産に係る税金 ポートフォリオ運用	第7回から第8回までの復習(第9回に確認テスト③)
	9	確認テスト③ + タックスプランニング(1)	所得税制度 各種所得①	第9回の復習
	10	タックスプランニング(2)	各種所得② 所得税計算	第9回から第10回までの復習(第11回に確認テスト④)
	11	確認テスト④ + 不動産(1)	不動産の価格 不動産取引に係る法律 不動産登記	第11回の復習
	12	不動産(2)	不動産に係る関連法規(都市計画法・建築基準法など) 不動産に係る税金	第11回から第12回までの復習(第13回に確認テスト⑤)
	13	確認テスト⑤ + 相続・事業承継(1)	贈与・相続制度	第13回の復習
	14	相続・事業承継(2)	贈与・相続に係る税金	第13回から第14回までの復習(第15回に確認テスト⑥)
	15	確認テスト⑥ + 今後の学習について	期末テストについて 今後のFP学習について	特になし
関連科目	金融論・地域金融論など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	確認テスト(計6回)60%、定期試験40%			
学生へのメッセージ	FP試験の範囲は非常に広範ですが、それだけ幅広いファイナンスや経済学の学習が可能です。これまで学んだ事項を、現実の生活に応用するための基礎力を学ぶことができますので、資格取得を目指すきっかけとして積極的に参加してください。			
担当者の研究室等	1号館7階 植杉教授室(経済学部)			
備考	病欠その他都合により確認テストが受けられない場合には、理由を添えて、後日受けるようにしてください(もし受けないと、その回のテストは0点扱いとします)。 FP試験は年間3回あります(5月・9月・1月)ので、積極的に受験することを勧めます。			

科目名	文化政策論	科目名(英文)	Cultural Policy
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	後藤 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	経済や観光において文化の重要性が増している。それに伴い、文化政策の範囲も、文化財保護や芸術振興ばかりでなく、国際貿易や文化産業、知的財産権、都市政策等を含むものへと変化した。この授業では、文化政策の経済的側面に焦点を当てて学習する。他の授業では取り上げないインターネット企業のビジネスモデル等についても、その経済理論を学ぶ。
到達目標	地域振興、観光、国際貿易における文化の役割を理解できるようになる。文化政策の経済的側面を理解できるようになる。
授業方法と留意点	文化政策の基礎理論を学ぶとともに、日本や世界の事例を紹介しながら、文化政策の多様な役割について考える。課題を出し、発表してもらいながら学習を進める。
科目学習の効果(資格)	魅力的なまちづくりや、観光振興について考えられるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	この授業の目的と進め方について説明する	学生自身の学習目標を立てる
	2	変化する文化政策	文化政策の歴史と変容について講義する。	復習
	3	文化政策の領域	文化的な財とサービスの生産・流通・消費について学習する。	復習
	4	政策過程	文化政策の経済的目標と文化的目標について学習する。	復習
	5	芸術政策	芸術支援の理論的根拠、補助金と税制による支援について学習する。	復習
	6	文化産業	文化産業の特徴と、経済的貢献について学習する。 インターネット企業のビジネスモデルについて考える。	課題
	7	文化遺産	文化遺産政策について学ぶ。文化遺産の国際的側面について理解する。	課題
	8	中間まとめ	今までの授業範囲に関して、具体的な事例を発表してもらう。	レポートを提出
	9	都市再生、地域発展と文化	地域振興と文化について学習する。	復習
	10	観光	観光の経済的側面について学ぶ。観光における文化の役割についても理解する。	復習
	11	国際経済における文化	文化の国際貿易について学習する。	復習
	12	文化多様性	文化多様性とイノベーションの関係について考える。	復習
	13	芸術教育	芸術消費の決定要因としての教育について考える。	復習
	14	知的財産	著作権の経済的基礎を学ぶ。	復習
15	文化統計	文化統計の基礎を学ぶ。	復習	

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	文化政策の経済学	D. スロスビー著・後藤和子・阪本崇監訳	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	レポートと期末試験、授業中の発表で評価する
学生へのメッセージ	新しい領域です。新しい現象に興味を持ち、文化に関わる経済について深く、広く学びましょう。文化多様性とイノベーションの関係についても議論しましょう。
担当者の研究室等	後藤研究室(1号館7階)
備考	学生の理解度に応じて、シラバスの内容を変更することもあり得る。

科目名	貿易論	科目名(英文)	International Trade
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 鉄二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	国際貿易に関する様々な理論とそれに関する現実が生じている問題について学ぶ。			
到達目標	貿易理論の基礎を理解し、現実の国際貿易を分析できるようになること。			
授業方法と留意点	講義形式で行う。小テストを期間中に行い、定期試験を最後に行う。			
科目学習の効果(資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	講義のガイダンス		
	2	世界経済の概観	世界経済の概観	講義内容の復習
	3	労働生産性と比較優位(1)	貿易の利益 リカードモデル 比較優位	講義内容の復習
	4	労働生産性と比較優位(2)	リカードモデルの拡張 リカードモデルの実証分析	講義内容の復習
	5	生産要素と所得分配	特定要素モデル 所得分配と貿易 国際労働移動	講義内容の復習
	6	生産要素と貿易(1)	ヘクシャー・オリーンモデル レオンチェフパラドックス	講義内容の復習
	7	生産要素と貿易(2)	リブチンスキーの定理 ストルパー=サミュエルソンの定理 要素価格均等化定理	講義内容の復習
	8	標準的な貿易モデル	標準的な貿易モデル 関税と輸出補助金 国際的な貸借	講義内容の復習
	9	規模の外部経済と生産ロケーション	規模の経済 貿易と経済地理	講義内容の復習
	10	グローバル経済の中の企業	不完全競争の理論 独占的競争と貿易	講義内容の復習
	11	国際貿易政策	関税政策の費用便益 補助金政策 輸入数量制限政策	講義内容の復習
	12	貿易政策の政治経済学	最適関税論 所得分配と貿易政策 国際交渉と貿易政策	講義内容の復習
	13	発展途上国の貿易政策	輸入代替政策 幼稚産業保護論とその問題 貿易と経済成長	講義内容の復習
	14	貿易政策に関する新たな問題	ハイテク産業 途上国とグローバリゼーション 貿易と環境	講義内容の復習
	15	まとめ	講義のまとめ	講義内容の復習
関連科目	国際投資論、国際経済学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	International Economics Theory and Policy Tenth Edition	Paul R. Krugman, Maurice Obstfeld, Marc J. Melitz	Pearson
	2	クルーグマン国際経済学 理論と政策 上貿易編	Paul R. Krugman, Maurice Obstfeld, Marc J. Melitz	丸善出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	平常点50%(中間テスト等)、定期試験50%の割合で評価する。			
学生へのメッセージ	疑問があれば、講義の最中でも積極的に質問をしてください。日本語の教科書でも英語の教科書でも構いませんが、できれば英語版で頑張ってください。最初は大変かもしれませんが、徐々に慣れ、英語力が向上すると思います。			
担当者の研究室等	1号館7階 田中研究室			
備考				

科目名	簿記原理 I	科目名 (英文)	Principles of Bookkeeping I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー (DP)	DP1△, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△, DP6△, DP7△, DP8△, DP9△		

授業概要・目的	一定期間の経営成績を企業内外部の利害関係者に報告するための一連のプロセスが会計システムである。会計情報を作るための重要な手段が簿記であるため、簿記の基本を理解することで、実際の企業経営に必要となる財務管理の仕組みを把握する。簿記の基本的な手続きを理解し、日常的な取引の帳簿記録 (仕訳) ができ、簿記における最終成果物である財務諸表の理解し、経営管理における財務管理の必要性の理解するよう講義・演習を行う。
到達目標	(1) 簿記の基本的な手続き (特に、日常の手続き) の理解 (2) 簿記における最終成果物である財務諸表の理解 (3) 経営管理における財務管理の必要性の理解
授業方法と留意点	授業はパワーポイントと板書を利用する。授業は90分を一つの単位で、「理論説明」「演習」「確認テスト」として構成される。演習と確認テストを通じて、授業内容は、できるだけ、その時間内に理解できるようにしてください。
科目学習の効果 (資格)	本授業は経営分野すべての基礎である会計学の基礎知識の習得が可能な内容である。また、日商簿記・税理士・会計士・中小企業診断士、FP、SA等経営会計関連資格の基礎科目である。

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
		1	ガイダンス・簿記の概要	講義の進め方、講義の概要などを説明
授業計画	2	日常の手続き：現金・現金過不足	会計期間中に日常的に発生する取引の中で、現金と関連する取引について学習する	演習問題・確認テスト
	3	日常の手続き：当座預金・小口現金①	会計期間中に日常的に発生する取引の中で、当座預金と小口現金と関連する取引の仕組みを理解し、関連する取引を記録できるようにする	演習問題・確認テスト
	4	日常の手続き：当座預金・小口現金②	会計期間中に日常的に発生する取引の中で、当座預金と小口現金と関連する取引の仕組みを理解し、関連する取引を記録できるようにする	演習問題・確認テスト
	5	日常の手続き：手形①	手形の仕組、種類 (約束手形・為替手形)、手形の裏書き、手形の割引など、手形と関連して発生する取引について学習する	演習問題・確認テスト
	6	日常の手続き：手形②	手形の仕組、種類 (約束手形・為替手形)、手形の裏書き、手形の割引など、手形と関連して発生する取引について学習する	演習問題・確認テスト
	7	日常の手続き：手形③	手形の仕組、種類 (約束手形・為替手形)、手形の裏書き、手形の割引など、手形と関連して発生する取引について学習する	演習問題・確認テスト
	8	その他の日常 (期中) の取引①	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産 (減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・確認テスト
	9	その他の日常 (期中) の取引②	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産 (減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・確認テスト
	10	その他の日常 (期中) の取引③	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産 (減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・確認テスト
	11	その他の日常 (期中) の取引④	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産 (減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・確認テスト
	12	その他の日常 (期中) の取引⑤	期中に日常的に発生する取引の処理について学習する。 貸付金・借入金、手形貸付金・手形借入金、未収金・未払金、前払金・前受金、仮払金・仮受金、立替金・預り金、固定資産 (減価償却費)、有価証券、商品券と他店商品券、配当金や利息等	演習問題・確認テスト
	13	総勘定元帳の締め切りプロセス	期中に日常的に発生する取引を記録した総勘定元帳の締め切りプロセスを学習	演習問題・確認テスト

			する。資産勘定科目・負債勘定科目・資本勘定科目の締め切りと次期繰り越しの手続きおよび、収益勘定科目と費用勘定科目の損益への振り替え手続きを理解する。																	
	14	試算表および精算表の理解	決算報告書である精算表の形式および内容を理解し、また清算表の作成過程である試算表を理解し、作成手続きを学習する。	演習問題・確認テスト																
	15	まとめ	講義のまとめおよび質疑応答	演習問題																
関連科目	「会計学入門」を履修していることが望ましい。 「簿記原理Ⅱ」「管理会計論」と関連する。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 60%、平常点 40% (授業中の演習・レポートなど) で総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	講義内容は全てつながっており、継続的に受講しないと分からなくなる。 ※「簿記原理Ⅰ」を履修するためには、「会計学入門」を履修しているか、または、それに相当する基礎知識を習得していることが望ましい。																			
担当者の 研究室等	1号館7階 朴教室 (経済学部)																			
備考																				

科目名	簿記原理Ⅱ	科目名(英文)	Principles of Bookkeeping II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	朴 景淑
ディプロマポリシー(DP)	DP1△, DP2△, DP3△, DP4△, DP5△, DP6△, DP7△, DP8△, DP9△		

授業概要・目的	一定期間の経営成績を企業内外部の利害関係者に報告するための一連のプロセスが会計システムである。会計情報を作るための重要な手段が簿記であるため、簿記の基本を理解することで、実際の企業経営に必要な財務管理の仕組みを把握する。簿記の基本的な手続きを理解し、日常的な取引の帳簿記録(仕訳)と共に決算手続きができるよう、企業会計基準に沿って決算手続きを解説し演習を行う。
到達目標	1. 簿記の基本的な手続きの理解 2. 日常の手続き・決算手続きができること 3. 財務諸表(貸借対照表・損益計算書)の作成と解説ができること
授業方法と留意点	授業はパワーポイントと板書を利用する。授業は90分を一つの単位で、「理論説明」「演習」「確認テスト」として構成される。演習と確認テストを通じて、授業内容は、できるだけ、その時間内に理解できるようにしてください。
科目学習の効果(資格)	日商簿記・税理士・公認会計士・中小企業診断士、FP、SA等経営会計関連資格の基礎科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス・簿記の全体の流れ	講義の進め方、講義の概要などを説明	授業全体における学習内容および流れの把握
2	商品取引 ①日常の取引の手続き	売買業において最も頻繁に発生する商品取引について学習する	演習問題・確認テスト
3	商品取引 ②決算時の手続き	商品取引と関連して、決算時に必要な手続きについて学習する	演習問題・確認テスト
4	商品取引 ③決算時の手続き	商品取引と関連して、決算時に必要な手続きについて学習する 繰越商品の整理・売上原価の計算・仕入勘定の整理	演習問題・確認テスト
5	収益・費用の決算手続き ①	繰延べ・見越しとは、費用の繰延べ・収益の繰延べ・費用の見越し・収益の見越しに関する決算整理仕訳と振替仕訳について学習する	演習問題・確認テスト
6	収益・費用の決算手続き ②	繰延べ・見越しとは、費用の繰延べ・収益の繰延べ・費用の見越し・収益の見越しに関する決算整理仕訳と振替仕訳について学習する	演習問題・確認テスト
7	精算表の作成 ①	決算整理事項を考慮したうえで、精算表を作成して、さらに、精算表から貸借対照表(B/S)と損益計算書(P/L)の作成演習を行う	演習問題・確認テスト
8	精算表の作成 ②	決算整理事項を考慮したうえで、精算表を作成して、さらに、精算表から貸借対照表(B/S)と損益計算書(P/L)の作成演習を行う	演習問題・確認テスト
9	勘定の締め切り ①	決算整理によって5要素に属する勘定の記録が正しくなったことを確認し、各勘定を締め切る手続きを演習する	演習問題・確認テスト
10	勘定の締め切り ②	決算整理によって5要素に属する勘定の記録が正しくなったことを確認し、各勘定を締め切る手続きを演習する	演習問題・確認テスト
11	財務諸表の作成 ①	決算整理が終わった後の、精算表に基づいて貸借対照表と損益計算書を作成する手続きを学習する	演習問題・確認テスト
12	財務諸表の作成 ②	決算整理が終わった後の、精算表に基づいて貸借対照表と損益計算書を作成する手続きを学習する	演習問題・確認テスト
13	伝票式会計と補助帳簿①	伝票式会計の意義と各種補助帳簿について学習する	演習問題・確認テスト
14	伝票式会計と補助帳簿②	伝票式会計の意義と各種補助帳簿について学習する	演習問題・確認テスト
15	まとめ	講義のまとめおよび質疑応答	演習問題

関連科目	「会計学入門」「簿記原理Ⅰ」「管理会計論」
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準)	定期試験60%、平常点40%(授業中の演習・レポートなど)で総合的に評価する。
----------	---

学生へのメッセージ	講義内容は全てつながっており、継続的に受講しないと分からなくなる。 ※「簿記原理Ⅱ」を履修するためには、「簿記原理Ⅰ」「会計学入門」を履修しているか、または、それに相当する基礎知識を習得していることが必要である。
-----------	---

担当者の研究室等備考	1号館7階 朴教授室(経済学部)
------------	------------------

科目名	マクロ経済学 I	科目名 (英文)	Macroeconomics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	ABCDEFGHI
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	蛭川 雅之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	マクロ経済学とは、経済全体の大きな動きを分析するための学問です。本講義ではマクロ経済学の基礎、とりわけ、国民所得、利率、失業率、物価などの主要な経済変数がどのように決定され、どのように変動するかを解説します。
到達目標	基本的な経済変数間の相互関係および一国全体の経済変動のメカニズムを理解することを目標とします。
授業方法と留意点	毎回の講義は事前に配布される講義ノートに沿って行われます。ノートを担当教員の個人ホームページからダウンロードし、一度目を通したうえで講義時に持参してください。マクロ経済分析に必要な諸概念の理解を深めるため、必要に応じて数値例を用いた例題を解きながら講義を進めます。そのため、電卓も忘れずに持参してください。
科目学習の効果 (資格)	現実の経済を読み解くための基礎知識が身に付きます。経済学検定試験など資格試験を準備するうえでの基礎知識も身に付きます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	講義内容の説明、イントロダクション	マクロ経済学の概観	教科書第0章、講義ノート1 (事前)
2	マクロ経済学のとらえ方 I	フローとストック、GDP、国民所得の三面等価	教科書第1章、講義ノート2 (事前)
3	マクロ経済学のとらえ方 II	公的統計の概要、物価統計、雇用統計	講義ノート3 (事前)
4	マクロ経済における需要と供給	経済成長率、寄与度、ケインズ派対新古典派	教科書第2章、講義ノート4 (事前)
5	有効需要と乗数メカニズム I	乗数プロセス、限界消費性向、消費関数	教科書第3章、講義ノート5 (事前)
6	有効需要と乗数メカニズム II	投資、政府支出、所得の決定、インフレ・デフレギャップ	(同上)
7	貨幣の機能と信用創造	中央銀行の役割、ハイパワード・マネー、信用乗数	教科書第4章、講義ノート6 (事前)
8	第7週までのまとめ、中間試験	前半・総括；後半・中間試験	第7週までの復習 (事前)
9	貨幣需要と利率 I	貨幣の保有動機、貨幣需要関数、国債価格と金利	教科書第5章、講義ノート7 (事前)
10	貨幣需要と利率 II	貨幣の流通速度、貨幣数量式、ケンブリッジ方程式	(同上)
11	財政政策の基本的構造 I	公的部門、財政制度	教科書第6章、講義ノート8 (事前)
12	財政政策の基本的構造 II	課税と乗数プロセス、財政収支と公債負担、リカードの等価定理	(同上)
13	財政・金融政策とマクロ経済 I	政策目標と政策手段、フィリップス曲線、裁量カルルールカ	教科書第7章、講義ノート9 (事前)
14	財政・金融政策とマクロ経済 II	IS-LM分析、クラウディングアウト効果	(同上)
15	総需要と総供給	総需要曲線、総供給曲線	教科書第8章、講義ノート10 (事前)

関連科目 マクロ経済学II、現代ファイナンス論など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マクロ経済学 (第2版)	伊藤元重	日本評論社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	宿題 (4回、20%)、中間試験 (30%)、定期試験 (50%) を総合的に評価します。
学生へのメッセージ	疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。疑問点を未解決のまま放置して得になることはありません。
担当者の研究室等	1号館7階 蛭川教授室 (経済学部)
備考	

科目名	マクロ経済学Ⅰ	科目名(英文)	Macroeconomics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	I J K L M N O P Q R S T
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	郭 進
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	この授業では、マクロ経済学の基礎、とりわけ、国民所得、失業率、利子率、物価等主要な経済変数・指標がどのように決定され、どのように変動するかを解説する。
到達目標	集計された経済変数間の関係に法則性を見だし、一国全体の経済変動のメカニズムを理解することを目標とする。
授業方法と留意点	授業は基本的に、Review(前回の復習と練習問題の解説)、本日のポイント、内容(ポイントについて解説)、練習問題(内容に対応する課題)の形式で進めていく。さらに、マクロ経済分析に重要な諸概念の理解を深めるため、数値例を用いた例題を解きながら講義を進める。
科目学習の効果(資格)	マクロ経済学を学ぶことによって、日本経済および世界経済の動向を理解できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講義ガイダンス・マクロ経済学とは	マクロ経済学はどのような学問かについて解説する。	授業後、アンケートの実施。
2	GDPに関する基礎知識(Ⅰ)	付加価値の概念、GDPとGNPの区別について解説する。	
3	GDPに関する基礎知識(Ⅱ)	GDPの三面等価とGDPデフレーターについて解説する。	授業後、課題の提出
4	マクロ経済学における需要と供給	需要、供給および均衡の概念について解説する。	授業後、課題の提出
5	有効需要と乗数メカニズム	有効需要原理と消費関数について解説する。	授業後練習問題の提出
6	国民所得の決定	国民所得はどのように決まるかについて解説する。	授業後練習問題の提出
7	インフレギャップとデフレギャップ	完全雇用GDP、インフレギャップ及びデフレギャップについて解説する。	
8	利子率と投資	利子率と投資との関係について解説する。後半は小テストを行う。	
9	貨幣の機能と債券	貨幣の機能、貨幣と債券の関係について解説する。	授業後、課題の提出
10	貨幣の需要	貨幣の需要と貨幣需要曲線について解説する。	
11	中央銀行と貨幣の供給	中央銀行の機能と貨幣供給について解説する。	授業後、課題の提出
12	貨幣市場の均衡と利子率の決定	貨幣市場の均衡、利子率はどのように決まるのかについて解説する。	
13	金融政策の手段と効果	中央銀行による金融政策とその効果について解説する。	授業後、課題の提出
14	IS-LM分析(Ⅰ)	財市場と貨幣市場との関係を考えるIS-LM分析について解説する。	授業後練習問題の提出
15	IS-LM分析(Ⅱ)	IS-LM分析に基づく財政政策と金融政策について解説する。	

関連科目	マクロ経済学Ⅱ
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業での提出課題 20%、小テスト 30%、定期試験 50%の割合で総合的に評価する。授業態度などによる平常点も考慮する。
----------	---

学生へのメッセージ	学習には積み重ねが大切ですので、毎回出席してください。疑問点や不明な点は積極的に質問してください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 郭准教授室(経済学部)
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	マクロ経済学Ⅱ	科目名(英文)	Macroeconomics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	郭進
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7△, DP8△, DP9△		

授業概要・目的	本講義では、マクロ経済学Ⅰの授業内容を踏まえ、引き続きマクロ経済理論を学習する。特に経済政策、労働市場と失業、インフレーションとデフレーション、経済成長、国際マクロ経済学などのトピックスを取り上げて学習する。
到達目標	講義を履修することで、マクロ経済学における諸概念をより深く理解した上、様々な経済現象を自ら分析できる能力を身につける。
授業方法と留意点	授業は基本的に、Review(前回の復習と練習問題の解説)、本日のポイント、内容(ポイントの解説)、練習問題(内容に対応する課題)の形式で進めていきます。さらに、マクロ経済分析に必要な諸概念の理解を深めるため、値例を用いた例題を解きながら講義を進める。
科目学習の効果(資格)	中級レベルのマクロ経済学への橋渡しとなるように、マクロ経済学の理論を体系的に理解する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	マクロ経済学Ⅱの内容の概略を紹介する。	授業後、アンケートの実施。
2	IS-LM分析の復習	IS-LM分析を復習し、その応用について解説する。	授業後練習問題の提出
3	マクロ経済政策の効果Ⅰ	マクロ経済学における財政政策について解説する。	授業後、課題の提出
4	マクロ経済政策の効果Ⅱ	マクロ経済学における金融政策について解説する。	
5	労働市場と賃金率の決定	労働市場における需要曲線と供給曲線の導出及び賃金率の決定について解説する。	授業後練習問題の提出
6	マクロ経済学の総供給と総需要	労働市場から総供給の導出、IS-LM分析から総需要曲線の導出について解説する。	授業後、課題の提出
7	物価水準の決定	マクロ経済学における総需要と総供給による物価水準の決定について解説する。	授業後練習問題の提出
8	まとめ、中間テスト	前半のまとめと中間テストの実施。範囲は1回目から7回目の内容とする。	授業前、7回目までの内容を復習すること
9	AD-AS分析と経済政策	物価が変動するAD-AS分析における経済政策の効果を、物価一定と仮定したIS-LM分析と比較して、その違いについて理解する。	授業後練習問題の提出
10	インフレーションとデフレーション	インフレーションとデフレーションの概念および物価指数について解説する。	授業後練習問題の提出
11	インフレ率と失業率の関係	フィリップス曲線を紹介し、インフレーションと失業の関係などを解説する。	授業後練習問題の提出
12	国際収支と海外部門の導入	国際収支表を理解し、海外部門を考慮する開放マクロ経済学について紹介する。	授業後練習問題の提出
13	為替レートの決定理論	為替レート概念、国際通貨制度、購買力平価理論などについて解説する。	授業後練習問題の提出
14	IS-IM-BP分析と経済政策の有効性	海外部門を考慮したIS-LM-BP分析を学ぶ。開放マクロ経済の下で、経済政策の有効性を再考する。	
15	まとめ、総合演習	重要なポイントのまとめ及び総合演習を行う。	

関連科目	マクロ経済学Ⅰ
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	授業での提出課題20%、中間テスト30%、定期試験50%の割合で総合的に評価する。授業態度などによる平常点も考慮する。
----------	---

学生へのメッセージ	学習には積み重ねが大切ですので、毎回出席してください。疑問点や不明な点は積極的に質問してください。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 郭准教授室(経済学部)
----------	-------------------

備考	マクロ経済学Ⅰを履修するのが望ましい。
----	---------------------

科目名	ミクロ経済学 I	科目名 (英文)	Microeconomics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	ミクロ経済学は「選択の科学」です。本講義では、個々の経済主体 (=消費者、企業、政府) が様々な状況下でどのような選択 (もしくは意思決定) を行うかに焦点を当て、経済分析の枠組みを理解することを目標とします。ミクロ経済学の基礎、とりわけ消費者理論・企業理論・完全競争市場に重点を置いて解説します。
到達目標	市場における消費者と企業の行動や物価と生産量の決定の仕方を理解し、応用ミクロ経済学の範囲である労働経済学、産業組織論、国際経済学の基礎知識を習得する。
授業方法と留意点	授業はスライドと板書の両方を用いて行います。数式などは極力用いず、図やグラフなどを通じて理解を深めます。
科目学習の効果 (資格)	すべての経済学の基礎となる考え方が身に付きます。経済学検定試験など資格試験を準備するうえでの基礎知識も身に付きます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	市場における需要と供給の作用	市場における需要と供給曲線がどのように求められ、また市場の均衡がどのようにして決まるかを説明する。	テキスト4章予習・復習
2	弾力性とその応用	消費者の需要の弾力性と生産者の供給の弾力性について説明する。	テキスト5章予習・復習
3	消費者選択の理論1 (無差別曲線、予算制約)	消費者の効用・予算がどのように表現されるのかを説明する。	テキスト21章予習・復習
4	消費者選択の理論2 (効用最大化、需要曲線の決定)	消費者が限られた予算の中で効用を最大化するためにどのように需要額を決定するかについて説明する。	テキスト21章予習・復習
5	競争市場における企業1	企業の生産活動について説明する。	テキスト13章予習・復習
6	競争市場における企業2	企業が利潤最大化をするためにどのように生産額を決めるかについて説明する。	テキスト14章予習・復習
7	消費者、生産者、市場の効率性	消費者余剰、生産者余剰、社会の厚生について説明する。	テキスト7章予習・復習
8	消費者、生産者行動、社会厚生に関するテーマの総括	1~7回までの講義に関する練習問題を行う	講義ノートの復習
9	需要、供給、および政府の政策	政府が経済の厚生最大化のためとする価格規制や税金などの経済政策について説明する。	テキスト6章予習・復習
10	余剰分析の応用1 (課税の費用)	税金による経済厚生への影響について説明する。	テキスト8章予習・復習
11	余剰分析の応用2 (国際貿易)	国際貿易が生じるメカニズムについて説明する。	テキスト9章予習・復習
12	独占	独占市場における企業の行動と経済厚生に対する影響について説明する。	テキスト15章予習・復習
13	寡占	寡占市場における企業の行動と経済厚生に対する影響について説明する。	テキスト16章予習・復習
14	外部性と公共財	市場が完全競争にならない原因である外部性・公共財の問題について説明する。	テキスト10章・11章予習・復習
15	余剰分析、独占・寡占、外部性・公共財に関するテーマの総括	9~14回までの講義に関する練習問題を行う	講義ノートの復習

関連科目	ミクロ経済学 II、公共政策論、産業組織論
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マンキュー経済学 (1) ミクロ編	N. グレゴリー マンキュー	東洋経済新報社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	定期試験 (100%) で総合的に評価します。私語をする学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。また授業態度が著しく悪い学生には定期試験の受験資格を認めません。
-----------	---

学生へのメッセージ	疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館7階 名方准教授室 (経済学部)
----------	---------------------

備考	
----	--

科目名	ミクロ経済学Ⅱ	科目名(英文)	Microeconomics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	名方 佳寿子
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4△, DP5○, DP6△, DP7○, DP8△, DP9○		

授業概要・目的	国際経済学、労働経済学、産業組織論、財政学等の応用ミクロ経済学の基礎となるミクロ経済学について学ぶ。とりあげるテーマはミクロ経済学Ⅰとほとんど同じであるが、数式や計算を通じてミクロ経済学Ⅰで学んだことに対する深い理解が得られることを目標とする。また新しいテーマとして①消費者の期待効用、②寡占市場における企業間の競争、③労働市場の3点を取り上げる。
到達目標	市場における消費者、企業、政府の行動を理解し、また市場の失敗である「公共財」「外部性」「寡占・独占」の問題を数式を使って解けるようにする。
授業方法と留意点	授業はスライドと板書の両方を用いて行います。レポート・定期試験は数式を用いた計算問題がほとんどであり、微分の知識が必要となります。
科目学習の効果(資格)	経済学検定試験や公務員試験の勉強に役立ちます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	市場における需要と供給の作用	市場において需要と供給曲線がどのように求められ、またどのように市場の均衡が決まるかについて説明する。	講義ノートの復習
2	消費者の行動	消費者が限られた予算の中で効用を最大化するためにどのように需要額を決定するかについて説明する。	講義ノートの復習
3	消費者の期待効用	不確実性のもとでの消費者の行動について説明する。	講義ノートの復習
4	1～3 回目のテーマに関する練習問題	消費者の行動に関連する計算問題	講義ノートの復習
5	競争市場における企業の行動	競争市場における企業の利潤最大化行動について説明する。	講義ノートの復習
6	独占	独占市場における企業の行動と経済厚生に対する影響について説明する。	講義ノートの復習
7	寡占Ⅰ	寡占市場における企業の行動と経済厚生に対する影響について説明する。	講義ノートの復習
8	寡占Ⅱ	クールノー・ナッシュ均衡やカルテルについて説明する。	講義ノートの復習
9	5～8 回目のテーマに関する練習問題	企業の行動に関連する計算問題	講義ノートの復習
10	社会厚生	消費者余剰、生産者余剰、市場の効率性について説明する。	講義ノートの復習
11	外部性と公共財	市場が完全競争にならない原因である外部性・公共財の問題について説明する。	講義ノートの復習
12	労働市場	労働市場における需要と供給の均衡について説明する。	講義ノートの復習
13	10～12 回目のテーマに関する練習問題	社会厚生、外部性・公共財、労働市場に関連する計算問題	講義ノートの復習
14	4、9、13 回目で行った練習問題の復習	4、9、13 回目で行った練習問題	講義ノートの復習
15	総括	14 回で行った講義内容を復習する。	講義ノートの復習

関連科目: ミクロ経済学Ⅰ、経済学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(100%)で総合的に評価します。私語をする学生・授業態度が著しく悪い学生には教室からの退出・減点などの処置をとります。
学生へのメッセージ	疑問点・わからない点があれば授業中でもかまいませんので聞いてください。学生の積極的な取り組みを応援します。
担当者の研究室等	1号館7階 名方准教授室(経済学部)
備考	

科目名	民法	科目名(英文)	Civil Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大川 謙蔵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	法律とは、社会において生じる問題を解決するために使われるものである。そのような法律も、いくつかの形で分類がなされる。本講義で扱う民法とは、私人の間の問題等を規律するための規範であり、特に財産と家族の問題を扱っている。財産と家族の問題を扱う一番基本となる法律が民法である。 本講義では、この民法を理解するために、まず概論として、法学とはどのような学問であるのか、そして、その法律学の中で民法がどのように扱われているのかなど、法学を概観し、そこから具体的な民法の中身を簡単にではあるが把握していくことを予定している。
到達目標	民法全般、および民事法と呼ばれる私人間に問題について適用される法律の概観をつかむことができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式で行う予定である。復習などのために資料を配布する。 法律科目であるので、六法(書籍の一種)が必要。六法を入手する予定のない方は受講しないこと(学習内容を理解することができないため)。
科目学習の効果(資格)	社会生活の基本法である民法の学習方法を知ることができ、民事法(民法、民事訴訟法、破産法等)が出題科目となっている各種資格試験の基礎となる知識を習得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	法律学および民法	法律科目というもののガイダンス、法律一般および民法の概要について確認する予定です。	新聞などから、目次も含め、教科書から興味を持てる部分を是非見つけてください。
2	民法と財産法総論	法律というものが対象としているものなどを大きく捉え、その中で民法典の役割を確認し、さらに財産法の内容を確認していく予定です。	1回目の内容から、自分の周りに存在する財産法と関連する問題を考えてみて下さい。
3	民法と契約という制度	契約という制度を通して、社会における法律関係を確認していく予定です。	現実の生活の中で、どのような契約をしているのかなどを把握してみてください。
4	民法における人という存在	契約をすることができるのは誰なのか、また単独では契約ができない人がいるのかなどを確認する予定です。	これまでの経験から、法的に自分が置かれている立場を理解し、なぜ親の同意が必要だったのかを考えてください。
5	代理・時効	契約も単独でできない場合があります。その場合に、代わりに契約を行ってくれる人などの代理についてを確認し、また時効制度も確認する。	他人が自分のために契約をしてくれる便利さと怖さを確認してください。
6	契約の締結	契約を締結するとはどのようなことなのかを確認する予定です。	友達との約束についても法的に考えてみて下さい。
7	所有権を通しての物権	人が物を所持すること、すなわち支配することを、法律はどのように考えているのかを見ていく予定です。	他人が自分の物を返さないという経験がこれまでありましたか?これを、法的に考えてみてください。
8	不法行為①	他人に損害を与えてしまい、賠償をしなければならぬことを、法的に見ていきます。	交通事故や約束違反によって生じた損害は、賠償により回復することができるのでしょうか。考えてみてください。
9	不法行為②	現代社会は進歩が激しく、法律も新しい局面に向かいあう必要が生じています。そこで、不法行為の制度をより多角的に見ていく予定です。	他人に損害賠償を請求するということの難しさを考えてみてください。
10	事務管理・不当利得	契約や不法行為とは異なった形で、他人との間で法的な関係が生じる場合をみます。	人情を法律でとらえることや、契約終了後の関係について考えてください
11	婚姻	婚姻がどのようにすると成立し、その結果どのような義務が生じるのかなどを見ていく予定です。	誰とでも婚姻できるのか、婚姻する意味を考えてください。
12	離婚	離婚原因を確認し、離婚の際に生じる問題を確認していく。	国家が認める婚姻関係を解消することの重大性を今一度確認すること。
13	親子関係	親子は互いにどのような権利義務関係があるのか、また、子の扱いが異なる現状を確認する。	法律が完全に正義を実現しているのかどうかを考える重要な問題が出てきます(非嫡出子の問題)。それを考えること。
14	相続	相続の意義や誰が相続できるのかについて確認する。	法律がどのような範囲で相続を認めているのかを理解するため、家族というものを復習しておくこと。
15	遺言および講義のまとめ	相続における被相続人の意思を遺す方法やその問題点を確認する。	全体の復習をしておくこと。

関連科目 憲法、商法、会社法など、法律に関連する科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ロードマップ民法入門	小川・西内・大川	一学舎

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

評価方法(基準) 講義中に復習テストを行い、評価に加える予定(初回に確認します)。
小テストに加え、定期試験での評価の予定(初回に確認します)。

学生へのメッセージ 民事法は日常生活に関する規範である。したがって、民事法を学習することは、日常生活を法的観点から検討することでもある。

担当者の研究室等 11号館9階 大川研究室

備考 近年、受講態度のひどい学生が散見されます。受講の登録後であっても、そのような学生に対しては採点対象から外しますので、ご理解下さい。

科目名	レジャー産業論	科目名(英文)	Leisure Industries
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	持永 政人
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2△, DP3△, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7△, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	平均寿命の伸長に伴い、余暇活動の在り方が改めて問われています。この授業では日本人のレジャーの特徴を理解した上で、個別レジャー関連産業の動向を取り上げその意義と重要性を理解します。			
到達目標	日本でのレジャー産業の特徴と役割が理解できている。			
授業方法と留意点	授業は毎回のテーマに沿った講義を中心に進めていきます。			
科目学習の効果(資格)	レジャー関連産業動向の理解			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	レジャーとは何か	講義概要、授業の進め方、評価方法等の説明 レジャーの定義を理解する。	事後：配布資料の復習
	2	レジャーの種類	レジャー活動にはどのようなものがあるか理解する。	事後：配布資料の復習、課題作成
	3	レジャーの規模	日本におけるレジャー活動の経済的な規模を理解する。	事後：配布資料の復習
	4	わが国のレジャーの歴史 I	日本人のレジャー活動の発展を振り返る。	事後：配布資料の復習
	5	わが国のレジャーの歴史 II	日本人のレジャー活動の発展を振り返る。	事後：配布資料の復習
	6	レジャー関連産業とは何か	レジャー関連産業の領域を理解する。	事後：配布資料の復習、課題作成
	7	レジャー産業 I (スポーツ産業①)	スポーツ産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習
	8	レジャー産業 II (スポーツ産業②)	スポーツ産業の特徴と動向を理解する。	小テスト 事後：配布資料の復習
	9	レジャー産業 III (健康産業①)	健康産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習
	10	レジャー産業 IV (健康産業②)	健康産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習、課題作成
	11	レジャー産業 V (外食産業①)	外食産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習
	12	レジャー産業 VI (外食産業②)	外食産業の特徴と動向を理解する。	事後：配布資料の復習
	13	レジャー産業 VII (旅行業)	レジャー活動における旅行業の役割を考える。	事後：配布資料の復習
	14	今後のレジャー産業の展望	今後のレジャー産業の在り方を考える。	小テスト 事後：配布資料の復習
	15	まとめ	これまでの講義の補足とまとめ、質疑応答	事後：配布資料の復習
関連科目	観光学入門			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	定期試験 50%、小テスト(2回) 30%、その他(課題作成等)を総合的に評価する。			
学生へのメッセージ	幅広い産業領域を扱うので、普段から余暇・レジャー関連ニュースに関心を持ってください。			
担当者の研究室等	1号館7階 持永教授室(経済学部)			
備考				

科目名	労働経済学	科目名(英文)	Labour Economics
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	平野 泰朗
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4○, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	学生生活からは労働の実態とそこに起きる様々な問題は想像しにくいですが、すぐに就職問題として現実に直面する。本講義では、この労働の実態とそこでの課題について学習し、就職に関する知識と心構えを養う。労働問題のうち、ここでは主に、労働過程と労働市場における諸問題発生の原因と現状、及びありうる対策を学習する。
到達目標	仕事に必要な能力・意識がどんなもので、どのように獲得できるかを知る。同時に、職場で起こる労働問題がどのようなものであるかを理解することを通して、誤りの少ない職業選択ができるようになる。
授業方法と留意点	講義形式。毎回、レジュメを配布し、それにもとづいて講義する。必要に応じて参考資料を配布する。また、場合によって、視聴覚教材を使用する。その際、コメント文を書くことが多い。
科目学習の効果(資格)	人が働く上で直面する課題が分かる。また、働く上での基礎的能力が何であるかも理解できる。社会保険労務士試験に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の目的、全体の構成等について説明する。視聴覚教材を使い、「新社会人」の実態を知る。	配布資料や参考書に目を通してみる。
2	若者の就職	まず、学生にとって身近な労働問題である就職を取り上げる。労働力不足の時代とはいえ、就職は、若者にとって厳しい状況にあると言われている。その理由と対応策を現役大学生のレポートなどから考察する。	配布資料や参考書を読む。
3	若者の就職(続き)	日本の雇用制度の中で、働き手に求められる能力・資質について、体育会系や「草食系」などのタイプを参考に考察する。	配布資料や参考書を読む。
4	労働市場の構造と機能	一般市場とは異なる労働市場の特徴を、需要サイド、供給サイド、政策の必要性の3点から考察する。	配布資料や参考書を読む。
5	日本的雇用と内部労働市場	企業内での職務・職階等の移動という形で起こる内部労働市場の特徴、事例、推進要因を学び、そこから、日本的雇用の特徴を見つける。	配布資料や参考書を読む。
6	労働者派遣と職業紹介	内部労働市場とは異なる労働力調整の方式として、外部労働市場がある。そこでは、職業紹介が重要な役割をもつ。歴史的考察から公共職業紹介所の意義を知る。併せて、それと類似の機能をもつ労働者派遣業の実態とその社会的影響を考察する。	配布資料や参考書を読む。
7	ブラック企業と日本的雇用の変質	労働者派遣に代表される非正規雇用の増大が日本の雇用の変質を表す主要な局面であるとするなら、ブラック企業の出現はその第二局面と言える。ブラック企業とは何かを考察した上で、日本的雇用システムとの関連を考察する。	配布資料や参考書を読む。
8	女性労働	女性雇用を巡る諸問題の実態を、データで確認する。併せて、女性雇用問題がなぜ起こるかについての説明理論をいくつか学び、それぞれの特徴と問題点を理解する。	配布資料や参考書を読む。
9	女性労働(続き)	女性雇用問題に対する対応を、政策(とくに男女雇用機会均等法)と企業の2側面から考察する。	配布資料や参考書を読む。
10	労働過程の本質と資本主義	人が働くとはどういうことかを、人類の歴史の中で考察する。次に、資本主義では、それがどのような形式をとって現れるかを考察する。最後に、資本主義での労働過程において、労働生産性の上昇こそが、労使双方にとって対立と妥協を処理する鍵となることを考察する。	配布資料や参考書を読む。
11	機械の導入と労働組織の変革	前回見た労働生産性上昇の方法として、2つの主要な方法である機械の導入と労働組織の変革の社会的影響を考察する。前者については機械と装置の区別を、後者についてはフォードシステムと多品種生産の区別を詳しく見る。	配布資料や参考書を読む。
12	技能形成と知的熟練	労働生産性上昇を個人個人の労働者の側からみると、いかに技能を高めるかという問題が視野に入ってくる。これが、技能形成問題である。まず、技能形成の2つの方法、OJTとOffJTを理解する。次に、現代の技能形成の問題である「知的熟練」について、その方法と課題を考察する。	配布資料や参考書を読む。
13	労働問題と労働法制	第4回目の講義で指摘したように、労働	配布資料や参考書を読む。

			問題を解決するには時として政策の介入が不可欠である。政策介入の基本は、労働法制にある。ここでは、労働時間、「名ばかり管理職」、労働組合に関する労働法制の意義と課題を考察する。																	
	14	文系の仕事	経済学部の卒業生の大半が就くであろう文系の仕事を、「営業」と「総務」に分け学ぶ。次に両者に共通する非定型労働の特徴について考察する。	配布資料や参考書を読む。																
	15	まとめ	これまでの講義全体を振り返って、重要な事項を再確認し、不足した説明を補足する。	講義ノート、参考書を読んで、定期試験に備える。																
関連科目	経済キャリア入門																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名																
	1																			
	2																			
3																				
評価方法 (基準)	<p>授業中に使用した教材に関するコメント文および定期試験により評価する。 概ね、コメント文 30%、定期試験 70% で評価する。 なお、出席日数が不足する者は、単位取得の資格を失う場合がある。</p>																			
学生への メッセージ	<p>働く場でどんな問題が生じているのか、働く上でどんな能力が必要かについて、出来るだけ早く知っておいてください。 そうすれば、後で困りません。</p>																			
担当者の 研究室等	1号館 7階 平野教授室(経済学部)																			
備考																				

科目名	労働法	科目名(英文)	Labor Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	前田 剛志
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8○, DP9◎		

授業概要・目的	労働法は、個別的労働関係法、雇用保障法(労働市場法)、団体的労働関係法などに大きく分けられるといわれています。この授業では、個別的労働関係法に属する労働基準法と、団体的労働関係法に属する労働組合法を概観する予定ですが、主には労働基準法を取り扱います。
到達目標	労使関係の理解に不可欠な労働基準法及び労働組合法の基本的内容を理解することを目標としています。そして、労働法が経済と密接な関連性を持っていることを認識することも目標としています。
授業方法と留意点	講義は適宜配布するレジュメにしたがって行います。また、関連する判例や資料を指定することもあります。
科目学習の効果(資格)	労働基準監督官や公務員試験での出題が考えられます。また、社会保険労務士の資格取得のための必修科目でもあります。それらの試験を目標とされている方の学習の一助になればと考えています。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	労働法の歴史と機能 労働法の基本構造と法源	・労働法の誕生、発展 ・労働法の機能 ・労働法の全体像、規律構造 ・労働法の法源	事前の予習は基本的には必要ありませんが、参考書などの該当する部分を読んでみると理解がしやすいかと思います。毎回の授業内容の復習に努めてください。
2	労働契約	・労働契約の解釈枠組 ・労働契約上の権利・義務	労働契約によって使用者と労働者にどのような権利・義務が発生するかを理解してください。
3	雇用関係の成立	・採用の自由 ・採用内定、内々定、試用 ・労働条件の明示	採用に至る各段階について労働法がどのような規定をおいているかを概観してみましょう。
4	雇用関係の展開①	・昇進、昇格、降格 ・配転 ・出向、転籍	日本企業は人事に対して広範な決定権限を持っているといわれています。その具体的な内容と問題点を理解してください。
5	雇用関係の展開②	・職場規律と懲戒	企業による懲戒の法的根拠、内容、種類などを理解してください。
6	雇用関係の終了	・解雇 ・解雇以外の終了事由 ・終了後の法規制	雇用関係が終了する事由にはどのようなものがあるかを概観してみましょう。
7	基本的労働条件①	・賃金の種類と体系 ・賃金請求権 ・賃金の法規制	労働条件のうちで最も重要なものの1つである賃金について、その内容を理解してください。
8	基本的労働条件②	・労働時間法制的意義と現状 ・労働時間制度の基本的枠組み ・労働時間制度の特則	賃金と並んで労働者にとって最も重要な労働条件の1つである労働時間について、労働法がどのような規制をしているか理解してください。
9	基本的労働条件③	・休暇	日本で法律上認められている休暇について、どのようなものがあるかを確認してください。
10	労働者の安全、健康の確保 年少者、女性の保護	・労働安全衛生 ・労災補償 ・年少者の保護 ・女性の保護	労働者が働くうえで安全や健康を確保することが、労働法の原点の1つです。そのために、労働法がどのような定めをしているかを確認してください。年少者、女性の保護についても概観します。
11	労働組合	・労働組合の要件 ・労働組合の組織と運営	労働組合がなぜ法的に保護されているのかの理由、労働組合の要件について理解してください。
12	労働協約	・労働協約の意義 ・労働協約の効力 ・労働協約の拡張適用(一般的拘束力) ・労働協約の終了	労働協約の意義と効力について理解してください。
13	労働者の団体行動	・争議行為の概念 ・団体行動の正当性 ・違法な争議行為とその責任 ・使用者の争議対抗行為	「争議行為」について、その内容やどのような場合に保障をうけることができるかを理解してください。
14	不当労働行為	・不当労働行為の趣旨 ・不当労働行為の成立要件 ・不当労働行為の救済	労働組合法7条に定められている不当労働行為の趣旨、内容、成立要件、救済方法を理解してください。
15	まとめ	これまでの講義で学習してきた内容を復習したり、あまり触れられなかった問題を補足したいと考えています。	今まで学んだことで自分自身がわかりにくかった部分がどこかを確認しておくこと。

関連科目	法学入門、日本国憲法、民法
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	労働法[第11版補正版]	菅野 和夫	弘文堂
	2	労働法入門	水町 勇一郎	岩波書店
	3	労働判例百選[第9版]		有斐閣

評価方法(基準)	原則として学期末テストの成績の点数(100%)によって評価します。なお、授業中に確認テストを提出してもらうことがありますが、それらは加点事由(最大5%)として扱います。逆に、授業中の私語、一定時間経過後の理由なき遅刻、退席などについてはマイナスに評価します。受講者が少ない場合、学期末テストに代えてレポートを実施する可能性があります(レポートを実施した場合の評価基準は、レポートが70%、確認テストが30%)。
----------	---

学生への メッセージ	現実社会では、労働の場面において、様々な問題が生じています。そして、それは、経営者側からも、労働者側からも、問題解決の必要性があります。労働関係に関する法律を学ぶことは、経済主体たる使用者、労働者の関係を学ぶことでもありますから、意識的・主体的に学習に取り組んでいただければと思います。
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室（法学部非常勤講師室）
備考	学生の皆さんが興味をもったテーマやタイムリーな話題があれば、適宜授業のなかで取り上げたいと思います。また、講義中に適宜指名して質問を行うことがあります。どのような回答をしていただいても構いませんので、積極的にご回答下さい。

基礎科目

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	岩永 道子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業内容、授業の進め方、成績評価の説明 テキスト Unit 1 前半	Unit 1 Warm-up & Vocabulary Build-up
	2	Unit 1 後半	リーディングと文法説明 Unit 1 の単語小テスト	Unit 1 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
	3	Unit 2 前半	Unit 2 リスニングパート	Unit 2 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
	4	Unit 2 後半	リーディングと文法説明 Unit 2 の単語小テスト	Unit 2 の Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
	5	(前回は)別途配布したプリントによる、リーディング(1)	自然科学の内容の英文のパッセージを読む。	プリントは 1 週前に配布するので、その本文を予習として読んでおくこと。 単語集の指定された単語
	6	Unit 3 前半	リスニング	Unit 3 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
	7	Unit 3 後半	リーディングと文法説明 Unit 3 の単語小テスト	Unit 3 Vocabulary Buildup 単語集の指定された単語
	8	Unit 4 前半	リスニング	Unit 4 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
	9	Unit 4 後半	リーディングと文法説明 Unit 4 の単語小テスト	Unit 4 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
	10	(前回は配布した)プリント教材による、リーディング(2)	自然科学の内容の英文パッセージを読む。	自然科学の内容の英文パッセージを読む。 単語集の指定された単語
	11	Unit 5 前半	リスニング	Unit 5 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
	12	Unit 5 後半	リーディングと文法説明 Unit 5 の単語の小テスト	Unit 5 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
	13	Unit 6 前半	リスニング	Unit 6 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
	14	Unit 6 後半	リーディングと文法説明 Unit 6 の単語小テスト	Unit 6 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語
	15	前期の総括と確認テスト	前期末まとめテストと解説	前期学習事項

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Welcome to the TOEIC Test	Yoshio Kitahara	朝日出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む) 70%
----------	---

学生へのメッセージ	単語集の単語は毎回、テキストの章のはじめ(リーディング、リスニングとも)の単語は 1 章が終わったら小テストする。語彙力の強化は TOEIC の得点アップにつながる。
-----------	---

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	積極的に授業に参加して下さい。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	---

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藪井 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>概要説明</td><td>—————</td><td>—————</td></tr> <tr><td>2</td><td>Lesson3</td><td>代名詞</td><td>演習 3</td></tr> <tr><td>3</td><td>Lesson4</td><td>代名詞</td><td>演習 4</td></tr> <tr><td>4</td><td>Lesson5</td><td>時制</td><td>演習 5</td></tr> <tr><td>5</td><td>Lesson6</td><td>時制</td><td>演習 6</td></tr> <tr><td>6</td><td>Lesson7</td><td>時制</td><td>演習 7</td></tr> <tr><td>7</td><td>Lesson8</td><td>助動詞</td><td>演習 8</td></tr> <tr><td>8</td><td>Lesson9</td><td>助動詞</td><td>演習 9</td></tr> <tr><td>9</td><td>Lesson10</td><td>態</td><td>演習 1 0</td></tr> <tr><td>10</td><td>Lesson11</td><td>態</td><td>演習 1 1</td></tr> <tr><td>11</td><td>Lesson12</td><td>不定詞</td><td>演習 1 2</td></tr> <tr><td>12</td><td>Lesson13</td><td>不定詞</td><td>演習 1 3</td></tr> <tr><td>13</td><td>Lesson3～13</td><td>Grammar Point のまとめ</td><td>授業の復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>総合復習</td><td>総合復習</td><td>授業の復習</td></tr> <tr><td>15</td><td>プリント教材</td><td>TOEIC 演習</td><td>—————</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	概要説明	—————	—————	2	Lesson3	代名詞	演習 3	3	Lesson4	代名詞	演習 4	4	Lesson5	時制	演習 5	5	Lesson6	時制	演習 6	6	Lesson7	時制	演習 7	7	Lesson8	助動詞	演習 8	8	Lesson9	助動詞	演習 9	9	Lesson10	態	演習 1 0	10	Lesson11	態	演習 1 1	11	Lesson12	不定詞	演習 1 2	12	Lesson13	不定詞	演習 1 3	13	Lesson3～13	Grammar Point のまとめ	授業の復習	14	総合復習	総合復習	授業の復習	15	プリント教材	TOEIC 演習	—————
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	概要説明	—————	—————																																																																
2	Lesson3	代名詞	演習 3																																																																
3	Lesson4	代名詞	演習 4																																																																
4	Lesson5	時制	演習 5																																																																
5	Lesson6	時制	演習 6																																																																
6	Lesson7	時制	演習 7																																																																
7	Lesson8	助動詞	演習 8																																																																
8	Lesson9	助動詞	演習 9																																																																
9	Lesson10	態	演習 1 0																																																																
10	Lesson11	態	演習 1 1																																																																
11	Lesson12	不定詞	演習 1 2																																																																
12	Lesson13	不定詞	演習 1 3																																																																
13	Lesson3～13	Grammar Point のまとめ	授業の復習																																																																
14	総合復習	総合復習	授業の復習																																																																
15	プリント教材	TOEIC 演習	—————																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Mastering Basic English Grammar</td><td>Nagaki kitayama</td><td>SEIBIDO</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Mastering Basic English Grammar	Nagaki kitayama	SEIBIDO	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Mastering Basic English Grammar	Nagaki kitayama	SEIBIDO																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%																																																																	
学生へのメッセージ	予習・復習は大変だと思いますが頑張ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	予習、復習は各 1 時間 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																																																																		

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	受講にあたってのオリエンテーション 英語学習のための基礎項目	受講に関する諸連絡 (授業の進め方、共通英語必修課題の進め方などについて) 品詞の知識、辞書の使い方について	授業内容の予習・復習
2	What is Critical Thinking? (1) (クリティカル・シンキングとは何か?)	聴き取り、読解	授業内容の予習・復習
3	What is Critical Thinking? (2) (クリティカル・シンキングとは何か?)	読解、文法、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 80 個
4	Write Your Problems on a Note Pad (1) (問題点をメモ帳に書いてみよう)	聴き取り、読解	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 80 個
5	Write Your Problems on a Note Pad (2) (問題点をメモ帳に書いてみよう)	読解、文法、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 80 個
6	Media Literacy: Don't Believe Everything the Media Say! (1) (メディアを何から何まで信じるな!)	聴き取り、読解	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 80 個
7	Media Literacy: Don't Believe Everything the Media Say! (2) (メディアを何から何まで信じるな!)	読解、文法、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 80 個
8	The Spirit of Wa (Harmony) (1) (和の精神)	聴き取り、読解	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 80 個
9	The Spirit of Wa (Harmony) (2) (和の精神)	読解、文法、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 80 個
10	Xenophobia (1) (外国人嫌い)	聴き取り、読解	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 80 個
11	Xenophobia (2) (外国人嫌い)	読解、文法、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 80 個
12	Telephone Message Game (1) (伝言ゲーム)	聴き取り、読解	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 80 個
13	Telephone Message Game (2) (伝言ゲーム)	読解、文法、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 80 個
14	Analyze Your Pattern of Thinking (1) (自分の思考パターンを分析する)	聴き取り、読解	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 80 個
15	Analyze Your Pattern of Thinking (2) (自分の思考パターンを分析する)	読解、文法、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 80 個

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	An Invitation to Critical Thinking (クリティカル・シンキングのすすめ)	高垣俊之, 河原俊昭, 斎藤早苗 他	南雲堂
2	1500 Core Vocabulary 【単語集】 -- The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B	20% 10%
-----------	--------------------------	------------

	授業への参加、貢献（小テスト、まとめテスト等含む）	70%
学生へのメッセージ	<p>外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。また、授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。e-learning（リンガポルタ）を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。</p>	
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室（授業曜日のみ）	
備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p>	

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業や成績評価等についての説明 自己紹介	
	2	Unit 1. Please to Meet You.	be 動詞 単語・音読・内容理解	テキストの予習
	3	Unit 1. Please to Meet You.	文法問題 TOIEC 形式問題	テキストの復習 次回に向けての予習
	4	Unit 2. Do You Remember?	一般動詞現在 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
	5	Unit 2. Do You Remember?	文法問題 TOIEC 形式問題	テキストの復習 次回に向けての復習
	6	Unit 3. I Spoke to Ms. Hayashi Yesterday.	一般動詞過去 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
	7	Unit 3. I Spoke to Ms. Hayashi Yesterday.	文法問題 TOIEC 形式問題	テキストの復習 中間テストに向けての予習
	8	中間テスト	Unit 1-3	次回に向けての予習
	9	Unit 4. When Does the Meeting Start?	疑問詞 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
	10	Unit 4. When Does the Meeting Start?	文法問題 TOIEC 形式問題	テキストの復習 次回に向けての予習
	11	Unit 5. Can You Meet Me at the Airport?	助動詞 1 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
	12	Unit 5. Can You Meet Me at the Airport?	文法問題 TOIEC 形式問題	テキストの復習 次回に向けての予習
	13	Unit 6. Feel Free to Ask Me Anytime.	文の種類 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
	14	Unit 6. Feel Free to Ask Me Anytime.	文法問題 TOIEC 形式問題	テキストの復習 次回に向けての予習
	15	まとめテスト	Unit1-6	後期全範囲の復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Le's Read Aloud & Learn English More!	角山昭彦	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	70%

学生へのメッセージ	中高で学習した英文法を復習しながら、オフィスで使う英語に慣れていきましょう。また TOEIC 形式の問題にも挑戦してみましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
----------	-------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	---

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松木園 久子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス Chapter 1 5 つの基本文型	授業の進め方、成績の基準、受講にあたっての心構えを説明する。また、教科書の構成を紹介し、予習・復習の内容を指示する。	Chapter 1 の復習。指定された部分の Vocabulary (基本語彙) を覚える。
2	Chapter 2 動詞 (1 回目)	文法解説を行った後、EXERCISES (文法問題)、Rearranging (並び替え)、Basic composition (基礎和文英訳) の問題を解く。	指定された部分の Useful Expressions (有用表現) を暗記する。
3	Chapter 2 動詞 (2 回目)	Dialogue (対話文解釈)、Reading Comprehension (長文読解) の問題を解く。	Chapter 2 の復習。指定された部分の Vocabulary (基本語彙) を覚える。
4	Chapter 3 進行形・未来形・助動詞 (1 回目)	Chapter 2 の小テスト。 文法解説を行った後、EXERCISES (文法問題)、Rearranging (並び替え)、Basic composition (基礎和文英訳) の問題を解く。	指定された部分の Useful Expressions (有用表現) を暗記する。
5	Chapter 3 進行形・未来形・助動詞 (2 回目)	Dialogue (対話文解釈)、Reading Comprehension (長文読解) の問題を解く。	Chapter 3 の復習。指定された部分の Vocabulary (基本語彙) を覚える。
6	Chapter 4 名詞・冠詞・代名詞 (1 回目)	Chapter 3 の小テスト。 文法解説を行った後、EXERCISES (文法問題)、Rearranging (並び替え)、Basic composition (基礎和文英訳) の問題を解く。	指定された部分の Useful Expressions (有用表現) を暗記する。
7	Chapter 4 名詞・冠詞・代名詞 (2 回目)	Dialogue (対話文解釈)、Reading Comprehension (長文読解) の問題を解く。	Chapter 1~4 の復習。
8	まとめのテストおよび短いリーディング	Chapter 1~4 の内容についてまとめのテストを行う。その後短い読み物 (教員からプリントを配布) を用いて、リーディングの練習を行う。	指定された部分の Vocabulary (基本語彙) を覚える。
9	Chapter 5 前置詞・接続詞 (1 回目)	文法解説を行った後、EXERCISES (文法問題)、Rearranging (並び替え)、Basic composition (基礎和文英訳) の問題を解く。	指定された部分の Useful Expressions (有用表現) を暗記する。
10	Chapter 5 前置詞・接続詞 (2 回目)	Dialogue (対話文解釈)、Reading Comprehension (長文読解) の問題を解く。	Chapter 5 の復習。指定された部分の Vocabulary (基本語彙) を覚える。
11	Chapter 6 形容詞・副詞と比較級 (1 回目)	Chapter 5 の小テスト。 文法解説を行った後、EXERCISES (文法問題)、Rearranging (並び替え)、Basic composition (基礎和文英訳) の問題を解く。	指定された部分の Useful Expressions (有用表現) を暗記する。
12	Chapter 6 形容詞・副詞と比較級 (2 回目)	Dialogue (対話文解釈)、Reading Comprehension (長文読解) の問題を解く。	Chapter 6 の復習。指定された部分の Vocabulary (基本語彙) を覚える。
13	Chapter 7 命令文・感嘆文 (1 回目)	Chapter 6 の小テスト。 文法解説を行った後、EXERCISES (文法問題)、Rearranging (並び替え)、Basic composition (基礎和文英訳) の問題を解く。	指定された部分の Useful Expressions (有用表現) を暗記する。
14	Chapter 7 命令文・感嘆文 (2 回目)	Dialogue (対話文解釈)、Reading Comprehension (長文読解) の問題を解く。	Chapter 5~7 の復習。
15	まとめのテストおよび短いリーディング	Chapter 5~7 の内容についてまとめのテストを行う。その後短い読み物 (教員からプリントを配布) を用いて、リーディングの練習を行う。	前期で学んだ事項を復習。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Slow & Steady 大学生の総合基礎英語	佐藤哲三ほか	南雲堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A			20%
	全学共通英語課題 B			10%
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)			70%
学生への メッセージ	この授業では、教科書のタイトル通り、「ゆっくりと着実に」、基礎力の修得を目指します。それは、日常会話・新聞・雑誌・論文・文学などすべての英語に必要な不可欠なものです。受け身ではなく、各自が積極的に取り組んでくれることを期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	受講にあたってのオリエンテーション 英語学習のための基礎項目	受講に関する諸連絡 (授業の進め方、共通英語必修課題の進め方などについて) 品詞の知識・辞書の使い方について	授業内容の予習・復習
2	Small Talk (1) (日常生活)	聴き取り、発音	授業内容の予習・復習
3	Small Talk (2) (日常生活)	文法、読解、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 80 個
4	Human Relations (1) (人間関係・コミュニケーション)	聴き取り、発音	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 80 個
5	Human Relations (2) (人間関係・コミュニケーション)	文法、読解、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 80 個
6	Culture and Globalization (1) (言葉・文化)	聴き取り、発音	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 80 個
7	Culture and Globalization (2) (言葉・文化)	文法、読解、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 80 個
8	Healthy Life (1) (健康・医療)	聴き取り、発音	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 80 個
9	Healthy Life (2) (健康・医療)	文法、読解、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 80 個
10	Future Careers (1) (職業・キャリア)	聴き取り、発音	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 80 個
11	Future Careers (2) (職業・キャリア)	文法、読解、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 80 個
12	That Shirt Suits You! (1) (ファッション)	聴き取り、発音	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 80 個
13	That Shirt Suits You! (2) (ファッション)	文法、読解、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 80 個
14	Taking a Trip (1) (旅行・観光)	聴き取り、発音	授業内容の予習・復習指定のリングポルタ課題 80 個
15	Taking a Trip (2) (旅行・観光)	文法、読解、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 80 個

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	TARGET! pre-intermediate (総合英語のターゲット演習【準中級】)	森田彰, 飯尾牧子, 橋本健広 他	金星堂
2	1500 Core Vocabulary【単語集】 -- The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
-----------	--	-------------------

学生へのメッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。また、授業外の場でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。e-learning (リングポルタ) を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室 (授業曜日のみ)
----------	--------------------------

備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	受講にあたってのオリエンテーション	受講に関する諸連絡 (授業の進め方、共通英語必修課題の進め方などについて); 英語学習のための基礎項目確認 (品詞の知識など)	授業内容の復習
2	Unit 1: My Hometown (be 動詞)	単語テスト be 動詞を基礎とした文法の確認、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング	・授業内容の復習 ・次回の単語テストに備え、テキストの Vocabulary 記載の単語暗記
3	Unit 2: Hobbies (一般動詞)	単語テスト 一般動詞を基礎とした文法の確認、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング	・授業内容の復習 ・指定のリンガボルト課題 80 個 ・次回の単語テストに備え、テキストの Vocabulary 記載の単語暗記
4	Unit 3: Shopping (名詞・代名詞)	単語テスト 名詞・代名詞を基礎とした文法の確認、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング	・授業内容の復習 ・指定のリンガボルト課題 80 個 ・次回の単語テストに備え、テキストの Vocabulary 記載の単語暗記
5	Unit 4: Nature Quiz (Wh 疑問文)	単語テスト Wh 疑問文を基礎とした文法の確認、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング	・授業内容の復習 ・指定のリンガボルト課題 80 個 ・次回の単語テストに備え、テキストの Vocabulary 記載の単語暗記
6	Unit 5: Dream House (前置詞)	単語テスト 前置詞を基礎とした文法の確認、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング	・授業内容の復習 ・指定のリンガボルト課題 80 個 ・次回の単語テストに備え、テキストの Vocabulary 記載の単語暗記
7	Unit 6: Food (接続詞)	単語テスト 接続詞を基礎とした文法の確認、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング	・授業内容の復習 ・指定のリンガボルト課題 80 個 ・次回の単語テストに備え、テキストの Vocabulary 記載の単語暗記
8	中間試験	単語テスト これまでの学習範囲の試験	・授業内容の復習 ・指定のリンガボルト課題 80 個
9	Unit 7: First Date (過去形)	単語テスト 過去形を基礎とした文法の確認、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング	・授業内容の復習 ・指定のリンガボルト課題 80 個 ・次回の単語テストに備え、テキストの Vocabulary 記載の単語暗記
10	Unit 8: Detective Story (進行形)	単語テスト 進行形を基礎とした文法の確認、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング	・授業内容の復習 ・指定のリンガボルト課題 80 個 ・次回の単語テストに備え、テキストの Vocabulary 記載の単語暗記
11	Unit 9: Career (現在完了形)	単語テスト 現在完了形を基礎とした文法の確認、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング	・授業内容の復習 ・指定のリンガボルト課題 80 個 ・次回の単語テストに備え、テキストの Vocabulary 記載の単語暗記
12	Unit 10: Parties (未来表現)	単語テスト 未来表現を基礎とした文法の確認、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング	・授業内容の復習 ・指定のリンガボルト課題 80 個 ・次回の単語テストに備え、テキストの Vocabulary 記載の単語暗記
13	Unit 11: Rules and Regulations (助動詞)	単語テスト 助動詞を基礎とした文法の確認、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング	・授業内容の復習 ・次回の単語テストに備え、テキストの Vocabulary 記載の単語暗記
14	Unit 12: Invention & Discovery (受動態)	単語テスト 受動態を基礎とした文法の確認、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング	・授業内容の復習 ・次回の単語テストに備え、テキストの Vocabulary 記載の単語暗記
15	Unit 13: Movie Reviews (形容詞・副詞)	単語テスト 形容詞・副詞を基礎とした文法の確認、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング	・これまでの授業内容の復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Ace	Atsuko Yamamoto, Naoko Osuka, Chikako Mano, Kyoko Okamoto, Benedict Rowlett	成美堂
	2	1500 Core Vocabulary 【単語集】 -The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 70%			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。 ・辞書か電子辞書を必ず持参すること (携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない)。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。 ①私語など授業を妨害するような行為や許可のない途中退席、テキスト忘れは、欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 <ul style="list-style-type: none"> ・英語ができるようになると、必ず自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。 ・TOEIC などの試験を積極的に受けましょう。また、ランゲージパートナーを作ることもおすすめです。 			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	15
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、プリント教材を使った学習	テキストの予習と単語の学習
	2	Welcome to Japan	動詞の現在形	テキストの予習と単語の学習
	3	That Sounds Like Fun (1)	代名詞 (1)	テキストの予習と単語の学習
	4	That Sounds Like Fun (2)	代名詞 (2)	テキストの予習と単語の学習
	5	We Leave on Friday Morning	時を表す前置詞	テキストの予習と単語の学習
	6	You Know a Lot about Trains (1)	基本 5 文型 (1)	テキストの予習と単語の学習
	7	You Know a Lot about Trains (2)	基本 5 文型 (2)	テキストの予習と単語の学習
	8	I Didn't Want to Leave (1)	動詞の過去形 (1)	テキストの予習と単語の学習
	9	I Didn't Want to Leave (2)	動詞の過去形 (2)	テキストの予習と単語の学習
	10	You're Working Late (1)	進行形 (1)	テキストの予習と単語の学習
	11	You're Working Late (2)	進行形 (2)	テキストの予習と単語の学習
	12	I'm Sure He'll Understand	未来形	テキストの予習と単語の学習
	13	I'll Remember That (1)	助動詞 (1)	テキストの予習と単語の学習
	14	I'll Remember That (2)	助動詞 (2)	テキストの予習と単語の学習
	15	まとめテスト・復習	これまでの内容の復習とまとめのテスト	これまでの内容の復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English First - Basic	Robert Hickling 他	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	70%

学生へのメッセージ
辞書を持参して必ず毎回出席すること、指定された個所を予習しておくことを心掛けてください。

担当者の研究室等
7 号館 2 階 (非常勤講師室)

備考
事前・事後学習には 1 時間以上かけること。
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	岩永 道子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

基礎科目

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Unit 7 前半</td> <td>テキスト Unit 7 前半</td> <td>Unit 7 Warm-up & Vocabulary Build-up</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 7 後半</td> <td>リーディング と 文法説明 Unit 7 の単語小テスト</td> <td>Unit 7 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 8 前半</td> <td>リスニング</td> <td>Unit 8 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 8 後半</td> <td>リーディングと文法説明 Unit 8 の単語小テスト</td> <td>Unit 8 の Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>(前回は) 別途配布したプリントによる、リーディング (1)</td> <td>自然科学の内容の英文のパッセージを読む。</td> <td>プリントは 1 週前に配布するので、その本文を予習として読んでおくこと。 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 9 前半</td> <td>リスニング</td> <td>Unit 9 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 9 後半</td> <td>リーディングと文法説明 Unit 10 の単語小テスト</td> <td>Unit 10 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 11 前半</td> <td>リスニング</td> <td>Unit 11 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 11 後半</td> <td>リーディングと文法説明 Unit 11 の単語小テスト</td> <td>Unit 11 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>(前回は) 配布した) プリント教材による、リーディング (2)</td> <td>自然科学の内容の英文パッセージを読む。</td> <td>自然科学の内容の英文パッセージを読む。 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 12 前半</td> <td>リスニング</td> <td>Unit 12 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 12 後半</td> <td>リーディングと文法説明 Unit 12 の単語の小テスト</td> <td>Unit 12 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 12 前半</td> <td>リスニング</td> <td>Unit 12 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 12 後半</td> <td>リーディングと文法説明 Unit 12 の単語小テスト</td> <td>Unit 12 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>後期の総括と確認テスト</td> <td>後期末まとめテストと解説</td> <td>後期学習事項</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Unit 7 前半	テキスト Unit 7 前半	Unit 7 Warm-up & Vocabulary Build-up	2	Unit 7 後半	リーディング と 文法説明 Unit 7 の単語小テスト	Unit 7 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語	3	Unit 8 前半	リスニング	Unit 8 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語	4	Unit 8 後半	リーディングと文法説明 Unit 8 の単語小テスト	Unit 8 の Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語	5	(前回は) 別途配布したプリントによる、リーディング (1)	自然科学の内容の英文のパッセージを読む。	プリントは 1 週前に配布するので、その本文を予習として読んでおくこと。 単語集の指定された単語	6	Unit 9 前半	リスニング	Unit 9 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語	7	Unit 9 後半	リーディングと文法説明 Unit 10 の単語小テスト	Unit 10 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語	8	Unit 11 前半	リスニング	Unit 11 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語	9	Unit 11 後半	リーディングと文法説明 Unit 11 の単語小テスト	Unit 11 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語	10	(前回は) 配布した) プリント教材による、リーディング (2)	自然科学の内容の英文パッセージを読む。	自然科学の内容の英文パッセージを読む。 単語集の指定された単語	11	Unit 12 前半	リスニング	Unit 12 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語	12	Unit 12 後半	リーディングと文法説明 Unit 12 の単語の小テスト	Unit 12 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語	13	Unit 12 前半	リスニング	Unit 12 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語	14	Unit 12 後半	リーディングと文法説明 Unit 12 の単語小テスト	Unit 12 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語	15	後期の総括と確認テスト	後期末まとめテストと解説	後期学習事項
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Unit 7 前半	テキスト Unit 7 前半	Unit 7 Warm-up & Vocabulary Build-up																																																																
2	Unit 7 後半	リーディング と 文法説明 Unit 7 の単語小テスト	Unit 7 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語																																																																
3	Unit 8 前半	リスニング	Unit 8 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語																																																																
4	Unit 8 後半	リーディングと文法説明 Unit 8 の単語小テスト	Unit 8 の Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語																																																																
5	(前回は) 別途配布したプリントによる、リーディング (1)	自然科学の内容の英文のパッセージを読む。	プリントは 1 週前に配布するので、その本文を予習として読んでおくこと。 単語集の指定された単語																																																																
6	Unit 9 前半	リスニング	Unit 9 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語																																																																
7	Unit 9 後半	リーディングと文法説明 Unit 10 の単語小テスト	Unit 10 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語																																																																
8	Unit 11 前半	リスニング	Unit 11 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語																																																																
9	Unit 11 後半	リーディングと文法説明 Unit 11 の単語小テスト	Unit 11 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語																																																																
10	(前回は) 配布した) プリント教材による、リーディング (2)	自然科学の内容の英文パッセージを読む。	自然科学の内容の英文パッセージを読む。 単語集の指定された単語																																																																
11	Unit 12 前半	リスニング	Unit 12 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語																																																																
12	Unit 12 後半	リーディングと文法説明 Unit 12 の単語の小テスト	Unit 12 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語																																																																
13	Unit 12 前半	リスニング	Unit 12 Warm-up & Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語																																																																
14	Unit 12 後半	リーディングと文法説明 Unit 12 の単語小テスト	Unit 12 Vocabulary Build-up 単語集の指定された単語																																																																
15	後期の総括と確認テスト	後期末まとめテストと解説	後期学習事項																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Welcome to the TOEIC Test</td> <td>Yoshio Kitahara</td> <td>朝日出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Welcome to the TOEIC Test	Yoshio Kitahara	朝日出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Welcome to the TOEIC Test	Yoshio Kitahara	朝日出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<table border="1"> <tr> <td>全学共通英語課題 A</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>全学共通英語課題 B</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)</td> <td>70%</td> </tr> </table>			全学共通英語課題 A	20%	全学共通英語課題 B	10%	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	70%																																																										
全学共通英語課題 A	20%																																																																		
全学共通英語課題 B	10%																																																																		
授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	70%																																																																		
学生へのメッセージ	単語集の単語は毎回、テキストのユニットが 1 つ終わるごとにウォームアップの単語の小テストを行う。語彙力のアップは TOEIC の得点アップにつながる。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室																																																																		
備考	積極的に授業に参加して下さい。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																																																																		

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	飯井 恵美子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>概要説明</td><td>—————</td><td>—————</td></tr> <tr><td>2</td><td>Lesson 1 4</td><td>分詞</td><td>演習 1 4</td></tr> <tr><td>3</td><td>Lesson 1 5</td><td>分詞</td><td>演習 1 5</td></tr> <tr><td>4</td><td>Lesson 1 6</td><td>動名詞</td><td>演習 1 6</td></tr> <tr><td>5</td><td>Lesson 1 7</td><td>動名詞</td><td>演習 1 7</td></tr> <tr><td>6</td><td>Lesson 1 8</td><td>形容詞</td><td>演習 1 8</td></tr> <tr><td>7</td><td>Lesson 1 9</td><td>比較</td><td>演習 1 9</td></tr> <tr><td>8</td><td>Lesson 2 0</td><td>比較</td><td>演習 2 0</td></tr> <tr><td>9</td><td>Lesson 2 1</td><td>関係詞</td><td>演習 2 1</td></tr> <tr><td>10</td><td>Lesson 2 2</td><td>関係詞</td><td>演習 2 2</td></tr> <tr><td>11</td><td>Lesson 2 3</td><td>仮定法</td><td>演習 2 3</td></tr> <tr><td>12</td><td>Lesson 2 4</td><td>仮定法</td><td>演習 2 4</td></tr> <tr><td>13</td><td>Lesson 1 4 - 2 4</td><td>Grammar Point の復習</td><td>授業の復習</td></tr> <tr><td>14</td><td>総合復習</td><td>総合復習</td><td>—————</td></tr> <tr><td>15</td><td>プリント教材</td><td>TOEIC 演習</td><td>—————</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	概要説明	—————	—————	2	Lesson 1 4	分詞	演習 1 4	3	Lesson 1 5	分詞	演習 1 5	4	Lesson 1 6	動名詞	演習 1 6	5	Lesson 1 7	動名詞	演習 1 7	6	Lesson 1 8	形容詞	演習 1 8	7	Lesson 1 9	比較	演習 1 9	8	Lesson 2 0	比較	演習 2 0	9	Lesson 2 1	関係詞	演習 2 1	10	Lesson 2 2	関係詞	演習 2 2	11	Lesson 2 3	仮定法	演習 2 3	12	Lesson 2 4	仮定法	演習 2 4	13	Lesson 1 4 - 2 4	Grammar Point の復習	授業の復習	14	総合復習	総合復習	—————	15	プリント教材	TOEIC 演習	—————
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	概要説明	—————	—————																																																																
2	Lesson 1 4	分詞	演習 1 4																																																																
3	Lesson 1 5	分詞	演習 1 5																																																																
4	Lesson 1 6	動名詞	演習 1 6																																																																
5	Lesson 1 7	動名詞	演習 1 7																																																																
6	Lesson 1 8	形容詞	演習 1 8																																																																
7	Lesson 1 9	比較	演習 1 9																																																																
8	Lesson 2 0	比較	演習 2 0																																																																
9	Lesson 2 1	関係詞	演習 2 1																																																																
10	Lesson 2 2	関係詞	演習 2 2																																																																
11	Lesson 2 3	仮定法	演習 2 3																																																																
12	Lesson 2 4	仮定法	演習 2 4																																																																
13	Lesson 1 4 - 2 4	Grammar Point の復習	授業の復習																																																																
14	総合復習	総合復習	—————																																																																
15	プリント教材	TOEIC 演習	—————																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Mastering Basic English Grammar</td><td>Nagaki Kitayama</td><td>SEIBIDO</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Mastering Basic English Grammar	Nagaki Kitayama	SEIBIDO	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Mastering Basic English Grammar	Nagaki Kitayama	SEIBIDO																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%																																																																	
学生へのメッセージ	多くの英文を読みたいと思います。 予習・復習は大変だと思いますが、頑張ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	予習、復習は毎回 1 時間 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																																																																		

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	受講にあたってのオリエンテーション The Difference between Fact and Opinion (1)	受講に関する諸連絡 (授業の進め方、共通英語必修課題の進め方などについて) 聴き取り、読解	授業内容の予習・復習
	2	The Difference between Fact and Opinion (2) (事実と意見の違い)	読解、文法、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 60 個
	3	The Pitfalls of the English Language (1) (英語の落とし穴)	聴き取り、読解	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 60 個
	4	The Pitfalls of the English Language (2) (英語の落とし穴)	読解、文法、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 60 個
	5	What is Your Blood Type? (1) (あなたの血液型は?)	聴き取り、読解	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 60 個
	6	What is Your Blood Type? (2) (あなたの血液型は?)	読解、文法、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 60 個
	7	Gender Bias (1) (ジェンダーの偏見)	聴き取り、読解	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 60 個
	8	Gender Bias (2) (ジェンダーの偏見)	読解、文法、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 60 個
	9	Skepticism (1) (懐疑主義)	聴き取り、読解	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 60 個
	10	Skepticism (2) (懐疑主義)	読解、文法、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 60 個
	11	Life after Trauma: PTSD and PTG (1) (トラウマを乗り越えて)	聴き取り、読解	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 60 個
	12	Life after Trauma: PTSD and PTG (2) (トラウマを乗り越えて)	読解、文法、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 60 個
	13	How to Make a Persuasive Presentation (1) (説得力のあるプレゼンとは)	聴き取り、読解	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 60 個
	14	How to Make a Persuasive Presentation (2) (説得力のあるプレゼンとは)	読解、文法、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングボルト課題 60 個
	15	Facing Ambiguity (曖昧さと向かい合う)	聞き取り、読解、作文	授業内容の復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	An Invitation to Critical Thinking (クリティカル・シンキングのすすめ)	高垣俊之, 河原俊昭, 斎藤早苗 他	南雲堂
	2	1500 Core Vocabulary 【単語集】 -- The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
-----------	--	-------------------

学生への 外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなってください。また、授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知

メッセージ	<p>識習得に励んで下さい。e-learning（リンガボルト）を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。</p> <p>間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。</p>
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室（授業曜日のみ）
備考	<p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。</p> <p>「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p>

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中野 華子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業や成績評価等についての説明	
	2	Unit 7. I'm Thinking about Quitting My Job.	進行形 単語・音読・内容理解	テキストの予習
	3	Unit 7. I'm Thinking about Quitting My Job.	文法問題 TOIEC 形式問題	テキストの復習 次回に向けての予習
	4	Unit 8. I'll Call Give Her Your Message.	未来形 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
	5	Unit 8. I'll Call Give Her Your Message.	文法問題 TOIEC 形式問題	テキストの復習 次回に向けての復習
	6	Unit 9. I haven't Received the latest figures.	現在完了形 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
	7	Unit 9. I haven't Received the latest figures.	文法問題 TOIEC 形式問題	テキストの復習 中間テストに向けての予習
	8	中間テスト	Unit 7-9	次回に向けての予習
	9	Unit 10. The Cafeteria Is Closed today.	受動態 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
	10	Unit 10. The Cafeteria Is Closed today.	文法問題 TOIEC 形式問題	テキストの復習 次回に向けての予習
	11	Unit 11. We Expect Higher Sales in China.	比較 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
	12	Unit 11. We Expect Higher Sales in China.	文法問題 TOIEC 形式問題	テキストの復習 次回に向けての予習
	13	Unit 12. I's Like to Check in.	助動詞 2 単語・音読・内容理解	テキストの復習 次回に向けての予習
	14	.Unit 12. I's Like to Check in.	文法問題 TOIEC 形式問題	テキストの復習 次回に向けての予習
		15	まとめテスト	Unit 7-12

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>Le's Read Aloud & Learn English More!</td> <td>角山昭彦</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Le's Read Aloud & Learn English More!	角山昭彦	成美堂	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Le's Read Aloud & Learn English More!	角山昭彦	成美堂													
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 70%
学生へのメッセージ	中高で学習した英文法を復習しながら、オフィスで使う英語に慣れていきましょう。また TOEIC 形式の問題にも挑戦してみましょう。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松木園 久子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)されれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	前期の復習および作文	前期に学んだ Useful Expressions などを参考に、グループ単位で自らの体験を英語で語り合い、作文する。	指定された部分の Vocabulary (基本語彙) を覚える。
2	Chapter 8 不定詞 (1 回目)	文法解説を行った後、EXERCISES (文法問題)、Rearranging (並び替え)、Basic composition (基礎和文英訳) の問題を解く。	指定された部分の Useful Expressions (有用表現) を暗記する。
3	Chapter 8 不定詞 (2 回目)	Dialogue (対話文解釈)、Reading Comprehension (長文読解) の問題を解く。	Chapter 8 の復習。指定された部分の Vocabulary (基本語彙) を覚える。
4	Chapter 9 動名詞と分詞 (1 回目)	Chapter 8 の小テスト。 文法解説を行った後、EXERCISES (文法問題)、Rearranging (並び替え)、Basic composition (基礎和文英訳) の問題を解く。	指定された部分の Useful Expressions (有用表現) を暗記する。
5	Chapter 9 動名詞と分詞 (2 回目)	Dialogue (対話文解釈)、Reading Comprehension (長文読解) の問題を解く。	Chapter 9 の復習。指定された部分の Vocabulary (基本語彙) を覚える。
6	Chapter 10 各種疑問文・I t の特別用法 (1 回目)	Chapter 9 の小テスト。 文法解説を行った後、EXERCISES (文法問題)、Rearranging (並び替え)、Basic composition (基礎和文英訳) の問題を解く。	指定された部分の Useful Expressions (有用表現) を暗記する。
7	Chapter 10 各種疑問文・I t の特別用法 (2 回目)	Dialogue (対話文解釈)、Reading Comprehension (長文読解) の問題を解く。	Chapter 8~10 の復習。
8	まとめのテストおよび短いリーディング	Chapter 8~10 の内容についてまとめのテストを行う。その後短い読み物(教員からプリントを配布)を用いて、リーディングの練習を行う。	指定された部分の Vocabulary (基本語彙) を覚える。
9	Chapter 11 受動態 (1 回目)	文法解説を行った後、EXERCISES (文法問題)、Rearranging (並び替え)、Basic composition (基礎和文英訳) の問題を解く。	指定された部分の Useful Expressions (有用表現) を暗記する。
10	Chapter 11 受動態 (2 回目)	Dialogue (対話文解釈)、Reading Comprehension (長文読解) の問題を解く。	Chapter 11 の復習。指定された部分の Vocabulary (基本語彙) を覚える。
11	Chapter 12 完了形 (1 回目)	Chapter 11 の小テスト。 文法解説を行った後、EXERCISES (文法問題)、Rearranging (並び替え)、Basic composition (基礎和文英訳) の問題を解く。	指定された部分の Useful Expressions (有用表現) を暗記する。
12	Chapter 12 完了形 (2 回目)	Dialogue (対話文解釈)、Reading Comprehension (長文読解) の問題を解く。	Chapter 12 の復習。指定された部分の Vocabulary (基本語彙) を覚える。
13	Chapter 13 接続詞 (II) (1 回目)	Chapter 12 の小テスト。 文法解説を行った後、EXERCISES (文法問題)、Rearranging (並び替え)、Basic composition (基礎和文英訳) の問題を解く。	指定された部分の Useful Expressions (有用表現) を暗記する。
14	Chapter 13 接続詞 (II) (2 回目)	Dialogue (対話文解釈)、Reading Comprehension (長文読解) の問題を解く。	Chapter 11~13 の復習。
15	まとめのテストおよび短いリーディング	Chapter 11~13 の内容についてまとめのテストを行う。その後短い読み物(教員からプリントを配布)を用いて、リーディングの練習を行う。	前期で学んだ事項を復習。

関連科目	
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Slow & Steady 大学生の総合基礎英語</td> <td>佐藤哲三ほか</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Slow & Steady 大学生の総合基礎英語	佐藤哲三ほか	南雲堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Slow & Steady 大学生の総合基礎英語	佐藤哲三ほか	南雲堂														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<table> <tbody> <tr> <td>全学共通英語課題 A</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>全学共通英語課題 B</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)</td> <td>70%</td> </tr> </tbody> </table>	全学共通英語課題 A	20%	全学共通英語課題 B	10%	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	70%										
全学共通英語課題 A	20%																
全学共通英語課題 B	10%																
授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	70%																
学生への メッセージ	この授業では、教科書のタイトル通り、「ゆっくりと着実に」、基礎力の修得を目指します。それは、日常会話・新聞・雑誌・論文・文学などすべての英語に必要不可欠なものです。受け身ではなく、各自が積極的に取り組んでくれることを期待しています。																
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	受講にあたってのオリエンテーション Do You Like Sports? (1) (スポーツ)	受講に関する諸連絡 (授業の進め方、共通英語必修課題の進め方などについて) 聴き取り、発音	授業内容の予習・復習
2	Do You Like Sports? (2) (スポーツ)	文法、読解、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 60 個
3	Let's Do Something Fun! (1) (レジャー・エンタメ)	聴き取り、発音	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 60 個
4	Let's Do Something Fun! (2) (レジャー・エンタメ)	文法、読解、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 60 個
5	Art Appreciation (1) (アート)	聴き取り、発音	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 60 個
6	Art Appreciation (2) (アート)	文法、読解、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 60 個
7	Let's Eat Out! (1) (食)	聴き取り、発音	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 60 個
8	Let's Eat Out! (2) (食)	文法、読解、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 60 個
9	A Career in International Business (1) (ビジネス)	聴き取り、発音	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 60 個
10	A Career in International Business (2) (ビジネス)	文法、読解、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 60 個
11	Science for the Future (1) (サイエンス)	聴き取り、発音	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 60 個
12	Science for the Future (2) (サイエンス)	文法、読解、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 60 個
13	Technology and Modern Life (1) (産業・テクノロジー)	聴き取り、発音	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 60 個
14	Technology and Modern Life (2) (産業・テクノロジー)	文法、読解、作文	授業内容の予習・復習 指定のリングポルタ課題 60 個
15	Saving the Environment (環境)	聞き取り、発音、読解	授業内容の予習・復習

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>TARGET! pre-intermediate (総合英語のターゲット演習【準中級】)</td> <td>森田彰, 飯尾牧子, 橋本健広 他</td> <td>金星堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1500 Core Vocabulary【単語集】 -- The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	TARGET! pre-intermediate (総合英語のターゲット演習【準中級】)	森田彰, 飯尾牧子, 橋本健広 他	金星堂	2	1500 Core Vocabulary【単語集】 -- The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	TARGET! pre-intermediate (総合英語のターゲット演習【準中級】)	森田彰, 飯尾牧子, 橋本健広 他	金星堂														
2	1500 Core Vocabulary【単語集】 -- The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂														
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 70%
学生へのメッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりおこなってください。また、授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。e-learning (リングポルタ) を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室 (授業曜日のみ)
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	受講にあたってのオリエンテーション	受講に関する諸連絡 (授業の進め方、共通英語必修課題の進め方などについて)	・授業内容の復習 ・指定のリンガポルタ課題 60 個
2	Unit 1: Mansion (be 動詞)	単語テスト be 動詞を用いた英文を通じて、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングを行う	・授業内容の復習 ・指定のリンガポルタ課題 60 個 ・次回の単語テストに備え、テキストの Words & Phrases 記載の単語暗記
3	Unit 2: Repeater (動詞① (現在))	単語テスト 現在形を用いた英文を通じて、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングを行う	・授業内容の復習 ・指定のリンガポルタ課題 60 個 ・次回の単語テストに備え、テキストの Words & Phrases 記載の単語暗記
4	Unit 3: Talent (動詞② (過去、未来))	単語テスト 過去、未来形を用いた英文を通じて、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングを行う	・授業内容の復習 ・指定のリンガポルタ課題 60 個 ・次回の単語テストに備え、テキストの Words & Phrases 記載の単語暗記
5	Unit 4: Service (助動詞)	単語テスト 助動詞を用いた英文を通じて、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングを行う	・授業内容の復習 ・指定のリンガポルタ課題 60 個 ・次回の単語テストに備え、テキストの Words & Phrases 記載の単語暗記
6	Unit 5: OL & Businessman (進行形)	単語テスト 進行形を用いた英文を通じて、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングを行う	・授業内容の復習 ・指定のリンガポルタ課題 60 個 ・次回の単語テストに備え、テキストの Words & Phrases 記載の単語暗記
7	Unit 6: Challenge (受動態)	単語テスト 受動態を用いた英文を通じて、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングを行う	・中間試験に備え、これまでの学習内容の復習 ・指定のリンガポルタ課題 60 個 ・次回の単語テストに備え、テキストの Words & Phrases 記載の単語暗記
8	中間試験	これまでの学習内容について試験	・授業内容の復習 ・指定のリンガポルタ課題 60 個 ・次回の単語テストに備え、テキストの Words & Phrases 記載の単語暗記
9	Unit 7: Claim (現在完了形)	単語テスト 現在完了形を用いた英文を通じて、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングを行う	・授業内容の復習 ・指定のリンガポルタ課題 60 個 ・次回の単語テストに備え、テキストの Words & Phrases 記載の単語暗記
10	Unit 8: Manner Up (不定詞)	単語テスト 不定詞を用いた英文を通じて、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングを行う	・授業内容の復習 ・指定のリンガポルタ課題 60 個 ・次回の単語テストに備え、テキストの Words & Phrases 記載の単語暗記
11	Unit 9: I Cut My Hair. (比較①)	単語テスト 比較級を用いた英文を通じて、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングを行う	・授業内容の復習 ・指定のリンガポルタ課題 60 個 ・次回の単語テストに備え、テキストの Words & Phrases 記載の単語暗記
12	Unit 10: Hearing & Listening (比較②)	単語テスト 比較級を用いた英文を通じて、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングを行う	・授業内容の復習 ・指定のリンガポルタ課題 60 個 ・次回の単語テストに備え、テキストの Words & Phrases 記載の単語暗記
13	Unit 11: Rent & Borrow (関係代名詞)	単語テスト 関係代名詞を用いた英文を通じて、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングを行う	・授業内容の復習 ・次回の単語テストに備え、テキストの Words & Phrases 記載の単語暗記
14	Unit 12: Tri, Tour, Travel (形容詞と副詞)	単語テスト 形容詞と副詞を用いた英文を通じて、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングを行う	・授業内容の復習 ・次回の単語テストに備え、テキストの Words & Phrases 記載の単語暗記
15	Unit 13: Customer, Guest, Client (分詞と動名詞) まとめ	単語テスト 分詞と動名詞を用いた英文を通じて、リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングを行う 授業全体のまとめ	・期末試験に向けて、これまでの授業内容の復習

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Say It Right in English	Mark Tompson, Toshihiro Tanioka	英宝社
	2	1500 Core Vocabulary 【単語集】 -The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 70%			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。 ・辞書か電子辞書を必ず持参すること (携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない)。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。 ①私語など授業を妨害するような行為や許可のない途中退席、テキスト忘れは、欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 <ul style="list-style-type: none"> ・英語ができるようになると、必ず自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。 ・TOEICなどの試験を積極的に受けましょう。また、ランゲージパートナーを作ることもおすすめです。 			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	15
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	前期の復習/プリント教材	前期内容のポイントのチェックとプリントを使った課題	テキストの予習と単語の学習
	2	Hiro Forgot (1)	to 不定詞(1)	テキストの予習と単語の学習
	3	Hiro Forgot (2)	to 不定詞(2)	テキストの予習と単語の学習
	4	How Have You Been (1)	現在完了(1)	テキストの予習と単語の学習
	5	How Have You Been (2)	現在完了(2)	テキストの予習と単語の学習
	6	While They're Here (1)	接続詞(1)	テキストの予習と単語の学習
	7	While They're Here (2)	接続詞(2)	テキストの予習と単語の学習
	8	How Was Tennis? (1)	比較(1)	テキストの予習と単語の学習
	9	How Was Tennis? (2)	比較(2)	テキストの予習と単語の学習
	10	What Do You Mean?	受動態	テキストの予習と単語の学習
	11	Well, What Are You Waiting For? (1)	分詞(現在分詞・過去分詞)(1)	テキストの予習と単語の学習
	12	Well, What Are You Waiting For? (2)	分詞(現在分詞・過去分詞)(2)	テキストの予習と単語の学習
	13	The Last Supper (1)	関係詞(関係代名詞・関係副詞)(1)	テキストの予習と単語の学習
	14	The Last Supper (2)	関係詞(関係代名詞・関係副詞)(2)	テキストの予習と単語の学習
	15	まとめテスト、復習	これまでの内容の復習、まとめのテスト	これまでの内容の復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English First - Basic	Robert Hickling 他	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	70%

学生へのメッセージ
辞書を持参して必ず毎回出席すること、指定された個所を予習しておくことを心掛けてください。

担当者の研究室等
7 号館 2 階 (非常勤講師室)

備考
事前・事後学習には 1 時間以上かけること。
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷脇 康子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。																																																																		
到達目標	<p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。</p>																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の進め方の説明、初回クイズ</td> <td>授業の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>肯定文と否定文</td> <td>プリント演習 発表と解説</td> <td>授業の予習復習 課題準備</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>平叙文と疑問文</td> <td>プリント演習 発表と解説</td> <td>授業の予習復習 課題準備</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>特殊疑問文</td> <td>プリント演習 発表と解説</td> <td>授業の予習復習 課題準備</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>命令文と感嘆文</td> <td>プリント演習 発表と解説</td> <td>授業の予習復習 課題準備</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>名詞の用法(1)</td> <td>プリント演習 発表と解説</td> <td>授業の予習復習 課題準備</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>名詞の用法(2)</td> <td>プリント演習 発表と解説</td> <td>授業の予習復習 課題準備</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>1～7回目の授業の復習 中間テスト</td> <td>1～7回目の授業の復習 テスト実施</td> <td>中間テストの準備</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>冠詞の用法</td> <td>プリント演習 発表と解説</td> <td>授業の予習復習 課題準備</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>自動詞と他動詞</td> <td>プリント演習 発表と解説</td> <td>授業の予習復習 課題準備</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>まちがえやすい動詞の用法</td> <td>プリント演習 発表と解説</td> <td>授業の予習復習 課題準備</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>完了相</td> <td>プリント演習 発表と解説</td> <td>授業の予習復習 課題準備</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>進行相</td> <td>プリント演習 発表と解説</td> <td>授業の予習復習 課題準備</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>受け身文</td> <td>プリント演習 発表と解説</td> <td>授業の予習復習 課題準備</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>9～14回目授業の復習 まとめのテスト</td> <td>9～14回目の授業の復習 テスト実施</td> <td>まとめのテストの準備</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の進め方の説明、初回クイズ	授業の復習	2	肯定文と否定文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備	3	平叙文と疑問文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備	4	特殊疑問文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備	5	命令文と感嘆文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備	6	名詞の用法(1)	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備	7	名詞の用法(2)	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備	8	1～7回目の授業の復習 中間テスト	1～7回目の授業の復習 テスト実施	中間テストの準備	9	冠詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備	10	自動詞と他動詞	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備	11	まちがえやすい動詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備	12	完了相	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備	13	進行相	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備	14	受け身文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備	15	9～14回目授業の復習 まとめのテスト	9～14回目の授業の復習 テスト実施	まとめのテストの準備
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の進め方の説明、初回クイズ	授業の復習																																																																
2	肯定文と否定文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備																																																																
3	平叙文と疑問文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備																																																																
4	特殊疑問文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備																																																																
5	命令文と感嘆文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備																																																																
6	名詞の用法(1)	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備																																																																
7	名詞の用法(2)	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備																																																																
8	1～7回目の授業の復習 中間テスト	1～7回目の授業の復習 テスト実施	中間テストの準備																																																																
9	冠詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備																																																																
10	自動詞と他動詞	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備																																																																
11	まちがえやすい動詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備																																																																
12	完了相	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備																																																																
13	進行相	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備																																																																
14	受け身文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備																																																																
15	9～14回目授業の復習 まとめのテスト	9～14回目の授業の復習 テスト実施	まとめのテストの準備																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)		20% 10% 70%																																																																
学生へのメッセージ	授業はテンポよくリズムカルに進行します。集中力を切らさず一生懸命ついてきてください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	事前・事後学習には1時間以上かけること。毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																																																																		

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせることでパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題等の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などについて説明する。	事後学習課題： ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
2	Unit1: Job Interview (過去完了形、別れ際の挨拶)	・ 単語テスト ・ 映画鑑賞 ・ スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・ 文法事項の確認 ・ 英作文の提出	事後学習課題： ・ 文法の復習 ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
3	Unit2: First Day on the Job (助動詞1、依頼の仕方)	・ 単語テスト ・ 映画鑑賞 ・ スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・ 文法事項の確認 ・ 英作文の提出	事後学習課題： ・ 文法の復習 ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
4	Unit 3: Hurricane on the Weekend (関係代名詞1、反論の仕方)	・ 単語テスト ・ 映画鑑賞 ・ スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・ 文法事項の確認 ・ 英作文の提出	事後学習課題： ・ 文法の復習 ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
5	Unit 4: Andy's Makeover (現在進行形、困惑を示す時)	・ 単語テスト ・ 映画鑑賞 ・ スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・ 文法事項の確認 ・ 英作文の提出	事後学習課題： ・ 文法の復習 ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
6	Unit 5: Andy Meets Christian (助動詞 2、聞き返す時)	・ 単語テスト ・ 映画鑑賞 ・ スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・ 文法事項の確認 ・ 英作文の提出	事後学習課題： ・ 文法の復習 ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
7	Unit 6: Miranda's Request (分詞、希望の伝え方)	・ 単語テスト ・ 映画鑑賞 ・ スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・ 文法事項の確認 ・ 英作文の提出	事後学習課題： ・ 文法の復習 ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備 ・ 中間テストの準備
8	中間試験	これまでの学習内容より、プレゼンテーションと中間試験	事後学習課題： ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備
9	Unit 7: Nate's Birthday (仮定法、驚きを示す時)	・ 単語テスト ・ 映画鑑賞 ・ スクリプトのシャドーイング・ディクテーション	事後学習課題： ・ 文法の復習 ・ 次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備

			<ul style="list-style-type: none"> ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・文法事項の確認 ・英作文の提出 	
10	Unit 8: Andy's Decision (現在完了形、確認の仕方)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・映画鑑賞 ・スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・文法事項の確認 ・英作文の提出 	事後学習課題： ・文法の復習 ・次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備	
11	Unit 9: Breakup with Nate (動名詞、提案の仕方)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・映画鑑賞 ・スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・文法事項の確認 ・英作文の提出 	事後学習課題： ・文法の復習 ・次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備	
12	Unit 10: The Dream Job (受動態、提案する時)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・映画鑑賞 ・スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・文法事項の確認 ・英作文の提出 	事後学習課題： ・文法の復習 ・次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備	
13	Unit 11: Announcement at the Party (関係代名詞 2、称賛の言い方)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・映画鑑賞 ・スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・文法事項の確認 ・英作文の提出 	事後学習課題： ・文法の復習 ・次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備	
14	Unit 12: Andy's Final Choice (使役動詞、丁寧な依頼の仕方)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・映画鑑賞 ・スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・文法事項の確認 ・英作文の提出 	事後学習課題： ・文法の復習 ・次回の Vocabulary Checkup, Useful Expressions の問題を解く、単語テストの準備	
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・映画鑑賞 ・スクリプトのシャドーイング・ディクテーション ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・文法事項の確認 ・英作文の提出 	事後学習課題： 期末試験の準備	
関連科目	英語 IIB			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『ブラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語	Aline Brosh McKenna, 角山照彦, Simon Capper	松柏社
	2	1500 Core Vocabulary 【単語集】 -The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (中間試験、期末試験、単語テスト等を含む) 70%			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。 ・辞書か電子辞書を必ず持参すること (携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない)。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。 ①私語など授業を妨害するような行為や許可のない途中退席、テキスト忘れは、欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 <p>・おしゃやかなニューヨークの物語を楽しみながら、総合的な英語能力の向上を図りましょう。</p> <p>・英語ができるようになると、必ず自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。</p> <p>・TOEIC などの試験を積極的に受けましょう。また、ランゲージパートナーを作ることもおすすめです。</p>			

<p>担当者の 研究室等</p>	<p>7号館2階非常勤講師室</p>
<p>備考</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の事後学習を必ず行うこと。 ・毎回、英和辞典を持参すること。 ・出席日数は平常点としない。 ・授業を妨げる行為は減点対象とする。 ・授業内容・進度は、受講生の学習状況を考慮して調整することもある。 ・個別に質問等がある場合は、授業後すぐに教壇または7号館2階の非常勤講師室にて受け付ける。 <p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p>

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高橋 章夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。																																																																		
到達目標	<p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出しすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。</p>																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の進め方、小テスト、評価方法の説明</td> <td>特になし</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1 家族</td> <td>be 動詞①</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 1 家族</td> <td>ブログ</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 2 キャンパス案内</td> <td>be 動詞②</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 2 キャンパス案内</td> <td>キャンパスマップ・場所の表現</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 3 就職・職場</td> <td>一般動詞①</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 3 就職・職場</td> <td>1日のスケジュール表</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 1-3 まとめ、小テスト</td> <td>復習と小テスト</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 4 日課</td> <td>一般動詞②・代名詞</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 4 日課</td> <td>日記</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 5 交通</td> <td>命令文</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 5 交通</td> <td>転居通知</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 6 アルバイト</td> <td>名詞を詳しく</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 6 アルバイト</td> <td>求人広告</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Unit 4-6 まとめ、小テスト</td> <td>復習と小テスト</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の進め方、小テスト、評価方法の説明	特になし	2	Unit 1 家族	be 動詞①	授業内容の復習	3	Unit 1 家族	ブログ	授業内容の復習	4	Unit 2 キャンパス案内	be 動詞②	授業内容の復習	5	Unit 2 キャンパス案内	キャンパスマップ・場所の表現	授業内容の復習	6	Unit 3 就職・職場	一般動詞①	授業内容の復習	7	Unit 3 就職・職場	1日のスケジュール表	授業内容の復習	8	Unit 1-3 まとめ、小テスト	復習と小テスト	授業内容の復習	9	Unit 4 日課	一般動詞②・代名詞	授業内容の復習	10	Unit 4 日課	日記	授業内容の復習	11	Unit 5 交通	命令文	授業内容の復習	12	Unit 5 交通	転居通知	授業内容の復習	13	Unit 6 アルバイト	名詞を詳しく	授業内容の復習	14	Unit 6 アルバイト	求人広告	授業内容の復習	15	Unit 4-6 まとめ、小テスト	復習と小テスト	授業内容の復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の進め方、小テスト、評価方法の説明	特になし																																																																
2	Unit 1 家族	be 動詞①	授業内容の復習																																																																
3	Unit 1 家族	ブログ	授業内容の復習																																																																
4	Unit 2 キャンパス案内	be 動詞②	授業内容の復習																																																																
5	Unit 2 キャンパス案内	キャンパスマップ・場所の表現	授業内容の復習																																																																
6	Unit 3 就職・職場	一般動詞①	授業内容の復習																																																																
7	Unit 3 就職・職場	1日のスケジュール表	授業内容の復習																																																																
8	Unit 1-3 まとめ、小テスト	復習と小テスト	授業内容の復習																																																																
9	Unit 4 日課	一般動詞②・代名詞	授業内容の復習																																																																
10	Unit 4 日課	日記	授業内容の復習																																																																
11	Unit 5 交通	命令文	授業内容の復習																																																																
12	Unit 5 交通	転居通知	授業内容の復習																																																																
13	Unit 6 アルバイト	名詞を詳しく	授業内容の復習																																																																
14	Unit 6 アルバイト	求人広告	授業内容の復習																																																																
15	Unit 4-6 まとめ、小テスト	復習と小テスト	授業内容の復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Make It Simple - 基礎からの実践英語</td> <td>森田和子</td> <td>三修社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Make It Simple - 基礎からの実践英語	森田和子	三修社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Make It Simple - 基礎からの実践英語	森田和子	三修社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献(小テスト、まとめテスト等含む)	70%	20% 10%																																																																
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																																																																		

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせることでパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC テストのスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
2	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
3	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
4	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
5	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
6	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
7	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
8	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
9	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
10	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
11	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.
12	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.

		reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Vocabulary practice.																	
	13	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	.Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.																
	14	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.																
	15	TOEIC skills practice with extensive and intensive reading of the text for linguistic and cultural comprehension.	Task-based exercises with listening, speech, reading writing. Vocabulary practice.	Each class has points from in-class tasks, mini-tests, quizzes.																
関連科目	なし																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>SCD CARNAVAL</td> <td>Richard Rowat</td> <td>Weissman Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	SCD CARNAVAL	Richard Rowat	Weissman Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	SCD CARNAVAL	Richard Rowat	Weissman Press																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A		20%																	
	全学共通英語課題 B		10%																	
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)		70%																	
学生への メッセージ																				
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7号館2階)																			
備考	<p>All students should make the utmost effort to attend class regularly and have a textbook.</p> <p>毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p>																			

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東野 厚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	英語Ⅰ、Ⅱで学んだ4技能の基礎力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動にもならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを取得する。CEFR-J [A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J [A2.1] を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J [A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	受け身の授業態度ではなく、積極的に取り組む姿勢を評価する。授業では、なるべく全員を指名するので予習し、各Unitごとに、文法事項の確認のため小テストを行うので復習しておくことが必要である。
科学習の効果(資格)	英検・TOEICテストのスコアアップなど

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法等の説明 文法事項等の確認	教科書全体に目を通しておくこと
2	Unit 1 「〈人〉または〈物〉は/が～する」のパターン 第1文型をとる動詞と第3文型をとる動詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
3	Unit 2 「〈人〉に〈物〉を～する」のパターン 第4文型をとる動詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
4	Unit 3 人や物を説明しよう(1) 第2文型をとる動詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
5	Unit 4 人や物を説明しよう(2) 第5文型をとる動詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
6	Unit 5 「いつも～している」のパターンと「～した」のパターン 現在時制と過去時制	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
7	Unit 6 「これから～するつもりだ」のパターン 未来を表す表現	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習テキストの予習、復習
8	まとめ(1) Unit 1-6 復習	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの復習
9	Unit 7 「今～している」のパターンと「その時～していた」のパターン 現在進行形と過去進行形	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0341-0360) テキストの予習、復習
10	Unit 8 過去のことが現在まで影響する形 現在完了形	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0361-0380) テキストの予習、復習
11	Unit 9 「話し手の気持ち」を表す表現 法助動詞①	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
12	Unit 10 「相手の気持ち」を尋ねる表現 法助動詞②	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
13	Unit 11 「～すること」を表す2種類の形 to不定詞と動名詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
14	Unit 12 2種類の「～すること」の形を区別する方法 「未来」を表すto不定詞と「現在・過去」を表す動名詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
15	まとめ(2) 全体のまとめ 確認テスト	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの復習

関連科目	すべての英語科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	A Primer of Communication in English	小山政史他	松柏社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%		
	全学共通英語課題 B	10%		
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	70%		
学生への メッセージ	eラーニング教材「リンガボルト」を活用して単語力を増強し、TOEIC 試験に挑戦しましょう。 評価には、4/5 以上の出席が必要です。遅刻は、3 回で欠席扱いとします。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計 20 時間はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	英語Ⅱa	科目名(英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中本 明子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせることでパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などに関する説明	教科書全体に目を通しておくこと
2	Unit 1 Fashion	名詞	Unit 1の単語の確認と予習・復習
3	Unit 2 Companies	代名詞	Unit 2の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
4	Unit 3 Business Trips	自動詞・他動詞・リンキング動詞	Unit 3の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
5	Unit 4 Transportation and commuting	助動詞	Unit 4の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
6	Unit 5 Marketing, Sales and Products	不定詞・動名詞	Unit 5の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
7	Unit 1からUnit 5までの復習	名詞、代名詞、動詞、助動詞と不定詞・動名詞	Unit 1からUnit 5までの復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
8	Unit 6 Offices and Supplies	場所・動きを表す前置詞	Unit 6の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
9	Unit 7 Meetings and Presentations	時間を表す前置詞	Unit 7の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
10	Unit 8 Art	形容詞・副詞	Unit 8の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
11	Unit 9 Restaurants and Food	原級・比較級・最上級	Unit 9の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
12	Unit 10 Housing	接続詞(1)	Unit 10の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
13	Unit 11 The Environment and Recycling	現在時制と現在進行形	Unit 11の単語の確認と予習・復習 ATR-CALL 課題
14	Unit 6からUnit 11までの復習	前置詞、比較、接続詞と現在形	前期の総復習 ATR-CALL 課題
15	前期の総括	前期まとめテストと解説	テストの復習 ATR-CALL 課題

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Grip - Essential English Skills for College Students -	本多 吉彦	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法	全学共通英語課題 A	20%
------	------------	-----

(基準)	全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	70%	10%
学生へのメッセージ	単語集の単語だけでなく、テキストの各ユニットにおける単語は、英和辞書を使って予習しておくこと。また英和辞書は毎回携帯すること。		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」		

科目名	英語Ⅱ a	科目名 (英文)	English IIa
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	クリスファー ジョンストン
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	読解力としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	—

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Orientation and self introduction	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Unit 1	Lists and categories	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	3	Unit 2	Extra information and questions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	4	Unit 3	Order of importance	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	5	Unit 4	Habits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	6	Unit 5	Future concepts, speculation.	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	7	Unit 6	Instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	8	Unit 7	Creative instructions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	9	Unit 8	Location and juxtaposition	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	10	Unit 9	Giving directions	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	11	Unit 10	Diaries and the past	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	12	Unit 11	Story structures and formats	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	13	Unit 12	Description	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	14	Unit 13	Conversation gambits	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	15	Review	Review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目	—
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	PASSPORT 2 ISBN 978-0-19-471822-6	Angela Buckingham, Lewis Lansford	Oxford University Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	70%

学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
-----------	--

担当者の研究室等	In Building No. 7, 2F, the teacher is available at certain times. Always contact may be made via the secretary.
----------	---

備考	Students should attend all classes if possible. 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷脇 康子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。

授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等
--------------	------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方の説明、初回クイズ	授業の復習
2	不定詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
3	動名詞と分詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
4	関係詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
5	形容詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
6	副詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
7	前置詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
8	1～7回目の授業の復習 中間テスト	1～7回目の授業の復習 テスト実施	中間テストの準備
9	接続詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
10	間接疑問文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
11	仮定法(1)	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
12	仮定法(2)	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
13	まちがえやすい語順	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
14	まちがえやすい否定表現	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備
15	9～14回目授業の復習 まとめのテスト	9～14回目の授業の復習 テスト実施	まとめのテストの準備

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	70%

学生へのメッセージ	授業はテンポよくリズムカルに進行します。集中力を切らさず一生懸命ついてきてください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室
----------	-------------

備考	事前・事後学習には1時間以上かけること。毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

基礎科目

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出しすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせる構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、映画の説明	
2	Unit 1: The Woman in the Picture (分詞)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
3	Unit 2: Back to Titanic (受動態)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
4	Unit 3: Leaving Port (助動詞)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
5	Unit 4: Don't Do It (仮定法)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
6	Unit 5: Do You Love him? (進行形)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
7	Unit 6: I Can't See You (関係詞1)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
8	Unit 7: I'm Flying! (関係詞2)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ

			<ul style="list-style-type: none"> ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	
9	Unit 8: Iceberg Right Ahead! (完了形)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	<p>事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記</p> <p>事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ</p>	
10	Unit 9: An Honest Thief (分詞2)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	<p>事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記</p> <p>事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ</p>	
11	Unit 10: Goodbye, Mother (未来形)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	<p>事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記</p> <p>事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ</p>	
12	Unit 11: Get in the Boat (代名詞)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	<p>事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記</p> <p>事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ</p>	
13	Unit 12: Two Tragic Bullets (動名詞)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	<p>事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記</p> <p>事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ</p>	
14	Unit 13: Promise Me (不定詞)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	<p>事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記</p> <p>事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ</p>	
15	Unit 14: Rose's Secret (否定)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞（読解・リスニングなど） ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	<p>期末テストの準備</p>	

関連科目	英語 IIb			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Learn English with Titanic	Teruhiko Kadoyama, Simon Capper	成美堂
	2	1500 Core Vocabulary 【単語集】 -The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A		20%	
	全学共通英語課題 B		10%	
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)		70%	
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。 ・辞書か電子辞書を必ず持参すること (携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない)。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。 <p>①私語など授業を妨害するような行為や許可のない途中退席、テキスト忘れは、欠席とみなす。</p> <p>②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。</p> <p>映画を楽しみながら、同時に英語も学習しましょう。 TOEICや英検の受験をお勧めします。ランゲージ・パートナーを作ることもお勧めします。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の事後学習を必ず行うこと。 ・毎回、英和辞典を持参すること。 ・出席日数は平常点としない。 ・授業を妨げる行為は減点対象とする。 ・授業内容・進度は、受講生の学習状況を考慮して調整することもある。 ・個別に質問等がある場合は、授業後すぐに教壇または7号館2階の非常勤講師室にて受け付ける。 			

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高橋 章夫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う																																																																		
到達目標	<p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。</p>																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の説明、前期の授業の総復習</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Lesson 7 健康</td> <td>Wh 疑問文①</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Lesson 7 健康</td> <td>病院内の様子</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Lesson 8 ショッピング</td> <td>Wh 疑問文②</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Lesson 8 ショッピング</td> <td>オンラインショッピングのサイト</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Lesson 9 休日</td> <td>時の表現</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Lesson 9 休日</td> <td>バスツアーのサイト</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 7-9 復習、まとめテスト</td> <td>復習とまとめテスト</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Lesson 10 大学生活</td> <td>助動詞</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Lesson 10 大学生活</td> <td>メール</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Lesson 11 世界の国々</td> <td>比較級と最上級</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Lesson 11 世界の国々</td> <td>世界地図</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Lesson 12 海外旅行</td> <td>ヨーロッパ地図</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Lesson 12 海外旅行</td> <td>ヨーロッパ地図</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Unit 10-12 復習、まとめテスト</td> <td>復習とテスト</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の説明、前期の授業の総復習	授業内容の復習	2	Lesson 7 健康	Wh 疑問文①	授業内容の復習	3	Lesson 7 健康	病院内の様子	授業内容の復習	4	Lesson 8 ショッピング	Wh 疑問文②	授業内容の復習	5	Lesson 8 ショッピング	オンラインショッピングのサイト	授業内容の復習	6	Lesson 9 休日	時の表現	授業内容の復習	7	Lesson 9 休日	バスツアーのサイト	授業内容の復習	8	Unit 7-9 復習、まとめテスト	復習とまとめテスト	授業内容の復習	9	Lesson 10 大学生活	助動詞	授業内容の復習	10	Lesson 10 大学生活	メール	授業内容の復習	11	Lesson 11 世界の国々	比較級と最上級	授業内容の復習	12	Lesson 11 世界の国々	世界地図	授業内容の復習	13	Lesson 12 海外旅行	ヨーロッパ地図	授業内容の復習	14	Lesson 12 海外旅行	ヨーロッパ地図	授業内容の復習	15	Unit 10-12 復習、まとめテスト	復習とテスト	授業内容の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の説明、前期の授業の総復習	授業内容の復習																																																																
2	Lesson 7 健康	Wh 疑問文①	授業内容の復習																																																																
3	Lesson 7 健康	病院内の様子	授業内容の復習																																																																
4	Lesson 8 ショッピング	Wh 疑問文②	授業内容の復習																																																																
5	Lesson 8 ショッピング	オンラインショッピングのサイト	授業内容の復習																																																																
6	Lesson 9 休日	時の表現	授業内容の復習																																																																
7	Lesson 9 休日	バスツアーのサイト	授業内容の復習																																																																
8	Unit 7-9 復習、まとめテスト	復習とまとめテスト	授業内容の復習																																																																
9	Lesson 10 大学生活	助動詞	授業内容の復習																																																																
10	Lesson 10 大学生活	メール	授業内容の復習																																																																
11	Lesson 11 世界の国々	比較級と最上級	授業内容の復習																																																																
12	Lesson 11 世界の国々	世界地図	授業内容の復習																																																																
13	Lesson 12 海外旅行	ヨーロッパ地図	授業内容の復習																																																																
14	Lesson 12 海外旅行	ヨーロッパ地図	授業内容の復習																																																																
15	Unit 10-12 復習、まとめテスト	復習とテスト	授業内容の復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Make It Simple - 基礎からの実践英語</td> <td>森田和子</td> <td>三修社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Make It Simple - 基礎からの実践英語	森田和子	三修社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Make It Simple - 基礎からの実践英語	森田和子	三修社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A		20%																																																																
	全学共通英語課題 B		10%																																																																
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	70%																																																																	
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																																																																		

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせることでパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC テストのスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	2	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	3	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	4	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	5	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	6	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	7	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	8	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	9	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	10	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	11	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	12	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	13	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	14	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	15	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD CARNAVAL	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%	
学生への メッセージ	文章の目的を分析し、また組み立てや展開を理解する訓練を行ない、効率的な読みのできる読解力を養いましょう。 英語を毎日学習する習慣を身につけてください。		
担当者の 研究室等			
備考	All students should make utmost efforts to attend every class and have a textbook. 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」		

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	東野 厚子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

基礎科目

授業概要・目的	英語 I、II で学んだ 4 技能の基礎力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動にもならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英語 I、II、III で修得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに時間かかる英文を一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる [CEFR-J B1-1 目標]。 「リスニング力」としては、英語 III と同様、CEFR-J [A2.2] を目標とし、自分に関連する内容 (日常生活、学校生活など) の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J [A2.2] を目標とし、「英語 III」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	受け身の授業態度ではなく、積極的に取り組む姿勢を評価する。授業では、なるべく全員を指名するので予習し、各 Unit ごとに、文法事項の確認のため小テストを行うので復習しておくことが必要である。
科目学習の効果 (資格)	英検・TOEIC テストのスコアアップなど

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法等の説明 文法事項等の確認	教科書全体に目を通しておくこと
2	UNIT 13 「～するために」と「～して」を表す形 to 不定詞の副詞的用法	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
3	UNIT 14 「～するための」と「～する」というを表す形 to 不定詞の形容詞的用法	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
4	UNIT 15 「～される」を表す形 受動態	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
5	UNIT 16 「～している」を表す形 現在分詞の形容詞的用法	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
6	UNIT 17 「～された」を表す形 過去分詞の形容詞的用法	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
7	UNIT 18 2つの文を1つにする方法 (1) 関係代名詞の主格と目的格	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
8	まとめ (1) UNIT13～UNIT18の復習	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの復習
9	UNIT 19 2つの文を1つにする方法 (2) 関係代名詞の所有格と関係代名詞 what	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0341-0360) テキストの予習、復習
10	UNIT 20 2つのものをつないでみよう 接続詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0361-0380) テキストの予習、復習
11	UNIT 21 疑問文を作る方法と疑問文を別の文の一部にする方法 疑問詞疑問文と間接疑問文	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
12	UNIT 22 「現実離れたこと」を表す形 仮定法	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
13	UNIT 23 「2つのもの」を比べる表現 原級と比較級	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
14	UNIT 24 「順位」を表す表現 最上級	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
15	まとめ (2) 全体のまとめ 後期まとめテスト	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの復習

関連科目 全ての英語科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	A Primer of Communication in English	小山政史他	松柏社
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 70%			
学生への メッセージ	eラーニング教材「リンガポルタ」を活用して単語力を増強し、TOEIC 試験に挑戦しましょう。 評価には、4/5 以上の出席が必要です。遅刻は、3 回で欠席扱いとします。			
担当者の 研究室等	7号館 2階 非常勤講師室			
備考	自主学习には、期末試験の準備を含めて、合計 20 時間はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中本 明子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	2年次前期までに身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、これまでに習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる [CEFR-J B1-1 目標]。 「リスニング力」としては、CEFR-J [A2.2] を目標とし、自分に関連する内容 (日常生活、学校生活など) の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J [A2.2] を目標とし、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	前期の重要ポイントの復習 (品詞、5文型など)	教科書全体に目を通しておくこと リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	2	Unit 12 Business Profile	過去時制	Unit 12 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	3	Unit 13 Schedules	未来	Unit 13 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	4	Unit 14 Computers and the Internet	現在完了時制・過去完了時制	Unit 14 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	5	Unit 15 Industry and Manufacturing	能動態と受動態	Unit 15 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	6	Unit 16 Making Arrangements	接続詞 (2)	Unit 16 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	7	Unit 12 から Unit 16 までの復習	過去形・未来形、完了形、態と接続詞	Unit 12 から unit 16 までの復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	8	Unit 17 Business Culture	否定文	Unit 17 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	9	Unit 18 Recruitment	疑問文・疑問詞・付加疑問文	Unit 18 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	10	Unit 19 Entertaining and Socializing	関係代名詞・関係副詞	Unit 19 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	11	Unit 20 Education	後置修飾	Unit 20 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	12	Unit 21 Banking	仮定法	Unit 21 の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	13	Unit 22 Health	話法	Unit 22 の単語の確認と予習・復習 ATR-CALL 課題
	14	Unit 17 から Unit 22 までの復習	否定文、疑問文、関係詞、後置修飾、仮定法と話法	後期の総復習 ATR-CALL 課題
	15	後期の総括	後期まとめテストと解説	テストの復習 ATR-CALL 課題

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Grip - Essential English Skills for College Students -	本多 吉彦	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
学生への メッセージ	語集の単語だけでなく、テキストの各ユニットにおける単語は、英和辞書を使って予習しておくこと。また英和辞書は携帯すること。	
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室	
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」	

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	クリスファー ジョンストン
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

基礎科目

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。																																																																		
到達目標	読解力としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Units 15 & 16</td> <td>Advice</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 17</td> <td>Comparison</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Unit 18</td> <td>Invention</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Unit 19</td> <td>Opinions: the best</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 20</td> <td>Opinions: good or bad</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 21</td> <td>Opinions: true or false</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Unit 22</td> <td>Explanations</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 23</td> <td>Tall tales</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 24</td> <td>Advertising</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 25</td> <td>News</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Unit 26</td> <td>Evaluation</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Unit 27</td> <td>Research</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 28</td> <td>Rethinking history</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 29</td> <td>Future concepts</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Evaluation and review</td> <td>Evaluation and review</td> <td>Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Units 15 & 16	Advice	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.	2	Unit 17	Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.	3	Unit 18	Invention	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.	4	Unit 19	Opinions: the best	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.	5	Unit 20	Opinions: good or bad	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.	6	Unit 21	Opinions: true or false	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.	7	Unit 22	Explanations	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.	8	Unit 23	Tall tales	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.	9	Unit 24	Advertising	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.	10	Unit 25	News	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.	11	Unit 26	Evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.	12	Unit 27	Research	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.	13	Unit 28	Rethinking history	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.	14	Unit 29	Future concepts	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.	15	Evaluation and review	Evaluation and review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Units 15 & 16	Advice	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.																																																																
2	Unit 17	Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.																																																																
3	Unit 18	Invention	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.																																																																
4	Unit 19	Opinions: the best	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.																																																																
5	Unit 20	Opinions: good or bad	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.																																																																
6	Unit 21	Opinions: true or false	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.																																																																
7	Unit 22	Explanations	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.																																																																
8	Unit 23	Tall tales	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.																																																																
9	Unit 24	Advertising	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.																																																																
10	Unit 25	News	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.																																																																
11	Unit 26	Evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.																																																																
12	Unit 27	Research	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.																																																																
13	Unit 28	Rethinking history	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.																																																																
14	Unit 29	Future concepts	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.																																																																
15	Evaluation and review	Evaluation and review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>PASSPORT 2 ISBN 978-0-19-471822-6</td> <td>Angela Buckingham, Lewis Lansford</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	PASSPORT 2 ISBN 978-0-19-471822-6	Angela Buckingham, Lewis Lansford	Oxford University Press	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	PASSPORT 2 ISBN 978-0-19-471822-6	Angela Buckingham, Lewis Lansford	Oxford University Press																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<table border="1"> <tr> <td>全学共通英語課題 A</td> <td>20%</td> </tr> <tr> <td>全学共通英語課題 B</td> <td>10%</td> </tr> <tr> <td>授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)</td> <td>70%</td> </tr> </table>			全学共通英語課題 A	20%	全学共通英語課題 B	10%	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	70%																																																										
全学共通英語課題 A	20%																																																																		
全学共通英語課題 B	10%																																																																		
授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	70%																																																																		
学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.																																																																		
担当者の研究室等	In Building No. 7, 2F, the teacher is available at certain times. Always contact may be made via the secretary.																																																																		
備考	Students should make the utmost effort to attend every class. 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																																																																		

「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」



科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。
到達目標	相互コミュニケーション
授業方法と留意点	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	2	2 Food & Drink	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	3	3 Your Neighborhood	近所についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	4	4 Daily Routines	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	5	5 Entertainment	娯楽についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	6	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	7	Conversation Test I	会話テスト	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	8	6 Friends & Dating! / Speech Advice & Video	友達・デートについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	9	7 Fashion & Style / Speech Group 1	ファッションについてのインタビュー / 3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	10	8 University Life / Speech Group 2	大学生活についてのインタビュー / 3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	11	9 Shopping / Speech Group 3	買い物についてのインタビュー / 3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	12	10 Travel / Speech Group 4	旅行についてのインタビュー / 3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	13	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	14	Conversation Test I I	会話テスト 2	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	15	Achievement Test, Units 1-6	学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	No Textbook / Class Prints Only		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	15% 会話テスト 1 15% 会話テスト 2 5% 課題 20% スピーチ 15% 授業への取り組み 10% 学習到達確認 20% TOEIC Bridge
-----------	---

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	The class will cover speaking and listening skills. Students will work in pair and small groups practicing realistic everyday and complex English conversation. 基本的な英会話力の向上をめざす。ペアワークやグループワークなどを通じて、よりリアルな英会話ができるように毎回の授業で練習する。
到達目標	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills.
授業方法と留意点	Students will be encouraged to use and practice their newly acquired English speaking listening and comprehension skills in pairs or small groups. 毎回覚えたことを積極的に使用していくことが望まれる。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson
3	Likes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
4	Dislikes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
5	The future	Discussing future jobs, lifestyles and dreams.	Students should study the content of the days lesson
6	The Past	Discussing past experiences and leisure activities.	Students should study the content of the days lesson
7	Mid semester review and test	Review and consolidation of all skills studied and a short test.	Students should study the content of the days lesson
8	Describing people	Giving and receiving personal descriptions.	Students should study the content of the days lesson
9	Eating out and food	Discussing skills used in eating out and food types.	Students should study the content of the days lesson
10	Restaurant role play	Students practicing eating out in a restaurant situation.	Students should study the content of the days lesson
11	Review	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
12	What's that?	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
13	Dreams	Students will have an oral written and listening test.	Students should study the content of the days lesson
14	Review	Review	Students should study the content of the days lesson
15	Summer Holiday Plans	Discussing summer holiday plans	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	『English Firsthand Success (New Edition)』	Helgesen, Brown, Wiltshier	Pearson and Longman
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	TOEIC Bridge Test 20 % others including your achievement tests 80%
-----------	---

学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

基礎科目

授業概要・目的	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills. The class will cover speaking and listening skills, as well as practice in writing. Students will work in pair and small groups practicing realistic everyday and complex English conversation. 基本的な英会話力の向上をめざす。ペアワークやグループワークなどを通じて、よりリアルな英会話ができるように毎回の授業で練習する。
到達目標	By the end of this course students should have acquired new techniques and vocabulary which will provide them with the skills and confidence to communicate successfully in English.
授業方法と留意点	Students will be encouraged to use and practice their newly acquired English speaking listening and comprehension skills in pairs or small groups. 毎回覚えたことを積極的に使用していくことが望まれる。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course Introduction	Students will take part in course and student introduction activities.	Students should study the content of the days lesson
	2	Conversation Strategies	How to extend conversation by using comments and follow-up questions.	Students should study the content of the days lesson
	3	Jobs	Vocabulary Introduction Listening Activity Wh-Questions review and expansion	Students should study the content of the days lesson
	4	Jobs	Presentation Skills Mini-Presentation 1: Your ideal job	Students should study the content of the days lesson
	5	Daily Activities	Vocabulary Introduction Listening Activity Yes/No questions review and expansion	Students should study the content of the days lesson
	6	Daily Activities	Presentation Skills Mini-Presentation 2: Your daily routine	Students should study the content of the days lesson
	7	Mid semester review and assessment	Review and consolidation of all skills studied and a short written assignment.	Students should study the content of the days lesson
	8	Mid semester speaking assessment	Students will work in pairs and present conversations demonstrating their understanding of the materials studied.	Students should study the content of the days lesson
	9	Feelings	Vocabulary Introduction Listening Activity Subject and Object pronouns	Students should study the content of the days lesson
	10	Feelings	Presentation Skills Mini-Presentation 3: What makes you happy?	Students should study the content of the days lesson
	11	Talking about the past	Vocabulary Introduction Listening Activity Simple Past Tense	Students should study the content of the days lesson
	12	Talking about the past	Presentation Skills Mini-Presentation 4: My Favorite Vacation	Students should study the content of the days lesson
	13	Downtown	Vocabulary Introduction Listening Activity Prepositions of place	Students should study the content of the days lesson
	14	Semester review and assessment	Review and consolidation of all skills studied and a short written assignment.	Students should study the content of the days lesson
	15	Final semester speaking assessment	Students will work in pairs and present conversations demonstrating their understanding of the materials studied.	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Stretch 1 ISBN 978-0-19-460312-6	Susan Stempleski	Oxford
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	TOEIC Bridge (20%) Mini-Presentations (10%)
-----------	--

	Mid-Term Assessment Activity (20%) Final Assessment Activity (20%) Homework Assignments (10%) Classwork (20%)
学生への メッセージ	Prepare for your future by studying today.
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	4
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

基礎科目

授業概要・目的	授業は全て英語で行います。 会話力、TOEICの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。
到達目標	ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。
授業方法と留意点	講義、演習、ロールプレイ。 ノートを取るので、筆記用具を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加（ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ） 80% （※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。） TOEIC Bridgeの結果 20%			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	5
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	<p>The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills. The class will cover speaking and listening skills. Students will work in pair and small groups practicing realistic everyday and complex English conversation.</p> <p>基本的な英会話力の向上をめざす。ペアワークやグループワークなどを通じて、よりリアルな英会話ができるように毎回の授業で練習する。</p>																																																																		
到達目標	<p>By the end of this course students should have acquired new techniques and vocabulary which will provide them with the skills and confidence to communicate successfully in English.</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>Students will be encouraged to use and practice their newly acquired English speaking listening and comprehension skills in pairs or small groups.</p> <p>毎回覚えたことを積極的に使用していくことが望まれる。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Introduction and review of semester I</td> <td>Students will all skills studied in the first semester.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Review of summer holiday</td> <td>Discussion of summer holiday activities.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Likes</td> <td>Expressing preferences.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Dislikes</td> <td>Expressing preferences.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>The future</td> <td>Discussing future jobs, lifestyles and dreams.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>The Past</td> <td>Discussing past experiences and leisure activities.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Mid semester review and assessment</td> <td>Review and consolidation of all skills studied and a short test.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Describing people</td> <td>Giving and receiving personal descriptions.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Eating out and food</td> <td>Discussing skills used in eating out and food types.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Restaurant role play</td> <td>Students practicing eating out in a restaurant situation.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Review</td> <td>Review and consolidation of all skills studied in the semester.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>What's that?</td> <td>Review and consolidation of all skills studied in the semester.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Dreams</td> <td>Students will have an oral written and listening test.</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Review</td> <td>Review</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Summer Holiday Plans</td> <td>Discussing summer holiday plans</td> <td>Students should study the content of the days lesson</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Introduction and review of semester I	Students will all skills studied in the first semester.	Students should study the content of the days lesson	2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson	3	Likes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson	4	Dislikes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson	5	The future	Discussing future jobs, lifestyles and dreams.	Students should study the content of the days lesson	6	The Past	Discussing past experiences and leisure activities.	Students should study the content of the days lesson	7	Mid semester review and assessment	Review and consolidation of all skills studied and a short test.	Students should study the content of the days lesson	8	Describing people	Giving and receiving personal descriptions.	Students should study the content of the days lesson	9	Eating out and food	Discussing skills used in eating out and food types.	Students should study the content of the days lesson	10	Restaurant role play	Students practicing eating out in a restaurant situation.	Students should study the content of the days lesson	11	Review	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson	12	What's that?	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson	13	Dreams	Students will have an oral written and listening test.	Students should study the content of the days lesson	14	Review	Review	Students should study the content of the days lesson	15	Summer Holiday Plans	Discussing summer holiday plans	Students should study the content of the days lesson
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Introduction and review of semester I	Students will all skills studied in the first semester.	Students should study the content of the days lesson																																																																
2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson																																																																
3	Likes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson																																																																
4	Dislikes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson																																																																
5	The future	Discussing future jobs, lifestyles and dreams.	Students should study the content of the days lesson																																																																
6	The Past	Discussing past experiences and leisure activities.	Students should study the content of the days lesson																																																																
7	Mid semester review and assessment	Review and consolidation of all skills studied and a short test.	Students should study the content of the days lesson																																																																
8	Describing people	Giving and receiving personal descriptions.	Students should study the content of the days lesson																																																																
9	Eating out and food	Discussing skills used in eating out and food types.	Students should study the content of the days lesson																																																																
10	Restaurant role play	Students practicing eating out in a restaurant situation.	Students should study the content of the days lesson																																																																
11	Review	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson																																																																
12	What's that?	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson																																																																
13	Dreams	Students will have an oral written and listening test.	Students should study the content of the days lesson																																																																
14	Review	Review	Students should study the content of the days lesson																																																																
15	Summer Holiday Plans	Discussing summer holiday plans	Students should study the content of the days lesson																																																																
関連科目	英語基礎会話 b																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>English In Common 1</td> <td></td> <td>Pearson</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English In Common 1		Pearson	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English In Common 1		Pearson																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	TOEIC Bridge (20%) others including achievement tests (80%)																																																																		
学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																																																																		

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	6
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アレク ニール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	<p>In this course, the goal is to acquire the skills of everyday conversation. Learn to use basic vocabulary in conversation and other activities. It also develops knowledge about English-speaking culture, values, lifestyle, etc.</p> <p>このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。</p>																																																																		
到達目標	Student pair and team communication 学生ペアとチームコミュニケーション																																																																		
授業方法と留意点	Students are give teacher worksheets and need to take notes on each lesson. 生徒は教師のワークシートを出し、各レッスンでメモを取る必要があります。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills 英会話スキル																																																																		
授業計画	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;">回数</th> <th style="width: 25%;">授業テーマ</th> <th style="width: 30%;">内容・方法 等</th> <th style="width: 40%;">事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Classroom Procedures, Topic Interview: Family</td> <td>家族についてのインタビュー</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Essential English / Nice to meet you!</td> <td>自己紹介、他己紹介</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Who are they talking about?</td> <td>人の外見の特徴を述べる</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>When do you start?</td> <td>習慣について語る</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Topic Interview: House and Home</td> <td>自宅についてのインタビュー</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Conversation Test Practice</td> <td>会話テストの練習</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Conversation Test I</td> <td>会話テスト 1</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Where does this go?</td> <td>物の位置</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>How do I get there?</td> <td>道案内</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>What happened?</td> <td>過去の出来事について語る</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Topic Interview: Food</td> <td>食べ物についてのインタビュー</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Speech: Self Introduction 3 minutes</td> <td>3分スピーチ、自己紹介</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Conversation Test Practice</td> <td>会話テストの練習</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Conversation Test I I</td> <td>会話テスト 2</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Achievement Test</td> <td>学習到達確認</td> <td>学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Classroom Procedures, Topic Interview: Family	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	2	Essential English / Nice to meet you!	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	3	Who are they talking about?	人の外見の特徴を述べる	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	4	When do you start?	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	5	Topic Interview: House and Home	自宅についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	6	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	7	Conversation Test I	会話テスト 1	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	8	Where does this go?	物の位置	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	9	How do I get there?	道案内	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	10	What happened?	過去の出来事について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	11	Topic Interview: Food	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	12	Speech: Self Introduction 3 minutes	3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	13	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	14	Conversation Test I I	会話テスト 2	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。	15	Achievement Test	学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Classroom Procedures, Topic Interview: Family	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
2	Essential English / Nice to meet you!	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
3	Who are they talking about?	人の外見の特徴を述べる	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
4	When do you start?	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
5	Topic Interview: House and Home	自宅についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
6	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
7	Conversation Test I	会話テスト 1	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
8	Where does this go?	物の位置	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
9	How do I get there?	道案内	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
10	What happened?	過去の出来事について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
11	Topic Interview: Food	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
12	Speech: Self Introduction 3 minutes	3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
13	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
14	Conversation Test I I	会話テスト 2	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
15	Achievement Test	学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。																																																																
関連科目	英語基礎会話 b																																																																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Teacher Worksheets</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Teacher Worksheets			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Teacher Worksheets																																																																		
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	15% Conversation test 1 15% Conversation test 2 5% assignment 20% Speech 15% Approach to lesson																																																																		

	10% Learning reach confirmation 20% TOEIC Bridge 15%会話テスト1 15%会話テスト2 5%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 10% 学習到達確認 20% TOEIC Bridge
学生へのメッセージ	Everyone, please enjoy talking about English. Good Luck! 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good L u c k!
担当者の研究室等	Part-time teacher room 2nd floor, Building 7 7号館2階 非常勤講師室
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	7
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	The aim of this course is to encourage students to communicate in English, practice using vocabulary and learn other basic skills for confident self-expression in daily life settings. Students will focus on listening, speaking and writing skills. Students will work in pairs and small groups practicing realistic and practical everyday language.
到達目標	By the end of the course, students should be able to effectively use the vocabulary, grammar, and conversation strategies learned to successfully communicate in English.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Course Introduction	Students will take part in course and student introduction activities.	Students should study the content of the days lesson.
	2	.Conversation Strategies	How to extend conversation by using comments and follow-up questions.	Students should study the content of the days lesson.
	3	Jobs	Vocabulary Introduction Listening Activity Wh-Questions review and expansion	Students should study the content of the days lesson.
	4	Jobs	Presentations Skills Mini-Presentation 1: Your ideal job	Students should study the content of the days lesson.
	5	Daily Activities	Vocabulary Introduction Listening Activity Yes/No Questions review and expansion	Students should study the content of the days lesson.
	6	Daily Activities	Presentations Skills Mini-Presentation 2: Your daily routine	Students should study the content of the days lesson.
	7	Midterm Assessment Activity	Students will do a short written assignment to demonstrate their understanding of the material presented in class.	Students should study the content of the days lesson.
	8	Midterm Speaking Assessment Activity	Students will work with a partner to do a short speaking assignment to demonstrate their understanding of the material presented in class.	Students should study the content of the days lesson.
	9	Feelings	Vocabulary Introduction Listening Activity Subject and Object Pronouns	Students should study the content of the days lesson.
	10	Feelings	Presentations Skills Mini-Presentation 3: What makes you happy?	Students should study the content of the days lesson.
	11	Talking about the past	Vocabulary Introduction Listening Activity Simple Past tense	Students should study the content of the days lesson.
	12	Talking about the past	Presentations Skills Mini-Presentation 4: My favorite vacation	Students should study the content of the days lesson.
	13	Downtown	Vocabulary Introduction Listening Activity Prepositions of Place	Students should study the content of the days lesson.
	14	Final Assessment Activity	Students will do a short written assignment to demonstrate their understanding of the material presented in class.	Students should study the content of the days lesson.
15	Final Speaking Assessment Activity	Students will work with a partner to do a short speaking assignment to demonstrate their understanding of the material presented in class.	Students should study the content of the days lesson.	

関連科目	Skills training, English Presentation
------	---------------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Stretch 1 ISBN 978-0-19-460312-6	Susan Stempleski	Oxford
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	TOEIC Bridge Test (20%) Midterm Assessment Activity (20%)
-----------	--

	Final Assessment Activity (20%) Mini-Presentations (10%) Homework (10%) Classwork (20%)
学生への メッセージ	Study hard today for your future.
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	8
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アレク ニール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	In this course, the goal is to acquire the skills of everyday conversation. Learn to use basic vocabulary in conversation and other activities. It also develops knowledge about English-speaking culture, values, lifestyle, etc. このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。
到達目標	Student pair and team communication 学生ペアとチームコミュニケーション
授業方法と留意点	Students are give teacher worksheets and need to take notes on each lesson. 生徒は教師のワークシートを出し、各レッスンでメモを取る必要があります。
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills 英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Course overview	Arrive to class on time. Be ready to study and learn in English.
	2	Making Comments	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 1
	3	Asking Follow Up Questions	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 2
	4	Jobs	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 3
	5	Jobs	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 4
	6	Daily Activities	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 5
	7	Midterm Assessment Task	Group Conversation Task	
	8	Adding More Detail	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	9	At the Moment	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 6
	10	At the Moment	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 7
	11	Feelings	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 8
	12	Feelings	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 9
	13	On the Weekend	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 10
	14	On the Weekend	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Final Assessment Task		...

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法 (基準)	15% Conversation test 1 15% Conversation test 2 20% assignment 15% Speech 15% Approach to lesson 20% TOEIC Bridge
	15% 会話テスト 1 15% 会話テスト 2

	20% 課題 15% スピーチ 15% 授業への取り組み 20% 学習到達確認 TOEIC Bridge
学生へのメッセージ	All the classwork and all course assignments will be in English. Be prepared and willing to study and learn using English.
担当者の研究室等	7号館5階
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	9
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	The class will cover speaking and listening skills. Students will work in pair and small groups practicing realistic everyday and complex English conversation. 基本的な英会話力の向上をめざす。ペアワークやグループワークなどを通じて、よりリアルな英会話ができるように毎回の授業で練習する。
到達目標	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills.
授業方法と留意点	Students will be encouraged to use and practice their newly acquired English speaking listening and comprehension skills in pairs or small groups. 毎回覚えたことを積極的に使用していくことが望まれる。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction and review of semester I	Students will all skills studied in the first semester.	Students should study the content of the days lesson
	2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson
	3	Likes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
	4	Dislikes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
	5	The future	Discussing future jobs, lifestyles and dreams.	Students should study the content of the days lesson
	6	The Past	Discussing past experiences and leisure activities.	Students should study the content of the days lesson
	7	Mid semester review and test	Review and consolidation of all skills studied and a short test.	Students should study the content of the days lesson
	8	Describing people	Giving and receiving personal descriptions.	Students should study the content of the days lesson
	9	Eating out and food	Discussing skills used in eating out and food types.	Students should study the content of the days lesson
	10	Restaurant role play	Students practicing eating out in a restaurant situation.	Students should study the content of the days lesson
	11	Review	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
	12	What's that?	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
	13	Dreams	Students will have an oral written and listening test.	Students should study the content of the days lesson
	14	Review	Review	Students should study the content of the days lesson
	15	Summer Holiday Plans	Discussing summer holiday plans	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English In Common 1		Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	TOEIC Bridge 20% others including achievement tests 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	10
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	The aim of this course is to encourage students to communicate in English, practice using vocabulary and learn other basic skills for confident self-expression in daily life settings. Students will focus on listening and speaking skills with an emphasis on using practical, everyday language.
到達目標	By the end of the course, students should be able to introduce themselves and others, talk about self, family, friends, and experiences; describe situations, places, and future plans. In addition, students should be able to complete all the required tasks and reach respective benchmarks at their level.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 0: Essential English Orientation, meeting someone for the first time, introductions and 'small-talk', then greeting people you know, using role-plays. Complete textbook exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
3	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
4	Unit 1: Making Introductions Greetings using the present tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
5	Unit 2: Sharing personal information. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 1 & 2 Test.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
6	Unit 2: Sharing personal information. Sharing personal information and talking about jobs using common 'wh' questions. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
7	Unit 3: Talking about Likes	Students will discover, practice and	Complete online homework

基礎科目

	and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	(https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
8	Unit 3: Talking about Likes and Dislikes Talking about likes and dislikes, with regard to food and drink, using the simple present. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
9	Unit 4: Talking about habits and routines. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
10	Unit 4: Talking about habits and routines. Talking about habits and routines with regard to sport and exercise, using frequency adverbs. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 3 & 4 test.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
11	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
12	Unit 5: Describing present activities. Describing daily activities using the present continuous. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
13	Unit 6: Talking about past events. Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
14	Unit 6: Talking about past events.	Students will discover, practice and individualise the unit language	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/)

		Talking about past events and problems using the past tense of 'be'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 5 & 6 test	corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.																
	15	Course Review and Holiday Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Practice English 'maintenance' methods.																
関連科目	Drama, Skills training, English Presentation																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Smart Choice: 3rd Edition Level 1 Student Book with Online Practice, ISBN-13: 9780194602648)</td> <td>Wilson, K.</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Smart Choice: 3rd Edition Level 1 Student Book with Online Practice, ISBN-13: 9780194602648)	Wilson, K.	Oxford University Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Smart Choice: 3rd Edition Level 1 Student Book with Online Practice, ISBN-13: 9780194602648)	Wilson, K.	Oxford University Press																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	Class Participation / Online homework assignments (5%) Unit review tests (3x25%) TOEIC Bridge Test (20%)																			
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays' particularly in Australia?should you have any. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Do not be absent for more than four lessons or you will risk failing the course. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence.																			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																			
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																			

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	11
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	The class will cover speaking and listening skills. Students will work in pair and small groups practicing realistic everyday and complex English conversation. 基本的な英会話力の向上をめざす。ペアワークやグループワークなどを通じて、よりリアルな英会話ができるように毎回の授業で練習する。
到達目標	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills.
授業方法と留意点	Students will be encouraged to use and practice their newly acquired English speaking listening and comprehension skills in pairs or small groups. 毎回覚えたことを積極的に使用していくことが望まれる。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Orientation	Orientation	Follow orientation instructions.
	2	Unit 1	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
	3	Unit 1	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
	4	Unit 2	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
	5	Unit 2	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
	6	Unit 3	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
	7	Unit 3	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
	8	Test Unit 1-3	Test	Follow test instructions.
	9	Unit 4	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
	10	Unit 4	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
	11	Unit 5	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
	12	Unit 5	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
	13	Unit 6	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
	14	Unit 6	Text and pair work activities.	Follow instructions as provided in class.
	15	Final Test	Test	Follow test instructions.

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand 1	Helgesen, Brown, and Wiltshier	Pearson Longman
	2	English Firsthand 1 - Workbook	Helgesen, Brown, and Wiltshier	Pearson Longman
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	TOEIC Bridge 20% others including achievement tests 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	Please participate fully in pair activities, and enjoy the class.
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	12
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

基礎科目

授業概要・目的	授業は全て英語で行います。 会話力、TOEICの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。
到達目標	ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。
授業方法と留意点	講義、演習、ロールプレイ。 ノートを取るので、筆記用具を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加（ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ） 80% （※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。） TOEIC Bridgeの結果 20%			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階（非常勤講師室）			
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	13
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。
到達目標	相互コミュニケーション
授業方法と留意点	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	1 Getting to Know You	自己紹介、他己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	2 Food & Drink	食べ物についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	3 Your Neighborhood	近所についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	4 Daily Routines	習慣について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	5 Entertainment	娯楽についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test I	会話テスト	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	6 Friends & Dating! / Speech Advice & Video	友達・デートについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	7 Fashion & Style / Speech Group 1	ファッションについてのインタビュー / 3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	8 University Life / Speech Group 2	大学生活についてのインタビュー / 3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	9 Shopping / Speech Group 3	買い物についてのインタビュー / 3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	10 Travel / Speech Group 4	旅行についてのインタビュー / 3分スピーチ、自己紹介	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test I I	会話テスト 2	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Achievement Test, Units 1-10	学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	No Textbook / Class Prints Only		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	15% 会話テスト 1 15% 会話テスト 2 5% 課題 20% スピーチ 15% 授業への取り組み 10% 学習到達確認 20% TOEIC Bridge
-----------	---

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	14
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	The class will cover speaking and listening skills. Students will work in pair and small groups practicing realistic everyday and complex English conversation. 基本的な英会話力の向上をめざす。ペアワークやグループワークなどを通じて、よりリアルな英会話ができるように毎回の授業で練習する。
到達目標	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills.
授業方法と留意点	Students will be encouraged to use and practice their newly acquired English speaking listening and comprehension skills in pairs or small groups. 毎回覚えたことを積極的に使用していくことが望まれる。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction and review of semester I	Students will all skills studied in the first semester.	Students should study the content of the days lesson
	2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson
	3	Likes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
	4	Dislikes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
	5	The future	Discussing future jobs, lifestyles and dreams.	Students should study the content of the days lesson
	6	The Past	Discussing past experiences and leisure activities.	Students should study the content of the days lesson
	7	Mid semester review and test	Review and consolidation of all skills studied and a short test.	Students should study the content of the days lesson
	8	Describing people	Giving and receiving personal descriptions.	Students should study the content of the days lesson
	9	Eating out and food	Discussing skills used in eating out and food types.	Students should study the content of the days lesson
	10	Restaurant role play	Students practicing eating out in a restaurant situation.	Students should study the content of the days lesson
	11	Review	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
	12	What's that?	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
	13	Dreams	Students will have an oral written and listening test.	Students should study the content of the days lesson
	14	Review	Review	Students should study the content of the days lesson
	15	Summer Holiday Plans	Discussing summer holiday plans	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『English Firsthand Success (New Edition)』	Helgesen, Brown, Wiltshier	Pearson and Longman
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	TOEIC Bridge 20% others including achievement tests 80%
-----------	--

学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	1
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。
到達目標	相互コミュニケーション
授業方法と留意点	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	11 Summer Vacation	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	12 Family & Home	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	13 Eating Out	外食についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	14 Work (Part-time Jobs & Future Career)	仕事についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	15 Marriage & Family Life	結婚観についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test I	会話テスト	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	16 People! / Speech Advice & Video	個性についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	17 Sightseeing in Japan / Speech Group 1	観光についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	18 Holidays & Special Days / Speech Group 2	祝日についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	19 Big Issues / Speech Group 3	時事問題についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	20 End of the Semester & After Graduation / Speech Group 4	学期終了後についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test II	会話テスト2	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Achievement Test, Units 11-20	学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	No Textbook / Class Prints Only		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	20%会話テスト1 20%会話テスト2 10%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 15% 学習到達確認
-----------	---

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	2
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	The class will cover speaking and listening skills. Students will work in pair and small groups practicing realistic everyday and complex English conversation. 基本的な英会話力の向上をめざす。ペアワークやグループワークなどを通じて、よりリアルな英会話ができるように毎回の授業で練習する。
到達目標	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills.
授業方法と留意点	Students will be encouraged to use and practice their newly acquired English speaking listening and comprehension skills in pairs or small groups. 毎回覚えたことを積極的に使用していくことが望まれる。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction and review of semester I	Students will all skills studied in the first semester.	Students should study the content of the days lesson
	2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson
	3	Likes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
	4	Dislikes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
	5	The future	Discussing future jobs, lifestyles and dreams.	Students should study the content of the days lesson
	6	The Past	Discussing past experiences and leisure activities.	Students should study the content of the days lesson
	7	Mid semester review and test	Review and consolidation of all skills studied and a short test.	Students should study the content of the days lesson
	8	Describing people	Giving and receiving personal descriptions.	Students should study the content of the days lesson
	9	Eating out and food	Discussing skills used in eating out and food types.	Students should study the content of the days lesson
	10	Restaurant role play	Students practicing eating out in a restaurant situation.	Students should study the content of the days lesson
	11	Review	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
	12	What's that?	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
	13	Dreams	Students will have an oral written and listening test.	Students should study the content of the days lesson
	14	Review	Review	Students should study the content of the days lesson
	15	Summer Holiday Plans	Discussing summer holiday plans	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand Success (New Edition)	Helgesen, Brown, Wiltshier	Pearson and Longman
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	スピーチ練習・・・20% 毎回の授業で行う小テスト・・・20% 宿題・・・40% 学習到達確認テスト・・・20%
-----------	---

学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	3
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills. The class will cover speaking and listening skills. Students will work in pair and small groups practicing realistic everyday and complex English conversation. 基本的な英会話力の向上をめざす。ペアワークやグループワークをしながらよりリアルな状況で英会話ができるようにする。
到達目標	By the end of this course students should have acquired new techniques and vocabulary which will provide them with the skills and confidence to communicate successfully in English.
授業方法と留意点	Students will be encouraged to use and practice their newly acquired English speaking listening and comprehension skills in pairs or small groups. 毎回修得した英語の表現などを積極的に使用することが望まれる。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC のスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	People we Admire	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Simple past of the "be" verb.	Students should study the content of the days lesson
3	People we Admire	Presentation Skills. Mini-Presentation 1: Describing someone you admire.	Students should study the content of the days lesson
4	At a Supermarket	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Count and Noncount nouns Group speaking task	Students should study the content of the days lesson
5	At a Supermarket	Presentation Skills. Mini-Presentation 2: Teaching a recipe to the class.	Students should study the content of the days lesson
6	Health Problems	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: "Should" for giving advice. Group speaking task	Students should study the content of the days lesson
7	Health Problems	Presentation Skills. Mini-Presentation 3: How to treat a health problem	Students should study the content of the days lesson
8	Midterm Assessment Activity	Students will complete a short written assignment to demonstrate their understanding the material presented in class.	Students should study the content of the days lesson
9	Midterm Speaking Assessment Activity	Students will work with a partner to do a short speaking activity to demonstrate their understanding of the material presented in class.	Students should study the content of the days lesson
10	Cities	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Wh-Questions with the past of the "be" verb.	Students should study the content of the days lesson
11	Cities	Presentation Skills. Mini-Presentation 4: Vacation Recommendation. Describing where to go and why.	Students should study the content of the days lesson
12	Travel Plans	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar exercise: Future plans with "be going to" and "might". Group speaking task.	Students should study the content of the days lesson
13	Travel Plans	Presentation Skills. Mini-Presentation 5: Your plans for the Spring Vacation	Students should study the content of the days lesson
14	Final Assessment Activity	Students will complete a short written assignment to demonstrate their understanding of all the material presented in the course.	Students should study the content of the days lesson
15	Final Speaking Assessment Activity	Students will work with a partner to complete a short speaking assignment which will demonstrate their understanding of the speaking skills presented in this course.	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Stretch 1 ISBN 978-0-19-460312-6	Susan Stempleski	Oxford
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Homework Assignments 10% Classwork 35% Mini-Presentations 15% Midterm Assessments 20% Final Assessments 20%			
学生への メッセージ	Prepare for your future by studying today.			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	4
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	授業は全て英語で行います。 会話力、TOEICの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。
到達目標	ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。
授業方法と留意点	講義、演習、ロールプレイ。 ノートを取るので、筆記用具を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加(ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ) 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	5
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills. The class will cover speaking and listening skills. Students will work in pair and small groups practicing realistic everyday and complex English conversation. 基本的な英会話力の向上をめざす。ペアワークやグループワークをしながらよりリアルな状況で英会話ができるようにする。
到達目標	By the end of this course students should have acquired new techniques and vocabulary which will provide them with the skills and confidence to communicate successfully in English.
授業方法と留意点	Students will be encouraged to use and practice their newly acquired English speaking listening and comprehension skills in pairs or small groups. 毎回修得した英語の表現などを積極的に使用することが望まれる。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC のスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	Review Activity based on the material from Semester 1.	Students should study the content of the days lesson
	2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson
	3	Shopping for clothes	Talking about clothes. Making comparisons. Comparing opinions.	Students should study the content of the days lesson
	4	Describing People 1	Vocabulary to describe physical appearance. Describing friends and family members.	Students should study the content of the days lesson
	5	Describing People 2	Vocabulary to describe personality types. Describing a persons personality.	Students should study the content of the days lesson
	6	Talking about Cities	Discussing Local Attractions. Giving Advice. Giving a mini presentation on a city	Students should study the content of the days lesson
	7	Midterm Review and Assessment Exercises	Review of Units 7-9	Students should study the content of the days lesson
	8	Places Around Town 1	Giving Directions. Asking for directions Speaking Strategy: Confirmation Checks	Students should study the content of the days lesson
	9	Places Around Town 2	Role Play	Students should study the content of the days lesson
	10	Making Clarification Checks	Students will learn how to make clarification checks during conversation to help their understanding. Group work Activities.	Students should study the content of the days lesson
	11	Vacation Activities	Students will describe past vacations as well as future vacation plans in small groups. Eye contact and body posture will be emphasised.	Students should study the content of the days lesson
	12	The economy	Students will discuss various companies, and learn vocabulary and word families necessary to describe their business activities.	Students should study the content of the days lesson
	13	Speech Preparation	Draft of students speech will be checked. Presentation skills will be practiced.	Students should study the content of the days lesson
	14	Speech	Students will make a speech to the class on a topic related to the Japanese economy, industry, or a company.	Students should study the content of the days lesson
	15	Final Review and Assessment Exercises	Review of Units 10-12	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English In Common 1		Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

基礎科目

評価方法 (基準)	スピーチ練習・・・20% 毎回の授業で行う小テスト・・・20% 宿題・・・40% 学習到達度確認テスト・・・20%
学生への メッセージ	Prepare for your future by studying today.
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	6
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アレク ニール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	In this course, the goal is to acquire the skills of everyday conversation. Learn to use basic vocabulary in conversation and other activities. It also develops knowledge about English-speaking culture, values, lifestyle, etc. このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。			
到達目標	Student pair and team communication 学生ペアとチームコミュニケーション			
授業方法と留意点	Students are give teacher worksheets and need to take notes on each lesson. 生徒は教師のワークシートを出し、各レッスンでメモを取る必要があります。			
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills 英会話スキル			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Essential English Review, Classroom Procedures, Summer Vacation (Topic Interview: Vacations)	夏休みについて語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	2	Occupations	仕事について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	3	What's playing?	娯楽について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	4	What are you going to do?	予定について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	5	TopicSchool	大学についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	6	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	7	Conversation Test I	会話テスト 1	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	8	How much is this?	買い物について語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	9	How do you make it?	手順を説明する	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	10	Opinions and Music	好みについて語る	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	11	Topic Interview: Work	仕事についてインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	12	Speech: My Dream, My Future 3 minutes	3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	13	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	14	Conversation Test I I	会話テスト 2	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
	15	Achievement Test	学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
関連科目	英語基礎会話 b			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Teacher Worksheets		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	15% Conversation test 2 5% assignment 20% Speech 15% Approach to lesson 30% Learning reach confirmation 15%会話テスト 2 5%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 30% 学習到達確認			
学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	7
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	スコット ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	In this course students will continue to develop the basic skills in vocabulary and grammar to communicate effectively in English. Students will work in pairs and small groups and practice English in a variety of realistic situations.
到達目標	By the end of this course students should have acquired new techniques and vocabulary which will provide them with the skills and confidence to communicate successfully in English.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Course Introduction and review of semester one materials. Summer vacation discussion and activities.	Students will take part in pair and group discussions and complete activities about their summer vacations, as well as review speaking strategies from semester one.	Students should study the content of the day's lesson.
2	People We Admire	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar: Simple Past of the "be" verb. Pair Speaking Activity	Students should study the content of the day's lesson.
3	People We Admire	Presentation Skills Mini-Presentation 1: Someone you admire.	Students should study the content of the day's lesson.
4	At a Supermarket	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar: Count and Noncount nouns Group Speaking Activity	Students should study the content of the day's lesson.
5	At a Supermarket	Presentation Skills Mini-Presentation 2: Teaching a recipe to the class.	Students should study the content of the day's lesson.
6	Health Problems	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar: Using "Should" to give advice. Pair and Group Speaking Activity	Students should study the content of the day's lesson.
7	Health Problems	Presentation Skills Mini-Presentation 3: Describing how to treat a health problem.	Students should study the content of the day's lesson.
8	Midterm Assessment Activity	Students will complete a short written assignment to demonstrate their understanding of the materials covered in class.	Students should study the content of the day's lesson.
9	Midterm Speaking Assessment Activity	Students will work with a partner to complete a conversation activity demonstrating their ability to make use of speaking strategies and vocabulary presented in lessons.	Students should study the content of the day's lesson.
10	Cities	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar: Wh-Questions with past of "be" verb. Pair and Group Speaking Activity	Students should study the content of the day's lesson.
11	Cities	Presentation Skills Mini-Presentation 4: Recommending and describing your favourite city.	Students should study the content of the day's lesson.
12	Travel Plans	Vocabulary Introduction. Listening Activity. Grammar: Future Plans with "be going to" and "might". Pair and Group Speaking Activity	Students should study the content of the day's lesson.
13	Travel Plans	Presentation Skills Mini-Presentation 5: Present your plans for the Spring Vacation.	Students should study the content of the day's lesson.
14	Final Assessment Activity	Students will complete a short written assignment to demonstrate their understanding of the materials covered in class.	Students should study the content of the day's lesson.
15	Final Speaking Assessment Activity	Students will work with a partner to complete a conversation activity demonstrating their ability to make use of speaking strategies and vocabulary presented in lessons.	Students should study the content of the day's lesson.

関連科目	Drama, Skills training, English Presentation
教科書	

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Stretch 1 ISBN 978-0-19-460312-6	Susan Stempleski	Oxford
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Homework Assignments: 15% Mini-Presentations: 15% Classwork: 30% Midterm Assessment Assignments: 20% Final Assessment Assignments: 20%			
学生への メッセージ	Please relax and have a positive attitude in class! There will be weekly assessment so it's important to do your homework and participate in the class activities every week.			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	8
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アレク ニール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	In this course, the goal is to acquire the skills of everyday conversation. Learn to use basic vocabulary in conversation and other activities. It also develops knowledge about English-speaking culture, values, lifestyle, etc. このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。
到達目標	Student pair and team communication 学生ペアとチームコミュニケーション
授業方法と留意点	Students are give teacher worksheets and need to take notes on each lesson. 生徒は教師のワークシートを出し、各レッスンでメモを取る必要があります。
科目学習の効果 (資格)	English conversation skills 英会話スキル

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Essential English Review, Classroom Procedures, Summer Vacation (Topic Interview: Vacations)	Course overview	Arrive to class on time. Be ready to study and learn in English.
	2	Occupations	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 1
	3	What's playing?	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 2
	4	What are you going to do?	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 3
	5	TopicSchool	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 4
	6	Conversation Test Practice	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 5
	7	Conversation Test I	Group Conversation Task	
	8	How much is this?	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	9	How do you make it?	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 6
	10	Opinions and Music	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 7
	11	Topic Interview: Work	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 8
	12	Speech: My Dream, My Future 3 minutes	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 9
	13	Conversation Test Practice	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson Quiz 10
	14	Conversation Test I I	Individual Task, Pair Work or Group Work	Students should study the content of the day's lesson
	15	Achievement Test	Group Conversation Task	...

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Teacher Worksheets		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	15% Conversation test 2 5% assignment 20% Speech 15% Approach to lesson 30% Learning reach confirmation 15%会話テスト2 5%課題
-----------	--

	20%スピーチ 15%授業への取り組み 30% 学習到達確認
学生への メッセージ	Everyone, please enjoy talking about English. Good Luck! 皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
担当者の 研究室等	Part-time teacher room 2nd floor, Building 7 7号館2階 非常勤講師室
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	9
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	The class will cover speaking and listening skills. Students will work in pair and small groups practicing realistic everyday and complex English conversation. 基本的な英会話力の向上をめざす。ペアワークやグループワークなどを通じて、よりリアルな英会話ができるように毎回の授業で練習する。
到達目標	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills.
授業方法と留意点	Students will be encouraged to use and practice their newly acquired English speaking listening and comprehension skills in pairs or small groups. 毎回覚えたことを積極的に使用していくことが望まれる。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction and review of semester I	Students will all skills studied in the first semester.	Students should study the content of the days lesson
	2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson
	3	Likes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
	4	Dislikes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
	5	The future	Discussing future jobs, lifestyles and dreams.	Students should study the content of the days lesson
	6	The Past	Discussing past experiences and leisure activities.	Students should study the content of the days lesson
	7	Mid semester review and test	Review and consolidation of all skills studied and a short test.	Students should study the content of the days lesson
	8	Describing people	Giving and receiving personal descriptions.	Students should study the content of the days lesson
	9	Eating out and food	Discussing skills used in eating out and food types.	Students should study the content of the days lesson
	10	Restaurant role play	Students practicing eating out in a restaurant situation.	Students should study the content of the days lesson
	11	Review	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
	12	What's that?	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
	13	Dreams	Students will have an oral written and listening test.	Students should study the content of the days lesson
	14	Review	Review	Students should study the content of the days lesson
	15	Summer Holiday Plans	Discussing summer holiday plans	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English In Common 1		Pearson
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	スピーチ練習・・・20% 毎回の授業で行う小テスト・・・20% 宿題・・・40% 学習到達確認テスト・・・20%
-----------	---

学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	10
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ダニエル マリンズ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	The aim of this course is to encourage students to communicate in English, practice using vocabulary and learn other basic skills for confident self-expression in daily life settings. Students will focus on listening and speaking skills with an emphasis on using practical, everyday language.
到達目標	By the end of the course, students should be able to introduce themselves and others, talk about self, family, friends, and experiences; describe situations, places, and future plans. In addition, students should be able to complete all the required tasks and reach respective benchmarks at their level.
授業方法と留意点	Regular attendance and active participation are the two basic requirements for success in this course. All class activities will be conducted in English.
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	Review greeting people you know, using role-plays. Students share holiday experiences using past tenses.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
3	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
4	Unit 7: Making comparisons Making comparisons, particularly about clothing, using comparative adjectives. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
5	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 7 & 8 Test.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
6	Unit 8: Describing People Describing appearance and personality using 'be like' and 'look like'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
7	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary, conversation,	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.

基礎科目

	grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.		
8	Unit 9: Talking About Cities Talking about cities and local attractions using 'can' and 'can't'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
9	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
10	Unit 10: Talking About Places Talking about places around town using 'there is' and 'there are'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 9 & 10 test.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
11	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
12	Unit 11: Talking About Vacations Talking about vacations and vacation activities using the simple past. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
13	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
14	Unit 12: Talking About Future Plans Talking about future plans, careers and schools using 'going to + verb'. Complete textbook vocabulary, conversation, grammar, pronunciation, listening and reading exercises in pairs and groups.	Students will discover, practice and individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks. Units 11 & 12 test	Complete online homework (https://sc.ouponlinepractice.com/) corresponding to the unit studied in class. Students must repeat each exercise until they get a score of 100% in at least nine of the ten unit exercises.
15	Course Review and Holiday	Students will discover, practice and	Practice English 'maintenance' methods.

	Plans. Information session on group test performance and suggested methods to maintain English levels during the holidays. Holiday plans discussion using 'will' and 'going to'.	individualise the unit language targets through individual, pair, and group vocabulary, grammar, pronunciation, conversation, reading and listening tasks.		
関連科目	Drama, Skills training, English Presentation			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Smart Choice : 3rd Edition Level 1 Student Book with Online Practice, (ISBN-13: 9780194602648)	Wilson, K.	Oxford University Press
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	Class Participation / Online homework assignments (10%) Unit review tests (3x30%)			
学生への メッセージ	If you have any queries or need advice about your successful completion of the course, feel free to contact me anytime. I may also be able to answer your questions regarding overseas travel or 'homestays' particularly in Australia should you have any. Absence is not an excuse for incomplete homework tasks. Ask a classmate or email the instructor for homework details. Do not be absent for more than four lessons or you will risk failing the course. If you are more than 30 minutes late for a class, it will be counted as an absence.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	11
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブルース ライリー
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	The class will cover speaking and listening skills. Students will work in pair and small groups practicing realistic everyday and complex English conversation. 基本的な英会話力の向上をめざす。ペアワークやグループワークなどを通じて、よりリアルな英会話ができるように毎回の授業で練習する。																																																																		
到達目標	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills.																																																																		
授業方法と留意点	Students will be encouraged to use and practice their newly acquired English speaking listening and comprehension skills in pairs or small groups. 毎回覚えたことを積極的に使用していくことが望まれる。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Orientation</td><td>Orientation</td><td>Follow orientation instructions.</td></tr> <tr><td>2</td><td>Unit 7</td><td>Text and pair activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>3</td><td>Unit 7</td><td>Text and pair activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>4</td><td>Unit 8</td><td>Text and pair activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>5</td><td>Unit 8</td><td>Text and pair activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>6</td><td>Unit 9</td><td>Text and pair activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>7</td><td>Unit 9</td><td>Text and pair activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>8</td><td>Test Unit 7-9</td><td>Test</td><td>Follow test instructions.</td></tr> <tr><td>9</td><td>Unit 10</td><td>Text and pair activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>10</td><td>Unit 10</td><td>Text and pair activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>11</td><td>Unit 11</td><td>Text and pair activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>12</td><td>Unit 11</td><td>Text and pair activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>13</td><td>Unit 12</td><td>Text and pair activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>14</td><td>Unit 12</td><td>Text and pair activities.</td><td>Follow instructions as provided in class.</td></tr> <tr><td>15</td><td>Final Test</td><td>Test</td><td>Follow test instructions.</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	Orientation	Orientation	Follow orientation instructions.	2	Unit 7	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.	3	Unit 7	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.	4	Unit 8	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.	5	Unit 8	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.	6	Unit 9	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.	7	Unit 9	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.	8	Test Unit 7-9	Test	Follow test instructions.	9	Unit 10	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.	10	Unit 10	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.	11	Unit 11	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.	12	Unit 11	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.	13	Unit 12	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.	14	Unit 12	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.	15	Final Test	Test	Follow test instructions.
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	Orientation	Orientation	Follow orientation instructions.																																																																
2	Unit 7	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
3	Unit 7	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
4	Unit 8	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
5	Unit 8	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
6	Unit 9	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
7	Unit 9	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
8	Test Unit 7-9	Test	Follow test instructions.																																																																
9	Unit 10	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
10	Unit 10	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
11	Unit 11	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
12	Unit 11	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
13	Unit 12	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
14	Unit 12	Text and pair activities.	Follow instructions as provided in class.																																																																
15	Final Test	Test	Follow test instructions.																																																																
関連科目	英語基礎会話 b																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>English Firsthand 1</td><td>Helgesen, Brown, and Wiltshier</td><td>Pearson Longman</td></tr> <tr><td>2</td><td>English Firsthand 1 - Workbook</td><td>Helgesen, Brown, and Wiltshier</td><td>Pearson Longman</td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English Firsthand 1	Helgesen, Brown, and Wiltshier	Pearson Longman	2	English Firsthand 1 - Workbook	Helgesen, Brown, and Wiltshier	Pearson Longman	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English Firsthand 1	Helgesen, Brown, and Wiltshier	Pearson Longman																																																																
2	English Firsthand 1 - Workbook	Helgesen, Brown, and Wiltshier	Pearson Longman																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	スピーチ練習・・・20% 毎回の授業で行う小テスト・・・20% 宿題・・・40% 学習到達確認テスト・・・20%																																																																		
学生へのメッセージ	Please participate fully in pair activities, and enjoy the class.																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																																																																		

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	12
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

基礎科目

授業概要・目的	授業は全て英語で行います。 会話力、TOEICの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。
到達目標	ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。
授業方法と留意点	講義、演習、ロールプレイ。 ノートを取るので、筆記用具を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	自己紹介	自己紹介 授業の説明 ロールプレイ	ノートの再確認 宿題
	2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
	15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加(ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ) 100% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)			
学生への メッセージ	頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。 授業はマナーを守って受けてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	13
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ジョン カール
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	このコースにおいて、日常会話のスキルを身につけることがゴールです。基本的な語彙の会話における使用や、その他のアクティビティを学習します。また英語圏の文化、価値観、ライフスタイルなどについての知識を養います。
到達目標	相互コミュニケーション
授業方法と留意点	学生は毎回の授業にテキスト、ワークブック、ノートを持参すること。
科目学習の効果 (資格)	英会話スキル

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	11 Summer Vacation	夏休みについてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
2	12 Family & Home	家族についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
3	13 Eating Out	外食についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
4	14 Work (Part-time Jobs & Future Career)	仕事についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
5	15 Marriage & Family Life	結婚観についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
6	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
7	Conversation Test I	会話テスト	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
8	16 People! / Speech Advice & Video	個性についてのインタビュー	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
9	17 Sightseeing in Japan / Speech Group 1	観光についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
10	18 Holidays & Special Days / Speech Group 2	祝日についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
11	19 Big Issues / Speech Group 3	時事問題についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
12	20 End of the Semester & After Graduation / Speech Group 4	学期終了後についてのインタビュー/3分スピーチ、私の夢	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
13	Conversation Test Practice	会話テストの練習	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
14	Conversation Test II	会話テスト2	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。
15	Achievement Test, Units 11-20	学習到達確認	学生は毎回の授業にテキスト、ノートを持参すること。

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	No Textbook / Class Prints Only		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	20%会話テスト1 20%会話テスト2 10%課題 20%スピーチ 15%授業への取り組み 15% 学習到達確認
-----------	---

学生へのメッセージ	皆さん、英語を話すことを楽しんでください。Good Luck!
-----------	---------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	14
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	ブライアン スレーター
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	The class will cover speaking and listening skills. Students will work in pair and small groups practicing realistic everyday and complex English conversation. 基本的な英会話力の向上をめざす。ペアワークやグループワークなどを通じて、よりリアルな英会話ができるように毎回の授業で練習する。
到達目標	The aim of this course will be to provide an opportunity for students to practice and improve their everyday basic English communication skills.
授業方法と留意点	Students will be encouraged to use and practice their newly acquired English speaking listening and comprehension skills in pairs or small groups. 毎回覚えたことを積極的に使用していくことが望まれる。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC などのスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction and review of semester I	Students will all skills studied in the first semester.	Students should study the content of the days lesson
	2	Review of summer holiday	Discussion of summer holiday activities.	Students should study the content of the days lesson
	3	Likes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
	4	Dislikes	Expressing preferences.	Students should study the content of the days lesson
	5	The future	Discussing future jobs, lifestyles and dreams.	Students should study the content of the days lesson
	6	The Past	Discussing past experiences and leisure activities.	Students should study the content of the days lesson
	7	Mid semester review and test	Review and consolidation of all skills studied and a short test.	Students should study the content of the days lesson
	8	Describing people	Giving and receiving personal descriptions.	Students should study the content of the days lesson
	9	Eating out and food	Discussing skills used in eating out and food types.	Students should study the content of the days lesson
	10	Restaurant role play	Students practicing eating out in a restaurant situation.	Students should study the content of the days lesson
	11	Review	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
	12	What's that?	Review and consolidation of all skills studied in the semester.	Students should study the content of the days lesson
	13	Dreams	Students will have an oral written and listening test.	Students should study the content of the days lesson
	14	Review	Review	Students should study the content of the days lesson
	15	Summer Holiday Plans	Discussing summer holiday plans	Students should study the content of the days lesson

関連科目	英語基礎会話 b
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Firsthand Success (New Edition)	Helgesen, Brown, Wiltshier	Pearson and Longman
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	スピーチ練習・・・20% 毎回の授業で行う小テスト・・・20% 宿題・・・40% 学習到達確認テスト・・・20%
-----------	---

学生へのメッセージ	Prepare for your future by studying today.
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	海外語学研修	科目名 (英文)	Overseas Language Training
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	この研修は、語学力 (英語力) の向上と研修地の歴史・文化およびそこで生活する人々に触れ、国際的な知識と理解を深め、広範囲な国の人々と協力し合える国際感覚を身につけることを目的とする。研修先での授業は、月曜日から金曜日に実施し、語学力別に分けたクラス内で行われる。宿泊はホームステイ形式である。費用は45万円前後を予定 (為替レートにより変動の可能性あり)。*詳細は、4月の募集ガイダンスで周知する。																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研修先の歴史や文化を前もって調査することで、現地での研修を深められるようになる。 ・一緒に研修に行く他の学生と交流し、協力して研修を成功させる。 																
授業方法と留意点	<p>4月 募集ガイダンス (日時等の詳細はポータルおよび掲示で連絡する)、事前学習としては事前のガイダンス出席が義務付けられている。また、事後には成果報告およびレポート提出を要請されている。</p> <p>5月 申込書の提出</p> <p>5月下旬 派遣学生の決定および履修申請</p> <p>6月～8月 事前ガイダンスを実施 (全3回)</p> <p>8月上旬 結団式</p> <p><研修スケジュール> [2週間コース] 8月中旬～8月下旬 (予定)</p> <p>[3週間コース] 8月中旬～9月上旬 (予定)</p> <p>9月下旬～10月上旬 (予定) 成果報告会</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>これまでに学んだ英語の知識を、実際に使うための練習を多角的に行う。</p> <p>事前学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外渡航に関する基本的なガイダンス ・英語多読・英会話など、学内の教材や設備のできる英語学習 (ガイダンス時に説明) ・インターネット上でもたくさんの学習サイトがあるので、渡航前に自分の中の英語の出力スピードや反応を活性化させておく。 <p>海外研修中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業はもちろん、授業外でも、講師やスタッフ、ホストファミリーなどに自分から英語で話してコミュニケーションをすすめる。 <p>事後学習課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同時期に開催される他の研修参加者と共に、成果報告会でのプレゼンテーションを行う。 ・レポート。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	事前学習・成果報告会のプレゼン・レポート (30%) 研修先での成績 (70%)																
学生へのメッセージ	ちがう学年、学部の学生と、切磋琢磨しながら成長できます。 海外研修は、自分の中のリーダーシップの芽生えが実感できるチャンスです。																
担当者の研究室等	国際交流センター																
備考	・参加学生は事前ガイダンスに必ず出席すること。欠席の場合は、事前に国際交流センターへ連絡をしてください。																

- | | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none">・事前に参加申込みをし、参加許可を得た者に限り履修できる。通常の履修申請とは方法が異なるので注意。・各学部 of 期末試験等のスケジュールを確認の上、履修を検討すること。学部・学年によっては、今年度は受講できない場合もあります。 |
|--|---|

科目名	経済情報論	科目名(英文)	Economics of Information
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	A B C D E F
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	岸田 未来
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	経済学を学習する上で不可欠な、パソコンによる情報処理の基礎を学び、経済学の学習や経済分析に役立つ情報リテラシーおよび実践的なデータ処理方法を身につけることを目標とする。より具体的には、①電子メール・ウェブサイトの利用法、②Microsoft Wordによる文書・レポート作成、③Microsoft Excelによる表作成・基礎的データ分析、④Microsoft PowerPointによるプレゼンテーション法、⑤ネットを活用した経済情報の収集と分析について学ぶ。
到達目標	授業で取得した情報リテラシーおよび実践的なデータ処理方法をもとに、経済情報収集と分析能力をスムーズに行い、その成果をレポートやプレゼンテーション、また卒業論文の作成などとしてまとめることができる。
授業方法と留意点	各自パソコンを実際に操作しながら授業を行う(実習形式)。
科目学習の効果(資格)	パソコンによる情報収集、レポート作成やプレゼンを通して、自分の考えを正確かつ効果的に他者に伝えることができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
			授業後、課題の提出
1	イントロダクション	大学の情報環境について。Windowsの基礎	授業後、課題の提出
2	パソコンの基礎を学ぶ①	電子メールの使い方	授業後、課題の提出
3	パソコンの基礎を学ぶ②	インターネットでの情報検索、パソコンの仕組みとファイル操作	授業後、課題の提出
4	Microsoft Word①	Wordによる文書作成	授業後、課題の提出
5	Microsoft Word②	数式の入力と表作成	授業後、課題の提出
6	Microsoft Excel①	Excelの概要とデータの作成	授業後、課題の提出
7	Microsoft Excel②	表・グラフの作成とデータベース機能	授業後、課題の提出
8	Microsoft Excel③	関数の利用とデータ分析	授業後、課題の提出
9	Microsoft PowerPoint①	PowerPointの概要とスライド作成	授業後、課題の提出
10	Microsoft PowerPoint②	プレゼンテーションの要領と資料作成	授業後、課題の提出
11	経済統計情報の利用	インターネット上から得たデータを使い、初歩的な統計データの加工を行う	授業後、課題の提出
12	論文・資料の検索	インターネット上で閲覧できる論文・資料の検索方法を学ぶ	授業後、課題の提出
13	日本の経済政策を学ぶ	政府のホームページから、経済政策に関する情報を得る	授業後、課題の提出
14	経済情報にアクセスする	インターネット上でさまざまな経済情報を取得する	授業後、課題の提出
15	レポートの作成	これまで得た情報から、レポートを作成する	授業後、課題の提出

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	30時間アカデミック	情報リテラシー Office2013	杉本くみ子、大澤栄子
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	期末レポート50%、授業内での課題50%を総合的に評価する
----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	分からない点などは、遠慮なく積極的に質問するようにしてください。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	1号館7階 岸田准教授室(経済学部)
----------	--------------------

備考	
----	--

科目名	経済情報論	科目名(英文)	Economics of Information
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	G H I J K L M
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	牧野 邦昭
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	経済学を学習する上で不可欠なパソコンによる情報処理の基礎を学び、経済学の学習や経済分析に役立つ情報リテラシーおよび実践的なデータ処理方法を身につけることを目標とする。より具体的には、電子メール・ウェブサイトの利用法、Microsoft Wordによる文書・レポート作成、Microsoft Excelによる表作成・基礎的データ分析、Microsoft PowerPointによるプレゼンテーション法、ネットを活用した経済情報の収集と分析について学ぶ。
到達目標	パソコンに慣れ、パソコンによる情報収集、レポート作成やプレゼンを通して、自分の考えを正確かつ効果的に他者に伝えることができるようになる。
授業方法と留意点	各自パソコンを実際に操作しながら授業を行う(実習形式)。
科目学習の効果(資格)	大学の授業やゼミで必要なパソコンの技能や情報収集の仕方を習得できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	大学の情報環境について	授業後、課題の提出
	2	パソコンの基礎を学ぶ①	電子メールの使い方	授業後、課題の提出
	3	パソコンの基礎を学ぶ②	インターネットでの情報検索、パソコンの仕組みとファイル操作	授業後、課題の提出
	4	Microsoft Word①	Wordによる文書作成	授業後、課題の提出
	5	Microsoft Word②	Wordによる文書作成の続き、表作成	授業後、課題の提出
	6	Microsoft Word③	Wordによる各種機能	授業後、課題の提出
	7	Microsoft Excel①	Excelの概要とデータの作成	授業後、課題の提出
	8	Microsoft Excel②	表・グラフの作成	授業後、課題の提出
	9	Microsoft Excel③	データベース機能	授業後、課題の提出
	10	Microsoft Excel④	関数の利用とデータ分析	授業後、課題の提出
	11	Microsoft PowerPoint①	PowerPointの概要	授業後、課題の提出
	12	Microsoft PowerPoint②	スライドの作成	授業後、課題の提出
	13	Microsoft PowerPoint②	プレゼンテーション資料の作成	授業後、課題の提出
	14	論文・資料の検索	インターネット上で閲覧できる論文・資料の検索方法を学ぶ	授業後、課題の提出
	15	まとめ	期末レポートの作成、提出	授業後、課題の提出

関連科目	特になし
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	情報リテラシーOffice 2013	杉本くみ子・大澤栄子	実教出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	期末レポート 50%、授業内での課題 50%を総合的に評価する。4回以上欠席した人は期末レポートの採点対象外とする。
----------	--

学生へのメッセージ	分からない点などは、遠慮なく積極的に質問するようにしてください。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等備考	1号館7階 牧野准教授室(経済学部)
------------	--------------------

科目名	経済情報論	科目名(英文)	Economics of Information
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	NOPQRST
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	郭進
ディプロマポリシー(DP)	DP1○, DP2○, DP3○, DP4○, DP5◎, DP6○, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	この授業の目的は、経済学の学習に役立つ情報処理の方法を身につけること。		
到達目標	この授業を履修することによって、次のスキルを習得できる。①電子メールやインターネットの利用方法。とりわけ、経済に関連するデータや情報をネットワークで検索・収集する能力を習得する。② Microsoft Word を学習することによって、レポートや卒業論文などを作成に必要なスキルを身につける。③ Microsoft Excel を学習することによって、表の作成とデータ分析の基礎をマスターする。④ Microsoft PowerPoint を学習することによって簡単なプレゼンテーションができる。		
授業方法と留意点	各種の応用ソフトウェアを使った演習を行う。		
科目学習の効果(資格)	この授業で習得した情報処理のスキルは、大学生活だけではなく社会人として働くときにも役に立つ。		
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等 事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	大学の情報環境(解説); Windowsの操作など(演習) 授業後、アンケートを実施。
	2	コンピューターのしくみと文書入力	コンピューターのしくみや二進数と十進数など(解説); ファイル操作、日本語テキスト入力(演習) 授業後、課題の提出
	3	電子メールの利用とインターネットの基礎	インターネットの利用とネチケット(解説); 電子メールの使い方(演習) 授業後、課題の提出
	4	情報セキュリティと情報検索	情報セキュリティと著作権(解説); インターネットで図書、文献、経済データなどの検索方法(演習) 授業後、課題の提出
	5	Microsoft Word (I)	Wordの概要と書式の設定(解説); Wordによる文書作成(演習) 授業後、課題の提出
	6	Microsoft Word (II)	図表の作成、文章の表現力アップの方法(解説); Wordによる文書作成(演習) 授業後、課題の提出
	7	Microsoft Word (III)	大学レポートの作成方法(解説); Wordによる課題の提出(演習) 授業後、課題の提出
	8	Microsoft Excel (I)	Excelの概要とデータの作成(解説); Excelによるデータの作成(演習) 授業後、課題の提出
	9	Microsoft Excel (II)	表とグラフの作成とデータベース機能(解説); Excelによる表とグラフの作成(演習) 授業後、課題の提出
	10	Microsoft Excel (III)	様々な関数の利用(解説); Excelによるデータ処理(演習) 授業後、課題の提出
	11	Microsoft Excel (IV)	簡単な統計分析の方法(解説); データに基づく初歩的な統計分析を行う(演習) 授業後、課題の提出
	12	Microsoft PowerPoint (I)	PowerPointの概要とスライド作成(解説); PowerPointによるスライド作成(演習)
	13	Microsoft PowerPoint (II)	プレゼンテーションの要領とポイント(解説); PowerPointによるプレゼンテーション作成(演習) 授業後、課題の提出
	14	経済統計情報の利用とWord、Excel、Powerpointの連携	経済学の勉強に必要な経済データの収集方法(解説); Word、Excel、Powerpointの連携(演習) 授業後、課題の提出
	15	総まとめとプレゼンテーション	全体の総括(解説); これまでに学んだ知識に基づき、簡単なプレゼンテーションを行う(演習)
関連科目	特になし		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1	30時間アカデミック 情報リテラシーOffice2013	杉本くみ子 大澤栄子 実教出版
	2		
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名 出版社名
	1		
	2		
	3		
評価方法(基準)	授業での提出課題50%、期末レポート50%の割合で総合的に評価する。ただし、無断欠席が3回以上ある場合には、成績評価できない。		
学生へのメッセージ	経済学を学習するには情報処理の能力が不可欠である。毎回出席してください。疑問点や不明な点は積極的に質問してください。		
担当者の研究室等	1号館7階 郭准教授室(経済学部)		
備考			

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	ア
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高尾 尚武
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 式の展開・因数分解ができる。 (2) 方程式・不等式を解くことができる。 (3) 場合の数・確率の計算ができる。																																																																		
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>整式の計算 (1)</td> <td>・計算の法則 ・因数分解</td> <td>第 1 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>整式の計算 (2)</td> <td>・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理</td> <td>第 1 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>分数式・無理式 (1)</td> <td>・通分の規則</td> <td>第 2 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>分数式・無理式 (2)</td> <td>・平方根、立方根 ・有理化の計算</td> <td>第 2 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>1 次方程式 (1)</td> <td>・等式の基本法則</td> <td>第 3 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>1 次方程式 (2)</td> <td>・方程式の導き方 ・解き方</td> <td>第 3 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>1 次不等式 (1)</td> <td>・不等式の基本法則</td> <td>第 3 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>1 次不等式 (2)</td> <td>・不等式の導き方 ・解き方</td> <td>第 3 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連立 1 次方程式 (1)</td> <td>・連立方程式の導き方</td> <td>第 4 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連立 1 次方程式 (2)</td> <td>・解き方 ・基本法則</td> <td>第 4 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>連立 1 次方程式 (3)</td> <td>・消去法</td> <td>第 4 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>場合の数 (1)</td> <td>・数え上げの原則</td> <td>第 5 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>場合の数 (2)</td> <td>・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ</td> <td>第 5 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>確率 (1)</td> <td>・確率の計算</td> <td>第 6 章の間 課題レポート</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>確率 (2)</td> <td>・くりかえす試行の確率</td> <td>第 6 章の間 課題レポート</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第 1 章の間 課題レポート	2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第 1 章の間 課題レポート	3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の間 課題レポート	4	分数式・無理式 (2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	第 2 章の間 課題レポート	5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の間 課題レポート	6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の間 課題レポート	7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の間 課題レポート	8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の間 課題レポート	9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の間 課題レポート	10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の間 課題レポート	11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の間 課題レポート	12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の間 課題レポート	13	場合の数 (2)	・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	第 5 章の間 課題レポート	14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の間 課題レポート	15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の間 課題レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第 1 章の間 課題レポート																																																																
2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第 1 章の間 課題レポート																																																																
3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の間 課題レポート																																																																
4	分数式・無理式 (2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	第 2 章の間 課題レポート																																																																
5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の間 課題レポート																																																																
6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の間 課題レポート																																																																
7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の間 課題レポート																																																																
8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の間 課題レポート																																																																
9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の間 課題レポート																																																																
10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の間 課題レポート																																																																
11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の間 課題レポート																																																																
12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の間 課題レポート																																																																
13	場合の数 (2)	・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	第 5 章の間 課題レポート																																																																
14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の間 課題レポート																																																																
15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の間 課題レポート																																																																
関連科目	数学基礎Ⅱ、統計学、経済学関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>数学基礎</td> <td>摂南大学数学教室</td> <td>学術図書出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	数学基礎	摂南大学数学教室	学術図書出版社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	数学基礎	摂南大学数学教室	学術図書出版社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	演習 (30%)・期末テスト (70%) で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分です授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。																																																																		
担当者の研究室等	3号館3階 数学準備室																																																																		
備考																																																																			

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	早味 俊夫
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 式の展開・因数分解ができる。 (2) 方程式・不等式を解くことができる。 (3) 場合の数・確率の計算ができる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余、因数の定理	第 1 章の問 課題レポート
3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の問 課題レポート
4	分数式・無理式 (2)	・平方根、立方根 ・有理化の計算	第 2 章の問 課題レポート
5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート
6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート
7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート
8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート
9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の問 課題レポート
10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の問 課題レポート
11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の問 課題レポート
12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の問 課題レポート
13	場合の数 (2)	・並べ方、選び方 ・順列、組み合わせ	第 5 章の問 課題レポート
14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の問 課題レポート
15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の問 課題レポート

関連科目	数学基礎 II、統計学、経済学関連科目
------	---------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	演習 (30%)・期末テスト (70%) で評価する。
-----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	3号館 3階 数学研究室
備考	

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	ウ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高尾 尚武
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 式の展開・因数分解ができる。 (2) 方程式・不等式を解くことができる。 (3) 場合の数・確率の計算ができる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	整式の計算 (1)	・計算の法則 ・因数分解	第 1 章の間 課題レポート
	2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第 1 章の間 課題レポート
	3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の間 課題レポート
	4	分数式・無理式 (2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	第 2 章の間 課題レポート
	5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の間 課題レポート
	6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の間 課題レポート
	7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の間 課題レポート
	8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の間 課題レポート
	9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の間 課題レポート
	10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の間 課題レポート
	11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の間 課題レポート
	12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の間 課題レポート
	13	場合の数 (2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	第 5 章の間 課題レポート
	14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の間 課題レポート
	15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の間 課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅱ、統計学、経済学関連科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎	摂南大学数学教室	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	演習 (30%)・期末テスト (70%) で評価する。
-----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分です授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
-----------	---

担当者の研究室等	3号館3階 数学準備室
備考	

科目名	数学基礎 I	科目名 (英文)	Basic Mathematics I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	エ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	楊 焜
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入學選抜試験も様々にわたることから、入學時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	(1) 式の展開・因数分解ができる。 (2) 方程式・不等式を解くことができる。 (3) 場合の数・確率の計算ができる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果 (資格)	問題を定式化すること、定式化できれば論理的に解けることを体得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	整式の計算 (2)	・整式の割り算 ・剰余, 因数の定理	第 1 章の問 課題レポート
3	分数式・無理式 (1)	・通分の規則	第 2 章の問 課題レポート
4	分数式・無理式 (2)	・平方根, 立方根 ・有理化の計算	第 2 章の問 課題レポート
5	1 次方程式 (1)	・等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート
6	1 次方程式 (2)	・方程式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート
7	1 次不等式 (1)	・不等式の基本法則	第 3 章の問 課題レポート
8	1 次不等式 (2)	・不等式の導き方 ・解き方	第 3 章の問 課題レポート
9	連立 1 次方程式 (1)	・連立方程式の導き方	第 4 章の問 課題レポート
10	連立 1 次方程式 (2)	・解き方 ・基本法則	第 4 章の問 課題レポート
11	連立 1 次方程式 (3)	・消去法	第 4 章の問 課題レポート
12	場合の数 (1)	・数え上げの原則	第 5 章の問 課題レポート
13	場合の数 (2)	・並べ方, 選び方 ・順列, 組み合わせ	第 5 章の問 課題レポート
14	確率 (1)	・確率の計算	第 6 章の問 課題レポート
15	確率 (2)	・くりかえす試行の確率	第 6 章の問 課題レポート

関連科目	数学基礎 II、統計学、経済学関連科目
------	---------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	演習 (30%)・期末テスト (70%) で評価する。
-----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ア
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西脇 純一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられるようになる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	関数とグラフ	・ 座標の表し方	第7章の問 課題レポート
2	1次関数	・ グラフの書き方 ・ 傾き, 切片	第7章の問 課題レポート
3	2次関数(1)	・ グラフの書き方 ・ 頂点, 対称軸	第7章の問 課題レポート
4	2次関数(2)	・ 最大値, 最小値 ・ 応用例	第7章の問 課題レポート
5	無理関数	・ 逆関数 ・ 定義域	第7章の問 課題レポート
6	数列(1)	・ 等差数列 ・ 和の公式	第8章の問 課題レポート
7	数列(2)	・ 等比数列 ・ 和の公式	第8章の問 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・ 変化率 ・ 微分係数, 接線	第9章の問 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・ 導関数 ・ 極大値, 極小値	第9章の問 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・ 関数の増加, 減少 ・ 関数のグラフ	第9章の問 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・ 最大値, 最小値 ・ 応用問題	第9章の問 課題レポート
12	積分(1)	・ 不定積分 ・ 原始関数	第10章の問 課題レポート
13	積分(2)	・ 区分求積法 ・ 定積分	第10章の問 課題レポート
14	積分(3)	・ 微積分の基本定理 ・ 定積分の計算	第10章の問 課題レポート
15	積分(4)	・ 面積, 体積 ・ 応用問題	第10章の問 課題レポート

関連科目 数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 演習(30%)・期末テスト(70%)で評価する。

学生へのメッセージ 数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。

担当者の研究室等備考 3号館3階 数学準備室

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	早味 俊夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられるようになる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き, 切片	第7章の間 課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点, 対称軸	第7章の間 課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値, 最小値 ・応用例	第7章の間 課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の間 課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の間 課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の間 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数, 接線	第9章の間 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値, 極小値	第9章の間 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加, 減少 ・関数のグラフ	第9章の間 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値, 最小値 ・応用問題	第9章の間 課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の間 課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の間 課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の間 課題レポート
15	積分(4)	・面積, 体積 ・応用問題	第10章の間 課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	演習(30%)・期末テスト(70%)で評価する。
----------	--------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ウ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	早味 俊夫
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられるようになる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	第7章の問 課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	第7章の問 課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	第7章の問 課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の問 課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の問 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線	第9章の問 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値、極小値	第9章の問 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	第9章の問 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値、最小値 ・応用問題	第9章の問 課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の問 課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の問 課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の問 課題レポート
15	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	第10章の問 課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	演習(30%)・期末テスト(70%)で評価する。
----------	--------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等備考	3号館3階 数学準備室
------------	-------------

科目名	数学基礎Ⅱ	科目名(英文)	Basic Mathematics II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	エ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陽 焜
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	高校でのカリキュラムの多岐化、大学入学以前の教育課程の多面化、さらに入学選抜試験も様々にわたることから、入学時点での数学習熟度にはかなりのバラツキが認められる。一方で経営・経済系科目、情報系科目の多くでは、かなりの数学的知識、力量を前提にして授業が進められる。この間隙を埋めるため、最低限必要な数学的素養を大学初年度で確実に身につけることをこの授業の目的とする。
到達目標	1次関数、2次関数のグラフの復習を出発点として、様々な関数の変化の様子をとらえられるようになる。
授業方法と留意点	テキストに基づいた講義が中心。理解の促進と達成の度合いをみるため演習を適時行う。
科目学習の効果(資格)	数学基礎Ⅰに引き続き、筋道をたてた論理的思考と計算技量を習得する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	1次関数	・グラフの書き方 ・傾き、切片	第7章の間 課題レポート
3	2次関数(1)	・グラフの書き方 ・頂点、対称軸	第7章の間 課題レポート
4	2次関数(2)	・最大値、最小値 ・応用例	第7章の間 課題レポート
5	無理関数	・逆関数 ・定義域	第7章の間 課題レポート
6	数列(1)	・等差数列 ・和の公式	第8章の間 課題レポート
7	数列(2)	・等比数列 ・和の公式	第8章の間 課題レポート
8	整関数の微分(1)	・変化率 ・微分係数、接線	第9章の間 課題レポート
9	整関数の微分(2)	・導関数 ・極大値、極小値	第9章の間 課題レポート
10	整関数の微分(3)	・関数の増加、減少 ・関数のグラフ	第9章の間 課題レポート
11	整関数の微分(4)	・最大値、最小値 ・応用問題	第9章の間 課題レポート
12	積分(1)	・不定積分 ・原始関数	第10章の間 課題レポート
13	積分(2)	・区分求積法 ・定積分	第10章の間 課題レポート
14	積分(3)	・微積分の基本定理 ・定積分の計算	第10章の間 課題レポート
15	積分(4)	・面積、体積 ・応用問題	第10章の間 課題レポート

関連科目	数学基礎Ⅰ、統計学、経済学関連科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	数学基礎	摂南大学数学研究室 編	学術図書出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	演習(30%)・期末テスト(70%)で評価する。
----------	--------------------------

学生へのメッセージ	数学については各自様々な思いを持っていると思いますが、あらためて出発する新鮮な気分で授業に参加して下さい。どのような些細なことでもかまいませんから、遠慮することなくいつでも質問してください。数学の学習は積み重ねである一方で、後になって以前不明だったことが理解できることもよくあります。続けることで充実した初年度にしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	3号館3階 数学研究室
備考	

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practice of Sports Science I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	河瀬 泰治
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。																																																																		
到達目標	①健康・体力の維持増進 ②技能を向上させることができる ③スポーツのルールやマナーを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う（雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある）。 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目（バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど） ・屋外種目（サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど） ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので、必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）</td> <td>ルールの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>体力測定①</td> <td>屋外種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>体力測定②</td> <td>体育館種目</td> <td>測定記録評価</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技</td> <td>種目の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技</td> <td>ルールの解説、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技</td> <td>攻防技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技</td> <td>攻防技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム（グルーピング・成績記録）</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム（グルーピング・成績記録）</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム（グルーピング・成績記録）</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム（グルーピング・成績記録）</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム（グルーピング・成績記録）</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム（グルーピング・成績記録）</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	ルールの理解	2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価	3	体力測定②	体育館種目	測定記録評価	4	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス（履修上の注意やコース種目分け）	ルールの理解																																																																
2	体力測定①	屋外種目	測定記録評価																																																																
3	体力測定②	体育館種目	測定記録評価																																																																
4	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム（グルーピング・成績記録）	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの実論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の実論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性・集中度を示す。																																																																		
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来ること。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館1F 体育館事務室																																																																		
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）																																																																		

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名(英文)	Practice of Sports Science II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	河瀬 泰治
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。																																																																		
到達目標	①健康・体力の維持増進 ②技能を向上させることができる ③スポーツのルールやマナーを理解することができる ④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる																																																																		
授業方法と留意点	実技形式で行う。(雨天の場合、他種目の実技や講義形式を行う場合がある。) 開講種目は、以下のとおりである。 ・体育館種目(バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目(サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、ゴルフ、タグラグビー、ニュースポーツなど) ※なお各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。また第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。何らかの事情で出席できない場合は、事前に体育館事務室まで連絡するように。原則として、スポーツ科学実習ⅠとⅡで同じ種目を履修することはできない。																																																																		
科目学習の効果(資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)</td> <td>ルールの理解</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>各コース別実技</td> <td>種目の概要説明、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>各コース別実技</td> <td>ルールの解説、基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>各コース別実技</td> <td>基礎技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>各コース別実技</td> <td>攻防技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>各コース別実技</td> <td>攻防技術練習</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>各コース別実技</td> <td>ゲーム(グルーピング・成績記録)</td> <td>授業内容のまとめ</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解	2	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ	3	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ	4	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ	6	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	7	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ	8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ	15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	ガイダンス(履修上の注意やコース種目分け)	ルールの理解																																																																
2	各コース別実技	種目の概要説明、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
3	各コース別実技	ルールの解説、基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
4	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
5	各コース別実技	基礎技術練習	授業内容のまとめ																																																																
6	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
7	各コース別実技	攻防技術練習	授業内容のまとめ																																																																
8	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
9	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
10	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
11	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
12	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
13	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
14	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
15	各コース別実技	ゲーム(グルーピング・成績記録)	授業内容のまとめ																																																																
関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、武道論、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	活動点50%、態度点25%、技能点25%として、総合評価する。 なお活動点とは授業への参加意欲、態度点とは積極性・集中度を示す。																																																																		
学生へのメッセージ	本科目は、実際に身体を動かすことにより上述の到達目標を目指すため、全日程出席すること。 授業への質問などは、授業前後の休憩時間または昼休みに総合体育館1F体育館事務室へ来ること。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室																																																																		
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)																																																																		

科目名	専門日本語 F I	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III O, IV O, R 科 : A O, A 科 : C O, M 科 : B2 O, E 科 : F O, C 科 : III O, VI O, L 科 : DP1 O, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科 : DP1 O, S 科 : DP1 O, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 O, W 科 : DP1 O, DP7 O, N 科 : DP1 O, DP8 ΔN : DP1 O, DP8 Δ		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	復習
	7	話し方1	話題の変え方	復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	復習
	9	話し方3	話の広げ方	復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	専門日本語 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (50%)、提出物 (50%)
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	---

科目名	専門日本語 F II	科目名 (英文)	Japanese for Specific Purposes FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III O, IV O, R 科 : A O, A 科 : C O, M 科 : B2 O, E 科 : F O, C 科 : III O, VI O, L 科 : DP1 O, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科 : DP1 O, S 科 : DP1 O, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 O, W 科 : DP1 O, DP7 O, N 科 : DP1 O, DP8 Δ N : DP1 O, DP8 Δ		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。 ビジネスマナーや、ビジネス場面で使用する日本語も学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。 ・ビジネスマナーに則った行動ができる。 ・ビジネス場面での電話応対ができる。
授業方法と留意点	授業では、ビジネスマナー、電話のかけ方／受け方、履歴書の書き方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果 (資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション ビジネスマナー 1	授業の説明 ビジネス場面での行動、言葉遣い 1	復習
	2	ビジネスマナー 2	ビジネス場面での行動、言葉遣い 2	復習
	3	ビジネスマナー 3	名刺交換、席次	復習
	4	電話のかけ方／受け方 1	電話の基本	復習
	5	電話のかけ方／受け方 2	取り次ぎ	復習
	6	電話のかけ方／受け方 3	コールバック 1	復習
	7	電話のかけ方／受け方 4	コールバック 2	復習
	8	履歴書 1	履歴書の書き方	復習
	9	履歴書 2	履歴書の作成	復習
	10	電話のかけ方／受け方 5	伝言 1	復習
	11	電話のかけ方／受け方 6	伝言 2	復習
	12	電話のかけ方／受け方 7	メモ・復唱	復習
	13	ドラマ 1	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめ。また、内容について話し合う。	復習
	14	ドラマ 2	仕事に関するドラマを視聴し、内容をまとめ。また、内容について話し合う。	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	専門日本語 F I
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
-----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	ビジネス場面で役立つ話し方／書き方を身につけ、将来に備えた練習をしましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)
----------	-------------------

備考	<p>(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。</p>
----	--

科目名	専門日本語R	科目名(英文)	Japanese for Specific Purposes R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	相手との関係や話す／書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方／書き方ができるようになることを目指す。
到達目標	・相手との関係に応じて話せる／書ける。 ・使用媒体に応じた話し方／書き方ができる。
授業方法と留意点	授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。
科目学習の効果(資格)	相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方／書き方ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の説明、様々なコミュニケーションツールとその使用	復習
	2	Eメールの書き方1	Eメールの基本	復習
	3	Eメールの書き方2	レポート提出のメール	復習
	4	Eメールの書き方3	依頼メール1	復習
	5	Eメールの書き方4	依頼メール2	復習
	6	Eメールの書き方5	問い合わせ／質問メール	復習
	7	話し方1	話題の変え方	復習
	8	話し方2	話の終わらせ方	復習
	9	話し方3	話の広げ方	復習
	10	自己PR1	自己PRとは何か	復習
	11	自己PR2	自己PR例の検討、修正1	復習
	12	自己PR3	自己PR例の検討、修正2	復習
	13	自己PR4	自分の自己PRを書く1	復習
	14	自己PR5	自分の自己PRを書く2	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	専門日本語FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(50%)、提出物(50%)
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	相手、内容、媒体に応じた効果的な話し方／書き方を勉強しましょう。
-----------	----------------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	---

科目名	日本語会話 F I	科目名 (英文)	Japanese Conversation FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本や世界的に有名な企業のビジネスケースについて知り、自国の状況やビジネスモデルについて議論する。また、授業の始めに発音練習も取り入れていく。
到達目標	さまざまなビジネスケースについて、論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。 相手に伝わる発音で話すことができる。
授業方法と留意点	グローバルに展開している企業のビジネスケースについて議論を行い、議論に必要な語彙や表現を学ぶとともに、提示されているビジネスモデルの強みや弱みなど自身の考えを深めていく。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	授業計画	1	授業概要説明 発音練習①	授業の進め方、自己紹介 発音「区切り」
2		発音練習② ビジネストピック 1-1	発音「山と丘」 ビジネスケースを読み理解する。	復習
3		発音③ ビジネストピック 1-2	発音「複合名詞」 ビジネスケースの内容を口頭でまとめる。	復習
4		発音④ ビジネストピック 1-3	発音「動詞のアクセント」 ビジネスケースに関して、自国と日本の状況について話す。	復習
5		発音⑤ ビジネストピック 1-4	発音「動詞の一語文」 ビジネスモデルについて議論する。	復習
6		発音⑥ ビジネストピック 2-1	発音「形容詞のアクセント」 ビジネスケースを読み理解する。	復習
7		発音⑦ ビジネストピック 2-2	発音「外来語のアクセント」 ビジネスケースの内容を口頭でまとめる。	復習
8		発音⑧ ビジネストピック 2-3	発音「協調」 ビジネスケースに関して、自国と日本の状況について話す。	復習
9		発音⑨ ビジネストピック 2-4	発音「同音異義語」 ビジネスモデルについて議論する。	復習
10		発音⑩ ビジネストピック 3-1	発音「特殊拍 1」 ビジネスケースを読み理解する。	復習
11		発音⑪ ビジネスケース 3-2	発音「特殊拍 2」 ビジネスケースの内容を口頭でまとめる。	復習
12		発音⑫ ビジネスケース 3-3	発音「特殊拍 3」 ビジネスケースに関して、自国と日本の状況について話す。	復習
13		ビジネスケース 3-4	ビジネスモデルについて議論する。	復習 スピーチ原稿作成
14		スピーチ準備	トピックに関するスピーチ原稿の推敲 スピーチのための発音練習	スピーチ練習
15		まとめ	スピーチ発表 授業の振り返り	復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業において課される課題 30%、授業への取り組み 30%、スピーチ発表 40%で判断する。
-----------	--

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
-----------	--------------------------------

担当者の研究室等	国際交流センター (3号館 4階)
----------	-------------------

備考	
----	--

科目名	日本語会話FⅡ	科目名(英文)	Japanese Conversation FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	日本社会におけるさまざまな問題や話題について日本語で議論する能力を伸ばす。 パワーポイントを用いた口頭発表のやり方を学ぶ。
到達目標	社会的な話題について論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。 パワーポイントを用いた視覚資料を使って効果的に発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまな問題・話題に関する資料などを読み、話し合う。 コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。
科目学習の効果(資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	トピック①	議論	復習
	2	トピック②	議論	復習
	3	トピック③	議論	復習
	4	トピック④	議論	復習
	5	トピック⑤	議論	復習
	6	トピック⑥	議論	復習
	7	トピック⑦	議論	復習
	8	トピック⑧	議論	復習
	9	トピック⑨	議論	復習
	10	トピック⑩	議論	復習
	11	学生持ち寄りのトピック①	議論 口頭発表のための論点の焦点化	復習
	12	学生持ち寄りのトピック②	議論 口頭発表のための論点の焦点化	復習
	13	口頭発表のやり方1	パワーポイントを使った視覚資料の作成時の注意点	視覚資料作成
	14	口頭発表のやり方2	視覚資料の推敲、発音練習	発表練習
	15	まとめ	口頭発表 授業の振り返り	復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
担当者の研究室等	国際交流センター(3号館4階)
備考	

科目名	日本語会話R	科目名(英文)	Japanese Conversation R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	後期	授業担当者	藤原 京佳
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本社会におけるさまざまな問題や話題について日本語で議論する能力を伸ばす。パワーポイントを用いた口頭発表のやり方を学ぶ。
到達目標	社会的な話題について論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。パワーポイントを用いた視覚資料を使って効果的に発表ができる。
授業方法と留意点	さまざまな問題・話題に関する資料などを読み、話し合う。コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う。

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	トピック②	議論	復習
3	トピック③	議論	復習
4	トピック④	議論	復習
5	トピック⑤	議論	復習
6	トピック⑥	議論	復習
7	トピック⑦	議論	復習
8	トピック⑧	議論	復習
9	トピック⑨	議論	復習
10	トピック⑩	議論	復習
11	学生持ち寄りのトピック①	議論 口頭発表のための論点の焦点化	復習
12	学生持ち寄りのトピック②	議論 口頭発表のための論点の焦点化	復習
13	口頭発表のやり方1	パワーポイントを使った視覚資料の作成時の注意点	視覚資料作成
14	口頭発表のやり方2	視覚資料の推敲、発音練習	発表練習
15	まとめ	口頭発表 授業の振り返り	復習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業で課される課題 30%、授業への取り組み 30%、口頭発表 40%で判断する。
----------	---

学生へのメッセージ	受講生の日本語レベル等によって内容を変更することがあります。
-----------	--------------------------------

担当者の研究室等	国際交流センター(3号館4階)
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	日本語総合 F I	科目名 (英文)	Comprehensive Japanese FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III O, IV O, R 科 : A O, A 科 : C O, M 科 : B2 O, E 科 : F O, C 科 : III O, VI O, L 科 : DP1 O, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科 : DP1 O, S 科 : DP1 O, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 O, DP7 O, W 科 : DP1 O, DP7 O, N 科 : DP1 O, DP8 Δ N : DP1 O, DP8 Δ		

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPT の N1 に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPT を受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する (N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1 を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す (1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す (2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む (1)</td> <td>2~3 の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む (2)</td> <td>2~3 の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む (1)</td> <td>2~3 の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む (2)</td> <td>2~3 の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3 の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む (1)</td> <td>2~3 の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む (2)</td> <td>2~3 の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む (1)	2~3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む (2)	2~3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む (1)	2~3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む (2)	2~3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3 の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む (1)	2~3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む (2)	2~3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す (1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す (2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む (1)	2~3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む (2)	2~3 の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む (1)	2~3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む (2)	2~3 の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3 の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む (1)	2~3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む (2)	2~3 の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1</td> <td>福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿 れ・中村則子・田代ひとみ</td> <td>スリーエーネットワーク</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1</td> <td>佐々木仁子・松本紀子</td> <td>ask</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター</td> <td>菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽 子・竹田慎吾</td> <td>Jリサーチ出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿 れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク	2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask	3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽 子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿 れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク																																																																
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask																																																																
3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽 子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																																
評価方法 (基準)	<p>定期試験を実施 (試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100% 50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室 (7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室 (7号館2階) またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																		

科目名	日本語総合FⅡ	科目名(英文)	Comprehensive Japanese FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅴ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP7〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1</td> <td>福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿 れ・中村則子・田代ひとみ</td> <td>スリーエーネットワーク</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1</td> <td>佐々木仁子・松本紀子</td> <td>ask</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター</td> <td>菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽 子・竹田慎吾</td> <td>Jリサーチ出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿 れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク	2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask	3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽 子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿 れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク																																																																
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask																																																																
3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽 子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																																
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																		

科目名	日本語総合R	科目名(英文)	Comprehensive Japanese R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	後期	授業担当者	古川 由理子
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	<p>この授業では次の3点を目標にします。</p> <p>①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る ②まとまった内容の文章の大意を把握する ③できるだけ速く①と②をできるようにする</p> <p>なお、JLPTのN1に合格していない学習者が多い場合、その対策も行ないます。</p>																																																																		
到達目標	<p>日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになる。</p> <p>JLPTを受験する予定の者は、それぞれ、ターゲット級に合格する(N1、N2に限る)。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<p>この授業では、実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ないます。テキストを一字一句、正確に読んで読むのではなく、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をします。そのため、次のような手順で授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キーワード・キーセンテンスを探す 2. 接続詞に注意する 3. テキストの流れに注意する 4. 予測して読む 5. テキストをまとめる 																																																																		
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・日常あふれている数々の日本語の文章の中から、自分に必要な情報をより早く取り入れることができる。 ・必要ではない情報を捨て、ポイントはどこかを把握できるようにする。 ・その成果を専門の文章の読解に応用する。 <p>(・JPT N1を持っていないものは取得を目指す。)</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の概要説明 ブレースメントテスト</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>指示語に注意する</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>キーワードに注意する</td> <td>穴埋め問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>文章の内容を予測する</td> <td>並べ替えの問題</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>キーセンテンスを探す(1)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>キーセンテンスを探す(2)</td> <td>練習問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>要約をする</td> <td>全体を問う問題をこなす</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>説明文を読む(1)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>説明文を読む(2)</td> <td>2~3の説明文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>論説文を読む(1)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>論説文を読む(2)</td> <td>2~3の論説文を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>随筆を読む</td> <td>2~3の随筆を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>小説を読む(1)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>小説を読む(2)</td> <td>2~3の小説を読み、問題を解く</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>期末テスト</td> <td>授業中に指示する</td> <td>授業内容を復習する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習	2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する	3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する	4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する	5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する	7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する	8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する	12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する	13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する	15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の概要説明 ブレースメントテスト	復習																																																																
2	指示語に注意する	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
3	キーワードに注意する	穴埋め問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
4	文章の内容を予測する	並べ替えの問題	授業内容を復習する																																																																
5	キーセンテンスを探す(1)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
6	キーセンテンスを探す(2)	練習問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
7	要約をする	全体を問う問題をこなす	授業内容を復習する																																																																
8	説明文を読む(1)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
9	説明文を読む(2)	2~3の説明文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
10	論説文を読む(1)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
11	論説文を読む(2)	2~3の論説文を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
12	随筆を読む	2~3の随筆を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
13	小説を読む(1)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
14	小説を読む(2)	2~3の小説を読み、問題を解く	授業内容を復習する																																																																
15	期末テスト	授業中に指示する	授業内容を復習する																																																																
関連科目	日本語表現作文																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1</td> <td>福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿 れ・中村則子・田代ひとみ</td> <td>スリーエーネットワーク</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1</td> <td>佐々木仁子・松本紀子</td> <td>ask</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター</td> <td>菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽 子・竹田慎吾</td> <td>Jリサーチ出版</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿 れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク	2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask	3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽 子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	新完全マスター 読解 日本語能力試験 N1	福岡理恵子・清水知子・初鹿野阿 れ・中村則子・田代ひとみ	スリーエーネットワーク																																																																
2	「日本語能力試験」対策日本語総まとめ N1	佐々木仁子・松本紀子	ask																																																																
3	日本語能力試験問題集 N1 読解 スピードマスター	菊池富美子・黒岩しづ可・日置陽 子・竹田慎吾	Jリサーチ出版																																																																
評価方法(基準)	<p>定期試験を実施(試験の形式については授業中に説明する)</p> <p>出席・授業態度 + 期末テスト = 100%</p> <p>50% 50%</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>受講者のニーズにより、授業内容を大幅に変更することがあります。</p> <p>出席を重視します。できるだけ欠席をしないようにしてください。</p>																																																																		
担当者の研究室等	外国語学部非常勤講師室(7号館2階)																																																																		
備考	<p>受講者が少人数である場合は、受講者のリクエストを優先します。</p> <p>質問等がある場合、外国語学部非常勤講師室(7号館2階)またはメールにて対応します。</p> <p>メールアドレスは授業時にお知らせします。</p>																																																																		

科目名	日本語読解 F I	科目名 (英文)	Japanese Reading FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP8〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読んだ文章の内容をまとめて書く／話すことができる。 ・ 語彙力をつける。 ・ 一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・ 語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果 (資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ (話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然？①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然？②	語彙テスト、内容まとめ (書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解 F II
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、提出物 (30%)、小テスト (30%)
学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう！
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本語読解FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP8〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果(資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	統計と数字①	読解、内容理解	復習
	3	統計と数字②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	4	背理法①	読解、内容理解	復習
	5	背理法②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	6	「待つ」こと①	読解、内容理解	復習
	7	「待つ」こと②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	8	ついでに何をする?①	読解、内容理解	復習
	9	ついでに何をする?②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	10	ウイルス発見!①	読解、内容理解	復習
	11	ウイルス発見!②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	12	大学で学ぶこと①	読解、内容理解	復習
	13	大学で学ぶこと②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	14	「あたりまえ」を疑う社会学	読解、内容理解	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解FⅠ
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
----------	-----------------------------------

学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
-----------	----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	<p>(1)授業外の質問等には、メールで対応する。</p> <p>(2)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。</p>
----	--

科目名	日本語読解R	科目名(英文)	Japanese Reading R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では様々な分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読んだ文章の内容をまとめて書く/話すことができる。 ・語彙力をつける。 ・一般書レベルの漢字が読める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約したり、口頭で説明する練習を行う。 ・語彙力アップのため、語彙の小テストを行う。
科目学習の効果(資格)	専門分野の文章を読むための読解力の基礎が身につく

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 読解、内容理解	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない?	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	3	フリーズする脳	読解、内容理解、内容をまとめる練習	復習
	4	「科学」の定義①	読解、内容理解	復習
	5	「科学」の定義②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	6	現代の若者のマナー①	読解、内容理解	復習
	7	現代の若者のマナー②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	8	親孝行な男の子	読解、内容理解、タスク	復習
	9	言語と文化①	読解、内容理解	復習
	10	言語と文化②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	11	ローソクの進化①	読解、内容理解	復習
	12	ローソクの進化②	語彙テスト、内容まとめ(話す)、タスク	復習
	13	「割り勘」は当然?①	読解、内容理解	復習
	14	「割り勘」は当然?②	語彙テスト、内容まとめ(書く)、タスク	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語読解FII
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、小テスト(30%)
学生へのメッセージ	専門分野の文章を読むための基礎力を身につけましょう!
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	ア
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	丹下 暖子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	文章表現の基礎を学び、大学でのレポート・論文の作成、社会に出てからの文書の作成に必要な「事実を客観的に説明し、意見を論理的に記述する」力を養う。 敬語表現や手紙の書き方など、大学生として知っておきたい日本語に関する知識を身につける。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要な論理的な文章の書き方を習得する。 敬語表現などを理解し、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	配布プリントにより授業を進める。 授業テーマに応じたミニレポートや課題を作成し、提出する。ミニレポートや課題は添削して、返却する。 毎回、授業の冒頭で、語彙力を養う小テストを行う。 なお、授業には辞書を携帯することが望ましい。
科目学習の効果 (資格)	大学生活、社会人生活で必要となる「書く」「話す」力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	文章の書き方①	話し言葉と書き言葉の違いを認識する	前回の復習
3	文章の書き方②	文の構造について確認する	前回の復習
4	事実文と意見文	事実を述べる文章と意見を述べる文章の違いを学ぶ	前回の復習
5	文章の構成	段落分けについて学ぶ	前回の復習
6	課題①	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題①の準備
7	課題①フィードバック グループディスカッション①	課題①の返却・講評 グループディスカッションの目的、方法を学ぶ	これまでの授業の復習
8	グループディスカッション②	あるテーマについて、グループごとにディスカッションを行う	課題①を見直す
9	敬語表現①	敬語表現の基本を確認する	前回の復習
10	敬語表現②	尊敬語と謙譲語の使い分けを身につける	前回の復習
11	手紙の書き方	フォーマルな手紙の様式を学ぶ	前回の復習
12	課題②	フォーマルな手紙を作成する	課題②の準備
13	課題②フィードバック レポート①	課題②の返却・講評 レポートを書く際の文章表現を実践的に確認する	これまでの授業の復習
14	復習テスト レポート②	小テストの復習テスト レポートを書く際の文章表現の注意点を確認する	課題②を見直す 小テストの復習
15	メールの書き方	メールの基本とマナーを学ぶ	前回の復習

関連科目 日本語表現 II

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準)	課題 (50%)、授業への取り組み・復習テストなど (50%) により、総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出を求める。
学生へのメッセージ	私たちが普段、当たり前のように使っている「日本語」と、あらためてじっくりと向き合ってみましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松繁 弘之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	授業内容は実用文の作文です。敬語と文章構成の基礎を学ぶとともに、実用的な文章の作文練習を行います。また、常用漢字の練習も行います。
到達目標	敬語を用いた論理的な実用文を作文することができるようになることが目標です。また、常用漢字の読み書きが正確にできるようになることも目標です。
授業方法と留意点	講義と演習によって授業を行います。
科目学習の効果 (資格)	敬語を用いた論理的な文章の作文は日常生活での文章表現に役立ちます。また、漢字検定 2 級の漢字が習得できます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業についての説明をします。	教科書の目次を読む (20分)
	2	敬語 1	敬語の語法 1	漢字の復習 (20分)
	3	敬語 2	敬語の語法 2	漢字の復習 (20分)
	4	敬語 3	敬語の語法 3	漢字の復習 (20分)
	5	敬語 4	敬語の表現 1	漢字の復習 (20分)
	6	敬語 5	敬語の表現 2	漢字の復習 (20分)
	7	敬語 6	敬語の表現 3	漢字の復習 (20分)
	8	実用文 1	報告文	漢字の復習 (20分)
	9	実用文 2	提案文	漢字の復習 (20分)
	10	実用文 3	勧誘文	漢字の復習 (20分)
	11	実用文 4	依頼文	漢字の復習 (20分)
	12	実用文 5	エッセイ	漢字の復習 (20分)
	13	実用文 6	短い手紙	漢字の復習 (20分)
	14	実用文 7	長い手紙	漢字の復習 (20分)
	15	総括	復習と確認	漢字の復習 (20分)

関連科目	日本語表現 II
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	字義による系統別の漢字	浜島書店編集部	浜島書店
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	提出課題 80%、授業態度 (授業への集中度) 20%の割合で総合的に評価します。
-----------	---

学生へのメッセージ	何事も練習しなければ達しません。
-----------	------------------

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	日本語表現Ⅰ	科目名(英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ウ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	丹下 暖子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	文章表現の基礎を学び、大学でのレポート・論文の作成、社会に出てからの文書の作成に必要な「事実を客観的に説明し、意見を論理的に記述する」力を養う。 敬語表現や手紙の書き方など、大学生として知っておきたい日本語に関する知識を身につける。
到達目標	大学生活、社会人生活で必要な論理的な文章の書き方を習得する。 敬語表現などを理解し、人前での適切な話し方を身につける。
授業方法と留意点	配布プリントにより授業を進める。 授業テーマに応じたミニレポートや課題を作成し、提出する。ミニレポートや課題は添削して、返却する。 毎回、授業の冒頭で、語彙力を養う小テストを行う。 なお、授業には辞書を携帯することが望ましい。
科目学習の効果(資格)	大学生活、社会人生活で必要となる「書く」「話す」力が身につく。 日本語に関する関心と知識が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の目的、進め方	—————
2	文章の書き方①	話し言葉と書き言葉の違いを認識する	前回の復習	
3	文章の書き方②	文の構造について確認する	前回の復習	
4	事実文と意見文	事実を述べる文章と意見を述べる文章の違いを学ぶ	前回の復習	
5	文章の構成	段落分けについて学ぶ	前回の復習	
6	課題①	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	課題①の準備	
7	課題①フィードバック グループディスカッション①	課題①の返却・講評 グループディスカッションの目的、方法を学ぶ	これまでの授業の復習	
8	グループディスカッション②	あるテーマについて、グループごとにディスカッションを行う	課題①を見直す	
9	敬語表現①	敬語表現の基本を確認する	前回の復習	
10	敬語表現②	尊敬語と謙譲語の使い分けを身につける	前回の復習	
11	手紙の書き方	フォーマルな手紙の様式を学ぶ	前回の復習	
12	課題②	フォーマルな手紙を作成する	課題②の準備	
13	課題②フィードバック レポート①	課題②の返却・講評 レポートを書く際の文章表現を実践的に確認する	これまでの授業の復習	
14	復習テスト レポート②	小テストの復習テスト レポートを書く際の文章表現の注意点を確認する	課題②を見直す 小テストの復習	
15	メールの書き方	メールの基本とマナーを学ぶ	前回の復習	

関連科目	日本語表現Ⅱ
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(50%)、授業への取り組み・復習テストなど(50%)により、総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出を求める。
----------	--

学生へのメッセージ	私たちが普段、当たり前のように使っている「日本語」と、あらためてじっくりと向き合ってみましょう。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前・事後学習は、配布プリントの予習・復習を中心に、毎回1時間程度はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	--

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	エ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松繁 弘之
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	授業内容は実用文の作文です。敬語と文章構成の基礎を学ぶとともに、実用的な文章の作文練習を行います。また、常用漢字の練習も行います。
到達目標	敬語を用いた論理的な実用文を作文することができるようになることが目標です。また、常用漢字の読み書きが正確にできるようになることも目標です。
授業方法と留意点	講義と演習によって授業を行います。
科目学習の効果 (資格)	敬語を用いた論理的な文章の作文は日常生活での文章表現に役立ちます。また、漢字検定 2 級の漢字が習得できます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	授業についての説明をします。	教科書の目次を読む (20分)
	2	敬語 1	敬語の語法 1	漢字の復習 (20分)
	3	敬語 2	敬語の語法 2	漢字の復習 (20分)
	4	敬語 3	敬語の語法 3	漢字の復習 (20分)
	5	敬語 4	敬語の表現 1	漢字の復習 (20分)
	6	敬語 5	敬語の表現 2	漢字の復習 (20分)
	7	敬語 6	敬語の表現 3	漢字の復習 (20分)
	8	実用文 1	報告文	漢字の復習 (20分)
	9	実用文 2	提案文	漢字の復習 (20分)
	10	実用文 3	勧誘文	漢字の復習 (20分)
	11	実用文 4	依頼文	漢字の復習 (20分)
	12	実用文 5	エッセイ	漢字の復習 (20分)
	13	実用文 6	短い手紙	漢字の復習 (20分)
	14	実用文 7	長い手紙	漢字の復習 (20分)
	15	総括	復習と確認	漢字の復習 (20分)

関連科目	日本語表現 II
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	字義による系統別の漢字	浜島書店編集部	浜島書店
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	提出課題 80%、授業態度 (授業への集中度) 20%の割合で総合的に評価します。
-----------	---

学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。
-----------	-------------------

担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
----------	-----------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ア
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田 行雄
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	大学生活で必要となるレポートや論文を書く際の文章表現やルールを学ぶ。 敬語表現やエントリーシートの書き方、スピーチの方法など、社会人のたしなみとして知っておきたい日本語に関する知識を身につける。
到達目標	大学生活、社会人生活に必要な論理的な文章(特にレポート・論文)の書き方を習得する。 敬語表現や漢字なども再確認する。
授業方法と留意点	配布プリントにより授業を進める。 授業テーマに応じたミニレポートや課題を作成し、提出する。ミニレポートや課題は添削して、返却する。 毎回、授業の冒頭で、語彙力を養う小テストや漢字テストを行う。 なお、授業には辞書を携帯することが望ましい。
科目学習の効果(資格)	大学生活、社会人生活で必要となる「書く」「話す」力が身につく。 文章表現に関する知識が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の目的、進め方	—————
2	資料の要約	文章を要約する方法を学ぶ	前回の復習
3	資料の引用	資料を引用する際のルールを学ぶ	前回の復習
4	資料の読解と説明	グラフ・図表を分析し、説明する方法を学ぶ	前回の復習
5	レポート・論文の構成	レポートや論文などの文章構成を学ぶ	前回の復習
6	課題①	資料を引用し、意見を述べる文章を書く	課題①の準備
7	課題①フィードバック 敬語表現①	課題①の返却・講評 敬語表現の基本を復習する	これまでの授業の復習
8	敬語表現②	ビジネスの場でも通用する敬語表現を身につける	課題①を見直す
9	スピーチをする①	スピーチの目的、方法を学ぶ	前回の復習
10	スピーチをする②	あるテーマについて、スピーチをする	スピーチの準備
11	レポート・論文を書く	レポートや論文を書く際の注意点を確認する	前回の復習
12	課題②	ある社会問題について、資料を引用しながら意見を述べる文章を書く	課題②の準備
13	課題②フィードバック エントリーシートを書く①	課題②の返却・講評 企業に就職する際の第一関門であるエントリーシートを書いてみる	これまでの授業の復習
14	復習テスト エントリーシートを書く②	小テストの復習テスト エントリーシートを書く際のポイントを確認する	課題②を見直す 小テストの復習
15	まとめ	これまでの授業内容の再確認	これまでの授業の復習

関連科目	日本語表現Ⅰ
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組み・復習テストなど(30%)により、総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出を求める。
学生へのメッセージ	私たちが普段、当たり前のように使っている「日本語」と、あらためてじっくりと向き合ってみましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松繁 弘之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	授業の内容は要約文および小論文の作成です。文章の構成法を学びながら、要約文と小論文を作成する練習をします。また、常用漢字の練習も行います。																																																																		
到達目標	文章を正確に要約し、論理的な文章を作成することができるようになることが目標です。また、漢字検定2級の漢字が習得できます。																																																																		
授業方法と留意点	講義と演習によって行います。																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートでの文章表現や就職活動での小論文に役立ちます。また、漢字検定2級の漢字が習得できます。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>導入</td><td>授業についての説明</td><td>教科書の前書きと目次を読む(20分)</td></tr> <tr><td>2</td><td>論文でよく使われる表現</td><td>文体と語彙</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>3</td><td>引用の作法</td><td>参考文献と引用</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>4</td><td>論文の構成</td><td>序論と本論と結論</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>5</td><td>序論の構成1</td><td>背景説明</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>6</td><td>序論の構成2</td><td>問題提起</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>7</td><td>序論の構成3</td><td>方向付けと全体の予告</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>8</td><td>本論の構成1</td><td>データ提示</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>9</td><td>本論の構成2</td><td>意見提示</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>10</td><td>本論の構成3</td><td>結論提示</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>11</td><td>結論の構成1</td><td>全体のまとめ</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>12</td><td>結論の構成2</td><td>評価と展望提示</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>13</td><td>場面別の表現</td><td>図表に関する表現</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>14</td><td>要約文</td><td>要約の方法</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>15</td><td>総括</td><td>復習と確認</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	導入	授業についての説明	教科書の前書きと目次を読む(20分)	2	論文でよく使われる表現	文体と語彙	漢字の復習(20分)	3	引用の作法	参考文献と引用	漢字の復習(20分)	4	論文の構成	序論と本論と結論	漢字の復習(20分)	5	序論の構成1	背景説明	漢字の復習(20分)	6	序論の構成2	問題提起	漢字の復習(20分)	7	序論の構成3	方向付けと全体の予告	漢字の復習(20分)	8	本論の構成1	データ提示	漢字の復習(20分)	9	本論の構成2	意見提示	漢字の復習(20分)	10	本論の構成3	結論提示	漢字の復習(20分)	11	結論の構成1	全体のまとめ	漢字の復習(20分)	12	結論の構成2	評価と展望提示	漢字の復習(20分)	13	場面別の表現	図表に関する表現	漢字の復習(20分)	14	要約文	要約の方法	漢字の復習(20分)	15	総括	復習と確認	漢字の復習(20分)
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	授業についての説明	教科書の前書きと目次を読む(20分)																																																																
2	論文でよく使われる表現	文体と語彙	漢字の復習(20分)																																																																
3	引用の作法	参考文献と引用	漢字の復習(20分)																																																																
4	論文の構成	序論と本論と結論	漢字の復習(20分)																																																																
5	序論の構成1	背景説明	漢字の復習(20分)																																																																
6	序論の構成2	問題提起	漢字の復習(20分)																																																																
7	序論の構成3	方向付けと全体の予告	漢字の復習(20分)																																																																
8	本論の構成1	データ提示	漢字の復習(20分)																																																																
9	本論の構成2	意見提示	漢字の復習(20分)																																																																
10	本論の構成3	結論提示	漢字の復習(20分)																																																																
11	結論の構成1	全体のまとめ	漢字の復習(20分)																																																																
12	結論の構成2	評価と展望提示	漢字の復習(20分)																																																																
13	場面別の表現	図表に関する表現	漢字の復習(20分)																																																																
14	要約文	要約の方法	漢字の復習(20分)																																																																
15	総括	復習と確認	漢字の復習(20分)																																																																
関連科目	日本語表現Ⅰ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大学生と留学生のための論文ワークブック</td> <td>浜田麻里・平尾得子・由井紀久子</td> <td>くろしお出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学生と留学生のための論文ワークブック	浜田麻里・平尾得子・由井紀久子	くろしお出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	大学生と留学生のための論文ワークブック	浜田麻里・平尾得子・由井紀久子	くろしお出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	提出課題80%、授業態度(授業への集中度)20%の割合で総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																																																																		

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ウ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	久田 行雄
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	大学生活で必要となるレポートや論文を書く際の文章表現やルールを学ぶ。 敬語表現やエントリーシートの書き方、スピーチの方法など、社会人のたしなみとして知っておきたい日本語に関する知識を身につける。
到達目標	大学生活、社会人生活に必要な論理的文章(特にレポート・論文)の書き方を習得する。 敬語表現や常用漢字などを再確認する。
授業方法と留意点	配布プリントにより授業を進める。 授業テーマに応じたミニレポートや課題を作成し、提出する。ミニレポートや課題は添削して、返却する。 毎回、授業の冒頭で、語彙力を養う小テストや漢字テストを行う。 なお、授業には辞書を携帯することが望ましい。
科目学習の効果(資格)	大学生活、社会人生活で必要となる「書く」「話す」力が身につく。 文章表現に関する知識が深まる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス	授業の目的、進め方	—————
	2	資料の要約	文章を要約する方法を学ぶ	前回の復習
	3	資料の引用	資料を引用する際のルールを学ぶ	前回の復習
	4	資料の読解と説明	グラフ・図表を分析し、説明する方法を学ぶ	前回の復習
	5	レポート・論文の構成	レポートや論文などの文章構成を学ぶ	前回の復習
	6	課題①	資料を引用し、意見を述べる文章を書く	課題①の準備
	7	課題①フィードバック 敬語表現①	課題①の返却・講評 敬語表現の基本を復習する	これまでの授業の復習
	8	敬語表現②	ビジネスの場でも通用する敬語表現を身につける	課題①を見直す
	9	スピーチをする①	スピーチの目的、方法を学ぶ	前回の復習
	10	スピーチをする②	あるテーマについて、スピーチをする	スピーチの準備
	11	レポート・論文を書く	レポートや論文を書く際の注意点を確認する	前回の復習
	12	課題②	ある社会問題について、資料を引用しながら意見を述べる文章を書く	課題②の準備
	13	課題②フィードバック エントリーシートを書く①	課題②の返却・講評 企業に就職する際の第一関門であるエントリーシートを書いてみる	これまでの授業の復習
	14	復習テスト エントリーシートを書く②	小テストの復習テスト エントリーシートを書く際のポイントを確認する	課題②を見直す 小テストの復習
	15	まとめ	これまでの授業内容の再確認	これまでの授業の復習

関連科目	日本語表現Ⅰ
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	課題(70%)、授業への取り組み・復習テストなど(30%)により、総合的に評価する。 課題の提出は必須。場合によっては再提出を求める。
学生へのメッセージ	私たちが普段、当たり前のように使っている「日本語」と、あらためてじっくりと向き合ってみましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本語表現Ⅱ	科目名(英文)	Japanese Expression II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	エ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松繁 弘之
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	授業の内容は要約文および小論文の作成です。文章の構成法を学びながら、要約文と小論文を作成する練習をします。また、常用漢字の練習も行います。																																																																		
到達目標	文章を正確に要約し、論理的な文章を作成することができるようになることが目標です。また、漢字検定2級の漢字が習得できます。																																																																		
授業方法と留意点	講義と演習によって行います。																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートでの文章表現や就職活動での小論文に役立ちます。また、漢字検定2級の漢字が習得できます。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>導入</td><td>授業についての説明</td><td>教科書の前書きと目次を読む(20分)</td></tr> <tr><td>2</td><td>論文でよく使われる表現</td><td>文体と語彙</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>3</td><td>引用の作法</td><td>参考文献と引用</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>4</td><td>論文の構成</td><td>序論と本論と結論</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>5</td><td>序論の構成1</td><td>背景説明</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>6</td><td>序論の構成2</td><td>問題提起</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>7</td><td>序論の構成3</td><td>方向付けと全体の予告</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>8</td><td>本論の構成1</td><td>データ提示</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>9</td><td>本論の構成2</td><td>意見提示</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>10</td><td>本論の構成3</td><td>結論提示</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>11</td><td>結論の構成1</td><td>全体のまとめ</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>12</td><td>結論の構成2</td><td>評価と展望提示</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>13</td><td>場面別の表現</td><td>図表に関する表現</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>14</td><td>要約文</td><td>要約の方法</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> <tr><td>15</td><td>総括</td><td>復習と確認</td><td>漢字の復習(20分)</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	導入	授業についての説明	教科書の前書きと目次を読む(20分)	2	論文でよく使われる表現	文体と語彙	漢字の復習(20分)	3	引用の作法	参考文献と引用	漢字の復習(20分)	4	論文の構成	序論と本論と結論	漢字の復習(20分)	5	序論の構成1	背景説明	漢字の復習(20分)	6	序論の構成2	問題提起	漢字の復習(20分)	7	序論の構成3	方向付けと全体の予告	漢字の復習(20分)	8	本論の構成1	データ提示	漢字の復習(20分)	9	本論の構成2	意見提示	漢字の復習(20分)	10	本論の構成3	結論提示	漢字の復習(20分)	11	結論の構成1	全体のまとめ	漢字の復習(20分)	12	結論の構成2	評価と展望提示	漢字の復習(20分)	13	場面別の表現	図表に関する表現	漢字の復習(20分)	14	要約文	要約の方法	漢字の復習(20分)	15	総括	復習と確認	漢字の復習(20分)
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	導入	授業についての説明	教科書の前書きと目次を読む(20分)																																																																
2	論文でよく使われる表現	文体と語彙	漢字の復習(20分)																																																																
3	引用の作法	参考文献と引用	漢字の復習(20分)																																																																
4	論文の構成	序論と本論と結論	漢字の復習(20分)																																																																
5	序論の構成1	背景説明	漢字の復習(20分)																																																																
6	序論の構成2	問題提起	漢字の復習(20分)																																																																
7	序論の構成3	方向付けと全体の予告	漢字の復習(20分)																																																																
8	本論の構成1	データ提示	漢字の復習(20分)																																																																
9	本論の構成2	意見提示	漢字の復習(20分)																																																																
10	本論の構成3	結論提示	漢字の復習(20分)																																																																
11	結論の構成1	全体のまとめ	漢字の復習(20分)																																																																
12	結論の構成2	評価と展望提示	漢字の復習(20分)																																																																
13	場面別の表現	図表に関する表現	漢字の復習(20分)																																																																
14	要約文	要約の方法	漢字の復習(20分)																																																																
15	総括	復習と確認	漢字の復習(20分)																																																																
関連科目	日本語表現Ⅰ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>大学生と留学生のための論文ワークブック</td> <td>浜田麻里・平尾得子・由井紀久子</td> <td>くろしお出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	大学生と留学生のための論文ワークブック	浜田麻里・平尾得子・由井紀久子	くろしお出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	大学生と留学生のための論文ワークブック	浜田麻里・平尾得子・由井紀久子	くろしお出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	提出課題80%、授業態度(授業への集中度)20%の割合で総合的に評価します。																																																																		
学生へのメッセージ	何事も練習しなければ上達しません。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																																																																		

科目名	日本語表現作文F I	科目名 (英文)	Japanese Reading and Writing FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
ディプロマポリシー (DP)	V科：Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科：A〇,A科：C〇,M科：B2〇,E科：F〇,C科：Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科：DP1〇,DP7△,DP8△,D科：DP1〇,S科：DP1〇,P科：DP2△,DP4△,J科：DP1〇,DP8〇,W科：DP1〇,DP7〇,N科：DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果 (資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
	5	段落②	実践練習	復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
	13	要約②	実践練習	復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語表現作文F II
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (50%)、提出物 (50%)
-----------	---------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	日本語表現作文FⅡ	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
ディプロマポリシー(DP)	V科:Ⅲ〇,Ⅳ〇,R科:A〇,A科:C〇,M科:B2〇,E科:F〇,C科:Ⅲ〇,Ⅵ〇,L科:DP1〇,DP7△,DP8△,D科:DP1〇,S科:DP1〇,P科:DP2△,DP4△,J科:DP1〇,DP8〇,W科:DP1〇,DP7〇,N科:DP1〇,DP8△N:DP1〇,DP8△		

授業概要・目的	この授業では、実際にレポートを作成することを通して、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・レポート・論文の書き方を守って書ける。 ・アウトラインに沿って書ける。 ・信頼性の高い資料を集められる。 																																																																		
授業方法と留意点	授業では、テーマを決め、実際にレポートを作成していく。																																																																		
科目学習の効果(資格)	レポートが書けるようになる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 前期の復習</td> <td>授業についての説明 前期の学習内容についての復習</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>レポートの言葉と表現</td> <td>レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>レポートの構成</td> <td>レポートの構成を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>テーマ決め・資料収集</td> <td>テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ</td> <td>復習 資料を集める</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>資料を整理する</td> <td>集めた資料を整理する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>アウトライン</td> <td>レポートのアウトラインを作成する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>序論①</td> <td>序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>序論②</td> <td>序論を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>本論①</td> <td>本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>本論②</td> <td>本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>本論③</td> <td>本論を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>結論①</td> <td>結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>結論②</td> <td>結論を書く</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まとめ①</td> <td>レポートを推敲し、完成稿を作成する</td> <td>復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ②</td> <td>作成したレポートを元に発表を行う</td> <td>復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習	2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習	3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習	4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集める	5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習	6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習	7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	復習	8	序論②	序論を書く	復習	9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	復習	10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	復習	11	本論③	本論を書く	復習	12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	復習	13	結論②	結論を書く	復習	14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習	15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション 前期の復習	授業についての説明 前期の学習内容についての復習	復習																																																																
2	レポートの言葉と表現	レポート・論文に使われる文、言葉、表現を学ぶ	復習																																																																
3	レポートの構成	レポートの構成を学ぶ	復習																																																																
4	テーマ決め・資料収集	テーマの決め方・絞り方、資料の集め方を学ぶ	復習 資料を集める																																																																
5	資料を整理する	集めた資料を整理する	復習																																																																
6	アウトライン	レポートのアウトラインを作成する	復習																																																																
7	序論①	序論の内容と書き方(課題、目的の提示)を学ぶ	復習																																																																
8	序論②	序論を書く	復習																																																																
9	本論①	本論の内容と書き方(データ、意見提示)を学ぶ	復習																																																																
10	本論②	本論の内容と書き方(考察、結論提示)を学ぶ	復習																																																																
11	本論③	本論を書く	復習																																																																
12	結論①	結論の内容と書き方(全体のまとめ、今後の課題)を学ぶ	復習																																																																
13	結論②	結論を書く	復習																																																																
14	まとめ①	レポートを推敲し、完成稿を作成する	復習																																																																
15	まとめ②	作成したレポートを元に発表を行う	復習																																																																
関連科目	日本語表現作文FⅠ																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、提出物(30%)、レポート(30%)																																																																		
学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう!																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。																																																																		

科目名	日本語表現作文R	科目名(英文)	Japanese Reading and Writing R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業ではレポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身につけることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート・論文の文体で書ける。 ・読んだ内容を要約できる。 ・段落分けして書ける。 ・経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける。 ・信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できる。
授業方法と留意点	授業では、レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。
科目学習の効果(資格)	レポートや論文を書くための基礎力を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 日本語の文体	授業についての説明 日本語の文体について学ぶ	復習
	2	レポート・論文の文体	レポート・論文に使われる文体を学ぶ	復習
	3	記号の使い方	句読点、各種記号の使い方を学ぶ	復習
	4	段落①	段落構成について学ぶ	復習
	5	段落②	実践練習	復習 作文課題
	6	経過説明①	経過説明の書き方を学ぶ	復習
	7	経過説明②	実践練習	復習 作文課題
	8	分類	「分類」をする文の書き方を学ぶ	復習
	9	定義	定義の書き方を学ぶ	復習
	10	分類・定義	実践練習	復習 作文課題
	11	引用	引用の書き方を学ぶ	復習
	12	要約①	要約の書き方を学ぶ	復習
	13	要約②	実践練習	復習 作文課題
	14	資料の利用	資料の利用方法を学ぶ	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語表現作文FII
------	------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(50%)、提出物(50%)
----------	-------------------------

学生へのメッセージ	レポートや論文の書き方を一緒に勉強しましょう。
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更する場合がある。
----	--

科目名	日本語文法 F I	科目名 (英文)	Japanese Grammar FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中岡 樹里
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III O, IV O, R 科 : A O, A 科 : C O, M 科 : B2 O, E 科 : F O, C 科 : III O, VI O, L 科 : DP1 O, DP7 Δ, DP8 Δ, D 科 : DP1 O, S 科 : DP1 O, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 O, DP8 O, W 科 : DP1 O, DP7 O, N 科 : DP1 O, DP8 Δ N : DP1 O, DP8 Δ		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 「早朝時間」のフル活用で成功した人たち	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	渡り鳥はなぜ迷わない？	文法項目の解説と練習	復習
	3	フリーズする脳	文法項目の解説と練習	復習
	4	「科学」の定義①	文法項目の解説と練習	復習
	5	「科学」の定義②	文法項目の解説と練習	復習
	6	現代の若者のマナー①	文法項目の解説と練習	復習
	7	現代の若者のマナー②	文法項目の解説と練習	復習
	8	親孝行な男の子	文法項目の解説と練習	復習
	9	言語と文化①	文法項目の解説と練習	復習
	10	言語と文化②	文法項目の解説と練習	復習
	11	ローソクの進化①	文法項目の解説と練習	復習
	12	ローソクの進化②	文法項目の解説と練習	復習
	13	「割り勘」は当然？①	文法項目の解説と練習	復習
	14	「割り勘」は当然？②	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法 F II、日本語読解 F I
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、課題 (30%)、小テスト (30%)
-----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう！
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進捗や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。
----	---

科目名	日本語文法 F II	科目名 (英文)	Japanese Grammar FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP8〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果 (資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
	8	ついでに何をする?①	文法項目の解説と練習	復習
	9	ついでに何をする?②	文法項目の解説と練習	復習
	10	ウイルス発見!①	文法項目の解説と練習	復習
	11	ウイルス発見!②	文法項目の解説と練習	復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
	14	「あたりまえ」を疑う社会学	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法 F I、日本語読解 F II
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業内での取り組み (40%)、課題 (30%)、小テスト (30%)
-----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
----------	----------------

備考	(1) 授業外の質問等には、メールで対応する。 (2) 授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。
----	---

科目名	日本語文法R	科目名(英文)	Japanese Grammar R
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	
学期	後期	授業担当者	中岡 樹里
ディプロマポリシー(DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: F〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1〇, DP7△, DP8△, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	この授業では、中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。随時、小テストを行う。
到達目標	中上級～上級の文法項目が運用できる。
授業方法と留意点	教員による解説と練習を繰り返しながら進める。
科目学習の効果(資格)	高度な日本語運用能力

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 涙	授業の進め方の説明 文法項目の解説と練習	復習
	2	統計と数字①	文法項目の解説と練習	復習
	3	統計と数字②	文法項目の解説と練習	復習
	4	背理法①	文法項目の解説と練習	復習
	5	背理法②	文法項目の解説と練習	復習
	6	「待つ」こと①	文法項目の解説と練習	復習
	7	「待つ」こと②	文法項目の解説と練習	復習
	8	ついでに何をする?①	文法項目の解説と練習	復習
	9	ついでに何をする?②	文法項目の解説と練習	復習
	10	ウイルス発見!①	文法項目の解説と練習	復習
	11	ウイルス発見!②	文法項目の解説と練習	復習
	12	大学で学ぶこと①	文法項目の解説と練習	復習
	13	大学で学ぶこと②	文法項目の解説と練習	復習
	14	「あたりまえ」を疑う社会学	文法項目の解説と練習	復習
	15	総復習	総復習	復習

関連科目	日本語文法FⅠ、日本語読解FⅡ
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業内での取り組み(40%)、課題(30%)、小テスト(30%)
----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	日本語のレベルアップを目指して勉強しましょう!
-----------	-------------------------

担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
----------	---------------

備考	(1)授業外の質問等には、メールで対応する。 (2)授業の進度や受講生の理解度に応じて授業計画を変更することがある。
----	---

科目名	日本事情 F I	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FI
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP7〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習
	2	映画1：テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
	3	映画1：テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
	4	映画1：テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
	5	映画2：テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
	6	映画2：テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
	7	映画2：テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
	8	テーマ1・2に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
	9	映画3：テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
	10	映画3：テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
	11	映画3：テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
	12	映画4：「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
	13	映画4：「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
	14	映画4：「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
	15	テーマ3・4に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は1.5時間ずつ。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館4階(門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情 F II	科目名 (英文)	Japanese Culture and Society FII
学部	学部共通	学科	外国人留学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	梅野 将之
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, DP7〇, W科: DP1〇, DP7〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本文化・社会について時事問題を知りその考察をするともに、年中行事や体験を通して、日本人の考えや価値観について学ぶ。
到達目標	1) 日本の文化・社会について理解を深める。 2) 時事 (日常の社会の出来事) について、自発的に日本の新聞、雑誌、テレビ、ラジオやネットの記事やニュースなどを視聴する習慣を身につける。 3) 日本と自国、またはその他の国と地域の文化・社会について理解・考察・比較したことを日本語で分かりやすく説明することができる。
授業方法と留意点	1) 自分が関心をもった日本のニュースや記事について5分ほどで口頭で発表する。そのため、授業の前までにテレビやラジオ、新聞、雑誌、インターネットの記事やニュースを視聴し、要約しておかなければならない。 2) 発表後はクラス全体で質問や意見交換をする (15~20分)。 3) 講義の聴講や映像の視聴から、考察を行う。 4) 考察したことをお互い他者に伝えながら、理解を深めていく。 5) 最後に、授業で学んだこと全般について理解したことを整理する (小テスト、または小レポート)。
科目学習の効果 (資格)	1) 日本語での口頭表現力の向上 2) 語彙の習得

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス Nippon Guide 1 -日本の地理-	自己紹介、授業の概要の説明、アンケート、インタビュー、自己目標の設定 日本の国土・人口 小テスト	口頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
2	日本の年中行事 (1) -墓参り-	口頭発表 盆と彼岸-日本人の先祖供養- 小テスト	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
3	Nippon Guide 2 -日本の歴史-	口頭発表、意見交換 時代区分と時代の特徴 小テスト	①頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて) ②『かぐや姫』(にほんごよむよむ文庫)を読む。または『かぐや姫の物語』(ジブリ)の視聴
4	日本の年中行事 (2) -十五夜- Nippon Guide 3 -マンガ・アニメのことば-	口頭発表 中秋の名月の鑑賞と初穂祭 月見団子を作ろう 小テスト	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて) 10月4日中秋の名月を楽しもう!
5	日本の年中行事 (3) -日本の祭り-	口頭発表 葵祭と時代祭り	原稿、スライドの提出 10月22日の時代祭りを見に行こう
6	高校訪問に向けて (1)	(発表準備) 原稿とスライドの作成 (交流準備) クイズの作成 質問文の作成	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
7	高校訪問に向けて (2) Nippon Guide 4 -若者ことば・関西弁-	発表の練習	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
8	高校訪問の振り返り 日本の年中行事 (4) -紅葉狩り-	口頭発表 発表の振り返り 交流の振り返り 紅葉狩りの名所	①頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて) ②『日本の映画史10』第1章、または『映画で日本文化を学ぶ人のために』の「家族の絆」を10回目の授業までに読む。
9	日本の年中行事 (5) -七五三- Nippon Guide 5 -神社-	口頭発表 七五三 神社とその参拝方法	①頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて) ②『日本の映画史10』第1章を次回の授業までに読む。
10	日本の家族 (1)	口頭発表 視聴映画の説明 映画の視聴 小レポート	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
11	日本の家族 (2)	口頭発表 視聴映画の説明 映画の視聴 小レポート	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
12	日本の年末 (1)	お歳暮、忘年会、宝くじ -ギャンブル大国、日本-	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
13	日本の年末 (2)	口頭発表 年末の大掃除 しめ縄、門松、鏡餅 大晦日 年賀状を書こう	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
14	日本の年始	口頭発表 お屠蘇、お節、雑煮	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)

			お年玉、初詣、正月の遊び 七草粥、鏡開き どんど焼	初詣に行こう！凧揚げをしよう！
15	2月、3月の行事 授業の振り返り		口頭発表 節分、桃の節句	成田山不動尊の節分祭に行こう！
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本の映画史 10のテーマ	平野共余子	くろしお出版
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘	世界思想社
	3	Hiragana Times		ヤック企画
評価方法 (基準)	到達目標：40%（うち自己到達目標10%）、事前・事後学習：30%（発表準備、発表）、授業への参加：30%（意見交換などでの発言15%、小テスト、小レポート：15%）			
学生への メッセージ	日本文化や社会について理解を深めるまえに、関心や興味を持つことが目的なので、関心のない人も受講してみてください。			
担当者の 研究室等	国際交流センター講師控室（3号館4F）			
備考				

科目名	日本事情 R I	科目名 (英文)	Japanese Culture & Society RI
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	
学期	前期	授業担当者	門脇 薫
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : III O, IV O, R 科 : A O, A 科 : C O, M 科 : B2 O, E 科 : B O, C 科 : III O, VI O, L 科 : DP1 Δ, DP2 O, D 科 : DP1 O, S 科 : DP1 O, P 科 : DP2 Δ, DP4 Δ, J 科 : DP1 O, W 科 : DP1 O, N 科 : DP1 O, DP8 Δ N : DP1 O, DP8 Δ		

授業概要・目的	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりします。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学びます。
到達目標	日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会及び他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、様々なテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とします
授業方法と留意点	各映画について次のように進めます。(1) 映画についての情報・その他背景知識について説明 (2) 映画の場面をいくつか視聴：内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題 (3) テーマについてディスカッション (4) 「書く」練習
科目学習の効果 (資格)	自然な日本語の表現・文法事項の習得、異文化理解、異文化に対する見方・態度

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス・日本語レベルのチェック	授業の概要・進め方について・スピーチ	テキスト予習
	2	映画 1 : テーマ「職業」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
	3	映画 1 : テーマ「職業」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
	4	映画 1 : テーマ「職業」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
	5	映画 2 : テーマ「家族」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
	6	映画 2 : テーマ「家族」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
	7	映画 2 : テーマ「家族」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
	8	テーマ 1・2 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート
	9	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題
	10	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題
	11	映画 3 : テーマ「子どもと社会」	タスク、ディスカッション	テキスト予習、プリントの課題、テーマについてレポート
	12	映画 4 : 「ジェンダー」	映画についての情報・背景解説、内容理解	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
	13	映画 4 : 「ジェンダー」	内容理解、タスク	テキスト予習、プリントの課題、発表準備
	14	映画 4 : 「ジェンダー」	タスク、ディスカッション	プリントの課題、発表準備
15	テーマ 3・4 に関する発表	発表、質疑応答、ディスカッション	テーマについてレポート	

関連科目	日本語読解、日本語文法、日本語表現作文
------	---------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘編	世界思想社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	映画でジャパニーズ	窪田守弘編	南雲堂フェニックス
	2			
	3			

評価方法 (基準)	各課題及びレポート (80%), 授業への参加度 (20%) により総合的に評価します。
-----------	--

学生へのメッセージ	映画を見ながら楽しく日本語・日本文化について学びましょう！ 事前・事後学習は 1.5 時間ずつ。
-----------	--

担当者の研究室等	7 号館 4 階 (門脇研究室)
備考	

科目名	日本事情 R II	科目名 (英文)	Japanese Culture & Society RII
学部	学部共通	学科	帰国学生対象
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	
学期	後期	授業担当者	梅野 将之
ディプロマポリシー (DP)	V科: III〇, IV〇, R科: A〇, A科: C〇, M科: B2〇, E科: B〇, C科: III〇, VI〇, L科: DP1△, DP2〇, D科: DP1〇, S科: DP1〇, P科: DP2△, DP4△, J科: DP1〇, W科: DP1〇, N科: DP1〇, DP8△N: DP1〇, DP8△		

授業概要・目的	日本文化・社会について時事問題を知りその考察をするとともに、年中行事や体験を通して、日本人の考えや価値観について学ぶ。
到達目標	1) 日本の文化・社会について理解を深める。 2) 時事 (日常の社会の出来事) について、自発的に日本の新聞、雑誌、テレビ、ラジオやネットの記事やニュースなどを視聴する習慣を身につける。 3) 日本と自国、またはその他の国と地域の文化・社会について理解・考察・比較したことを日本語で分かりやすく説明することができる。
授業方法と留意点	1) 自分が関心をもった日本のニュースや記事について5分ほどで口頭で発表する。そのため、授業の前までにテレビやラジオ、新聞、雑誌、インターネットの記事やニュースを視聴し、要約しておかなければならない。 2) 発表後はクラス全体で質問や意見交換をする (15~20分)。 3) 講義の聴講や映像の視聴から、考察を行う。 4) 考察したことをお互い他者に伝えながら、理解を深めていく。 5) 最後に、授業で学んだこと全般について理解したことを整理する (小テスト、または小レポート)。
科目学習の効果 (資格)	1) 日本語での口頭表現力の向上 2) 語彙の習得

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス Nippon Guide 1 -日本の地理-	自己紹介、授業の概要の説明、アンケート、インタビュー、自己目標の設定 日本の国土・人口 小テスト	口頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
2	日本の年中行事 (1) -墓参り-	口頭発表 盆と彼岸-日本人の先祖供養- 小テスト	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
3	Nippon Guide 2 -日本の歴史-	口頭発表、意見交換 時代区分と時代の特徴 小テスト	①頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて) ②『かぐや姫』(にほんごよむよむ文庫)を読む。または『かぐや姫の物語』(ジブリ)の視聴
4	日本の年中行事 (2) -十五夜- Nippon Guide 3 -マンガ・アニメのこぼり-	口頭発表 中秋の名月の鑑賞と初穂祭 月見団子を作ろう 小テスト	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて) 10月4日中秋の名月を楽しもう!
5	日本の年中行事 (3) -日本の祭り-	口頭発表 葵祭と時代祭り	原稿、スライドの提出 10月22日の時代祭りを見に行こう
6	高校訪問に向けて (1)	(発表準備) 原稿とスライドの作成 (交流準備) クイズの作成 質問文の作成	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
7	高校訪問に向けて (2) Nippon Guide 4 -若者ことば・関西弁-	発表の練習	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
8	高校訪問の振り返り 日本の年中行事 (4) -紅葉狩り-	口頭発表 発表の振り返り 交流の振り返り 紅葉狩りの名所	①頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて) ②『日本の映画史10』第1章、または『映画で日本文化を学ぶ人のために』の「家族の絆」を10回目の授業までに読む。
9	日本の年中行事 (5) -七五三- Nippon Guide 5 -神社-	口頭発表 七五三 神社とその参拝方法	①頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて) ②『日本の映画史10』第1章を次回の授業までに読む。
10	日本の家族 (1)	口頭発表 視聴映画の説明 映画の視聴 小レポート	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
11	日本の家族 (2)	口頭発表 視聴映画の説明 映画の視聴 小レポート	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
12	日本の年末 (1)	お歳暮、忘年会、宝くじ -ギャンブル大国、日本-	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
13	日本の年末 (2)	口頭発表 年末の大掃除 しめ縄、門松、鏡餅 大晦日 年賀状を書こう	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)
14	日本の年始	口頭発表 お屠蘇、お節、雑煮	頭発表準備 (日本の時事に関する記事、ニュースについて)

			お年玉、初詣、正月の遊び 七草粥、鏡開き どんど焼	初詣に行こう！凧揚げをしよう！
15	2月、3月の行事 授業の振り返り		口頭発表 節分、桃の節句	成田山不動尊の節分祭に行こう！
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本の映画史 10のテーマ	平野共余子	くろしお出版
	2	映画で日本文化を学ぶ人のために	窪田守弘	世界思想社
	3	Hiragana Times		ヤック企画
評価方法 (基準)	到達目標：40%（うち自己到達目標10%）、事前・事後学習：30%（発表準備、発表）、授業への参加：30%（意見交換などでの発言15%、小テスト、小レポート：15%）			
学生への メッセージ	日本文化や社会について理解を深めるまえに、関心や興味を持つことが目的なので、関心のない人も受講してみてください。			
担当者の 研究室等	国際交流センター講師控室（3号館4F）			
備考				

科目名	ビジネスイングリッシュ I	科目名 (英文)	Business English I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	123
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	グラント パーシム
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	ビジネスに関するさまざまな場面と文章を想定した英語を学ぶ。 The main educational objective will be for the students to learn and become familiar with business and office practices using English as the primary language. 主たる目的は、学生がビジネス現場で使用される英語を学習し、慣れること。
到達目標	英語力の向上とビジネス英語への理解を深めることを目標とする。
授業方法と留意点	積極的な授業参加を期待する。発話により英語力を身につけるため、大きな声を出して下さい。辞書を持参のこと。
科目学習の効果 (資格)	ビジネスの場で必要とされる読解力、語彙力をつける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
1	Introduction	講義の進め方、評価方法などを説明 自己紹介		
2	unit1 Talking about your job.	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習	
3	Unit 2 Introducing people	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習	
4	Unit 3. Explaining office layout	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習	
5	Unit 4 Giving instructions.	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習	
6	Unit 5. Making invitations and arrangements.	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習	
7	Unit 6. Review	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習 & テストに備えての学習	
8	Mid-term Test and review.	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習	
9	Unit 7. Travel plans, making requests.	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習	
10	Offering to help and apologizing.	Quiz Units 1-4		
11	Talking about sales & saying large numbers.	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習	
12	Unit 9. Taking telephone messages.	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	復習	
13	Unit 10. Discussing future plans.	ビジネスシーンにおける基本表現、会話文、問題を解く。	テストに備えての学習	
14	Quiz and review.	Quiz units 5-7 and review	復習	
15	Issues	Dealing with issues	Make sure all your work is up to date and has been seen by the teacher.	

関連科目	ビジネスイングリッシュ II
------	----------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Passport to Work.	Angela Buckingham & Norman Whitney.	Oxford University Press
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	Quizzes 30%, Homework, preparation and readiness for class 20% Participation, written work, listening, clear accurate speaking, answering of questions and bearing in class. 50%.
-----------	---

学生へのメッセージ	Plan for your future, study English now. Business English will be VERY USEFUL when you go JOB HUNTING in the near future ! (1) 教科書と宿題を授業が始まるまでに必ず用意し、時間を厳守すること。 (2) 講義に積極的に参加すること。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館非常勤講師室
----------	-----------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	------------------------

科目名	ビジネスイングリッシュ I	科目名 (英文)	Business English I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	456
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

基礎科目

授業概要・目的	このコースではビジネスの様々な場において使える英語を学んでいきます。学生はこれらのシーンで具体的に自分自身を表現する為の中級レベルの英語を学びます。 This is a course in basic business English. Students will learn and use specific business English to express themselves up to intermediate level in situations such as meetings, dealing with clients, making appointments, requests and offers, etc.
到達目標	Upon completion of this course, students should have a working knowledge of the English used in the various business situations presented in the text.
授業方法と留意点	ペアになった会話の練習、小さなグループに分かれての討論、対話練習等が重点的になっていくだろう。 Students will use pair work, small group work, roll play and dialogue practice.
科目学習の効果 (資格)	学生はビジネスのシーンにおいて、自分自身を表現する為の中級レベルの英語を学ぶことができます。 Students will learn language to express themselves in business situations up to intermediate level.

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Unit 1. First meetings.	Meeting a client. Talking about yourself. Numbers.	Pages 4-6.
2	Unit 1. First meetings continued.	Who are you? Interviews. Culture file - Greetings.	Pages 7-9.
3	Unit 2. You and Your Company.	Introducing your company. Company activities. Company departments.	Pages 10-12.
4	Unit 2. You and Your Company. continued.	Numbers. Starting a conversation. Cultural file - Socializing.	Pages 13-15.
5	Unit 3. Visiting a Client.	Arriving at an airport. At reception. Meeting people.	Pages 16-18.
6	Unit 3. Visiting a Client continued.	Finding the right room. Numbers and addresses. Culture file - What's your office like?	Pages 19-21.
7	Unit 4. Business Activities.	Describing routines. How often? Adverbs of frequency. Talking about company activities.	Pages 22-24.
8	Unit 4. Business Activities continued.	Numbers and times. What's your job like? Cultural file - Office life.	Pages 25-28.
9	Unit 5. Fixing an Appointment.	Arranging to meet. Speaking to reception. Fixing an appointment.	Pages 29-31.
10	Unit 5. Fixing an Appointment continued.	Ordinal numbers and dates. Telephoning. Cultural file - The right time.	Pages 32-34.
11	Unit 6. Requests and Offers.	Placing an order. Requests and offers. Decimals and exchange rates.	Pages 35-37.
12	Unit 6. Requests and Offers continued.	E-mail and web site addresses. Ordering by phone. Cultural file - E-commerce.	Pages 38-40.
13	Unit 7. Company and Personal History.	Company history. Issey Miyake.	Pages 41-43.
14	Unit 7. Company and Personal History continued.	Large numbers. Family Business. Job mobility.	Pages 44-46.
15	Term test.	Term test.	Prepare for test.

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Business Venture 1	Roger Bernard	Oxford University Press ISBN: 978-0-19-457817-2
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法 (基準)
Term test: 35%, midterm vocabulary test: 20%
出席授業参加態度: 45%. Attendance, attitude and participation: 45%

学生へのメッセージ
良い成績を取るためには、授業に参加すること、学びたいという姿勢、態度が大切です。もちろん出席することが重要です。This business course is a communication course, so students should try to use their English as much as possible. A good attitude towards learning and participating are important to getting a good grade. Attendance is also very important.

担当者の研究室等
7号館2階 非常勤講師室

備考
予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	ビジネスイングリッシュⅡ	科目名(英文)	Business English II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	123456
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	グラント パーシム
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	このコースではビジネスの様々な場において使える英語を学んでいきます。学生はこれらのシーンで具体的に自分自身を表現する為の中級レベルの英語を学びます。This is a course in basic business English. Students will learn and use specific business English for banks and services, job trends, dealing with complaints, socializing and meetings. TOEIC will also be covered.
到達目標	Upon completion of this course, students should have a working knowledge of the English used in the various business situations presented in the text.
授業方法と留意点	ペアになった会話の練習、小さなグループに分かれての討論、対話練習等が重点的になっていくだろう。Students will use pair work, small group work, dialogue practice and listening.
科目学習の効果(資格)	学生はビジネスのシーンにおいて、自分自身を表現する為の中級レベルの英語を学ぶことができます。Students will learn language to express themselves in business situations up to pre-intermediate level.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introducing the course. Getting to know each other activities.	Lecture. Pair work, Group work.	
	2	Unit 1. Meeting a client	Listening, Speaking & Written review.	Review to be completed.
	3	Unit 1. Talking about yourself and your work.	Listening, Speaking, Reading & Written review.	Review to be completed.
	4	Unit 2. Introducing your company.	Listening, Speaking & Written review.	Review to be completed.
	5	Unit 2. Explaining your company's activities.	Listening, Speaking, Reading & Written review.	Review to be completed.
	6	Unit 3. Visiting a client.	Listening, Speaking & Written review.	Review to be completed.
	7	Unit 3. Visiting a client.	Listening, Speaking, Reading & Written review.	Review to be completed.
	8	Unit 4. Business activities.	Listening, Speaking & Written review.	Review to be completed.
	9	Unit 4. Business activities.	Listening, Speaking, Reading & Written review.	Review to be completed.
	10	Test and review.	Test	
	11	TOEIC Practice	Listening	
	12	TOEIC Practice	Reading	
	13	Seasonal Activities.	Listening and Vocabulary.	
	14	Taking about passed events and the New Year.	Vocabulary, Listening and Speaking. Pair and group work.	
	15	Issues	Listening, Reading.	

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Business Venture 1</td> <td>Roger Barnard & Jeff Cady</td> <td>Oxford University Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Business Venture 1	Roger Barnard & Jeff Cady	Oxford University Press	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	Business Venture 1	Roger Barnard & Jeff Cady	Oxford University Press													
	2																
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	

評価方法(基準)	Being prepared for class (being on time with you book and completed homework on your desk and ready to start) 15%. Homework 5%. Following instruction, participation and contribution to pairs or groups work 20%. Spoken English in class (quality quantity and how appropriate it is to the class tasks.) 20%. Listening in class 20%. Test 20%
学生へのメッセージ	良い成績を取るためには、授業に参加すること、学びたいという姿勢、態度が大切です。もちろん出席することが重要です。This business course is a communication course, so students should try to use their English as much as possible. A good attitude towards learning and participating are important to getting a good grade. Attendance is also very important.
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	ビジネスイングリッシュⅡ	科目名(英文)	Business English II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	789101121314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	このコースではビジネスの様々な場において使える英語を学んでいきます。学生はこれらのシーンで具体的に自分自身を表現する為の中級レベルの英語を学びます。 This is a course in basic business English. Students will learn and use specific business English to express themselves up to intermediate level in situations such as meetings, dealing with clients, making appointments, requests and offers, etc.
到達目標	Upon completion of this course, students should have a working knowledge of the English used in the various business situations presented in the text.
授業方法と留意点	ペアになった会話の練習、小さなグループに分かれての討論、対話練習等が重点的になっていくだろう。 Students will use pair work, small group work, roll play and dialogue practice.
科目学習の効果(資格)	学生はビジネスのシーンにおいて、自分自身を表現する為の中級レベルの英語を学ぶことができます。 Students will learn language to express themselves in business situations up to intermediate level.

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Unit 1. First meetings.	Meeting a client. Talking about yourself. Numbers.	Pages 4-6.
2	Unit 1. First meetings continued.	Who are you? Interviews. Culture file - Greetings.	Pages 7-9.
3	Unit 2. You and Your Company.	Introducing your company. Company activities. Company departments.	Pages 10-12.
4	Unit 2. You and Your Company. continued.	Numbers. Starting a conversation. Cultural file - Socializing.	Pages 13-15.
5	Unit 3. Visiting a Client.	Arriving at an airport. At reception. Meeting people.	Pages 16-18.
6	Unit 3. Visiting a Client continued.	Finding the right room. Numbers and addresses. Culture file - What's your office like?	Pages 19-21.
7	Unit 4. Business Activities.	Describing routines. How often? Adverbs of frequency. Talking about company activities.	Pages 22-24.
8	Unit 4. Business Activities continued.	Numbers and times. What's your job like? Cultural file - Office life.	Pages 25-28.
9	Unit 5. Fixing an Appointment.	Arranging to meet. Speaking to reception. Fixing an appointment.	Pages 29-31.
10	Unit 5. Fixing an Appointment continued.	Ordinal numbers and dates. Telephoning. Cultural file - The right time.	Pages 32-34.
11	Unit 6. Requests and Offers.	Placing an order. Requests and offers. Decimals and exchange rates.	Pages 35-37.
12	Unit 6. Requests and Offers continued.	E-mail and web site addresses. Ordering by phone. Cultural file - E-commerce.	Pages 38-40.
13	Unit 7. Company and Personal History.	Company history. Issey Miyake.	Pages 41-43.
14	Unit 7. Company and Personal History continued.	Large numbers. Family Business. Job mobility.	Pages 44-46.
15	Term test.	Term test.	Prepare for test.

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Business Venture 1	Roger Bernard	Oxford University Press ISBN: 978-0-19-457817-2
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	辞書		
2			
3			

評価方法 (基準)
Term test: 35%, midterm vocabulary test: 20%
出席授業参加態度: 45%. Attendance, attitude and participation: 45%

学生へのメッセージ
良い成績を取るためには、授業に参加すること、学びたいという姿勢、態度が大切です。もちろん出席することが重要です。This business course is a communication course, so students should try to use their English as much as possible. A good attitude towards learning and participating are important to getting a good grade. Attendance is also very important.

担当者の研究室等
7号館2階 非常勤講師室

備考
予習・復習を含め、事前事後学習にかかる総時間をおおよそ15時間程度とする。
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

教 養 科 目

科目名	英語 I a	科目名 (英文)	English Ia
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>授業の説明、プリント教材を使った学習</td><td>テキストの予習と単語の学習</td></tr> <tr><td>2</td><td>Welcome to Japan</td><td>動詞の現在形</td><td>テキストの予習と単語の学習</td></tr> <tr><td>3</td><td>That Sounds Like Fun (1)</td><td>代名詞 (1)</td><td>テキストの予習と単語の学習</td></tr> <tr><td>4</td><td>That Sounds Like Fun (2)</td><td>代名詞 (2)</td><td>テキストの予習と単語の学習</td></tr> <tr><td>5</td><td>We Leave on Friday Morning</td><td>時を表す前置詞</td><td>テキストの予習と単語の学習</td></tr> <tr><td>6</td><td>You Know a Lot about Trains (1)</td><td>基本 5 文型 (1)</td><td>テキストの予習と単語の学習</td></tr> <tr><td>7</td><td>You Know a Lot about Trains (2)</td><td>基本 5 文型 (2)</td><td>テキストの予習と単語の学習</td></tr> <tr><td>8</td><td>I Didn't Want to Leave (1)</td><td>動詞の過去形 (1)</td><td>テキストの予習と単語の学習</td></tr> <tr><td>9</td><td>I Didn't Want to Leave (2)</td><td>動詞の過去形 (2)</td><td>テキストの予習と単語の学習</td></tr> <tr><td>10</td><td>You're Working Late (1)</td><td>進行形 (1)</td><td>テキストの予習と単語の学習</td></tr> <tr><td>11</td><td>You're Working Late (2)</td><td>進行形 (2)</td><td>テキストの予習と単語の学習</td></tr> <tr><td>12</td><td>I'm Sure He'll Understand</td><td>未来形</td><td>テキストの予習と単語の学習</td></tr> <tr><td>13</td><td>I'll Remember That (1)</td><td>助動詞 (1)</td><td>テキストの予習と単語の学習</td></tr> <tr><td>14</td><td>I'll Remember That (2)</td><td>助動詞 (2)</td><td>テキストの予習と単語の学習</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめテスト・復習</td><td>これまでの内容の復習とまとめのテスト</td><td>これまでの内容の復習</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	授業の説明、プリント教材を使った学習	テキストの予習と単語の学習	2	Welcome to Japan	動詞の現在形	テキストの予習と単語の学習	3	That Sounds Like Fun (1)	代名詞 (1)	テキストの予習と単語の学習	4	That Sounds Like Fun (2)	代名詞 (2)	テキストの予習と単語の学習	5	We Leave on Friday Morning	時を表す前置詞	テキストの予習と単語の学習	6	You Know a Lot about Trains (1)	基本 5 文型 (1)	テキストの予習と単語の学習	7	You Know a Lot about Trains (2)	基本 5 文型 (2)	テキストの予習と単語の学習	8	I Didn't Want to Leave (1)	動詞の過去形 (1)	テキストの予習と単語の学習	9	I Didn't Want to Leave (2)	動詞の過去形 (2)	テキストの予習と単語の学習	10	You're Working Late (1)	進行形 (1)	テキストの予習と単語の学習	11	You're Working Late (2)	進行形 (2)	テキストの予習と単語の学習	12	I'm Sure He'll Understand	未来形	テキストの予習と単語の学習	13	I'll Remember That (1)	助動詞 (1)	テキストの予習と単語の学習	14	I'll Remember That (2)	助動詞 (2)	テキストの予習と単語の学習	15	まとめテスト・復習	これまでの内容の復習とまとめのテスト	これまでの内容の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	授業の説明、プリント教材を使った学習	テキストの予習と単語の学習																																																																
2	Welcome to Japan	動詞の現在形	テキストの予習と単語の学習																																																																
3	That Sounds Like Fun (1)	代名詞 (1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
4	That Sounds Like Fun (2)	代名詞 (2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
5	We Leave on Friday Morning	時を表す前置詞	テキストの予習と単語の学習																																																																
6	You Know a Lot about Trains (1)	基本 5 文型 (1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
7	You Know a Lot about Trains (2)	基本 5 文型 (2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
8	I Didn't Want to Leave (1)	動詞の過去形 (1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
9	I Didn't Want to Leave (2)	動詞の過去形 (2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
10	You're Working Late (1)	進行形 (1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
11	You're Working Late (2)	進行形 (2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
12	I'm Sure He'll Understand	未来形	テキストの予習と単語の学習																																																																
13	I'll Remember That (1)	助動詞 (1)	テキストの予習と単語の学習																																																																
14	I'll Remember That (2)	助動詞 (2)	テキストの予習と単語の学習																																																																
15	まとめテスト・復習	これまでの内容の復習とまとめのテスト	これまでの内容の復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>English First - Basic</td><td>Robert Hickling 他</td><td>金星堂</td></tr> <tr><td>2</td><td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td><td>西谷 恒志</td><td>成美堂</td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	English First - Basic	Robert Hickling 他	金星堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	English First - Basic	Robert Hickling 他	金星堂																																																																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%																																																																	
	全学共通英語課題 B	10%																																																																	
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	70%																																																																	
学生へのメッセージ	辞書を持参して必ず毎回出席すること、指定された個所を予習しておくことを心掛けてください。																																																																		
担当者の研究室等	7 号館 2 階 (非常勤講師室)																																																																		
備考	事前・事後学習には 1 時間以上かけること。 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																																																																		

科目名	英語 I b	科目名 (英文)	English Ib
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 尚子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた 4 技能統合型の演習授業を行う。4 技能の基礎力を固めること、ICT を駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声 (再生) できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PC やスマートフォンを用いた e-learning による自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	前期の復習/プリント教材	前期内容のポイントのチェックとプリントを使った課題	テキストの予習と単語の学習
	2	Hiro Forgot (1)	to 不定詞(1)	テキストの予習と単語の学習
	3	Hiro Forgot (2)	to 不定詞(2)	テキストの予習と単語の学習
	4	How Have You Been (1)	現在完了(1)	テキストの予習と単語の学習
	5	How Have You Been (2)	現在完了(2)	テキストの予習と単語の学習
	6	While They're Here (1)	接続詞(1)	テキストの予習と単語の学習
	7	While They're Here (2)	接続詞(2)	テキストの予習と単語の学習
	8	How Was Tennis? (1)	比較(1)	テキストの予習と単語の学習
	9	How Was Tennis? (2)	比較(2)	テキストの予習と単語の学習
	10	What Do You Mean?	受動態	テキストの予習と単語の学習
	11	Well, What Are You Waiting For? (1)	分詞(現在分詞・過去分詞)(1)	テキストの予習と単語の学習
	12	Well, What Are You Waiting For? (2)	分詞(現在分詞・過去分詞)(2)	テキストの予習と単語の学習
	13	The Last Supper (1)	関係詞(関係代名詞・関係副詞)(1)	テキストの予習と単語の学習
	14	The Last Supper (2)	関係詞(関係代名詞・関係副詞)(2)	テキストの予習と単語の学習
	15	まとめテスト、復習	これまでの内容の復習、まとめのテスト	これまでの内容の復習

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English First - Basic	Robert Hickling 他	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A	20%
	全学共通英語課題 B	10%
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	70%

学生へのメッセージ
辞書を持参して必ず毎回出席すること、指定された個所を予習しておくことを心掛けてください。

担当者の研究室等
7 号館 2 階 (非常勤講師室)

備考
事前・事後学習には 1 時間以上かけること。
毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。
「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

教養科目

科目名	英語 II b	科目名 (英文)	English IIb
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	本授業では英字新聞記事を用いた実践的な英文を読むことから、実社会で役立つ英語のリーディングスキルを身につける。
到達目標	実践的な英語力を身につける。(英文の正確な理解ができ、必要な情報を見つけ出せる。) 文法知識を正確にし、定着させる。
授業方法と留意点	毎回授業の始めに前回学習した箇所の復習小テストをする。 記事の読解と Exercise の答え合わせをする。 時事問題についての英文を取り扱うため、日頃から新聞などに目を通し、それらの知識をあらかじめ知っておくのが望ましい (英文が理解しやすくなる) 教科書の英文は、出来る限り声に出して読んだり答えたりしてもらおうので練習しておくこと
科目学習の効果 (資格)	TOEIC 得点向上。英検の資格取得。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 簡単な小テスト	出欠の取り方、授業の進め方、評価方法の説明 Chapter 1	予習 (記事の下読み、Exercise)
2	1 No tricks: halloween all the rage in Japan as costume play	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習 (記事の下読み、Exercise)
3	1 No tricks: halloween all the rage in Japan as costume play	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習 (記事の下読み、Exercise)
4	2 Historic pact to slow global warming is celebrated in Paris	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習 (記事の下読み、Exercise)
5	2 Historic pact to slow global warming is celebrated in Paris	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習 (記事の下読み、Exercise)
6	3 Einstein's right again: Scientists detect ripples in gravity	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習 (記事の下読み、Exercise)
7	3 Einstein's right again: Scientists detect ripples in gravity	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習 : テスト勉強
8	臨時テスト (前期中間)	前半の学習内容の確認テスト 問題解説	予習 (記事の下読み、Exercise)
9	4 U.S. Navy sailing near Spratly Islands jacks up tensions with China	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習 (記事の下読み、Exercise)
10	4 U.S. Navy sailing near Spratly Islands jacks up tensions with China	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習 (記事の下読み、Exercise)
11	5 Japan enacts legislation for major shift in postwar security policy	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習 (記事の下読み、Exercise)
12	5 Japan enacts legislation for major shift in postwar security policy	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習 (記事の下読み、Exercise)
13	6 Two Japanese scientists receive Nobel Prize	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習 (記事の下読み、Exercise)
14	6 Two Japanese scientists receive Nobel Prize	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習 : テスト勉強
15	臨時テスト (前期期末)	後半の学習内容の確認テスト 問題解説	

関連科目 英語 II d

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	News Gallery 2017	木下善貞、江口雅子、Adam Hailes	開文社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 試験期間中の定期試験は行わず、臨時テストを2回 (中間+期末) 行う。
テスト 60%、平常点 (授業態度、単語テスト、小テスト、宿題、提出物) 40%とし、総合的に判断する。

学生への グローバル化により、世界で起きていることを身近な出来事として感じるようになってきました。日本語を介さずに英語で書かれたものを直接読

メッセージ	<p>んで理解できる力を付ける必要があります。</p> <p>積極的な授業参加を期待します。</p>
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室
備考	<p>辞書を持参すること。</p> <p>「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p>

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	12
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷脇 康子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。																																																																		
到達目標	<p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。</p>																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の進め方の説明、初回クイズ</td> <td>授業の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>不定詞の用法</td> <td>プリント演習 発表と解説</td> <td>授業の予習復習 課題準備</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>動名詞と分詞の用法</td> <td>プリント演習 発表と解説</td> <td>授業の予習復習 課題準備</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>関係詞の用法</td> <td>プリント演習 発表と解説</td> <td>授業の予習復習 課題準備</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>形容詞の用法</td> <td>プリント演習 発表と解説</td> <td>授業の予習復習 課題準備</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>副詞の用法</td> <td>プリント演習 発表と解説</td> <td>授業の予習復習 課題準備</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>前置詞の用法</td> <td>プリント演習 発表と解説</td> <td>授業の予習復習 課題準備</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>1～7回目の授業の復習 中間テスト</td> <td>1～7回目の授業の復習 テスト実施</td> <td>中間テストの準備</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>接続詞の用法</td> <td>プリント演習 発表と解説</td> <td>授業の予習復習 課題準備</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>間接疑問文</td> <td>プリント演習 発表と解説</td> <td>授業の予習復習 課題準備</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>仮定法(1)</td> <td>プリント演習 発表と解説</td> <td>授業の予習復習 課題準備</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>仮定法(2)</td> <td>プリント演習 発表と解説</td> <td>授業の予習復習 課題準備</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>まちがえやすい語順</td> <td>プリント演習 発表と解説</td> <td>授業の予習復習 課題準備</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>まちがえやすい否定表現</td> <td>プリント演習 発表と解説</td> <td>授業の予習復習 課題準備</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>9～14回目授業の復習 まとめのテスト</td> <td>9～14回目の授業の復習 テスト実施</td> <td>まとめのテストの準備</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の進め方の説明、初回クイズ	授業の復習	2	不定詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備	3	動名詞と分詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備	4	関係詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備	5	形容詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備	6	副詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備	7	前置詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備	8	1～7回目の授業の復習 中間テスト	1～7回目の授業の復習 テスト実施	中間テストの準備	9	接続詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備	10	間接疑問文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備	11	仮定法(1)	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備	12	仮定法(2)	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備	13	まちがえやすい語順	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備	14	まちがえやすい否定表現	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備	15	9～14回目授業の復習 まとめのテスト	9～14回目の授業の復習 テスト実施	まとめのテストの準備
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の進め方の説明、初回クイズ	授業の復習																																																																
2	不定詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備																																																																
3	動名詞と分詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備																																																																
4	関係詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備																																																																
5	形容詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備																																																																
6	副詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備																																																																
7	前置詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備																																																																
8	1～7回目の授業の復習 中間テスト	1～7回目の授業の復習 テスト実施	中間テストの準備																																																																
9	接続詞の用法	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備																																																																
10	間接疑問文	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備																																																																
11	仮定法(1)	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備																																																																
12	仮定法(2)	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備																																																																
13	まちがえやすい語順	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備																																																																
14	まちがえやすい否定表現	プリント演習 発表と解説	授業の予習復習 課題準備																																																																
15	9～14回目授業の復習 まとめのテスト	9～14回目の授業の復習 テスト実施	まとめのテストの準備																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)		20% 10% 70%																																																																
学生へのメッセージ	授業はテンポよくリズムカルに進行します。集中力を切らさず一生懸命ついてきてください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階非常勤講師室																																																																		
備考	事前・事後学習には1時間以上かけること。毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																																																																		

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	34
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出しすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせる構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、映画の説明	
2	Unit 1: The Woman in the Picture (分詞)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞 (読解・リスニングなど) ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
3	Unit 2: Back to Titanic (受動態)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞 (読解・リスニングなど) ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
4	Unit 3: Leaving Port (助動詞)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞 (読解・リスニングなど) ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
5	Unit 4: Don't Do It (仮定法)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞 (読解・リスニングなど) ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
6	Unit 5: Do You Love him? (進行形)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞 (読解・リスニングなど) ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
7	Unit 6: I Can't See You (関係詞1)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞 (読解・リスニングなど) ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ
8	Unit 7: I'm Flying! (関係詞2)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞 (読解・リスニングなど) 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ

教養科目

			<ul style="list-style-type: none"> ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	
9	Unit 8: Iceberg Right Ahead! (完了形)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞 (読解・リスニングなど) ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ	
10	Unit 9: An Honest Thief (分詞2)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞 (読解・リスニングなど) ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ	
11	Unit 10: Goodbye, Mother (未来形)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞 (読解・リスニングなど) ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ	
12	Unit 11: Get in the Boat (代名詞)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞 (読解・リスニングなど) ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ	
13	Unit 12: Two Tragic Bullets (動名詞)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞 (読解・リスニングなど) ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ	
14	Unit 13: Promise Me (不定詞)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞 (読解・リスニングなど) ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	事前学習課題： Unit の Vocabulary, Expressions の暗記 事後学習課題：文法事項の確認、ノートまとめ	
15	Unit 14: Rose's Secret (否定)	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テスト ・単語・表現のチェック ・映画鑑賞 (読解・リスニングなど) ・文法事項の確認 ・ディスカッション、ディスカッション内容の発表 ・リーディング ・ディスカッションの内容より、英作文の提出 	期末テストの準備	

関連科目

英語 IIb

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Learn English with Titanic	Teruhiko Kadoyama, Simon Capper	成美堂
2	1500 Core Vocabulary 【単語集】 -The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A		20%	
	全学共通英語課題 B		10%	
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)		70%	
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークを実施する。積極的なグループへの貢献を評価する。 ・辞書か電子辞書を必ず持参すること (携帯電話やスマートフォンで代用することは認めない)。 ・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価する。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをする。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼす。 ①私語など授業を妨害するような行為や許可のない途中退席、テキスト忘れは、欠席とみなす。 ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。 <p>映画を楽しみながら、同時に英語も学習しましょう。 TOEICや英検の受験をお勧めします。ランゲージ・パートナーを作ることもお勧めします。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階非常勤講師室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の事後学習を必ず行うこと。 ・毎回、英和辞典を持参すること。 ・出席日数は平常点としない。 ・授業を妨げる行為は減点対象とする。 ・授業内容・進度は、受講生の学習状況を考慮して調整することもある。 ・個別に質問等がある場合は、授業後すぐに教壇または7号館2階の非常勤講師室にて受け付ける。 			

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	56
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高橋 章夫
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う																																																																		
到達目標	<p>「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。</p> <p>「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。</p> <p>「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への応対など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。</p>																																																																		
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の説明、前期の授業の総復習</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Lesson 7 健康</td> <td>Wh 疑問文①</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>Lesson 7 健康</td> <td>病院内の様子</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Lesson 8 ショッピング</td> <td>Wh 疑問文②</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Lesson 8 ショッピング</td> <td>オンラインショッピングのサイト</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Lesson 9 休日</td> <td>時の表現</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>Lesson 9 休日</td> <td>バスツアーのサイト</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>Unit 7-9 復習、まとめテスト</td> <td>復習とまとめテスト</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Lesson 10 大学生活</td> <td>助動詞</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Lesson 10 大学生活</td> <td>メール</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>Lesson 11 世界の国々</td> <td>比較級と最上級</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>Lesson 11 世界の国々</td> <td>世界地図</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Lesson 12 海外旅行</td> <td>ヨーロッパ地図</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Lesson 12 海外旅行</td> <td>ヨーロッパ地図</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>Unit 10-12 復習、まとめテスト</td> <td>復習とテスト</td> <td>授業内容の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の説明、前期の授業の総復習	授業内容の復習	2	Lesson 7 健康	Wh 疑問文①	授業内容の復習	3	Lesson 7 健康	病院内の様子	授業内容の復習	4	Lesson 8 ショッピング	Wh 疑問文②	授業内容の復習	5	Lesson 8 ショッピング	オンラインショッピングのサイト	授業内容の復習	6	Lesson 9 休日	時の表現	授業内容の復習	7	Lesson 9 休日	バスツアーのサイト	授業内容の復習	8	Unit 7-9 復習、まとめテスト	復習とまとめテスト	授業内容の復習	9	Lesson 10 大学生活	助動詞	授業内容の復習	10	Lesson 10 大学生活	メール	授業内容の復習	11	Lesson 11 世界の国々	比較級と最上級	授業内容の復習	12	Lesson 11 世界の国々	世界地図	授業内容の復習	13	Lesson 12 海外旅行	ヨーロッパ地図	授業内容の復習	14	Lesson 12 海外旅行	ヨーロッパ地図	授業内容の復習	15	Unit 10-12 復習、まとめテスト	復習とテスト	授業内容の復習
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の説明、前期の授業の総復習	授業内容の復習																																																																
2	Lesson 7 健康	Wh 疑問文①	授業内容の復習																																																																
3	Lesson 7 健康	病院内の様子	授業内容の復習																																																																
4	Lesson 8 ショッピング	Wh 疑問文②	授業内容の復習																																																																
5	Lesson 8 ショッピング	オンラインショッピングのサイト	授業内容の復習																																																																
6	Lesson 9 休日	時の表現	授業内容の復習																																																																
7	Lesson 9 休日	バスツアーのサイト	授業内容の復習																																																																
8	Unit 7-9 復習、まとめテスト	復習とまとめテスト	授業内容の復習																																																																
9	Lesson 10 大学生活	助動詞	授業内容の復習																																																																
10	Lesson 10 大学生活	メール	授業内容の復習																																																																
11	Lesson 11 世界の国々	比較級と最上級	授業内容の復習																																																																
12	Lesson 11 世界の国々	世界地図	授業内容の復習																																																																
13	Lesson 12 海外旅行	ヨーロッパ地図	授業内容の復習																																																																
14	Lesson 12 海外旅行	ヨーロッパ地図	授業内容の復習																																																																
15	Unit 10-12 復習、まとめテスト	復習とテスト	授業内容の復習																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Make It Simple - 基礎からの実践英語</td> <td>森田和子</td> <td>三修社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Make It Simple - 基礎からの実践英語	森田和子	三修社	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	Make It Simple - 基礎からの実践英語	森田和子	三修社																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A		20%																																																																
	全学共通英語課題 B		10%																																																																
	授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	70%																																																																	
学生へのメッセージ																																																																			
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)																																																																		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																																																																		

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	78
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ダンカン ホワイト
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせることでパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC テストのスコアアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	2	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	3	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	4	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	5	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	6	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	7	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	8	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	9	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	10	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	11	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	12	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	13	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	14	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.
	15	TOEIC, reading, vocabulary practice with cultural and linguistic appreciation.	Task-based exercises.	Regular in-class quizzes.

関連科目 なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	SCD CARNAVAL	Richard Rowat	Weissman Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%	
学生への メッセージ	文章の目的を分析し、また組み立てや展開を理解する訓練を行ない、効率的な読みのできる読解力を養いましょう。 英語を毎日学習する習慣を身につけてください。		
担当者の 研究室等			
備考	All students should make utmost efforts to attend every class and have a textbook. 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」		

科目名	英語Ⅱc	科目名(英文)	English IIc
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	910
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	東野 厚子
ディプロマポリシー(DP)			

教養科目

授業概要・目的	英語Ⅰ、Ⅱで学んだ4技能の基礎力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動にもならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで修得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに時間かかる英文を一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる[CEFR-J B1-1 目標]。 「リスニング力」としては、英語Ⅲと同様、CEFR-J [A2.2] を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J [A2.2] を目標とし、「英語Ⅲ」に引き続き、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	受け身の授業態度ではなく、積極的に取り組む姿勢を評価する。授業では、なるべく全員を指名するので予習し、各Unitごとに、文法事項の確認のため小テストを行うので復習をしておくことが必要である。
科目学習の効果(資格)	英検・TOEICテストのスコアアップなど

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法等の説明 文法事項等の確認	教科書全体に目を通しておくこと
	2	UNIT 13 「～するために」と「～して」を表す形 to不定詞の副詞的用法	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	3	UNIT 14 「～するための」と「～する」というを表す形 to不定詞の形容詞的用法	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	4	UNIT 15 「～される」を表す形 受動態	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	5	UNIT 16 「～している」を表す形 現在分詞の形容詞的用法	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	6	UNIT 17 「～された」を表す形 過去分詞の形容詞的用法	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	7	UNIT 18 2つの文を1つにする方法 (1) 関係代名詞の主格と目的格	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	8	まとめ(1) UNIT13～UNIT18の復習	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの復習
	9	UNIT 19 2つの文を1つにする方法 (2) 関係代名詞の所有格と関係代名詞 what	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0341-0360) テキストの予習、復習
	10	UNIT 20 2つのものをつないでみよう 接続詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習番号(0361-0380) テキストの予習、復習
	11	UNIT 21 疑問文を作る方法と疑問文を別の文の一部にする方法 疑問詞疑問文と間接疑問文	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	12	UNIT 22 「現実離れたこと」を表す形 仮定法	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	13	UNIT 23 「2つのもの」を比べる表現 原級と比較級	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	14	UNIT 24 「順位」を表す表現 最上級	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの予習、復習
	15	まとめ(2) 全体のまとめ 後期まとめテスト	単語テスト 文法事項の確認 テキストの読解、練習問題	単語学習 テキストの復習

関連科目	すべての英語科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	A Primer of Communication in English	小山政史他	松柏社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷 恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 70%			
学生への メッセージ	e ラーニング教材「リンガポルタ」を活用して単語力を増強し、TOEIC 試験に挑戦しましょう。 評価には、4/5 以上の出席が必要です。遅刻は、3 回で欠席扱いとします。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	自主学習には、期末試験の準備を含めて、合計 20 時間はかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」			

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1112
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中本 明子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	2年次前期までに身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	「読解力」としては、これまでに習得したリーディングスキルを用いて、様々なジャンルのアカデミックなテーマに関わる英文を一定以上の速度で読解し、内容を大筋で理解できるようになる [CEFR-J B1-1 目標]。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.2]を目標とし、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。より長く、論理的な構成をもった英文を発信できるようになることを目指す。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	前期の重要ポイントの復習 (品詞、5文型など)	教科書全体に目を通しておくこと リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	2	Unit 12 Business Profile	過去時制	Unit 12の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	3	Unit 13 Schedules	未来	Unit 13の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	4	Unit 14 Computers and the Internet	現在完了時制・過去完了時制	Unit 14の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	5	Unit 15 Industry and Manufacturing	能動態と受動態	Unit 15の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	6	Unit 16 Making Arrangements	接続詞 (2)	Unit 16の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	7	Unit 12からUnit 16までの復習	過去形・未来形、完了形、態と接続詞	Unit 12からunit 16までの復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	8	Unit 17 Business Culture	否定文	Unit 17の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	9	Unit 18 Recruitment	疑問文・疑問詞・付加疑問文	Unit 18の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	10	Unit 19 Entertaining and Socializing	関係代名詞・関係副詞	Unit 19の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	11	Unit 20 Education	後置修飾	Unit 20の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	12	Unit 21 Banking	仮定法	Unit 21の単語の確認と予習・復習 リングポルタ課題 ATR-CALL 課題
	13	Unit 22 Health	話法	Unit 22の単語の確認と予習・復習 ATR-CALL 課題
	14	Unit 17からUnit 22までの復習	否定文、疑問文、関係詞、後置修飾、仮定法と話法	後期の総復習 ATR-CALL 課題
	15	後期の総括	後期まとめテストと解説	テストの復習 ATR-CALL 課題

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Grip - Essential English Skills for College Students -	本多 吉彦	金星堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 【単語集】	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 20% 全学共通英語課題 B 10% 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む) 70%
学生への メッセージ	語集の単語だけでなく、テキストの各ユニットにおける単語は、英和辞書を使って予習しておくこと。また英和辞書は携帯すること。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語 II c	科目名 (英文)	English IIc
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	1314
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	クリスファー ジョンストン
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	読解力としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR-J[A2-2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR-J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Units 15 & 16	Advice	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	2	Unit 17	Comparison	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	3	Unit 18	Invention	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	4	Unit 19	Opinions: the best	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	5	Unit 20	Opinions: good or bad	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	6	Unit 21	Opinions: true or false	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	7	Unit 22	Explanations	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	8	Unit 23	Tall tales	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	9	Unit 24	Advertising	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	10	Unit 25	News	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	11	Unit 26	Evaluation	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	12	Unit 27	Research	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	13	Unit 28	Rethinking history	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	14	Unit 29	Future concepts	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.
	15	Evaluation and review	Evaluation and review	Students should study the vocabulary and grammar for the lesson before they come to class.

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	PASSPORT 2 ISBN 978-0-19-471822-6	Angela Buckingham, Lewis Lansford	Oxford University Press
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	全学共通英語課題 A 全学共通英語課題 B 授業への参加、貢献 (小テスト、まとめテスト等含む)	20% 10% 70%
-----------	--	-------------------

学生へのメッセージ	Students who engage wholeheartedly in class activities, who read up on lessons and do their homework, will achieve most from this course. Pair and group work will form the core of each lesson.
-----------	--

担当者の研究室等	In Building No. 7, 2F, the teacher is available at certain times. Always contact may be made via the secretary.
----------	---

備考	Students should make the utmost effort to attend every class. 毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。
----	---

教養科目

「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	英語 II d	科目名 (英文)	English II d
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	本授業では英字新聞記事を用いた実践的な英文を読むことから、実社会で役立つ英語のリーディングスキルを身につける。
到達目標	実践的な英語力を身につける。(英文の正確な理解ができ、必要な情報を見つけ出せる。) 文法知識を正確にし、定着させる。
授業方法と留意点	毎回授業の始めに前回学習した箇所の復習小テストをする。 記事の読解と Exercise の答え合わせをする。 時事問題についての英文を取り扱うため、日頃から新聞などに目を通し、それらの知識をあらかじめ知っておくのが望ましい (英文が理解しやすくなる) 教科書の英文は、出来る限り声に出して読んだり答えたりしてもらおうので練習しておくこと
科目学習の効果 (資格)	TOEIC 得点向上。英検の資格取得。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス 簡単な小テスト 8 Letters by Toyotomi Hideyoshi show detailed instructions to chief retainer	出欠の取り方、授業の進め方、評価方法の説明	予習 (記事の下読み、Exercise)
	2	8 Letters by Toyotomi Hideyoshi show detailed instructions to chief retainer	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習 (記事の下読み、Exercise)
	3	9 Pris terror attacks a barbaric assault on civil society	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習 (記事の下読み、Exercise)
	4	9 Pris terror attacks a barbaric assault on civil society	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習 (記事の下読み、Exercise)
	5	10 Kondo is back with more tidying advice in 'Spark Joy'	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習 (記事の下読み、Exercise)
	6	10 Kondo is back with more tidying advice in 'Spark Joy'	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習 (記事の下読み、Exercise)
	7	12 U.N. health chief: Zika virus is 'spreading explosively'	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習 : テスト勉強
	8	臨時テスト (後期中間)	前半の学習内容の確認テスト 問題解説	予習 (記事の下読み、Exercise)
	9	13 Suu Kyi party projects landslide in historic Myanmar vote	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習 (記事の下読み、Exercise)
	10	13 Suu Kyi party projects landslide in historic Myanmar vote	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習 (記事の下読み、Exercise)
	11	14 Japanese market observers wary of slowdown of Chinese economy	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習 (記事の下読み、Exercise)
	12	14 Japanese market observers wary of slowdown of Chinese economy	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習 (記事の下読み、Exercise)
	13	15 Turkey issues warning to russia, claiming airspace violation	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習 (記事の下読み、Exercise)
	14	15 Turkey issues warning to russia, claiming airspace violation	単語小テスト 記事読解、Exercise	予習 : テスト勉強
	15	臨時テスト (後期末)	後半の学習内容の確認テスト) 問題解説	

関連科目	英語 II b
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	News Gallery 2017	木下善貞、江口雅子、Adam Hailes	開文社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	試験期間中の定期試験は行わず、臨時テストを2回(中間+期末)行う。 テスト60%, 平常点(授業態度、単語テスト、小テスト、宿題、提出物)40%とし、総合的に判断する。		
学生への メッセージ	グローバル化により、世界で起きていることを身近な出来事として感じるようになってきました。日本語を介さずに英語で書かれたものを直接読んで理解できる力をつける必要があります。 積極的な授業参加を期待します。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師控室		
備考	辞書を持参すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」		

科目名	海外ビジネスインターンシップ	科目名 (英文)	Overseas Business Internship
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	佐井 英子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>本学では、将来グローバル、あるいは地域で活躍する力を身につけた知的職業人の育成を目指している。そのためには、他者と自分の違いを理解し、相手を尊重するという姿勢が必要である。このような態度は国内においても修得可能であるが、日本とは異なる文化、経済事情、生活習慣、価値観なども海外においてインターンシップを体験することにより、相手を正しく理解し、尊重する姿勢、柔軟な発想力の必要性を実感し修得できる。この海外インターンシップでは、ダイバーシティ社会の中で、自分の考えを相手に伝え、また相手の考えを理解できるコミュニケーション能力と自己の責任で自ら考え行動する自律心を育成する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と相手国 (インドネシア・バリ島) の歴史、文化、経済等の違いを正しく理解する。 ・異なる文化、価値観等を尊重する姿勢を修得する。 ・他国を理解することにより、日本についての理解を深め、日本が抱えている問題について深く考察する。 ・将来、グローバルに活躍するために、自分に欠けているものは何か、大学生活で何を学ぶべきか、体得する。 																
授業方法と留意点	<p>研修先として美術館 (ホテル、レストラン併設)、PPLH (NPO)、ウダヤナ大学、コーヒー農園、ウブド高校、マンガロープセンター等を予定しています。</p> <p>研修先により研修内容は異なり、求められる資質、英語能力が異なります。事前学習において各研修先について説明しますが、受講生自身も調査し、研修先を選択します。有意義なインターンシップにするためには、学生の希望と相手先の要望とのマッチングが非常に重要になります。そのため学生の希望は配慮しますが、学生が最初に希望した研修先に配属されるとは限りません。事前に充分個人面談を行い、話し合いの上決定します。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前学習 10日 を予定。現地での各自の研修内容の事前準備 (プレゼン等) が完了するまで行う。 ガイダンス、研修先の研修内容の解説、受け入れ先とのマッチング、バリ島の歴史、習慣、経済状況などを各自調べ発表する。</p> <p>現地実習 10日 (移動日含む)</p> <p>1日目 移動 2日目 環境学習 マングロープセンター、PPLHにて実習 3日目 各研修先へ移動、ガイダンス 4日目～8日目 各研修先にて各々インターンシップ研修実施 9日目 現地視察 10日目 移動日</p> <p>研修内容は、研修先により環境問題に対する取り組み、日本語授業のSA、課外活動のサポート、農業経営・フェアトレードの取り組みなど異なります。各自、毎日研修内容の報告書を作成する。</p> <p>事後学習 3日 (資料の作成が間に合わない場合は、追加する) 報告書の作成、指導、報告会に向けたプレゼンテーション資料の作成、指導、全体報告会</p>																
関連科目	外国語関連科目、世界の歴史、日本の歴史等																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	実習前の事前学習 (10%)、海外現地研修 60% (実習記録 20%、実習態度 50% (研修先からの評価を勘案し、引率教員が評価する)、実習報告書 (20%)、全体報告会のプレゼン 10%																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館8階 佐井研究室 11号館8階 高尾研究室																
備考	共同担当者 高尾教授																

科目名	科学技術教養A1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy A1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	宮本 征一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築学に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。
到達目標	卒業してからの社会生活のための有用な科学技術に関する教養が身に付きこれからの社会を生き抜くことができるようになる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題・演習・小テストを毎回行う。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果(資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	建築とは何か	建築の考え方、建築家の果たす役割	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
2	建築と人間生活	建築の種類と計画空間、ライフスタイルからみた多様性、民族・地域からみた多様性	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
3	建築と都市環境	建築と都市の関係、都市環境のデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
4	建築の歴史	建築の歴史の変遷から建築における多様な「技術」について学ぶ	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
5	建築物のかたちと力の流れ	目に見える建築と目に見えない力がどのように関係しているのかを理解する視点を養います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
6	建築の内装	インテリア、家具・内装	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
7	建築の外装・外構	外装材とはエクステリア、造園	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
8	建築のUD	こどもと建築、バリアフリー、ユニバーサルデザイン	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
9	建築の保存活用	建築と社会の結びつきについて、建築のストック活用事例、保存手法、コンバージョンといった建築保存の視点から見る。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
10	建築の温熱環境	建築空間における温熱環境を理解する視点を培います。	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
11	建築における設備	採光・照明・通風・熱環境・給排水・騒音・エネルギー、エレベーター、エスカレーター	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
12	建築の骨組み	構造と力の流れ、構造材料の性能	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
13	建築の材料	構造と仕上げ材料	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
14	建築と防災	災害、避難、防災教育	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
15	建築をつくる新技術	構造、材料、施工の新技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義中における受講態度 20%、講義メモ・課題・小テストなどを合わせ 80%で評価する。期末試験は行わない。理工学部の出席規定を遵守すること。
----------	---

学生へのメッセージ	受講希望者数が定数を超えた場合は、成績などで選択順位を決めることがある。
-----------	--------------------------------------

担当者の研究室等	8号館3階
----------	-------

備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 教科書(配布予定)ので事前あるいは事後学習に当該回の範囲を読んだり、確認したり、1回あたり1.5時間以上をかける必要がある。
----	---

科目名	科学技術教養C1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy C1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片桐 信
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	授業の目的は、受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原則を知ってもらうことである。第1回目の授業では、身の回りの土木技術の例を取り上げ、それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する。第2・3回目は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する。第4～7回は「土木」の由来となる基本的な材料、第8～11回は設計方法、第12～15回は計画と環境問題について講義する。
到達目標	土木技術全般の基礎知識を有し、土木技術と社会や経済活動、生活との関りを理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 基本的にパワーポイントを用いた講義形式。授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する。 歴史と人物と基本原則をセットとして取り扱う。第4回以降は材料や設計の基本原則を扱う。基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う。 講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には、サンプルや簡単な実験を併用する。
科目学習の効果(資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料、土と人類、土と木 締固めて使う、事例1(古くからの技術)、事例2(近代以降の技術)	配布資料講義部分の予習と復習
5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性、品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料、リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか。 歩測からGPSまで、原理、応用	配布資料講義部分の予習と復習
9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか。 構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める。水と波の力を計算する。 川、ダムと港の設計へ。 水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割、地下空間。 地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画 (計画学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
13	安全で安心な都市へ② -命の水を守る-	衛生工学 (上下水道学の基礎)	配布資料講義部分の予習と復習
14	安全で安心な都市へ③ -持続可能な都市を-	地球規模環境問題、循環型社会 (環境工学)	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -都市の生命線-	ライフラインと防災	配布資料講義部分の予習と復習

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	受講態度20%、受講メモ40%、レポート・小論文40%の総合点で評価する。※レポート・小論文は、授業のまとめとして毎回あるいは2～3回に一回程度実施する予定。期末試験は行わない。
学生へのメッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動を支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです。
担当者の	講義担当者居室 1号館3階および4階

研究室等	
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含めは、毎回1時間程度としてください。

科目名	科学技術教養E1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy E1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片田 喜章
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	電気は我々の生活になくてはならないものである。この講義では電気の簡単な基礎理論を紹介しながら、身の回りにおける電気製品を題材として電気電子工学から通信情報分野までの多岐にわたる応用技術を学習させることを目的とする。
到達目標	電気を作る電池の話や電気を力に変えるモータ、半導体や太陽電池の構造、携帯電話やパソコン、インターネットのしくみまで、電気を使った最新技術がどの様なしくみで暮らしの中で活用されているかを理解できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	授業はスライドを用いて行い、授業中にメモを取らせて授業後に回収する。 講義は1話完結であるが、相互につながりがある。電気を用いた科学技術の全体像を理解するように努めよう。
科目学習の効果(資格)	計測装置・電気設備など電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。 これらの原理や特性を知ることで、その性能をフルに引き出すことができる。 また、身近な電気製品のしくみを知ることで、より有効活用することができる。 国家資格で電気の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	電気の歴史と電気回路の基礎	電磁気学の歴史、電気回路の基礎、抵抗と電気エネルギーの利用、消費電力、交流と直流	電気に関するニュースに注意する。1時間
2	電池の構造と応用技術	交流と直流、電池の種類と電圧発生原理、1次電池と2次電池	テキストを復習する。1時間
3	モータのしくみと応用	磁石と力、電磁石、直流モータと交流モータ	テキストを復習する。1時間
4	半導体のお話	半導体とは何か、p形とn形、大規模集積回路、LED照明とは	テキストを復習する。1時間
5	太陽電池の構造と家庭での利用	半導体で光エネルギーを電気に変換する。売電のしくみ。	テキストを復習する。1時間
6	様々な電子回路	電子回路の歴史、真空管と半導体・集積回路、代表的なアナログ電子回路	テキストを復習する。1時間
7	電波応用技術の変遷	電波と光、マクスウェル理論とヘルツの実験 変調方式、ラジオとテレビ	テキストを復習する。1時間
8	モールス通信から携帯電話へ	モールス通信からベルの電話へ、電話機と交換機のしくみ、アナログからデジタルへ、携帯電話とネットワークのしくみ	テキストを復習する。1時間
9	アナログからデジタルへ	アナログとデジタル、2進数とは、論理回路入門	テキストを復習する。1時間
10	パソコン・スマートフォンの内部構造	構成要素と機能、ハードウェアの構成、ソフトウェアの役割、パソコン・スマートフォンの進化	テキストを復習する。1時間
11	マイコンで制御される家電製品	電気制御の重要性、温度制御、圧力制御 電子レンジやIHのしくみ	テキストを復習する。1時間
12	音響機器のしくみ	マイクとスピーカ、録音技術の歴史 CDのしくみ、アナログ録音とデジタル録音、人工音の合成	テキストを復習する。1時間
13	画像表示のしくみ	画像表示の歴史と原理、各種表示デバイスのしくみ、 立体映像表示の原理と実例	テキストを復習する。1時間
14	インターネットのつながり方	インターネットのしくみ、ルータとハブ 無線LAN、ネットワークセキュリティ	テキストを復習する。1時間
15	医療分野への貢献	ガルバノの実験、義手の制御 電気工学の医療への応用	テキストを復習する。1時間

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキストを配付する		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 受講態度20%、受講メモ40%、小テスト40%の総合点で評価する。

学生へのメッセージ 身の回りの電気製品は日々進化しています。これらを便利な道具としてブラックボックス的に使うのではなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。

担当者の研究室等 1号館4階・5階の電気電子工学教員室

備考 出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。

科目名	科学技術教養M1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy M1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	諏訪 晴彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	機械工学は、ヒトが活動する上での効率化、合理化、さらには自動化を図るモノやコトの技術・学問の体系である。本講義では、ヒトはなぜモノを作ろうとするのか、何を用いてモノを作ってきたのか、どのようにモノを作るのかに注目し、その上で日本が世界に誇ると言われる「モノづくり」の諸技術を学ぶ。モノの材料から道具を作ること、さらには産業の発展に役立ってきたさまざまな機械とその諸技術について学ぶ。
到達目標	機械技術およびものづくり技術全般の基礎知識を身につけ、機械工学と社会・生活との関わりを理解できる。
授業方法と留意点	・各テーマごとにその歴史、基本原理、最先端の話題を2回もしくは3回にわたって提供する。 ・スライドを中心にビデオを用いた講義形式を取る。講義の終盤に講義内容のメモ(ノート)を提出するため、講義の内容をよく聞き、ノートにいていかにまとめていくことが大事。
科目学習の効果(資格)	世の中に存在する工業製品、人力を越えた能力を備える機械など人工物・人工物システムの役割・仕組み・機能に関する幅広い知識を得て、知見を広めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	道具を作る(1) - ヒトと道具	・道具の歴史: ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ ・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具	配布資料に目を通しておくこと。
3	道具を作る(2) - 作り方	・鋳造、塑性加工、粉末冶金、材料加工、生産加工 ・刀鍛冶、セラミックス、溶接・切断	配布資料に目を通しておくこと。
4	モノの材料を知る(1) - 金属材料	・金属材料はなぜ素材たり得るか? ・鉄鋼の製造方法	配布資料に目を通しておくこと。
5	モノの材料を知る(2) - セラミックス・ポリマー	・セラミックス・ポリマーの構造(金属と何が異なるか?) ・高強度・機能性材料の話	配布資料に目を通しておくこと。
6	モノの材料を知る(3) - 新素材	・新素材と高度産業化社会 ・形状記憶、超伝導、ナノ材料	配布資料に目を通しておくこと。
7	ものづくり(1) - 母なる機械	・機械部品を作る機械(工作機械の歴史) ・機械時計、工具と運動、機械部品	配布資料に目を通しておくこと。
8	ものづくり(2) - 精密に加工する	・精度を追求する(コンピュータと工作機械) ・精密加工、マシニングセル、ナノ加工	配布資料に目を通しておくこと。
9	ものづくり(3) - 工場(ファクトリー)	・世界が学ぶ・日本が誇る製造システム ・無人化工場、デジタル屋台、トヨタ生産方式	配布資料に目を通しておくこと。
10	大きな力を得る(1) - 車輪	・作業を補助する機械の歴史 ・車輪、滑車、てこ、歯車	配布資料に目を通しておくこと。
11	大きな力を得る(2) - 建設運搬機械	・巨大な力を得るためのアクチュエータ ・油圧・水圧・空気圧機器、電動機	配布資料に目を通しておくこと。
12	大きな力を得る(3) - パワーアシスト	・アクチュエータの知能化とパワーアシスト ・パワードスーツ、電動アシスト自転車、人工筋肉	配布資料に目を通しておくこと。
13	ミクロの機械(1) - 精密機械	・小さくなることで変わる使い方 ・時計、携帯電話、計算機、テレビカメラ、情報機器	配布資料に目を通しておくこと。
14	ミクロの機械(2) - 小さく作る	・小さくすることで変わる物理の法則、加工法・アクチュエータ ・微細加工、ナノテク、半導体製造、カーボンナノチューブ、微細気泡	配布資料に目を通しておくこと。
15	ミクロの機械(3) - 小さくて広大な世界	・半導体製造技術を用いた微細構造を持つ機械 ・カプセル内視鏡、鞭毛モーター	配布資料に目を通しておくこと。

関連科目 産業技術史

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 毎回、講義メモとレポートを提出する。受講態度(20%)、講義メモ(40%)、レポート(40%)を評価する。

学生へのメッセージ 機械工学に関わる製品や技術を、大きなスケールで幅広く知ることができます。また、道具はどうやって進化してきたのか? 日本の「ものづくり」がなぜ優れているのか? 近未来にどのような乗り物が実現されているのか? 等々、工業製品にまつわる歴史や最新のトピックを紹介します。本講義を受講し、就職活動や職業観の涵養に役立てましょう。

担当者の 研究室等	担当教員の居室〔1号館の3階・4階・5階〕
備考	出席および遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。

科目名	科学技術教養R1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy R1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	森山 正和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	古来より人間は、自然の力をかりてこの地球上に暮らしてきたが、祖先が自然と共生するために凝らしたさまざまな工夫は、それぞれの場所での気候風土、地形、材料を活用したものであり、そこには多くの知恵と技術の歴史を見ることができる。このような背景にもとづく、住環境の成り立ちについて、さまざまな事例を紹介しながら講義する。また、それらを踏まえて、具体的な空間やもののデザインに応用するための工夫や実践につながる技術、手法を学ぶ。
到達目標	住環境の成り立ち、空間やもののデザインの実践的な技法を理解し、建築都市インテリアなどの空間を対象とする住環境デザイン全般の基礎知識を習得できる。
授業方法と留意点	パワーポイントや板書による講義を行う。 講義の内容に沿った課題を毎回提出させる。講義を集中して聴く態度が求められる。
科目学習の効果(資格)	身近な住まいと暮らし、環境に関するデザインの知識と手法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	エコ技術と住宅デザイン-近代の住宅事例	新しい素材、技術、理論の進展に伴い、エコ技術を駆使した近代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
3	エコ技術と住宅デザイン-現代の住宅事例	自然の力をかりるといった古来の知恵を、最新の科学によって融合させた現代の住宅デザイン例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
4	都市デザインにおけるエコ技術	ヒートアイランド対策をはじめとする、都市デザインにおけるエコ技術について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
5	住環境における換気	換気の考え方の歴史や法などの基準のはなしを基に、住宅における換気的重要性について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
6	健康で快適な生活とにおい対策	心身ともに健康に過ごすための、住宅内でのにおい問題やにおい対策の考え方について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
7	生活の中における香りの活用	屋内外の香りや人とのかかわりのはなしから、香りの人への心理生理的影響や香りの積極的な利用方法について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
8	いのちを守るあかりとサイン	大規模災害時に避難・誘導を助けるあかりやサインの存在を知り、その有用性とデザイン上の注意点を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
9	安全・快適な照明環境	照明環境のユニバーサルデザイン手法について、基礎的な知識と、最近の調査、デザイン事例を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
10	暮らしの中のさまざまな寸法	身近なモノの寸法がどの様に決められているかを知り、住まいや暮らしをより豊かにするデザインの視点を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
11	地域と景観	地域に居住・生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ、景観保護の事例を通して学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
12	野生動物との共存のデザイン	近年獣害が増加する獣害問題及び野生動物と人間が共存するための方策を、具体的事例を通して学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
13	CGと空間デザイン	インテリアや住宅デザインで用いられるCGのしくみと基本知識、その有用性について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
14	かたちとデザイン	身の周りにある家具や住宅などのかたちをコンピュータを用いて表現する方法を学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。
15	アニメーションと空間デザイン	アニメーションを用いて空間を表現した事例紹介から、そのしくみと効果について学ぶ。	配布資料講義部分の予習と復習を十分に行う。

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	科学技術教養(R1) 住環境デザイン学科 教科書	摂南大学理工学部住環境デザイン学科	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	講義中における受講態度 20%、講義メモ・課題・小テストなど 80%で評価する。 期末試験は行わない。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	12号館 6・7階 各教員研究室
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。 事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、 毎回1時間程度と考えてください。

科目名	科学技術教養T1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy T1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東 武大
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し、それが最新技術にどのように用いられているかを知る。
到達目標	科学の歴史的な流れを、基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について、各自が意見を持つことができる。
授業方法と留意点	初回に配布するテキスト及び毎回の配布プリントを用いる。各回の最後には講義メモを提出すること。
科目学習の効果(資格)	

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	授業計画	1	人類にとっての数(1)	太古の昔、物を数えるための道具として「自然数」は生まれた。やがて「自然数」から「分数」へと数の世界は広がっていったが、どのような経緯を経たのか？人類の歴史と共に探る。
2		人類にとっての数(2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	課題・レポート
3		人類にとっての数(3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	課題・レポート
4		三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	課題・レポート
5		平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	課題・レポート
6		身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。	課題・レポート
7		波の数理 (音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	課題・レポート
8		波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	課題・レポート
9		電磁波	光は波である。弦を伝わる波は、弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返り現れて波になっている。光が波ならば、いったい何の振動なのだろうか。マクスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	課題・レポート
10		レーザー光	光を発するもの(光源)には様々なものがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。近年では省エネルギーな発光ダイオード(LED)が急速に普及している。本講では人が創り出した「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。	課題・レポート
11		X線の発見から利用	X線の発見から発生の原理、さらにX線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンやX線CTがなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X線の欠点と安全性についても簡単に紹介する。	課題・レポート

	12	放射光と未来の光	科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されてきている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	課題・レポート																
	13	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説について概観する。	課題・レポート																
	14	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証する近代自然科学の萌芽を考える。	課題・レポート																
	15	ガリレオの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	課題・レポート																
関連科目	数学・物理の全科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>科学技術教養T1, T2</td> <td>基礎理工学機構 教員</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	科学技術教養T1, T2	基礎理工学機構 教員		2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	科学技術教養T1, T2	基礎理工学機構 教員																		
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	受講態度 20%、受講メモ 40%、レポート・小論文 40%の総合点で評価する。																			
学生への メッセージ	科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や数に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。																			
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1号館2階, 3号館3階, 8号館2階]																			
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。																			

科目名	科学技術教養V1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy V1
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西村 仁
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	新聞やテレビが病気・くすりについてのニュースを取り上げることは珍しくないが、その内容を理解することは容易ではない。本講義では、病気・くすりの発見や原因解明の歴史、生命現象との関係などを個体レベルから遺伝子レベルにわたって幅広く平易に概説する。この講義の到達目標は、病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになることである。また、病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学の意義を理解できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 病気・くすりに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。 (2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学の意義を理解できるようになる。
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で講義を行い、配付する資料とパワーポイントを用いて解説する。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他、レポート、小論文、演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果(資格)	生命科学に関するニュースがより身近になり、明確に理解できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	不妊のしくみ	日本人夫婦(カップル)は10組のうち1組は不妊と言われており、実際に治療を受けている人が多い。しかし、なぜ不妊になるのかははっきりしない場合も多い。本講義では受精の仕組みから考えられる不妊の原因と現在の治療法について概説する。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
2	病気と遺伝子	内容:生物のDNAは常に外界の危険因子によって傷(変異)を受けているが、生物の体内には傷を発見して治療する安全システムが存在している。この安全システムはどのように作動して、また不具合が生じた場合にどうなるのか?また身近に存在する危険因子や疾患の代表例について考える。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
3	脳・神経の病気のしくみ	脳や神経の病気は難病と言われているものが多く、治療、快復が困難な現状である。まず難病のいくつかを紹介し、それらの治療のためにどのようなことがなされているかを概説する。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
4	免疫が引き起こす病気のしくみ	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と、がん、ウイルス感染(インフルエンザ、HIV、肝炎)、アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
5	がんの発生とその予防法	死因別死亡率のトップはがんであり、約3人に1人ががんで亡くなっている。自分の意思で調節可能なはずの危険因子である喫煙が、がんの原因の30%を占めており、単因子要因としては最大である。本講義では、がんの発生機序やその予防法について説明する。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
6	ミトコンドリアと病気	太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが、我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では、ミトコンドリアの特徴、役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
7	くすりと遺伝子工学	ある生物から分離した遺伝子を別の細胞または生物体に導入して、遺伝子産物(タンパク質)を生産したり、新しい形質を作り出すなど、遺伝子を人工的に操作する技術、遺伝子工学について紹介する。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
8	くすりと組換え生物	8年ほど前にヒトのすべてのDNA配列が解読されて、ヒトには約2万2千の遺伝子があることが明らかにされた。ポストゲノム研究では、マウスやラットなどを用いた「遺伝子組み換え生物」が作製され、再生医療や疾患の新しい治療法を開発するための重要なツールとして利用されていることに加え、バイオ医薬品の作製などにも役立っている。遺伝子組み換え生物の作成と応用について考える。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
9	くすりとバイオインフォマティクス	遺伝子やタンパク質の配列情報を例にバイオインフォマティクスの概要について説明し、病気と遺伝子、ゲノム創薬への応用について述べる。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)
10	くすりとタンパク質のかたち	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつであるX線結晶構造解析の概要から、インフルエンザ治療薬を例に医薬品開発への応用について述べる。	予習としてV1テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する(1時間)

	11	くずりとゲノム	ゲノムとは、創薬とは、遺伝子診断などを解説し、生命倫理、歴史的な背景や将来の課題と発展方向をさぐる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）																
	12	薬物乱用と依存性薬物	社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存という、その人の性格や人格の問題と思われがちであるが、脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では、薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）																
	13	遺伝子治療の最前線	遺伝子により治療はできるか、遺伝性疾患、科学・技術の概要、基本的な原理、を解説。生命倫理や関連した話題のトピックについても触れる。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）																
	14	神経再生治療の最前線	ヒトの中樞神経は損傷から回復できない。また、抹消神経であっても神経細胞そのものがダメージを受けるとやはり回復は難しい。ヒトの神経及び神経細胞の損傷からの回復を目指して様々な努力が行われている。それらの研究をわかりやすく概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）																
	15	iPS 細胞研究の最前線	京都大学の山中伸弥教授によって作り出された iPS 細胞の基礎・臨床研究は今や国家プロジェクトであり、新聞やテレビでもたびたび登場する。本講義で iPS 細胞の発見から現在までの研究状況を概説する。	予習として V1 テキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する（1 時間）																
関連科目	科学技術教養 V2																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	80%以上の出席を前提とした上で、授業態度 20%、講義メモ 40%、およびレポート・小論文・演習問題などの課題 40%の総合点で評価する。なお、30 分未満の遅刻は欠席 0.5 日、30 分以上の遅刻は欠席 1 日とする。																			
学生への メッセージ	病気やくずりはみなさんの身近な問題で、関心も大きいと思います。本講義では病気やくずりについて、生命科学の観点から具体例を挙げてわかりやすく解説します。																			
担当者の 研究室等	1 号館 9 階 松川、川崎、尾山、西村、中嶋、船越、井尻、居場研究室																			
備考	事前事後学習に要する総時間の目安は 15 時間																			

科目名	北河内を知る	科目名(英文)	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	荻田 喜代一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の歴史・文化・産業・ライフライン、地方自治体の現状と課題、「北河内」に関係する各分野で活躍している団体や機関の人びとの活動状況などをテーマに、外部講師の講演とグループディスカッションを中心に、この地域に住む人々の暮らしや特徴、現在の問題と今後の課題を知ることにより、摂南大生として、この地域とどのようにかかわるかを考える。この授業は、「地域をつくる」「地域を考える」「地域をまなぶ」の3つのテーマからなり、地域貢献活動の動機づけを目的とする。
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、街づくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。この認識を踏まえて、地域における摂南大学の役割を考え、積極的に地域にかかわる態度を示すとともに、活気ある地域の創生に向けたアイデアを立案し、行動できる。
授業方法と留意点	北河内地域の各分野で活躍されている方々を学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「講演の聴講」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。 情報収集ツールとしてスマートフォン、タブレット、ノートパソコン等を持参すること
科目学習の効果(資格)	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・グループワークのアイスブレイク	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
2	地域(1, 2)に関する事前学習	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
3	地域(1, 2)に関する講演	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
4	グループワーク・プレゼンテーション	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
5	地域(3, 4)に関する事前学習	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
6	地域(3, 4)に関する講演	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
7	グループワーク・プレゼンテーション	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
8	地域(5, 6)に関する事前学習	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
9	地域(5, 6)に関する講演	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
10	グループワーク・プレゼンテーション	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。
11	地域(7, 8)に関する事前学習	北河内地域(守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市)の情報を収集して地域課題を発見できる	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
12	地域(7, 8)に関する講演	北河内地域に関する講演を聴講し、地域課題の発見・解決の参考とする	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
13	グループワーク・プレゼンテーション	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
14	全体のまとめと振り返りのためのグループワーク	北河内地域の活性化や課題の解決のための具体的なアクションプランを策定する	授業内容に関する意見や考えを醸成すること。
15	プレゼンテーション	アクションプランをプレゼンテーションし、意見交換により、より深い学びを行う	討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	個人成果物(30%、提出物)、講演に対するグループごとの聴講態度(30%、ルーブリック)、グループワーク・プレゼンテーションの態度および成果物(40%、ルーブリック・提出物)。欠席・遅刻の場合には当該項目の評価は「0」とする。
----------	---

学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか?
-----------	----------------------

担当者の研究室等	枚方キャンパス1号館6階(薬理学研究室)、寝屋川キャンパス11号館1階(教務課)
----------	--

備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。
----	--

科目名	グローバルな視点から異文化共生を考える	科目名 (英文)	Realizing the Importance of Cultural Diversity -from the Glo
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	糟谷 英之
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>摂南大学が加盟する国連アカデミックインパクトの原則10「異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く」を実施するため、移民、難民問題など人権問題を考えることによってグローバルな人材を育成することを目的とします。</p> <p>現在では海外で活動する場合に限らず、地方自治体などを含め地域社会で活動する際にも国際的な人権感覚を身につけることが重要であると考えます。</p> <p>こうした目的を達成するため 授業では、次の二つの課題を実行します。</p> <p>①国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) と連携し、学校パートナーズとして映画祭や講演会の企画運営をします。</p> <p>②ニュージーランドでの海外研修を行います。</p> <p>*2017年度については、①は、10月、②は、2月に実施予定。</p>																
到達目標	<p>学校パートナーズとして UNHCR 難民映画祭の企画運営への参加およびニュージーランド海外研修を通じて、移民・難民の問題を自分自身の問題として捉え直し、グローバルな人材として必要な人権感覚を身につけます。</p> <p>さらに企画運営能力や問題解決能力およびコミュニケーション能力の開発を目指します。</p>																
授業方法と留意点	<p>集中講義の形式をとります。</p> <p>通常の講義とは異なり毎週授業があるわけではありません。しかし UNHCR 難民映画祭および海外研修のため事前及び事後に不定期に集まる場合があります。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>先の目的を実現するため本講義では次の二つの課題を実行します。</p> <p>①まず国連アカデミックインパクト加盟大学の取り組みの一環として、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) と連携して映画祭や講演会の企画運営を目指します。これによって受講生の国際的人権意識を高め、企画運営能力、コミュニケーション能力などを開発します。情宣活動を通じて大学構成員全体の国際的人権意識をも高めることにもなるでしょう。</p> <p>②次にニュージーランドでの海外研修を通じ、移民、難民問題をあらためて考えます。現地でのホームステイ及び語学研修、さらに現地の人々へのインタビューなどを通じて異文化共生とは何かを体感したいと思います。現地での体験が①で身につけた知識、企画運営能力、問題解決能力およびコミュニケーション能力を真に生きたものにするでしょう。</p> <p>①②の課題実行にあたって、それぞれ事前打ち合わせと事後の検証報告を行います。</p>																
関連科目	国際人権法、法律英語、グローバル社会論、国際ボランティア論など																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	二つの課題①②への積極的参加および検証報告の内容を総合的に評価します。																
学生へのメッセージ	<p>いま私たちが住む世界は今までにない大きな変化を経験しています。これからは外国人を含めさまざまな人々と共に生きていく時代です。こうした社会で生きていくために我々一人ひとりにとって何が必要であるかを講義を通じて是非感じ取ってください。</p> <p>海外研修を通じて異文化を体験してください。それだけでも君たちにとって大きな意味があると思います。</p>																
担当者の研究室等	<p>11号館10階 糟谷研究室</p> <p>E-mail: kasutani@law.setsunan.ac.jp</p>																
備考	<p>*海外研修もありますので、必須ではありませんが、是非前期から特に TOEIC 受験も考えて英語力の育成を意識しておいてください。また法学部学生は、前期科目の「法律英語」をできれば受講してください。</p> <p>*UNHCR 難民映画祭や海外研修の具体的内容については、ガイダンスで紹介いたします。海外研修への参加費は基本的には自己負担となりますので注意してください。</p>																

科目名	現代ビジネス論	科目名(英文)	Modern Business
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	牧 美喜男
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義では組織行動論の中心テーマであるリーダーシップや日本企業の直面するマネジメントの国際化時代における人的資源管理を学習する。本講義の特色は将来のビジネスリーダーを目指す皆さんが考える基盤や目標の提供を目指す。両分野の基礎知識の学習に加えて、豊富な事例を紹介する。企業の倒産や再建事例におけるリーダーの行動、皆さんが属する若者の行動や意識の特徴、日本の経営の特色や日本が生み出したビジネスリーダー事例を学習する。私たち日本人の心の奥底に存する企業観・倫理観や労働観について再検討し、グローバル化・価値観の多様化が進展する中、将来のわが国ビジネスの在り方について、皆さんと一緒に考える。
到達目標	本講義では、以下の3つの目標を設定する。 ①組織を管理するマネージャーに求められる資質やスキルを理解する。 ②日本の経営の特色および、マネジメントの国際化時代におけるその進化の方向性を理解する。 ③組織で働くとは何かを考え、自分が目指すリーダーとは何かを理解する。
授業方法と留意点	可能な限り双方向(interactive)の講義を目指す。単に教科書を読んで内容を理解するというだけでなく、レクチャーを通じて身につけた基礎的な知識に基づきながら、現実世界の経営上の諸問題についての対応策を皆さんが考え、答えを追求する。わからない点や難しい点については補足的に説明しながら、必要に応じて応用的なディスカッションを実施する。
科目学習の効果(資格)	資格等の取得はありませんが、本講義終了時には以下が身に付きます。今後のビジネス社会の方向性を理解し、ビジネスリーダーとは何か、自身はどのようなビジネスリーダーを目指すかを考える基盤を取得出来ます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	マネージャーとマネジメント	人材を管理するとは何かを学ぶ。	マネージャーはどんな仕事をしているのか、またなぜマネジメントを学ぶ必要があるか考えてみる。
3	個人行動の原点	人はどのようなときに最もよく働くのかを考える。個人行動の起点を知る。	組織行動論の目的は何かを考えてみる。
4	リーダーシップと信頼	各種リーダー論を紹介する。	自身のリーダー体験および今までに出会った素晴らしいリーダーの特徴を考えてみる。
5	変革型リーダーがなぜ求められるか	マネジメントの国際化時代の変革型リーダーの重要性を各種事例をもとに説明する。(小テスト実施)	なぜリーダーシップに信頼が強調されるのか自己の体験に照らして考えてみる。
6	国際人的資源管理とは何か	各国人材・マネジメント方式の差異。各国企業文化を知る。	海外展開をする企業は、本国の或いは出身国の労務管理制度のどちらを採用しようとしてしているのか考えてみる。
7	日本企業国際化の軌跡	オペレーションの国際化・マネジメント国際化時代の日本企業の対応。多国籍従業員の意識。	トヨタ自動車・GMとの合弁企業NUMMIがなぜ設立されたのか調べてみよう。最近、日本本社で外国人が多数採用されているがその理由を考えてみよう。
8	コミュニケーションと情報	高コンテクスト文化・社内言語とコミュニケーション外国人社員は何で苦労するのかを考える。(小テスト実施)	日本人は自己主張をしないとされています。あなたが発揮する日本人らしさとは何でしょうか？
9	自身を考える	日米中韓4か国の若者調査の紹介・12人の有識者による若者の実像。人材育成モデルの紹介。人材育成モデルの提案。	あなたは偉くなり社会に貢献したいですか？自身の能力をどう評価していますか？
10	日本人の特性と日本的経営の本質	歴史や地勢的観点から日本人独特の経営が生み出されたことを学ぶ。	有史以来他民族の侵略を受けてこなかった国が世界に一つだけあります。その特異性を考えましょう。
11	自分はどういうビジネスリーダーになるか 事例1 二宮尊徳	日本的経営の原点・心も金も豊かにする実学を学ぶ。	以下3回にわたり偉大なビジネスの先人の話をします。3人に関する本はたくさん出版されているので図書館やインターネットで調べてみよう。
12	事例2 本田技研創業者藤沢武夫の紹介	本田の実質的な経営者の追求したマネジメントの実態に迫る。	11回参照
13	事例3 パナソニック創業者 松下幸之助	経営の神様が追求し実践した指導者の条件。	11回参照
14	君たちはどのようなリーダーを目指すか	自由討議 10人ぐらいのチームに分け、討議・各グループの発表。	事例紹介のうちどの点がすごいと思ったか事前に考えておく。
15	まとめ	全14回の講義の中で浮かび上がってきたことを総括する。	

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	世界が称賛する日本の経営	伊勢雅臣	育鵬社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	国際人的資源管理	関口倫紀ほか	中央経済社
	2	マネジメント入門	スティーブンP.ロビンズ	ダイヤモンド社
	3			

評価方法 (基準)	第5回時の小テスト(20%)、第8回時の小テスト(20%)、定期試験(60%)
学生への メッセージ	自身を知り自身の特性を生かしマネジメントの国際化時代のリーダーとして活躍する。そのモデルである企業やリーダーに巡り合えると思います。紹介するリーダー事例より、自身がどのようなリーダーになりたいか自分に置き換えて考えてください。
担当者の 研究室等	教務課(11号館1階)
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 「質問等は出講時に教務課にて対応する」

科目名	公衆衛生学	科目名 (英文)	Public Health Science
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小堀 栄子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	授業では、公衆衛生の歴史、人口の現在と将来からはじまり、集団の健康をはかるための健康指標、および集団の健康を守るための予防医学の考え方、それに基づいて行われている感染症や慢性疾患の罹患の現状と対策などについて学ぶ。また、人の健康が環境から受ける影響などについても取り上げる。																																																																		
到達目標	私たちの健康に影響を与える環境や社会を理解し、公衆衛生の取り組みを有機的に理解する。																																																																		
授業方法と留意点	講義中心。最新的话题を随時取り入れる。視聴覚教材も用いる。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>公衆衛生とは</td><td>公衆衛生の歴史と概要</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>2</td><td>人口転換と疫学転換</td><td>人類史と健康</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>3</td><td>保健統計 (1)</td><td>日本の人口</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>4</td><td>保健統計 (2)</td><td>健康指標</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>5</td><td>疫学 (1)</td><td>疫学の歴史と考え方</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>6</td><td>疫学 (2)</td><td>集団の疾病をとらえる方法</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>7</td><td>疾病予防</td><td>予防医学の考え方</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>8</td><td>感染症 (1)</td><td>感染症の疫学</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>9</td><td>感染症 (2)</td><td>感染症と予防</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>10</td><td>慢性疾患 (1)</td><td>慢性疾患の疫学</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>11</td><td>慢性疾患 (2)</td><td>慢性疾患と予防</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>12</td><td>環境保健 (1)</td><td>環境が健康に及ぼす影響</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>13</td><td>環境保健 (2)</td><td>地球規模の環境問題と取り組み</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>14</td><td>国際保健</td><td>世界の健康・日本の健康</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> <tr><td>15</td><td>移民と健康</td><td>在日外国人の健康</td><td>最新ニュースに留意</td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	公衆衛生とは	公衆衛生の歴史と概要	最新ニュースに留意	2	人口転換と疫学転換	人類史と健康	最新ニュースに留意	3	保健統計 (1)	日本の人口	最新ニュースに留意	4	保健統計 (2)	健康指標	最新ニュースに留意	5	疫学 (1)	疫学の歴史と考え方	最新ニュースに留意	6	疫学 (2)	集団の疾病をとらえる方法	最新ニュースに留意	7	疾病予防	予防医学の考え方	最新ニュースに留意	8	感染症 (1)	感染症の疫学	最新ニュースに留意	9	感染症 (2)	感染症と予防	最新ニュースに留意	10	慢性疾患 (1)	慢性疾患の疫学	最新ニュースに留意	11	慢性疾患 (2)	慢性疾患と予防	最新ニュースに留意	12	環境保健 (1)	環境が健康に及ぼす影響	最新ニュースに留意	13	環境保健 (2)	地球規模の環境問題と取り組み	最新ニュースに留意	14	国際保健	世界の健康・日本の健康	最新ニュースに留意	15	移民と健康	在日外国人の健康	最新ニュースに留意
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	公衆衛生とは	公衆衛生の歴史と概要	最新ニュースに留意																																																																
2	人口転換と疫学転換	人類史と健康	最新ニュースに留意																																																																
3	保健統計 (1)	日本の人口	最新ニュースに留意																																																																
4	保健統計 (2)	健康指標	最新ニュースに留意																																																																
5	疫学 (1)	疫学の歴史と考え方	最新ニュースに留意																																																																
6	疫学 (2)	集団の疾病をとらえる方法	最新ニュースに留意																																																																
7	疾病予防	予防医学の考え方	最新ニュースに留意																																																																
8	感染症 (1)	感染症の疫学	最新ニュースに留意																																																																
9	感染症 (2)	感染症と予防	最新ニュースに留意																																																																
10	慢性疾患 (1)	慢性疾患の疫学	最新ニュースに留意																																																																
11	慢性疾患 (2)	慢性疾患と予防	最新ニュースに留意																																																																
12	環境保健 (1)	環境が健康に及ぼす影響	最新ニュースに留意																																																																
13	環境保健 (2)	地球規模の環境問題と取り組み	最新ニュースに留意																																																																
14	国際保健	世界の健康・日本の健康	最新ニュースに留意																																																																
15	移民と健康	在日外国人の健康	最新ニュースに留意																																																																
関連科目	なし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>シンプル衛生公衆衛生学 2017</td> <td>鈴木庄亮</td> <td>南江堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	シンプル衛生公衆衛生学 2017	鈴木庄亮	南江堂	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	シンプル衛生公衆衛生学 2017	鈴木庄亮	南江堂																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	試験 60%以上で合格。授業全 15 回出席が前提。出席の扱いは学生便覧のとおり (「出席状況が好ましくない場合は、単位を認めないことがあります」学生便覧より)。																																																																		
学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では、公衆衛生学を学んでいくうえで最低限必要な理解の枠組みと、その枠組みを理解するうえで最低限必要な知識について講義する。教科書を用意して、毎回の授業に真剣に臨むこと。 ・授業中の私語、教室の出入りは厳禁。 ・授業中であてられたとき教室にいなかった場合は欠席扱いとする。 																																																																		
担当者の研究室等	枚方キャンパス 看護学部 3 階 24																																																																		
備考																																																																			

科目名	自然地理学	科目名(英文)	Physical Geography
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	自然地理学は地球環境問題や自然災害と深い関わりを持つとともに、私たちの日々の生活とも密接に関わっています。本授業では、身近な場所から辺境の地まで、さまざまな地域の自然環境を理解するための基礎を学びます。具体的には、1. プレート運動や気候といった地球規模のシステム、2. 日本や世界で観察される景観の形成要因やその形成過程、3. 自然災害や地球環境問題、といった内容を扱います。講義では各地の写真や映像などを数多く使って解説し、初学者にもイメージがつかみやすい内容にする予定です。授業を通して、自然現象を様々な時間・空間スケールに位置づけて理解する基礎を身につけ、それを将来様々な形で活かしていくことを期待します。
到達目標	日本・世界各地の自然環境の実態とそのシステムを学ぶことを通して自然環境の見方の基礎力を養い、日常で目にする自然景観の形成要因や災害の発生等について論理的に理解できるようになること
授業方法と留意点	プリントの配布および投影資料を利用した講義形式。理解を深めるため、映像資料やバーチャル地球儀等を利用します。また、受講人数によっては屋外での巡検も計画します。
科目学習の効果(資格)	地震等自然災害に対する認識の強化

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、評価方法等について説明	身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	2	日本の自然を学ぶ1	プレートテクトニクスと日本列島の形成	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	3	日本の自然を学ぶ2	地震のメカニズム	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	4	日本の自然を学ぶ3	地震災害	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	5	日本の自然を学ぶ4	火山と日本列島	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	6	日本の自然を学ぶ5	気候環境	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	7	日本の自然を学ぶ6	山地の隆起と侵食	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	8	日本の自然を学ぶ7	河川と平野・海岸	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	9	日本の自然を学ぶ8	植生	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	10	日本の自然を学ぶ9	大阪の自然・関西の自然	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	11	世界の自然を知る1	熱帯から極地	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	12	世界の自然を知る2	砂漠や高山	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	13	世界の自然を知る3	自然と人々の暮らしの関係性	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	14	地球環境問題	地球温暖化や砂漠化	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	15	自然災害と私達の生活	自然災害への対処について・授業全体のまとめ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への取り組み（リアクションペーパーの内容、小レポート、受講態度等）（40%）、期末に実施する試験（60%）で評価します。なお試験は、暗記ではなく論理的な思考力を問う問題を出題します。			
学生への メッセージ	高校地理・高校地学を学んでいない人でも理解できるような内容を扱い、難しい部分はフォローアップしながら授業を進めていく予定です。			
担当者の 研究室等	7号館5階			
備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。			

科目名	社会学	科目名(英文)	Sociology
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武田 祐佳
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	身近な例をあげながら、社会学の基礎的な概念(=キーワード)と社会的なものの方について解説します。それらを通して、人が「社会的な存在」一他者から影響を受け、また他者に対して影響を与える存在であることを理解するとともに、社会の仕組みについて学んでいきます。
到達目標	社会学の基礎的な概念を理解し、学んだ概念を使って人間関係や社会現象を解説する「社会的思考力」を身につける。
授業方法と留意点	講義は1回完結のオムニバス形式でおこないます。毎回、レジュメを配布し、時には視聴覚資料を用いることもあります。なお、講義の内容・順序が若干変更されることがあります。
科目学習の効果(資格)	社会的なものの方を学ぶことによって、これまであたりまえだと感じていた日常生活や社会現象に対する見方が多少なりとも変わるようになります。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間(1)一社会化	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
3	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間(2)一ジェンダー	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
4	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間(3)一役割	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
5	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間(4)一自己	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
6	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間(5)一再社会化	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
7	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間(6)一感情	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
8	社会学における基礎的知識と発想	社会的存在としての人間(7)一小括	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
9	社会学における基礎的知識と発想	集団のなかの個人(1)一規範と同調	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
10	社会学における基礎的知識と発想	集団のなかの個人(2)一逸脱	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
11	社会学における基礎的知識と発想	組織のなかの個人一官僚制	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
12	社会学における基礎的知識と発想	行為の意図せざる結果(1)一予言の自己成就	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
13	社会学における基礎的知識と発想	行為の意図せざる結果(2)一社会的ジレンマ	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
14	社会学における基礎的知識と発想	社会学の古典から一自殺と社会	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習
15	講義を終えるにあたって	まとめ	配布レジュメをもとに授業内容に関する復習

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

評価方法(基準)	定期試験…80%、授業参加度(授業中に配布するリアクション・ペーパー・課題の内容を評価)…20%
学生へのメッセージ	「社会学」は小中高にはないカリキュラムなので、学問のイメージが浮かびにくいと思います。社会学では普段私たちがあたりまえと思っていたり、気にもとめないことがらを「見よう」「理解しよう」とするので、難しいことばが出てきますが、授業では身近な例をあげ、できるだけ平易に解説していきます。なお、授業中は私語を慎み、それなりの意欲をもって授業に臨んでください。私語には厳しく対処します。
担当者の研究室等	
備考	

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲を学習し、実際に出题された際に読め、すぐに思い出すように練習します。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているかも学習します。実践レベルの問題を解きますので、就職活動の準備の一環として受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・方程式	講座の目的、意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	金銭問題	損益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	分数問題①	仕事算・復習①	文章題による仕事算について復習しておくこと(目安:30分)・1~3回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
5	分数問題②・中間テスト①	分割払い・中間テスト①	文章題による分割払いについて復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
7	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	集合①	集合の基礎・復習②	文章題による集合について復習しておくこと(目安:30分)・4~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
9	集合②・中間テスト②	集合②・中間テスト②	文章題による集合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理②	論理②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・8~11回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
13	論理③	推論③・中間テスト③	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目 コミュニケーション能力開発

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法(基準) 小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 20%
その他授業態度などで加減します。

学生へのメッセージ 7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。

担当者の研究室等備考 7号館3階 キャリア教育推進室

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	亀田 峻宣
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。この講義では、3回生で実際の出題レベルの対策を行うために必要な、算数・数学の基礎を固めるための授業です。就職活動では、筆記試験で算数・数学に苦勞する学生がとて多いですので、早めに対策をしておきましょう。算数・数学が苦手な学生や、大学に入って(もしくはそれ以前から)算数・数学に触れていない学生は特にお勧めします。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているかも学習します。
到達目標	就職活動に必要とされる筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力のうち、特に基礎的な部分を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・方程式	講座の目的、意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	金銭問題	損益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	分数問題①	仕事算・復習①	文章題による仕事算について復習しておく(目安:30分)・1~3回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
5	分数問題②・中間テスト①	分割払い・中間テスト①	文章題による分割払いについて復習しておく(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
7	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	集合①	集合の基礎・復習②	文章題による集合について復習しておく(目安:30分)・4~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
9	集合②・中間テスト②	集合②・中間テスト②	文章題による集合について復習しておく(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理②	論理②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・8~11回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
13	論理③	推論③・中間テスト③	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	キャリアデザインⅡ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-----------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		
2			
3			

評価方法(基準)	小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 20% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、毎年多くの3回生が秋・冬から筆記試験対策を始め、他の就職活動が忙しく時間を勉強できないままです。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
----------	-----------------

備考	
----	--

科目名	就職実践基礎	科目名(英文)	Preparation Program for Employment Examination
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎		

授業概要・目的	就職活動時の筆記試験対策(算数・数学)について学び、筆記試験を通過する実力をつけることを目標とする授業です。筆記試験で特によく使われるSPI非言語分野の全ての範囲を学習し、実際に出題された際に解き方がすぐに思い出せるように練習します。また、社会でどのように算数・数学がどのように使われているかも学習します。実践レベルの問題を解きますので、就職活動の準備の一環として受講をお勧めします。
到達目標	就職活動に必要な筆記試験の実力を身につけること
授業方法と留意点	授業は実践形式で行います。問題を解き、解説するという流れになります。就職活動の筆記試験を通過する実力をつけることが目的です。講義に集中して参加し、毎回の講義問題や教科書の復習を行うことが必要になります。
科目学習の効果(資格)	就職活動に必要な数学力を身につける

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・方程式	講座の目的、意義の確認・方程式	方程式を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
2	割合	割合の基礎・濃度算	文章題による割合について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
3	金銭問題	損益算・代金の精算	文章題による損益算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
4	分数問題①	仕事算・復習①	文章題による仕事算について復習しておく(目安:30分)・1~3回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
5	分数問題②・中間テスト①	分割払い・中間テスト①	文章題による分割払いについて復習しておく(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
6	速度算	速度の基礎	文章題による速度算について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
7	場合の数・確率	場合の数・確率	場合の数・確率を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
8	集合①	集合の基礎・復習②	文章題による集合について復習しておく(目安:30分)・4~7回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
9	集合②・中間テスト②	集合②・中間テスト②	文章題による集合について復習しておく(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
10	表の読み取り	表の読み取り	表の読み取り問題を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
11	論理①	推論①	推論を復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
12	論理②	論理②	推論について復習しておくこと(目安:30分)・8~11回目の範囲を事前に勉強しておくこと(目安:1.5時間)
13	論理③	推論③・中間テスト③	推論について復習しておくこと(目安:30分)・smartSPIの実施(目安:30分)
14	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)
15	テスト	最終テスト	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:5時間)

関連科目	コミュニケーション能力開発
------	---------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		
2			
3			

評価方法(基準)	小テスト 30%、中間テスト・最終テスト 50%、SmartSPI 20% その他授業態度などで加減します。
----------	---

学生へのメッセージ	7~8割の企業が就職活動で筆記試験を課すと言われています。早めの対策しておくこと、受けることのできる会社が広がります。その一方、3回生の秋・冬から筆記試験対策を始めたものの、他の活動や行事が忙しく対策が出来ていないこともあります。早めに対策をしておきましょう。受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して確実に問題を解けるようになってください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	7号館3階 キャリア教育推進室
------------	-----------------

科目名	人文地理学	科目名(英文)	Human Geography
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柴田 陽一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	窓の外に広がる風景、大学の立地する町並み、人々が抱くイメージなど。これらをどのように捉えるか／捉えてきたのが、本授業の主題である。つまり、本授業は地理学史の流れに沿いつつ、＜地理学的なもの見方・考え方＞について幅広く解説するものである。この見方・考え方は、意識されていない場合も多いが、実はわたしたちの生活の様々なところに活用されている。この授業を通して、身近な問題を新たな視点から捉え直すきっかけを提供したい。
到達目標	＜地理学的なもの見方・考え方＞について理解し、それを用いて身近な問題を捉え直すことができる。
授業方法と留意点	配付資料を用いて、講義形式で行う。毎回の授業の終わりに、課題を出す（一部は要提出）。課題に取り組むことで、しっかりと復習・予習をしてほしい。
科目学習の効果（資格）	＜地理学的なもの見方・考え方＞の学習・理解を通じて、人とは違った視点から身近な問題を捉えられるようになる。また、中学社会・高等学校地理歴史の教員免許取得を目指す学生にとっては必修科目である。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	地理と地理学	授業の進め方、参考書の紹介など	課題による復習・予習
	2	地図とスケール1	地図の歴史と思想について	課題による復習・予習
	3	地図とスケール2	スケール設定の意味について	課題による復習・予習
	4	地誌の歴史と役割	地誌が各時代に果たした役割について	課題による復習・予習
	5	人間と環境の関係	環境論について	課題による復習・予習
	6	農業はどのように立地するか	農業立地論について	課題による復習・予習
	7	大都市と中小都市の関係	中心地理論について	課題による復習・予習
	8	知識や技術の広がり方・伝わり方	空間的拡散・空間的相互作用論について	課題による復習・予習
	9	空間の捉え方は人によってどう異なるのか	メンタルマップのうち、空間認知研究について	課題による復習・予習
	10	場所イメージはどのように作られるのか	メンタルマップのうち、場所イメージ研究について	課題による復習・予習
	11	場所への愛着	人文主義地理学について	課題による復習・予習
	12	景観と風景	景観論と風景論について	課題による復習・予習
	13	時間と空間からみた人間の行動	時間地理学について	課題による復習・予習
	14	「男性」／「女性」にとっての空間	ジェンダー地理学について	課題による復習・予習
	15	地理教育の役割	近代国家と地理教育の関係について	課題による復習・予習

関連科目 「自然地理学」「地誌学」「風土と地理」等

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人文地理学への招待	竹中克行編	ミネルヴァ書房
	2	人文地理学：その主題と課題	杉浦章介ほか	慶應義塾大学出版会
	3	地理学概論	上野和彦ほか編	朝倉書店

評価方法（基準）	期末レポート60%、授業中課題40%。
学生へのメッセージ	復習・予習のため、課題にはしっかりと取り組んでほしい。また、授業中に指示する参考文献を読む時間も設けてほしい。これらを続けることで、充実した期末レポートの作成が可能となるだろう。
担当者の研究室等	7号館5階（柴田研究室）
備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。

科目名	心理学 I	科目名 (英文)	Psychology I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山本 雅代
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。授業では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に心理学 I では、個人に焦点をあて、かつ社会的現実と対比した日常での問題を取り上げ人間の理解を目指す。
到達目標	1) 心理学についての基礎知識を習得する。2) 人間の行動を理解する。3) 社会の中の自己を確認する。4) 実生活と心理学のかかわりを理解し、日常生活に生かす。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。より理解を深めるため必要に応じて VTR を使用する。また簡単な心理学実験や自己分析などを行う。その際、課題、レポートの提出を求めることがある。
科目学習の効果 (資格)	教養としての心理学を学ぶ。 人間の行動を科学的に理解することによって現実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	生物学的基礎	他の動物が行う行動と比較しながら、生得的行動とは何か、初期経験が人間に与える影響について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
3	初期学習	人間はいかに学ぶのか、また愛着について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
4	条件づけ	条件づけとは何か、古典的条件づけ、オペラント条件づけについて説明する。	前回の授業で紹介した VTR について A4 にまとめ提出する。
5	社会的学習	学習とは学校での勉強のことでなく、経験のことをいう。人間における経験や、環境がいかに大切であるかまた学習効果について説明する。	関連する文献を紹介するので読んでおくこと。
6	両側性転移	心理学実験「両側性転移」を行い学習についての理解を深めるとともに心理学の研究方法について理解を深める。	実験の概要について確認しておくこと。
7	ポジティブな学習とネガティブな学習	実験結果から読み取れる問題、人間の傾向についての検討。学習全般のまとめを行なう。	実験結果から何が読取れるか A4 用紙にまとめ提出する。
8	動機づけ (1)	人間が行動に駆り立てられる状況、様々な動機、動機の階層について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
9	動機づけ (2)	生物的動機、内発的動機の違いについて説明する。	授業の中で紹介した人物の動機について自分なりの考えを A4 用紙にまとめ提出する。
10	動機づけ (3)	社会的動機について説明する。人間がどのような動機を持つか、社会環境に影響受ける動機について事例や実験を通して解説する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
11	パーソナリティ (1)	パーソナリティがどのようなものであるのか概説する。	パーソナリティについて自分なりの考えを A4 用紙にまとめ提出する。
12	パーソナリティ (2)	パーソナリティのとりえ方。パーソナリティの形成について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
13	パーソナリティ (3)	実際に使用されている様々なパーソナリティテストについて解説する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
14	パーソナリティ (4)	パーソナリティについて自己分析を行う。	パーソナリティテストの結果について自分なりに解釈し A4 用紙にまとめ提出する。
15	まとめ	授業全体のまとめを行う。	疑問点がどこであるのか考えておく。

関連科目	心理学 II と併せて履修することが望ましい。
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	定期試験、講義内で行う小テストやレポート課題等を総合的に評価する。 【定期試験 50%、レポート課題 30%、小テスト 20%】
-----------	---

学生へのメッセージ	心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょう。心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ実例をあげて解説していきます。講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。
-----------	---

担当者の研究室等	11 号館 6 階(経営学部事務室)または 11 号館 7 階福田研究室
----------	--------------------------------------

備考	授業の中で、QR コードを利用した質問に回答を求め、その場で心理学の問題について解説する場合があります。携帯に QR コードを読み取るソフトを入れておいて下さい (LINE の QR で読み込めます)。携帯を忘れた場合、カラケーの方の場合でも紙での回答ができます、安心して下さい。その場合、申し出てください。
----	--

科目名	心理学Ⅱ	科目名(英文)	Psychology II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	山本 雅代
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	心理学とは、我々が周囲のさまざまな環境とのかかわりの中で行う行動やその背景にある心を客観的に理解しようとする学問である。講義では人間の心と行動に関して科学的に認められる傾向性や法則性について検討し、心理学における専門的基礎知識を学習することを目的とする。特に心理学Ⅱでは、社会的現実と対比した日常での問題を多く取り上げ現実社会における対人間、集団関係でおこる心理状況の理解を目指す。
到達目標	1) 心理学の知識を幅広く習得する。2) 社会と個人の関係を理解する。3) 集団におけるコミュニケーションの特質を理解する。4) 状況に左右される人間の心理や意思決定について理解する。
授業方法と留意点	基本的に講義形式。より理解を深めるため必要に応じてVTR等を使用する。また簡単な心理学実験や自己分析などを行う。その際、課題、レポートの提出を求めることがある。
科目学習の効果(資格)	教養としての心理学を学ぶ。人間の行動を科学的に理解することによって現実社会でおこる問題に適応的に行動できるようになる。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	知覚(1)	人間理解につながる「見えのしくみ」について概説する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
3	知覚(2)	知覚の種類や見えに及ぼす社会的影響について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
4	知覚(3)	心理学の基礎実験の1つである「ミュラーリヤーの錯視」実験を実施する。心理学におけるデータの取り扱い方、考え方や人間の知覚行為についての理解を深める。	実験結果について読み取れる問題をA4用紙にまとめ提出する。
5	対人関係(1)	人はどのように他者を認知し自分を呈示していくものなのか、対人認知や印象形成について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
6	対人関係(2)	人はどのような事をきっかけに親しくなったり、愛したりしていくものなのか、対人魅力について説明する。	対人魅力について自分なりの考えをA4用紙にまとめ提出する。
7	対人関係(3)	人が態度を変えるとき、説得されるときとはどのようなときなのか、態度変容について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
8	対人関係(4)	集団の持つ影響力として「同調」や「服従」について説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
9	対人関係(5)	リーダーシップについて説明する。	自己のリーダーシップのあり方についてA4用紙にまとめ提出する。
10	うわさ	うわさによるパニック行動、うわさの種類、社会的機能、発生、消滅のメカニズム等について、実際に世界でおきた事件を例に説明する。	授業で体験した伝達現象について自分なりの考えをA4用紙にまとめ提出する。
11	攻撃行動(1)	人間の攻撃行動について概説する。	VTRについて自分なりの考えをA4用紙にまとめ提出する。
12	攻撃行動(2)	人間が行なう攻撃行動の機能性について様々な実験例とともに説明する。またドメスティックヴァイオレンスなどについて説明を行なう。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
13	援助行動(1)	援助行動の形成や発達の仕方について、また援助行動が行われる状況、行われないうわさとはどのような状況か、意思決定はどのように行われるのか、実際のニュースなどを例に説明する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
14	援助行動(2)	援助行動と対人ネットワークの重要性について説明する。ソーシャルサポートの重要性について解説する。	関連文献を紹介するので読んでおくこと。
15	まとめ	授業全体のまとめを行う。	疑問点がどこであるのか考える。

関連科目 心理学Ⅰ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 定期試験、講義内で行う小テストやレポート課題等を総合的に評価する。
【定期試験50%、レポート課題30%、小テスト20%】

学生への 心理学は、みなさんが大学で初めて学ぶ学問の一つです。講義では、今まで想像していた心理学へのイメージとは違う印象を持たれることでしょ

メッセージ	う。 心理学は科学であり、扱う研究対象は様々です。その中から、理解を深められるようできるだけ実例をあげて解説していきます。講義を通じ、自己の行動を振り返り、取り巻く社会と自己を結びつけ、適応的に社会で生きていく手段について理解を深めて下さい。
担当者の研究室等	11号館6階(経営学部事務室)または11号館7階福田研究室
備考	授業の中で、QRコードを利用した質問に回答を求め、その場で心理学の問題について解説する場合があります。携帯にQRコードを読み取るソフトを入れておいて下さい(LINEのQRで読み込めます)。携帯を忘れた場合、ガラケーの方の場合でも紙での回答ができます、安心して下さい。その場合、申し出てください。

科目名	政治学	科目名(英文)	Political Science
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	この授業では、政治学の基礎的な概念を学ぶ。毎回、政治に関わる身近な話題を取り上げ、それを政治学上の重要な概念や理論に関連づけて学んでいく。この授業が、ただ知識を身につけるのではなく、政治に対して主体的に関わっていくきっかけとなることを期待する。
到達目標	政治に関する主要な課題や論点について、基礎的な知識を踏まえた上で、自分の意見を述べることができる。

授業方法と留意点	講義形式を基本とするが、受講生とのコミュニケーションを重視し、議論や意見交換の時間を適宜設ける。
----------	--

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	権力と支配	権力・支配の概念と政治的リーダーシップについて学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
	2	政治思想	主権理論と自由主義、社会主義等の政治思想について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
	3	政治制度	権力分立と、議院内閣制・大統領制の相違について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
	4	民主主義	古代ギリシャのデモクラシーと近代のリベラル・デモクラシーの誕生、現代の民主主義に関する考え方を学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
	5	国家	近代国家とは何か、また行政国家化現象について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
	6	議会	議会の起源と発展、日本の議会政治について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
	7	政党と政党制	政党の機能と類型、日本の政党制について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
	8	圧力団体	圧力団体が果たす機能と、圧力政治の問題点について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
	9	選挙制度	選挙制度の類型と、各国の選挙制度について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
	10	投票行動	投票行動に関する理論と、無党派層の増大について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
	11	政治意識	政治的意見・政治的態度・政治的価値観の違いを整理し、政治的無関心の問題について考察する。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
	12	政治過程と政策過程	政治過程と政策過程の違いと、コーポラティズム、政策サイクルについて学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
	13	現代社会の政治	大衆社会における政治と、現代社会の権力構造について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
	14	政治的コミュニケーション	世論とマスコミが政治において果たす役割について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
	15	国際政治と安全保障	近代国際社会の誕生と、安全保障の枠組みについて学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治学・行政学の基礎知識	堀江湛	一藝社
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験 60%、小レポート 30%、グループ・ディスカッション 10%
----------	--------------------------------------

学生へのメッセージ	政治ニュースの読み解き方が分かるように、政治と政策に関わる基礎的部分を解説します。授業と並行して、新聞・ニュースなどに触れてみてください。
-----------	---

担当者の研究室等	11号館10階 増田講師室
----------	---------------

備考	小レポートについては、次の回の授業でフォローアップを行う。
----	-------------------------------

科目名	政治学概論 I	科目名 (英文)	Introduction to Political Science I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	増田 知也
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的 この授業では、政治学の基礎的な概念を学ぶ。毎回、政治に関わる身近な話題を取り上げ、それを政治学上の重要な概念や理論に関連づけて学んでいく。この授業が、ただ知識を身につけるのではなく、政治に対して主体的に関わっていくきっかけとなることを期待する。

到達目標 政治に関する主要な課題や論点について、基礎的な知識を踏まえた上で、自分の意見を述べることができる。

授業方法と留意点 講義形式を基本とするが、受講生とのコミュニケーションを重視し、議論や意見交換の時間を適宜設ける。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	権力と支配	権力・支配の概念と政治的リーダーシップについて学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
2	政治思想	主権理論と自由主義、社会主義等の政治思想について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
3	政治制度	権力分立と、議院内閣制・大統領制の相違について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
4	民主主義	古代ギリシャのデモクラシーと近代のリベラル・デモクラシーの誕生、現代の民主主義に関する考え方を学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
5	国家	近代国家とは何か、また行政国家化現象について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
6	議会	議会の起源と発展、日本の議会政治について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
7	政党と政党制	政党の機能と類型、日本の政党制について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
8	圧力団体	圧力団体が果たす機能と、圧力政治の問題点について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
9	選挙制度	選挙制度の類型と、各国の選挙制度について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
10	投票行動	投票行動に関する理論と、無党派層の増大について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
11	政治意識	政治的意見・政治的態度・政治的価値観の違いを整理し、政治的無関心の問題について考察する。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
12	政治過程と政策過程	政治過程と政策過程の違いと、コーポラティズム、政策サイクルについて学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
13	現代社会の政治	大衆社会における政治と、現代社会の権力構造について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
14	政治的コミュニケーション	世論とマスコミが政治において果たす役割について学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える
15	国際政治と安全保障	近代国際社会の誕生と、安全保障の枠組みについて学ぶ。	政治のニュースに注目し、授業内容との関連を考える

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
2			
3			

評価方法 (基準) 定期試験 60%、小レポート 30%、グループ・ディスカッション 10%

学生へのメッセージ 政治ニュースの読み解き方が分かるように、政治と政策に関わる基礎的部分を解説します。授業と並行して、新聞・ニュースなどに触れてみてください。

担当者の研究室等 11号館10階 増田講師室

備考 小レポートについては、次の回の授業でフォローアップを行う。

科目名	政治学概論Ⅱ	科目名(英文)	Introduction to Political Science II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー(DP)			

教養科目

授業概要・目的	この講義では、第二次世界大戦後から現在までの国際関係についてとりあげる。前半では米ソを中心とする冷戦時代の国際政治を説明し、後半では冷戦後の国際関係と個別的な時事問題を考える。歴史をふまえた上で、現在の国際政治を理解する土台を作ることを目的とする。																																																																		
到達目標	第二次世界大戦後の国際政治の流れについて習得し、現在の国際関係を正確に理解することを目標とする。																																																																		
授業方法と留意点	プリントと板書により授業を進める。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いてほしい。																																																																		
科目学習の効果(資格)	現在の世界情勢を理解するうえで必要な知識を習得できるようにしたい。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>講義の目的と内容・成績評価について</td> <td>講義の内容全体について</td> <td>新聞の国際面を読む習慣をつける</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>冷戦時代の国際関係(1)</td> <td>ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について</td> <td>国際政治に関する参考文献を読んでおく</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>冷戦時代の国際関係(2)</td> <td>第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について</td> <td>国際政治に関する参考文献を読んでおく</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>冷戦時代の国際関係(3)</td> <td>多極化とデタントについて</td> <td>国際政治に関する参考文献を読んでおく</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>冷戦時代の国際関係(4)</td> <td>「新冷戦」と冷戦の終焉について</td> <td>国際政治に関する参考文献を読んでおく</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ(1)</td> <td>冷戦終結後の国際政治全般について</td> <td>国際政治に関する参考文献を読んでおく</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ(2)</td> <td>ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について</td> <td>国際政治に関する参考文献を読んでおく</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>グローバルな問題群</td> <td>核・食料・環境問題について</td> <td>国際政治に関する参考文献を読んでおく</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序</td> <td>「9.11」以後の国際政治について</td> <td>国際政治に関する参考文献を読んでおく</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>米ロの核軍縮</td> <td>核問題をめぐる米ロ関係について</td> <td>国際政治に関する参考文献を読んでおく</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>米中関係のゆくえ</td> <td>アメリカと中国の外交関係について</td> <td>国際政治に関する参考文献を読んでおく</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>中東問題のゆくえ</td> <td>中東問題の経緯と「中東和平」の展望について</td> <td>イスラエル、パレスチナ問題について調べておく</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>緊迫する朝鮮半島情勢</td> <td>韓国・北朝鮮をめぐる国際関係について</td> <td>最近の朝鮮半島情勢について調べておく</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>日本の安全保障</td> <td>現在の日本がかかえる国際問題について</td> <td>最近の日本の外交に関して調べておく</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>講義のまとめと試験について</td> <td>試験に向けたノート作りをする</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞の国際面を読む習慣をつける	2	冷戦時代の国際関係(1)	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく	3	冷戦時代の国際関係(2)	第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について	国際政治に関する参考文献を読んでおく	4	冷戦時代の国際関係(3)	多極化とデタントについて	国際政治に関する参考文献を読んでおく	5	冷戦時代の国際関係(4)	「新冷戦」と冷戦の終焉について	国際政治に関する参考文献を読んでおく	6	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ(1)	冷戦終結後の国際政治全般について	国際政治に関する参考文献を読んでおく	7	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ(2)	ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく	8	グローバルな問題群	核・食料・環境問題について	国際政治に関する参考文献を読んでおく	9	同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序	「9.11」以後の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく	10	米ロの核軍縮	核問題をめぐる米ロ関係について	国際政治に関する参考文献を読んでおく	11	米中関係のゆくえ	アメリカと中国の外交関係について	国際政治に関する参考文献を読んでおく	12	中東問題のゆくえ	中東問題の経緯と「中東和平」の展望について	イスラエル、パレスチナ問題について調べておく	13	緊迫する朝鮮半島情勢	韓国・北朝鮮をめぐる国際関係について	最近の朝鮮半島情勢について調べておく	14	日本の安全保障	現在の日本がかかえる国際問題について	最近の日本の外交に関して調べておく	15	まとめ	講義のまとめと試験について	試験に向けたノート作りをする
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	講義の目的と内容・成績評価について	講義の内容全体について	新聞の国際面を読む習慣をつける																																																																
2	冷戦時代の国際関係(1)	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく																																																																
3	冷戦時代の国際関係(2)	第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について	国際政治に関する参考文献を読んでおく																																																																
4	冷戦時代の国際関係(3)	多極化とデタントについて	国際政治に関する参考文献を読んでおく																																																																
5	冷戦時代の国際関係(4)	「新冷戦」と冷戦の終焉について	国際政治に関する参考文献を読んでおく																																																																
6	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ(1)	冷戦終結後の国際政治全般について	国際政治に関する参考文献を読んでおく																																																																
7	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ(2)	ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく																																																																
8	グローバルな問題群	核・食料・環境問題について	国際政治に関する参考文献を読んでおく																																																																
9	同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序	「9.11」以後の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく																																																																
10	米ロの核軍縮	核問題をめぐる米ロ関係について	国際政治に関する参考文献を読んでおく																																																																
11	米中関係のゆくえ	アメリカと中国の外交関係について	国際政治に関する参考文献を読んでおく																																																																
12	中東問題のゆくえ	中東問題の経緯と「中東和平」の展望について	イスラエル、パレスチナ問題について調べておく																																																																
13	緊迫する朝鮮半島情勢	韓国・北朝鮮をめぐる国際関係について	最近の朝鮮半島情勢について調べておく																																																																
14	日本の安全保障	現在の日本がかかえる国際問題について	最近の日本の外交に関して調べておく																																																																
15	まとめ	講義のまとめと試験について	試験に向けたノート作りをする																																																																
関連科目	国際政治関係の科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国際政治</td> <td>藤原帰一</td> <td>日本放送出版協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国際政治学をつかむ</td> <td>村田晃嗣・君塚直隆他</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>国際紛争</td> <td>ジョゼフ・S・ナイ・ジュニア(田中明彦訳)</td> <td>有斐閣</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	国際政治	藤原帰一	日本放送出版協会	2	国際政治学をつかむ	村田晃嗣・君塚直隆他	有斐閣	3	国際紛争	ジョゼフ・S・ナイ・ジュニア(田中明彦訳)	有斐閣																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	国際政治	藤原帰一	日本放送出版協会																																																																
2	国際政治学をつかむ	村田晃嗣・君塚直隆他	有斐閣																																																																
3	国際紛争	ジョゼフ・S・ナイ・ジュニア(田中明彦訳)	有斐閣																																																																
評価方法(基準)	期末の試験(論述式。5問出題して2問を選択してもらいます)の結果によって評価を行います。持ち込みは認めません。																																																																		
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようになしてください。共に勉強しましょう。																																																																		
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)																																																																		
備考	出席をとります。カードリーダーに通すのを毎回忘れずにしてください。ただし評価に出席点は加えません。																																																																		

科目名	青少年育成ファシリテーター養成講座	科目名 (英文)	Facilitator Training Program
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	教養特別講義「青少年育成ファシリテーター養成講座」は、サービスマナーの授業であり、青少年育成活動のファシリテーターとして、知識・野外活動の方法を習得し実習を通して学びと成長を得ることができる実践型学習プログラム。実践は単なる擬似的体験ではなく、人々のために役立ったという現実的な体験を得ることを目的としている。																
到達目標	到達目標として自己の振り返りと自己発見、責任感、価値観・技能や知識の獲得、リスクマネジメント、社会問題の理解を果す体験を同時に得るものである。																
授業方法と留意点	大学の授業後や、授業の無い日を利用して学外活動する。週に1度、90分の活動が基本となっているが、夏休み・冬休みなど長期の休み期間中に集中して活動することも可能。																
授業テーマ・内容・事前・事後学習課題	<p>活動場所は、寝屋川市内の小学校、寝屋川市教育委員会関連団体、共学センター、交野市役所、門真市役所、すさみ町役場、寝屋川青年会議所等の主催・共催事業。第1回目の事前授業は4月10日6時限目、1134教室で行う。</p> <p>事前教育①～⑨回分： ①活動についての心構え、授業内容の徹底周知、ファシリテーターについて ②守秘義務：活動に伴って知った情報を漏らしてはならない義務を学ぶ ③安全管理スキル：活動に伴って発生しうる事故を未然に防ぐ方法を学ぶ ④救命救護スキル：命の大切さ、命を助ける方法、AEDの使用法を学ぶ ⑤安全対策スキル：安全。衛生管理、危険予知、責任について学ぶ ⑥コミュニケーションスキルA：対象者理解、人とかかわり方を学ぶ ⑦コミュニケーションスキルB：報告、連絡、相談（ホウ・レン・ソウ）の重要性を学ぶ ⑧コミュニケーションスキルC：アイスブレイキング手法を学ぶ ⑨コミュニケーションスキルD：指導者のあるべき姿、リーダーシップの取り方</p> <p>活動（90分×20回分）： 受入機関において青少年育成ファシリテーター活動実践</p> <p>事後教育（90分）： 青少年育成ファシリテーター活動実践のふりかえり</p> <p>履修上の注意： 学外団体との連携と信頼関係構築が必要であることから、履修希望者は事前（2017年2月に実施）に授業担当者から、説明を受け、活動内容を確認し履修許可を受けた学生のみ履修可能となる。</p> <p>事前・事後学習課題： 学外での活動に際し、各種活動（各受入れ団体によって異なる）の事前準備および活動後の報告書（日報等）の作成に各1時間程度行う。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	①参加日数、②実習報告書、③最終報告書、④受入機関からの調書、以上の4点を総合的に判断して評価する。																
学生へのメッセージ	青少年育成活動を通して、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																
担当者の研究室等	7号館5階（浅野研究室）																
備考	第1回目の事前授業は4月10日6時限目、1134教室で行う。																

科目名	生物学	科目名(英文)	Biology
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	尾崎 清和
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	人体の構造、機能および病気とともに、ヒトを含む生物の多様性、分類および生態系に関して概説する。社会人として知っておくべき生物学的な常識を身につけることを目的とする。
到達目標	人体の構造や機能に関する知識を得ることができるとともに、腫瘍や感染症に関する基礎的な知識も同時に取得できる。
授業方法と留意点	ノート・講義方式。教科書およびビデオ教材を用い、ビジュアルに解りやすくやっていきたい。
科目学習の効果(資格)	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業中のルール説明・試験方法についてアンケート・生物の基礎知識を問うビデオ「人体ミクロの大冒険 プロローグ」	—————
2	生殖系系 神経系の構造と機能	生殖系系、中枢神経と末梢神経、神経の連動の妙	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	生殖系系 神経系の構造と機能	ビデオ「人体ミクロの大冒険 第1章細胞のスーパーパワー」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	内分泌系、神経系の構造	ホルモンと神経との関係はどのようになっているのか	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	内分泌系、神経系の構造	ビデオ「人体ミクロの大冒険 第2章細胞が出す魔法の薬」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	免疫系の構造と機能	外敵への抵抗	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	免疫系の構造と機能	ビデオ「人体ミクロの大冒険 老いと戦う細胞」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
8	遺伝子の理解	遺伝子とその働きの基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	遺伝子の理解	ビデオ「人体 生命の暗号を解読せよ」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	がんの理解	腫瘍に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	がんの理解	ビデオ「人体 突き止めよ、がん発生の謎」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	消化管の構造と機能	食べ物は、どのように通過し吸収されるのか	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	消化管の構造と機能	ビデオ「人体-消化吸収の妙」	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	総括質問	すべての授業内容に関する質問に答えるとともに、難解だった部分の解説を行う。	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
15	習熟度試験	習熟度を確認する。	—————

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューステージ新生物図表	浜島書店編集部	浜島書店
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	毎回の小テストを50%、習熟度試験を40%および授業態度：授業への呼応状況10%により総合的に判断する
----------	---

学生へのメッセージ	社会人としての一般教養の幅を広げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。
-----------	--

担当者の研究室等	枚方・薬学部6号館3階病理学研究室1
----------	--------------------

備考	事後学習30分、授業日の授業前に小試験対策の事後学習30分が必要です。授業中の小テストについては翌週に解説する
----	---

科目名	生命科学入門	科目名(英文)	Basics of Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎, N科: DP1◎		

授業概要・目的	生命科学は、ウイルス、バクテリア、植物からヒトにいたるまでの生命の全体像を浮かび上がらせる学問分野であり、これまであまり生命科学になじみのなかった学生も社会常識として学ぶべき科目である。 本授業では、高校で生物学を学んだことが無い学生でも、生命科学の基礎を学び、生命科学が自分たちの生活にどのような形で関わっているかを幅広く学べるように講義する。
---------	--

到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 生命科学の基礎を理解し、種々の生命現象を理論的に説明できる。 課題(レポート)に対して自主的、継続的に取り組む能力を養う。
------	--

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の講義終了時に出席票をかねたミニレポート(小テストを含む)を提出させる。 レポートを提出させ、その内容を評価する。レポートの題材は、いずれかの回の講義内容に直結するものを受講生が探す。 独自の論考を加えたものについては、高い点を与える。 成績判定は出席とレポートの内容を総合して評価する。 欠席が7回以上の場合(初回を含めて)は、レポートの採点はおこなわない。
----------	--

科目学習の効果(資格)	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	人類はどうやって生まれてきたか	生命の起源から地球環境と生命の進化について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
3	細胞の成り立ちと遺伝の仕組み	細胞を構成する物質から遺伝子の転写翻訳、エピジェネティクス等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
4	進化の理論	ダーウィンの進化論・分子進化学・環境適応と進化等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
5	細胞が増える仕組み	増殖シグナルの伝達様式や細胞周期・染色体の分離と細胞分裂について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
6	性と生殖の不思議	生殖細胞と減数分裂及び幹細胞やES細胞・クローン、発生工学や遺伝子ノックアウト生物について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
7	老化と病	なぜ老化するのか? 抗老化ホルモンやアルツハイマー病、狂牛病や夢のやせ薬について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
8	なぜ、がんになるのか?	がんをとりまく遺伝子や浸潤と転移の仕組み、がんの分子標的治療について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
9	生体防御と感染	免疫を担う細胞群や自然免疫・獲得免疫の仕組み、アレルギーやアトピー性皮膚炎について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
10	遺伝子医療と感染症	遺伝子診断とオーダーメイド医療や遺伝子治療、再生医療と感染性疾患、インフルエンザ等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
11	先端バイオ技術の応用	個人識別と犯罪捜査、遺伝子組換え植物や不毛の地の緑地化、青いバラ等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
12	ナノテクが拓くバイオの未来	ナノテクノロジー、ナノ医療、RNA創薬などについて説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
13	「植物の発生」	植物の基本体制や種子形成、発芽、分枝、植物ホルモン等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
14	人類はどこに行くのか	人類と科学技術、地球上の生命にとっての人類の役割、メタンハイドレート、核融合、バイオマス等について説明する。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。
15	エピローグ	この講義の総括、補習講義、全員による討論を行う。	教科書の講義範囲部分を予めよんでおくこと。講義後によく復習しておく事。

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生命科学の基礎	野島博	東京化学同人
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験(60%)、レポート(40%)、60%で合格とする。 シャトルカードにより、出席確認・講義に関する質問および要望等を受け付けます。 欠席が7回以上の場合(初回を含めて)は、レポートの採点はおこなわない。
----------	---

学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	
備考	



科目名	世界の政治	科目名(英文)	Politics in the World
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	この講義では、第二次世界大戦後から現在までの国際関係についてとりあげる。前半では米ソを中心とする冷戦時代の国際政治を説明し、後半では冷戦後の国際関係と個別的な時事問題を考える。歴史をふまえた上で、現在の国際政治を理解する土台を作ることを目的とする。
到達目標	第二次世界大戦後の国際政治の流れについて習得し、現在の国際関係を正確に理解することを目標とする。
授業方法と留意点	プリントと板書により授業を進める。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いてほしい。
科目学習の効果(資格)	現在の世界情勢を理解するうえで必要な知識を習得できるようにしたい。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	冷戦時代の国際関係(1)	ヤルタ体制および冷戦初期の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
3	冷戦時代の国際関係(2)	第三世界の台頭、ヨーロッパ統合の理想と現実について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
4	冷戦時代の国際関係(3)	多極化とデタントについて	国際政治に関する参考文献を読んでおく
5	冷戦時代の国際関係(4)	「新冷戦」と冷戦の終焉について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
6	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ(1)	冷戦終結後の国際政治全般について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
7	ポスト冷戦時代の世界秩序のゆくえ(2)	ヨーロッパを中心とした冷戦終結後の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
8	グローバルな問題群	核・食料・環境問題について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
9	同時テロと「イラク戦争」後の世界秩序	「9.11」以後の国際政治について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
10	米ロの核軍縮	核問題をめぐる米ロ関係について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
11	米中関係のゆくえ	アメリカと中国の外交関係について	国際政治に関する参考文献を読んでおく
12	中東問題のゆくえ	中東問題の経緯と「中東和平」の展望について	イスラエル、パレスチナ問題について調べておく
13	緊迫する朝鮮半島情勢	韓国・北朝鮮をめぐる国際関係について	最近の朝鮮半島情勢について調べておく
14	日本の安全保障	現在の日本がかかえる国際問題について	最近の日本の外交に関して調べておく
15	まとめ	講義のまとめと試験について	試験に向けたノート作りをする

関連科目 国際政治関係の科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	国際政治	藤原掃一	日本放送出版協会
2	国際政治学をつかむ	村田晃嗣・君塚直隆他	有斐閣
3	国際紛争	ジョゼフ・S・ナイ・ジュニア(田中明彦訳)	有斐閣

評価方法(基準)	期末の試験(論述式。5問出題して2問を選択してもらいます)の結果によって評価を行います。持ち込みは認めません。
学生へのメッセージ	日々ニュースや新聞にふれて、世界で起こっていることに関心を持ってください。そして、その出来事の原因や由来が何であるのか、常に問題意識を持つようにしてください。共に勉強しましょう。
担当者の研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
備考	出席をとります。カードリーダーに通すのを毎回忘れずにしてください。ただし評価に出席点は加えません。

教養科目

科目名	世界の歴史	科目名(英文)	World History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	「都市」と聞いて私たちが思い浮かべるのは、経済・産業の中心であり、自由な活動の場といったイメージではなかろうか。経済と自由、この2つの特徴の歴史的ルーツをたどっていけば、ヨーロッパ中世都市に行き着く。高校世界史において、商業の復活がヨーロッパ中世都市を生み出し、市民の自治がこれを発展させたことと教わった人も少なくないだろう。古代や中国の例なども広く視野に入れることで、一種、常識となっているこのような通説を疑い、考えなおす。そのようにして、都市を窓口にして歴史を展望する。以上が本講義の目的である。支配と消費の中心ではなく、周辺の自然環境や地域社会と共存できる都市のあり方など、現代的な問題を解決するためのヒントも探りたい。
到達目標	学んだことを結論・理由・具体例に分けて、簡潔に説明できるようにする。
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各単元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下3点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。
科目学習の効果(資格)	商業や市民に限られない、中世都市の多様なあり方とダイナミズムを中心として、経営を学ぶための基礎体力となる幅広い教養と具体的思考の習慣を身に付ける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	はじめに	授業のルール・方針・全体計画	必ず出席するよう予定を調整する。
2	都市を窓に世界史を見る	文明はさまざまでも共通点がある	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
3	都市を窓に世界史を見る	日本史の特徴は世界史のなかで初めて分かる	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
4	イスラーム都市	世界で最も先進的な文明	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
5	イスラーム都市	活発な経済と快適な生活の両立	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
6	イスラーム都市	都市文明と相性の良い宗教	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
7	イスラーム都市	ヨーロッパはイスラームに学んだ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
8	中国都市	「同じことばかりくり返している」というウソ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。
9	中国都市	1000年前の大転換	同上の課題に加えて小レポート。
10	中国都市	現代を先取りした流通と消費	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
11	中国都市	エンターテインメント産業や外食産業も出現	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
12	ヨーロッパ都市	アジア都市は大きくヨーロッパ都市は小さい	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
13	ヨーロッパ都市	農業中心の経済と政治的な分裂のなかで	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
14	ヨーロッパ都市	巨大化したのは200年前	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
15	ヨーロッパ都市	小さな都市への帰帰	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) ポイントは以下3点。第1に暗記は必要ない。テストも論述1題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第2に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対ない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト(40点)、②レポート(30点)、③レスポンスペーパー(30点+α)。第3に60点に達するなら、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイルに合わせて受講してほしい。

学生へのメッセージ 歴史が教えてくれるのは、「すべては表裏一体」ということです。この授業も例外ではありません。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あらゆる場面で必要とされる力です。テスト終了と同時に忘れてしまうような、「暗記科目としての歴史」を教えるつもりはありません。この授業で学ぶのは「具体的・論理的に考える歴史」であり、みなさんには、それを通して「単位以上のもの」を得てほしいと思います。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色 美博
ディプロマポリシー (DP)	V科：II◎, R科：A◎, A科：A◎, M科：A1○, E科：B○, C科：II◎, L科：DP2◎, DP5△, DP6△, D科：DP1◎, S科：DP1◎, P科：DP8△, J科：DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科：DP1◎, DP7◎, N科：DP1◎N：DP1◎		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチのミニ鉄道を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。			
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。			
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本年度はレール間隔3.5インチ、5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 1. 教員の指導の下に目標と計画を作る。 2. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設を製作する。 3. 計画からの遅れには対策を講じる。 4. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 5. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 6. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	汎用的能力 (40%)、主体性・柔軟性・課題発見解決 (30%)、貢献度 (30%) について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。			
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。			
担当者の研究室等	担当者の研究室等 1号館3階 一色教授室 8号館1階 テクノセンター			
備考				

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	荻田 喜代一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 ビジネスパーソンのための夜間連続講演会『インテリジェントアレー撰壇塾』の企画・運営</p> <p>【概要と目的】 公益財団法人関西生産性本部が開催予定の『インテリジェントアレー撰壇塾』の企画・運営を通して、ビジネスマナー、ビジネスコミュニケーション、段取り・タイムマネジメント、コストマネジメント、マーケティングを中心とした社会人基礎力を学習する。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>また、ビジネスマナー、ビジネスコミュニケーション、段取り・タイムマネジメント、コストマネジメント、マーケティングを中心とした社会人基礎力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>活動は、主に学内とOIT梅田タワーで行う。 本学的な活動を行う前に、コミュニケーション研修やビジネスマナー研修を行う。 アドバイスは教員に加えて、連携先の関西生産性本部の職員が行う。 関西生産性本部のHPを必ず閲覧すること</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期のビジネスパーソン向けの講座の企画、講師の折衝、広報、講座の運営を公益財団法人関西生産性本部の担当者にアドバイスを受けながら実施し、身に付けたスキルを生かして後期の講座を実施する。その過程で、上記目標の達成を目指す。</p> <p>(2017年) 3月 オリエンテーション(研修) 3～5月 前期日程の企画検討、講師選定、講師折衝、企画完成、企画案内(HPなど)作成、告知等のマーケティング 6～8月 講座実施、運営補助 8～9月 前期まとめ、中間報告 9～10月 後期日程の企画検討、講師選定、講師折衝、企画完成、企画案内(HPなど)作成、告知等のマーケティング 11月 講座実施、運営補助</p> <p>(2018年) 1月 学内PBL発表会 2月 年間まとめ、年間の結果報告</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>PBLでの活動による成長内容をルーブリックで評価する(50%) 提案書等のレポート(50%) 60%で合格とする。</p>																
学生へのメッセージ	<p>本プロジェクトにおいてかかわる人々はすべて社会人ですので、社会人マナーが必要となります。 社会人マナーが身につける学修態度が重要です。また、協働できる学生を求めます。</p>																
担当者の研究室等	<p>・荻田喜代一(薬学部教授・教務部長): 寝屋川キャンパス11号館10階あるいは教務課、枚方キャンパス1号館6階薬理化学研究室(履修者には詳細な連絡先を周知します) ・水野 武(教務部キャリア推進室): 寝屋川キャンパス、7号館3階 ・今井起代(就職課長): 寝屋川キャンパス10号館1階、就職部</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	さまざまな生活雑貨を扱う小売店「ロフト」(梅田ロフト)と連携し、若者ならではの発想で、ロフトの魅力がさらにアップするような提案を行い、ロフトで実現していくプロジェクトです。 皆さんの斬新なアイデアを形にするチャンスです。「面白いことをやってみたい!」と思っている積極的な学生の履修を期待します。ロフトは皆さんの「若い感性」を待っています。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 プロジェクトとしての達成目標 1. チームのなかでの役割を認識し能動的に行動できるようになる 2. 計画を立て、段取りが組める 3. 小売業界の現状を理解する プロセス 学生とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 チームで仕事をするときの方法を教える。																
授業方法と留意点	他者(プロジェクトメンバーや連携先)のことを慮りながら、能動的に参加してください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<p>■4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・小売業について学ぶ ・ロフトについて学ぶ <p>■5月～7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画提案の作成 ・梅田ロフトへの提言 プレゼンテーション実施 ・グループ決め ・ロフトでのミーティング <p>■8月～9月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提言内容の実施準備 ・提言内容の実施 <p>■10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会 <p>■1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終報告会 <p>■2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえり ・総括 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	現場への視察と提案を繰り返し行いながら、皆さんのアイデアを形にしてゆく授業です。主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。																
担当者の研究室等	11号館7階 経営学部 鶴坂研究室 11号館8階 経営学部 栢木研究室 7号館3階 キャリア教育推進室 水野研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ?産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる?</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ?産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる?</p> <p>【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河南町)などである。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャー ・グループ学習 ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。</p>																
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p><摂大ブランド商品の企画プロジェクト></p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、食品・お酒・化粧品から文具・雑貨に至るまで多種多様なものがある。本プロジェクトでは、各大学のオリジナル商品を調査し、それらを整理・分析することで、摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を明らかにする。さらに、いくつかの商品候補について、商品開発に向けた具体的な方略を考え、次年度以降の商品開発プロジェクトに繋げる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 必要な情報を収集することができる。 2. 情報を整理し、分析することができる。 3. お互いに意見を出し合い、それらを集約できる。 4. 結果を第三者に説明できる。 																		
授業方法と留意点	<p>4人の教員が担当し、1グループ5人(合計20名)までの少人数で活動を行う。そのため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>次年度以降の商品開発プロジェクトに繋げるための萌芽的な取り組みである。実施手順は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞やインターネット上の情報の中から、必要な情報を探し出す。 2. 集めた情報を一定の形式に整理する。 3. それらをインパクトの大きさおよび実現可能性の観点から整理・分析する。 4. お互いに意見を出し合い、摂南大学オリジナル商品の方向性を決定する。 5. 候補商品についてグループごとにプレゼンテーションを行い、候補商品を絞り込む。 6. 候補商品(1～数個)に対する連携企業を探す。 <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)、青笹教授室(1号館8階)																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p><過疎地域における地域資源活用プロジェクト(グリーンプロジェクト)></p> <p>和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。</p> <p>「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルなどを利用し、いわゆる住宅リニューアルのピフォーアフターを体験する。</p> <p>具体的なイベントは、地域の連携団体(すさみ町役場地域未来課)と協働して実現することになる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 3. ものづくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。 																		
授業方法と留意点	<p>年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み中に1回)</p> <p>それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3年計画の2年目のプロジェクトです。1年目は、古民家再生の概念設計を行い、小型の望遠鏡とプラネタリウムを製作しました。本年度は、詳細設計と改修工事、大型天体望遠鏡の製作、観望会イベントのノウハウ収集が主なテーマです。</p> <p>実施手順は</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマの情報共有(昨年度までの成果の説明)と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定 2. 現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定 3. 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 4. 大型装置・設備については現地で加工組み立て 5. 現地で加工、施工、組み立て開始 6. 装置・設備の完成 7. 試作装置・設備による実験評価 8. 実験結果の考察と改良 9. 改良した装置について評価実験・考察 10. 現地で再実験 11. 実験結果の考察と改良 12. 最終現地評価と報告 <p>事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>通常(週1回)の活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>「古民家再生」では建物のピフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものづくりを通じた地域活性とも言える活動です。</p>																		
担当者の研究室等備考	<p>8号館1階テクノセンター、1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。</p>																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 紙芝居ボランティアを通じた社会貢献</p> <p>【概要】 寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせ、および、門真市の民話に関する紙芝居の作成と上演活動を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。</p>																
授業方法と留意点	<p>学生が中心となって活動する読み聞かせボランティアのプロジェクトです。</p> <p>全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝屋川市役所や警察署のご担当者、門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と学生が直接連絡を取り、相談して活動内容や日時を決定する。 ・毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。 ・活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。 <p>【内容】</p> <p>年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し、近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。 ・門真市の民話を語り継ぐための紙芝居 門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加、学生自らイベントの企画提案、幼少学校での上演などが考えられる。さらに、門真市の民話をもとに紙芝居を作成する。 ・その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>全体で行う活動やミーティングの参加態度(40%)、自分の役割に対する貢献(40%)、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表(20%)</p>																
学生へのメッセージ	<p>昨年は寝屋川市の小学校だけでも多数活動しました。さらに、夏休みも利用して紙芝居の読み聞かせの練習・実演を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。</p> <p>今年も同様にボリュームのある活動になると思いますが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。</p> <p>プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。</p>																
担当者の研究室等	<p>7号館3階 キャリア教育推進室 水野 武</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>企業の若手を対象にしたリーダーシップ研修の企画提案プロジェクトー中小企業にフォーカスしてー</p> <p>【目的】 本学の教育理念である「自ら課題を発見し、そして解決することができる知的専門職業人の育成」を実践することを目的とする。</p> <p>【概要】 リーダーシップに関する理論的知識をベースに、若手リーダーに育成したいリーダーシップについて大手企業の管理職以上数名にインタビュー調査を行い、商工会議所にリーダーシップ研修の企画提案を行い評価してもらおう。また、プロジェクトのプロセスを通じて参加者のリーダーシップを開発することも目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、『主体性を持って前向きに取り組む力』、『自分とは異なった価値観を受け入れる力』、『課題を発見し、解決する力』を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>(1) リーダーシップに関する知見を知る (2) 企業の若手に求められるリーダーシップの内容を理解し、企画提案力を身につける (3) プロジェクトの活動を通じてリーダーシップを身につける</p> <p>以上の成果を得るため、学生が自ら課題を発見し、プロジェクトのメンバーと協働して、課題の解決に取り組む創造的・社会的な学びを得ることが到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>まず、学内でのレクチャー、プロの研修講師によるリーダーシップ研修を受講することで、リーダーシップに関する知識とスキルの向上を図る。</p> <p>また、企業訪問を数回行い、実務家と交流を繰り返すことで組織社会化を促進する。</p> <p>最後に、このPBLのプロセス全体を通じて、参加者自らのリーダーシップを開発する。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 企業の若手を対象にしたリーダーシップ研修の企画提案プロジェクトー中小企業にフォーカスしてー</p> <p>【内容】 (1) 基本的リーダーシップ理論の理解 (2) 実務家との交流による組織社会化の促進 (3) 提案およびフィードバックの繰り返しによる提案力の向上 (4) プロジェクトのプロセスを通じた自らのリーダーシップ開発</p> <p>【方法】 ・レクチャー ・リーダーシップ研修受講 ・企業訪問 ・本プロジェクト担当者へのプレゼンテーション ・研修講師へのプレゼンテーション ・商工会議所等へのプレゼンテーション ・中間報告会でのプレゼンテーション ・最終報告会でのプレゼンテーション</p> <p>【事前学習課題】 ・人材開発に関心を持ち、人材開発に関する書籍、新聞、雑誌などに目を通す。</p> <p>【事後学習課題】 ・プロジェクトで得られたフィードバックを記録し、次回は必ずレベルアップできるようにPDCAサイクルをまわす習慣を身につける。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>まとめ役になれる！リーダーシップ入門</td> <td>小野善生</td> <td>中央経済社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	まとめ役になれる！リーダーシップ入門	小野善生	中央経済社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	まとめ役になれる！リーダーシップ入門	小野善生	中央経済社														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	準備や出席回数、達成した内容、外部からの評価、メンバー間の相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館8階 西之坊研究室、7号館3階 水野研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーAリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する <ol style="list-style-type: none"> 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習(座学による) 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																
担当者の研究室等	11号館10階 石井准教授室 7号館3階 水野講師室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>概要:本プロジェクトは、PBLプロジェクトの初年度の2010年から開講し、7年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。</p> <p>2017年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。</p> <p>目的:池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どものための環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ピオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法:池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点:学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ:寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容: 1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 2. 巨椋池ピオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表</p> <p>方法:授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日2・3限に行い、主として午前中は学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、午後は池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、近畿水環境交流会(7月)、天若湖アートプロジェクト(8月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題:内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、前期・後期末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科) 科学技術教養C1・C2</p>																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査: 地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画: 具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキープポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>・学ぶのは、「ビジネス戦略」です。本PBLのプロジェクトテーマは、「交野市との連携事業～起業・創業を応援する取り組み～」です。文系・理系を問わず、それぞれの立場で地域社会（交野市）の異世代の人々と交流し、「ビジネス戦略」を考え、学生自身がこの授業・活動等をプロデュースします。</p> <p>・主な学修テーマは、以下のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 新たにビジネスを始め、それを軌道に乗せるためには、何を、どのように準備・実践すれば良いのか？ ② 学生の目線と地域社会（交野市）の異世代の人々の目線は、何が違うのか？ ③ 学内の授業と学外の活動との相乗効果を、どう実現するのか？ ④ 自分自身がPBLプロジェクトから何を吸収し、また何が貢献できるのか？
到達目標	<p>【本PBLプロジェクトの到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、本PBLの到達目標です。 ・地域社会の実際のビジネス現場において「戦略」を分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。 <p>【摂南大学PBLプロジェクト到達目標（全プロジェクト共通）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・大きく分けて、学外のPBL活動と学内のPBL授業に分かれます。 <p>【学外PBL活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 交野市において、地域住民、行政、商工会議所、金融機関等と連携し、「起業・開業のビジネス戦略」について体験・活動します。 ② 各学生の希望に応じて小チームに分かれ、「交野おひめ大学」（市民大学）における蕎麦づくり、地酒づくり、自然農法、歴史文化、商品企画等の戦略プロデュースにも関わってもらう予定です。 <p>【学内PBL授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 上記の学外活動におけるヒアリング結果、成果物等について学生同士で報告し、全員で情報共有するとともに、今後の課題について検討します。 ② 「起業・開業ビジネス」に関し、事例にもとづくアクティブラーニング(少人数グループ討議形式のケースメソッド)授業を実施します。学生同士のグループディスカッション、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく学びます。 <p>【授業・活動上の注意点】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 年間を通じて、単位取得に必要な授業・活動時間数を確保します。 ② 実際のPBL授業・活動は、土日祝日等実施される場合があります。 ③ 先方(交野市関係者)のご事情等により、授業・活動内容が一部変更となる場合があります。 ④ 本PBL履修の募集定員は、30名(ゼミ生含む)程度です。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【4月】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①小テスト～交野市の現状と課題～、②この授業の受講目的・ニーズの個別ヒアリング、③PBLガイダンス <p>【5月】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①交野市の現地ビジネス視察、②交野市の現状と課題について整理 <p>【6月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「起業・開業ビジネス」に関するアクティブラーニング(少人数グループ討議形式のケースメソッド)授業 <p>【7月】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①七イベントなど現地活動への参加・企画体験 ②「起業・開業ビジネス」に関するアクティブラーニング(少人数グループ討議形式のケースメソッド)授業 <p>【8～9月】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①小チーム(4～5人程度)に分かれ、複数の現地関係先へのヒアリング調査、面談メモ提出 ②後期PBL活動における所属小チームの決定 <p>【10～11月】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①小チーム(4～5人程度)に分かれ、現地でのPBL活動、毎回の活動報告提出 ②関連業界調査、資料・データ等収集、市役所、商工会議所、金融機関など関係先へのヒアリング、面談メモ提出 ③各チーム同士の報告会、反省と課題整理 <p>【12月】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①成果と検証(何をアウトプットするのか?)、②最終成果発表準備 <p>【1月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終成果発表(学内) <p>【2～3月】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①最終成果発表(学外、第三者評価含む)、②次年度への課題・引き継ぎ事項 <p>【事前学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必ず、毎回の授業・活動において、次回までの事前学習課題を学生自身で考えます。自分なりに取り組み、次回に発表できる様にして下さい。

	<p>【事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業・活動におけるポイント、キーワード、失敗体験などを記録・保存し、次回以降に活かし、実践できる様にして下さい。 			
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> 2年次…企業論、3年次…経営戦略論、企業分析(経営戦略ケース分析)、ものづくりと経営など 各学生が所属する小チームのプロジェクトテーマに応じ、修得が好ましい授業科目を紹介します。 			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用する場合があります。		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	受講学生のニーズに応じて、都度紹介します。		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>① 本PBL 授業・活動に対する参加意欲・貢献度 (50%)、 ② 本PBL 授業・活動における成果物、プレゼン内容、プレゼン力 (25%)、 ③ 交野市関係者を含む学内外の第三者評価 (25%) による総合評価。 ただし、原則として毎回の授業・活動の都度採点し、集計します。</p>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> PBLの最大のメリットは、通常の授業では決して経験できない、実践的な現場体験学修ができることです。 35年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！ 失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。 			
担当者の 研究室等	11号館7階 大田住吉研究室			
備考				

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、地域資源を使った商品等を開発し、販売をしていく。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。 今年度は①由良町観光パンフレットの多言語化 ②ゆらの助をゆるキャラグランプリで優勝させよう大作戦 ③「海の学校」の企画、運営を行います。
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①由良町の地域資源を発見する。 ②パンフレットの作成。 ③企画立案の手法を習得する。 ④企画したものをカタチにする。 ⑤自ら考え行動できる力をつける。 ⑥チームで活動できる力をつける。
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 由良町へ出向き現地調査や成果発表を行います。 企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います 2. 由良町の現状を学ぶ1 由良町の抱える問題について学びます。 事前学習：由良町のWEBサイトを閲覧する 事後学習：総合戦略の報告書を理解する 3. マーケティング 商品開発について1 マーケティングの基礎を学びます。 事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する 4. マーケティング 商品開発について2 マーケティングの基礎を学びます 事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する 5. 地域資源の発掘 グループごとに地域資源について意見交換 事前学習：由良町の地域資源について調べる 事後学習：意見交換の結果をまとめる 6. パンフレットの原案作成 グループで活用できる地域資源について意見交換 事前学習：意見交換結果をふまえてパンフレットに 使えそうな地域資源を検討 事後学習：活用できるものを絞り込む 7. ゆらの助をゆるキャラグランプリで優勝させよう大作戦の企画立案 企画案の議論を行う 事前学習：アイデアを考える 事後学習：グループで出された案をまとめる 8. 7の企画案を固め、準備していく 企画を実行するために何が必要か、タイムスケジュール、役割分担を決める 事前学習：企画案を理解し、自分が推すものを決める 事後調査：決まったことを整理 9. 7の実現 事前学習：イベント準備 事後学習：振り返り 10. 「海の日」イベント企画 事前学習：自分の案を企画する 事後学習：データ整理 11. 10企画案を固め、準備していく 企画を実行するために何が必要か、タイムスケジュール、役割分担を決める 事前学習：企画案を理解し、自分が推すものを決める 事後調査：決まったことを整理 12. 11の実現 事前学習：イベント準備 事後学習：振り返り 13. 全体ふりかえり この間に中間報告会、最終報告会が入ります。
関連科目	各学部マーケティング関連科目
教科書	番号 書籍名 著者名 出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社
	2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館
	3			
評価方法 (基準)	プロジェクトへの参加度 50% 提出物 50%			
学生への メッセージ	和歌由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。			
担当者の 研究室等	11号館7階 鶴坂研究室			
備考				

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 賢太郎
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	テーマとしては、橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアリングデザイン教育である。橋梁模型ブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の真の楽しさを体験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。エンジニアとして大切な要素である課題解決力・実践力・チームワーク力・協調性なども身につけさせる。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。橋梁模型製作においてある制約条件の下、アイデアを出ししっかりとディスカッションでき、課題解決計画通りに実行できる。チームワーク力を高めるように参加者には協調性なども学ぶ。また、これまで学習したことを復習し応用できる。また、専門的に学んでいる学生と他分野で学んでいる学生とで協力し合うことにより、新しい発想や役割分担が出来るのでチーム全体の能力が向上することも期待する。																
授業方法と留意点	構造力学・鋼構造学などの座学に加え、AutoCAD の使用方法、橋梁模型およびポスター作成のデザイン能力、プレゼンテーション能力、解析ソフトウェアの使用法などの知識・技術の習得が必要である。教科書を補足するプリントを随時配布し、進捗状況を確認しながら授業を進める。これまでの構造力学の教科書や計算機、メモ用紙を毎回持参するようにしてください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>課題名：橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアリングデザイン教育</p> <p>授業概要・流れ 現場見学を実施し、実際の構造物を見て構造を理解し、また、橋梁の補修・補強の技術や耐震補強の技術を学ぶ。実際のフィールドで学んだことを活かし、橋梁模型をデザイン・製作する。さらに、橋梁模型コンペティションに参加して、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の真の楽しさを体験することである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。</p> <p>0. 専門知識の習得（復習・新たに勉強）、現場見学を実施することによる学び、1. 制約条件の確認、2. 構造形式を決定（調査・ディスカッションなどで）、3. 図面化、4. 解析ソフトウェアを用いた数値計算、5. 模型製作、6. ポスター作成、7. プレゼンテーションの資料作成、8. コンペティション参加、9. 成果報告および反省会</p> <p>「前期」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、解析により数値計算 ・図面化 ・プレゼンテーション資料・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、前期で目標にしているコンペティションへ参加 <p>「後期」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、図面化 ・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、後期で目標にしているコンペティションへ参加 																
関連科目	構造力学基礎、構造力学基礎演習、構造力学Ⅰ・Ⅱ、鋼構造学、CAD実習																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『基本を学ぶ構造力学』</td> <td>崎元達郎</td> <td>森北出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『新編 橋梁工学』</td> <td>中井博・北田俊行</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『基本を学ぶ構造力学』	崎元達郎	森北出版	2	『新編 橋梁工学』	中井博・北田俊行	共立出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	『基本を学ぶ構造力学』	崎元達郎	森北出版														
2	『新編 橋梁工学』	中井博・北田俊行	共立出版														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『「道路橋示方書・同解説」(共通編, 鋼橋編)』</td> <td>日本道路協会編</td> <td>日本道路協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『「道路橋示方書・同解説」(共通編, 鋼橋編)』	日本道路協会編	日本道路協会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	『「道路橋示方書・同解説」(共通編, 鋼橋編)』	日本道路協会編	日本道路協会														
2																	
3																	
評価方法 (基準)	上記の到達目標に対して、計画をたてて、工程表を作成ししっかりと役割分担表を作成する。計画通りに進んでいるか、また計画通りに進んでいない場合は、どういうふうを考えて乗り越えたかなどの資料を残していく。プロジェクトにおける成果をまとめて資料を作成する。この作成した資料をみて評価する。まとめ資料は提出を求めないので、項目抜けがなく、かつ、丁寧に書くこと。また、確認テストを実施する。																
学生へのメッセージ	参加するブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の面白さや楽しさを体験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。また、分野外の方の参加も大歓迎。																
担当者の研究室等	1号館3階 田中准教授室																
備考	構造力学系の知識、CADの知識を復習または勉強すること。また、数値計算に慣れること。自らの手を動かして頑張りましょう。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	北河内および和歌山にお住いの高齢者が、スポーツを通して明るく元気な生活を送ってもらえるような提案を行い、高齢者と活動を共にするプロジェクトです。 高齢者は学生との交流により心身が活性化し、健康を維持・増進できます。皆さんの運動の得手不得手は全く問いません。「おじいちゃん・おばあちゃんが大好き、高齢者福祉に役立ちたい」と思っている学生の履修を期待します。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 プロジェクトとしての達成目標 1. チームのなかでの役割を認識し、主体的に行動できるようになる。 2. 計画を立て、段取りが組める。 3. 超高齢社会の現状を理解し、高齢者の健康増進について提案ができる。 プロセス 1. 学生や学外者とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 2. チームで仕事をするときの方法を学ぶ。																
授業方法と留意点	他者（プロジェクトメンバーや連携先）のことを慮りながら、能動的に参加してください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>■4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・高齢社会および高齢者の身体について学ぶ <p>■5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ決め ・活動内容の検討 ・寝屋川市高齢介護室および枚方市地域包括センターへ提言、内容検討 <p>■6月?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北河内にて活動開始 ・由良町へ提言、内容検討 <p>■10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会 ・由良町にて活動 <p>■1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終報告会 <p>■2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえり ・総括 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	現場の視察と活動を繰り返し行いながら、皆さんのアイデアを形にしてゆく授業です。主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。																
担当者の研究室等	総合体育館1階 藤林研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	内部 昭彦
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	大阪府下の小学校や、スポーツ少年団などと協働し、実際のスポーツ活動の運営や指導を行うことで、小学生のスポーツ活動を活性化させ、実社会でも求められるリーダーシップを育成する。			
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ① 小学生の運動活動を活性化させると共に、スポーツの定着を図り、子供の体力向上に寄与することができる ② 小学校やスポーツ少年団のスポーツ活動の運営や指導をすることによりリーダーシップを育成することができる			
授業方法と留意点	学内での事前学習を行った後、学外の小学校及びラグビースクールに出向き、ラグビーを指導する。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	子供たちのスポーツ活動の活性化を目指すことがテーマである。 また、プロジェクトの前段階として現状の把握を行い、ジュニア期の指導法とリスク管理を理解させ、学生が自らプランを立てることができるよう指導する。その後、実際に実習を行い、課題を検証し、次回の実習までに改善させる(フィードバック)。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	実習(小学校に訪問し指導サポート)や発表会の参加は必須とし、事前学習の評価、実習の評価、研究発表の評価を総合してルーブリック評価で判定する。			
学生へのメッセージ	積極的な参加を期待します。			
担当者の研究室等備考	総合体育館1F 内部研究室			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	尾山 廣
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	最も身近な自然現象を創り出す“星”にまつわる科学を、現在稼働していない交野市のプラネタリウムを学生自ら操作し、星の動きや種類・神話を交えて、交野市の小学生に向けた自然科学(宇宙や生命の誕生)の楽しさを伝える上映プログラムを製作する。今年度は、中学生を対象に、上演を試行し、その結果も踏まえて、一方的でなく小学生が自分の星座をつくるなどの参加型のプレゼンテーションを開発する。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 天体の基礎的な知識を身につける。 プラネタリウムの基礎知識を修得する。 星のまち交野の特徴を説明できる。 様々な問題について理論的・分析的な関心をもてる。 小学生に星の神秘を伝えることができる。																		
授業方法と留意点	松尾研究室、川上研究室、尾山研究室のゼミ生と同時に活動する。主な活動期間は2017年5月～2018年1月であり、月2回の全体ミーティングと年間9回の交野市での活動を予定している。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの概要と基本方針の説明(評価法の提示) ・プラネタリウム見学(連携団体との協議を含む) (1) 投影機本体の状態把握、ドーム(10mの半球形空間)の空間使用案と投影案を決定 (2) 年間計画の策定(到達目標の修正と日程の調整) ・プラネタリウム投影機のメンテナンスと並行して上映プログラムを決定 ・プレゼンテーションに必要なフィルムやスライドの作成 ・交野市理科教室参加の中学生をゲストに、プレゼンテーション(中間発表)を試行 (3) 問題点の抽出と修正案の検討(連携団体との協議を含む) ・追加スライドの作成と上映プログラム全体の問題点の改善と内容の修正 ・トライアル上映会の試行と最終プログラムの策定(連携団体との協議を含む) ・交野市小学生(または交野市教育委員会関係者)を対象に上映会を試行 ・プロジェクトのまとめと今後の方向性を確認(連携団体との協議を含む) 上記の項目を2017年4月～2018年1月に実施する(機器の状況により変更がある)。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①天体・星の知識(プレゼンテーションを含む)やプラネタリウムの操作方法を理解できている。②空間(半球形空間)を利用した効果的なプレゼンテーションを考えている。③小中学生や外部の方々との接し方(態度)ができている。 以上の3点について、ルーブリック評価表などで評価を行う。																		
学生へのメッセージ	理科教育プログラムの開発(ソフト)を目的とするため、教職希望の学生など、星が好き、子供たちに教えることが好きな学生を募集しています。																		
担当者の研究室等	理工学部生命科学科(松尾先生、尾山)は1号館8階または9階、住環境デザイン学科(川上先生)は12号館7階に教室がある。																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	寝屋川市成美小学校地域協働協議会青少年部会のみなさんと連携して、成美小学校在籍児童に将来の社会生活に向けてのお金との付き合い方を学んでもらうために、経済のしくみや街の経済の動き等について、体験的な学習を軸にした学習プログラムを作成・実施する。 社会的活動への貢献を通しての社会の中での役割の自覚、地域経済、子どもを取り巻く教育環境の調査・分析に基づいた課題の明確化・抽出化、子どもを相手にした教育行為の省察等を通して、自らも成長を実感することをねらいとする。																
到達目標	本プロジェクトは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 また、次の事項を具体的な達成目標として設定する。 ①地域の社会的活動への参加を通じて自らの社会的役割を自覚できるようになる。 ②経営と教職の学生がコラボすることにより相互に学び合いをすることができる。 ③経営学部生は経営学的方法により各団体機関が実現しようとしている企てを把握し、その評価をする経験を積む。 ④教職履修学生はメンター的な関わりによって子どもたちに寄り添う経験、作成した教材を教授場で臨機応変に修正する経験を積むとともに、学習場面での発問、説明、指示、助言など、子どもたちの思考や行動への具体的な働きかけの経験を積む。																
授業方法と留意点	寝屋川市成美小学校地域協働協議会のメンバーとプログラムの準備・実施・総括の全過程を、協力協働しながら進めます。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	4月～6月 プログラムコンテンツの作成 体験実習先の選定、小学生向けの学習プログラムの検討、地域の調査等 学習指導要領・教科書の関連内容の調査、ワークショップの準備等 7月～8月 ①小学生・摂大生の初セッション（アイスブレイキング、グループワーク） ②フィールドワークⅠ（例えば、日銀大阪支店、造幣局本局大阪工場） ③フィールドワークⅡ（例えば、地元運動団体、地元商店街） ④フィールドワークⅢ（例えば、寝屋川市役所、北大阪商工会議所等） ⑤学習会（例えば、家族でもともに学ぶ機会を設ける） 9月～10月 ①体験活動の振り返り ②摂大祭りでの発表・展示（中間報公開を兼ねる） 小学生・保護者・協働協議会員を招待 1月 最終報告会																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	企画書、活動報告書、リーダーシップ、レポートを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	経営学部と教職課程履修学生以外の学生の参加も歓迎します。																
担当者の研究室等	林研究室(7号館3階) 鶴坂研究室(11号館7階)																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	一色 美博
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ミニ鉄道プロジェクトとして、レール間隔3.5インチ、5インチのミニ鉄道を製作し、各種のイベントにおいて運転会などの企画・運営を行う。 蒸気機関車、電気機関車や客車の製作に加えて、軌道、鉄橋、駅舎なども製作し、イベント会場などで運転会・展示会を催す。また、運転会・展示会では製作過程や駆動原理などの展示を行い、参加者のものづくりへの関心を高める。			
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 蒸気機関車や鉄道施設などの製作を通して、ものづくりの技術を能動的に習得する。 イベントにおける運転会の企画・準備・運営を通して、目標達成のために自律的に計画し遂行する能力を身につける。			
授業方法と留意点	週1回のミーティングでプロジェクトの企画、運営、製作について、計画や進捗状況の報告を行う。履修者が決定する時間割に従って、テクノセンターで部品を製作し技術を習得する。 この科目では、能動的に活動できる能力を培うことが大きな狙いである。 与えられた課題に対して全貌を把握した上で計画を作り、その計画を確実に実行する姿勢を学んでほしい。			
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	本年度はレール間隔3.5インチ、5インチの蒸気機関車の製作を継続するとともに、運行イベントの企画・運営を行う。 1. 教員の指導の下に目標と計画を作る。 2. 計画に従って、技術指導を受けながら蒸気機関車、鉄道施設を製作する。 3. 計画からの遅れには対策を講じる。 4. 製作時に利用する金属材料、工作機械、工作方法などについては図書館で調べ知識を確かなものとする。 5. 運行イベントの企画・運営を計画し、実施する。 6. 計画、進捗状況、調査結果等をミーティングで報告する。			
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	汎用的能力(40%)、主体性・柔軟性・課題発見解決(30%)、貢献度(30%)について、ミーティングでの報告、イベントや作業時の態度で評価する。			
学生へのメッセージ	与えられた環境、条件のもとで、工夫して自律的に課題を達成できる能力は、社会人として必須の力です。この授業で「指示待ち」から「自ら行動する」姿勢を学んでください。			
担当者の研究室等	担当者の研究室等 1号館3階 一色教授室 8号館1階 テクノセンター			
備考				

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	荻田 喜代一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 ビジネスパーソンのための夜間連続講演会『インテリジェントアレー撰壇塾』の企画・運営</p> <p>【概要と目的】 公益財団法人関西生産性本部が開催予定の『インテリジェントアレー撰壇塾』の企画・運営を通して、ビジネスマナー、ビジネスコミュニケーション、段取り・タイムマネジメント、コストマネジメント、マーケティングを中心とした社会人基礎力を学習する。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>また、ビジネスマナー、ビジネスコミュニケーション、段取り・タイムマネジメント、コストマネジメント、マーケティングを中心とした社会人基礎力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>活動は、主に学内とOIT梅田タワーで行う。 本学的な活動を行う前に、コミュニケーション研修やビジネスマナー研修を行う。 アドバイスは教員に加えて、連携先の関西生産性本部の職員が行う。 関西生産性本部のHPを必ず閲覧すること</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>前期のビジネスパーソン向けの講座の企画、講師の折衝、広報、講座の運営を公益財団法人関西生産性本部の担当者にアドバイスを受けながら実施し、身に付けたスキルを生かして後期の講座を実施する。その過程で、上記目標の達成を目指す。</p> <p>(2017年) 3月 オリエンテーション(研修)</p> <p>3～5月 前期日程の企画検討、講師選定、講師折衝、企画完成、企画案内(HPなど)作成、告知等のマーケティング</p> <p>6～8月 講座実施、運営補助</p> <p>8～9月 前期まとめ、中間報告</p> <p>9～10月 後期日程の企画検討、講師選定、講師折衝、企画完成、企画案内(HPなど)作成、告知等のマーケティング</p> <p>11月 講座実施、運営補助</p> <p>(2018年) 1月 学内PBL発表会</p> <p>2月 年間まとめ、年間の結果報告</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>PBLでの活動による成長内容をルーブリックで評価する(50%) 提案書等のレポート(50%) 60%で合格とする。</p>																
学生へのメッセージ	<p>本プロジェクトにおいてかかわる人々はすべて社会人ですので、社会人マナーが必要となります。 社会人マナーが身につける学修態度が重要です。また、協働できる学生を求めます。</p>																
担当者の研究室等	<p>・荻田喜代一(薬学部教授・教務部長): 寝屋川キャンパス11号館10階あるいは教務課、枚方キャンパス1号館6階薬理学研究室(履修者には詳細な連絡先を周知します)</p> <p>・水野 武(教務部キャリア推進室): 寝屋川キャンパス、7号館3階</p> <p>・今井起代(就職課長): 寝屋川キャンパス10号館1階、就職部</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	栢木 紀哉
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	さまざまな生活雑貨を扱う小売店「ロフト」(梅田ロフト)と連携し、若者ならではの発想で、ロフトの魅力がさらにアップするような提案を行い、ロフトで実現していくプロジェクトです。 皆さんの斬新なアイデアを形にするチャンスです。「面白いことをやってみたい!」と思っている積極的な学生の履修を期待します。ロフトは皆さんの「若い感性」を待っています。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 プロジェクトとしての達成目標 1. チームのなかでの役割を認識し能動的に行動できるようになる 2. 計画を立て、段取りが組める 3. 小売業界の現状を理解する プロセス 学生とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 チームで仕事をするときの方法を教える。																
授業方法と留意点	他者(プロジェクトメンバーや連携先)のことを慮りながら、能動的に参加してください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後、学習課題	<p>■4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・小売業について学ぶ ・ロフトについて学ぶ <p>■5月～7月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画提案の作成 ・梅田ロフトへの提言 プレゼンテーション実施 ・グループ決め ・ロフトでのミーティング <p>■8月～9月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提言内容の実施準備 ・提言内容の実施 <p>■10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会 <p>■1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終報告会 <p>■2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえり ・総括 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	現場への視察と提案を繰り返し行いながら、皆さんのアイデアを形にしてゆく授業です。主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。																
担当者の研究室等	11号館7階 経営学部 鶴坂研究室 11号館8階 経営学部 栢木研究室 7号館3階 キャリア教育推進室 水野研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	久保 貞也
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ?産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる?</p> <p>地域の産業を活性化させる商品企画、イルミネーションイベント、子供向けのスポーツ教室の企画・運営、社会教育への貢献イベント、地域文化発信のための広報や展覧会などに主体的に参画し、地域の総合的な活性化を図るとともに、学生が実践的な場で大いに学ぶことを目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の課題を認識する ・課題を解決する方法を考える ・解決策を実行する ・自らが実行した成果を振り返り、次の行動を設定する <p>以上のプロセスを主体的に行えるようになることが本プロジェクトの到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>学内でのレクチャー(学部講師を含む)、見学会や視察、海外を含む学外者とのオンラインミーティングなどを準備作業として行い、実際のイベント参加や商品企画、調査分析などの実習を行う。</p> <p>プロジェクト内は複数のサブプロジェクトを配置する。ただし、改善や比較学習のために複数のプロジェクトの参加も認める。</p> <p>参加する学生は「自ら課題を見つけて積極的に動く意識」を重視してすること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 学生の学びと地域の総合活性化プロジェクト ?産業、教育、スポーツ、文化など多様な面から地域を総合的に活性化させる?</p> <p>【内容】 対象予定とするプロジェクトは、カレーに乗せてはいけない福神漬けの続編や販売展開(寝屋川市、京都市ほか)、ビジネスプランコンテスト、平和教育に関するイルミネーションイベント(枚方市)、大学共同のイルミネーションイベント(茨木市)、スポーツ教室運営(門真市)、地域のITスキル測定と教育(摂津市)、歴史資産の展覧会企画(河南町)などである。</p> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レクチャー ・グループ学習 ・オンラインミーティング ・博物館や自治体の見学会 ・実地調査 ・企画書や報告書の作成 ・学外でのプレゼンテーション <p>など、サブプロジェクトの特徴に合わせて行う。</p> <p>【事前学習課題】 地域社会の課題や文化・スポーツに関するニュースや新聞、雑誌、書籍などに目を通す。</p> <p>【事後学習課題】 プロジェクトの中で見つけた自分の長所と短所への自学自習課題を設定すること。</p>																
関連科目	経営関連、マーケティング関連、心理学(消費者)、情報メディア、社会調査、地域経済、観光など広く興味を持って所属学部の科目を受講すること。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	準備やイベントの参加数、達成した内容、外部からの評価、および、メンバー間での相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	地域を舞台に自分を試してみたい人をお待ちしています。 自分の潜在能力を引き出しながら、地域の良さを引き出してください。																
担当者の研究室等	11号館7階 久保准教授室、針尾准教授室、牧野准教授室、山本准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	居場 嘉教
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p><摂大ブランド商品の企画プロジェクト></p> <p>様々な大学でオリジナル商品が作られており、食品・お酒・化粧品から文具・雑貨に至るまで多種多様なものがある。本プロジェクトでは、各大学のオリジナル商品を調査し、それらを整理・分析することで、摂南大学オリジナル商品の目指すべき方向性を明らかにする。さらに、いくつかの商品候補について、商品開発に向けた具体的な方略を考え、次年度以降の商品開発プロジェクトに繋げる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 必要な情報を収集することができる。 2. 情報を整理し、分析することができる。 3. お互いに意見を出し合い、それらを集約できる。 4. 結果を第三者に説明できる。 																		
授業方法と留意点	<p>4人の教員が担当し、1グループ5人(合計20名)までの少人数で活動を行う。そのため、各自が役割を果たし、積極的に取り組むことが求められる。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>次年度以降の商品開発プロジェクトに繋げるための萌芽的な取り組みである。実施手順は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新聞やインターネット上の情報の中から、必要な情報を探し出す。 2. 集めた情報を一定の形式に整理する。 3. それらをインパクトの大きさおよび実現可能性の観点から整理・分析する。 4. お互いに意見を出し合い、摂南大学オリジナル商品の方向性を決定する。 5. 候補商品についてグループごとにプレゼンテーションを行い、候補商品を絞り込む。 6. 候補商品(1～数個)に対する連携企業を探す。 <p>週1回行う活動に対応して、次回までに行わなければならない課題を決める。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	活動状況、取り組む姿勢および活動成果を総合的に評価する。																		
学生へのメッセージ																			
担当者の研究室等	居場講師室(1号館9階)、木村准教授室(1号館8階)、船越准教授室(1号館9階)、青笹教授室(1号館8階)																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	橋本 正治
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p><過疎地域における地域資源活用プロジェクト (グリーンプロジェクト) ></p> <p>和歌山県すさみ町にある「古民家」や「豊かな自然」を資源としてとらえ、「田舎暮らし体験のための古民家再生」、イベントとして光害の無いすさみ町での「星空観望会イベントの開催」、カヌー川下りが行われている古座川での利用を考慮した「間伐材を利用したカヤック製作・試乗イベントの開催」、などをテーマとする。</p> <p>「古民家再生」では、間伐材を使ったログパネルなどを利用し、いわゆる住宅リニューアルのピフォーアフターを体験する。</p> <p>具体的なイベントは、地域の連携団体(すさみ町役場地域未来課)と協働して実現することになる。</p>																		
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. チームで協働して作業することの問題点や有効性を理解できる。 2. 問題が生じたときの対処手順について理解し応用できる。 3. ものづくりにかかわる作業設計・工程設計を実際に経験し、その有用性について理解できる。 																		
授業方法と留意点	<p>年数回すさみ町で作業します。(2泊3日を3-4回、7泊8日夏休み中に1回)</p> <p>それ以外は大学で装置や工程の設計を行い、可能であれば装置の試作や評価を行います。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>3年計画の2年目のプロジェクトです。1年目は、古民家再生の概念設計を行い、小型の望遠鏡とプラネタリウムを製作しました。本年度は、詳細設計と改修工事、大型天体望遠鏡の製作、観望会イベントのノウハウ収集が主なテーマです。</p> <p>実施手順は</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマの情報共有(昨年度までの成果の説明)と本年度の目的に沿った開発プロジェクトのテーマ設定 2. 現地調査とテーマの修正と具体的な開発設備・機器の決定 3. 大学にて概念設計、詳細設計、工程設計、必要素材の調達、加工を行う。 4. 大型装置・設備については現地で加工組み立て 5. 現地で加工、施工、組み立て開始 6. 装置・設備の完成 7. 試作装置・設備による実験評価 8. 実験結果の考察と改良 9. 改良した装置について評価実験・考察 10. 現地で再実験 11. 実験結果の考察と改良 12. 最終現地評価と報告 <p>事前事後課題は、週1回行う活動に対応して次回までに実施しないといけないことをチームで決定し各自が役割を果たすことでプロジェクトをすすめていく。</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>通常(週1回)の活動状況とすさみでの活動状況をみて十分に自らの能力を発揮しているかどうか、活動を終え自らの体験から成長点を理解できるかどうかを元に評価する。</p>																		
学生へのメッセージ	<p>「古民家再生」では建物のピフォーアフタを実体験し、イベント開催ではアイデアを実現する良い機会です。夢を実現できる実感が得られると思います。一緒に楽しみましょう。機械工学科の学生が多いのですが、これまで建築学科、住環境デザイン学科、環境環境工学科、外国語学部の参加メンバーもいました。浅野教授担当のPBL授業「過疎地域活性化プロジェクト」と連携して活動しています。ものづくりを通じた地域活性とも言える活動です。</p>																		
担当者の研究室等備考	<p>8号館1階テクノセンター、1号館5階メカトロニクス研究室で活動します。</p>																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>【テーマ】 紙芝居ボランティアを通じた社会貢献</p> <p>【概要】 寝屋川市の自転車安全条例を小学生に伝える紙芝居の読み聞かせ、および、門真市の民話に関する紙芝居の作成と上演活動を行う。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>役割意識や自己効力感を育むために、仲間と協働しながら社会に貢献する喜びを体験する。</p>																
授業方法と留意点	<p>学生が中心となって活動する読み聞かせボランティアのプロジェクトです。</p> <p>全員が「自分がやらなければ」という意識を持って取り組んでください。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 寝屋川市役所や警察署のご担当者、門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と学生が直接連絡をとり、相談して活動内容や日時を決定する。 毎週一回のミーティングと報告書で情報共有を図り、必要に応じて適宜集合して練習、作業などを行う。 活動内容は、大学ホームページなどで学外にも公表するとともに、中間報告会、最終報告会などでも発表する。 <p>【内容】</p> <p>年間を通じて、市と連携して読み聞かせ活動を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 寝屋川市自転車安全条例普及のための紙芝居 寝屋川市安全協会の活動に同行し、近隣の小学校で自転車事故の減少のために前年度作成の紙芝居の読み聞かせ活動をする。 門真市の民話を語り継ぐための紙芝居 門真市役所や歴史資料館のご担当者の方と相談して活動内容を決定する。既存のイベントへの参加、学生自らイベントの企画提案、幼少学校での上演などが考えられる。さらに、門真市の民話をもとに紙芝居を作成する。 その他 適宜、要請に応じて紙芝居を作成したり、読み聞かせ活動を実施することがある。 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>全体で行う活動やミーティングの参加態度(40%)、自分の役割に対する貢献(40%)、報告書・ホームページ・報告会などの記録・公表(20%)</p>																
学生へのメッセージ	<p>昨年は寝屋川市の小学校だけでも多数活動しました。さらに、夏休みも利用して紙芝居の読み聞かせの練習・実演を行うなど、活動は大変ボリュームがありました。</p> <p>今年も同様にボリュームのある活動になると思いますが、そのぶん達成感や団結力がつよくなると思います。</p> <p>プロジェクトを通して、社会と関わり、仲間と試行錯誤する難しさ、楽しさを体験してください。</p>																
担当者の研究室等	<p>7号館3階 キャリア教育推進室 水野 武</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	西之坊 穂
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>企業の若手を対象にしたリーダーシップ研修の企画提案プロジェクトー中小企業にフォーカスしてー</p> <p>【目的】 本学の教育理念である「自ら課題を発見し、そして解決することができる知的専門職業人の育成」を実践することを目的とする。</p> <p>【概要】 リーダーシップに関する理論的知識をベースに、若手リーダーに育成したいリーダーシップについて大手企業の管理職以上数名にインタビュー調査を行い、商工会議所にリーダーシップ研修の企画提案を行い評価してもらおう。また、プロジェクトのプロセスを通じて参加者のリーダーシップを開発することも目的とする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、『主体性を持って前向きに取り組む力』、『自分とは異なった価値観を受け入れる力』、『課題を発見し、解決する力』を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>(1) リーダーシップに関する知見を知る (2) 企業の若手に求められるリーダーシップの内容を理解し、企画提案力を身につける (3) プロジェクトの活動を通じてリーダーシップを身につける</p> <p>以上の成果を得るため、学生が自ら課題を発見し、プロジェクトのメンバーと協働して、課題の解決に取り組む創造的・社会的な学びを得ることが到達目標である。</p>																
授業方法と留意点	<p>まず、学内でのレクチャー、プロの研修講師によるリーダーシップ研修を受講することで、リーダーシップに関する知識とスキルの向上を図る。</p> <p>また、企業訪問を数回行い、実務家と交流を繰り返すことで組織社会化を促進する。</p> <p>最後に、このPBLのプロセス全体を通じて、参加者自らのリーダーシップを開発する。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【授業テーマ】 企業の若手を対象にしたリーダーシップ研修の企画提案プロジェクトー中小企業にフォーカスしてー</p> <p>【内容】 (1) 基本的リーダーシップ理論の理解 (2) 実務家との交流による組織社会化の促進 (3) 提案およびフィードバックの繰り返しによる提案力の向上 (4) プロジェクトのプロセスを通じた自らのリーダーシップ開発</p> <p>【方法】 ・レクチャー ・リーダーシップ研修受講 ・企業訪問 ・本プロジェクト担当者へのプレゼンテーション ・研修講師へのプレゼンテーション ・商工会議所等へのプレゼンテーション ・中間報告会でのプレゼンテーション ・最終報告会でのプレゼンテーション</p> <p>【事前学習課題】 ・人材開発に関心を持ち、人材開発に関する書籍、新聞、雑誌などに目を通す。</p> <p>【事後学習課題】 ・プロジェクトで得られたフィードバックを記録し、次回は必ずレベルアップできるようにPDCAサイクルをまわす習慣を身につける。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>まとめ役になれる！リーダーシップ入門</td> <td>小野善生</td> <td>中央経済社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	まとめ役になれる！リーダーシップ入門	小野善生	中央経済社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	まとめ役になれる！リーダーシップ入門	小野善生	中央経済社														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	準備や出席回数、達成した内容、外部からの評価、メンバー間の相互評価から総合的に評価する。																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	11号館8階 西之坊研究室、7号館3階 水野研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 信輝
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	マーケティング手法を学び、本学ラグビー部が所属する関西大学ラグビーAリーグのPR、リーグ運営サポート、及び本学内におけるラグビー部の広報活動を行い、大学ラグビーに興味をもってもらうための展開案を構築する。それにより大学ラグビーの新たなファン層拡大の可能性を探る。将来的には2019年ラグビーW杯に向けてのインバウンドへと繋げる。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	年間のスケジュールに応じて多様な授業の形態(座学、現地調査)を採用します。また、年度を通じて定期ミーティングを行い、協力団体の方々と調整しながら活動しますので、発想を柔軟にして何事にも取り組むことが留意点となります。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	以下の手続きで授業を展開する 1. プロジェクトの成果目標と年間スケジュールの共有 2. マーケティング手法の学習(座学による) 3. 連携先との面談 4. 連携先業務内容の理解、ヒアリングによる課題抽出 5. 学内外におけるラグビーリーグに関するアンケート調査 6. 広報誌制作準備(広報誌は秋季リーグに週刊または隔週で発行) 7. 学内外におけるリーグ戦観戦促進活動、リーグ戦運営補助、PBL中間報告会、広報誌の発行、来場者へのアンケートの実施 8. まとめと最終報告会																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	積極的に活動してください。																
担当者の研究室等	11号館10階 石井准教授室 7号館3階 水野講師室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>概要:本プロジェクトは、PBLプロジェクトの初年度の2010年から開講し、7年間続けてきた。この間、寝屋川市内での環境学習支援や、寝屋川市内をはじめとする淀川水系の各地で様々な団体と連携し親水活動、環境保全活動や流域住民への環境・防災に関する啓発活動を行ってきた。</p> <p>2017年度も引き続き、寝屋川市立池の里市民交流センターでの子どもたちへの環境学習支援に、学生が企画・実施担当として関わることで、市民ボランティアと子どもをつなぐ架け橋となることを目指す。また、淀川や芥川を中心に水辺整備活動を行い、淀川水系の流域連携活動を行う。</p> <p>目的:池の里市民交流センターの活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組み力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どものための環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での天然アユ復活や巨椋池ピオトープを題材に学習・調査を進める。プロジェクト全体を通して、世代を超えた人々と交流することでコミュニケーション力を学び、自分たちで企画・実践する力を身につける。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法:池の里市民交流センターでは、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や巨椋池プロジェクトに所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点:学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要です。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ:寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容: 1. 寝屋川市立池の里市民交流センターにおける環境学習支援 2. 巨椋池ピオトープを中心とした水辺再生学習の実施 3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践 4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践 5. 天然アユ復活プロジェクトの学習 6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表</p> <p>方法:授業のうち半分(月1回)は原則として平常授業期間内の土曜日2・3限に行い、主として午前中は学内のゼミ室において、石田が資料を用いて講義をし、午後は池の里市民交流センターにおける自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。他の半分(月1回)は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、近畿水環境交流会(7月)、天若湖アートプロジェクト(8月)、いい川・いい川づくりワークショップ(9-11月)を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。天若湖アートプロジェクト実行委員会より外部講師を招き、事前学習を行う。授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題:内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、前期・後期末にレポートを作成し、年度末にプレゼンテーションを課す。</p>																
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学(以上、C科) 科学技術教養C1・C2</p>																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>授業(イベントを含む)に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。(60%) 水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。(40%)</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみなさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げてください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等	1号館3階 石田准教授室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	浅野 英一
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>「すさみ町における過疎地域活性化支援プロジェクト」において必要な要素は「ヒト・モノ・カネ」である。すさみ町には豊かな自然や歴史文化など、都市にはない多くの魅力(資源)を調べ、都市と田舎の「ヒト・モノ・カネ」がうまく循環する仕組みを作ることにより、お互いが共生する活動を実践活動教育の核とする。</p> <p>地域活性化活動のテーマにしているものは「農業」、「ふるさと創生」、「観光」の3種類。</p> <p>①調査: 地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。 ②企画: 具体案を立て、評価(実現可能性、コスト、実施期間、有効性)を行い、詳細な実施計画を立てる。 ③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。 ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	プロジェクトの実施地は、和歌山県西牟婁郡すさみ町です。活動にかかる交通手段は、バスを大学でチャーターして移動します。宿泊は、摂南大学すさみ町活動拠点(廃校になった小学校の校舎)を使うため宿泊費用は発生しません。プロジェクト実施については、調査状況に基づき事前に学内で協議して現地活動を行います。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>すさみ町は人口が約4700人で、39ある集落のうち18が限界集落の町で、その中の1つ、佐本・大都河地域は人口約360人、高齢化率60%以上であり過疎と高齢化が深刻で、日常生活や地域コミュニティーの維持が困難になりつつある地域である。少子高齢化と過疎化は、物理的な過疎に加えて人々の心の過疎化(社会の進歩に対する過疎感や年代を超えた人と人の繋がりに対する過疎感など)を招き、それが地域活性化への意欲を喪失させるという負のスパイラルの形成を促進している。こういった背景の中、履修学生は「よそ者、若者、大学生」という立場で地域活性化のプロジェクトを実施している。</p> <p>すさみ町の観光イベントである「イノブータン王国建国祭」「ビルフィッシュトーナメント」「ケンケン鯉祭り」の運営協力、220年続いた山村の伝統行事「佐本川柱祭り」の復活・伝承、ボランティア活動「なんでもやる隊」、限界集落に住む独居老人宅を訪問する「見守り隊」などを実施する。</p> <p>大阪府寝屋川市からすさみ町まで、貸切の大型バスで片道5時間という距離である。この距離がPDCAを行うために重要なキープポイントになる。漁業に例えると遠洋漁業のイメージで、港(大学)を出港(出発)して、遠洋(すさみ町)で漁業(活動)するためには、誰が、いつ、何を、どこで、どのような方法で行うかを綿密に計画し、実施するかなど多くの課題とそれを乗り越える手段などPDCAを現実に体験する。</p> <p>事前に、すさみ町役場、NPO、地域の代表者などとメールや電話などで協議し、参加者の募集、実施に必要な資材の調達、イベントの内容、学生スタッフの人員配置など、会社の中で高度な仕事を実施する能力を身につける。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間とともに現状打破をしていくチーム学習へと意識を変革する必要が求められる。																
担当者の研究室等	7号館5階 浅野研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大田 住吉
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>・学ぶのは、「ビジネス戦略」です。本PBLのプロジェクトテーマは、「交野市との連携事業～起業・創業を応援する取り組み～」です。文系・理系を問わず、それぞれの立場で地域社会（交野市）の異世代の人々と交流し、「ビジネス戦略」を考え、学生自身がこの授業・活動等をプロデュースします。</p> <p>・主な学修テーマは、以下のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 新たにビジネスを始め、それを軌道に乗せるためには、何を、どのように準備・実践すれば良いのか？ ② 学生の目線と地域社会（交野市）の異世代の人々の目線は、何が違うのか？ ③ 学内の授業と学外の活動との相乗効果を、どう実現するのか？ ④ 自分自身がPBLプロジェクトから何を吸収し、また何が貢献できるのか？
到達目標	<p>【本PBLプロジェクトの到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実社会で「戦力」として通用するビジネスリーダーを養成することが、本PBLの到達目標です。 ・地域社会の実際のビジネス現場において「戦略」を分析し、判断し、表現する、実践的な知識および能力を身につけることができます。 <p>【摂南大学PBLプロジェクト到達目標（全プロジェクト共通）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・大きく分けて、学外のPBL活動と学内のPBL授業に分かれます。 <p>【学外PBL活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 交野市において、地域住民、行政、商工会議所、金融機関等と連携し、「起業・開業のビジネス戦略」について体験・活動します。 ② 各学生の希望に応じて小チームに分かれ、「交野おひめ大学」（市民大学）における蕎麦づくり、地酒づくり、自然農法、歴史文化、商品企画等の戦略プロデュースにも関わってもらいます。 <p>【学内PBL授業】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 上記の学外活動におけるヒアリング結果、成果物等について学生同士で報告し、全員で情報共有するとともに、今後の課題について検討します。 ② 「起業・開業ビジネス」に関し、事例にもとづくアクティブラーニング(少人数グループ討議形式のケースメソッド)授業を実施します。学生同士のグループディスカッション、プレゼン、質疑応答などを徹底的に繰り返し、明るく、楽しく、わかりやすく学びます。 <p>【授業・活動上の注意点】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 年間を通じて、単位取得に必要な授業・活動時間数を確保します。 ② 実際のPBL授業・活動は、土日祝日等に実施される場合があります。 ③ 先方(交野市関係者)のご事情等により、授業・活動内容が一部変更となる場合があります。 ④ 本PBL履修の募集定員は、30名(ゼミ生含む)程度です。
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【4月】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①小テスト～交野市の現状と課題～、②この授業の受講目的・ニーズの個別ヒアリング、③PBLガイダンス <p>【5月】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①交野市の現地ビジネス視察、②交野市の現状と課題について整理 <p>【6月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「起業・開業ビジネス」に関するアクティブラーニング(少人数グループ討議形式のケースメソッド)授業 <p>【7月】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①七イベントなど現地活動への参加・企画体験 ②「起業・開業ビジネス」に関するアクティブラーニング(少人数グループ討議形式のケースメソッド)授業 <p>【8～9月】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①小チーム(4～5人程度)に分かれ、複数の現地関係先へのヒアリング調査、面談メモ提出 ②後期PBL活動における所属小チームの決定 <p>【10～11月】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①小チーム(4～5人程度)に分かれ、現地でのPBL活動、毎回の活動報告提出 ②関連業界調査、資料・データ等収集、市役所、商工会議所、金融機関など関係先へのヒアリング、面談メモ提出 ③各チーム同士の報告会、反省と課題整理 <p>【12月】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①成果と検証(何をアウトプットするのか?)、②最終成果発表準備 <p>【1月】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終成果発表(学内) <p>【2～3月】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①最終成果発表(学外、第三者評価含む)、②次年度への課題・引き継ぎ事項 <p>【事前学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必ず、毎回の授業・活動において、次回までの事前学習課題を学生自身で考えます。自分なりに取り組み、次回に発表できる様にして下さい。

	<p>【事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業・活動におけるポイント、キーワード、失敗体験などを記録・保存し、次回以降に活かし、実践できる様にして下さい。 			
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> 2年次…企業論、3年次…経営戦略論、企業分析(経営戦略ケース分析)、ものづくりと経営など 各学生が所属する小チームのプロジェクトテーマに応じ、修得が好ましい授業科目を紹介します。 			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教員によるオリジナル作成のビジネス・ストーリー教材を配布・使用する場合があります。		
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	受講学生のニーズに応じて、都度紹介します。		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>① 本PBL 授業・活動に対する参加意欲・貢献度 (50%)、 ② 本PBL 授業・活動における成果物、プレゼン内容、プレゼン力 (25%)、 ③ 交野市関係者を含む学内外の第三者評価 (25%) による総合評価。 ただし、原則として毎回の授業・活動の都度採点し、集計します。</p>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> PBLの最大のメリットは、通常の授業では決して経験できない、実践的な現場体験学修ができることです。 35年間の民間企業・公的機関等でのビジネス経験やコンサルティング経験をもとに、皆さんと熱くディスカッションしましょう！ 失敗は大いに結構です。実社会に通用する真のビジネスリーダーにチャレンジしたい人、大歓迎です。 			
担当者の 研究室等	11号館7階 大田住吉研究室			
備考				

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科:II◎,R科:A◎,A科:A◎,M科:A1○,E科:B○,C科:II◎,L科:DP2◎,DP5△,DP6△,D科:DP1◎,S科:DP1◎,P科:DP8△,J科:DP1◎,DP6◎,DP7◎,W科:DP1◎,DP7◎,N科:DP1◎N:DP1◎		

授業概要・目的	和歌山県由良町の地域ブランドを創造するため、地域資源を使った商品等を開発し、販売をしていく。それにより、由良町の交流人口を増やし、地域経済活性化の一助とする。 今年度は①由良町観光パンフレットの多言語化 ②ゆらの助をゆるキャラグランプリで優勝させよう大作戦 ③「海の学校」の企画、運営を行います。								
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ①由良町の地域資源を発見する。 ②パンフレットの作成。 ③企画立案の手法を習得する。 ④企画したものをカタチにする。 ⑤自ら考え行動できる力をつける。 ⑥チームで活動できる力をつける。								
授業方法と留意点	講義とフィールドワーク 由良町へ出向き現地調査や成果発表を行います。 企画立案したものをカタチにしますので、無責任な行動はやめてください。								
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. オリエンテーション 今後の進め方、グループ分けを行います 2. 由良町の現状を学ぶ1 由良町の抱える問題について学びます。 事前学習：由良町のWEBサイトを閲覧する 事後学習：総合戦略の報告書を理解する 3. マーケティング 商品開発について1 マーケティングの基礎を学びます。 事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する 4. マーケティング 商品開発について2 マーケティングの基礎を学びます 事前学習：あらかじめ配布されたテキスト等を読んでくる 事後学習：学んだ内容を復習する 5. 地域資源の発掘 グループごとに地域資源について意見交換 事前学習：由良町の地域資源について調べる 事後学習：意見交換の結果をまとめる 6. パンフレットの原案作成 グループで活用できる地域資源について意見交換 事前学習：意見交換結果をふまえてパンフレットに 使えそうな地域資源を検討 事後学習：活用できるものを絞り込む 7. ゆらの助をゆるキャラグランプリで優勝させよう大作戦の企画立案 企画案の議論を行う 事前学習：アイデアを考える 事後学習：グループで出された案をまとめる 8. 7の企画案を固め、準備していく 企画を実行するために何が必要か、タイムスケジュール、役割分担を決める 事前学習：企画案を理解し、自分が推すものを決める 事後調査：決まったことを整理 9. 7の実現 事前学習：イベント準備 事後学習：振り返り 10. 「海の日」イベント企画 事前学習：自分の案を企画する 事後学習：データ整理 11. 10企画案を固め、準備していく 企画を実行するために何が必要か、タイムスケジュール、役割分担を決める 事前学習：企画案を理解し、自分が推すものを決める 事後調査：決まったことを整理 12. 11の実現 事前学習：イベント準備 事後学習：振り返り 13. 全体ふりかえり この間に中間報告会、最終報告会が入ります。								
関連科目	各学部マーケティング関連科目								
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名				
番号	書籍名	著者名	出版社名						

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	マーケティング	恩蔵直人	日本経済新聞出版社
	2	地域マネジメント戦略	池田潔ほか	同友館
	3			
評価方法 (基準)	プロジェクトへの参加度 50% 提出物 50%			
学生への メッセージ	和歌由良町は過疎地域です。日本にはこのようなまちが沢山存在しています。授業で学んだことを、このような地域でどのように生かせばいいかを体験学習を通じて考察してほしいと思います。中途半端な気持ちでは最後まで続きません。ある程度の覚悟を持って参加してください。最後までやりとおすことができ、企画がカタチになれば、みなさんの達成感は半端ないものになることをまちがいなしです。			
担当者の 研究室等	11号館7階 鶴坂研究室			
備考				

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 賢太郎
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	テーマとしては、橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアリングデザイン教育である。橋梁模型ブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の真の楽しさを体験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。エンジニアとして大切な要素である課題解決力・実践力・チームワーク力・協調性なども身につけさせる。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。橋梁模型製作においてある制約条件の下、アイデアを出ししっかりとディスカッションでき、課題解決計画通りに実行できる。チームワーク力を高めるように参加者には協調性なども学ぶ。また、これまで学習したことを復習し応用できる。また、専門的に学んでいる学生と他分野で学んでいる学生とで協力し合うことにより、新しい発想や役割分担が出来るのでチーム全体の能力が向上することも期待する。																
授業方法と留意点	構造力学・鋼構造学などの座学に加え、AutoCAD の使用方法、橋梁模型およびポスター作成のデザイン能力、プレゼンテーション能力、解析ソフトウェアの使用法などの知識・技術の習得が必要である。教科書を補足するプリントを随時配布し、進捗状況を確認しながら授業を進める。これまでの構造力学の教科書や計算機、メモ用紙を毎回持参するようにしてください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>課題名：橋梁模型コンペティションの参加に見るエンジニアリングデザイン教育</p> <p>授業概要・流れ 現場見学を実施し、実際の構造物を見て構造を理解し、また、橋梁の補修・補強の技術や耐震補強の技術を学ぶ。実際のフィールドで学んだことを活かし、橋梁模型をデザイン・製作する。さらに、橋梁模型コンペティションに参加して、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の真の楽しさを体験することである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。</p> <p>0. 専門知識の習得（復習・新たに勉強）、現場見学を実施することによる学び、1. 制約条件の確認、2. 構造形式を決定（調査・ディスカッションなどで）、3. 図面化、4. 解析ソフトウェアを用いた数値計算、5. 模型製作、6. ポスター作成、7. プレゼンテーションの資料作成、8. コンペティション参加、9. 成果報告および反省会</p> <p>「前期」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、解析により数値計算 ・図面化 ・プレゼンテーション資料・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、前期で目標にしているコンペティションへ参加 <p>「後期」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンペティションの制約条件の確認 ・構造形式のディスカッション、図面化 ・ポスターの作成、橋梁模型製作 ・橋梁模型製作、後期で目標にしているコンペティションへ参加 																
関連科目	構造力学基礎、構造力学基礎演習、構造力学Ⅰ・Ⅱ、鋼構造学、CAD実習																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『基本を学ぶ構造力学』</td> <td>崎元達郎</td> <td>森北出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>『新編 橋梁工学』</td> <td>中井博・北田俊行</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『基本を学ぶ構造力学』	崎元達郎	森北出版	2	『新編 橋梁工学』	中井博・北田俊行	共立出版	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	『基本を学ぶ構造力学』	崎元達郎	森北出版														
2	『新編 橋梁工学』	中井博・北田俊行	共立出版														
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>『「道路橋示方書・同解説」(共通編, 鋼橋編)』</td> <td>日本道路協会編</td> <td>日本道路協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	『「道路橋示方書・同解説」(共通編, 鋼橋編)』	日本道路協会編	日本道路協会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	『「道路橋示方書・同解説」(共通編, 鋼橋編)』	日本道路協会編	日本道路協会														
2																	
3																	
評価方法 (基準)	上記の到達目標に対して、計画をたてて、工程表を作成ししっかりと役割分担表を作成する。計画通りに進んでいるか、また計画通りに進んでいない場合は、どういうふうを考えて乗り越えたかなどの資料を残していく。プロジェクトにおける成果をまとめて資料を作成する。この作成した資料をみて評価する。まとめ資料は提出を求めないので、項目抜けがなく、かつ、丁寧に書くこと。また、確認テストを実施する。																
学生へのメッセージ	参加するブリッジコンペティションは、学生自身が橋梁の設計、製作と架設を行い、“ものづくり”の面白さや楽しさを体験するコンペティションである。基本的な工学知識の応用力、課題解決能力、プレゼンテーション能力を培うこと、学生や参加者の協調性を養うことを期待している。また、分野外の方の参加も大歓迎。																
担当者の研究室等	1号館3階 田中准教授室																
備考	構造力学系の知識、CADの知識を復習または勉強すること。また、数値計算に慣れること。自らの手を動かして頑張りましょう。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	藤林 真美
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	北河内および和歌山にお住いの高齢者が、スポーツを通して明るく元気な生活を送ってもらえるような提案を行い、高齢者と活動を共にするプロジェクトです。 高齢者は学生との交流により心身が活性化し、健康を維持・増進できます。皆さんの運動の得手不得手は全く問いません。「おじいちゃん・おばあちゃんが大好き、高齢者福祉に役立ちたい」と思っている学生の履修を期待します。																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 プロジェクトとしての達成目標 1. チームのなかでの役割を認識し、主体的に行動できるようになる。 2. 計画を立て、段取りが組める。 3. 超高齢社会の現状を理解し、高齢者の健康増進について提案ができる。 プロセス 1. 学生や学外者とのコミュニケーションをとり、問題・課題を迅速に把握し対応する。 2. チームで仕事をするときの方法を学ぶ。																
授業方法と留意点	他者（プロジェクトメンバーや連携先）のことを慮りながら、能動的に参加してください。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>■4月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・高齢社会および高齢者の身体について学ぶ <p>■5月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ決め ・活動内容の検討 ・寝屋川市高齢介護室および枚方市地域包括センターへ提言、内容検討 <p>■6月?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北河内にて活動開始 ・由良町へ提言、内容検討 <p>■10月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会 ・由良町にて活動 <p>■1月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終報告会 <p>■2月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえり ・総括 																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	活動報告、活動現場での取り組みを総合的に評価する。																
学生へのメッセージ	現場の視察と活動を繰り返し行いながら、皆さんのアイデアを形にしてゆく授業です。主体的に取り組んで、活動しながら改善点を見つけていってください。																
担当者の研究室等	総合体育館1階 藤林研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	内部 昭彦
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	大阪府下の小学校や、スポーツ少年団などと協働し、実際のスポーツ活動の運営や指導を行うことで、小学生のスポーツ活動を活性化させ、実社会でも求められるリーダーシップを育成する。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 ① 小学生の運動活動を活性化させると共に、スポーツの定着を図り、子供の体力向上に寄与することができる ② 小学校やスポーツ少年団のスポーツ活動の運営や指導をすることによりリーダーシップを育成することができる																		
授業方法と留意点	学内での事前学習を行った後、学外の小学校及びラグビースクールに出向き、ラグビーを指導する。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	子供たちのスポーツ活動の活性化を目指すことがテーマである。 また、プロジェクトの前段階として現状の把握を行い、ジュニア期の指導法とリスク管理を理解させ、学生が自らプランを立てることができるよう指導する。その後、実際に実習を行い、課題を検証し、次回の実習までに改善させる(フィードバック)。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	実習(小学校に訪問し指導サポート)や発表会の参加は必須とし、事前学習の評価、実習の評価、研究発表の評価を総合してルーブリック評価で判定する。																		
学生へのメッセージ	積極的な参加を期待します。																		
担当者の研究室等備考	総合体育館1F 内部研究室																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名 (英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	尾山 廣
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	最も身近な自然現象を創り出す“星”にまつわる科学を、現在稼働していない交野市のプラネタリウムを学生自ら操作し、星の動きや種類・神話を交えて、交野市の小学生に向けた自然科学(宇宙や生命の誕生)の楽しさを伝える上映プログラムを製作する。今年度は、中学生を対象に、上演を試行し、その結果も踏まえて、一方的でなく小学生が自分の星座をつくるなどの参加型のプレゼンテーションを開発する。																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。 天体の基礎的な知識を身につける。 プラネタリウムの基礎知識を修得する。 星のまち交野の特徴を説明できる。 様々な問題について理論的・分析的な関心をもてる。 小学生に星の神秘を伝えることができる。																		
授業方法と留意点	松尾研究室、川上研究室、尾山研究室のゼミ生と同時に活動する。主な活動期間は2017年5月～2018年1月であり、月2回の全体ミーティングと年間9回の交野市での活動を予定している。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの概要と基本方針の説明(評価法の提示) ・プラネタリウム見学(連携団体との協議を含む) (1) 投影機本体の状態把握、ドーム(10mの半球形空間)の空間使用案と投影案を決定 (2) 年間計画の策定(到達目標の修正と日程の調整) ・プラネタリウム投影機のメンテナンスと並行して上映プログラムを決定 ・プレゼンテーションに必要なフィルムやスライドの作成 ・交野市理科教室参加の中学生をゲストに、プレゼンテーション(中間発表)を試行 (3) 問題点の抽出と修正案の検討(連携団体との協議を含む) ・追加スライドの作成と上映プログラム全体の問題点の改善と内容の修正 ・トライアル上映会の試行と最終プログラムの策定(連携団体との協議を含む) ・交野市小学生(または交野市教育委員会関係者)を対象に上映会を試行 ・プロジェクトのまとめと今後の方向性を確認(連携団体との協議を含む) 上記の項目を2017年4月～2018年1月に実施する(機器の状況により変更がある)。																		
関連科目																			
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 40%;">書籍名</th> <th style="width: 30%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①天体・星の知識(プレゼンテーションを含む)やプラネタリウムの操作方法を理解できている。②空間(半球形空間)を利用した効果的なプレゼンテーションを考えている。③小中学生や外部の方々との接し方(態度)ができている。 以上の3点について、ルーブリック評価表などで評価を行う。																		
学生へのメッセージ	理科教育プログラムの開発(ソフト)を目的とするため、教職希望の学生など、星が好き、子供たちに教えることが好きな学生を募集しています。																		
担当者の研究室等	理工学部生命科学科(松尾先生、尾山)は1号館8階または9階、住環境デザイン学科(川上先生)は12号館7階に教室がある。																		
備考																			

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>寝屋川市成美小校区地域協働協議会青少年部会のみなさんと連携して、成美小学校在籍児童に将来の社会生活に向けてのお金との付き合い方を学んでもらうために、経済のしくみや街の経済の動き等について、体験的な学習を軸にした学習プログラムを作成・実施する。</p> <p>社会的活動への貢献を通しての社会の中での役割の自覚、地域経済、子どもを取り巻く教育環境の調査・分析に基づいた課題の明確化・抽出化、子どもを相手にした教育行為の省察等を通して、自らも成長を実感することをねらいとする。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>また、次の事項を具体的な達成目標として設定する。</p> <p>①地域の社会的活動への参加を通じて自らの社会的役割を自覚できるようになる。 ②経営と教職の学生がコラボすることにより相互に学び合いをすることができる。 ③経営学部生は経営学的方法により各団体機関が実現しようとしている企てを把握し、その評価をする経験を積む。 ④教職履修学生はメンター的な関わりによって子どもたちに寄り添う経験、作成した教材を教授場で臨機応変に修正する経験を積むとともに、学習場面での発問、説明、指示、助言など、子どもたちの思考や行動への具体的な働きかけの経験を積む。</p>																
授業方法と留意点	<p>寝屋川市成美小校区地域協働協議会のメンバーとプログラムの準備・実施・総括の全過程を、協力協働しながら進めます。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月～6月 プログラムコンテンツの作成 体験実習先の選定、小学生向けの学習プログラムの検討、地域の調査等 学習指導要領・教科書の関連内容の調査、ワークショップの準備等</p> <p>7月～8月 ①小学生・摂大生の初セッション（アイスブレイキング、グループワーク） ②フィールドワークⅠ（例えば、日銀大阪支店、造幣局本局大阪工場） ③フィールドワークⅡ（例えば、地元運動団体、地元商店街） ④フィールドワークⅢ（例えば、寝屋川市役所、北大阪商工会議所等） ⑤学習会（例えば、家族でもともに学ぶ機会を設ける）</p> <p>9月～10月 ①体験活動の振り返り ②摂大祭りでの発表・展示（中間報公開を兼ねる） 小学生・保護者・協働協議会員を招待</p> <p>1月 最終報告会</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>企画書、活動報告書、リーダーシップ、レポートを総合的に評価する。</p>																
学生へのメッセージ	<p>経営学部と教職課程履修学生以外の学生の参加も歓迎します。</p>																
担当者の研究室等	<p>林研究室（7号館3階） 鶴坂研究室（11号館7階）</p>																
備考																	

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名(英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきている。ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ない。グローバル社会において必要とされるビジネス実務とは何かを学ぶとともに、変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立することを目的とする。
到達目標	1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身に付ける必要性を学ぶ。 2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化(多様性)を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 また、毎回の座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行う。
科目学習の効果(資格)	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンスト科目」の「共通」分野に位置している科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。 ・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。 ・自己紹介後、グループ形成をする。	・事前学修: 自己紹介の原案を考える。 ・事後学修: プレゼンテーション資料を熟読する。
2	ビジネスの定義	・ビジネスとは何かを考察する。 ・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。	・事前学修: テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめる。 ・事後学修: 企業の事例を調べる。
3	組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー	・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。 ・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。	・事前学修: NPOについて調べる。 ・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成する。
4	ビジネス環境をとらえる① ー 経済のグローバル化と高度情報化ー	・グローバル化の明暗について考察する。	・事前学修: グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集める。 ・事後学修: 日本のグローバル化に関する小レポートを作成する。
5	ビジネス環境をとらえる② ー 地球環境問題と少子高齢社会ー	・地球環境問題とジェンダーエンパワーメント指数について考察する。	・事前学修: ジェンダーエンパワーメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめる。 ・事後学修: 地球市民として考えたことをまとめる。
6	ビジネス現場をとらえる ー オフィスからワークプレイスへー	・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。	・事前学修: 将来の働き方をイメージし、まとめる。 ・事後学修: グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成する。
7	ビジネス実務能力	・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。	・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身に付けるかをまとめる。 ・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめる。
8	ビジネス実務の基本① ー 仕事の進め方ー	・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。	・事前学修: 問題プリント①を解く。 ・事後学修: 問題プリント②を解く。
9	ビジネス実務の基本② ー ビジネスと諸活動ー	・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。	・事前学修: CSRについて調べ、まとめる。 ・事後学修: 一企業のCSRを選び、レポートを作成する。
10	ビジネス実務の基本③ ー ビジネスと経営資源ー	・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。	・事前学修: 男女共同参画社会に関して調べ、まとめる。 ・事後学修: 、ワークライフバランスに関してレポートを作成する。
11	ビジネス実務の基本④ ー ビジネスとPDCAサイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンス(経理財務)ー	・PDCAサイクルを理解する。 ・マーケティングとコストの関係について理解する。	・事前学修: 業界内の2社CMを比較し、その特徴をまとめる。 ・事後学修: CMの必要性の有無に関してレポートを作成する。
12	自己実現とキャリアプランニング ー セルフマネジメントと自己啓発ー	・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。 ・社会の中における自己を位置づける。	・事前学修: 自己振り返りシートを作成する。 ・事後学修: 再度自己振り返りシートを作成し、職業を通じた自己意識をまとめる。
13	ビジネスプラン① ー 起業への意識ー	・日常生活での不便な点、改善すべき点を挙げ、提案をするためのグループワークを行う。 ・CM比較をイノベーションの観点から行う。	・事前学修: 各自がテーマを見つける。 ・事後学修: グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
14	ビジネスプラン②	・CM比較プレゼンテーションを行う。 ・実際に企画を考える。	・事前学修: グループのビジネスプランを発展させる。 ・事後学修: グループ活動においてビジネスプラン作成とプレゼンテーション準備を行う。
15	ビジネスプラン・プレゼンテーション	・作成したビジネスプランに基づいて発表する。	・事前学修: プレゼンテーション準備を行う。 ・事後学修: 最終レポートを作成する。

関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の科目。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	20歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ
	2	イノベーションと企業家精神	P.F. ドラッカー	ダイヤモンド社
	3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク (30%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (40%) を総合的に評価する。 ・毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンが繰り返される予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。 			
学生への メッセージ	<p>私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。</p>			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	ダイバーシティとコミュニケーション	科目名(英文)	Diversity and Communication
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れている。「境界線」も一つの視野では理解できない。さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ(多様性)を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。ジェンダーの基本的理解はもちろん、ビジネスにおけるダイバーシティ・マネジメントをジェンダー視点で俯瞰することが目的である。
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって社会生活に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果(資格)	・ダイバーシティ・マネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。 ・「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。

教養科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて	・事前学修: ダイバーシティに関して、調べる。 ・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成する。
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修: 私たちの周りにある伝統や習慣について考える。 ・事後学修: 「ウチとソト」に関するレポートを作成をする。
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学+男性学=人間学 ・時代を生きた女性たち6名に関して調査	・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べる。 ・事後学修: 活躍した女性たちに関してグループで文献調査し、まとめる。
4	日本の近代化	・明治の落とし物 ・グループで時代を生きた女性た地に関するプレゼンテーション	・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成する。 ・事後学修: 明治・大正・昭和の世相と時代を文学の世界から垣間見ることによって、現代にも残存している慣習に関してレポートを作成する。
5	国際統計比較①	・ジェンダーエンパワーメント指数	・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考える。 ・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成する。
6	性役割の形成①	・発達段階における「刷り込み」	・事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返る。 ・事後学修: 自らの「刷り込み」体験に関するレポートを作成する。
7	性役割形成②	・結婚と母性信仰	・事前学修: 共同作業である結婚の意味を見直すと同時に、親役割に関して考える。 ・事後学修: 自らの結婚観に関するレポートを作成する。
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・M字型労働力率曲線とビジネスマインドの形成	・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考える。 ・事後学修: M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成する。
9	ワークライフバランスとビジネス組織	・ジェンダー・マネジメント	・事前学修: ワークライフバランスとは何か、政府の見解を調べる。 ・事後学修: ワークライフバランスが必要な理由をまとめ、レポートを作成する。
10	アサーティブネス理論①	・世界中でアサーティブネスが用いられる理由 ・政策提言へ向けての中間レポート提出	・事前学修: アサーティブネスについて調べる。 ・事後学修: アサーティブに話す練習をする。
11	アサーティブネス理論②	・スキルを身に付ける	・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考える。 ・事後学修: アサーティブネス理論を使うことによる自身の変化についてレポートを作成する。
12	国際統計比較②	・男女共同参画社会とは	・事前学修: 男女共同参画社会に関して調べる。 ・事後学修: 男女共同参画社会に関して自分の意見をまとめ、レポートを作成する。
13	ダイバーシティ・マネジメント①	・企業比較から政策提言へ	・事前学修: 企業が必ず取り入れているダイバーシティ・マネジメントについて、事例研究する。 ・事後学修: 興味のある企業のダイバーシティ・マネジメントに関してダイバーシティの視点からの政策提言に関するレポートを作成する。
14	ダイバーシティ・マネジメント②	・政策提言プレゼンテーション ・自由討議	・事前学修: 事例研究した内容をプレゼンテーションできるように練習する。 ・事後学修: 事例研究した内容をより上手くプレゼンテーションできるように練習する。
15	まとめ	・最終レポート提出 ・まとめ	・事前学修: ダイバーシティ・マネジメントについて述べられるようまとめる。 ・事後学修: ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめる。

関連科目	「ソーシャル・イノベーション副専攻課程」の「アドバンス科目」の「共通」分野に位置している科目である。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社
	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房
	3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
評価方法 (基準)	ロールプレイ (20%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	皆さんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論にあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	地域と私	科目名 (英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鶴坂 貴恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B◎, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学習をします。その後、体験学習では過疎地域である由良町を対象として、由良町の現状と課題を知った上で、現地へ赴いて、グループ単位で調査の上、解決策を考え発表します。 この授業は、講義のテーマによって担当教員が変わるオムニバス授業です。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のことを学ぶ意義を理解する。 ・地域の課題を理解する。 ・地域の課題について解決策を提案できる。 ・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。 ・グループの中で自分の役割を理解しながら活動できる。
授業方法と留意点	グループで議論等をした上で、グループごとに発表するといったグループワークが中心の授業です。 第2回目、3回目は外部講師による体験型の研修となります。 第11回目は和歌山県由良町での体験学習となります。 グループワークで学習を進めていきますので、グループのメンバーに迷惑がかからないよう責任のある行動をしてください。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 4月8日(土)	到達目標や授業方法、成績評価方法等について説明します。 地域のことを学ぶ意義を解説します。 (荻田・鶴坂)	【事前学習】 シラバスをみて、内容を確認する。 地域のことを学ぶことについて自分なりに考える。 【事後学習】 地域という視点で新聞等のニュースを探し、読み、自分なりの意見を考える。
2	自己の探求 4月15日(土)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師)	体験型セミナーでの気づきをまとめる。
3	自己の探求 4月16日(日)	自己理解を深め、他者への配慮をしながら主体的に行動できるための体験型セミナーを受講します。 (外部講師)	体験型セミナーでの気づきを今後、どのように活かすかを考える。
4	今、地域で何が起きているか 5月6日(土) 1限	人口減少時代の都市・地域の問題や課題について解説し、地域貢献活動の重要性について考えます。 (鶴坂)	【事前学習】 キーワード「消滅都市」について調べる。 【事後学習】インターネットで地方都市では具体的にどのような問題が発生しているのか、その問題をどうやって解決しようとしているのかを調べる。
5	地域経済・経営 ー地域の観光・ブランディングー 5月6日(土) 2限	観光資源を活用した地域経済の活性化と地域のブランディングについて学習し、都市部と過疎地域での取組の違いを議論します。 (鶴坂・久保)	【事前学習】 地域資源を活用した観光によるまちおこしの事例を調べる。 【事後学習】 自分の地元と和歌山の観光の目玉を考える。
6	地域環境・防災 ー空き家の現状と課題ー 5月6日(土) 3限	大都市周辺市街地と地方農山村部とでは空き家を取り巻く状況は異なります。地域特性ごとに異なる空き家の現状と課題を学習し、寝屋川市や和歌山県下の市町村などを対象とした空き家対策などについて議論します。 (平田・稲地)	【事前学習】 授業前に国内の空き家問題を概観するために、国土交通省や自治体などが行っている調査結果、対策、制度など情報をインターネットなどで収集・整理しておくこと 【事後学習】 授業後は議論した内容を整理しておくこと
7	地域政策・文化 ー地域とスポーツー 5月20日(土) 1限	地域とスポーツとの関連；「トップスポーツ（プロ野球やプロサッカー、ラグビーのトップリーグ、都道府県対抗駅伝など）との循環による郷土愛的な地域性」および「地域スポーツクラブにおける住民のスポーツ参加」について理解・議論します。 (藤林・内部)	【事前学習】 事前に提示するキーワードについて予習しておくこと 【事後学習】 授業ノート等で復習すること
8	地域医療 ー地域で健康な生活を送るには？ー 5月20日(土) 2限	地域で健康な生活を支える上で住民が活用できる、組織、サービス、専門職について理解し、地域で健康な生活を送るための課題を多様な視点から話し合います。 (荻田・田中)	【事前学習】事前に提示するキーワードについて各自調べておくこと。 【事後学習】 授業で発表された内容について整理し、地域医療に関する知識をまとめておくこと。
9	事前学習① 由良町関係者の講演 5月20日(土) 3限	和歌山県由良町役場の方に来学いただき、由良町の現状と課題をお聞きます。	【事前学習】 和歌山県由良町の概要を調べる。 【事後学習】 和歌山県由良町の課題をまとめる。
10	事前学習② グループワーク 6月3日(土) 1、2限	由良町を対象として、地域経済・経営、地域政策・文化、地域環境・防災、地域医療のどの切り口で課題発見や解決策に取組むかをグループで検討します。また、グループ内での分担を決めます。	【事前学習】 グループでどの領域の問題を取り扱うか決めておく。 【事後学習】 由良町でのフィールドワークの準備を行う。
11	体験学習 (和歌山県由良町)	由良町に出かけ、フィールドワーク(調査)を行います。	【事前学習】 現地で調べることについて予備調査しておく。

	6月17日(土)終日		【事後学習】 現地で得られた情報をまとめておく。																
12	プレゼンテーション講座 7月1日(土)1限	プレゼンテーションについての解説、パワーポイントによる資料作成方法の解説をします。 (石井、鶴坂)	【事前学習】 現地で得た情報をまとめておく。 【事後学習】 スライドをつくってみる。																
13	事後学習① グループワーク 7月1日(土)2限	現地で得た情報の整理をもちより、発表できる形にしていきます。	【事前学習】 グループで情報を共有化しておく。 【事後学習】 発表できるよう準備をする。																
14	事後学習② 成果発表会 7月15日(土)1、2限	作成したスライドを使い、成果発表を行います。	【事前学習】 発表の練習を行う。 【事後学習】 他のグループの取組内容の整理をする。 発表したときのコメントや質問を自分たちのグループの発表内容に反映させ、レポート作成に役立たせる。																
15	事後学習③ ふりかえり 7月15日(土)3限	「地域と私」全体の総括、ふりかえりを行います。(鶴坂)	【事前学習】 これまでのプリントや副専攻課程ガイドブック等を整理する。 【事後学習】 副専攻課程ガイドブックの完成、レポート作成。																
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	グループワークの成果物 40% グループの成果発表 20% 最終レポート 40% 60%で合格とする。																		
学生への メッセージ	地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。																		
担当者の 研究室等	鶴坂研究室 11号館7階																		
備考																			

科目名	地域連携教育活動 I	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 小山 裕樹, 林 茂樹
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	本科目はサービスマーケティングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																		
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																		
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受け入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動 I」を初めて履修する学生を対象とする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前指導 1 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</p> <p>事前指導 2 マナー講座・小中学校の教育現場について</p> <p>事前指導 3 「守秘義務」の意味とその内容について</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</p> <p>活動 1~25 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前指導に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数(出席数)票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室)、7号館4階(小山研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室)																		
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。																		

科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名(英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 小山 裕樹, 林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	本科目はサービスマーケティングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の幼稚園・小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。																		
到達目標	実際の教育現場を知ること、物事を多面的に考察できること、社会的倫理観の確立、相手に理解できるように論理的かつ的確なコミュニケーション能力を持つこと。																		
授業方法と留意点	原則として、履修申請が可能な学生は、本年1月に行なわれた特別事前履修相談会で受け入れ校の校長・教頭・園長との相談結果によって受け入れ許可を得た学生で、「地域連携教育活動Ⅰ」を履修した学生のみとする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>事前指導1 活動についての心構え、内容の徹底周知、年間活動計画作成準備</p> <p>事前指導2 マナー講座・小中学校の教育現場について</p> <p>事前指導3 「守秘義務」の意味とその内容について</p> <p>活動準備 受け入れ校と協議し、年間活動計画を作成する</p> <p>活動1~25 受け入れ校にて活動 (活動業務日報・活動時間票の提出)</p> <p>最終報告会 活動報告会を開催する。</p> <p>※注意事項 事前指導に1回でも欠席した場合は、履修取り消しにします。</p> <p>事前・事後学習課題 学外での活動に際し、各種活動(各受け入れ団体によって異なる)の事前準備および活動後の報告書(日報等)の作成に各1時間程度行う。</p>																		
関連科目	教職課程を履修していない学生でもこの科目を履修することができる。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	①年間活動計画書 ②活動業務日報・活動時間数(出席数)票 ③活動進捗状況報告書 ④最終活動報告書の全てを提出し、発表会で活動報告した場合のみ、それらを総合的に判断して評価する。																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の幼稚園、小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室)、7号館4階(小山研究室)、7号館3階(林研究室)、7号館3階(吉田研究室)																		
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。																		

科目名	チームビルディング	科目名(英文)	Team Building
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	成熟社会においては個人の力を集合させてプロジェクトを作り上げる「チームビルディングの思考や技術」を学ぶことが重要である。本科目はチームビルディングの理論を学び、様々なアクティビティを通してチームに貢献する方法を考えられるようになるための授業である。2年生以降に摂南大学PBLプロジェクトを履修する際にも役立つ。 学科の学習・教育目標との対応: 工学部[A], 理工学部 [II]
到達目標	チームで物事を進める際に必要な知識が理解出来るようになり、技能を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	講義は受講生によるアクティビティ・プレゼンテーション・グループワークなどを織り交ぜて進める。
科目学習の効果(資格)	チームで物事を進める際の基礎知識が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の進め方 ・なぜチームが必要なのかを知る ・チームビルディングとは何か を理解する	本科目のシラバスを精読すること。
2	チームビルディングとは何か	・自己紹介ワーク ・チームビルディングの理論を学ぶ ・チームビルディングのための技能を知る	チームにどのように貢献できるかを考える。
3	チームビルディング体験	・ペーパータワーワーク (予定) ・チームの10カ条 などに取り組み、チームビルディングを体験する	チームでの取り組みを振り返る。
4	チームにおけるリーダーとフォロワーの役割	・リーダーシップとフォロワーシップを学ぶ ・メンバーを支援するための質問術、傾聴術を身につける	配布資料を熟読する。
5	学習するためのチームづくり	・チームを機能させるために必要な要素を学ぶ	配布資料を精読する。
6	話し合う技術	・チーム話し合う際の技術を学ぶ	配布資料を熟読する事
7	ビジネス記事を活用したディスカッション	記事を活用して情報の読み取りと活用、自分ならどうするかを考える	チームでのディスカッションを振り返る。
8	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ①	・ペアワークに取り組み、情報の読み取りと活用、提案することを学ぶ	チームにどのように貢献できるかを考える。
9	チームビルディングの技術を身につけるためのアクティビティ②	・グループでニッポンの課題の解決策を考える	チームにどのように貢献できるかを考える。
10	チームでプロジェクトを企画する	・講義の中間おさらい ・ヒーローインタビュー ・チームでプロジェクトを企画する	チームにどのように貢献できるかを考える。
11	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介①	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
12	摂南大学 PBL プロジェクトの紹介②	本学で開講されている摂南大学 PBL プロジェクトの紹介	興味を持ったプロジェクトについて調べる。
13	工程管理を意識したチームビルディング	ビジネスゲームを題材にリソースとコスト、工程管理を意識したワークに取り組む	工程管理に関して調べる。
14	プロジェクトのプレゼンテーション	第10回目の課題の報告プレゼンテーション	プレゼンテーションの際に留意することを考える。
15	講義のまとめと振り返り	講義のおさらいと振り返りを行う	提出物などの出し忘れがないか確認する。

関連科目
・「ソーシャル・イノベーション副専攻科目過程」の科目
・キャリアデザインⅠ・Ⅱ、摂南大学PBLプロジェクト、ソーシャルイノベーション実務総論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	チームでの提出物 20%、チームへの貢献度とワーク後の振り返りシート 30%、最終レポート 50% で総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ワークやアクティビティを織り交ぜる授業となるので、主体性を持って講義に挑むこと。
担当者の	7号館3階 キャリア教育推進室(水野研究室)

研究室等	
備考	・参考とする書籍、文献は適宜提示する。

科目名	地誌学	科目名(英文)	Regional Geography
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中山 穂孝
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	本講義の目的は、地誌学の学習を通して、地理学的(空間的)な視点を駆使して、世界各地の諸問題や地理的現象を把握し、その特徴や問題点を的確に理解し、学校現場において、生徒に的確に伝える能力を養うことである。本講義では、世界各地の地誌について学習しながら、上記の能力を養っていく。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地誌学の特徴を理解し、地理学的(空間的)な視点を身に着ける。 ・世界各地の諸問題や人々の生活などの特徴を理解する。 ・世界各地の地理的事象とその特徴や構造について理解する。 ・中学校社会科・高等学校地理科の教員を目指す者が、中学校・高等学校で授業をするための技術・手法を理解する。
授業方法と留意点	授業は、パワーポイントで実施し、必要に応じて、映像資料や資料を配布する。
科目学習の効果(資格)	中学社会・高校地理歴史教員職員免許

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進め方	事後に講義内容を復習する
2	地誌学とは何か?	地誌学の概要とその特徴	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
3	アジア地誌(1)	東アジアの経済成長と中国の人口政策	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
4	アジア地誌(2)	東南アジアの農業と都市の成長	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
5	アジア地誌(3)	宗教的な対立、民族紛争と難民	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
6	アフリカ地誌(1)	人口増加と食糧・貧困問題	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
7	アフリカ地誌(2)	都市化と都市問題の発生	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
8	アフリカ地誌(3)	植民地支配と独立、人種差別レポート課題の説明	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
9	ヨーロッパ地誌(1)	ヨーロッパの統合と産業構造の変化	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
10	ヨーロッパ地誌(2)	移民・難民の増加と社会問題	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
11	ヨーロッパ地誌(3)	都市問題の発生と都市の再生	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
12	アメリカ地誌(1)	産業構造とその特徴	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
13	アメリカ地誌(2)	都市構造の変化と都市問題	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
14	アメリカ地誌(3)	多民族・多文化社会の形成と課題	前回の講義内容を確認しておく。事後に講義内容を復習する。
15	まとめ	講義のまとめとテストの説明	今までの講義全体を復習しておく。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	

参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>図説 世界の地域問題</td> <td>漆原和子・藤塚吉浩・松山洋・大西宏治編</td> <td>ナカニシヤ出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>世界地誌シリーズ3 EU</td> <td>加賀美雅弘編</td> <td>朝倉書店</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>世界地誌シリーズ4 アメリカ</td> <td>矢ヶ崎典隆編</td> <td>朝倉書店</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	図説 世界の地域問題	漆原和子・藤塚吉浩・松山洋・大西宏治編	ナカニシヤ出版	2	世界地誌シリーズ3 EU	加賀美雅弘編	朝倉書店	3	世界地誌シリーズ4 アメリカ	矢ヶ崎典隆編	朝倉書店
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	図説 世界の地域問題	漆原和子・藤塚吉浩・松山洋・大西宏治編	ナカニシヤ出版														
2	世界地誌シリーズ3 EU	加賀美雅弘編	朝倉書店														
3	世界地誌シリーズ4 アメリカ	矢ヶ崎典隆編	朝倉書店														

評価方法(基準)	期末テスト70%、レポート課題30%(8回目の授業で説明予定) 教職科目であるため、評価は厳しくなる。
学生へのメッセージ	大学で学ぶ地誌学は暗記科目ではありません。すべての地理的な事象には、プロセスや背景があります。これらのプロセスや背景について考えながら、講義を受けるようにしてください。
担当者の研究室等	7号館2階 (非常勤講師室)
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	地理学 I	科目名 (英文)	Geography I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	手代木 功基
ディプロマポリシー (DP)			

教養科目

授業概要・目的	自然地理学は地球環境問題や自然災害と深い関わりを持つとともに、私たちの日々の生活とも密接に関わっています。本授業では、身近な場所から辺境の地まで、さまざまな地域の自然環境を理解するための基礎を学びます。具体的には、1. プレート運動や気候といった地球規模のシステム、2. 日本や世界で観察される景観の形成要因やその形成過程、3. 自然災害や地球環境問題、といった内容を扱います。講義では各地の写真や映像などを数多く使って解説し、初学者にもイメージがつかみやすい内容にする予定です。授業を通して、自然現象を様々な時間・空間スケールに位置づけて理解する基礎を身につけ、それを将来様々な形で活かしていくことを期待します。
到達目標	日本・世界各地の自然環境の実態とそのシステムを学ぶことを通して自然環境の見方の基礎力を養い、日常で目にする自然景観の形成要因や災害の発生等について論理的に理解できるようになること
授業方法と留意点	プリントの配布および投影資料を利用した講義形式。理解を深めるため、映像資料やバーチャル地球儀等を利用します。また、受講人数によっては屋外での巡検も計画します。
科目学習の効果 (資格)	地震等自然災害に対する認識の強化

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の進め方、テキスト、評価方法等について説明	身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	2	日本の自然を学ぶ 1	プレートテクトニクスと日本列島の形成	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	3	日本の自然を学ぶ 2	地震のメカニズム	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	4	日本の自然を学ぶ 3	地震災害	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	5	日本の自然を学ぶ 4	火山と日本列島	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	6	日本の自然を学ぶ 5	気候環境	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	7	日本の自然を学ぶ 6	山地の隆起と侵食	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	8	日本の自然を学ぶ 7	河川と平野・海岸	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	9	日本の自然を学ぶ 8	植生	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	10	日本の自然を学ぶ 9	大阪の自然・関西の自然	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	11	世界の自然を知る 1	熱帯から極地	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	12	世界の自然を知る 2	砂漠や高山	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	13	世界の自然を知る 3	自然と人々の暮らしの関係性	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	14	地球環境問題	地球温暖化や砂漠化	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。
	15	自然災害と私達の生活	自然災害への対処について・授業全体のまとめ	授業で紹介した参考文献などを読み、理解を深める。身近な自然や環境問題等に関わるニュースをチェックする。通学途中などに地形や植物に目を向ける。

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業への取り組み（リアクションペーパーの内容、小レポート、受講態度等）（40%）、期末に実施する試験（60%）で評価します。なお試験は、暗記ではなく論理的な思考力を問う問題を出題します。			
学生への メッセージ	高校地理・高校地学を学んでいない人でも理解できるような内容を扱い、難しい部分はフォローアップしながら授業を進めていく予定です。			
担当者の 研究室等	7号館5階			
備考	事前・事後の学習は、全体で60時間を目安とします。 リアクションペーパーやレポート等の提出物に対してはコメントや質問回答といったフィードバックを行います。			

科目名	地理学Ⅱ	科目名(英文)	Geography II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柴田 陽一
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	窓の外に広がる風景、大学の立地する町並み、人々が抱くイメージなど。これらをどのように捉えるか／捉えてきたのが、本授業の主題である。つまり、本授業は地理学史の流れに沿いつつ、＜地理学的なものの方・考え方＞について幅広く解説するものである。この見方・考え方は、意識されていない場合も多いが、実はわたしたちの生活の様々なところに活用されている。この授業を通して、身近な問題を新たな視点から捉え直すきっかけを提供したい。
到達目標	＜地理学的なものの方・考え方＞について理解し、それを用いて身近な問題を捉え直すことができる。
授業方法と留意点	配付資料を用いて、講義形式で行う。毎回の授業の終わりに、課題を出す（一部は要提出）。課題に取り組むことで、しっかりと復習・予習をしてほしい。
科目学習の効果（資格）	＜地理学的なものの方・考え方＞の学習・理解を通じて、人とは違った視点から身近な問題を捉えられるようになる。また、中学社会・高等学校地理歴史の教員免許取得を目指す学生にとっては必修科目である。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	地理と地理学	授業の進め方、参考書の紹介など	課題による復習・予習
	2	地図とスケール1	地図の歴史と思想について	課題による復習・予習
	3	地図とスケール2	スケール設定の意味について	課題による復習・予習
	4	地誌の歴史と役割	地誌が各時代に果たした役割について	課題による復習・予習
	5	人間と環境の関係	環境論について	課題による復習・予習
	6	農業はどのように立地するか	農業立地論について	課題による復習・予習
	7	大都市と中小都市の関係	中心地理論について	課題による復習・予習
	8	知識や技術の広がり方・伝わり方	空間的拡散・空間的相互作用論について	課題による復習・予習
	9	空間の捉え方は人によってどう異なるのか	メンタルマップのうち、空間認知研究について	課題による復習・予習
	10	場所イメージはどのように作られるのか	メンタルマップのうち、場所イメージ研究について	課題による復習・予習
	11	場所への愛着	人文主義地理学について	課題による復習・予習
	12	景観と風景	景観論と風景論について	課題による復習・予習
	13	時間と空間からみた人間の行動	時間地理学について	課題による復習・予習
	14	「男性」／「女性」にとっての空間	ジェンダー地理学について	課題による復習・予習
	15	地理教育の役割	近代国家と地理教育の関係について	課題による復習・予習

関連科目 「自然地理学」「地誌学」「風土と地理」等

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	人文地理学への招待	竹中克行編	ミネルヴァ書房
	2	人文地理学：その主題と課題	杉浦章介ほか	慶應義塾大学出版会
	3	地理学概論	上野和彦ほか編	朝倉書店

評価方法（基準）	期末レポート60%、授業中課題40%。
学生へのメッセージ	復習・予習のため、課題にはしっかりと取り組んでほしい。また、授業中に指示する参考文献を読む時間も設けてほしい。これらを続けることで、充実した期末レポートの作成が可能となるだろう。
担当者の研究室等	7号館5階（柴田研究室）
備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。

科目名	哲学 I	科目名 (英文)	Philosophy I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	濱 良祐
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	<p>「哲学」と聞くとひどく難しい学問であると感じられるかもしれないし、ひとによっては役に立たない、自分には関係ない、と思うかもしれない。しかし、私たち人間は人生において誰もが必ず「私とは何か」、「他者とは何か」、「幸せとは何か」など、人間存在・人間関係に根本に関わる難問に出会うことになる。</p> <p>この授業は、そうした人生における難問に自ら向き合えるようになるための準備である。そのためにこの授業では西洋哲学の諸思想を通して人間存在や社会に関わる諸問題に取り組み、さらに現代という時代を生きる私たち自身のあり方について考察していく。</p>
到達目標	<p>(1) 哲学に関する基礎的な知識を習得すること。</p> <p>(2) 人間存在や社会の問題に対する哲学的な洞察力と、主体的な思考力を身につけること。</p> <p>(3) 自らの思考を適切に伝えるための論理的表現力を高めること。</p>
授業方法と留意点	<p>講義形式</p> <p>授業時に講義内容に関するレジュメを配布する。参考文献は必要に応じて授業中に適宜紹介する。</p> <p>受講者には、授業で紹介される哲学思想を単に学習するだけでなく、それらについて自らで思考し、批判的に吟味するように求めたい。</p> <p>前の回までの内容をふまえて講義することになるので、各授業後にしっかりと復習を行い、ノートや資料の整理をしておくこと。病気などやむをえない事情で欠席した場合には、その回の資料を入手し、目を通しておくこと。</p> <p>授業期間中に授業の理解度を試す小テスト、中間レポートを実施する。</p>
科目学習の効果 (資格)	現代社会の一員として主体的に生きるための、思考力と幅広い見識と教養を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	「知」の可能性——哲学の端緒 (1)	古代ギリシアの思想を通して「知」の可能性について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
3	「知」の探求——哲学の端緒 (2)	ソクラテスの思想を通して「知」の探求の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
4	近代科学の方法と哲学 (1)	西洋近代における自然観・人間観の変化と、それに基づく近代科学の発生などについて考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
5	近代科学の方法と哲学 (2)	近代科学の方法論とその限界を、哲学的視点から考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
6	近代的自我の確立——デカルト (1)	デカルトの思想を紹介し、近代的自我の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
7	合理主義の世界観——デカルト (2)	デカルトの思想から、哲学における「神」と「世界」の意義について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
8	経験主義の認識論 (1)	ロックの思想から、確実な「知識」と蓋然的な「信念」の違いについて考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
9	経験主義の認識論 (2)	ヒュームの認識論を取り上げ、人間はなぜ不確実なものを確実だと信じるのか、という問題について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
10	啓蒙と理性	啓蒙主義における人間の理性への確信と、その限界について	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
11	経験主義と合理主義の総合——カント (1)	カントによる認識論の「コペルニクス的転回」を紹介し、人間の認識の限界について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
12	理性の二律背反——カント (2)	カント哲学における自然と自由の二元論と、それに基づく人間観について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
13	「ことば」とは何か (1)	ソシュールの思想を通して、言語の創造的機能について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
14	「ことば」とは何か (2)	言語と認識の関係について考察する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。
15	総括と展望	これまでの学習内容を概観し、その成果を確認すると同時に残された課題についての展望を示唆する。	〈予習〉ノート・資料の読み直し。〈復習〉授業後のノート・資料の整理。

関連科目	哲学 II、社会学、経済倫理、社会と人権
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点(受講態度、小テスト)を40%、期末レポートを60%として、総合的に評価する。
学生への メッセージ	授業中の私語、携帯の使用などで授業を妨害した者には退席を命じ、欠席扱いとします。大学生にふさわしい態度で授業に臨んでください。
担当者の 研究室等	非常勤講師控室(授業日のみ入室)
備考	授業担当者メールアドレス： xhamaryo@edu.setsunan.ac.jp 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	哲学Ⅱ	科目名(英文)	Philosophy II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	池田 清
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	哲学という語の元にある「愛知」的探究の態度は、真理の原理だけでなく正義や善などの倫理的価値によって支えられていた。このような知的パラダイムは「倫理的パラダイム」と呼ぶことができるが、この講義を通じて倫理的パラダイムを理解しそのパラダイムに基づいて思考する思考力を身につける。
到達目標	哲学に関する基礎的知識を獲得することができる。
授業方法と留意点	教科書は使用せず、講義中心の授業となる。授業で取り扱うテーマに基づいて現代社会に生じている諸問題を実際に読み解く。テーマとなるのは、人間論としての哲学、倫理的パラダイム、近代啓蒙主義の回顧、リベラル・デモクラシーと科学的思考の諸問題、理想主義からニヒリズムへ、ポストモダンの生活世界、コスモスの世界像と幸福、教養教育と人間論などである。
科目学習の効果(資格)	哲学的・倫理的言語を学習し身につけることによって、日常生活を見る眼つまり世界観が変わる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講義の概略と見直し	オリエンテーション	—————
	2	人間論としての哲学について	人間のあり方の問題と哲学の可能性	シラバスの熟読
	3	倫理的パラダイムとは何であるのか	テクノロジーの専制と生きる目的の喪失、そして倫理の復権	前回のノートの見直し
	4	近代啓蒙主義の回顧(1)	カントと理想主義 啓蒙の理性	前回のノートの見直し
	5	近代啓蒙主義の回顧(2)	歴史と社会の哲学と自由主義 カントそしてヘーゲル	前回のノートの見直し
	6	理想主義からニヒリズムへ	ヘーゲル、マルクス、ニーチェ	前回のノートの見直し
	7	数学的世界像と科学の世界	理性の危機と科学の客観性の問題	前回のノートの見直し
	8	真理の共同体と科学的パラダイム	真理の客観性と時間性	前回のノートの見直し
	9	ポストモダンの生活世界—複製技術の世界に抗して	大量生産とオリジナルの喪失	前回のノートの見直し
	10	手仕事技術の復権と生活の確かさを求めて	道具連関と生活の確かさ	前回のノートの見直し
	11	実存から構造主義へ、そして歴史の終焉	人間存在の主体性あるいはその解体	前回のノートの見直し
	12	ポストモダンの到来と末人たちの最後の国	ポストモダンとは何か。	前回のノートの見直し
	13	コスモスの世界像と幸福追求のために	共同体の存在可能性を求めて。	前回のノートの見直し
	14	徳と異種混合の知について考えてみる	幸福を求めて。	前回のノートの見直し
	15	まとめ	何が問題であったのか。	これまでの授業ノートの見直し。

関連科目 思想系の科目。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	「レポート」(50%)、「定期試験」(50%)で評価する。
学生へのメッセージ	積極的に授業に参加して下さい。かなりの板書の量となるので、必ずノートを準備すること。ノートがないと試験問題は解答することができません。
担当者の研究室等	7号館2階(非常勤講師室)
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	日本国憲法	科目名(英文)	Constitutional Law
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大仲 淳介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	概要：日本国憲法の基本的な内容を理解できるように、授業テーマと関連する憲法上の問題をとりあげ、これと関わりのある基本事項、判例、学説を解説・検討します。目的：身近に生じる憲法上の問題を通して憲法の基本的な考え方を理解してもらうこと。
到達目標	憲法の基本的な知識を修得し、身近に生じる憲法上の問題を憲法の視点から考えるようになることを目指します。
授業方法と留意点	教科書と配布プリントを用いて講義形式で行います。小テストは授業中に、適宜、行います。なお小テストを実施した回に欠席した者のための再試験は行いませんので注意して下さい。

科目学習の効果(資格)	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。
-------------	--------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	憲法とは1	憲法の意味、憲法の最高法規性、違憲審査制などについて説明します。	事前に教科書11頁から20頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
2	憲法とは2	日本国憲法の基本原理、民主主義の原理、平和主義の原理(第9条)について説明します。	事前に教科書19頁、217から229頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
3	基本的人権の保障1	人権の歴史、人権の分類、人権の限界、人権の享有主体について説明します。	事前に教科書21頁から30頁を読んで下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
4	基本的人権の保障2	外国人にも日本国憲法が保障する人権の享有が認められ、認めえるとしてその人権は何かなどについて説明します。	事前に教科書31頁から40頁を読んで下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
5	幸福追求権と法の下での平等	幸福追求権の性格と範囲、新しい人権、「法の下での平等」の意味、平等違反の違憲審査基準について説明します。	事前に教科書49頁から70頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
6	信教の自由と政教分離の原則	信教の自由の内容と限界、国家と宗教の分離の限界などについて説明します。	事前に教科書71頁から82頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
7	表現の自由	表現の自由の保障の範囲と限界、表現の自由の優越的地位と二重の基準の理論について説明します。	事前に教科書83頁から94頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
8	検閲と事前抑制	表現活動を規制する方法、検閲とは何か、裁判所による表現行為の事前抑制は許されるかなどについて説明します。	事前に教科書95頁から104頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
9	経済的自由権	職業選択の自由とその規制などについて説明します。	事前に教科書105頁から114頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
10	社会権	生存権を中心に社会権について説明します。	事前に教科書115頁から134頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
11	刑罰と刑事手続	犯罪と刑罰、憲法と罪刑法定主義などについて説明します。	事前に教科書135頁から144頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
12	国会	国会の地位、国会の組織と活動、国会の権能などについて説明します。	事前に161頁から172頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
13	内閣	議院内閣制、内閣の組織と権能などについて説明します。	事前に教科書173頁から184頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
14	裁判所	司法権の定義、司法権の範囲、司法権の独立などについて説明します。	事前に教科書185頁から206頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
15	地方自治	地方自治の本旨、条例制定権、住民投票について説明します。	事前に教科書207頁から216頁を読んでください。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。

関連科目	法学入門
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめての憲法学(第3版)	中村睦男・岩本一郎・大島佳代子・木下和朗・齊藤正彰・佐々木雅寿・寺島壽一	三省堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(60%)、小テスト(40%)の割合で評価します。小テストは、適宜、行います。
----------	---

学生への	授業で生じた疑問は必ず質問して下さい。
------	---------------------

教養科目

メッセージ	
担当者の 研究室等	11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
備考	

科目名	日本の歴史	科目名(英文)	Japanese History
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	赤澤 春彦
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	歴史学は人々の営為を様々な角度から検証する学問です。その中でも「時間」と「空間」という視点は歴史学の大きな特徴といえるでしょう。政治、経済、宗教、生活、文化など様々な要素が、「時間」の流れの中で、互いに関係を持ちながらどう変化してゆくのか。ここに歴史学のおもしろさがあります。本講義では日本の歴史を「流れ」にそって理解することを目的とします。
到達目標	日本の歴史にかかる基本的な知識を習得し、政治、経済、宗教、文化など多角的な要素を複合的に叙述できる能力を養えます。
授業方法と留意点	板書により講義を進めますが、プリント・スライドも用います。
科目学習の効果(資格)	今後の講義や演習で一つの事象を様々な視角から考察、叙述できるようになります。また、中学社会・高等学校地理歴史の教員免許を取得する際の科目でもあります。

教養科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	講義の進め方、評価方法などについて説明します。日本史の時代区分について考えます。	復習
	2	古代国家の形成	ヤマト国家から律令国家形成までの歴史を学びます。	復習
	3	摂関政治と貴族社会	平安時代の政治と社会について学びます。	復習
	4	武士の登場と成長	中世以降の日本の歴史を考える上で鍵となる武士の登場、成長について学びます。	復習
	5	鎌倉幕府	鎌倉幕府とは何か。成立にかかる歴史と特質について学びます。	復習
	6	室町時代の政治と文化	室町時代の政治・文化の特質について学びます。	復習
	7	戦国時代と天下統一	戦国時代から織豊期までの動向と統一政権誕生の歴史的意義を学びます。	復習
	8	古代・中世の宗教	神祇・仏教・道教などを素材に宗教と政治・社会の関係について学びます。	復習
	9	幕藩体制の成立	江戸時代の国家や地域社会の枠組みについて学びます。	復習
	10	近世社会と民衆	江戸時代の民衆の生活や文化について学びます。	復習
	11	近代国家への道	幕末から明治政府樹立までの歴史を学びます。	復習
	12	近代の思想と文化	明治から昭和初期の文化や思想について学びます。	復習
	13	戦争と国家	日清戦争、日露戦争、第一次大戦、第二次大戦が与えた影響について考えます。	復習
	14	戦後から現代へ	敗戦と戦後の日本の歴史について学び、私たちの「今」について考えます。	復習
	15	まとめ	論述試験を行います。	今までの講義ノートをまとめておくこと。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	講義最終日に行う論述試験(持ち込み可)、講義中に課す小レポートなどをもとに総合的に評価します。詳しくは講義第1回目に説明します。																
学生へのメッセージ	年号や用語を暗記する必要はまったくありません。「これとあれは実はつながっていたんだ」とか「この布石があったからこういう事件が起きたんだ」といった「つながり」の面白さを発見してください。																
担当者の研究室等	7号館4階(赤澤研究室)																
備考	事前・事後学習は総時間60時間を目安とする。																

科目名	犯罪被害者の支援と法的救済	科目名(英文)	Legal Remedies for Victims of Crime
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な人間関係や医療過誤を通じて、何らかの犯罪の被害者となった場合、犯罪被害者はどのような対処をとることができるだろうか。 ・たとえば、医療機関における医療ミス、交友関係をめぐって生じるストーカーやデートDVの被害、近親者からの精神的・肉体的な虐待、学生をカモにする巧妙な儲け話から起因する詐欺被害(マルチ商法)、とりわけ男子学生が陥りやすい出会い系を通じた美人局被害、あるいは、家族が犯罪に遭うことによる経済的損失ないし被害など、事例を挙げればきりがない。 ・近年、わが国でも犯罪被害に遭った者を支援する制度が構築されつつある。しかし、わが国ではこうした支援ないし救済策が講じられてこなかった期間が長すぎたため、多くの国民にその内容が浸透していない。そのため、依然として被害者は泣き寝入りするか、何も打つ手をとらずに最悪の結果を招来することもある。 ・本講義では、自身や家族が犯罪被害者となってしまった場合、どのような救済策があるのかをわかりやすく解説し、被害を最小限度にとどめ、さらには犯罪被害者に対する理解を深めることを目的とする。 ・犯罪被害者を論ずる前に、講義の回数を用いて、まず「加害者」の法的責任、「犯罪者」刑事責任、「犯罪者」の処遇、刑罰の正当化根拠、厳罰化をめぐる諸問題など、犯罪被害者を講じる前提となる伝統的な刑事学の講義を行う。 ・法的知識は、時代を生き抜く上での一種の「転ばぬ先の杖」(教養)でもあるため、文系や理系を問わず、幅広い学生を履修対象とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「被害者」概念について説明できるようになる。 ・犯罪被害者の救済制度を挙げ、これを説明できるようになる。 ・犯罪被害者の支援制度について理解する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として講義形式で行うが、教員からの一方通行的な講義にならぬよう、学生と教員双方の理解を深めるため、質疑応答も随時行いたい。
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> ・万が一に犯罪の被害に遭ったとしても、泣き寝入りすることなく、正当な手法による被害回復や救済手段を身につけることができる。 ・公務員や法律事務所などへの就職に役立ちうる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 「加害者」と「犯罪者」 「被害者」と「犯罪被害者」	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方と文献紹介 ・「加害者」の法的責任 ・「加害者」と「犯罪者」 ・「被害者」の意義 ・「犯罪被害者」の意義 	事前: 「犯罪被害者」について調べてみよう 事後: 重要事項をまとめる
2	「犯罪者」をめぐる諸問題	<ul style="list-style-type: none"> ・「犯罪者」の刑事責任 ・刑罰の正当化根拠 ・厳罰化をめぐる諸問題 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
3	犯罪被害の告訴・告発と証拠収集 犯罪捜査への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・告訴と告発の方法 ・証拠保全 ・犯罪被害者に対するメディアスクラム ・報道による被害(テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、ネット) ・被害者連絡制度 ・被害者側からの問い合わせ ・被害者からの事情聴取 ・警察と検察によるカウンセリング体制 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
4	加害者との示談	<ul style="list-style-type: none"> ・示談の意義 ・示談が与える影響 ・示談慰謝料の算定 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
5	加害者の不起訴と検察審査会	<ul style="list-style-type: none"> ・検察審査会 ・検察審査員 ・審査申立手続 ・検察審査会と被害者 ・起訴議決制度 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
6	刑事公判と被害者	<ul style="list-style-type: none"> ・被害者による裁判傍聴 ・被害者による記録の閲覧と謄写 ・被害者の意見陳述 ・被害者等特定事項の非公開 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
7	犯罪被害者参加制度	<ul style="list-style-type: none"> ・対象犯罪 ・被害者に認められる行為 ・参加の申出と参加時期 ・公判前整理手続への参加 ・被害者の証人尋問 ・被告人質問と意見陳述 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる
8	遺族による法廷への遺影の持ち込みをめぐる諸問題	<ul style="list-style-type: none"> ・遺影の持ち込みと公正なる刑事裁判 	事前: 前回までの復習 事後: 重要事項をまとめる
9	損害賠償命令制度	<ul style="list-style-type: none"> ・制度の趣旨 ・対象犯罪 ・遺族による申立 ・請求対象とその範囲 ・管轄裁判所と申立期間 	事前: 「犯罪被害者への経済支援」を調べよう 事後: 重要事項をまとめる
10	被害者通知制度 犯罪被害者等給付金制度	<ul style="list-style-type: none"> ・加害者の施設内処遇と社会内処遇 ・加害者の仮釈放 ・犯罪被害者への経済支援制度 ・受給資格 ・支給要件と支給額 ・不服申立 	事前: 前回の復習 事後: 重要事項をまとめる

	11	その他の経済的支援制度	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪被害者救護基金 ・交通事故犯罪 ・犯罪による精神被害 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	12	少年事件における被害者保護	<ul style="list-style-type: none"> ・少年法と犯罪被害者救済 ・少年事件における記録閲覧 ・少年審判の傍聴 ・少年事件での意見陳述 ・少年とその親に対する損害賠償 ・少年法と犯罪被害者救済 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	13	DV被害	<ul style="list-style-type: none"> ・DVとは何か ・配偶者による犯罪 ・DV被害者の保護と支援 ・保護命令 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	14	ストーカー被害	<ul style="list-style-type: none"> ・いわゆる「ストーカー規制法」の概要 ・ストーカーへの行政処分 ・ストーカー犯罪の類型 ・ストーカーへの対応策 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
	15	高齢者の虐待	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待の原因論 	事前：前回の復習 事後：重要事項をまとめる																
関連科目	各学部開講の教養科目・・・法学入門、現代社会と法、日本国憲法 法学部開講の専門科目・・・刑事法概論、刑法総論、刑法各論、経済刑法、刑事訴訟法、刑事政策、少年法、民法、民事訴訟法ほか																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>開講時に指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開講時に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	開講時に指示する。																			
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>開講時に指示する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	開講時に指示する。			2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	開講時に指示する。																			
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・期末試験の成績による。 																			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・事件報道やその後の話、あるいは社会の問題に関心のある学生が受講することをおすすめします。知って得をすることがあっても、損はさせない内容です。 																			
担当者の 研究室等	11号館10階 小野准教授室																			
備考	事前学習として、内容に記載した事項につき、毎回1時間以上の予習に取り組むこと。 事後学習として、講義内容についてノートにまとめるなど、毎回2時間以上の復習に取り組むこと。																			

科目名	ビジネスマナー	科目名(英文)	Business Manners
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性和それを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果(資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションーあいさつの重要性(理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修: ビジネスマナーとは何かを考える。 ・事後学修: ビジネスマナーの意義とは何か、400字でまとめる。
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の8つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修: 仕事の基本の8つの意識について調べる。 ・事後学修: 仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
3	目標設定とPDCAサイクル	・目標設定(MBO) ・PDCAとは ・チームと個人の役割	・事前学修: PDCAについて調べる。 ・事後学修: あなたの日常生活におけるMBOとPDCAを考え、まとめる(400字以上)。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT方式-	・事前学修: あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修: あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TP0をもとに-	・事前学修: 敬語プリント①をする。 ・事後学修: ケーススタディプリントをする。
6	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護(Pマーク) ・コンプライアンス	・事前学修: コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修: 個人情報保護法についてレポートを作成する(400字以上)。
7	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修: 報告・連絡・相談の重要性について調べる。 ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
8	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2Hから6W3Hへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修: 電話応対プリントをする。 ・事後学修: ロールプレイングを繰り返す。
9	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修: 来客応対プリント①をする。 ・事後学修: 来客対応プリント②をする。
10	設営の基本	・YTT方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修: 同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修: 設営事例をまとめる。
11	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修: ビジネス文書①をする。 ・事後学修: ビジネス文書②をする。
12	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修: ビジネス文書③をする。 ・事後学修: ビジネス文書④をする。
13	ビジネス通信の基本	・通信手段(電子メール、ファックス等)の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修: 郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修: メール文書を作成する。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修: 慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修: ビジネス文書(社外社内)、郵便の知識、慶弔のマナーのポイントをまとめる。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修: ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修: 全体をまとめる。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイ等のワーク (20%)、複数回のレポート (40%)、期末試験 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	武道論	科目名(英文)	Budo-ron (Theory of Japanese Martial Arts)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	横山 喬之
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	「武道とは何か」、「なぜ今武道なのか」等、現代における武道の特性などを概説し、現状と課題について検討していく。 また、武道の特性が理解でき、日本人の行動様式やものの考え方についても知ることができることを一般的な目標とする。 学科の学習・教育目標との対応: 工学部[A], 理工学部 [I1]																																																																		
到達目標	日本伝統文化である武道(意味・種類)についての理解を深めることができる。 日本人の精神を「武士道」より学び、道徳についての理解を深めることができる。																																																																		
授業方法と留意点	講義形式で授業を進める。																																																																		
科目学習の効果(資格)	武道の特性を理解することができる。また、伝統的な行動様式を学ぶ中から現代にない思考力が育まれることを期待する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業内容の説明と武道について</td> <td>武道について調べてくる</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>武道とは何か</td> <td>武道の意味や言語について概説する</td> <td>武道にはどのような種目があるのか調べる</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>武道と武術について</td> <td>武道と武術の違いについて</td> <td>武芸十八般について調べてくる</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>武道(柔道1)</td> <td>柔道の創始と嘉納治五郎について</td> <td>嘉納治五郎について調べ内容をまとめる</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>武道(柔道2)</td> <td>柔道の普及発展、形について</td> <td>柔道の普及発展、形について調べ内容をまとめる</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>武道(剣道1)</td> <td>剣道の起源について</td> <td>剣道の起源について調べ内容をまとめる</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>武道(剣道2)</td> <td>流派の成立について</td> <td>流派の成立について調べ内容をまとめる</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>武道(弓道・相撲)</td> <td>弓道・相撲について</td> <td>弓道・相撲について調べ内容をまとめる</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>武道(空手・合気道)</td> <td>空手・合気道について</td> <td>空手・合気道について調べ内容をまとめる</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>武士道から見る日本人の道徳心①</td> <td>武士道とは何か</td> <td>著者・著作にいたる背景を調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>武士道から見る日本人の道徳心②</td> <td>武士道の道徳心</td> <td>武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>武道と修行</td> <td>武道における修行について</td> <td>千日回峰行とは何かを調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>武道の国際化</td> <td>武道の国際化について</td> <td>武道がどのように世界に普及したか調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>武道の身体技法</td> <td>武道特有の身体技法について</td> <td>武道の身体技法とは何か調べまとめる</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>武道論総括</td> <td>1-4回まで行った授業の内容に関してまとめを行う</td> <td>これまでの授業の復習</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業内容の説明と武道について	武道について調べてくる	2	武道とは何か	武道の意味や言語について概説する	武道にはどのような種目があるのか調べる	3	武道と武術について	武道と武術の違いについて	武芸十八般について調べてくる	4	武道(柔道1)	柔道の創始と嘉納治五郎について	嘉納治五郎について調べ内容をまとめる	5	武道(柔道2)	柔道の普及発展、形について	柔道の普及発展、形について調べ内容をまとめる	6	武道(剣道1)	剣道の起源について	剣道の起源について調べ内容をまとめる	7	武道(剣道2)	流派の成立について	流派の成立について調べ内容をまとめる	8	武道(弓道・相撲)	弓道・相撲について	弓道・相撲について調べ内容をまとめる	9	武道(空手・合気道)	空手・合気道について	空手・合気道について調べ内容をまとめる	10	武士道から見る日本人の道徳心①	武士道とは何か	著者・著作にいたる背景を調べまとめる	11	武士道から見る日本人の道徳心②	武士道の道徳心	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる	12	武道と修行	武道における修行について	千日回峰行とは何かを調べまとめる	13	武道の国際化	武道の国際化について	武道がどのように世界に普及したか調べまとめる	14	武道の身体技法	武道特有の身体技法について	武道の身体技法とは何か調べまとめる	15	武道論総括	1-4回まで行った授業の内容に関してまとめを行う	これまでの授業の復習
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業内容の説明と武道について	武道について調べてくる																																																																
2	武道とは何か	武道の意味や言語について概説する	武道にはどのような種目があるのか調べる																																																																
3	武道と武術について	武道と武術の違いについて	武芸十八般について調べてくる																																																																
4	武道(柔道1)	柔道の創始と嘉納治五郎について	嘉納治五郎について調べ内容をまとめる																																																																
5	武道(柔道2)	柔道の普及発展、形について	柔道の普及発展、形について調べ内容をまとめる																																																																
6	武道(剣道1)	剣道の起源について	剣道の起源について調べ内容をまとめる																																																																
7	武道(剣道2)	流派の成立について	流派の成立について調べ内容をまとめる																																																																
8	武道(弓道・相撲)	弓道・相撲について	弓道・相撲について調べ内容をまとめる																																																																
9	武道(空手・合気道)	空手・合気道について	空手・合気道について調べ内容をまとめる																																																																
10	武士道から見る日本人の道徳心①	武士道とは何か	著者・著作にいたる背景を調べまとめる																																																																
11	武士道から見る日本人の道徳心②	武士道の道徳心	武士はどのような道徳を持ち生活していたか調べまとめる																																																																
12	武道と修行	武道における修行について	千日回峰行とは何かを調べまとめる																																																																
13	武道の国際化	武道の国際化について	武道がどのように世界に普及したか調べまとめる																																																																
14	武道の身体技法	武道特有の身体技法について	武道の身体技法とは何か調べまとめる																																																																
15	武道論総括	1-4回まで行った授業の内容に関してまとめを行う	これまでの授業の復習																																																																
関連科目	スポーツ科学 I・II 生涯スポーツ実習 健康論 保健論																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>武士道</td> <td>新渡戸 稲造</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>今、なぜ武道か</td> <td>中村 民雄</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	武士道	新渡戸 稲造		2	今、なぜ武道か	中村 民雄		3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	武士道	新渡戸 稲造																																																																	
2	今、なぜ武道か	中村 民雄																																																																	
3																																																																			
評価方法(基準)	出席率80%以上のものを評価資格者とする。遅刻は2回で1回の欠席と同等とみなす。(遅刻は授業開始から30分以内に入室したことをいう)提出課題、小テスト、総括を総合的に評価し、単位を認定する。(ただし、上記の出席率を満たした者のみを評価対象者とする。)																																																																		
学生へのメッセージ	質問等がある場合には、横山講師室に来てください。																																																																		
担当者の研究室等	総合体育館1F 横山講師室																																																																		
備考																																																																			

科目名	プレゼンテーション論	科目名(英文)	Presentation
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	現代社会における企業等のビジネス組織で用いられているプレゼンテーションに関する知識や技法についての基礎的理論を体系的に学習する。また、基本的コミュニケーションの在り方からスピーチの構成と実践に取り組み、次いでプレゼンテーションでの実践へと段階的に学習し、体得することを目的とする。
到達目標	1) 自己紹介等、自分のことや興味・関心の高いものを堂々と述べるようになる。 2) 相手を尊重したコミュニケーションの必要性を理解できるようになる。 3) 自分の伝えたいことを明確にし、それを伝えるための初歩的スキルを身に付けることができる。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。 個人のプレゼンテーションを繰り返すので、学んだことを実践に移す努力が必要である。そのためにプレゼンしている姿をカメラ等で撮影し、それを基に自分自身で改善していくことが望まれる。
科目学習の効果(資格)	コミュニケーションに対する理解が深まり、自主性を養うことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・プレゼンテーションの定義	・事前学修: プレゼンテーションの意味を考える。 ・事後学修: 初歩的プレゼンテーションについてレポートを作成する。
2	自己紹介プレゼンテーション①	・漢字一文字で自分を表現する。	・事前学修: 漢字一文字表現を練習する。 ・事後学修: 漢字一文字表現を練習し、自己紹介プレゼンの構造を考える。
3	プレゼンテーションとコミュニケーション	・プレゼンはコミュニケーションの一部であること、それ以前にプレゼンターとしての人間の要素を高めることの必要性を学ぶ。	・事前学修: 漢字一文字表現を練習し、自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。 ・事後学修: コミュニケーション思考についてレポートを作成する。
4	プレゼンテーションの基本	・基本的スキルの提示、ならびにそれを高める努力の在り方を学ぶ。	・事前学修: プレゼンテーションの基本は何かを考える。 ・事後学修: 自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。
5	自己紹介プレゼンテーション②	・1分、3分という時間を使い切るプレゼンテーションを練習する。	・事前学修: 初歩的プレゼンテーションレポートを振り返る。 ・事後学修: 自己紹介プレゼンの構造を考え、練習する。
6	プレゼンテーションの評価	・プレゼンテーションは評価されるものであることを理解し、その観点をアイデア会議で抽出する。	・事前学修: 自己紹介プレゼンを修正する。 ・事後学修: 評価の意味を考え、自己紹介プレゼンを評価する。
7	プレゼンテーションの構成	・プレゼンテーションの論理的組み立て方と校正方法を学ぶ。	・事前学修: 評価から修正した自己紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修: 自己紹介プレゼンをさらに評価し、修正したものを練習する。
8	評価表作成①	・グループワークの中で、アイデア会議で抽出したことを基に、評価表を作成する。	・事前学修: 修正した自己紹介プレゼンをさらに練習する。 ・事後学修: グループ活動としての評価表作成を行う。
9	評価表作成②	・グループ活動で作成した評価表を基に、グループ内で自己紹介のプレゼンテーションを実際に評価し、調整し、完成する。	・事前学修: 評価表作成を行う。 ・事後学修: グループ内で評価表に基づいた評価を行い、完成させる。
10	評価表作成③	・各グループで作成した評価表を発表し、本年度のプレゼン評価表を全体で完成する。 ・「良かった点・改善点」であるフィードバックの意味を理解する。	・事前学修: 評価表を完成させる。 ・事後学修: フィードバックの必要性に関してレポートを作成する。
11	紹介プレゼンテーション①	・紹介したいモノを選択し、各自で紹介プレゼンテーションの作成をする。	・事前学修: 紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修: 紹介プレゼンを練習する。
12	紹介プレゼンテーション②	・紹介プレゼンテーションを評価表を基に完成させる。	・事前学修: 紹介プレゼンを練習する。 ・事後学修: 作成した評価表が機能するか、紹介プレゼンで確かめる。
13	紹介プレゼンテーション③	・グループ内発表、全体発表を繰り返し、評価表に記入する。 ・個人プレゼンのテーマを決め、実際に練習する。	・事前学修: 紹介プレゼンを完成させる。 ・事後学修: 個人プレゼンを完成させる。
14	フィードアフォード	・「良かった点・改善すべき点」のフィードバックを受け、フィードフォワードとする意味を理解する。	・事前学修: 個人プレゼンを完成させる。 ・事後学修: 個人プレゼンに関して改善レポートを作成する。
15	まとめ	・まとめワーク。 ・個人プレゼン発表。	

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

教養科目

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プレゼンテーション ZEN	ガー・レイノルズ	阪急コミュニケーションズ
	2	TED トーク 世界最高のプレゼン術	ジェレミー・ドノバン	新潮社
	3			
評価方法 (基準)	プレゼンテーション (50%)、レポート (50%) で評価し、総点の 60% で合格とする。			
学生への メッセージ	人前で話すこと、意見を述べるのが得意な人は決して多くはありません。しかしながら、社会人ともなればコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が問われます。不得意だという意識を変え、自分なりに取り組む方法を覚え、練習を重ねていくことによって、以前とは異なった自分自身を発見できるでしょう。			
担当者の 研究室等	7号館 5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回 2 時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。			

科目名	プロポーザル・デザイン	科目名(英文)	Design and Proposal
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	北村 浩
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	サービスデザインの概観を学習する。新しい商品・サービスを企画段階では、提供者(企業)、利用者(消費者)の発信する情報をいかに融合させて価値を示していくのが課題である。本授業は、Webサービスの普及において、企業・消費者等の叡智を融合する『デザイン思考(Design Thinking)』の手法により、多様な視点で共創型の提案をどのように進めるのかを学ぶ。デザイン思考は、学部・専攻の枠を超えた汎用的な課題解決プロセスを提供し、多くの産官学で実践されている米国発の方法論で、新サービスの発想を形にする手段として、市場から注目を集めている。
到達目標	インターネットやソーシャルメディアの利活用を図り、新サービスを提供する業界・企業等の事例研究、ミニ提案活動の体験をとおり、提案を支援するリテラシーとコミュニケーション力を育成する。 1. サービス思考 どのようなサービスを提案し、いかにつくるのかを思考する。 2. 共創(コラボレーション) 異分野や立場の異なる人達と思考ベクトルを融合させ、新しい価値の創出を狙う。 3. サービス提案 共創のアウトプット(結果)を整理し、アウトカム(成果)としてまとめて、プレゼン等で発信する。 プロポーザル・デザインに係るテーマとして、①e-Sales 商材開拓、②e-Promotion SNS 利活用広報、③e-Local 地域活性化支援 の簡易な課題を指定する。(これらの事業に係る企業やNPO法人からのゲスト講演の受講機会あり。)
授業方法と留意点	レジュメを中心にテキストで基礎的なテーマを解説する講義を中心に、特定テーマについて、グループワーク(7~8名/グループ)を複数行う。デザイン思考は、新サービスの発想を形にするコミュニケーション支援の方法論で、異なる価値観を有する人達との間で、グループワークをとおして成果を導き出す狙いがある。異分野交流を期待する人に向けた内容。
科目学習の効果(資格)	・新聞やWebが提供するWebデザイン関連テーマの記事の骨格を理解することができる。 ・同僚・先輩学生と意見交換を図るための基礎知識や素養を身につけることができる。 ・異分野者とのグループワークによる交流・親交の機会に接する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	・授業ガイダンス ・『デザイン思考(Design Thinking)』とは何か	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Webニュース)の予習・復習
2	サービスのデザイン科学	・サービスをデザインする ・Webサービスと人間系サービス ・人間中心のデザイン(Human-Centered Design)	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Webニュース)の予習・復習
3	ケーススタディ 1	・サービスにおける人間系要素の考慮 ・メンタルマトリックス ・グループワーク [ミニ課題 1]	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Webニュース)の予習・復習
4	サービスの市場	・『市場(Market)』とは何か ・Webサービスの特質 ・市場の生態系	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Webニュース)の予習・復習
5	『デザイン思考(Design Thinking)』の概観	・『デザイン思考(Design Thinking)』の骨子 ・ワークショップ適用事例 効果と考慮点	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Webニュース)の予習・復習
6	ケーススタディ 2	・発散思考と収束思考の両立 ・ユーザーエクスペリエンスデザイン(User Experience Design) ・グループワーク [ミニ課題 2]	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Webニュース)の予習・復習
7	『デザイン思考(Design Thinking)』の手順	・デザイン思考の標準ステップ ・発見(Discover) / 定義(Define) / 発想(Ideate) / 実証(Prototype)	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Webニュース)の予習・復習
8	『デザイン思考(Design Thinking)』の視点	・サービス提供者(企業)と利用者(消費者)の関係性マネジメント ・RAD(Rapid Application Development)	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Webニュース)の予習・復習
9	ケーススタディ 3	・プロトタイプング ・人間系の考慮 顧客、取引先、CMO(chief marketing officer)、利益団体(Interest Group) ・グループワーク [ミニ課題 3]	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Webニュース)の予習・復習
10	『デザイン思考(Design Thinking)』と提案(Proposal)活動	・提案(Proposal)活動の骨子 ・ビジネス活動事例 効果と考慮点	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Webニュース)の予習・復習
11	ケーススタディ 4-1	・ビジネスデザイン思考 ・ケーススタディ・ガイダンス ・グループワーク [課題 4]	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Webニュース)の予習・復習
12	ケーススタディ 4-2	・グループワーク [課題 4]	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Webニュース)の予習・復習
13	ケーススタディ 5-1	・オープンデザイン ・グループワーク [課題 5]	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Webニュース)の予習・復習
14	ケーススタディ 5-2	・グループワーク [課題 5] ・ゲスト講演の聴講	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Webニュース)の予習・復習
15	まとめ	・ゲスト講演の聴講 総括	教科書、適宜指定する参考書、記事(新聞、Webニュース)の予習・復習

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	オープンデザイン ―参加と共創から生まれる「つくりかたの未来」	Bas Van Abel	オライリージャパン

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	デザイン思考が世界を変える	ティム・ブラウン	早川書房
	2	IBMの思考とデザイン	山崎 和彦	丸善出版
	3	Fab ーパーソナルコンピュータからパーソナルファ アプリケーションへ	Neil Gershenfeld	オライリージャパン
評価方法 (基準)	平常点 (25%)、課題・レポートの提出 (15%)、定期試験 (60%) による総合評価を行う。平常点は、小テスト (不定期)、グループワークでのディスカッション、積極的・建設的な発言等の授業への参画内容で評価する。私語、携帯機器の利用、遅刻等の進捗を妨げる者、授業に無関係な行動を行う者については退室指示等で厳しく対処し、かつ成績評価に反映するので、くれぐれも注意すること。			
学生への メッセージ	新サービスの発想を形にする手段として、市場から注目を集めている『デザイン思考 (Design Thinking)』の手法は、多様な視点で共創型の提案をどのように進めるのか、新サービスの発想を形にするコミュニケーション支援の方法論です。異なる価値観を有する人達との間で、グループワークをとおして成果を導き出すアプローチに慣れ親しんでください。			
担当者の 研究室等	11号館7階 (北村教授室)			
備考	全座席指定での着席をお願いします。10号館設備 (グループワークスペース、情報処理室等) を利用する場合あり。#11~#15 の授業は、梅田キャンパスでグループワークを実施します。寝屋川からの移動時間を考え、これらの回は、4 時限ではなく 5 時限での授業です。その際、企業やNPO 法人によるゲスト講演の聴講機会を設けます。(初回授業で、学生の皆さんの梅田 5 時限開催を再周知します。)			

科目名	法学入門	科目名(英文)	Introduction to Jurisprudence
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大仲 淳介
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎		

授業概要・目的	授業概要：私たちの日常生活は多くの法律と関わります。この講義では、法学の基礎から始め、身近な具体的事例をとりあげ、民法、商法、刑事法、民事訴訟法などの基礎を解説します。目的：日常生活から生じる法律問題を通して、法律学の基礎的な知識を修得してもらうこと。
到達目標	日常生活において必要、有益な法律の知識を得て、身近な法律問題を法的な立場から考えるようになることを目指します。
授業方法と留意点	教科書と配布プリントを用いて講義形式で行います。なお小テストは授業中に、適宜、行います。また小テストを行った回の授業を欠席した者のための再試験は行いませんので注意して下さい。

科目学習の効果(資格)	各種公的資格試験の法学科目の基礎知識の取得になると思います。
-------------	--------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	法学の基礎 1	法とは何か。法の種類、法の優劣関係について説明します。	事前に教科書 236 頁から 240 頁と 243 頁から 244 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
2	法学の基礎 2	法律の条文の構造、法律の解釈について説明します。	事前に教科書 241 頁から 242 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
3	日常生活と契約 1	民法の特徴、契約の成立について説明します。	事前に教科書 1 頁から 8 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
4	日常生活と契約 2	意思表示と契約の主体について説明します。	事前に教科書 8 頁から 18 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
5	日常生活と契約 3	契約自由原則、契約の種類について説明します。	事前に教科書 18 頁から 24 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
6	日常生活と契約 4	不動産取引と民法について説明します。	教科書 24 頁から 30 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
7	日常生活とアクシデント	交通事故、欠陥商品による被害、医療事故について説明します。	事前に教科書 42 頁から 60 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
8	家族関係 1	結婚、離婚と民法について説明します。	事前に教科書 105 頁から 129 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
9	家族関係 2	親子、扶養と民法について説明します。	事前に教科書 129 頁から 145 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いてください。
10	家族関係 3	相続と民法について説明します。	事前に教科書 145 頁から 153 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
11	企業と法 1	商法・会社法を手がかりに企業とはどのようなものかについて説明します。	事前に教科書 154 頁から 166 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
12	企業と法 2	企業の所有と経営の分離と株式会社について説明します。	事前に教科書 167 頁から 202 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
13	紛争の解決 1	日常生活で生じる紛争と裁判制度について説明します。	事前に教科書 203 頁から 214 頁、245 頁から 246 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
14	紛争の解決 2	裁判のしくみ、裁判以外の紛争の解決(和解、調停、仲裁)について説明します。	事前に教科書 214 頁から 235 頁を読んでおいて下さい。事後においては、配布プリントの問題を解いて下さい。
15	まとめ	授業全体のまとめ	第 1 回から第 14 回までの配布プリントの問題を確認して下さい。

関連科目	日本国憲法
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	法の世界 (第 6 版)	池田真朗・犬伏由子・野川忍・大塚英明・長谷部由紀子	有斐閣アルマ
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(60%)と小テスト(40%)の割合で評価します。小テストは、適宜、授業中に行います。
----------	---

学生へのメッセージ	授業中に生じた疑問は必ず質問して下さい。
-----------	----------------------

担当者の研究室等	11 号館 5 階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)
----------	-----------------------------

教養科目

科目名	マーケティングと歴史	科目名(英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

教養科目

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式を基本としますが、実態分析にも力を入れます。
科目学習の効果(資格)	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
6	マーケティングのSTPアプローチ	市場細分化について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
10	越後屋の仕入機構(1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
11	越後屋の仕入機構(2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。
15	まとめ	全体のまとめをします。	文献や新聞で、関連する内容を読みましよう。

関連科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	大規模呉服商の流通革新と進化—三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷—	武居 奈緒子	千倉書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動	武居 奈緒子	晃洋書房
3			

評価方法(基準)	期末テストの成績 70%、授業内課題 30%
学生へのメッセージ	授業で提示される問題・課題に真摯に取り組みましよう。
担当者の研究室等	11号館8階 武居教授室
備考	

科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名(英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：工学部 [A], 理工学部 [II]
到達目標	自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようにする。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよいと考える。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。警察の防犯実務者や、活躍する防犯ボランティア団体の世話役の方をお招きしたインタビュー講義も交えていく。
科目学習の効果(資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守れるようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか?	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか?	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
3	犯罪はなぜ起こるのか? どうやって減らすのか?	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか? どのように防犯対策を進めているのか?	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
5	街頭犯罪—ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最新の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
7	性犯罪—街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
9	ストーカー、DV(配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まずさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
10	詐欺—高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。
11	サイバー犯罪—子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地域の防犯状況を見てみる。

	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。																
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。																
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。																
	15	警察官の仕事の実際	犯罪が起きれば捜査し検挙する。犯罪が起きないように市民や企業に防犯をうながす。それを職業とする警察官の仕事の実際を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。																
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3						
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 60%、講義毎回の確認ペーパー30%、受講態度（投げかける質問に対する発言など）10%で総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できることからよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえるとと思う。																			
担当者の 研究室等	11号館9階 中沼研究室																			
備考																				

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名 (英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥野 竜平
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	これから就職活動を始める学生(大学3年)を対象に、社会人として必要とされる規律やマナー、製造業など企業で働く上での基礎知識、課題を発見して解決する方法などを習得することを目的とする。履修後には、社会人・企業人としての役割および責任、仕事への情熱、創造的態度、自己の能力向上意欲が喚起されることを期待する。
到達目標	(1)社会人としてのマナーを身につける。(2)仕事の基本に関する知識を修得する。(3)環境問題/意識についての体験をする。(4)企業における品質問題を体験する。(5)原価管理の基礎知識を修得する。(6)PDCAサイクルによる課題解決を体験する。
授業方法と留意点	パナソニック(株)より講師を招き、社会人・企業人としての基礎である知識と心がまえについて、パナソニック(株)の新入社員研修の方式に従い、講義に加えて具体事例演習を通じて体得させる。摂大教員も教室に常駐し、授業の補助と成績評価を分担する。授業は挨拶に始まり、挨拶で終わるので遅刻は厳禁です。なお、2~6回目までは120分授業とする。
科目学習の効果(資格)	社会が学生に何を求めているのかを体得し、職業意識を高め、自発的に能力向上を行えるようになる。就職後ただちに、社会人・企業人としての適切な行動が取れるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	開講にあたり 4月6日(木)	インターンシップ研修の目的・ねらい等の概要を説明する	----
2	プレゼンテーションの方法 4月13日(木)	プレゼンテーションの基礎知識を習得する	----
3	企業・製造業・仕事の基本とは① 4月20日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本①の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
4	企業・製造業・仕事の基本とは② 4月27日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	----
5	企業・製造業・仕事の基本とは③ 5月11日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本②~③の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
6	企業・製造業・仕事の基本とは④ 5月18日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	----
7	企業・製造業・仕事の基本とは⑤ 5月25日(木)	社会人としてのマナー、仕事に取り組む基本姿勢の習得及び社会人としての基礎知識を習得する	企業・製造業・仕事の基本④~⑤の講義終了後、レポートを提出のこと(書式は別途)
8	品質教育① 6月1日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する	----
9	品質教育② 6月8日(木)	企業活動の命運をにぎる品質問題について、品質管理の基礎からQC7つ道具の活用・具体実習等により、品質の重要性を体得する	品質教育①~②の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
10	原価・コスト教育① 6月15日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	----
11	原価・コスト教育② 6月22日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	----
12	原価・コスト教育③ 6月29日(木)	企業活動の根幹を成す原価についての基礎概念と原価管理の基礎知識を習得する	原価・コスト教育①~③の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途)
13	課題解決教育① 7月6日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	----
14	課題解決教育② 7月13日(木)	PDCAサイクルを回すことの重要性の習得により、課題形成力・問題解決力を強化する	課題解決教育①~②の講義終了後、レポートを提出すること(書式は別途) また、14回目までの講義を総括して、最終回での質問事項を考えておくこと
15	全体討議・質疑応答 7月20日(木)	14回の講義を総括しての討議・質疑応答を実施する	最終報告として受講レポートを提出する。

関連科目 『ものづくりインターンシップ実践』を履修する学生は、必ずこの科目を履修すること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 課題レポート(6回)と受講レポート50%、授業姿勢(積極性)20%、全体討議(プレゼンテーション)10%、期末試験20%とした総合評価を

(基準)	行う。
学生へのメッセージ	日本を代表する企業であるパナソニック（株）と共同で実施する研修を受講して、社会と企業は学生に何を求めているのかを知り、職業人としての基礎知識を身につけ、社会人になるための意識転換をしましょう。この科目を履修する学生は、この科目と「ものづくりインターンシップ実践」を同時に受講することが前提です。
担当者の研究室等	1号館4階 奥野教授室
備考	毎回の講義内容を振り返りのための学習毎回1時間程度。 レポート各回3時間程度、プレゼン準備と期末試験のための学習20時間程度。全体討議におけるプレゼンテーション資料作成のため、2回 実習前指導を実施する（7/6(木)、7/13(木)6限目）。 パナソニック講師：佐藤哲志、山下秀行、斎藤遵、高岡清

科目名	ものづくりインターンシップ基礎	科目名 (英文)	Internship for Manufacturing Basics
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	諏訪 晴彦
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	本科目は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」で、実際に海外に渡航し、海外で実習を受けるために必要な英語力やマナー、現地の予備知識(社会・文化等)、協同作業能力などを身につけるための講義である。日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となっている。本科目では、将来グローバルに活躍できる人材の育成を視野に入れ、海外事情や企業のグローバル化の実態、持続可能な開発の在り方を学ぶほか、英語によるコミュニケーション力や海外での企業や大学の人たちと交流・研究する際の社会人としてのマナーなどについて養成する。?
到達目標	(1)海外事情が理解できる。(2)海外渡航の手順や手続きが理解できる。(3)グローバル企業の現状が理解できる。(4)海外インターンシップ先の事情が理解できる。(5)英語による基本的なコミュニケーションができる。(6)社会人としてのマナーが身につく。
授業方法と留意点	講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。本講義は、夏期の「ものづくり海外インターンシップ」の準備のための講義とする。夏期の実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。講義室内ではできるだけ、日本語を使わないようにする。
科目学習の効果(資格)	英語による基本的なコミュニケーション力が身につく。TOEIC や英検などを受験する契機となる。また、社会人としてのマナーが身につく。?海外における実体験ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス, 海外渡航手続き概要, 英語コミュニケーション1	パスポート, チケット予約(航空機, ホテル), 保険, 海外渡航準備, 英語による自己紹介	今回の課題レポート作成 次回の英語による自己紹介の準備
2	海外事情, 日系企業のグローバル化, 英語コミュニケーション2	英語による自己紹介発表, 海外の文化, 経済, グローバル化事情	今回の課題レポート作成 研修先の英字新聞の調査
3	研修先 事前調査, 英語コミュニケーション3	英字新聞記事の調査, 文化, 歴史, 経済事情, 企業・大学	今回の課題レポート作成 格差社会の調査
4	格差社会の問題	これからのグローバル人材として必要な素養を考える, ビデオ鑑賞など	今回の課題レポート作成 格差社会の問題についてレポート提出 英語による日本の紹介準備
5	社会人基礎力, 英語コミュニケーション4	社会人として必要な基礎力, 英語による日本の紹介発表	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
6	英語コミュニケーション5	海外渡航, 海外生活, 大学紹介, 専門科目の紹介	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
7	英語コミュニケーション6	研修先企業, 大学の調査, 英語による発表, 英語によるワークショップなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
8	英語コミュニケーション7	海外研修を想定したグループ実習1, テクノセンター見学, ヒヤリングなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
9	英語コミュニケーション8	海外研修を想定したグループ実習2, テクニカルニュースのリスニングなど	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
10	英語コミュニケーション9	海外研修を想定したグループ実習3, テクニカルニュースの発表など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
11	英語コミュニケーション10	海外研修を想定したグループ実習4, 英語フレーズ集の作成など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
12	英語コミュニケーション11	海外研修を想定したグループ実習5, 英語フレーズ集の作成など	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
13	マナー実習	挨拶, 礼儀, 服装, ミーティング, 質疑, 懇親会, 感謝, 気配り, 機転	今回の課題レポート作成 次回の予習プリントの学習
14	海外渡航, 海外生活	渡航準備, 入出国, 習慣, 食生活, 健康管理	今回の課題レポート作成 成果発表の準備
15	英語による成果発表	まとめ	成果発表の反省

関連科目: ものづくり海外インターンシップ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準): 課題レポート60%, 取組み姿勢20%, 成果発表20%として評価を行う。

学生へのメッセージ: これまでに「ものづくり海外インターンシップ」を受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。

担当者の研究室等: 1号館4階 諏訪教授室

備考: 【事前事後学習】レポート作成, 復習の学習時間: 20時間程度
【共同担当者】 諏訪教授 (M科), 石田准教授 (C科), 川野教授 (M科), 理工学部インターンシップ委員会委員

科目名	ものづくりインターンシップ実践	科目名 (英文)	Internship for Manufacturing Practice
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	奥野 竜平
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	『ものづくりインターンシップ基礎』の実践コースである。『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容をパナソニックのモノづくり現場で具体実習・実践することにより、更なる理解を進め、習得して自らの強みとすることを目的とする。																		
到達目標	(1)生産革新・改善を体験する。(2)製造業の成り立ち・仕組みを体験する。(3)チームワーク・QCD問題を体験する。(4)パナソニックの工場を見学する。(5)研修成果を発表する。																		
授業方法と留意点	『ものづくりインターンシップ基礎』で学んだ内容を体験するため、パナソニック(株)人材開発カンパニーで、計7日間の宿泊実習を行なう。また、事前指導として『ものづくりインターンシップ基礎』のまとめを行い、事後指導として実習で得られた成果の定着をはかるためにプレゼンテーションによる報告を行う。																		
授業テーマ・内容、方法・事前・事後学習課題	<p>直前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目 ものづくりインターンシップ基礎のまとめ、インターンシップIIの準備 7/9(木) 6限目 ・2回目 ものづくりインターンシップ基礎全体討議プレゼンテーション指導 7/16(木) 6限目 <p>宿泊実習(パナソニック人材開発カンパニー)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1~3日目 【授業テーマ】 生産革新演習 【内容・方法等】 1個流しセル生産のロールプレイを通じて、生産革新実践・方法等を体得する。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】 演習終了後、レポートを提出のこと <ul style="list-style-type: none"> ・4~5日目 【授業テーマ】 モノづくりシミュレーション演習 【内容・方法等】 四角錐製作を通じて、製造業の成り立ち・しくみを習得(設計~生産)し、目標達成のためのチームワーク・QCD問題意識の重要性を体得する。(グループ演習) 【事前・事後学習】 演習終了後、レポートを提出のこと <ul style="list-style-type: none"> ・6日目 【授業テーマ】 工場見学 【内容・方法等】 パナソニックのモノづくりを工場見学を通じて体得する。(2工場) 【事前・事後学習課題】 見学終了後、レポートを提出のこと <ul style="list-style-type: none"> ・7日目 【授業テーマ】 研修成果報告会 【内容・方法等】 研修成果報告会の実施。(グループ単位) 【事前・事後学習課題】 グループ単位でプレゼン資料をまとめておくこと <p>実習中指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月2日(土) 1~4限目 プレゼンテーション指導 <p>実習後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目 体験報告書の添削指導 ・2回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 研修成果報告会(2回目)に向けたプレゼンテーション指導 ・4回目 研修成果報告会(2回目) ・5回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・6回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評 																		
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	実習成果40%、研修成果報告会(2回)20%、実習最終レポート10%、体験報告書10%、実習・授業態度20%とした総合評価を行なう。																		
学生へのメッセージ	この科目は「ものづくりインターンシップ基礎」を同時に受講することが前提です。																		
担当者の	奥野教授室(1号館4階)																		

研究室等	
備考	<p>期間：2017年8月28日（月）～9月1日（金）、9月4日（月）～9月5日（火） パナソニック（株）人材開発カンパニーでの宿泊研修です。9月3日（土）には撰大でプレゼン資料を作成します。その間、パナソニック㈱社員の、朝礼、ランニングにも参加します。ジーンズ、スリッパは禁止。ランニングできる履物、着替えが必要です。学生負担金・食費等は別途徴収します。</p> <p>【事前事後学習】 レポート作成，プレゼン準備としての学習時間：20時間程度。</p> <p>【担当者】 パナソニック講師：佐藤哲志、高岡清、熊本義久、西尾幹夫</p>

科目名	ものづくり海外インターンシップ	科目名 (英文)	International Internship for Manufacturing
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	諏訪 晴彦
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	日本の企業がますますグローバル化する中で、国際的視野と素養を身に付けた人材はますます必要となる。本科目は、「ものづくり海外インターンシップ」と呼び、世界展開をしている「ものづくり企業」の海外工場において具体的に実習体験をすることにより、グローバル企業の現状を理解するとともに、自らの視野と経験を広げることを目的とする。研修先はとりわけ東南アジアとする。?研修先によっては、海外の大学でワークショップ体験も含める。																
到達目標	(1)グローバル企業の現状が理解できる。(2)英語による基本的なコミュニケーションができる。(3)海外でのものづくりの工程を体験できる。(4)チームワークを体験できる。(5)国際的視野を広げられる。(6)研修成果が発表できる。																
授業方法と留意点	東南アジアは、フィリピン1箇所とタイ1箇所を予定している。受講者はいずれかの企業において、本学の夏休み中に往復を含めて約10日間(予定)の現場実習を行う。実習後にレポート作成および海外実習の成果報告会を行う。講義名称が「ものづくり」であるが、専門知識は特に必要としないので、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。なお、本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎(海外班)」の受講を必須とする。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>直前指導 ものづくり海外インターンシップ基礎の全体報告会に向けたプレゼンテーションの指導、海外実習の準備など</p> <p>海外実習 ・1～2日目 【授業テーマ】移動、オリエンテーション 【内容・方法等】研修先の概要、オリエンテーション、語学(英語)研修など 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・3日目 【授業テーマ】企画・設計部門実習/ワークショップ 【内容・方法等】ものづくり工程の上流である企画・設計部門。 【事前・事後学習】実習終了後、レポート、アイディアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・4～5日目 【授業テーマ】製造工場見学 【内容・方法等】関連工場、施設、建築、デザイン作品の見学、現地従業員、大学生との交流会に参加する。交流会では、英語によるコミュニケーションを行う。 【事前・事後学習課題】交流会終了後、レポート、アイディアスケッチなどを提出のこと</p> <p>・6～8日目 【授業テーマ】製造系実習 【内容・方法等】製造系の加工、組立、検査・品質管理など。(グループ演習) 【事前・事後学習課題】実習終了後、レポートを提出のこと</p> <p>・9～10日目 【授業テーマ】研修成果報告会、移動 【内容・方法等】グループ単位でPPTでプレゼン、または部分模型やその他手法を用いてプレゼンしてもよい。 【事前・事後学習課題】実習終了後、最終レポート、または各グループで研究成果ポスター、または梗概作成を提出のこと</p> <p>実習後指導 ・1回目 最終レポート(体験報告書)の添削指導 ・2回目 成果報告会に向けたプレゼンテーション指導 ・3回目 全体報告会 学生代表者の発表・質疑 ・4回目 全体報告会 企業管理者の講演と講評</p>																
関連科目	ものづくりインターンシップ基礎																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	海外現地研修60%(実習記録簿20%、実習・授業態度20%、実習成果プレゼン20%)、実習前後の学習5%、実習最終レポート10%、体験報告書10%、成果報告会(2回)15%として評価を行う。																
学生へのメッセージ	これまでに受講した学生は、海外実習後に顕著な成長が認められるので、大いにチャレンジしてほしい。授業方法、留意点にも記載のとおり、参加学生は専門分野も、文系・理系も問わない。また男女も問わない。実習先の受け入れ人数に制限があるため、希望者多数の場合は理工学部インターンシップ委員会において選定する。本講義を受講する学生は、前期の「ものづくりインターンシップ基礎(海外班)」の受講を必須とする。																
担当者の研究室等	1号館4階 諏訪教授室、川野教授室、 1号館3階 石田准教授室																
備考	【注意事項】研修予定期間:2017年8月中旬(研修先の都合により変更する場合があります。) 航空運賃、宿泊費、保険代などは自己負担となります。 【事前事後学習】レポート作成、復習の学習時間:20時間程度 【共同担当者】石田准教授、川野教授、理工学部インターンシップ委員会委員																

科目名	役立つ金融知力	科目名(英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	陸川 富盛
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	<p>諸君は大学生になるまでは、「これまでに既に起きたこと」を学んできました。「既に起きたこと」は変わりようがありませんから必ず正解があり、それらを覚えておけば済みました。つまり、ただか「要領良く正解を覚えてもらって覚えるだけ」という程度のことをやってきたに過ぎません。</p> <p>しかし、諸君がこれから歩を進めていく実社会は「明日を創っていく社会」ですから、そこに最初から決まり切った正解なんかありません。自分で自分の答えを創り出して行くしかありません。</p> <p>実社会で諸君が自ら成長し自分の人生を築き上げていくことは、企業がより良い企業となることを目指して経営していくことと同じです。つまり、諸君のこれからの人生は「自分株式会社を経営していくこと」に他なりません。それには、自ら考えて決断し行動する「賢い経済主体」となる、という大きな方向転換が必要なのです。そしてそのためには、まずは市場経済や契約社会の仕組みを実感覚として理解し、様々なリスクや不確実性に果敢に立ち向かっていく能力と気概を身に付ける必要があります。</p> <p>経済や法律などの学問的知識に加え、金融や投資などファイナンスに関する実践的な知識を得てそれらを日常的に活用していくことは、単にお金の問題に役立つだけでなく、より良い人生や社会の実現に欠かせないのです。</p> <p>本講義の目的は、人生のさまざまな局面で的確に決断し行動できるよう、ファイナンスの知識や考え方を含めた実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に付けることです。</p>
到達目標	<p>主としてファイナンスの観点から、実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に付ける。</p> <p>諸君が、将来直面する経済生活やビジネスライフにおいて、「賢い経済主体」として適宜的確に行動できるようになることを目指します。</p> <p>講義にただ出席して教科書を開いているだけでは、この目標に到達することはあり得ません。「講義を毎回きちんと受講し、自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力が不可欠です。</p>
授業方法と留意点	<p>本講義は15回全体を通して次の三つのステップで構成し、各回とも教科書を使用した講義形式で進めます。</p> <p>① まずは経済主体としての視点で、社会の仕組みの全体観を把握し、様々な課題や対処法を認識します。</p> <p>② 次に、ファイナンスの基礎知識を、大学で学ぶ様々な専門知識と関連付けながら、実践的に学んでいきます。</p> <p>③ 更に、それらを統合し活用する能力をインテリジェンスとして身に付け、社会生活に応用する方法を学びます。</p> <p>本講義では毎回必ず教科書をベースに講義を進めるため、レジュメ等の資料を配布することは一切ありません。受講者は指定された教科書を必ず持参してください。</p> <p>但し、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎず、講義内容は教科書通りではありませんので、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>経済・社会生活やビジネスライフに必要な意思決定を適宜適切に行えるよう、ファイナンスの知識を活用する実践的なビジネスインテリジェンスの基本を身に付けます。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	「経済主体としての立ち位置」	テキスト<P15~14, 4~13> ・私たちのくらしと経済 ・戦後の社会発展 ・パラダイムシフト ・変革の必要性
2	経済・金融の基礎知識 ①	「国際経済と国家財政」	テキスト<P44~49, 38~44> ・国際経済 ・国家の財政
3	経済・金融の基礎知識 ②	「市場経済と金融の役割」	テキスト<P16~18, 25~29, 18~25> ・お金の役割 ・市場経済のしくみと意義 ・金融の役割と銀行
4	法律の基礎知識	「契約の基本」	テキスト<P154~157, 159~166> ・契約社会 I ・ローン・クレジット ・契約社会 II
5	リスクと向き合う ①	「日常生活のリスク」	テキスト<P79~87, 166~168, 157~159, 168> ・リスクマネジメント ・契約社会 III
6	リスクと向き合う ②	「リタイアメント」	テキスト<P88~97> ・年金制度 ・老後生活資金
7	投資の基礎知識	「投資とは何か」	テキスト<P98~104> ・投資とは ・投資意思決定プロセス
8	経済活動と金融市場	「景気・株価」	テキスト<P30~31, 56~57, 32~36, 54~55, 37, 50~53> 景気 景気と株価
9	金融商品の基礎知識 ①	「代表的な金融商品(株式等)」	テキスト<P123~135> ・株式 ・投資信託 ・外貨建て商品 ・保険商品 ・デリバティブ
10	金融商品の基礎知識 ②	「代表的な金融商品(債券他)」	テキスト<P117~123> ・預貯金 ・信託

				・債券 テキスト<P105～117> ・直接金融と間接金融 ・金融商品の性格																
	11	金融商品の基礎知識 ③	「金融市場と金融商品の性格」																	
	12	投資のリスク管理	「投資のリスクマネジメント」	テキスト<P136～153> ・分散投資 ・時間分散 ・長期投資																
	13	ライフプランニング ①	「ライフプランニング表」	テキスト<P58～67> ・ライフプランニング																
	14	ライフプランニング ②	「プラン見直しと人生の三大資金」	テキスト<P68～78> ・キャッシュフロー表の見直し ・ライフイベントごとの課題																
	15	最終まとめ	「講義のまとめ」	全体レビュー 講義で得た金融インテリジェンスのレビューを行い、実戦力を確認します。																
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎</td> <td></td> <td>金融知力普及協会</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎		金融知力普及協会	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎		金融知力普及協会																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<p>下記のとおり、本講義と課題に対する取り組み姿勢や理解度等を総合的に評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試験 : 20% (経済やファイナンスに関する知識の正確性を評価します。試験範囲は講義全体です。) ・レポート : 50% (自分で考えて調査し問題解決する能力、即ち、全講義を受講して得た知見を評価します。) ・平常点 : 30% (全員の受講状況と態度、質疑応答、課題・討議などを評価します。出席点ではありません。) <p>講義にただ出席して教科書を開いているだけでは、目標に到達することはあり得ませんから、当然ながら単位も取得できません。毎回きちんと意識を集中して受講し、「自分で考えて講義内容を理解し行動する」という自分自身の努力を積み重ねる事が重要です。</p> <p>講義の中で提示した課題については、当日の講義中または次回の講義で検討と解説を行ないますので、知識の確認に適宜役立ててください。</p> <p>成績評価の一つとなる上記課題レポートは表計算ソフト「エクセル」で出題するので、提出期限(定期試験当日を予定)までにこの課題レポートの出題に答えて必要事項を調査・入力し、内容を精査すること。 (講義では「エクセル」の使い方は教えませんが、フォーマットを提示するので表入力と確認が必要です。)</p> <p>なお、レポート課題は大学内の情報システムを通じて掲示・連絡しますので、学内情報システムの利用や連絡設定は各自で事前に必ず行っておいてください。</p>																			
学生への メッセージ	<p>本講義は「受講者の誰もが覚えられるように一つ一つ教えていく」のではなく、初回「イントロダクション」でも説明する通り、全15回を通して受講することによって、情報収集能力、考える力、判断力などの実力が付くように構成してあります。このため本講義を聴講すると、諸君は実戦と同じく、広範で大量の情報が一方的に流れてくることを経験することになります。</p> <p>しかし、諸君は既に大学生なのだから、「自分に分かる程度のことを自分に分かるように教えてもらえるのが当然だ」などという子供じみた甘えは捨て去ること。</p> <p>その上で、「講義されている内容を自分自身で考えて理解しよう」という確固たる意志を持ち、私語を慎み毎回静粛に受講すること。そうすればこれまでと異なる観点に立つことができ、本講義本来の効果を各自が最大限に得ることができます。</p> <p>本講義ではレジュメ等の資料を配布することは一切ありませんが、スマホやタブレット等からのネット検索やサイトの利用を適宜指示することがあります。</p> <p>受講者は指定された教科書を必ず購入してください。但し、教科書は単なる教材として手元資料的に利用するに過ぎず、講義内容も教科書通りではありませんので、毎回きちんと聴講しなければ成果は得られません。</p> <p>その他、課題の提示方法等についても詳しくは講義の中で説明しますので、講義は毎回注意深く受講し、指示に従って下さい。こうした日常の情報収集能力が、各自の実力や成績評価にも大きく影響します。</p> <p>本講義で得た知識は、自分が学んでいる様々な専門知識と組み合わせることで、より高い効果を得ることができます。安直にありきたりの答えを求めるのではなく、自分で考える習慣を身につけてください。</p> <p>なお、講義中に席を立ったり私語が多いなど講義の妨げとなる学生には、講義を中断して注意を促し退席を命じる場合があります。</p>																			
担当者の 研究室等	11号館1階(教務課)																			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、SMB C日興証券グループによる「寄附講座」です。 ・「事前・事後学習課題」について 予習(シラバス記載の教科書該当ページを事前に読む): 30分程度 復習(講義の内容を振り返り、自分の言葉で整理する): 30分程度 ・当然の前提として、単位取得するには全講義を静かに聴講すること。 私語が多い者、授業の妨げとなる者には適宜指導を行い、それに従わない場合は容赦なく退席させる。 																			

科目名	ライフサイエンスの基礎	科目名 (英文)	Introduction to Life Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西矢 芳昭, 青笹 治, 井尻 貴之, 居場 嘉教, 尾山 廣, 川崎 勝己, 木村 朋紀, 中嶋 義隆, 長田 武, 西村 仁, 船越 英資, 松尾 康光, 松川 通, 村田 幸作
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, W科: DP1◎, N科: DP1◎N: DP1◎		

授業概要・目的	ライフサイエンスの基礎知識は、医療、環境、食品分野などへの生物機能の応用、すなわちバイオテクノロジーと密接に係る。ライフサイエンスおよびバイオテクノロジーの知識を深めることで、最新の科学情報を理解できると共に、社会人として相応しい教養が身に付く。ライフサイエンスの各分野を深く学ぶためにも役立つ基礎的知識を、各専門分野に精通した教員により概説する。
到達目標	教養としてのライフサイエンスの基礎的知識の理解
授業方法と留意点	配布資料に沿って、板書およびプロジェクトによる講義を行う。
科目学習の効果 (資格)	生命科学の学習に必要な基礎的事項を理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	概要説明 特殊環境微生物学 (西矢)	授業の進め方を説明する。 特殊環境の微生物に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
2	食品微生物学 (村田)	微生物と生命・食糧・環境について解説する。	講義後に小論文を課す。
3	神経生物学 (松川)	生命はどのようにして出現したのか、そしてそもそも生命とは何か考えてみよう。	講義後に小論文を課す。
4	分子生物学 (川崎)	分子生物学について説明する。 個体ゲノム制御機構に関する基礎知識・キーワードを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
5	環境分析学 (青笹)	食品因子の機能性と生活習慣病などの健康との係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
6	生命環境科学 (長田)	ライフサイエンスにおける植物について解説する。	講義後に小論文を課す。
7	細胞機能学 (船越)	生物の構成単位である細胞の構造、種類や機能について解説する。	課題レポート、または確認小テストを課す。
8	環境毒性学 (木村)	環境化学物質による健康リスクへのライフサイエンスの係わりについて解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
9	構造生物学 (中嶋)	生体分子がもつ分子構造を機能の関係性について解説する。	課題レポートを課す。
10	タンパク質科学 (丸山)	タンパク質の生合成、分類、機能、解析方法などについて概説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
11	分子細胞制御学 (西村)	多くの生命現象は「現在 (いま)」を生きたためだが、生殖は「未来」を作る現象であり、具体的に生殖とは何かを解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
12	生体触媒科学 (井尻)	生殖細胞におけるエネルギー代謝について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
13	病態薬理学 (居場)	薬理学の基本について解説する。	課題レポートまたは確認小テストを課す。
14	発生遺伝学 (吉岡)	形態形成を中心にモデル生物を用いた応用研究についても解説する。	講義中にレポートを課す。
15	生体分子機能学 (尾山)	さまざまな機能性タンパク質について解説する。	確認小テストを課す。

関連科目	生物学概論、生化学 I、生物無機化学、生物統計学
------	--------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	講義中の積極性、各回のレポートや知識確認テスト、小論文などで総合評価する。
-----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	不明な点があれば、各回の担当教員に遠慮無く質問して下さい。
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等	1号館 8階および9階 (理工学部生命科学科全専任教員)
----------	------------------------------

備考	
----	--

科目名	歴史学Ⅱ	科目名(英文)	HistoryⅡ
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー(DP)			

教養科目

授業概要・目的	「都市」と聞いて私たちが思い浮かべるのは、経済・産業の中心であり、自由な活動の場といったイメージではなからうか。経済と自由、この2つの特徴の歴史的ルーツをたどっていけば、ヨーロッパ中世都市に行き着く。高校世界史において、商業の復活がヨーロッパ中世都市を生み出し、市民の自治がこれを発展させたことと教わった人も少なくないだろう。古代や中国の例なども広く視野に入れることで、一種、常識となっているこのような通説を疑い、考えなおす。そのようにして、都市を窓口にして歴史を展望する。以上が本講義の目的である。支配と消費の中心ではなく、周辺の自然環境や地域社会と共存できる都市のあり方など、現代的な問題を解決するためのヒントも探りたい。																																																																		
到達目標	学んだことを結論・理由・具体例に分けて、簡潔に説明できるようにする。																																																																		
授業方法と留意点	暗記は必要ない。教科書も必要ない。こちらでプリントを用意し、参考書は各単元ごとに紹介する。また図や表を多く使って説明する。だから受講生の側でも、以下3点のことをしてほしい。①授業前には、プリントにあらかじめ目を通しておくこと。②授業後には、プリントを読み返すこと。③プリントを読む際は、線を引くなり印をつけるなり、必ず手を動かすこと。なぜなら授業は教員と受講生のキャッチボールであり、どちらか一方の努力だけでは内容理解につながらないからである。																																																																		
科目学習の効果(資格)	商業や市民に限られない、中世都市の多様なあり方とダイナミズムを中心として、経営を学ぶための基礎体力となる幅広い教養と具体的思考の習慣を身に付ける。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめに</td> <td>授業のルール・方針・全体計画</td> <td>必ず出席するよう予定を調整する。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>都市を窓に世界史を見る</td> <td>文明はさまざまでも共通点がある</td> <td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>都市を窓に世界史を見る</td> <td>日本史の特徴は世界史のなかで初めて分かる</td> <td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>イスラーム都市</td> <td>世界で最も先進的な文明</td> <td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>イスラーム都市</td> <td>活発な経済と快適な生活の両立</td> <td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>イスラーム都市</td> <td>都市文明と相性の良い宗教</td> <td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>イスラーム都市</td> <td>ヨーロッパはイスラームに学んだ</td> <td>同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>中国都市</td> <td>「同じことばかりくり返している」というウソ</td> <td>同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>中国都市</td> <td>1000年前の大転換</td> <td>同上の課題に加えて小レポート。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>中国都市</td> <td>現代を先取りした流通と消費</td> <td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>中国都市</td> <td>エンターテインメント産業や外食産業も出現</td> <td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ヨーロッパ都市</td> <td>アジア都市は大きくヨーロッパ都市は小さい</td> <td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>ヨーロッパ都市</td> <td>農業中心の経済と政治的な分裂のなかで</td> <td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>ヨーロッパ都市</td> <td>巨大化したのは200年前</td> <td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>ヨーロッパ都市</td> <td>小さな都市への帰帰</td> <td>授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	はじめに	授業のルール・方針・全体計画	必ず出席するよう予定を調整する。	2	都市を窓に世界史を見る	文明はさまざまでも共通点がある	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	3	都市を窓に世界史を見る	日本史の特徴は世界史のなかで初めて分かる	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	4	イスラーム都市	世界で最も先進的な文明	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	5	イスラーム都市	活発な経済と快適な生活の両立	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	6	イスラーム都市	都市文明と相性の良い宗教	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	7	イスラーム都市	ヨーロッパはイスラームに学んだ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。	8	中国都市	「同じことばかりくり返している」というウソ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。	9	中国都市	1000年前の大転換	同上の課題に加えて小レポート。	10	中国都市	現代を先取りした流通と消費	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	11	中国都市	エンターテインメント産業や外食産業も出現	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	12	ヨーロッパ都市	アジア都市は大きくヨーロッパ都市は小さい	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	13	ヨーロッパ都市	農業中心の経済と政治的な分裂のなかで	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	14	ヨーロッパ都市	巨大化したのは200年前	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。	15	ヨーロッパ都市	小さな都市への帰帰	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	はじめに	授業のルール・方針・全体計画	必ず出席するよう予定を調整する。																																																																
2	都市を窓に世界史を見る	文明はさまざまでも共通点がある	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
3	都市を窓に世界史を見る	日本史の特徴は世界史のなかで初めて分かる	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
4	イスラーム都市	世界で最も先進的な文明	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
5	イスラーム都市	活発な経済と快適な生活の両立	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
6	イスラーム都市	都市文明と相性の良い宗教	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
7	イスラーム都市	ヨーロッパはイスラームに学んだ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。																																																																
8	中国都市	「同じことばかりくり返している」というウソ	同上の課題に加えて「レポートの手引き」を熟読する。																																																																
9	中国都市	1000年前の大転換	同上の課題に加えて小レポート。																																																																
10	中国都市	現代を先取りした流通と消費	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
11	中国都市	エンターテインメント産業や外食産業も出現	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
12	ヨーロッパ都市	アジア都市は大きくヨーロッパ都市は小さい	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
13	ヨーロッパ都市	農業中心の経済と政治的な分裂のなかで	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
14	ヨーロッパ都市	巨大化したのは200年前	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
15	ヨーロッパ都市	小さな都市への帰帰	授業前に資料に目を通す。授業後に資料を読み返す。																																																																
関連科目	特になし																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	ポイントは以下3点。第1に暗記は必要ない。テストも論述1題で持ち込み可であり、この他にレポートとレスポンス・ペーパーで採点するから。第2に消極的姿勢でプラス評価になることはないが、積極的に受講してマイナス評価されることも絶対ない。例えば、出席点はない。しかし誤字や脱字のために減点、ということもない。つまり減点主義ではなく加点主義。また配点は、①テスト(40点)、②レポート(30点)、③レスポンスペーパー(30点+α)。第3に60点に達するなら、①②③すべてを提出する必要はない。その点では、各自のスタイルに合わせて受講してほしい。																																																																		
学生へのメッセージ	歴史が教えてくれるのは、「すべては表裏一体」ということです。この授業も例外ではありません。テストにレポート、レスポンス・ペーパーと、3つの論述課題がありますが、「やることが多い」とのみ考えるのは一面的。裏返せば「単位取得のチャンスが多い」とも言えるからです。またみなさんが「何かを分かっている」かどうかを判定するには、結局「それが何なのかを説明できる」かどうかを見る以外にありません。しかし、このように説明し、伝える力は、文系・理系に関係なく学問研究すべてに欠かせないだけでなく、大学卒業後の長い人生でも、あらゆる場面で必要とされる力です。テスト終了と同時に忘れてしまうような、「暗記科目としての歴史」を教えるつもりはありません。この授業で学ぶのは「具体的・論理的に考える歴史」であり、みなさんには、それを通して「単位以上のもの」を得てほしいと思います。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」																																																																		

キャリア形成科目



科目名	インターンシップ I	科目名 (英文)	Internship I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感を直接肌で感じることである。 事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を習得する。
到達目標	インターンシップへ意欲的に自信を持って参加できるようになることを目標とする。
授業方法と留意点	グループワークやプレゼンテーションなどを行う参加型の授業である。 インターンシップの現場につながる講義 (演習を含む) であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果 (資格)	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	インターンシップとは	・授業オリエンテーション ・学生と社会人の違いを理解する ・インターンシップの目的を考える	・インターンシップとは何かについて考えること。
2	企業組織・ビジネスの理解	・組織の形態を知る ・ビジネスへの理解を深める	・ビジネスとは何かを考えること。
3	実習参加企業について	・産業の分類を知る ・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る	・インターン受入企業等の組織のリストに目を通しておくこと。
4	効果的なプレゼンテーションとは	・効果的なプレゼンテーションの仕方、注意点などを知る	・プレゼンテーションができるように準備すること。
5	課題のプレゼンテーション①	・第4回目の課題をプレゼンテーションする	・第4回目の課題について、プレゼンテーションの準備をすること。
6	社会人のマナー①	・社会人としての心構えを知る ・身だしなみ	・マナーがなぜ大切なのかを考えること。
7	社会人のマナー②	・文書でのコミュニケーション	・授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること。
8	社会人のマナー③	・口頭でのコミュニケーション	・マナーの大切さを再度考えること。
9	履歴書を記入する	・インターンシップ用の履歴書を記入する	・履歴書を書く準備をしておくこと。
10	グループワーク①	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・グループ内の自分の役割を考えること。
11	グループワーク②	・掲示された課題について、チームで情報を集約、検証、プレゼンテーションを行う	・グループの最大の力を出すために、自分に何ができるかを考え、プレゼンテーションの準備をして下さい。
12	事前訪問について	・事前訪問のマナーと準備について	・インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること。
13	課題のプレゼンテーション②	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること。
14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をすること。
15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること。

関連科目 この科目を履修する学生は、「インターンシップⅡ (企業等の組織での就業体験)」を履修することが望まれる。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 発表 (40%)、レポート等の提出物 (30%)、授業態度 (30%) を総合的に評価する。

学生へのメッセージ
インターンシップの流れは以下のとおりである。
※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始 (予定)
インターン先の都合により、流れの日程等が変更する場合もある。

担当者の研究室等 7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)

備考
教科書・・・必要に応じてレジュメを配布
参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示
インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。
なお、事前事後学習には毎回1時間以上かけること。

科目名	インターンシップⅡ	科目名(英文)	Internship II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性を広げること、職業観の涵養に努めることを目標とする。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。
科目学習の効果(資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	直前学修② 6月17日(土) 4限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・マナーについて考えること。
3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・実習中は毎日日誌をつけること。
4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・実習中は毎日日誌をつけること。
5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・実習中は毎日日誌をつけること。
6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前に立てた目標を意識して参加すること。
7	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事前学修の通りに報告書を作成する。提出前に必ず推敲を行うこと。 提出期限を厳守すること。
8	事後学修① 9月16日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・個人発表用のレジメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
9	事後学修② 9月16日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・個人発表用のレジメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること。
10	事後学修③ 9月30日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
11	事後学修④ 9月30日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること。
12	事後学修⑤ 10月14日(土) 3限目(予定)	・インターンシップを振り返る (実習記録簿の提出)	・実習記録簿を見直してこること。
13	事後学修⑥ 10月14日(土) 4限目(予定)	・インターンシップを振り返る	・実習記録簿を見直してこること。
14	事後学修⑦ 10月21日(土) 1限目(予定)	・全体報告会 ・学生代表者の発表	・学生代表者はパワーポイントで10分で報告ができるように準備すること。
15	事後学修⑧ 10月21日(土) 2限目(予定)	・全体報告会 ・受け入れ企業管理者の講演とまとめ(予定)	・全員スーツ着用

関連科目	インターンシップⅠ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	企業による報告書(20%)、体験報告書など提出物(40%)、発表を含む授業態度(40%)を総合的に評価する。
----------	--

学生へのメッセージ	「インターンシップⅠ」を必ず履修すること。 「インターンシップⅠ」の履修には、ガイダンスに出席し、履修申し込み書を提出する必要がある。 履修希望者が多い場合は、選考することもある。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室(石井)
----------	---------------------

備考	教科書・・・必要に応じてレジメを配布する。
----	-----------------------

キャリア形成科目

参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。

なお、振り返りの課題（体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など）は3時間以上かけて仕上げること。
事前事後学修に出席する際はスーツを着用していただくこと。

科目名	エンプロイメントデザイン I	科目名 (英文)	Employment Design I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		

授業概要・目的	大学での学生生活の過ごし方、学修に対する姿勢、大学を卒業するにあたってどのような進路を選択し、またどのような職業へと導かれたかの3つのテーマを基に、本学の教職員から多様な生き方を聴き、それらに基づいたグループワーク、個人ワークを行う。 この活動により、4年間の学生生活をプランニングし、自分の意見を持つことを主な目的とする。 また、大教室での多くの学生と共に話を聴くという態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を行うことで、自分には思いつかなかった考え方を理解する。
到達目標	講師の意見を聴き、自身のキャリア（職業生活）を通したライフプランニング（人生設計）を必ず描いてみることを学ぶことが目標である。
授業方法と留意点	人生の先輩方のお話を真摯な態度で聴く姿勢をもつことを心がける。また、話を聴くことが主となり、内容に関して調べ、まとめることを課題とするため、メモを取る習慣を身に付ける。 この科目は1年生向けの科目である。
科目学習の効果（資格）	大学生生活の過ごし方や将来への目標の設定の仕方から、職業人として働くことや人・社会とかがかわることについて考える契機となる。

キャリア形成科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・科目の趣旨・目的と評価について ・受講上の注意ならびに大教室でのマナーに関して ・キーワードの調べ方とレポートに関して	・講義を振り返る
2	学生生活① 未来の自分に何を渡すか！ ～大学生活で成長するために必要な3つのこと～ (担当：地域連携センター係長 古屋豊吾)	・みなさんと同じ撰大生として、ラグビー部での経験と社会で活かせる能力とを関連付けて、「自己肯定感」の重要性についてお話しします。 個人ワークやミニゲームを取り入れながら進行します。	・講義を振り返る
3	学生生活② チャンスだらけの撰南大学-学生時代に飛躍する方法- (担当：経営学部 准教授 久保 貞也)	(1) 撰南大学をうまく活かした先輩たち (事例紹介) (2) チャンスを失う典型的な学生 (注意喚起) (3) 撰大でチャンスを得る方法	・講義を振り返る
4	学生生活③ 大学生活が教えてくれた10のこと (担当：教務課 池田 有紀)	・講師の話を聴き、自分が「好きなこと・モノ」を明確化するとともに、大学生活のなかで何かに向かって試行錯誤しながらチャレンジするきっかけを作る。	・講義を振り返る
5	学生生活④ 講義の中間まとめ (担当：キャリア教育推進室)	・グループ分けの実施 ・講義2回から4回のまとめ ・レポートの書き方	・講義を振り返る ・第1回「学生生活」に関するレポート締切
6	キャリアパス① 「私のキャリア」 キャリアアップを考える (担当：経済学部 教授 持永 政人)	・企業での経験を踏まえ、将来のキャリアアップのために学生時代に何をすべきかを講義します。	・講義を振り返る
7	キャリアパス② 個別ワーク「私がNO.1プロジェクト」	・今、自分が属しているコミュニティにおいて、何かで「NO.1になる」為の計画を立て、実践する。	・設定した課題を実践すること
8	キャリアパス③ 自分のキャリア形成のためには何が必要なのか？ (担当：スポーツ振興センター 准教授 藤林 真美)	・自身の失敗（しかし、将来への原動力につながる）から、充足・不足していたことを紹介します。事前課題として「学歴、資金、マンパワーなど何一つ心配することなく、自分のやりたい職業に就ける or 起業できると仮定し、その内容と準備について」自由な発想で考えてきてください。	・講義を振り返る
9	キャリアパス④ 「NO.1 プロジェクト」途中経過の共有	・講義7で設定した個別の課題の経過、結果をグループで共有する。	・講義を振り返る ・グループワークでメンバーから得た知見を振り返ること
10	キャリアパス⑤ 自らのキャリアは自らデザインする (担当：経営学部 講師 西西之坊 穂)	・自らの“employability”を高めるために何をすべきか、講師のキャリア事例を通じてお話しします。	・講義を振り返る
11	キャリアパス⑥ 講義の中間まとめ (担当：キャリア教育推進室)	・キャリアパスの回のまとめ ・グループワーク	・第2回課題「キャリアパス」に関する課題を提出
12	学修① 学修の回のオリエンテーション (担当：キャリア教育推進室)	・学修の回のオリエンテーション ・グループワーク「グループで課題研究のためのリサーチプロポーザルの作成」	・講義を振り返る
13	学修② 法律とスポーツと将来の職 (担当：法学部 准教授 石井信輝)	法とスポーツとの関係性は見出しにくいですが、様々な関係性を有する。したがって、その関係性を解説しながら、担当者が研究に取り組むに至った経緯や大学における学習に向かう心構え等について講義する。	・講義を振り返る
14	学修③	・講義12で取り組んだ課題をグループ	・講義を振り返る

		課題「グループで課題研究」の発表	ごとに発表する。	・グループ課題を提出
	15	講義のまとめ(担当:キャリア教育推進室)	・キャリアパスを中心としたエンプロイメントデザインⅠの振り返り	・講義を振り返る ・第3回課題「講義のまとめのレポート」
関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・エンプロイメントデザインⅡ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	毎回のミニッツペーパー(15%)、グループワーク(15%)、グループ課題(10%)、レポート3回(60%)、を総合的に判断する。			
学生へのメッセージ	学生生活4年間を以下に有意義に過ごすかをプランニングし、社会人・職業人としてのライフスタイルを考えるために、人生の先輩のお話を真摯な態度で聴いてほしい。また、自ら考え、選択し、決定していくプロセスを大切にし、行動へ繋ぐ大切を学んでほしい。			
担当者の研究室等	11号館10階(荻田) 7号館5階キャリア教育推進室(石井) 7号館3階キャリア教育推進室(水野)			
備考	教科書:各回の講師が必要に応じ、プリント配布。 参考書:各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。 講師・内容は都合により変更することもある。			

科目名	エンプロイメントデザインⅡ	科目名(英文)	Employment Design II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		

授業概要・目的	外部講師(本学卒業生を含む)をお招きし、仕事・職業観・人生経験やキャリア・パス等についてのお話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。 また、さまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養を目的とする。
到達目標	さまざまな職業についての知識を得て、多様な仕事術を理解できるようになることを講義の目標とする。
授業方法と留意点	話を聴くことが主となるため、社会人としての真摯な態度での話の聴き方、メモの取り方、積極的に質問すること等の習慣を身に付ける。
科目学習の効果(資格)	人や社会に関わること、仕事力の伸ばし方について考えるきっかけとなる。

キャリア形成科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション(キャリア教育推進室)	・講義のオリエンテーション ・ゲスト講義の際の注意点(特に聴く態度)について	・講義の感想を提出
2	「先人(企業家)に学ぶ～仕事への心構え」(商工会議所/管理職)	・企業家から学ぶ、仕事の心構えについてお話しします。	・講義の感想を提出
3	ジャーナリストの仕事(新聞社/編集局)	・情報収集の手法とジャーナリズムの使命についてお話しします。	・講義の感想を提出
4	お坊さんから後輩のみなさんへ(摂大OB/住職)	・一人の学生が僧侶として歩みだすまでの過程を自身の学生生活の経験談を交えながらお話しします。	・講義の感想を提出
5	企業人の私が経験した摂大OBとしての歩み方(摂南大学OB・メーカー/営業管理職)	・キャリアデザインへのアプローチ方法の観点から、先輩、同期、後輩のユニークなキャリアを紹介しつつ、在学中に人とのつながりを多く持ち、卒業後も自信を持って摂南大学卒業OBといえる人物であってほしい願いを込めてお話しします。	・講義の感想を提出
6	私が大阪府警察で働く理由～警察官の数だけ理由がある～(警察官)	・採用担当者が大阪府警察の仕事、働く上でのやりがいなどを紹介。警察学校の生活を紹介します。DVDの上映も行います。	・講義の感想を提出
7	プログラマーを目指して摂南大学に入学してからNPO代表になるまで(摂大OB/NPO法人代表)	・理系学部でプログラマーを目指しながらもスタープログラマーになれなかった男が、「公共性」を武器にNPO法人を設立するまでのキャリア構築の過程をお話しします。	・講義の感想を提出
8	「やりがいのある仕事」とは？ 社会貢献の意義と実践(牧師)	・外交官を辞してキリスト教会の牧師となり、フリースクールや社会福祉法人を運営するようになった経緯や経験をお話しし、皆さんが本当にやりがいのある仕事とは何かについて考える機会を持って頂きたいと思えます。	・講義の感想を提出 ・中間レポート
9	信用金庫の歴史と社会的使命(金融/人財開発)	・信用金庫の設立と信用金庫理念、そして北おおさか信用金庫の取り組みについて講義します。	・講義の感想を提出
10	新卒での就職活動で全てが決まる！？(摂南大学OG・旅行代理店/カウンター業務)	・講師の学生生活、キャリア形成のプロセスなどを実体験を交えてお話しします。	・講義の感想を提出 ・中間レポートを提出
11	これから～自分の将来像について考える～(摂大OB/警備会社人事)	・「どのような人生をどのように歩んでいきたいか」を、就職についての話を踏まえながら、学生のみなさんにも考えてもらいます。	・講義の感想を提出
12	高校教師の仕事(高校教師)	・高校の教師の仕事についてお話しします。	・講義の感想を提出
13	今求められる公務員像(摂南大学OB/市役所職員)	・あるべき姿からありたい姿へ～職業としての公務員～ 経験談を通して、公務員になりたい自分を再度見つめ直していただきます。	・講義の感想を提出
14	社会人に求められるもの(摂南大学OB/代表取締役社長)	・社会人となる学生へ、体験談を通して企業の中で誠実に生き抜くことを伝えます。	・講義の感想を提出
15	講義のまとめ	・エンプロイメントデザインⅡのまとめ ・まとめのワークシート	・最終レポートを提出

関連科目: キャリアデザインⅠ、キャリアデザインⅡ、エンプロイメントデザインⅠ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の感想 (30%)、レポート2回 (70%) を総合的に判断する。			
学生への メッセージ	講師の多様な仕事に対する意識や成果の上げ方等を聴くことで、職業観の形成に役立ててほしい。また、摂大生として誠実な態度で質疑応答に臨んでほしい。			
担当者の 研究室等	7号館5階キャリア教育推進室 (石井) 7号館3階キャリア教育推進室 (水野)			
備考	講師・内容は都合により変更することもある。 教科書：各回の講師が必要に応じ、プリント配布する。 参考書：各回の講師が必要に応じ、授業中に示す。			

科目名	キャリアデザイン	科目名(英文)	Career Design
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		

授業概要・目的	現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考える。
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。
科目学習の効果(資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことを等と考えられるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	大学生活1年目で経験したことを思い出ししておくこと。
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	配付したレジュメを熟読しておくこと。
3	社会を知る②	・課題「働く人取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	グループで討議する準備をすること。
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方を事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上〜川下の概念の理解	キャリアデザインIIのテキストP59〜P79を熟読すること。 グループ課題に取り組むこと
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	キャリアデザインIIのテキストP59〜P79を熟読すること。
6	社会を知る⑤	・グループプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をしておくこと。
7	社会を知る⑥	・グループプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をしておくこと。
8	就活体験①	特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	キャリアデザインIIのテキストP33〜P41を熟読すること。
9	就活体験②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	キャリアデザインIIのテキストのP42〜P42を熟読すること。
10	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	講義を踏まえ、これからの大学生活において何に取り組むのかを考えること。
11	自分を高める②	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	講義の内容を日常生活で実践すること。
12	社会を知る⑦	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	キャリアデザインIIのテキストP45〜P55を熟読すること。
13	自分を高める③	講義⑩⑪の実践報告プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をしておくこと。
14	社会を知る⑦	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	講義で配布するレジュメを熟読すること。
15	授業のおさらい	講義のおさらいと期末レポートの振り返り	課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと。

関連科目	経済キャリア入門、キャリアプラン、インターンシップI・II
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	グループワーク(20%)、授業参加度(30%)、レポート(50%)を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加すること。
担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室(水野)
備考	

キャリア形成科目

科目名	キャリア特別講義	科目名(英文)	Special Career Design
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	郭進
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		

授業概要・目的	オリックス・バファローズの球団職員を講師に招き、実体験を交えた野球ビジネスを解説いただくとともに、球団へのヒアリング調査を実施。そして、京セラドームでの球場調査も実施するなどして、プロ野球に関する情報の収集と分析を行う。
到達目標	プロ野球球団社員によるレクチャーや球場でのフィールド調査の実施を通して現実の球団による生きた経済活動を体験し、それによって経済学を実践的に理解することを目標とする。
授業方法と留意点	プロ野球球団社員による球団経営に関するレクチャーの後、実際のオリックス・バファローズの試合でグループ別にフィールド調査を行い、その結果をレポートにまとめ、球団等に対してプレゼンテーションし、その内容を評価する。 講義内容の性格上、履修学生数は限定する。
科目学習の効果(資格)	プロ野球球団の現実の経済活動に直接触れることによる経済学学習への動機付けと、就業力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業概要、授業のすすめ方、評価方法を説明する	
2	プロ野球球団経営Ⅰ	プロ野球ビジネス全体、球団経営状況を把握・理解する (球団社員によるレクチャー)	事前：球団イヤーズブックの熟読
3	プロ野球球団経営Ⅱ	プロ野球ビジネス全体、球団経営状況を把握・理解する (球団社員によるレクチャー)	事前：球団イヤーズブックの熟読
4	プロ野球球団経営Ⅲ	プロ野球ビジネス全体、球団経営状況を把握・理解する (球団社員によるレクチャー)	事前：球団イヤーズブックの熟読
5	研究テーマの設定	グループに分かれ研究テーマを設定する	事前：これまでの講義を復習したうえ、研究テーマを考える
6	球場でのフィールド調査準備	グループに分かれフィールド調査に向けての準備	
7	球場でのフィールド調査準備	グループに分かれフィールド調査に使用するアンケートの完成	事前：アンケートの完成
8	球場でのフィールド調査実施	「京セラドーム大阪」でのアンケート調査実施	事後：アンケートの集計
9	アンケート結果のチェックと集計	全体でのアンケート結果の集計作業と整理	
10	アンケート結果のチェックと集計	全体でのアンケート結果の集計作業と整理	事後：作業の完成
11	グループ別アンケート結果の分析	グループごとのアンケート結果の集計作業と整理	事後：作業の完成
12	グループ別アンケート結果の分析	グループに分かれての分析作業	事後：作業の完成
13	プレゼンテーション準備	グループに分かれレポート・プレゼンテーション資料作成	事後：資料修正
14	プレゼンテーション準備	グループに分かれプレゼンテーションのリハーサル	事後：資料完成
15	プレゼンテーション	グループ別発表会	事前：発表準備

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	プレゼンテーション評価50%、授業、フィールド調査への参加態度50%を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	経済学を生の事例を通して実践的に学ぶユニークな授業です。変則的な授業日程でも参加する意思があり、また、集計・分析、プレゼンテーションのためにエクセル、パワーポイントに習熟していることが望ましい。
担当者の研究室等	1号館7階 郭准教授室(経済学部)
備考	

キャリア形成科目

科目名	キャリアプラン	科目名(英文)	Career Plan
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		

授業概要・目的	本講義は就職活動に関する知識と実践技法も学ぶための講義である。 学生生活での学びを活かし、社会で求められ、活躍できる人材(人財)になるために何をすべきかを考えられるようになる。
到達目標	自分を振り返り、社会をよく知り、選択肢を発見し、自分の事を他者に伝えられるようになることを目標とする。 その結果、満足のいく就職活動、進路選択ができるようになる。
授業方法と留意点	講義ではセルフワークとグループワークを織り交ぜて行うため、能動的な姿勢が求められる。
科目学習の効果(資格)	授業を通して自分の成長に気づき、人に自分の意思が伝えられるようになる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・講義の目標、進め方、評価方法の解説	・配布資料を熟読すること。
	2	ビジネス研究①	・業界・会社・職種を知る	・どんな業界があるのかを調べること。
	3	ビジネス研究②	・成長企業のキーワード ・会社研究について	・どんな会社があるのかを調べること。
	4	ビジネス研究③	企業の多様なビジネスの事例を知る	・ビジネスモデルについて調べること
	5	ビジネス研究④	・会社の経営理念について考える ・ブラック企業問題について考える ・いい会社とは何かについて考える	・自分のワークスタイルを考えること。
	6	ビジネス研究⑤	・事業立案のフレームを学ぶ ・グループでビジネスプランを立てる	・グループへの貢献の仕方を考えること。
	7	ビジネス研究⑥	・グループでプレゼンテーション	・プレゼンテーションの準備をしておくこと。
	8	自分を知る①	・自分の将来を描いてみる	・自分の未来について考えること。
	9	自分を知る②	・自分の強み、学生生活を振り返る	・自分について振り返ること。
	10	自分を知る③	・ワークシートを使って自分の特性を確認する	・自分の特性について考えること。
	11	自分のことを伝える	・エントリーシートとは何かを知る ・読み手の着眼点を理解する	・エントリーシートを作成する準備をしておくこと。
	12	グループでのコミュニケーション①	・グループディスカッションを学ぶ	・グループへの貢献の仕方を考えること
	13	グループでのコミュニケーション②	・グループディスカッションを学ぶ	・グループへの貢献の仕方を考えること
	14	面接における対人コミュニケーション①	・面接における対人コミュニケーションについて考える ・面接のメカニズムを知る	・模擬面接の準備をしておくこと。
	15	講義のまとめ	・成果を上げるための行動計画立案 ・講義のまとめ	・提出物など、出し忘れが無い確認すること。

関連科目 ・経済キャリア入門、キャリアデザイン、ビジネスマナーⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ、数的能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	講義での提出物と授業態度(30%)、期末レポート(50%)、授業での課題(20%)を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	みなさんの将来のことを一緒に考えましょう。
担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室(水野)
備考	参考文献・書籍は必要に応じて適宜提示する。

キャリア形成科目

科目名	経済キャリア入門	科目名(英文)	Introduction to Career Design for Economics Students
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	ABCDEFGHIJ
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	野村 佳子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	キャリアを考えることは、将来どんな職業に就きたいかということだけでなく、どのような生き方をしたいかということに連なる問題です。人生の大半を占める職業生活を充実したものにするためには、自分の適性や価値観を知ったうえで職業についての理解を深め、進路を選択していく必要があります。この授業では、講義だけでなく、演習等も取り入れ、自分のキャリア形成に主体的に取り組んでいく力を身につけることを目的とします。
到達目標	観光経済と地域経済および国際経済に関連する職業について理解を深めること、社会で求められる人材像を理解すること、生涯にわたるキャリアを主体的に考えていく能力を涵養することを目標とします。
授業方法と留意点	授業は配布資料を用いた講義が中心になりますが、映像資料なども取り入れてわかりやすく進めていきます。学生が主体となるグループディスカッション(演習)も行いますので、積極的に参加してください。
科目学習の効果(資格)	地域経済と観光経済および国際経済に関連する職業について理解を深めます。また、授業を通して自分自身の価値観や適性を知り、将来像に向かって大学生生活を有意義に送るための主体性を身につけます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の概要と進め方および大学で学ぶこととキャリアとの関係を講義する	事後：配布資料の復習
2	働くということ	働くとはどういうことかを考え、多様な働き方について理解を深める	事後：配布資料の復習
3	学生と社会人の違いについて	社会人として求められるマナーや態度について講義する	事後：レポート提出
4	一般常識テストに挑戦!	いわゆる「一般常識」をどれだけ身につけているかを知り、今後の大学生活を考えるきっかけとする	事後：出題問題の復習
5	職業理解(1)	観光経済、地域経済および国際経済に関連する職業について理解を深める	事後：感想文提出
6	職業理解(2)	観光経済、地域経済および国際経済に関連する職業について理解を深める	事後：感想文提出
7	職業理解(3)	観光経済、地域経済および国際経済に関連する職業について理解を深める	事後：感想文提出
8	SPIに挑戦!	就職活動の中で実施されることが多いSPIの模擬試験を受験する	事後：出題問題の復習
9	先輩の体験から学ぶ	経済学部の上級生による大学生活や就活の体験談を聴講する	事後：感想文提出
10	能力開発とキャリア	働くうえで必要な能力の開発とキャリアの考え方について理解する	事後：感想文提出
11	社会で求められる人材について(1) (演習:グループディスカッション)	社会で求められる人材についてグループディスカッションを行う	事後：レポート準備
12	社会で求められる人材について(2) (演習:グループディスカッション)	グループディスカッションの結果をレポートにまとめる	事後：レポート提出
13	社会で求められる人材について	社会で求められる人材について講義する	事後：レポート提出
14	企業の採用活動	企業の採用活動と人材戦略について講義する	事後：配布資料の復習
15	まとめ	授業全体を通してのまとめと補足	事後：レポート提出

関連科目	観光学入門
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(50%)と課題提出・演習への参加・受講態度等による平常点(50%)を総合的に評価します。
学生へのメッセージ	本授業を自分の将来像を描く一助として、目標に向かって有意義な大学生活を送ってほしいと思います。皆さんの授業への積極的な参加を期待しています。
担当者の研究室等	1号館7階 野村准教授室(経済学部)
備考	

キャリア形成科目

科目名	経済キャリア入門	科目名 (英文)	Introduction to Career Design for Economics Students
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	1年	クラス	KLMNOPQRST
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	田井 義人
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP2◎, DP3◎, DP4◎, DP5◎, DP6◎, DP7◎, DP8◎, DP9◎		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアを考えることは、将来どんな職業に就きたいかということだけでなく、「どのような生き方をしたいか。」を考えることが重要です。 ・時間の余裕がある大学生の時期に、職業に対する自分の適性や価値観を知ることが重要です。 ・本講義では、以下の3つの内容の修得を目的とします。(1) 礼儀、個々人のコミュニケーション力、集団での意志表現力。(2) 目標管理とスケジュール作成力。(3) 観光関連、地域関連および国際経済関連産業の職業とそこで求められる人材像の理解。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業概要・目的の講義内容から、自分のキャリアを主体的に考える習慣を身につけること ・決められた課題を期限内に達成する習慣を身につけることまた提出回数などを遵守し、計画的に就学の習慣をつけること ・経済学部学生としてのキャリア形成に必要な考える習慣を身につけること以上をを到達目標とします。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は、教科書を用いた講義を中心に進めますが、必ず参加が必要なコミュニケーションの実践やグループディスカッション(演習)も行います。 ・参加意欲、積極的な意思表示、真摯な受講態度を重視します。 ・他の受講生に迷惑になる行為に対しては、厳格に対応します。 ・授業目的を達成するため、毎回のレポート提出を重視します。
科目学習の効果(資格)	地域、観光および国際経済産業の仕事を理解することと自分自身の価値観や適正を知ることおよび主体的に行動することの重要性を知ること、大学生生活を有意義に過ごし、将来像を描ける学習効果を修得します。

キャリア形成科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	【外部講師講演】 ・民間企業の代表取締役社長の講演 ・働くために必要なこと。働き方を考える	・働くとはどういうことかを考え、多様な働き方について理解を深める。 ・積極的かつ自立した学外活動の必要性の理解を深める。	事後：配布資料の復習。アンケート回答②
3	教科書内容： ・自制心が筋肉と似ている理由。 ・「人は間違った衝動」を信用する。 ・欲求と幸せと勘違いする理由	教科書内容に沿って講義する。	事前：教科書第3章、第4章、第5章の熟読と自己体験の比較 事後：レポート提出③
4	【演習】 自己理解のための「キャリアマップ」	「キャリアマップ」を使って、自分の性格や適正を知る。	事後：出題問題の復習 レポート提出④
5	【職業理解(1)】	観光、地域経済及び国際経済関係の仕事について理解を深める。	事後：感想文提出⑤
6	【職業理解(2)】	観光、地域経済及び国際経済関係の仕事について理解を深める。	事後：感想文提出⑥
7	【職業理解(3)】	観光、地域経済及び国際経済関係の仕事について理解を深める。	事後：感想文提出⑦
8	【試験体験】 SPIに挑戦！	・就職活動の中で実施されることが多いSPIの模擬試験を受験する。 ・知識レベルの確認と対策の認識。 ・学習支援センター、資格サポートセンターの活用方法の紹介。	事後：出題問題の復習
9	【職業理解(3)】 先輩たちと語る。	・内定を得ている4年生の先輩から学生生活や就活について話を聞く。 ・先輩への質問から今後の学習等について気づきを得る。	事後：感想文提出⑧
10	【演習】 社会で求められる人材について(1) (演習：コミュニケーション能力)	社会で求められる人材能力としてのコミュニケーション演習を行う。	事後：レポート提出⑨
11	【演習】 社会で求められる人材について(2)-1 (演習：グループディスカッション能力)	社会で求められる人材能力としてのグループディスカッション演習を行う。	事後：グループ毎に第12回目発表のグループワークをまとめる 感想文提出⑩
12	【演習】 社会で求められる人材について(2)-2 (演習：グループディスカッション能力)	第11回で実施したグループディスカッション演習の内容をグループワークにまとめる。	事後：グループワークの内容復習 感想文レポート提出⑪
13	教科書内容： ・気分の落ち込みが挫折に繋がる。 ・快樂の経済学 ・意志力はうつる。	教科書内容に沿って講義する。	事前：教科書第6章、第7章、第8章の熟読と自己体験の比較 事後：レポート提出⑫
14	【講演】 スケジュールリングの重要性	・目標設定と目標に向かうスケジュールリングの重要性を知る。	事後：配布資料の復習 感想文提出⑬スケジュール表の提出⑬

	15	教科書内容： ・「やらない力」の限界 ・自分自身をじっとみつめる。 ・まとめ	・スケジューリングの実践を行う。 ・教科書内容に沿って講義する。 ・講義全体を通してのまとめと補足	事前：教科書第9章、第10章の熟読と自己体験の比較 事後：レポート提出⑩																
関連科目	観光学入門 地方自治論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>スタンフォードの自分を変える教室</td> <td>ケリー・マクゴニカル</td> <td>大和書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	スタンフォードの自分を変える教室	ケリー・マクゴニカル	大和書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	スタンフォードの自分を変える教室	ケリー・マクゴニカル	大和書房																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義内容について、レポートの作成や感想文を求める。 ・定期試験 (50%) レポート (20%) 受講態度 (30%) で総合評価する。受講態度はレポートの提出回数 12 回以上を重視する。提出回数は評価に加える。 ・本講義は、説明だけでなく演習などの参加型の場合もあるので、その習熟度結果報告であるレポート、感想文提出を含めた受講態度を重視する。 																			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活ほど多くの時間を有する時間は無い。人生のこの時期に「考える習慣」や「社会と関わる術」などを取得して欲しいと思います。 ・大学生活を有意義に過ごす行動指針に利活用して欲しいと思います。 ・提出物に質問や意見を記載する自由記入欄を必ず設けますので、意見がある場合は、そこに記入してください。 ・講義に出席しないと評価を受ける方法がないので注意してください。 																			
担当者の 研究室等	1号館7階 田井准教授室 (経済学部)																			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・講義の進捗に関わらず、選定した教科書を熟読し、自己体験と比較する習慣を勧める。 ・納得できる内容とそうでない内容について、しっかりと認識し、表現できることを目指します。 ・騒ぐなど他の受講生に迷惑を及ぼす場合は、退席などを求める。 																			

科目名	数的能力開発	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	永見 誠二
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		

授業概要・目的	中学・高校の授業の中で数学が嫌い・苦手だったという人は多いと思います。この授業では社会人として必要とされる基礎的な数学力を身につけることを目的としています。社会人として算数・数学を使う場面は意外と多いですし、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。そのために、現段階から算数・数学を学習することで、数学の問題が解けるようになります。
到達目標	社会人として必要とされる基礎的な数学力が身につけていること
授業方法と留意点	授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。
科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
	2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
	3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
	4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
	5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
	6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
	7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
	8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	9	社会で使う算数・数学②	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
	10	社会で使う算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
	11	社会で使う算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
	12	社会で使う算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
	13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
	14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
	15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目	キャリアデザインⅡ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します
----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
----------	-----------------

備考	成績は、毎回の小テスト40%+中間・期末試験50%+Smart SPI10%でつけます。
----	--

キャリア形成科目

科目名	数的能力開発	科目名(英文)	Development of Arithmetic Ability
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	中学・高校の授業の中で数学が嫌い・苦手だったという人は多いと思います。この授業では社会人として必要とされる基礎的な数学力を身につけることを目的としています。社会人として算数・数学を使う場面は意外と多いですし、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われます。そのために、現段階から算数・数学を学習することで、数学の問題が解けるようになります。
到達目標	社会人として必要とされる基礎的な数学力が身につけていること
授業方法と留意点	授業はオリジナル教材を元に行います。講義を自力で解く→解説→類題を解くという流れで、問題を確実に理解し、解けるようにしていきます。授業に集中して望むことで、社会で必要とされる算数・数学の力が向上するでしょう。また、毎回小テストをするので講義で取り扱った問題の復習、宿題は必ず行うようにしてください。
科目学習の効果(資格)	大学生・社会人として必要最低限の数学の素養を身につける。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	実力テスト	講義概要説明、実力テストの実施	実力テストの復習
	2	算数・数学の基礎	方程式の基礎	講義で取り扱った問題の復習
	3	算数・数学の文章題①	割合の文章題	講義で取り扱った問題の復習
	4	算数・数学の文章題②	金銭問題の文章題	講義で取り扱った問題の復習
	5	算数・数学の文章題③	分数の文章題	講義で取り扱った問題の復習
	6	算数・数学の文章題④	速度の文章題	講義で取り扱った問題の復習
	7	復習①	復習①	今まで学習した問題全てを事前に復習
	8	中テスト	中テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
	9	社会で使う算数・数学②	場合の数	講義で取り扱った問題の復習
	10	社会で使う算数・数学②	集合問題	講義で取り扱った問題の復習
	11	社会で使う算数・数学③	図表問題	講義で取り扱った問題の復習
	12	社会で使う算数・数学④	論証問題	講義で取り扱った問題の復習
	13	社会で使う算数・数学⑤	推理問題	講義で取り扱った問題の復習
	14	復習②	復習②	全ての問題を事前に復習
	15	最終テスト	最終テスト	全ての問題を事前に復習

関連科目	キャリアデザインⅡ
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業態度・出席状況・小テスト・テストなどから判断します
----------	-----------------------------

学生へのメッセージ	算数や数学を楽しんで学習してください。 また、質問はどんなことでも遠慮なく質問すること。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 キャリア教育推進室
----------	-----------------

備考	成績は、毎回の小テスト40%+中間・期末試験50%+Smart SPI10%でつけます。
----	--

キャリア形成科目

科目名	ビジネスマナー I	科目名 (英文)	Business Manner I
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー (DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		

授業概要・目的	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。 企業等のビジネス組織において積極的なビジネス・コミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。
到達目標	クリエイティブなビジネスパーソンとして求められる実務能力の開発とキャリア形成について探求し、「わかることからできること」への一致を目標とする。
授業方法と留意点	ロールプレイやグループワークを多く取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果 (資格)	社会人としての第一歩を踏み出すための素養が身に付く。

キャリア形成科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション -あいさつの重要性 (理論と実践)	・授業のオリエンテーション ・授業のルール ・あいさつの真の意味とは ・正しい基本姿勢を学ぶ	・事前学修：ビジネスマナーとは何かを考える。 ・事後学修：ビジネスマナーの意義とは何か、400字でまとめる。
2	仕事の進め方と組織活動	・定型業務と非定型業務 ・コスト意識とエコ活動 ・仕事の基本の8つの意識 ・話し方と聞き方	・事前学修：仕事の基本の8つの意識について調べる。 ・事後学修：仕事の取り組み方の基本は何か、まとめる。
3	目標設定と PDCA サイクル	・目標設定 (MBO) ・PDCA とは ・チームと個人の役割	・事前学修：PDCAについて調べる。 ・事後学修：あなたの日常生活における MBO と PDCA を考え、まとめる (400字以上)。
4	スケジュールと出張業務	・スケジュールの作り方 ・業務としての出張-YTT 方式-	・事前学修：あなたの1週間予定表を作成する。 ・事後学修：あなたの予定表を作成提出し、改善点をまとめる。
5	ビジネスの場での敬語表現	・基本的な敬語表現の復習 ・ビジネスの場での使用方法-TPO をもとに-	・事前学修：敬語プリント①をする。 ・事後学修：ケーススタディプリントをする。
6	法的業務	・押印と印鑑の意味 ・内容証明 ・個人情報保護 (P マーク) ・コンプライアンス	・事前学修：コンプライアンスについて調べる。 ・事後学修：個人情報保護法についてレポートを作成する (400字以上)。
7	ホウ・レン・ソウ	・ビジネスにおける「報連相」 ・指示の受け方 ・業務の優先順位	・事前学修：報告・連絡・相談の重要性について調べる。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。敬語プリント②をする。
8	電話応対	・ビジネスフォンの扱い方 ・5W2Hから6W3Hへ ・簡潔メモの作り方 ・不在処理と伝言	・事前学修：電話応対プリントをする。 ・事後学修：ロールプレイングを繰り返す。
9	来客応対	・組織図と対応 ・簡単な応対から不在処理や重複処理まで ・名刺交換	・事前学修：来客対応プリント①をする。 ・事後学修：来客対応プリント②をする。
10	設営の基本	・YTT 方式からの業務遂行 ・確認の必要性 ・他部署とのコミュニケーションの必要性	・事前学修：同窓会幹事として同窓会を開くことを想定し、おこなうべきことをまとめる。 ・事後学修：設営事例をまとめる。
11	ビジネス文書の基本①	・社外文書が基本 ・商取引文書と社外文書の相違 ・社内文書と社外文書の種類 ・ファイリング	・事前学修：ビジネス文書①をする。 ・事後学修：ビジネス文書②をする。
12	ビジネス文書の基本②	・実践	・事前学修：ビジネス文書③をする。 ・事後学修：ビジネス文書④をする。
13	ビジネス通信の基本	・通信手段 (電子メール、ファックス等) の選択 ・作成上の注意点 ・郵便・宅配便の知識	・事前学修：郵便の知識プリント①をする。 ・事後学修：メール文書を作成する。
14	慶弔と贈答	・慶弔時の基本的マナー ・「式」について ・業務としての贈答	・事前学修：慶弔・贈答プリント①をする。 ・事後学修：ビジネス文書 (社外社内)、郵便の知識、慶弔のマナーのポイントをまとめる。
15	協働とコミュニケーション	・外国人同僚・異文化への対応 ・働き方とキャリア開発 ・公共の場でのマナー	・事前学修：ビジネス実務能力を身に付け、グローバル社会へ対応していく決意を示す。 ・事後学修：全体をまとめる。

関連科目 キャリアデザイン I・II、インターンシップ I・II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ロールプレイ等のワーク (20%)、複数回のレポート (40%)、期末試験 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	近年、企業等のビジネス組織では、かつての新入社員研修のような研修制度を充実できるほどの経済的・時間的余裕がなくなった。しかしながら、企業等のビジネス組織ではみなさんの「ビジネス実務能力」が問われている。それは一時的な能力ではなく、学生時代から培うことのできる能力や資質であり、みなさんが意識を変え、学ぶことによって、「わかることからできること」の一致の重要性が理解され、社会人としての第一歩を築くことも可能となる。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

科目名	ビジネスマナーⅡ	科目名(英文)	Business Manner II
学部	経済学部	学科	経済学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	奥田 和子
ディプロマポリシー(DP)	DP1◎, DP7◎, DP9◎		

授業概要・目的	企業等のビジネス組織における積極的なコミュニケーションや人間関係調整の必要性をビジネスマナーの視点から考え、ビジネス実務能力とは何かを理解する。 社会生活におけるマナーの重要性を認識し、社会人としての基礎であるビジネス実務能力を養う。
到達目標	社会人としてのコミュニケーション能力(非言語ならびに言語能力)とビジネス実務能力の向上を図ることである。
授業方法と留意点	第一に、社会人として理解し、行動に移さなければならない知識や技能としての実務領域を体得する。 第二に、ロールプレイやワークを取り入れるため、学生の積極的な参加が求められる。
科目学習の効果(資格)	ビジネス実務能力が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ビジネスマナーからビジネス実務へ	・授業のオリエンテーション ・ビジネスにおける最低限のルール確認 ・ビジネス用語の基本	・事前学修: ビジネスマナーⅠを受講した学生は学んだことを復習する。 受講していない学生は自身のマナーについて考える。 ・事後学修: オリエンテーション内容についてレポートを作成する。
2	正しい姿勢と動作	・第一印象の重要性の確認 ・姿勢のワンポイントアドバイス	・事前学修: 自身の第一印象の良い点、改善すべき点をメモする。 ・事後学修: その第一印象の重要性についてレポートを作成する。
3	PDCA サイクルと YTT 方式	・PDCA サイクルの重要性 ・YTT 方式の活用法	・事前学修: 日常において段取りが悪かった事例の内容を6W3Hでまとめる。 ・事後学修: その改善点を考え、記録する。
4	アサーティブな自己表現	・自分の意思を伝える方法 ・ロールプレイング	・事前学修: 日常において伝えたくても伝えられなかった内容を思い出し、メモする。 ・事後学修: 相手に理解される伝え方についてレポートを作成する。
5	敬語表現と逆説得	・敬語の復習とビジネスにおける「NO」の伝え方	・事前学修: テキスト内の敬語に関する項目を完成する。 ・事後学修: 逆説得をまとめ、レポートを作成する。
6	環境プロデューサーとしての言動と「誠意」ユニバーサルマナー	・相手の適切な言動を引き出す環境づくりから、空間的及び心理的距離からみえる「誠意」とは何かの考察 ・相手の立場を考えたユニバーサルマナーを考える	・事前学修: 「環境プロデューサー」の意味を考え、理解する。 ・事後学修: 「誠意」の意味とコミュニケーションにおける距離を理解し、レポートを作成する。
7	「確実・迅速・丁寧」と信頼関係	・信頼関係の構築方法とコミュニケーションを築くキーワード	・事前学修: 日常生活において「確実・迅速・丁寧」に行動できているか振り返る。 ・事後学修: ビジネスにおいてなぜ「信頼関係」が必要なのか理解し、レポートを作成する。
8	処理業務の基本と応用クレーム対応	・来客対応、業務処理、重複業務処理とTPOの関係性 ・具体例とその解決手順を考察	・事前学修: TPO意味を考え、処理業務の事例からその解決手順を考える。 ・事後学修: 処理業務に関するレポートを作成する。
9	設営の基本 会議運営方法、プレゼンテーションの方法	・設營業務の基本 ・会議に参加する心構え	・事前学修: 会議に参加するための心構えを考える。 ・事後学修: YTT方式を基に工程表を手直しする。
10	設営の応用とドキュメント作成	・文書処理、ならびにビジネス文書の書き方とファイリング	・事前学修: 手順を理解したら、人が集まる会合等を企画・計画する。 ・事後学修: 企画文書、開催通知を作成する。
11	ケーススタディ①	・事例研究	・事前学修: 自ら優先順位を決め、処理する手順を考える。 ・事後学修: ケーススタディプリント①をする。
12	ケーススタディ②	・事例研究	・事前学修: 実務処理能力を高めることを理解する。 ・事後学修: 「わかることからできること」に関するレポートを作成する。
13	わかることからできることへ	・必要とされるビジネスマナーおよび実務内容のまとめ	・事後学修: ビジネスマナーを再考し、その必要性を頭の中で理解し、「わかる」という段階から、身体と心の一致である行為を促し、「できる」という実践へ移行させると同時に、自信へと繋ぐ。
14	キャリア開発と自己啓発	・自分で実践するキャリア開発	・事前学修: キャリア開発の必要性は何を意味しているか、将来にとってどのように必要か考える。 ・事後学修: キャリアに関するレポートを作成する。
15	振り返りとまとめ	・授業の振り返り	・事後学修: ライフプランの中のキャリアプランを立案、評価する。

関連科目	キャリアデザインⅠ・Ⅱ、インターンシップⅠ・Ⅱ
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『ビジネス実務ワーク』	石井三恵、他	泉文堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『ワークブレイス共生論』	佐藤啓子、石井三恵、他	嵯峨野書院
	2			
	3			
評価方法 (基準)	ワークならびに小テスト (30%)、レポート (30%)、期末試験 (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	ビジネスの基本は、幼いころから家庭や学校で学んだことの延長線上にあります。決して初めて学ぶことではありません。だれもが過去に成功体験や失敗体験を数多く持っており、それを振り返ることから始まります。まずは、TPO を考え、自分の言動を意識してみましょう。			
担当者の 研究室等	7号館5階 キャリア教育推進室 (石井)			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。レポート作成ならびに定期試験前の学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。			

教 職 科 目



科目名	教育課程論	科目名 (英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	(1) 教育課程(カリキュラム)とは何かについて考える。教育課程(カリキュラム)はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。また、同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。 (2) わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りである。 (1) 学校教育における教育課程の意義について理解できる。 (2) 将来、教職に就いた際、適切な教育課程(カリキュラム)を計画・編成し、かつ、実践、評価できる資質が身につく。
授業方法と留意点	テキストや資料を中心に授業を進める講義形式が基本となるが、扱うテーマによってはグループワークを導入するなど、学生一人一人の授業への主体的な参加が求められる。また、授業準備として各自が取得する免許教科の中学校・高等学校の教科書を読んだり、それぞれの教科の学習指導要領を入手し、目を通しておくことが望ましい。また本授業用のノートを一冊準備すること。授業でレジュメを配布予定としているが、板書やパワーポイント資料の中の内容を記述するためのノートを一冊準備しておくこと。
科目学習の効果(資格)	教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	教育課程とは何か/オリエンテーション	学校教育のもつ機能について。	課題：シラバスに挙げているテキストの該当する分を読んでおくこと。
2	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅰ	戦前から戦後(経験主義～系統主義：高度経済成長期)の教育課程変遷について。	課題：テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
3	日本における教育課程の歴史的変遷Ⅱ	1970年代以降、「ゆとり」への標榜から「生きる力」、そして現在までの教育課程変遷について。	課題：テキストの該当部分と授業(第1回目)で配布する資料に目を通しておくこと。
4	教育課程(カリキュラム)の概念と構造、および教育課程編成について	教育課程の編成要素(内部要因と外部要因)について。	課題：シラバスに挙げているいずれかのテキストの該当部分を読んでおくこと。
5	教育評価 その1	子どもたちの発達段階にふさわしい評価の方法とその特質について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。
6	教育評価 その2	教育課程評価について。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
7	『総合的な学習の時間』について	導入の背景とそのねらいについて(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
8	新しい教育課程 その1	「キャリア教育」について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
9	新しい教育課程 その2	「アクティブラーニング」について。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
10	新しい教育課程 その3	「社会に開かれた教育課程」について。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
11	教育課程と教育改革 その1	特色のある学校づくり＝小中高編(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
12	教育課程と教育改革 その2	カリキュラム・マネジメントについて。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
13	教育課程と教育格差 その1	学力格差と学力低下問題について(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
14	教育課程と教育格差 その2	教育格差に抗する学校の取り組みについて(学生グループによる発表を予定)。	課題：本時テーマについて調べてくる(A4一枚程度、詳細は授業で伝える)。
15	総括：教育課程をめぐる諸問題	海外の学校教育課程の動向、及び、キー・コンピテンシー(OECD)について。	課題：事前に配布した資料を読んでおくこと。

関連科目 教職科目全般と関連がある。他の教職科目と重なる所や特徴点を整理していくことが重要。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) 出席(8割以上必須)、学期末試験(単位取得のためには60点以上必要)、中間試験(予定)、レポート及び授業態度や授業への貢献度(発表を含む)など総合的に評価を行う。特に、学期末試験の結果は成績評価に大きく影響することから、日頃からしっかりと予習復習を怠らないこと。また、遅刻、欠席が多い者については成績評価の対象から外すので注意すること(原則、第一回目から全15回出席すること)。

学生へのメッセージ
 1. 第一回目の授業は必ず出席すること。
 2. 欠席・遅刻はしない。
 3. 私語はしない。
 4. グループワークでは何事にも積極的に取り組む。
 5. 授業内容の復習を怠らないこと。
 6. 授業内容で分からない点については遠慮せずに質問する。

担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室)
備考	2009年度以前入学生は、(高校)教免取得上選択 授業計画、及び内容は授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 テキストに代わる配布資料(『新教育課程ライブラリ』、発行：ぎょうせい)を使用予定)については事前に該当箇所を配布します。

科目名	教育経営論	科目名(英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本科目では、公教育システムに関してなじみの深い事例を参照し、そこから政策や法制、機構、理論や論争、現実や実態を明らかにし、検討していきます。これを通して、私たちにあってはあたりまえで意識することもないような、学校教育を中心とした公教育システムのしくみやはたらきについて理解します。
到達目標	例えば「何をどう教えるのか」という内容的・技術的な事柄も実はさまざまな制度やその運用の仕方などによって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果(資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 公教育とは	授業概要、方法としてのLTDについて説明 公教育の成立前史 教育における「公」と「私」	シラバスを読んでくる。
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」 教育権論争について簡単なグループワーク	テキスト第3章1節を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育の制度原理 「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク	テキスト第3章2節を読んでくる。
4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第7章1・2節を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	選別・分離と接続・統合 「選抜・選別」について簡単なグループワーク	テキスト第3章3節を読んでくる。 学校の機能に関する配布資料を読んでくる。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか 学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク	テキスト第7章2・3節を読んでくる。 学校統廃合に関する配布資料を読んでくる。
7	学校の組織管理	教職員配置と組織編制	テキスト第4章1・2節を読んでくる。
8	学校経営の新しい動向	「開かれた学校」 学校評議員制度、学校運営協議会制度 地域運営学校について簡単なグループワーク	テキスト第4章3・4節を読んでくる。 コミュニティスクールまたは学校参加に関する配布資料を読んでくる。
9	教育課程経営	学習指導要領の性質と特徴の変遷 学力論争と教育評価論 学力低下論争をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第10章1・2節を読んでくる。 学力低下論争に関する配布資料を読んでくる。
10	教科書制度と指導行政	教科書検定 教科書採択 制度をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第10章3・4節を読んでくる。 教科書検定または教科書採択制度に関する配布資料を読んでくる。
11	社会教育行政	社会教育と生涯学習 社会教育の理念と展開	テキスト第8章1・2節を読んでくる。
12	生涯学習社会への移行と生涯学習振興	社会教育行政の運営原則 社会教育の諸制度 社会教育不要論をめぐって簡単なグループワーク	テキスト第8章3・4節を読んでくる。 社会教育不要論に関する配布資料を読んでくる。
13	教育行政のはたらきと地方教育行政組織	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク	テキスト第2章1節を読んでくる。 教育委員会制度の動向に関する配布資料を読んでくる。
14	国の教育行政と地方との関係	国の教育行政を動かす組織のしくみとはたらき 教育行政関係の新しい動向	テキスト第2章2・3節を読んでくる。
15	教育費と教育財政	教育財政の考え方 国・地方の教育費と教育財政 義務教育費国庫負担制度とその改革 学校財務	テキスト第6章を読んでくる。

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育社会学」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教育行政学 (改訂新版)	勝野正章・藤本典裕	学文社
2				
3				

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート内容 30%、グループワーク・ピア評価 10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。			
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。			
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室			
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。			

科目名	教育原理	科目名(英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小山 裕樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	あなたは、「そもそも「教育」とはいったい何なのだろう」と疑問に思ったことはありませんか。あるいは、この疑問と関連して、次のように問うてみたことはありませんか。すなわち、「教育を受けることで、自分は本当に「善く」なったのだろうか。」「いやむしろ、教育を受けることで、何らかの「型」にはめられてしまったのではないか。」「教育には、今あるいわゆる「学校教育」のようなあり方しか存在しないのだろうか」……などなど。この授業では、以上のような素朴な、とはいえ重要な問いを大切にしながら、「教育」という営みについてもう一度丁寧に考え直してみることが目的とします。なお、その際に参考にするのは、「教育」に対して真摯に向き合った思想家たちの思索や、「教育」の歴史です。これらの思索や歴史を踏まえることで、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができるようになります。
到達目標	「教育」をめぐり思想や歴史に関する基礎的な知識や考え方を身に付けたいという、受講者たちがそれぞれに「教育」について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行います。とはいえ、毎回授業の最後に受講者にコメントペーパーを書いてもらって次の授業中にその内容のいくつかを紹介することで、受講者が相互に関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して主体的かつ多角的に考えを深められるよう配慮します。
科目学習の効果(資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得 (3) 学芸員資格の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス:教育を原理的に考察すること	教育を原理的に考察することの意味を考える。	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。
2	動物と人間の違い①	「野生児」の例から教育について考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」は教育されるべきであったかについても一度考える。
3	動物と人間の違い②	「野生児」の例から教育について引き続き考察を深める。	二回分の授業の内容を踏まえたうえで、「野生児」の教育についてより広い観点から考察を深める。
4	教育をめぐり諸論①:「教える」と「学ぶ」	①教育という営みを構成している二大要素である「教える」と「学ぶ」の関係について考える。 ②ヘレン・ケラーの「学び」を事例として、「学び」を形成している諸側面について検討する。	「教える」と「学ぶ」の違いや関係について、授業後にもう一度整理しておく。
5	教育をめぐり諸論②:「発達」と「生成」	いわゆる「発達」論と「生成」論に含まれている「教育」観(あるいは「人間形成」観)の質的な違いについて考える。	「発達」と「生成」の違いについて、授業後にもう一度整理しておく。
6	教育をめぐり諸論③:「子ども」観の歴史の変遷と「子どもの権利」	①「子ども」観や親子関係に対する見方が、古代から現代まで歴史的にどのように変遷してきたのかを概観する。 ②「子ども」観の歴史の変遷を踏まえたうえで、「子どもの権利条約」が制定されるまでの経緯を確認する。	「子ども」一般に対して自分が抱えているイメージを思い起こしておく。さらに、授業の内容を踏まえたうえで、授業後にもう一度自分の「子ども」観について考えてみる。
7	教育の思想の歴史①	ロック、ルソーらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
8	教育の思想の歴史②	ペスタロッチ、フレーベルらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
9	教育の思想の歴史③	ヘルバルト、デューイらの教育思想について概観し、考察を加える。	授業のなかで扱った教育思想の特色を、授業後にもう一度整理しておく。
10	日本の教育の歴史①	明治期の日本における近代学校制度の成立と展開の過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
11	日本の教育の歴史②	大正自由主義教育運動から、大戦中の教育、そして戦後教育改革へとという歴史の展開過程について概観する。	授業のなかで扱った内容を授業後に復習しておく。
12	教育と権力①	ミシェル・フーコーの規律訓練論について概観し、教育を権力論との関わりから捉え直す。	教育と権力との関わりについて、授業後にもう一度考えてみる。
13	教育と権力②	①権力論の新たな展開の例として「環境管理型権力」の問題について扱う。 ②いわゆる「教育空間論」について考えを深める。	「教育空間論」の可能性について、授業後にもう一度考えてみる。
14	媒介者としての教師	様々な困難のなかで立たされつつも、極めて重要な役割を与えられる教師のあり方を、「媒介者」という観点から考える。	「自分が将来どのような教師になりたいか」を考えておく。
15	まとめと補足	授業に関してまとめの考察を行う。	授業時に指示する。

関連科目 教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	西洋教育思想史	眞壁宏幹	慶應義塾大学出版会
2			
3			

教職科目

評価方法 (基準)	毎回の授業中に書いてもらうコメントペーパーや、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。なお、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る者に対しては厳正に対処をしますので、学生としての自覚と覚悟をもって授業に参加すること。
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。
担当者の 研究室等	7号館4階(小山研究室)
備考	

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	(1) 教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、授業が効果的に展開できるようにする。(2) 教育実習の実際についての情報を提供し、受講者は、それらに基づく様々な演習を経て、発表や討議を行う。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的な心構えを身に付ける。
到達目標	(1) 教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、授業が効果的に展開できるようにする。(2) 教育実習の実際についての情報を提供し、受講者は、それらに基づく様々な演習を経て、発表や討議を行う。(3) 教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的な心構えを身に付ける。
授業方法と留意点	基本的には演習形式で授業を進めます。
科目学習の効果 (資格)	教員免許 (中学校・高等学校) 取得上必修科目です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 教育実習

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	教育実習の実際①	教育実習の内容と形態。	授業時に指示する。
3	教育実習の実際②	教育実習中の勤務の要領、学校の一日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について。	授業時に指示する。
4	教育実習への準備	事前準備と心構えについて。	授業時に指示する。
5	授業の方法と技術	学習指導と教材研究について。	授業時に指示する。
6	学習指導案の作成①	授業の準備と配慮事項。	授業時に指示する。
7	学習指導案の作成②	学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案の作成。	授業時に指示する。
8	学習指導案の作成③	板書計画について。授業の評価とその観点について。	授業時に指示する。
9	模擬授業①	作成した学習指導案に沿った模擬授業と意見交換。	授業時に指示する。
10	模擬授業②	作成した学習指導案に沿った模擬授業と意見交換。	授業時に指示する。
11	模擬授業③	作成した学習指導案に沿った模擬授業と意見交換。	授業時に指示する。
12	模擬授業④	作成した学習指導案に沿った模擬授業と意見交換。	授業時に指示する。
13	学校における人権教育について	人権教育とは。人権教育の現状と課題について。	授業時に指示する。
14	特別支援教育の現状と課題	特別支援教育とは。障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について。	授業時に指示する。
15	まとめと補足	授業のまとめを行う。	授業時に指示する。

関連科目 教職科目全体と関連があるので、これまで学習した内容について、復習し整理しておくことが大切です。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 提出課題の内容や、学習指導案および模擬授業の内容、平常点などによって総合的に評価します。

学生へのメッセージ 教育実習はこれまで学習してきたことの総まとめです。十分に準備をして、ぜひとも良い実習にしてください。

担当者の研究室等 7号館3階 (朝日研究室)

備考

科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月～5月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～5月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～6月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(9月～10月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(11月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び課題提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものは、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。																		

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導等への積極的参加をもって実習を許可する。実習を許可されない場合があることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や掲示等に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個人指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月～5月) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個人指導(4月～5月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～6月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(9月～10月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教育実習体験発表会(10月) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(10月) 教育実習のまとめとして、その意義を確認し、講評を行う。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加、事後指導における体験発表、実習校での実習成績、及び各種提出物による総合評価を行う。いずれか不十分なものがある場合は、単位を認定しない。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	7号館3階																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。																		

科目名	教育社会学	科目名(英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	近年、学校教育現場では様々な問題を抱えるようになってきました。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向があります。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々あります。そこで本講義では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点からとらえ、検討していくことを目標とします。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差問題等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいきます。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 1. 教育社会学の基礎理論と概念について学習する。 2. 現代社会における様々な教育問題について理解する。 3. 教育に関わる諸問題を社会学的観点からとらえ、論理的に思考し、分析し、検討する力を養う。 4. 様々な教育問題に対して、それぞれ意見発表を行い、他者と議論し、解決の方向を見出せる力をつける。
授業方法と留意点	講義形式を中心としますが、ワークショップや体験活動・課外活動、問題理解・解決に向け議論する手法を取り入れるなど、受講生の皆さんの主体的な参加の機会を多く提供します。実際に学校教育現場へ出向き、リアルな学校教育現場の様子を体験し、学ぶ機会もあります。基本的に履修生は全プログラム(週末などに実施される課外活動含む)に出席する義務があります。また、毎時間、講義開始5分間、教育社会学必須単語の小テストを行います。遅刻や欠席が多い場合小テストが0点となりますので気を付けてください。 ○準備学習の具体的な方法 指定しているテキストを購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分を要約する。そして日頃から新聞・雑誌等で教育に関する記事を読み、どのような問題が教育界では話題になっているのかについて情報を収集する。また、毎時間の小テスト対策として必須単語帳に記載されている単語をすべて覚える。

科目学習の効果(資格)	(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：教育に関する社会的、制度的又は経営的事項
-------------	--

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 教育社会学とは	教育社会学という学問の特質、及び、その課題を知る。	事前課題：教科書の序章を読み、疑問点についてまとめてくる。
2	近代学校教育制度	近代国民国家が求めた「学校教育制度」の意義や性格について考える。	事前課題：小テスト対策、教科書の第1章、第2章の要約。
3	教師と子ども	「教師-生徒の関係性」という視点から学校における教育活動全般を考えていく。	事前課題：教小テスト対策、科書の第3章、第4章の要約。
4	校則・体罰・校内暴力	学校が抱える諸問題(体罰等)が発生する背景や要因について考える。	事前課題：小テスト対策、事前に配布する論文資料を読み、要約する。
5	いじめ	学校病理問題の一つである「いじめ」について社会学的観点からいじめが発生する構造について明らかにする。	事前課題：小テスト対策、前に配布する論文資料を読み、要約する。
6	不登校	学校病理問題の一つである「不登校」問題について社会学的観点から迫り、解釈する。	事前課題：小テスト対策、事前に配布する論文資料を読み、要約する。
7	教育格差・階層問題Ⅰ	貧困と格差が子どもたちにもたらす影響について考える。子どもの貧困に関する映画鑑賞(予定)	事前課題：小テスト対策、教科書の第7章の要約。
8	教育格差・階層問題Ⅱ	格差解消に向けた学校、家庭、地域社会等の取り組みについて。	事前課題：小テスト対策、事前に配布する論文資料を読み、要約する。
9	国の教育政策：海外との比較	教育政策、教育費、制度等の観点から日本の教育と海外の教育について比較検討する。	事前課題：小テスト対策、事前に配布する論文資料を読み、要約する。
10	地域と学校Ⅰ	地域社会の変容、それに伴う、学校のあり方について検討する。	事後課題：小テスト対策、事前に配布する論文資料を読み、要約する。
11	地域と学校Ⅱ	地域連携、学社融合の取り組みについての事例研究を行う。	事後課題：小テスト対策、事前に配布する論文資料を読み、要約する。
12	ジェンダーと教育	学校や家庭、社会に潜むジェンダーに関わる問題について考える。	事後課題：小テスト対策、事前に配布する論文資料を読み、要約する。
13	国家と教育	教育の政治化と学校現場において子どもたちや教師たちが直面する問題について考える。	事後課題：小テスト対策、教科書の第9章、及び事前に配布する論文資料を読み、要約する。
14	在日外国人の子どもたち	学校の中におけるマイノリティとしての「外国にルーツのある子どもたち」の状況について考える。	事後課題：小テスト対策、事前に配布する論文資料を読み、要約する。
15	総括	「教育改革」をキーワードにこれからの教育のあり方について考える。	事後課題：小テスト対策、教科書の第10章の要約。

関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教師教育テキストシリーズ『教育社会学』	久富善之、長谷川裕	学文社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	現代教育社会学	岩井八郎、近藤博之	有斐閣ブックス

	2	新版『教育社会学を学ぶ人のために』	石戸教嗣	世界思想社
	3			
評価方法 (基準)	出席・授業貢献度、試験（毎時間行う小テストと期末試験）、学校でのボランティア活動体験報告書（必須）、課題・レポート等により総合的に評価するが、試験で6割以上取れない場合、さらに、出席が80%に満たない者、課題（要約）の提出が十分でない者は成績評価の対象外とする（期末試験の受験資格なし）。遅刻は欠席とする。			
学生への メッセージ	本講義を履修する者は、原則、学校現場での活動経験（学習支援、授業補助、部活指導等内容は問わない長期、短期の無償・有償ボランティア活動）をしている（あるいは今後する予定、過去に経験したことがある）ことが必須条件とします。学校での活動経験のない者については履修期間中、学校で活動することを義務づけます。よって、学校でのボランティア活動をやっていない者、やりたくない者、やる予定がない者は履修しても単位認定しませんのでお気を付けください。また、提出物に関しては締め切りを厳守すること。締め切り以降の提出に関しては受け取りませんが「未提出」扱いとします。			
担当者の 研究室等	7号館3階(大野順子研究室)			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。また、課外活動が通常の時間割外に予定されています。課外活動に参加できない人は本科目の単位を取得することは困難です。また、学校でのボランティア活動への参加も必須です。こちらへの参加ができない人も本科目の単位取得が困難となりますので、ご注意ください。			

科目名	教育心理学	科目名(英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	学校での教育活動において、教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、様々な形で援助していくためにはどうすればいいのか、それを考えていくにあたって必要な、基礎的な知識を身につけることを目標とし、特に、認知的な側面に焦点を当てて議論していく。具体的には、教育について考える際に、ある意味基本となる「発達と学習」、学習者が主体的に学ぶための「学習意欲」、個人差の理解、障害の理解と特別支援教育について考える「個に応じた教育」を中心とする。また、学校を学習の場としてとらえたときの「人間関係」についてもふれることとする。
到達目標	教育心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。そのことにより、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎理論に関する科目」6単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎理論に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程(障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と	教育に対して心理学ができること、発達と教育	—————
2	教育を支える認知機能1	思考(1)……人間の思考の特徴	テキスト第8章、第9章を読む
3	教育を支える認知機能2	思考(2)……思考の発達、メタ認知	テキスト第7章の1、第8章、第9章を読む
4	教育を支える認知機能3	言語(1)……言語の機能、言語の発達	テキスト第9章の2、第11章を読む
5	教育を支える認知機能4	言語(2)……文章理解	テキスト第11章を読む
6	教育を支える認知機能5	記憶(1)……記憶のメカニズム	テキスト第4章、第5章を読む
7	教育を支える認知機能6	記憶(2)……記憶の発達	テキスト第4章、第5章を読む
8	こどもの学び1	様々な学習(1)……学習とは何か、古典的条件づけ	テキスト第1章を読む
9	こどもの学び2	様々な学習(2)………道具的条件づけ、観察学習	テキスト第1章を読む
10	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か……動機づけ過程、期待×価値理論、学習性無力感	テキスト第2章、第3章を読む
11	学習を支える動機づけ2	さまざまな学習意欲(1)……外発的動機づけ	テキスト第2章、第3章を読む
12	学習を支える動機づけ3	さまざまな学習意欲(2)……内発的動機づけ	テキスト第2章、第3章を読む
13	学習を支える動機づけ4	学習意欲を育むために……報酬と罰、評価、目標、教師の対応	テキスト第0章の2、第2章、第3章を読む
14	個に応じた教育1	個人差の理解と教育……ATI、学習方略	テキスト第0章の3、第6章を読む
15	個に応じた教育2	「障害」の理解と特別支援教育	テキスト第13章を読む

関連科目	教育原理、教育相談
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論、理論を实践—	藤田哲也(編著)	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	小テスト30% 期末試験70%
学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
備考	小テストは次回授業時に返却します。定期テストは希望者に返却します。

教職科目

科目名	教育相談	科目名(英文)	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	教育相談の考え方や進め方についての理解を深め、生徒が成長する過程に生じるさまざまな課題や問題に対処するための援助の考え方や実際、カウンセリングの基礎知識と教育相談の技法を身につけることを目標とする。学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的意義を解説し、カウンセリングの基礎知識およびその実践的な手法を紹介する。併せて、「問題」に悩む児童・生徒への実践的な取り組み方を考える。
到達目標	教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。その上で、生徒を援助するための具体的な方法について考えることができる。
授業方法と留意点	講義と演習を組み合わせて行う。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 各科目に含める必要事項：教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業内容、授業の進め方、評価基準等について	—————
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第1章、第2章を読む
3	グループ発表の準備	グループワーク	—————
4	学校教育相談の全体像	校内での役割分担と協力体制、専門機関との連携とその方法	テキスト第12章、第13章を読む
5	学校におけるカウンセリング活動1	カウンセリング活動のいろいろ(1)……治療的カウンセリング活動、予防的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む
6	学校におけるカウンセリング活動2	カウンセリング活動のいろいろ(2)……開発的カウンセリング活動	テキスト第10章を読む
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	—————
8	問題の理解と対応1	問題とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第3章を読む
9	問題の理解と対応2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第3章、第4章を読む
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	教育心理学の復習
11	相談援助活動の実際1	不登校……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第5章を読む
12	相談援助活動の実際2	いじめ……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第6章を読む
13	相談援助活動の実際3	学級崩壊・授業崩壊……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第7章を読む
14	相談援助活動の実際4	反社会的行動……その理解と対応(学生グループ発表)	テキスト第8章を読む
15	教員のメンタル・ヘルス	教員自身が健康であるために、教員への対応	テキスト第14章を読む

関連科目 教育方法論、生徒指導論、教育心理学、教育社会学など。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	学校教育相談	一丸藤太郎・菅野信夫	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法(基準)	グループ発表 50% 期末試験 50%
学生へのメッセージ	これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。
担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
備考	グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。また、全発表中最も評価が高かったグループも、最後にお知らせします。 グループ内ではピア評価を行います。

科目名	教育方法論	科目名(英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	<p>教職課程「教育の方法及び技術」に対応する科目である。授業は、教育方法の歴史と理論を概観する講義、授業の設計・展開から評価に至る授業構成の理解と学習指導を組織化するための基礎的な授業技術と方略を習得するミニ講座、それらに土台に、チームの共同作業によるマイクロ・ティーチングにより構成する。授業を「受ける」立場からではなく、「作る」立場から能動的な学びを経験することになる。</p> <p>それらのことを通じて、つぎのことをめざす。</p> <p>(1) 自己の被教育体験を出発点に、学ぶこと・教えることの意味について考え、学習観・授業観・学校観を問い直す作業を通して、今日の教師に求められる多様な資質・能力についての理解を深める。</p> <p>(2) 「教え込む技術」の習得をめざすのではなく、生徒の生活背景を把握し、生徒の声を聴き取り、生徒どうしをつなぎ、教材の文脈にもどし、教室での出来事に柔軟かつ的確に対処しながら、教室を豊かな学びの場とするような授業を構想する。</p> <p>(3) 教育実践の質を向上させるためには、個々の教師が専門性を向上させるだけでなく、相互に学び合える同僚性を構築すること、教育諸科学研究から新しい知見を摂取し続けることが重要であることを理解する。</p>
到達目標	<p>教師と生徒が意思疎通を図りつつ、相互に作用しながら、主体的に問題を発見し、協力協同しながら解に接近する時空間としての授業を構想することをめざして、</p> <p>(1) 指導目標を適切に設定し、多角的な視点から教材研究を行い、学習指導案を作成するとともに、同僚との協議を踏まえて指導案を改善することができる。</p> <p>(2) 豊富な事例研究を通して、教育実践を対象として分析、批判、省察、再構成できる力を養う。</p>
授業方法と留意点	<p>(1) 講義・ワークを中心に授業を進める。インタラクティブ(双方向的)な授業構成となるよう積極的な参加を求める。私語は厳禁だが、質問や意見提起は歓迎する。</p> <p>(2) 毎回、講義資料とコメントペーパーを配付する。講義資料は各自ファイリングし、「コメントペーパー」は記入・提出すること(編集して、次回に配布し、共有すべき点についてコメントを行う。なお、「コメントペーパー」の返却はできないので、必要な場合はメモを残しておくこと)。</p> <p>(3) 第9～12回でチームによるマイクロティーチングを実施する。また、チーム授業に関するレポートの提出をもとめる(中間レポートとして)。</p> <p>(4) 定期試験を受験すること。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育課程及び指導法に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)</p>

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・現代教育方法論の論点と課題 授業技術ミニ講座①授業びらき・授業じまい	「学力」の登場と学力論争、「問題解決学習」論争、「たのしい授業」論争、「教育技術」をめぐる論争	教科書第3章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
2	子どもは何を学ぶのか(教育目標・内容論) 授業技術ミニ講座②授業のルールづくり	教育目標に関する基本的な考え方、教育目標・内容の諸相、育成すべき資質と能力、学校教育目標	教科書第4章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
3	学習とは何か(学習論) 授業技術ミニ講座③私語の傾向と対策	学習をめぐる3つの理論、学習理論にもとづく学習方法、学習における他者の役割、学習指導の形態	教科書第5章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
4	学力をどう高めるか(学力論) 授業技術ミニ講座④板書の技術	学力をどうとらえるか、「できる学力」を高める、「分かる学力」を高める、学力調査をめぐって	教科書第6章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
5	授業をどうデザインするか(計画論) 授業技術ミニ講座⑤発問の工夫と仕方	授業のデザインとは、教育内容と子どもの学び、対話的・協働的な学び合い、授業づくりの課程と構造、学びのための指導・支援	教科書第7章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
6	教育の道具・素材・環境(教材論) 授業技術ミニ講座⑥指名、指示の仕方、発言のさせ方	教材づくり、メディアとしての教材、教材概念の拡張、学習環境としての時空間	教科書第8章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
7	何をどう評価するか(評価論) チーム授業顔合わせ・自己紹介	目標に準拠した評価と相対評価、形成的評価と自己評価、パフォーマンス評価とポートフォリオ評価、指導と評価の一体化	教科書第9章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
8	欧米における授業の歴史 チーム授業①打ち合わせ	近代教育思想と教授法の成立、教育学の体系化と授業の組織化、カリキュラム研究の成立と展開、科学技術の進歩と教育改革	教科書第1章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
9	日本における授業の歴史 チーム授業②第1グループのマイクロ・ティーチング実施	近代学校制度と授業の成立、授業の定型化、新教育の受容と戦後改革、新自由主義的教育改革	教科書第2章をよく読んでおく。学習内容を整理する。
10	誰がカリキュラムを編成するのか(カリキュラム論) チーム授業③第2グループのマイクロ・ティーチング実施	カリキュラム・イメージの私拭、カリキュラムの編成原理、学習指導要領、カリキュラム開発、隠れたカリキュラム	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。
11	ICTを活用した授業をつくる① チーム授業④第3グループのマイクロ・ティーチング実施	各種メディアの授業への活用、学習用デジタル・コンテンツの利用	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。
12	ICTを活用した授業をつくる②	情報教育、メディア・リテラシー、eラーニング、学校運営・教務事務のICT化	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。

		チーム授業⑤第4グループのマイクロ・ティーチング実施																		
	13	インクルーシブな授業をつくる 授業技術ミニ講座⑦個別指導と一斉指導 チーム授業⑥マイクロ・ティーチングの振り返り	通常学級における特別支援教育、個に応じた指導とは、学級集団づくりと授業づくり、授業の「わかりやすさ」と多様な参加	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。																
	14	授業のユニバーサルデザイン化 授業技術ミニ講座⑧ほめ方・叱り方	バリアフリーとユニバーサルデザイン、学習環境のユニバーサルデザイン化、指導方法のユニバーサルデザイン化、学習のユニバーサルデザインと合理的配慮	配布プリントをよく読んでおく。学習内容を整理する。																
	15	まとめ〜学び続ける教員像をめぐって 授業技術ミニ講座⑨グループ学習の方法	2つの教師モデル、専門家としての教師、教師としての成長に向けて	教科書第11章をよく読んでおく。学習内容を整理する。																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」での既習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新しい時代の教育方法</td> <td>田中耕治他</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新しい時代の教育方法	田中耕治他	有斐閣	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	新しい時代の教育方法	田中耕治他	有斐閣																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>教育の方法</td> <td>佐藤学</td> <td>左右社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	教育の方法	佐藤学	左右社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	教育の方法	佐藤学	左右社																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、レポート (30%)、コメントペーパー (20%) により総合的に評価する。																			
学生への メッセージ	「授業に出席するだけ」という受動的な構えを取るのではなく、日々、メディアで取り上げられる教育諸課題に敏感に反応し、教育の方法的視点でどのように対処すべきかを常に考える癖をつけるようにしてください。																			
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)																			
備考																				

科目名	教職実践演習 (中・高)	科目名 (英文)	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	<p>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や実践的な力量について確認する。</p> <p>○中学・高校での現場体験学習を基に、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</p> <p>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。</p> <p>○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。</p>
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	<p>○教職課程の専任教員5名による全体指導と、各専任教員毎のグループ学習を中心に進める。1グループは15～20名。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねる中で、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</p> <p>○大学の教科に関する科目の担当者・指導主事・現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目 (教職実践演習を除く) の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するもの。</p> <p>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</p>

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「教職実践演習」のガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・科目の目的、内容方法についての確認 ・各自の教育実習後の課題についての確認 ・3回以降のグループ学習の各課題の確認 	・教育実習ノートの点検と再確認
2	専攻科目に於ける実践上の課題	・専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野に関する個々の課題について教科担当教員が指導。	・専攻教科における分野ごとの課題を整理
3	専攻科目に於ける実践上の課題	・専攻科目ごとに分かれ、その科目の専門分野と実践上の課題について、教科担当教員が指導。その上で、研究交流する。	・専攻教科における分野ごとの課題を整理
4	生徒指導・進路指導 (中学校現場での実地学習)	地元市教委との連携協力を基に、中学校現場を全体で参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導 (生徒指導・進路指導のあり方) についてレポートにまとめる
5	生徒指導・進路指導 (中学校現場での実地学習)	地元市教委との連携協力を基に、中学校現場をグループ毎に参観し、教科指導上の実践課題を知る。	中学生における集団づくりと個別指導 (教科指導のあり方) についてレポートにまとめる
6	いじめの現状	問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出
7	いじめ問題への取り組み	日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。	(事前) 配布資料の熟読 (事後) 小レポートの提出
8	ジェンダーと教育	近現代社会は「個人の尊重」という理念のもと成り立っている。しかしながら、その背後には伝統的な価値規範を内包していることも忘れてはならない。近代国家によって制度化されてきた学校教育も現在では自由や個性の尊重を掲げながら、一方で伝統的な価値観を強制している部分があるのではないかと。そうしことを考えるきっかけとして「ジェンダー」という視点を用い、学校教育を改めて考えてみたい。特に、身近なところからジェンダーについて考え、学校教育や社会について検討していく。	第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1?2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
9	学校の中のマイノリティ: 外国にルーツをもつ子どもたち	1990年代以降、日本の入国管理政策の転換により、多くの外国人が家族とともに渡日するようになった。それに伴い多くの外国人の子どもたちは日本の学校へ通うことになったが、彼らは日本語の問題や日本特有の学校文化など様々な問題に直面することとなった。ここでは外国にルーツをもつ子どもたちの視点から日本の学校教育制度について講義、およびディスカッションを通して考えていく。	第一回目の授業で配布する資料を読み、A4サイズの用紙1?2枚程度にその要約と感想を書き、講義当日に持参する。
10	教師の「自律性」、あるいは「市民」としての教師	皆さんは、教師という職業について、どのように生きていきたいだろうか。教師は、職業人としては教師であるが、同時に「人間」であり、「自律した市民」	(事前) 自分は教師としてどのように生きていきたいかを考えてみる。 (事後) 小レポートの提出。

			でもある。ここでは、こうした二重の生を送ることになる教師のあり方を、哲学的に考えていく。																	
	11	「学び続ける教員像」再考	昨今、社会の急激な変化に伴い、知識・技能の絶えざる刷新が不可欠であることから、政府の側からも「学び続ける教員像の確立」が求められてきている。ここでは、教師が学び続けることの意味、さらには、学ぶこと一般の意味について、改めて考えていく。	(事前) 自分にとって学ぶことの意味とは何かを考えてみる。 (事後) 小レポートの提出。																
	12	生活背景を視野に入れた生徒支援	貧困や虐待等、生活背景に課題のある生徒に対する支援のあり方について事例研究及びグループ討議を行う。	「子供の貧困対策に関する大綱」を一読しておくこと。授業後にミニレポートを課す。																
	13	コミュニケーション能力のとらえ方とその育成	生徒間の相互関係を深め、共感しながら人間関係やチームワークを形成する方策についての事例研究及びグループ討議を行う。	文部科学省コミュニケーション教育推進会議審議経過報告「子どもたちのコミュニケーション能力を育むために」を一読しておくこと。授業後、ミニレポートを課す。																
	14	カウンセリングマインドと生徒対応	カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。	(事前) カウンセリングマインドについての復習。中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。 (事後) 小レポート																
	15	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための1方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート																
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科毎の必修科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	グループ学習が中心であり、それぞれについて課題が出される。それらの評価を総合し、最終的な評価とする。																			
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察すること。その中で、問題点を見出し、諸課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力を身に付けること。																			
担当者の 研究室等	7号館3階(朝日、大野、林、吉田) 7号館4階(小山)																			
備考																				

科目名	教師論	科目名(英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や責任は何か」「教師の職務とはどのようなものか」「教師として生きるとはどのようなことか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づいてグループワークを行います。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分はどのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション(LTD; Learning Through Discussion)等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。

科目学習の効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教職の意義等に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・教員の職務内容(研修、服務及び身分保障等を含む。)・進路選択に資する各種の機会の提供等
-------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	さまざまな教師像(1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	さまざまな教師像(2)	「不良教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	さまざまな教師像(3)	「熱血教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	さまざまな教師像(4)	「人間教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」に関する配布資料を読みレポート提出
11	さまざまな教師像(5)	「プロ教師」(文献・映像に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
12	教員の役割・職務(1)	教室における指導者の視点からみた教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
13	教員の役割・職務(2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
14	教員の役割・職務(3)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障 教員の勤務条件	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務(4)	教員のメンタルヘルス、バーンアウト 教育改革と教員	メンタルヘルスに関する配布資料

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験 70%、レポート 20%、グループワーク・ピア評価 10%
----------	------------------------------------

学生へのメッセージ	教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることとなります。教養とともに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。
-----------	--

教職科目

	遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。
担当者の 研究室等	7号館3階 朝日研究室
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。

科目名	社会科・公民科教育法 I	科目名 (英文)	Civic Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー (DP)			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 (1) 中学社会科 (地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 (3) 社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践的・参加型の授業」を目指します。よって、履修者は各回の授業テーマについてのレポート作成が課せられます。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席は認めません。
科目学習の効果 (資格)	中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
2	中学校指導要領 (社会)、高校指導要領 (公民) にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領 (中学：社会科、高校：公民科) の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント (1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント (2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント (3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術 (1)：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター (パワーポイントやインターネット) を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術 (2)：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方 (1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導 (1)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方 (2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導 (2)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業 (1)	模擬授業の実践と指導 (1)	模擬授業の準備。
11	模擬授業 (2)	模擬授業の実践と指導 (2)	模擬授業の準備。
12	模擬授業 (3)	模擬授業の実践と指導 (3)	模擬授業の準備。
13	模擬授業 (4)	模擬授業の実践と指導 (4)	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。	※事前配布資料の要約
15	総括—社会科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

関連科目 社会科・公民科教育法1、社会科・公民科教育法2は「1→2」と連続して受講することが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	出席(全15回出席すること。成績評価対象となるためには少なくとも80%以上の出席が必須。)、レポート(レポート提出の締め切りは厳守すること)、平常点(授業への貢献度、模擬授業等)、及び、最終試験により総合的に評価する。遅刻も欠席とするので注意すること。
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。
担当者の 研究室等	7号館3階 大野順子研究室
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 中学社会科、高校公民科の学習指導要領を入手しておく(購入、あるいはインターネットでダウンロードし全ページをコピーをして講義に持参する。)

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Civic Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大野 順子
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が18歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育のあり方が問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育(主権者教育)をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを積極的に行います。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 (1) 中学社会科(地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 (3) 授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。 (4) 政治教育、主権者教育についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。
授業方法と留意点	まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。よって、履修者は各回の授業テーマについてのレポート作成が課せられます。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席は認めません。
科目学習の効果(資格)	中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

教職科目

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
	2	中学校指導要領(社会)、高校指導要領(公民)にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領(中学：社会科、高校：公民科)の事前読了。 ※指導要領の要約
	3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
	4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
	5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
	6	教育方法と技術(1)：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター(パワーポイントやインターネット)を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
	7	教育方法と技術(2)：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
	8	学習指導案の書き方(1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(1)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
	9	学習指導案の書き方(2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(2)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
	10	模擬授業(1)	模擬授業の実践と指導(1)	模擬授業の準備。
	11	模擬授業(2)	模擬授業の実践と指導(2)	模擬授業の準備。
	12	政治教育(主権者教育)(1)	政治教育副教材の分析	各自、副教材を分担し分担箇所を要約してくる。
	13	政治教育(主権者教育)(2)	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
	14	成績評価の方法について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。	※事前配布資料の要約
15	総括—社会科指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。	
関連科目	社会科・公民科教育法1、社会科・公民科教育法2は連続して受講することが望ましいため、原則として社会科・公民科教育法1を既に履修していること。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	出席 (全 15 回出席すること。成績評価については少なくとも 80%以上は必要)、課題・レポート (レポート提出の締め切りは厳守すること)、平常点 (授業への貢献度、模擬授業等)、及び、最終試験により総合的に評価する。遅刻も欠席とする。			
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。			
担当者の 研究室等	7号館3階 大野順子研究室			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 各自、学習指導要領については予め購入するか、インターネットからダウンロードし全てのページを印刷して頂くこと。			

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅰ	科目名(英文)	Geography and History Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	井上 正英
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的 近代教育制度の変遷を考察する中で、社会科・地歴科が持つそれぞれの使命と責任を理解するように努める。その基礎の上に具体的に授業展開を行う基本的知識・技能を習得する。このほか現場で起こる各種の問題についても適宜説明する。

到達目標 将来の教員として必要な知識・方法論等を習得する。

授業方法と留意点 講義と学生諸君の発表や討論を中心として行うので、特に積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。

科目学習の効果(資格) 中学・高校教員免許(社会科、地歴科)
【免許法施行規則に定める科目区分】
科目:教育課程及び指導法に関する科目
各科目に含める必要事項:各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	ガイダンスと年間計画	年間講義内容の概略・受講上の注意点・成績評価について	事前 既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく。	事後 授業終了時に指示する。
2	日本の教育制度の歴史について	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前に中高で学習した明治以降の歴史を復習概観しておくこと。	事後 授業終了時に指示する。
3	学習指導要領について	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前 中高学習指導要領解説社会編・地理歴史編を読んでおく。	事後 授業終了時に指示する。
4	学習指導案の作成について1	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前 学習指導案とは何かを調べておく。	事後 授業終了時に指示する。
5	学習指導案の作成について2	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前 与えられたテーマで各自学習指導案を作成し発表に備える。	事後 授業終了時に指示する。
6	学習指導案の作成と模擬授業 1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
7	学習指導案の作成と模擬授業 2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
8	学習指導案の作成と模擬授業 3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
9	学習指導案の作成と模擬授業 4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
10	学習指導案の作成と模擬授業 5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
11	学習指導案の作成と模擬授業 6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
12	学習指導案の作成と模擬授業 7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
13	学習指導案の作成と模擬授業 8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	各自学習指導要領に基づき指導案を作成する。	
14	授業記録について	社会科教員として授業を見る目を鍛える為の授業記録の形式や方法について学ぶ。	事前 どのような授業記録方法があるかを考えておく。	事後 授業終了時に指示する。
15	評価の方法と理論	生徒の学習成果を検証するための視点と評価方法について学ぶ。	事前 評価方法の種類について考えておく。	事後 評価は自己の教育技術の反映であることを考える。

関連科目 社会科・地歴科教育法Ⅱ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準) レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。

学生へのメッセージ 教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。

教職科目

担当者の 研究室等	11号館 1階 教務課
備考	

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ	科目名(英文)	Geography and History Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	井上 正英
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	講義参加者全員が実際に研究授業展開を行い、教員として必要な基本的知識・技能を習得する。模擬授業を実践する中で講義参加者全員で討議・批評を行い各自の授業力向上を図る。
到達目標	将来の教員として必要な知識・方法論を習得する。
授業方法と留意点	講義と学生諸君の模擬授業実践発表や討論を中心として行うので、積極的な発表、発言が望まれる。
科目学習の効果(資格)	中学・高校教員免許(社会科、地歴科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			事前	事後
1	学習指導要領歴史的分野(世界史)の内容等の確認。	世界史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する
2	学習指導要領歴史的分野(日本史)の内容等の確認。	日本史歴史的分野の時代区分と基礎的事項の確認	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する
3	学習指導要領地理的分野の内容等の確認。	地理的分野の基礎的事項の確認	事前 学習指導要領の通読	事後 講義後指示する
4	学習指導案の作成と研究授業実施 1	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
5	学習指導案の作成と研究授業実施 2	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
6	学習指導案の作成と研究授業実施 3	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
7	学習指導案の作成と研究授業実施 4	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
8	学習指導案の作成と研究授業実施 5	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
9	学習指導案の作成と研究授業実施 6	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
10	学習指導案の作成と研究授業実施 7	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
11	学習指導案の作成と研究授業実施 8	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
12	学習指導案の作成と研究授業実施 9	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
13	学習指導案の作成と研究授業実施 10	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る。	事前 各自模擬授業指導案を作成	事後 授業での様々な意見を元に再度授業案を作成、提出する
14	授業実践発表の年間総括 1	後期授業全体についての総括と反省点を討議する。	事前 全員の授業計画案を再度確認	事後 レポート作成、提出
15	授業実践発表の年間総括 2	後期授業全体についての講義担当者からの総括。	事後 レポート作成、提出	

関連科目	社会科・地歴科教育法Ⅰ
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	レポート及び講義での発表・発言をもとに総合的に判定する。
----------	------------------------------

学生へのメッセージ
教職科目であり、教職に就くあるいは教育に高い関心を持っていることが受講の前提となります。その上で社会の変化とそれに対応する教育の動きを理解し、志高く理想的な社会科・地歴科を創造する基礎を養いませんか。

担当者の研究室等
11号館 1階 教務課

備考

教職科目

科目名	生徒指導論	科目名(英文)	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめるうえで重要な役割を占めています。非行、いじめ、不登校、学級崩壊、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されています。本科目では、多くの具体的な問題事象に通底する基本的で普遍的な原理について学びます。
到達目標	学生は、生徒指導、進路指導の意義や指導の方法に関する基本的な事柄について必要最低限の知識を獲得し、さまざまな問題事象を適切に捉え対処する基礎力を身につけることができます。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義を中心に、内容をめぐるディスカッション等も織り交ぜて授業を進めます。また時折、レポートを課します。 「事前・事後学習課題」はすべて事前課題です。事後課題については別途、指示します。

科目学習の 効果(資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導の理論及び方法
-----------------	---

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション 生徒指導の目標と意義	科目概要について説明 自分の生徒指導上の体験のふりかえり 生徒指導の目標と意義	テキスト pp. 3-10
	2	生徒指導の実践	生徒指導の実践課題と領域	テキスト pp. 10-24
	3	生徒指導の理論(1)	理論の重要性 発達に関する理論	テキスト pp. 32-39
	4	生徒指導の理論(2)	生徒指導における治療的支援に関する理論 相談理論など	テキスト pp. 39-42
	5	生徒理解の進め方(1)	生徒理解の意義と目的	テキスト pp. 43-46
	6	生徒理解の進め方(2)	生徒理解の方法 生徒の自己理解の支援	テキスト pp. 46-56
	7	生徒理解の進め方(3)	教師の生徒認知のありよう	テキスト pp. 56-61
	8	学級経営の進め方(1)	学級経営の意義 学級集団の役割・機能	テキスト pp. 63-68
	9	学級経営の進め方(2)	学級集団の力学 学級経営の方法	テキスト pp. 68-74
	10	学級経営の進め方(3)	教師のリーダーシップ	テキスト pp. 74-79
	11	生徒指導上の諸問題の理解と対応	生徒指導上の諸問題とは 最近の諸問題の動向 諸問題にどう対応するか	生徒指導上の諸問題に関する配布資料
	12	進路指導の意義と課題	進路指導の意義 進路指導の現代社会的課題	テキスト pp. 135-159
	13	勤労観・職業観の形成と変容	青少年の勤労観・職業観 勤労観・職業観の形成と変容	テキスト pp. 176-195
	14	進路指導の理論	キャリア発達に関する諸理論	キャリア発達理論に関する配布資料
	15	学校教育における進路指導の実践展開	進路指導における「ガイダンスの機能」 進路指導実践の展開モデル	テキスト pp. 215-234

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育心理学」「特別活動の理論と方法」「教育経営論」に関連する事柄を含みます。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生徒指導・進路指導	高橋超・石井真治・熊谷信順	ミネルヴァ書房
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	定期試験 80%、レポート 20%。定期試験を受験しなかった場合、評価はしません。
----------	---

学生へのメッセージ	生徒指導、進路指導を学ぶ原資になる自らの体験は大事です。さらに自らの体験を対象化して考える習慣をつけましょう。そのために、基礎的な知識をしっかりと身につけてください。 授業への遅刻、無断欠席・早退等は厳禁です。生徒指導を行おうとする者としての適格性が問われます。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館3階 朝日研究室
----------	-------------

備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポート課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。
----	---

科目名	道德教育の研究	科目名(英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小山 裕樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	この授業では、日本の道德教育に関する基礎的な知識や考え方（日本の道德教育の歴史、道德教育の内容を構成する諸概念、道德性の発達理論、等）について解説を加え、実際に学校でどのように道德教育を行えばよいのかを考えていきます。
到達目標	受講者が日本の道德教育に関する基礎的な知識や考え方を身に付け、道德教育に関する具体的な授業計画を立案することができるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	授業のスケジュールはおおよそ下記の通りで、基本的には講義形式で行いますが、「道德科」の学習指導案を書く演習等も適宜取り入れます。また、毎回授業の最後に受講者にコメントペーパーを書いてもらって次の授業中にその内容のいくつかを紹介することで、受講者が相互に関心を共有し合うとともに、その都度のテーマに対して主体的かつ多角的に考えを深められるよう配慮します。
科目学習の効果(資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各項目に含める必要事項：道德の指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	日本の道德教育の歴史①:戦前の道德教育	①明治から昭和初期にかけての道德教育の歴史を概観する。 ②「個人主義」について多角的に考える。	授業の内容を踏まえたうえで、「個人主義」についてより深く考える。
3	日本の道德教育の歴史②:戦後の道德教育	道德教育に関する戦後すぐの教育改革の動向と、それに対するいわゆる保守反動的な動きについて考える。	政治的・経済的状況との関わりから、道德教育の歴史の変遷を整理する。
4	日本の道德教育の歴史③:現代の道德教育	①近年の道德教育をめぐる教育改革の動向を概観する。 ②道德教育推進論の論拠の一つもなっている「いじめ」問題について考えを深める。	自分の周囲で起こった「いじめ」体験について思い出しておく。さらに、その体験について、授業の内容を踏まえたうえで再考する。
5	諸外国の道德教育	①諸外国の道德教育の状況について概観する。 ②諸外国の道德教育を事例として、道德教育と「宗教教育」との関係について考える。	諸外国の道德教育と自分の受けてきた道德教育とを比較検討し、共通点と相違点を整理する。
6	道德教育の内容①:自我	学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として自分自身に関すること」をめぐり、「自我」(＝「私」)について道德教育の視点から考える。	普段の自分の生活や授業の内容を振り返り、「私」のあり方についてより深く考える。
7	道德教育の内容②:他者	学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として人との関わりに関すること」をめぐり、道德教育の視点から「他者」との関わりをなかで「私」を捉え直す。	普段の自分の生活を振り返り、そこでの「私」と「他者」との関わりについて考えておく。さらに、授業を踏まえたうえで、それについて再考する。
8	道德教育の内容③:生命と自然	学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」をめぐり、道德教育(とりわけ「いのちの教育」)の実践例を検討する。	「いのちの教育」の実践について、授業の内容を踏まえたうえで、より深く考える。
9	道德教育の内容④:美と崇高	学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として生命や自然、崇高なもののかかわりに関すること」をめぐり、道德教育をいわゆる「情操教育」的な観点から検討する。	授業の内容を踏まえたうえで、「情操教育」的な観点から道德教育について再考する。
10	道德教育の内容⑤:社会	①学習指導要領において道德教育の内容の一つを成すとされている「主として集団や社会との関わりに関すること」をめぐり、道德教育の視点から「社会」との関わりをなかで「私」を捉え直す。 ②いわゆる「スクールカースト」について考える。	自分の周囲で起こった「スクールカースト」の体験について思い出しておく。さらに、その体験について授業の内容を踏まえたうえで再考する。
11	道德性の発達	①コールバーグによる道德性の発達理論(およびギリガンによるその批判)について検討する。 ②道德性の発達理論を応用したいいわゆる「モラル・ジレンマ授業」について理解を深める。	「モラル・ジレンマ授業」について構想するための準備をする。
12	道德の授業の位置づけ	①教育課程編成上の道德教育の位置づけを確認する。 ②他教科での教育のなかで行われた道德教育の実践例をもとに、道德教育の幅広い可能性について考える。	他教科での教育と道德教育の関わりについて整理する。
13	学習指導案の作成と授業の展開①	①学校における道德教育の「要」とされている「道德科」の位置づけについて考える。	授業時に指示する。

教職科目

			②「道徳科」の時間を計画的に進めるための学習指導案の書き方について具体的に考えていく。																	
	14	学習指導案の作成と授業の展開②	「道徳科」の学習指導案の書き方について、引き続き具体的に考えていく。	授業時に指示する。																
	15	まとめ:道徳教育と教師の責任	①道徳教育についてまとめとして考えるために、ある実験授業の記録を扱う。 ②この実験授業において生じた結果から、道徳教育が有する「可能性」や「限界」等について考察する。	授業時に指示する。																
関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性</td> <td>下司晶</td> <td>世織書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性	下司晶	世織書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	「甘え」と「自律」の教育学——ケア・道徳・関係性	下司晶	世織書房																	
2																				
3																				
評価方法 (基準)	毎回の授業中に書いてもらうコメントペーパーや、課題として作成してもらう「道徳科」の学習指導案、学期末試験の結果などをもとに、総合的に評価します。なお、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る者に対しては厳正に対処をしますので、学生としての自覚と覚悟をもって授業に参加すること。																			
学生への メッセージ	受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。																			
担当者の 研究室等	7号館4階(小山研究室)																			
備考																				

科目名	特別活動の理論と方法	科目名 (英文)	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	林 茂樹
ディプロマポリシー(DP)			

授業概要・目的	(1) 学級活動 (ホームルーム活動)、生徒会活動 (児童会活動)、学校行事、それぞれの指導目標や内容等に関する基礎的・基本的事項について整理する。 (2) 子どもの現状を踏まえ、望ましい集団活動が生徒の個人的な資質と社会的な資質を育むとともに、学習活動を統合し補完する役割を果たしていることについての理解を深める。 (3) 「学級づくり」(教師と生徒の関係づくり、生徒どうし関係づくり)に視点を据え、7つの教育課題を取り上げ、問題発生背景を踏まえた対応の方法について、事例をもとにグループ討議や即興劇を行い、交流する。
到達目標	将来、学級担任として、望ましい集団活動を育て、すべての子どもが安心して学校生活を送ることができるよう、学級経営や学級づくりを行う必要があることから、まずはその前段階として、学校支援ボランティアの学生の立場で教員と協力・連携しながら学級集団への適切なサポートができるようになる。
授業方法と留意点	講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グループワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動を指導する立場にたつ教員として、集団をファシリテートすることができるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。
科目学習の効果 (資格)	教員免許 (中学校・高等学校) 取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育課程及び指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：特別活動の指導法

教職科目

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・特別活動の意義と課題	特別活動とは何か、特別活動の教育的意義、社会の変貌と子どもたちの状況、学級担任の役割	教科書第1章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
2	特別活動の目的・内容・方法 ワーク①「キャラ」をめぐる	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動 ソロワークと意見交換	教科書第1・2章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
3	学級活動 (ホームルーム活動) その1 ワーク②大学に入って	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり、学級開きと年間計画 ソロワークと意見交換	教科書第4・11章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
4	学級活動 (ホームルーム活動) その2 ワーク③学級活動 (係・班・当番・委員) の思い出	人間関係形成能力と社会性の育成、いじめ、荒れ、学級崩壊、係活動、班活動、委員会活動、日直 ソロワークと意見交換	教科書第4・11章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
5	生徒会活動 (児童会活動)・学級行事 ワーク④学校行事 (運動会・体育祭・文化祭等) の思い出	生徒会 (児童会) 活動の歴史・目標・内容。学校行事の歴史・種類・内容・観点 ソロワークと意見交換	教科書第5・6・12・13章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
6	体験活動の意義 ワーク⑤「14歳の頃」・「17歳の頃」	特別活動の目標と体験活動、自然体験、職場体験、ボランティア体験、体験のもつ教育力と教師の指導性 グループワークの班分け、顔合わせ	教科書第2章、配布プリントをよく読んでおく。
7	特別活動の歴史・領域・方法 グループワーク①いじめ (その1)	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、学校種別の目標のちがひ グループ討議・発表・交流	教科書第2・3章をよく読んでおく。学習事項を整理する。
8	特別活動と学級経営 グループワーク②暴力	学級経営の特質、学級経営と学級づくり、学級づくりと特別活動 グループ討議・発表・交流	教科書第9章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
9	特別活動と生徒指導 グループワーク③非行	生徒指導との関連、積極的生徒指導に果たす役割、自己指導能力の育成 グループ討議・発表・交流	教科書第10章をよく読んでおく。学習事項を整理し感想をまとめておく。
10	特別活動における評価 グループワーク④不登校	評価の対象、視点、方法、現状、評価結果の活用 グループ討議・発表・交流	配布プリントをよく読んでおく。
11	特別活動と道徳教育 グループワーク⑤いじめ (その2)	特別活動と道徳教育との関連及びそれぞれの教育的意義 即興劇・交流	教科書第8章を読んでおく。学習事項を整理する。
12	特別活動と総合的な学習 グループワーク⑥進路指導・キャリア教育	特別活動と総合的な学習の時間との関連及びそれぞれの教育的意義 グループ討議・発表・交流	教科書第7・14章を読んでおく。学習事項を整理する。
13	現行学習指導要領について グループワーク⑦インクルーシブ教育	現行学習指導要領における改定の要点、言語能力・体験活動の重視 グループ討議・発表・交流	教科書第3章及び資料編を読んでおく。学習事項を整理する。
14	特別活動の指導計画・指導案の作成 グループワーク⑧ジェンダー	全体計画・年間指導計画と配慮事項、1単位時間の指導計画・指導案の作成 グループ討議・発表・交流	配布プリントをよく読んでおく。
15	まとめ～子どもの自尊感情を高めるということ	集団的な自尊感情を育むことの重要性について	全学習事項について再度振り返り整理する。

関連科目 すべての教職科目と関連するが、特に、「教師論」「教育原理」「教育心理学」で学習したことと関連づけるとともに、「教育方法論」「生徒指導論」「教育社会学」などの学習につなげることが大切である。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
-----	----	-----	-----	------

	1	新しい時代の特別活動	相原次男他	ミネルヴェア書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 特別活動	文部科学省	ぎょうせい
	2	高等学校学習指導要領解説 特別活動	文部科学省	海文堂出版
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 (50%)、中間レポート (30%)、コメントペーパー、ミニエッセイ及び授業への参加状況 (20%) を総合的に評価する。定期試験の内容は客観式+記述式とする。中間レポートは、ミニエッセイをもとに「自分史に関するエッセイ」をまとめ、提出すること。毎回のコメントペーパー・ミニエッセイの作成と授業への出席をもとに授業への参加状況の評価する。			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだということが言われる。学級づくりには多様な方法論が存在するが、要は子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するということに尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。			
担当者の 研究室等	7号館3階(林研究室)			
備考				

発行 2017年4月

常翔学園 摂南大学

寝屋川校地

〒572-8508

大阪市寝屋川市池田中町17番8号

電話(072)-839-9106 【教務課】

発行 2017年4月

常翔学園 摂南大学

枚方校地

〒573-0101

大阪市枚方市長尾峠町45番1号

電話(072)-866-3101 【枚方事務室】

